

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第128集

上ノ村遺跡Ⅳ

波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ

2012. 3

高 知 県 教 育 委 員 会
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

かみ の むら
上ノ村遺跡Ⅳ

波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ

2012. 3

高 知 県 教 育 委 員 会
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

上ノ村遺跡は、高知平野の西部を潤す仁淀川下流にある縄文時代から近代にいたる遺跡です。これまで、仁淀川下流域では戦国期の山城が幾つか知られていただけで、平地部での遺跡の分布はほとんど認められていませんでした。平成16年度、国土交通省高知河川国道事務所による波介川河口導流事業に伴う試掘調査によって新居城周辺から2つの遺跡が新たに確認され、新居城西方の遺跡を北ノ丸遺跡、南に展開する遺跡を上ノ村遺跡と命名しました。

高知県埋蔵文化財センターでは、平成16年の秋から北ノ丸遺跡、17年度には上ノ村遺跡の発掘調査に着手し平成21年度まで6カ年にわたる調査を実施してまいりました。その結果、上ノ村遺跡は縄文時代から近世まで営まれた集落であることが明らかとなりました。特に古代から中世は西日本各地の土器や貿易陶磁器が多く持ち込まれており、当時の地域間交流を知ることが出来ると同時に、当遺跡が河川交通要衝であったことが考えられるようになりました。このことはこれまでほとんど判っていなかった仁淀川下流域の歴史を飛躍的に明らかにすると共に、この地域が歴史の中で重要な役割を果たしてきたことを示すものです。

この度刊行になった『上ノ村遺跡Ⅳ』は、18年度～20年度に調査を実施した1地点の発掘調査報告書です。この地点は中世の山城である新居城跡の南側直下の調査区ですが、縄文時代～中世、近世に至る遺構・遺物が検出されており、中世集落だけでなく縄文時代以来この地域で連綿と人々の生活が営まれていたことが判明しました。これまでの成果に加えて上ノ村遺跡の内容がさらに豊かになるものと確信しております。本書が斯学の向上と共に、地域理解のための一助となり、地域発展に資することができれば幸いです。今後とも埋蔵文化財の保護、調査に対しましてご理解とご協力を下さいますようお願い申し上げます。

最後に、調査に対して全面的な協力をして下さった地元新居地区のみなさま、国交省高知河川国道事務所、発掘調査に携わって下さった作業員のみなさまに厚くお礼申し上げます。

平成24年3月

財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター

所長 森田尚宏

例 言

1. 本書は、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター（以下高知県埋蔵文化財センター）が平成18～20年度に実施した波介川河口導流事業に伴う上ノ村遺跡第1地点の発掘調査報告書である。
2. 調査は、国土交通省四国地方整備局高知河川国道事務所の委託を高知県教育委員会が受託し、高知県埋蔵文化財センターが再委託して発掘調査を実施した。
3. 上ノ村遺跡は、土佐市新居上ノ村字土居屋敷5100-1他に所在する。

4. 調査期間及び調査面積

調査期間：平成18年5月～21年3月 面積：10,835㎡

5. 調査体制

平成18年度 1-1・3A・3B区の調査

総括	高知県埋蔵文化財センター	所長	汲田幸一
	〃	次長	森田尚宏
	〃	調査課長	廣田佳久
総務	〃	総務課長	戸梶友昭
調査担当	〃	調査課第三班長	出原恵三
	〃	専門調査員	坂本憲昭
	〃	専門調査員	野田秀夫
	〃	専門調査員	森 信輔

平成19年度 1-3拡張・1-5区の調査

総括	高知県埋蔵文化財センター	所長	汲田幸一
	〃	次長	森田尚宏
	〃	調査課長	廣田佳久
総務	〃	総務課長	戸梶友昭
調査担当	〃	調査課第三班長	出原恵三
	〃	専門調査員	坂本憲昭
	〃	調査員	柴岡理恵

平成20年度 1-5～7区の調査

総括	高知県埋蔵文化財センター	所長	小笠原孝夫
	〃	次長	森田尚宏
	〃	調査課長	廣田佳久
総務	〃	総務課長	恒石雅彦
調査担当	〃	調査第三班長	池澤俊幸

〃 専門調査員 坂本憲昭
〃 専門調査員 野田秀夫
〃 専門調査員 山田耕三
〃 調査員 松本安紀彦
〃 調査員 中石 忍

6. 本書の編集は坂本が行い、執筆はⅧ章を宮里修が、それ以外は坂本が行った。
7. 現場作業では下記の調査補助員から協力を得た。
高知県埋蔵文化財センター技術補助員 片岡和美
〃 測量補助員 岡林真史 谷川斉
8. 出土遺物については多くの方々からご指導・ご教示を頂いた。記して謝意を表したい。
9. 遺物実測、トレースなどの整理作業は下記の方々が従事して下さった。
片岡和美 岡林真史 高橋由香 竹村延子 土居初子 藤原ゆみ 入野三千子 東村知子
吉本由佳 山中美代子 高橋加奈 竹村加奈子 志磨村美保 その他、多く整理作業員の方々の協力を得た。
10. 1-7区の鉄製品については愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センターの村上恭通氏、笹田朋孝氏のご指導、ご協力を頂いた。
11. 遺構については、SK(土坑)、SD(溝跡)、P(ピット)、SX(性格不明遺構)、IKO(遺構の可能性のある部分)等の略号を使用した。掲載している挿図の縮尺はそれぞれに記載しており、方位Nは世界測地系による方眼北である。
12. 調査区全体図については基本的に上を方位Nとした。方位Nは世界測地系による方眼北である。スケールについてはそれぞれに記し、スケールバーを付けた。
13. 遺物については縮尺1/4を基本とし、石器等必要に応じて縮尺を変えているが、各挿図にはスケールを表示している。
14. 出土遺物は、18年度調査分が「06-8TK」、19年度調査分が「07-8TK」、20年度分が「08-8TK」と注記して高知県立埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第Ⅰ章 調査地点の概要	1
第Ⅱ章 1-1区の調査	3
1. 1-1区の概要	3
2. 検出遺構と遺物	6
(1) 上面の遺構と遺物	6
(2) 下面の遺構と遺物	13
第Ⅲ章 1-3A区の調査	31
1. 1-3A区の概要	31
2. 検出遺構と遺物	34
(1) 上面の遺構と遺物	34
(2) 下面の遺構と遺物	49
第Ⅳ章 1-3B区の調査	85
1. 1-3B区の概要	85
2. 検出遺構と遺物	87
(1) 上面の遺構と遺物	87
(2) 下面の遺構と遺物	91
第Ⅴ章 1-3拡張区の調査	103
1. 1-3拡張区の概要	103
2. 検出遺構と遺物	105
(1) 上面の遺構と遺物	105
(2) 下面の遺構と遺物	113
(3) 最下面の遺構と遺物	129
第Ⅵ章 1-5区の調査	149
1. 1-5区の概要	149
2. 検出遺構と遺物	152
(1) 上面の遺構と遺物	152
(2) 中面の遺構と遺物	164
(3) 下面の遺構と遺物	175
(4) 最下面の遺構と遺物	187
第Ⅶ章 1-6区の調査	213
1. 1-6区の概要	213
2. 検出遺構と遺物	216
(1) 上面の遺構と遺物	216
(2) 中面の遺構と遺物	234
(3) 下面の遺構と遺物	248
(4) 最下面の遺構と遺物	273

第Ⅷ章 1-7区の調査	311
1. 基本層序.....	311
2. 検出遺構と遺物.....	311
(1) 上層の遺構と遺物	311
(2) 中層の遺構と遺物	319
(3) 下層の遺構と遺物	327
3. 包含層出土遺物及び出土遺物の概要.....	350
第Ⅸ章 上ノ村遺跡出土鉄器・土錘計測表.....	393 ~ 400

挿図目次

1-1図	上ノ村遺跡1地点調査区位置図	2
2-1図	調査区位置図	3
2-2図	1-1区基本層序	4
2-3図	上面遺構全体図	5
2-4図	SK5・7・9	6
2-5図	SD1	8
2-6図	SD4・5	9
2-7図	石列状遺構出土遺物	10
2-8図	石列状遺構	11
2-9図	下面遺構全体図	12
2-10図	SB1	14
2-11図	SK1・3・8・10	17
2-12図	SK27	18
2-13図	SD10	20
2-14図	SD11	21
2-15図	ピット出土遺物	23
2-16図	包含層1・2出土遺物	24
2-17図	包含層2出土遺物1	25
2-18図	包含層2出土遺物2	26
3-1図	調査区位置図	31
3-2図	基本層序	32
3-3図	上面遺構全体図	33
3-4図	上面SB1	36
3-5図	SK5・6	39
3-6図	SK7~9・11・13	40
3-7図	SK15・16	41
3-8図	SD1~5	43
3-9図	SD4・5出土遺物	44
3-10図	SE1	46
3-11図	上面ピット・遺物集中出土遺物	48
3-12図	下面遺構全体図	50
3-13図	下SB1	51
3-14図	下SB1柱穴出土遺物	52
3-15図	下SB2・3	53
3-16図	下SK1	55
3-17図	下SK2	57

3-18図	下SK4・7・11・12.....	58
3-19図	下SD1.....	60
3-20図	下SD1出土遺物.....	61
3-21図	下SD2~4・7・9・10.....	63
3-22図	下SD11.....	64
3-23図	下SD12.....	65
3-24図	下SD13.....	66
3-25図	下面ピット出土遺物.....	67
3-26図	包含層出土遺物1.....	68
3-27図	包含層出土遺物2.....	69
3-28図	包含層出土遺物3.....	70
3-29図	包含層出土遺物4.....	71
3-30図	包含層1-2・包含層2・トレンチ・表採・攪乱出土遺物.....	72
4-1図	調査区位置図.....	85
4-2図	1-3B区基本層序.....	86
4-3図	上面遺構全体図.....	88
4-4図	上面SK1~6.....	89
4-5図	上面溝跡・石列・ピット出土遺物.....	90
4-6図	下SB1・柱穴列1出土遺物.....	92
4-7図	下面遺構全体図.....	93
4-8図	下面SK6.....	94
4-9図	下面ピット出土遺物・土器集中1.....	96
4-10図	包含層1出土遺物.....	97
4-11図	包含層2・3出土遺物.....	98
5-1図	調査区位置図.....	103
5-2図	1-3拡張区最終トレンチ南面図.....	104
5-3図	上面遺構全体図.....	106
5-4図	SB1・柱穴列1.....	107
5-5図	SK4.....	108
5-6図	SD1.....	109
5-7図	石列1.....	110
5-8図	上面ピット出土遺物.....	111
5-9図	IKO2・土器集中1.....	112
5-10図	下面遺構全体図.....	113
5-11図	SK21・23・24・28・43.....	117
5-12図	SK46・48・49.....	118
5-13図	SK51・52・57・58.....	119
5-14図	SK60.....	120

5-15図	下SD1上層出土遺物	121
5-16図	下SD1中層・下層・埋土出土遺物	122
5-17図	SD3~6	124
5-18図	P171	126
5-19図	下面ピット出土遺物	127
5-20図	下面ピット出土遺物	128
5-21図	最下面遺構全体図	131
5-22図	柱穴列2・SD9・10・最下面ピット出土遺物	132
5-23図	包含層1出土遺物	133
5-24図	包含層2出土遺物1	134
5-25図	包含層2出土遺物2	135
5-26図	包含層2出土遺物3	136
5-27図	包含層2・集中1出土遺物4	137
6-1図	調査区位置図	149
6-2図	TR1セクション図	150
6-3図	上面遺構全体図	151
6-4図	SK4・11・15	154
6-5図	SK16・24・36・37	155
6-6図	上面SD1・2・5・7・8	158
6-7図	上面SD9・11~13・SX1	159
6-8図	P1~148出土遺物	161
6-9図	P155~482出土遺物	162
6-10図	P486~673出土遺物	163
6-11図	中面遺構全体図	165
6-12図	中面SK61・64・66・SE1	167
6-13図	中面SD15・16	170
6-14図	中面SD17・18・19	171
6-15図	中面P719~922出土遺物	173
6-16図	中面P950~1230出土遺物	174
6-17図	下面遺構全体図	176
6-18図	下SK3・14~17	178
6-19図	下SD1・2・4・6・7・9~12-2・15-2	183
6-20図	下SD13・16・21・22	184
6-21図	下面ピット・集中3出土遺物	186
6-22図	最下面遺構全体図	188
6-23図	SB5001・SD5001	189
6-24図	SK5004・P5417	192
6-25図	SD5002・5003・SR5001	193

6-26図	包含層1出土遺物1.....	194
6-27図	包含層1出土遺物2.....	195
6-28図	包含層1出土遺物3.....	196
6-29図	包含層1出土遺物4	197
6-30図	包含層2・3出土遺物.....	198
6-31図	包含層3~5・トレンチ出土遺物.....	199
7-1図	調査区位置図	213
7-2図	1-6区基本層序	214
7-3図	上面遺構全体図	215
7-4図	SK2・4・5・10.....	220
7-5図	SK13・17・18・21・23・24.....	221
7-6図	SK26~28・39・42.....	222
7-7図	SK43・53・55.....	223
7-8図	SD1~3.....	227
7-9図	SD4・5.....	228
7-10図	SD6・7・9・10・中SD18.....	229
7-11図	上面ピット出土遺物1	231
7-12図	上面ピット出土遺物2	232
7-13図	上面ピット出土遺物3	233
7-14図	中面遺構全体図	235
7-15図	中SK65・69・72~74.....	239
7-16図	中SK78・80・83~85.....	240
7-17図	中SK89・91	241
7-18図	中SD11~13・15	243
7-19図	中SD14・16・17・19.....	244
7-20図	中面ピット出土遺物1	246
7-21図	中面ピット出土遺物2	247
7-22図	下面遺構全体図	249
7-23図	下SB1	251
7-24図	下SB2	252
7-25図	下SK1・7	254
7-26図	下SK8・14	255
7-27図	下SD4~7	264
7-28図	下SD8・9	265
7-29図	下SD10・11・13~16.....	266
7-30図	下SD17~19・21~23.....	267
7-31図	下SD24~30	268
7-32図	下SD31~35	269

7-33図	下SD36~38	270
7-34図	下面ピット出土遺物	272
7-35図	最下面遺構全体図	274
7-36図	SB6001	275
7-37図	SB6002	276
7-38図	柱穴列1	277
7-39図	柱穴列2	278
7-40図	SX6001	279
7-41図	SK6018・6020・6041	283
7-42図	SK6042・6048・SD6008~6010	284
7-43図	SD6011	285
7-44図	SD6001・6002・6006	287
7-45図	最下面ピット出土遺物	288
7-46図	包含層2出土遺物1	289
7-47図	包含層2出土遺物2	290
7-48図	包含層3出土遺物	291
7-49図	包含層3下層出土遺物	292
7-50図	包含層3下層・4・5・トレンチ出土遺物	293
8-1図	1-7区上層遺構配置図	312
8-2図	SD02遺構図・出土遺物、SD16出土遺物	313
8-3図	SD20・31土層断面図・出土遺物	314
8-4図	SD33・34・35出土遺物	315
8-5図	SK03・15遺構図・出土遺物、SK43出土遺物	316
8-6図	SX03・04出土遺物	317
8-7図	上層ピット出土遺物	317
8-8図	中層遺構配置図	319
8-9図	SB02遺構図・出土遺物	320
8-10図	SB03遺構図・出土遺物	321
8-11図	SD39・42出土遺物	322
8-12図	SK23遺構図・出土遺物	323
8-13図	SK31遺構図・出土遺物	323
8-14図	SK60・61出土遺物	324
8-15図	中層ピット出土遺物	325
8-16図	下層遺構配置図	327
8-17図	ST01遺構図	328
8-18図	ST01遺物出土位置図	330
8-19図	ST01出土遺物（壺形土器）	331
8-20図	ST01出土遺物（甕形土器）	332

8-21図	ST01出土遺物（高坏形土器・石器）	333
8-22図	ST01出土遺物（鉄器）	334
8-23図	ST01出土遺物（鉄器）	335
8-24図	SB01遺構図・出土遺物	336
8-25図	SD36・46出土遺物	337
8-26図	SD47遺構図・出土遺物	338
8-27図	SK32遺構図・出土遺物	339
8-28図	SK68遺構図・出土遺物（壺形土器）	340
8-29図	SK68出土遺物（甕形土器・高坏形土器）	341
8-30図	SK69・70出土遺物	342
8-31図	SK71遺構図・出土遺物	343
8-32図	SK72遺構図・出土遺物	344
8-33図	SK74遺構図・出土遺物（壺形土器）	345
8-34図	SK74出土遺物（甕形土器・高坏形土器・石器）	346
8-35図	SK75遺構図・出土遺物	347
8-36図	SK78遺構図・出土遺物	348
8-37図	SK79・84・85・89・90・93出土遺物	349
8-38図	下層ピット出土遺物	350
8-39図	包含層出土遺物（弥生土器他）	356
8-40図	包含層出土遺物（土師質土器、黒色土器、瓦器）	357
8-41図	包含層出土遺物（土師質甕・羽釜・鍋、瓦質鍋、石鍋他）	358
8-42図	包含層出土遺物（須恵器）	359
8-43図	包含層出土遺物（緑釉陶器、白磁、青磁、陶器）	360
8-44図	包含層出土遺物（陶器）	361
8-45図	包含層出土遺物（土製品、石器、鉄器）	362

挿入表目次

表1-1	1地点調査区一覧表	1
表2-1	上面土坑一覧表	6
表2-2	上面溝跡一覧表	7
表2-3	SB1柱穴計測表	13
表2-4	下面土坑一覧表	15
表2-5	下面溝跡一覧表	19
表2-6	下面図版掲載遺物出土ピット計測表	22
1-1区遺物観察表		28~30
表3-1	IKO一覧表	34

表3-2	掘立柱建物跡計測表	35
表3-3	SB1柱穴計測表	35
表3-4	上面土坑一覧表	37
表3-5	上面溝跡一覧表	42
表3-6	上面図版掲載遺物出土ピット計測表	47
表3-7	下面掘立柱建物跡計測表	49
表3-8	下SB1柱穴計測表	51
表3-9	下SB2柱穴計測表	54
表3-10	下SB3柱穴計測表	54
表3-11	下面土坑一覧表	54
表3-12	下面溝跡一覧表	59
表3-13	下面図版掲載遺物出土ピット計測表	66
1-3A区	遺物観察表	74~84
表4-1	上面土坑一覧表	87
表4-2	下SB1柱穴計測表	91
表4-3	下面柱穴列1計測表	92
表4-4	下面土坑一覧表	94
1-3B区	遺物観察表	100~102
表5-1	SB1柱穴計測表	105
表5-2	上面柱穴列1計測表	105
表5-3	上面土坑一覧表	108
表5-4	下面土坑一覧表	114
表5-5	下面図版掲載遺物出土ピット計測表	125
表5-6	最下面柱穴列2計測表	129
表5-7	最下面土坑一覧表	129
1-3拡張区	遺物観察表	140~148
表6-1	上面土坑一覧表	152
表6-2	上面溝跡一覧表	156
表6-3	上面図版掲載遺物出土ピット一覧表	160
表6-4	中面土坑一覧表	164
表6-5	中面溝跡一覧表	168
表6-6	中面図版掲載遺物出土ピット一覧表	172
表6-7	下面土坑一覧表	175
表6-8	下面溝跡一覧表	179
表6-9	下面図版掲載遺物出土ピット一覧表	185
表6-10	SB5001 柱穴計測表	187
表6-11	最下面土坑一覧表	190
表6-12	最下面溝跡一覧表	191

1-5区遺物観察表	202~212
表7-1 上面土坑一覧表	216・217
表7-2 上面溝跡一覧表	224
表7-3 上面図版掲載遺物出土ピット計測表	230・231
表7-4 中面土坑一覧表	236
表7-5 中面溝跡一覧表	241
表7-6 中面図版掲載遺物出土ピット計測表	245
表7-7 下面掘立柱建物跡計測表	248
表7-8 下面SB1柱穴計測表	250
表7-9 下面SB2柱穴計測表	250
表7-10 下面土坑一覧表	253
表7-11 下面溝跡一覧表	256
表7-12 下面図版掲載遺物出土ピット計測表	271
表7-13 最下面掘立柱建物跡・柱穴列計測表	273
表7-14 SB6001柱穴計測表	275
表7-15 SB6002柱穴計測表	276
表7-16 最下面柱穴列1計測表	277
表7-17 最下面柱穴列2計測表	278
表7-18 SX6001遺構計測表	279
表7-19 最下面土坑一覧表	280
表7-20 最下面溝跡一覧表	286
1-6区遺物観察表	296~310
1-7区遺構計測表 上層溝	364
1-7区遺構計測表 上層土坑	364・365
1-7区遺構計測表 中層溝	365
1-7区遺構計測表 中層土坑	365・366
1-7区遺構計測表 下層溝	366
1-7区遺構計測表 下層土坑	366
1-7区遺物観察表	368~392

写真目次

図版1～4	1-1区遺構写真
図版5～7	1-1区遺物写真
図版8～13	1-3A区遺構写真
図版14～21	1-3A区遺物写真
図版22～24	1-3B区遺構写真
図版25～26	1-3B区遺物写真
図版27～32	1-3拡張区遺構写真
図版33～39	1-3拡張区遺物写真
図版40～44	1-5区遺構写真
図版45～54	1-5区遺物写真
図版55～60	1-6区遺構写真
図版61～71	1-6区遺物写真
図版72～81	1-7区遺構写真
図版82～108	1-7区遺物写真
図版109～110	1-7区X線写真

第 I 章 調査地点の概要

1 地点は新居城跡南裾部に位置し、旧県道の東側部分である。主に宅地として利用され、一部水田となっていた。戦後の宅地造成、圃場整備によって盛土による嵩上げが行われ 1 m を超える場所もみられた。仁淀川の氾濫源の後背地で粘性シルト層が堆積し生活面を形成しており、縄文時代以降、断続的に近世までの生活痕跡を確認している。

調査は用地の関係上 12 調査区に分割して行われた。当報告書に掲載した調査区は 1・3A・3B・3 拡張区・5・6・7 区の 7 調査区である。他の調査区については『上ノ村遺跡 I』で平成 17 年度と 19 年度に実施した NW・NE・S1・S2 について報告している。また 1-2 区については『上ノ村遺跡 V』で報告する。

調査地点	調査期間	調査平面積 m ²	報告書	備考
NW 区	平成 17 年 8 月～12 月	3,440 (1-4 区分 950)	上ノ村 I	
NE 区	平成 17 年 8 月～12 月		上ノ村 I	
S1 区	平成 17 年 8 月～12 月		上ノ村 I	1-4 区から報告書で名称変更
	平成 19 年 4 月～6 月			
S2 区	平成 19 年 4 月～6 月		上ノ村 I	1-4 区から報告書で名称変更
1-1 区	平成 18 年 4 月～8 月	850	上ノ村 IV	
1-3A 区	平成 18 年 11 月～19 年 3 月	540	上ノ村 IV	
1-3B 区	平成 18 年 12 月～19 年 3 月	300	上ノ村 IV	
1-3 拡張区	平成 19 年 4 月～19 年 7 月	500	上ノ村 IV	
1-5 区	平成 19 年 11 月～20 年 7 月	1,270	上ノ村 IV	
1-6 区	平成 20 年 7 月～21 年 3 月	1,400	上ノ村 IV	
1-7 区	平成 20 年 9 月～21 年 3 月	1,530	上ノ村 IV	
1-2 区	平成 18 年 9 月～10 月	1,005	上ノ村 V	

表 1-1 1 地点調査区一覧表



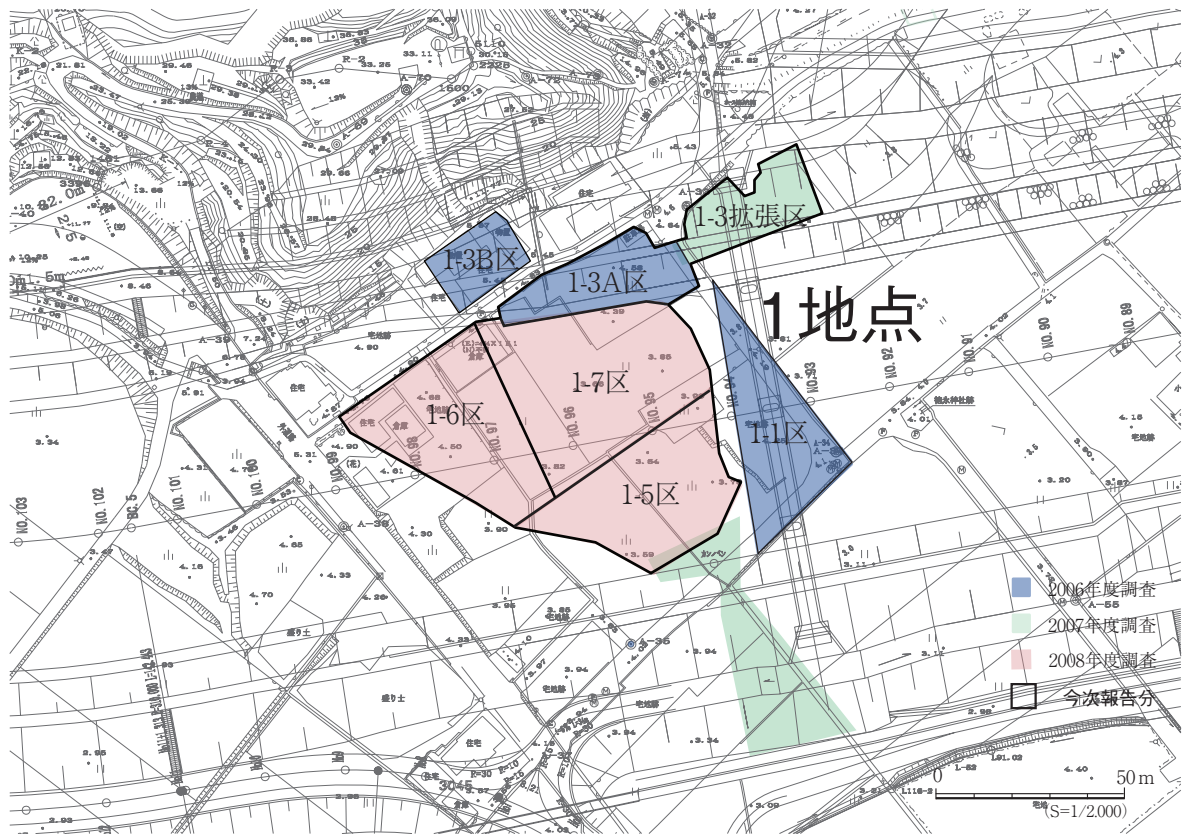
1 - 1 図 上ノ村遺跡 1 地点調査区位置図

第Ⅱ章 1-1区の調査

1. 1-1区の概要

1 地点は城山南側に位置する調査地点で調査順に1-1～1-7区として7分割し調査した。1-1区は1地点東端部に位置し西側を道路で調査ができなかった部分を挟んで1-5区、1-7区と接している。調査前は道路、宅地となっており、調査前標高は約4.5mであった。基本層序は1～6層に大きく分けることができ3～6層が遺物包含層となっており包含層1・2として遺物を取り上げ、出土した遺物は古代から近世までの遺物が出土している。

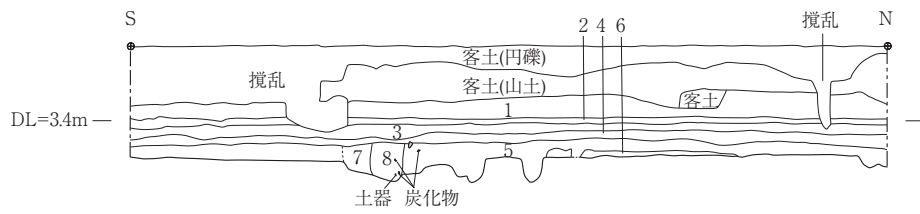
調査は用地の都合上、先に調査区東側旧道路部分の調査を行い、埋め戻した後、西側部分の調査を行った。先に調査した旧道路部分では上下2面で遺構検出を行い、上面で石列状遺構、溝跡、ピットを検出し、下面では集石を伴う溝状遺構を検出したが、いずれも遺構は少なく散漫な状況であった。調査区西側部分は遺構の重複は認められたが遺構検出は同一面であった。北側を中心に遺構が集中し掘立柱建物跡、土坑、溝跡、ピットなどが検出できた。



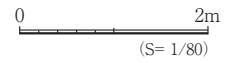
2-1図 調査区位置図

X=52309.278
Y=-3470.953

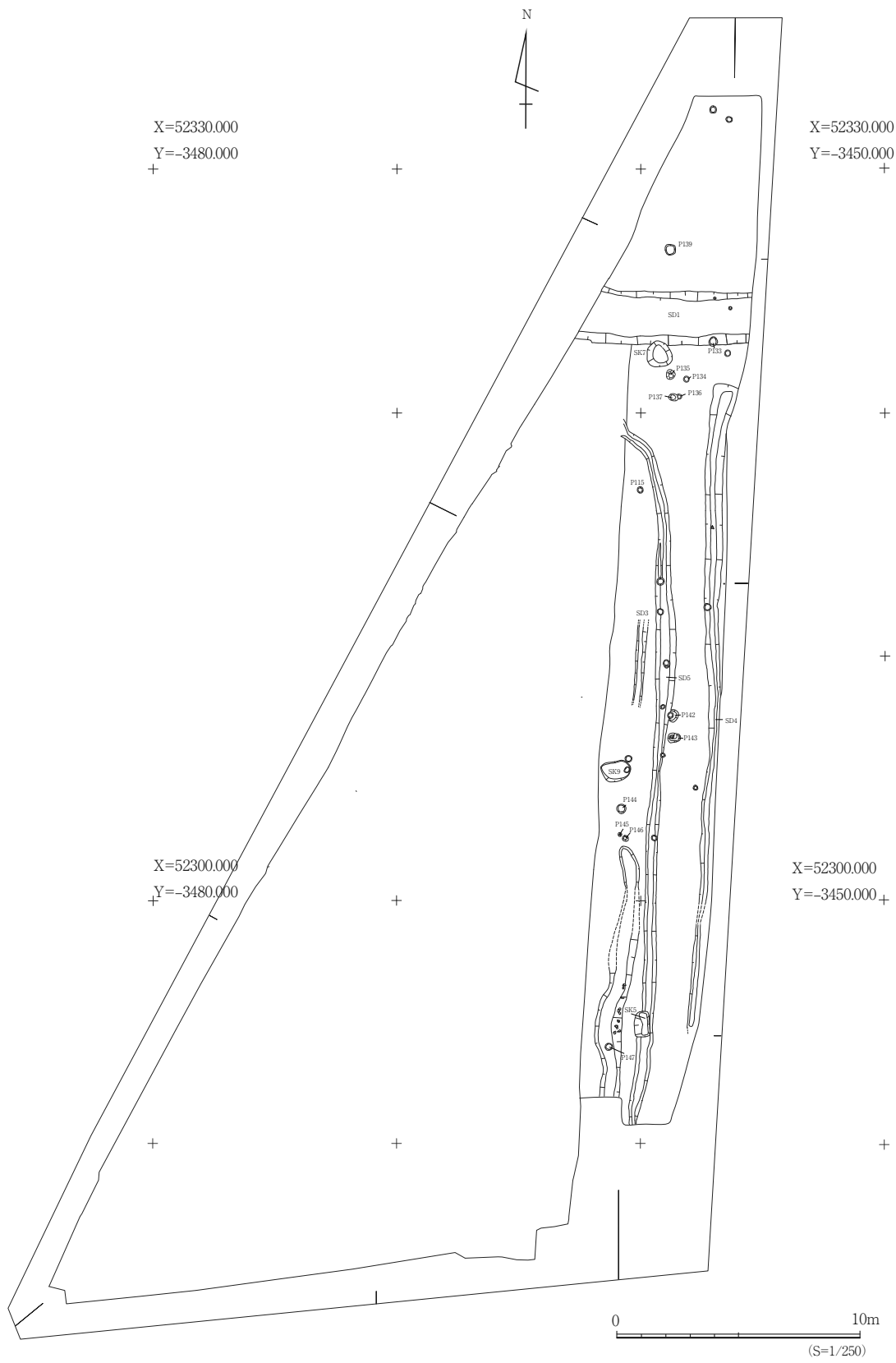
X=52316.227
Y=-3467.032



- 1: 旧耕土
- 2: にぶい橙色(2.5YR 6/4)シルト
- 3: 褐灰色(10YR 5/1)シルト
- 4: 灰黄褐色(10YR 5/2)シルト
- 5: 灰赤色(2.5YR 5/2)シルト(炭化物 土器片含む)
- 6: にぶい赤褐色(2.5YR 5/3)シルト(上面は 古代の検出面)
- 7: 褐灰色(7.5YR 4/1)黄色シルトブロック
- 8: 暗灰黄色(2.5Y 5/2)シルト



2 - 2 図 1 - 1 区基本層序



2-3図 上面遺構全体図

2. 検出遺構と遺物

(1) 上面の遺構と遺物

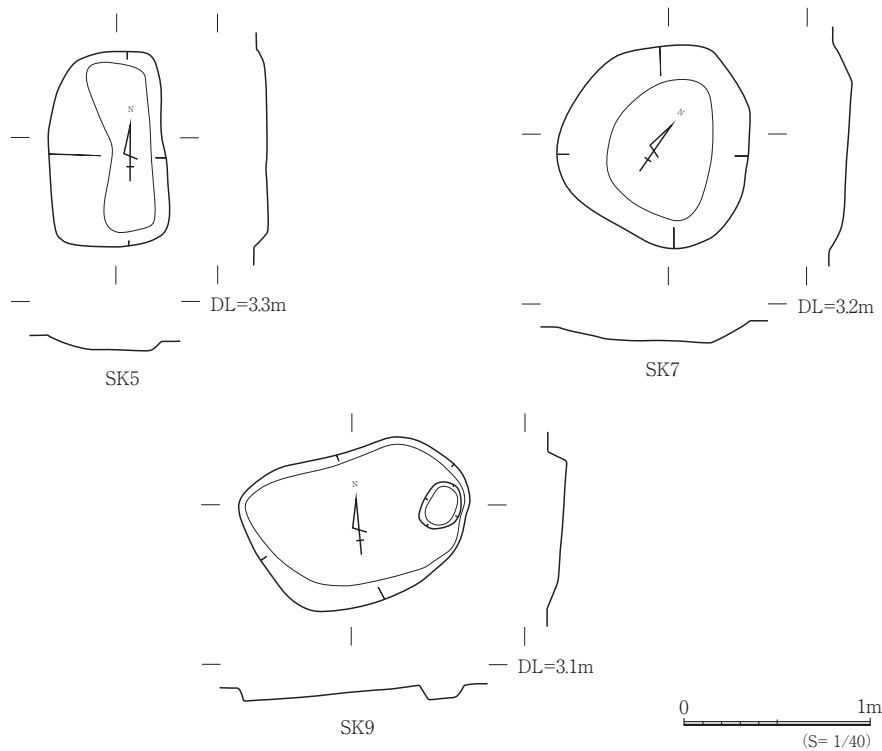
上面として調査した遺構は調査区東側旧道路部分のみで検出した。検出遺構は土坑3基、ピット16個、石列状遺構1ヶ所、溝跡4条、流路1条である。遺構検出標高はSD1、石列状遺構を除き約2.9～3.1mである。SD1、石列状遺構の検出標高は約3.3～3.6mである。検出時遺構埋土は灰黄褐色土、灰赤色土、黒褐色土、暗褐灰色土の4種類を確認しており灰黄褐色土、灰赤色土が大部分を占める。遺構の分布は少なく散漫な状況である。

土坑(SK)

土坑は3基検出しており楕円形の平面プランで断面皿状で深さは8～12cmを測る。SK5・7の遺構埋土から土師質土器、瓦質土器などの中世に属する遺物が出土しているが出土量は少なく細片のみである。SK9からは中世の遺物に混じって近世陶磁器が出土しているが他の土坑と同様に出土量は少なく細片のみで図示できるものは無かった。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK5	1.05 × 0.62 × 0.08	楕円形	皿状	N - 6° - W		土師質土器		
SK7	1.09 × 1.04 × 0.12	楕円形	皿状	N - 38° - W		土師質土器・瓦質土器		
SK9	1.23 × 0.83 × 0.10	楕円形	-	N - 79° - E		土師質土器・須恵器・近世陶磁器		

表2-1 上面土坑一覧表



2-4 図 SK5・7・9

溝跡(SD)

溝跡は5条検出しておりSD1のみ東西方向で他は南北方向である。SD1は上端幅約2.2mで深さ約70cmを測り箱形の掘方をもつ溝跡で濠状の性格を持つ可能性が考えられるが、他の溝跡は上端幅約0.4～0.8m、深さは8～13cmを測り、断面形は皿形の浅いものであった。SD4は石列状遺構の下で検出したもので石列状遺構に伴うものと考えられる。

遺構名	長さ×幅×深さ (m)	平面形	断面形	主軸方向	接続	出土遺物	時期	備考
SD1	6.64 × 2.17 × 0.69	直線	箱形	N - 84° - W		土師質土器・瓦質土器・東播系須恵器・備前焼・白磁・青磁・染付・近世陶磁器・土錘		
SD3	3.19 × 0.40 × 0.08	直線	逆台形	N - 6° - E		土師質土器・瓦質土器・備前焼・青磁		
SD4	51.8 × 0.70 × 0.13	弧状	レンズ状	N - 3° - W		土師質土器・瓦質土器・青磁		播磨型羽釜
SD5	26.0 × 0.82 × 0.08	弧状	レンズ状	N - 4° - E		土師質土器・瓦質土器・東播系須恵器・常滑焼・白磁・青磁・備前焼		北端部で西側に曲がる 播磨型羽釜
	2.8 × 0.45 × 0.11	弧状	レンズ状	N - 51° - W				
自然流路	10.2 × 1.0 × 0.15	直線		N - 6° - E		土師質土器・瓦質土器・備前焼 青磁		

表2-2 上面溝跡一覧表

SD1

SD1は調査区北端部に位置する東西方向の溝跡である。検出長は約6.6m、上端幅は約2.2mで深さ約70cmを測る。断面形は箱形で遺構埋土は4層に分層でき1層目の検出埋土は黒褐色粘性土2層は灰褐色シルト、3層は黒褐色砂礫土、4層は灰色粘性土となっている。埋土中からは土師質土器、瓦質土器、東播系須恵器、備前焼、白磁、青磁、染付、近世陶磁器、土錘などが出土しているが図示できたのは1・2の備前焼播鉢のみである。2は口縁部が大きく拡張されるが凹線が弱く備前焼IV期に属するものと考えられる。SD1は東西に更に延長すると考えられ、西側調査区である1-6・7区では掘方、埋土が類似する溝跡1-6区中SD18、1-7区中SD34を検出しておりSD1の延長部分と考えられる。溝の時期は近世陶磁器が出土しているが検出面からの出土であり混入の可能性が高いため、染付、備前焼IV期が相当すると考えられる。

SD3

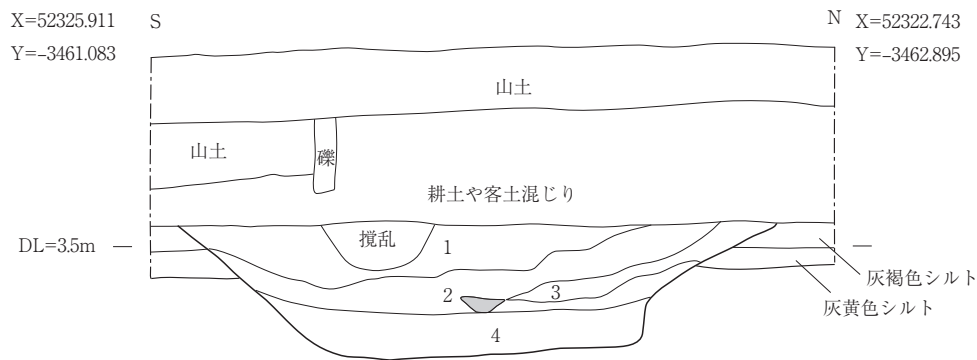
SD3は南北方向の溝跡でSD5に沿うように約3.1m伸び、未検出部分約6mを挟んで検出時流路跡とした部分に続いているものと考えられる。未検出部分も含めた延長は19.7m、上端幅は0.4～1.0mで、深さは8～15cmを測る。埋土は灰赤色シルトで埋土中からは土師質土器、瓦質土器、備前焼、青磁などが出土しているがいずれも細片で図示できるものはなかった。

SD4

SD4は調査区東端に位置する南北方向の溝跡である。石列状遺構の石を除去した下部から検出したもので、石列状遺構と不可分の関係にあるものと考えられる。遺構の規模は検出長約51.8m、上端幅約0.7m、深さは場所によってばらつきがあり約13～30cmを測る。遺構埋土は1層は灰褐色粘土質、2層は淡灰褐色粘砂土、3層は淡灰色砂質土に分層でき1層には炭化物が入る。埋土中からは土師質土器、瓦質土器、青磁などが出土するが図示できたのは3の播磨型羽釜のみである。

SD5

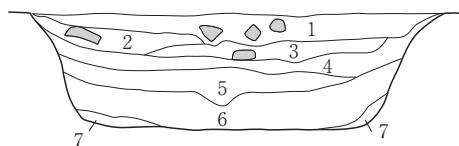
SD5はSD3・4に挟まれ並行して南北方向にのびる溝跡で北端部で方向を西側に変えている。遺



SD1-1

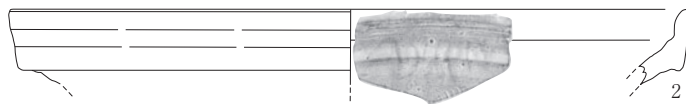
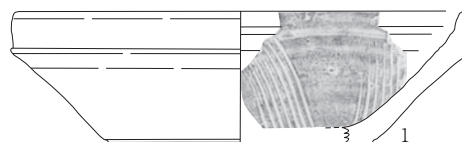
- 1: 黒褐色 (7.5YR 3/1) 粘性土
- 2: 褐灰色 (10YR 5/1) シルト
- 3: 黒褐色 (10YR 6/1) 砂礫
- 4: 灰色 (5Y 6/1) 粘性土 (黄色シルト壁土のブロック多く入る)

X=52325.052
Y=-3458.830 N
DL=3.7m

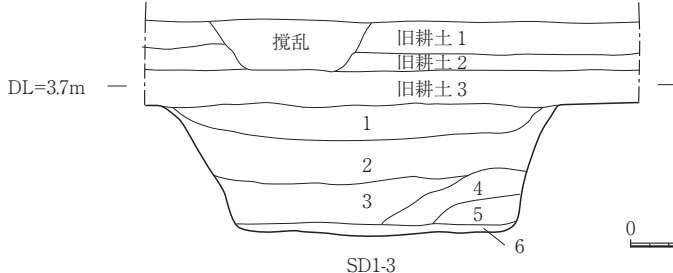


- 1: 黒褐色シルト～粘性土 (人頭大～拳大の角礫多い)
- 2: 褐灰色 (10YR 5/1) シルト (SD1-1 の 2 層と同じ)
- 3: 灰褐色 (2.5Y 6/1) シルト
- 4: 灰褐色 (2.5Y 7/1) シルト (SD1-1 の 4 層に対応)
- 5: 灰黄色 (2.5Y 6/1) シルト
- 6: 灰色 (5Y 6/1) 粘砂土 (黄色シルト壁土ブロック多く入る SD1-1 層に同じ)
- 7: 灰色 (5Y 5/1) 粘土

X=52322.615
S Y=-3459.040



X=52325.790
Y=-3455.506 N



SD1-3

- 1: 黒褐色シルト～粘性土 (人頭大～拳大の角礫多い)
- 2: 灰褐色シルト (SD1-1 の 2 層に対応)
- 3: 灰褐色シルト (黄色シルトブロック入る SD1-1 の 4 層に対応)
- 4: 黄色シルト
- 5: 灰色粘土 (黄色の小ブロック入る)
- 6: 灰色 (5Y 5/1) 粘土

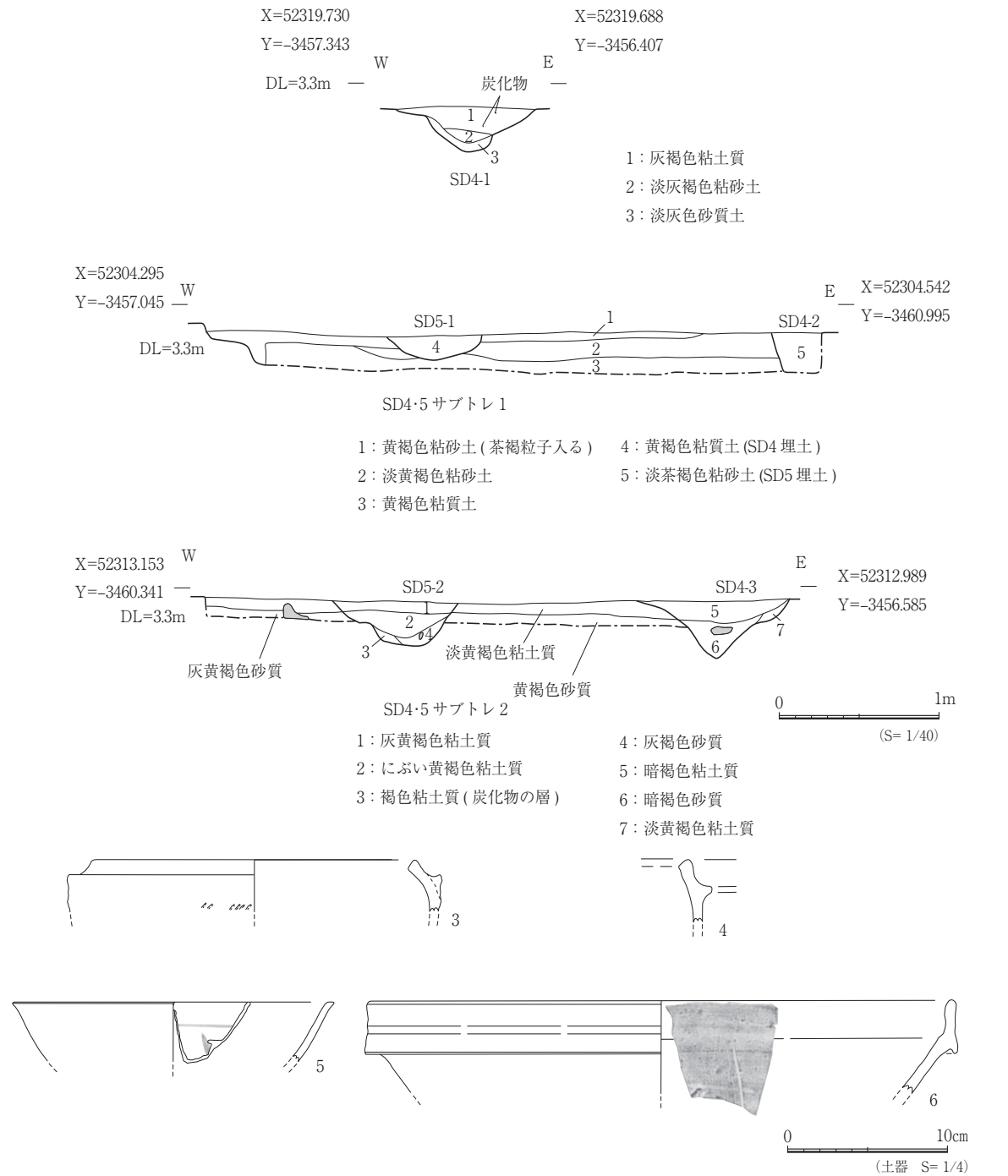
X=52322.534
S Y=-3455.652

0 10cm
(土器 S= 1/4)

0 1m
(S= 1/40)

2 - 5 図 SD1

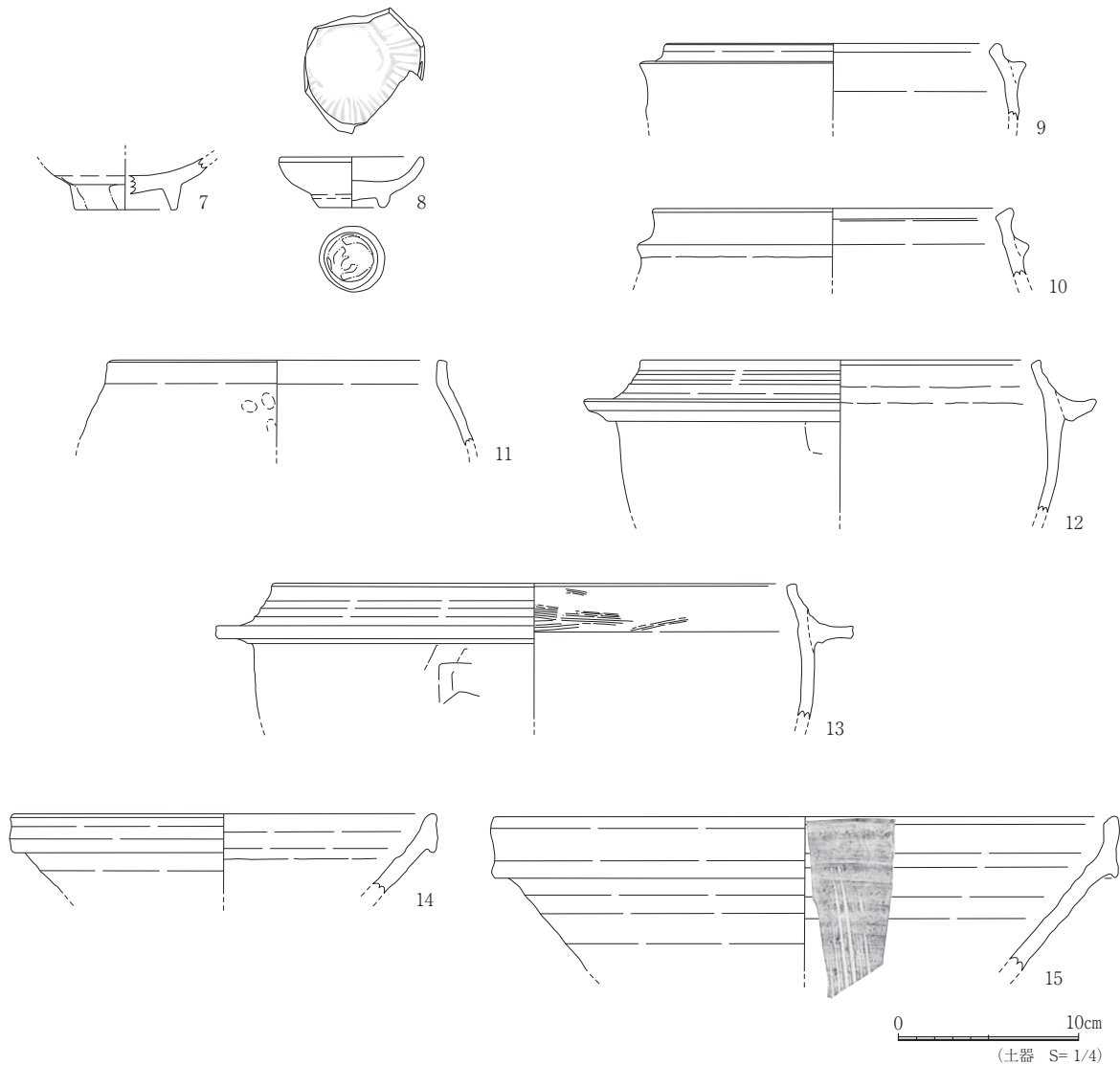
構の規模は検出長 26.0 m、上端幅 0.45 ~ 0.82 m、深さ 8 ~ 15cmを測る。断面形は浅いレンズ状で埋土は淡茶褐色粘砂土である。埋土中からは土師質土器、瓦質土器、東播系須恵器、常滑焼、白磁、青磁、備前焼などが出土している。図示できた5は白磁で口縁端部が水平になりわずかに外側に引き出されている。4は播磨型羽釜である。6は口縁部が大きく拡張された備前焼播鉢で備前焼Ⅳ期のものと考えられる。



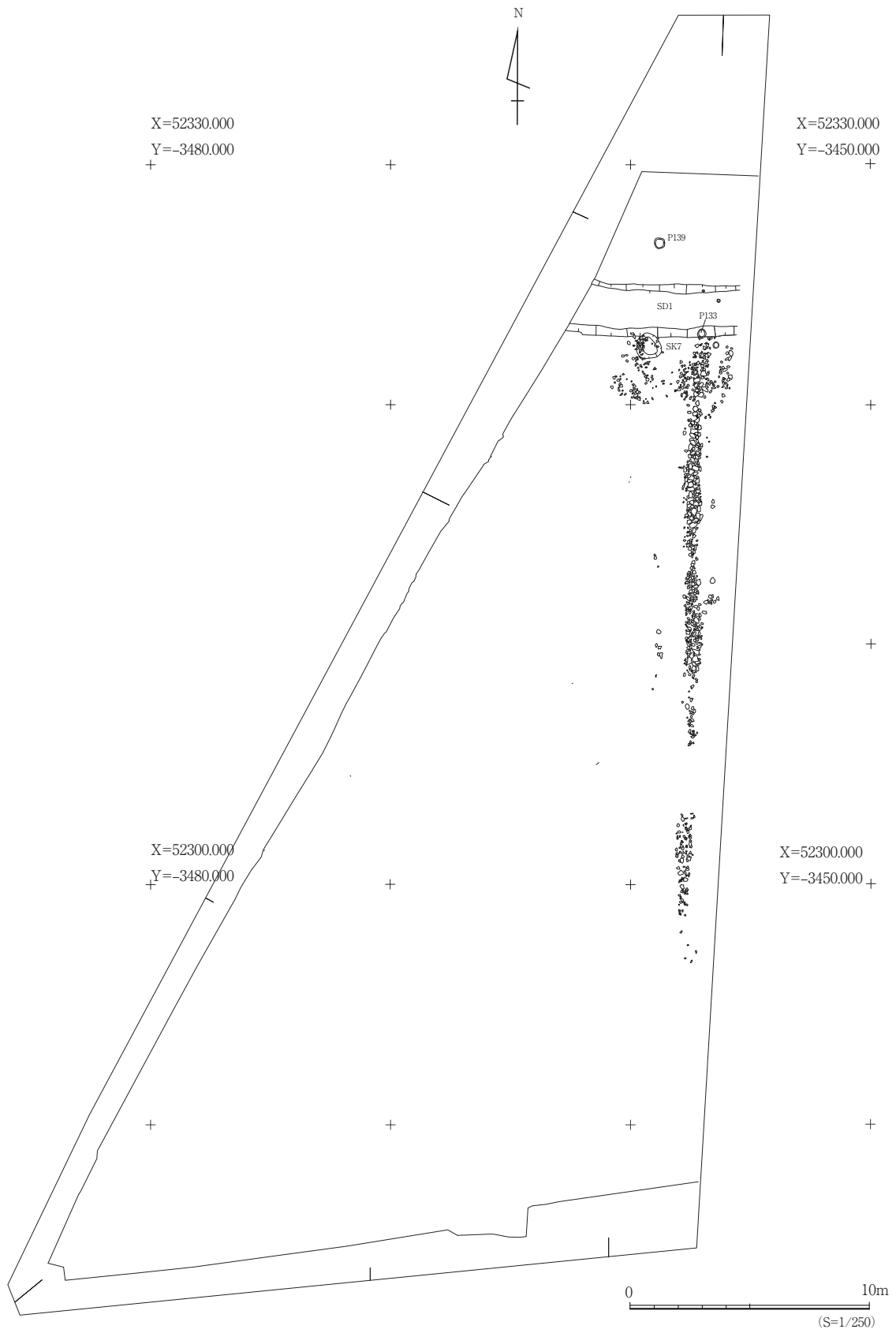
2-6図 SD4・5

石列状遺構

石列状遺構は調査区東端部で検出した遺構である。東西方向 5.0 m、幅約 3.0 m の長方形部分に南北方向に延びる検出長約 21.0 m、幅約 0.7 m の列状部分が接続した状態で平面形態は鍵形を呈している。検出標高は約 3.1 ~ 3.6 m で一部では上層、下層に分かれるが石組み状に積み上げたものでなく層状に重なった状態であった。各石の大きさは 20 × 30 cm 程の割れ石が多く石材は白色の砂岩がほとんどであった。石列状部分からは石に混じって土師質土器、瓦器、瓦質土器、東播系須恵器、常滑焼、備前焼、青磁、白磁が出土しており備前焼播鉢は比較的多く出土している。図示できたものは 9 点で、8 は青磁小皿で内面に丸鑿状の彫刻刀で彫られた蓮弁が施される。9・10 は播磨型土師質羽釜であり 12・13 は搬入の可能性が考えられる河内型瓦質羽釜である。また備前焼では 15 の口縁部を大きく拡張した播鉢口縁が図示できた。石列状遺構は先にもふれたが SD4 とは重複していることから密接不可分な関係と考えられる。また東西部分は SD1 に添った状態であり時期も同一時期の関連が考えられる。



2-7 図 石列状遺構出土遺物



2-8図 石列状遺構



2-9図 下面遺構全体図

(2) 下面の遺構と遺物

旧道路部分下面と西側調査部分で検出した遺構である。検出遺構は掘立柱建物跡5棟、土坑24基、ピット423個、溝跡6条、流路2条である。遺構検出標高は約3.0～3.2mが大部分を占める。SD1、石列状遺構の検出標高は約3.3～3.6mである。検出時遺構埋土は暗灰黄色土、灰黄褐色土、灰赤色土、にぶい赤褐色土、暗褐灰色土の種類を確認しており暗灰黄色土、灰黄褐色土が大部分を占める。遺構の分布は調査区中央部に密集した状態で遺構の重複、切り合いも多くみられる。

掘立柱建物跡(SB)

検出したピットは多いが建物跡として復元できるものはSK11の四隅にピットが位置しSK11と重なる平面形を持つSB1のみである。その他でもピットが直列、直交するものがみられるが何れも柱間距離が0.9mほどで面積も2.3～3.9㎡と狭く建物跡として認定できなかった。

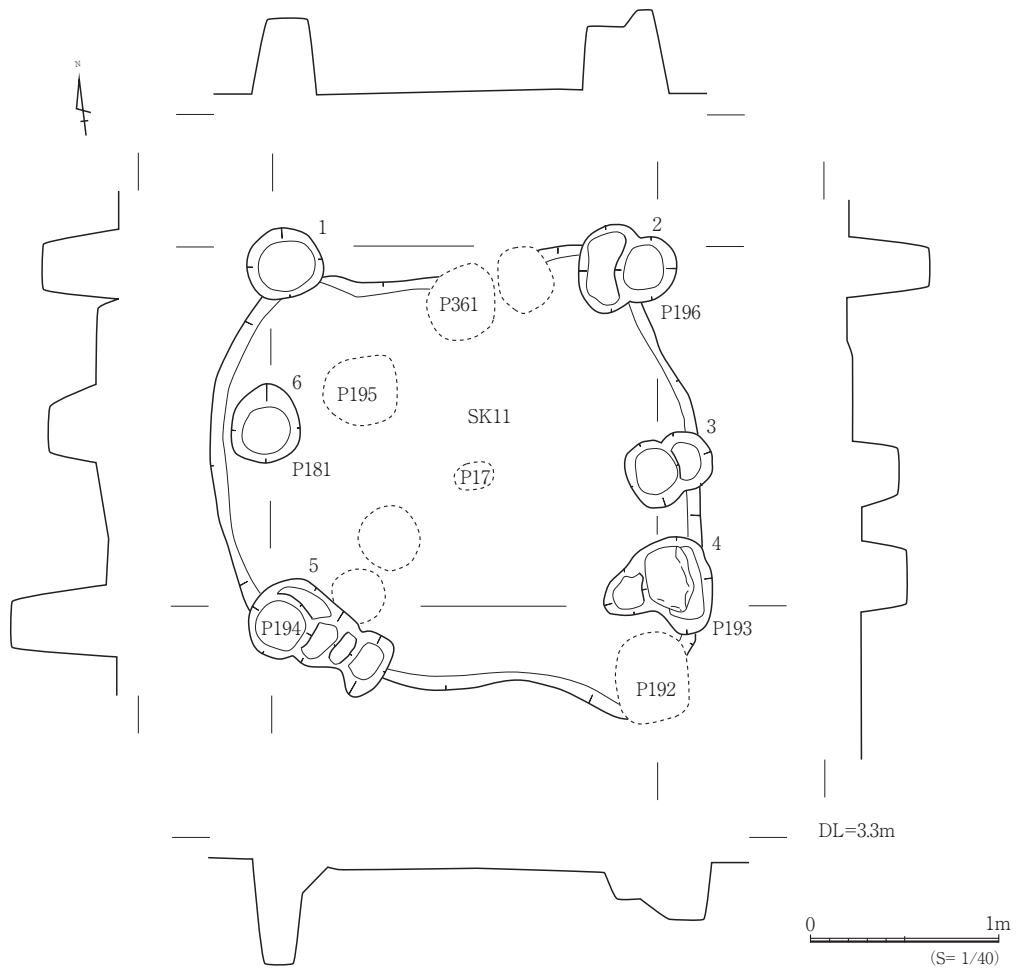
SB1

SB1は調査区中央部に位置する。柱穴は6個を検出しており、梁行1間×桁行2間の建物を復元することができる。柱間距離は梁行、桁行とも0.9mを測る。建物規模は2.0×2.0mで面積は4.0㎡である。棟方向はN-8°-Eである。検出した柱穴は北西隅ピット以外はSK11下面で検出したものである。柱穴埋土は全て暗灰黄色シルトで柱穴規模は直径30～50cm、深さ30～60cmを測る。埋土中からの出土遺物はP194から43の青磁稜花皿が出土している。その他図示できなかった遺物では土師質土器、瓦質土器細片がP194から出土し、P193からは土師質土器、瓦器、瀬戸卸皿の細片が出土している。

SB1はSK11と重複し、柱穴はSK11の四隅、及び側辺から検出しておりSK11とは不可分の関係のものと考えられる。

柱穴番号	遺構名	平面形	長径×短径 (直径) cm	深さ cm	埋土	出土遺物	備考
1	無	楕円形	40×35	41	暗灰黄色シルト		
2	P196	不整形	55×50	44	暗灰黄色シルト	土師質土器・瓦器	
3	無	楕円形	35×(25)	27	暗灰黄色シルト		
4	P193	不整形	52×48	30	暗灰黄色シルト	土師質土器・瓦器・瀬戸卸皿	
5	P194	楕円形	47×45	55	暗灰黄色シルト	土師質土器・青磁・瓦質土器	
6	P181	楕円形	40×36	29	暗灰黄色シルト		

表2-3 SB1 柱穴計測表



2 - 10 図 SB1

土坑(SK)

下面で検出した土坑は24基であるがSK22は遺構番号は付けたが土坑と確認できなかったため欠番となった。またSK14・15・20・21については不整形で掘方も浅く多くのピットが埋土下から検出されており地形の落ち込みの可能性が高いと考えられる。SK25～27は、ほぼ同一規模の円形土坑が並んだ状態で検出されており一連の遺構の可能性が考えられる。SK24は黄橙色粘土ブロックが出土しており、いわゆるハンダ土坑の可能性が高く近世後半以降のものと考えられる。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK1	1.18 × 0.95 × 0.35	長方形	箱形	N - 81° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・白磁・鉄滓・土錘・石錘		
SK2	欠番					土師質土器		
SK3	1.69 × 0.99 × 0.12	楕円形	皿状	N - 86° - W		土師質土器・瓦質土器・須恵器・土錘		
SK4	1.00 × 0.95 × 0.10	不整形	皿状	N - 32° - W		土師質土器・瓦器・東播系須恵器		
SK6	欠番							
SK8	0.92 × 0.81 × 0.38	長方形	逆台形	N - 7° - W		土師質土器		
SK10	1.55 × (0.76) × 0.10	(長方形)		N - 32° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・東播系須恵器・須恵器		
SK11	2.56 × 2.35 × 0.22	不整形	皿状	N - 79° - W		土師質土器・瓦質土器・須恵器		
SK12	2.65 × 0.54 × 0.18	楕円形	U字状	N - 81° - W		土師質土器・瓦質土器・常滑焼・鉄釘		
SK13	1.54 × 0.93 × 0.12	楕円形	皿状	N - 66° - E		土師質土器・瓦質土器		播磨型土師質羽釜
SK14	1.35 × 1.07 × 0.06	不整形	皿状	N - 29° - E		土師質土器		
SK15	2.71 × (1.70) × 0.17	不整形	皿状	N - 14° - E		土師質土器・緑釉陶器・土錘		緑釉胎土軟陶
SK16	2.32 × 2.17 × 0.41	円形	箱形	N - 79° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・鉄滓		
SK17	2.54 × 0.84 × 0.10	楕円形	皿状	N - 79° - W		瓦質土器・鉄滓		
SK18	1.55 × 0.10 × 0.06	楕円形	皿状	N - 9° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・東播系須恵器・青磁・土錘		
SK19	(0.80) × 0.65 × 0.07	不整形	皿状	N - 39° - W		土師質土器		
SK20	0.63 × (0.50) × 0.10	不整形	皿状	N - 11° - E		土師質土器・瓦質土器		
SK21	(1.45) × (1.23) × 0.10	不整形	皿状			土師質土器・瓦質土器		
SK22	欠番							
SK23	0.96 × 0.44 × 0.14	楕円形	逆台形	N - 87° - W				近世の可能性
SK24	(1.65) × (1.60) × 0.05		皿状			土師質土器・瓦質土器・須恵器・青磁・土錘		
SK25	1.82 × 0.38	円形	箱形	-		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・青磁		P116 から名称変更
SK26	2.08 × 0.38	円形	箱形	-		土師質土器・瓦質土器・備前・須恵器・青磁・天目		P117 から名称変更
SK27	2.5 × 0.60	円形	箱形	-		土師質土器・瓦質土器・東播系須恵器・須恵器・青磁・天目・土錘・金属・近世陶磁器		P118 から名称変更

表2-4 下面土坑一覧表

SK1

SK1は調査区北端部で検出した平面形は楕円に近い長方形状である。長軸約1.2m、短軸約0.9m、深さ約35cmを測り、断面形は箱形である。埋土は1層は灰黄褐色シルトに黄色小ブロックが混じる土、2層は灰黄褐色粘性シルト、3層は暗灰黄色シルトに黄色ブロックが混じる土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、白磁、鉄滓、土錘、石錘が出土しているが細片が多く図示できたものは16の白磁の小椀、17の石錘と考えられる中央部に円筒状の穿孔が施された石のみである。16は丸い体部から外反する口縁を体部下部から露胎している小型の白磁椀で16世紀代の可能性が考えられる。17は流紋岩と考えられる石材で円筒形をしており片側端面は丁寧に平坦に作られる。重量は73.1gを測る。

SK11

SK11は調査区中央部西側に位置する不整形の土坑である。長軸約2.6m、短軸約2.3m、深さ

約 20cmを測り、断面形は浅い皿状である。埋土は1層は灰黄褐色シルトで2層は黄褐色シルトに灰黄褐色土が混じる土である。埋土中からは土師質土器、瓦質土器、須恵器がわずかに出土し図示できる遺物は無かった。SK11の四隅と東辺と西辺の中央部には柱穴を検出しておりSB1として1×2間の掘立柱建物跡を復元することができ、SK11はこの掘立柱建物跡に伴う可能性が高いと考えられる。

SK12

SK12は調査区中央部に位置する溝状の土坑である。長軸約2.6m、短軸約0.5m、深さ18cmを測る。断面形はU字状でしっかりした掘方を持ち、埋土は暗灰黄色シルトで炭化物が混じる。埋土中からは土師質土器、瓦質土器、常滑焼、鉄釘が出土しているが出土量は少なくいずれも細片で図示できる遺物はなかった。

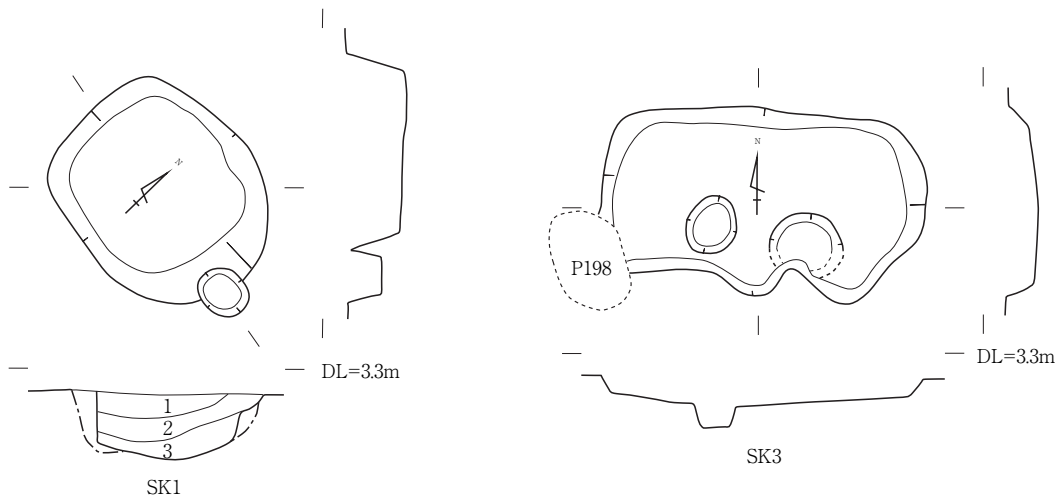
SK16

SK16は調査区南部に位置する円形土坑である。長軸約2.3m、短軸約2.2m、深さ41cmを測る。断面形は箱形のしっかりした掘方を持つ。埋土は灰褐色砂質土に黄褐色粘質土ブロックが斑に混じる土である。

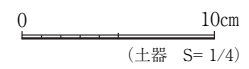
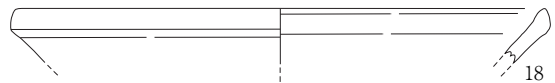
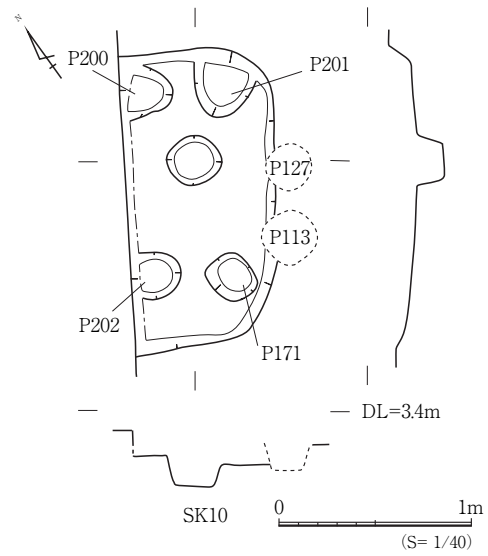
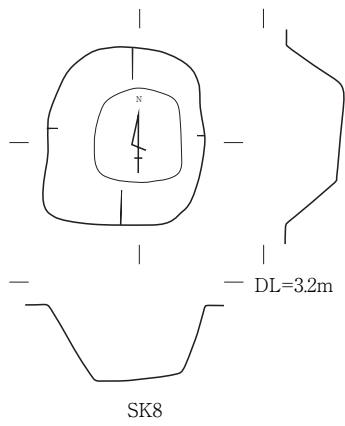
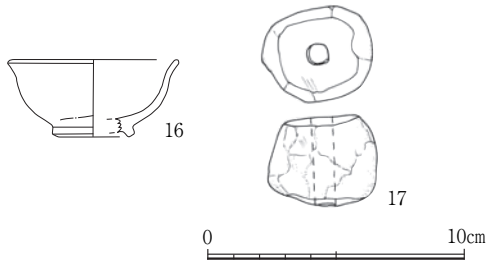
埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、鉄滓が出土しているが出土量は少なく細片のみである。SK16に隣接しているSK24はハンダ土坑と考えられSK16も同様の性格を持つ可能性が考えられる。

SK25～27

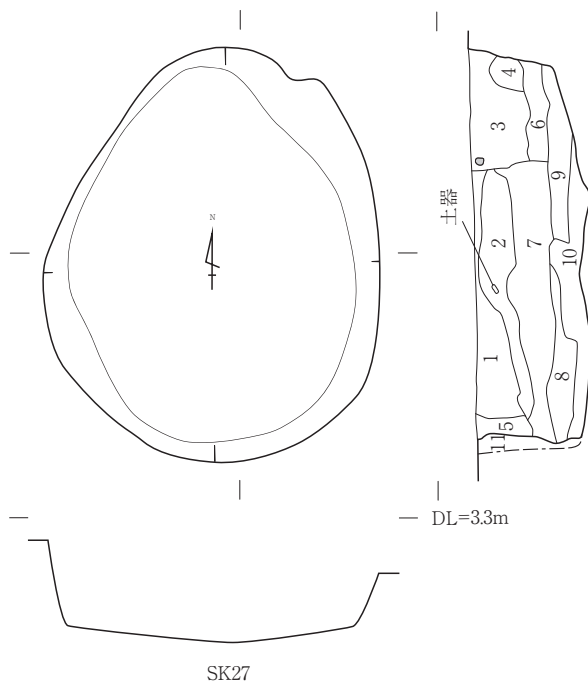
SK25～27は調査区北側に位置し北よりSK25・26・27と並んでいる。SK25は直径約1.8m、深さ約38cm、SK26は直径約2.0m、深さ約38cm、SK27は直径約2.5m、深さ約60cmを測る。いずれも箱形の断面形を呈し、埋土は暗灰褐色土に黄褐色土がブロック状に混じる土であった。埋土中からは土師質土器、瓦質土器、東播系須恵器、須恵器、青磁、天目、土錘、金属片が出土しているがいずれも出土量は少なく、細片のみの出土で図示できた遺物はSK27の近世陶磁器の可能性のある19のみであった。SK25～SK27は床面が二段になっており一回り小さな円形の落ち込みが確認できている。これらのことからハンダ土坑出現以前の水溜機能を持つ土坑の可能性が高く、近世に属する可能性が考えられる。



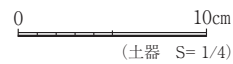
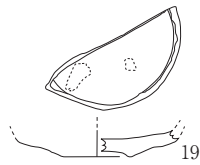
- 1: 灰黄褐色 (10YR 4/2) シルト (黄ブロック 2cm程度の小礫を含む)
- 2: 灰黄褐色 (10YR 4/2) シルト (やや黄ブロック含み 粘性有り)
- 3: 暗灰黄色 (2.5YR 4/2) シルト (黄ブロック含み 粘性有り)



2-11 図 SK1・3・8・10



- 1: オリーブ褐色土 (暗褐色混じる)
- 2: 灰黄褐色土 (黄灰色混じり 土器片 小礫 炭化物入る)
- 3: にぶい黄褐色土 (黄灰色混じり 小礫入る)
- 4: 暗黄褐色土 (暗褐色混じり 炭化物入る)
- 5: オリーブ灰色粘性シルト (褐色粒子混じる)
- 6: 灰黄褐色土 (茶褐色混じり 土器片入る)
- 7: 灰黄褐色土 (茶褐色混じり 土器片入る)
- 8: オリーブ褐色土 (黄灰色混じり 土器片入る)
- 9: 黄色粘土質 (黄色ブロック混じる 別SK埋土)
- 10: 灰黄褐色土 (黄灰色ブロック混じり 炭化物入る)
- 11: 黄褐色土 (茶褐色混じり 土器片入る)



2 - 12 図 SK27

溝跡(SD)

溝跡は7条検出している。SD6～8は不整形で検出時は切り合いがみられた。SD9・10は重複し、同一の溝跡の可能性が高い。溝跡の方向はSD11・12のみ南北方向で他は東西方向である。

遺構名	長さ×幅×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	接続	出土遺物	時期	備考
SD2	6.34 × 0.97 × 0.19	直線状	皿状	N - 84° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・土錘・金属		
SD6	7.37 × (1.05) × 0.07	直線状	皿状	N - 87° - E		土師質土器		同一の溝跡の可能性
SD7	3.43 × 0.74 × 0.18	直線状	皿状	N - 86° - W		土師質土器・瓦質土器・土錘		
SD8	9.70 × 0.80 × 0.17	Z形	皿状	N - 84° - E		土師質土器・土錘		
SD9	19.0 × 0.6 ~ 2.0 × 0.20	直線状	レンズ状	N - 88° - W		土師質土器・瓦質土器・備前焼・土錘		SD10と重複
SD10	3.43 × 0.74 × 0.21	直線状	皿状	N - 88° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・常滑焼・備前焼・青磁・土錘		
SD11	17.5 × 1.50 × 0.22	L字状	皿状	N - 3° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・常滑焼・備前焼・白磁・青磁		端部に水溜状遺構
SD12	11.5 × 1.80 × 0.23	直線状		N - 3° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器		端部に水溜状遺構

表2-5 下面溝跡一覧表

SD2

SD2は調査区北側で検出した東西方向の溝跡で西端部は調査区に切れ、東側はSK27に切られている。西側、東側とも延長と考えられる溝跡は検出できなかった。検出長は約6.3m、上端幅約1.0m、深さは約20cmである。断面形は皿状である。検出埋土は暗褐灰色シルトで埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、土錘、金属が出土しているが何れも細片で摩耗が著しく図示できるものはなかった。SD2埋土掘削下面よりピットを検出している。

SD6～8

SD6～8は調査区中央部のほぼ同一部分で検出した東西方向の溝跡である。不整形な溝跡で西側は調査区で切れ、東側は一部攪乱に切られているが終結している可能性が高い。東西ともに延長部分は確認できなかった。埋土は褐灰色シルトでSD6～8でわずかに色調が異なるが同一の溝跡の可能性が高いと考えられる。埋土中からは土師質土器、瓦質土器、土錘の細片が出土しており図示できる遺物は無かった。

SD9

SD9は調査区南端部で検出した溝跡である。検出当初SD9・10と2条の溝跡が並行し重複していると考えたが、同一の溝跡の可能性が高いものと考えられる。検出長は約19.0m、上端幅約0.6～2.0mで深さは約20cmを測る。断面形はレンズ状で埋土は褐灰色粘性シルトである。埋土中からは土師質土器、瓦質土器、備前焼、土錘が出土している。東端部の検出状況からSD12に接続する可能性が考えられる。

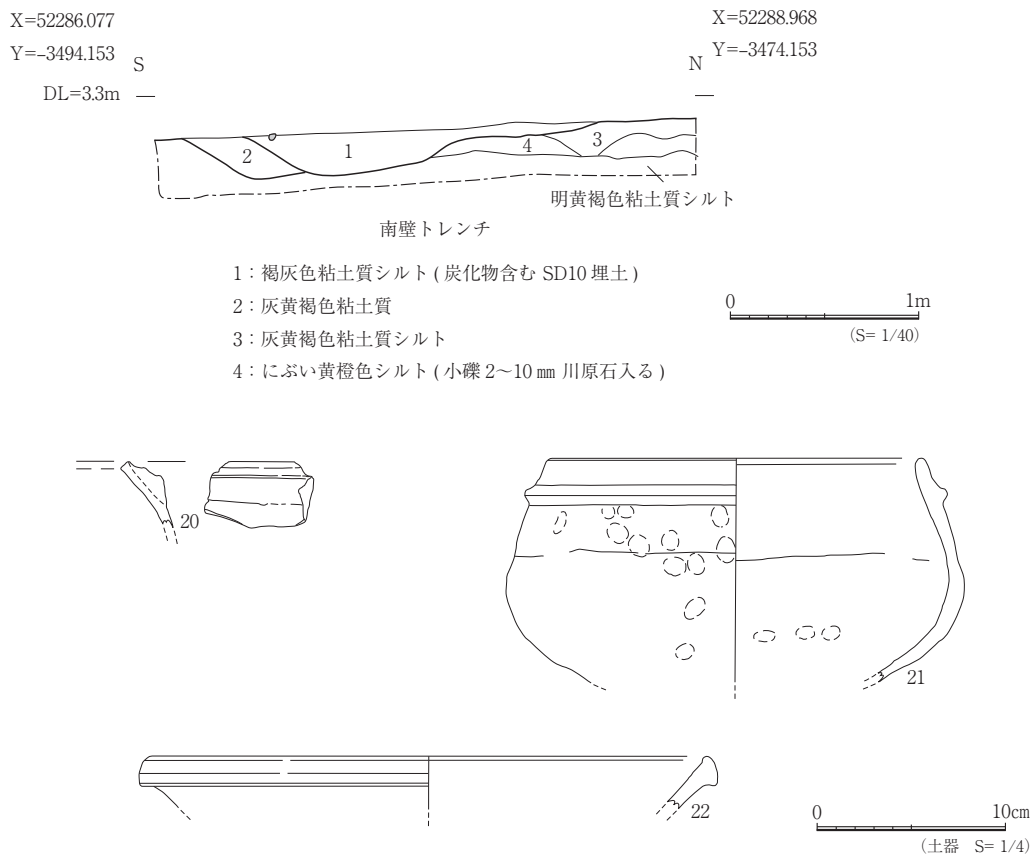
SD11

SD11は道路下部分で検出した遺構で当初不整形な平面形態であったため流路跡として遺構番号を付けたが区画溝の可能性があるので溝跡としてそれぞれSD11・12とした。SD11は検出長約17mで南北方向に13m延びた後、北端部で方向を西に変え約4m延び調査区に切られている。上端幅は1.5m、深さは約20cmを測る。南端部は上端幅は約3.8mに拡張され水溜状を呈する。遺構埋土は褐灰色シルトで埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、常滑焼、備前焼、白磁、青磁の細片が出土し23～25を図示し23は播磨型羽釜、25は備前Ⅲ期の播鉢である。SD11は

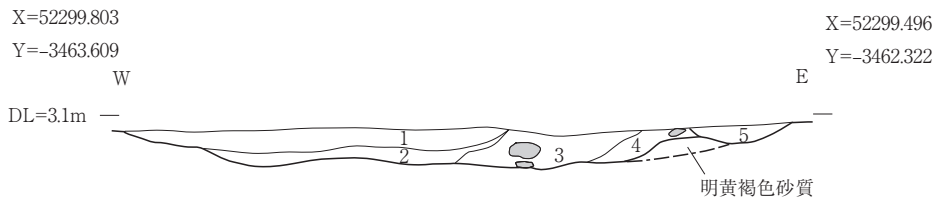
SD12 と一連の遺構と考えられ、溝跡の内側と考えられる部分から多くのピットが検出していることから屋敷を区画する溝跡の可能性が高いと考えられる。

SD12

SD12 は SD11 と同様に流路跡として遺構番号を付けたが区画溝の可能性があるので遺構番号を SD12 と変更した。検出長は約 11.5 m、上端幅は 1.8 m、深さは 23cm を測る。北側で不整形であるが幅、深さとも拡張されて終結する。拡張部分の幅は約 3.4 m 深さは約 30cm である。中央部には集石状に石が入るが、組石状ではなく投げ込まれた状態であった。石の材質は白色砂岩で 60cm、幅約 45cm 程の比較的大きなものもみられる。埋土は褐灰色シルトで埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器が出土するがいずれも細片であり図示できる遺物は無かった。SD11 端部の拡張部分とは約 2 m の間隔を開け向かい合った状態であり SD11 と一連の溝跡の可能性が高いと考えられる。また SD9 と接続する可能性も考えられ区画溝をなしている可能性が考えられる。また、SD12 の上層で検出した流路跡は SD11 埋没後の名残と考えられる。

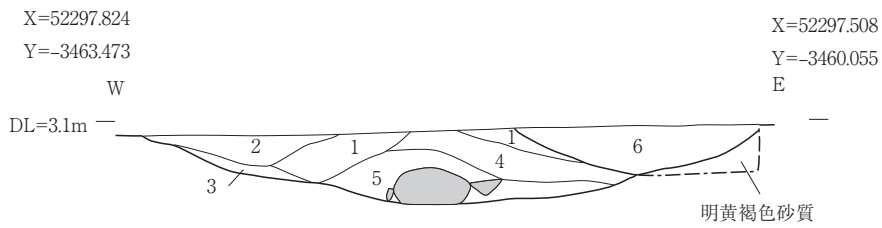


2 - 13 図 SD10



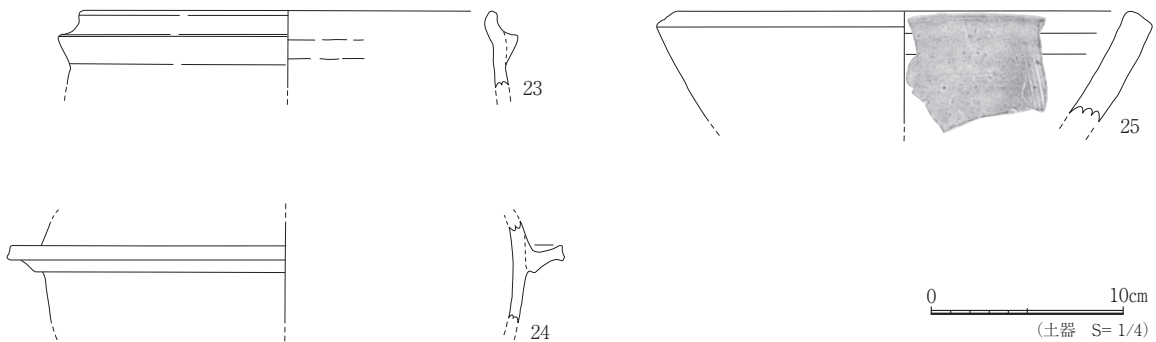
流路バンク1

- 1: 灰白色粘土質
- 2: 灰白砂質土(やや明るい)
- 3: 褐灰色粘土質
- 4: 淡暗褐灰色粘土
- 5: にぶい黄橙色粘土質(上層流路)



流路バンク2

- 1: にぶい黄橙色粘土質
- 2: 黄褐色粘土質(炭化物含む)
- 3: 灰黄褐色粘土質
- 4: 浅黄橙色粘土質
- 5: 灰黄褐色粘土質
- 6: 灰黄褐色粘土質(上層流路)



2-14 図 SD11

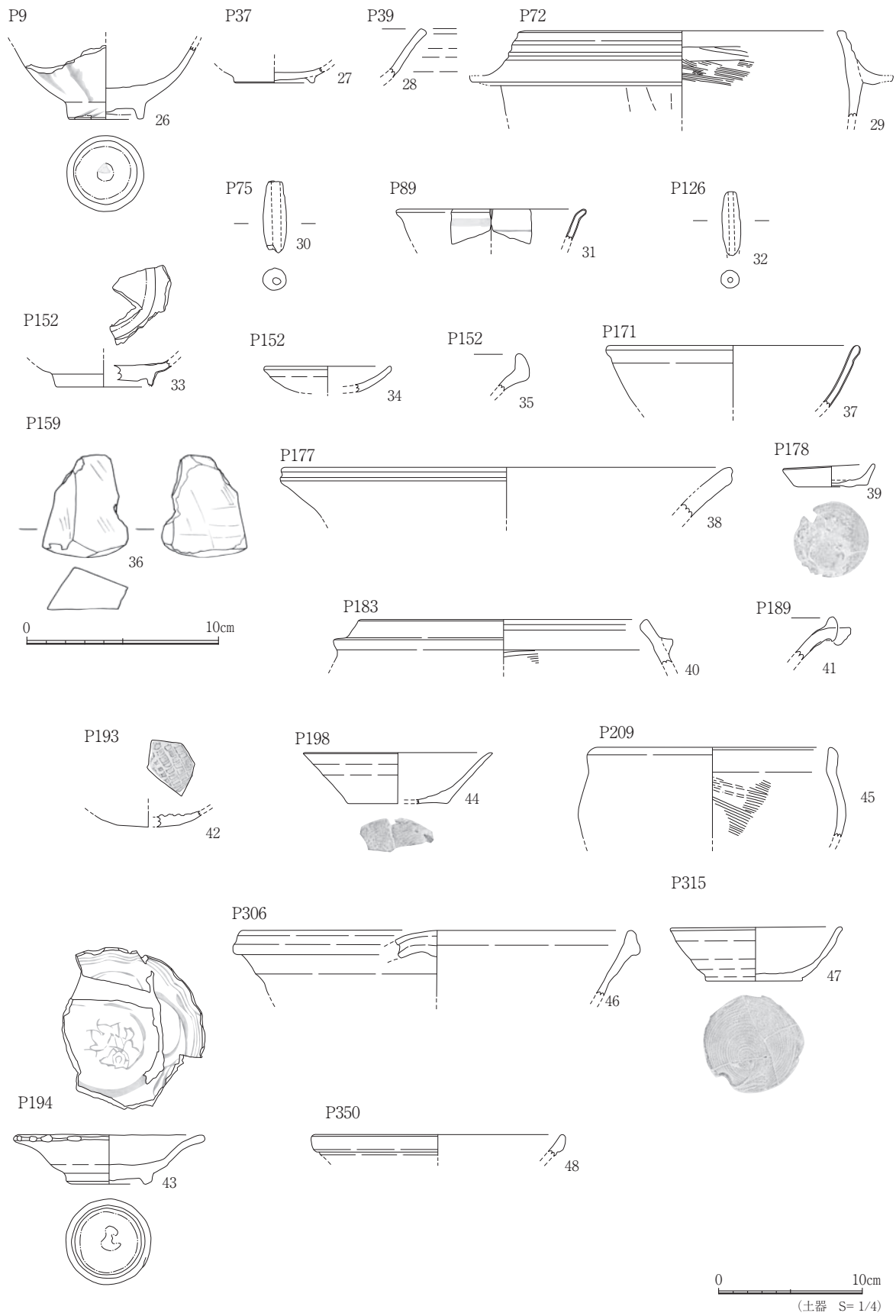
ピット(P)

ピットは検出時 467 個検出した。遺構番号は P364 まで付けたが精査の結果掘削を行わなかったものや、遺構番号が重複したため欠番としたものが 44 個ある。また遺物出土が無く遺構番号を付かなかったものが 103 個あった。ピットは旧道路部分より西側の調査区中央部に集中しており、重複、切り合った状態のものも多かった。

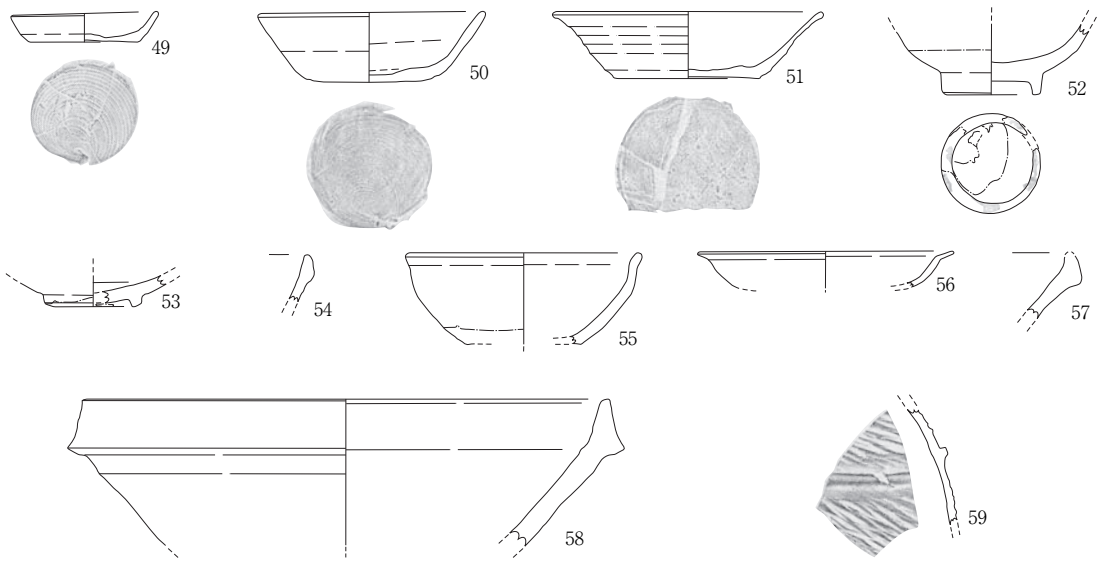
遺構埋土は暗灰褐色シルト、暗褐色土、灰黄褐色土、灰赤色土、にぶい赤褐色土の 5 種類を確認しているが大部分は暗灰褐色シルト、暗褐色土である。埋土中からは、中世に属する遺物が出土しているが細片がほとんどで図示できる遺物は少なく、出土遺物が図示できたピットは 21 個であった。

遺構名	平面形	長径×短径(直径) cm	深さ cm	埋土	図版No.	出土遺物	備考
P9	不整形	57	49	暗褐色土	26	青磁椀	P10 と同一に
P37	不整形円形	49 × 39	34 ~ 46	暗褐色土	27	瓦器碗底部	二段底状
P39	不整形円形	50	52	暗褐色土	28	瀬戸直縁皿	
P72	円形	25	18	暗灰黄色土	29	河内型瓦質釜	P163 に切られる
P75	円形	32	33	暗褐色土	30	土錘	
P89	円形	16	20	灰赤色土	31	青磁椀	P90 と切り合う
P126	不整形円形	29	8	暗褐色土	32	土錘	P108 と切り合う
P152	不整形	66 × (50)	50 (最深部)	暗褐色土	33 ~ 35	青磁椀、白磁丸皿、東播系須恵器	底面 凸凹
P159	円形	27	30	暗灰黄色土	36	砥石	P158 と切り合う
P171	円形	25	41	暗灰黄色土	37	青磁椀	SK10 床面より検出
P177	円形	22	28	暗灰黄色土	38	古代甕口縁	
P178	楕円形	56 × 42	39	暗灰黄色土	39	土師質土器小皿	
P183	楕円形	42 × 37	36	暗灰黄色土	40	播磨型土師質釜	
P189	楕円形	40 × 30	64	暗灰黄色土	41	東播系須恵器	P190 と切り合う
P193	不整形	52 × (38)	24	暗灰黄色土	42	瀬戸卸皿	SK11 床面で検出
P194	不整形	47 × (35)	55	暗灰黄色土	43	青磁 稜花皿 石列出土と接合	SK11 床面で検出掘立柱建物跡の柱穴の可能性
P198	楕円形	52 × 36	32 ~ 50	—	44	土師質土器 坏	SK3 と切り合う 二段底状
P209		41 × (15)	23	暗灰黄色土	45	瓦質鍋	
P306	楕円形	64 × 43	28	暗褐色土	46	東播系須恵器 P320 出土と接合	P305 と切り合い掘削後同一ピットに
P315	円形	36	43	暗褐色土	47	土師質土器坏	
P350	円形	20		暗灰黄色土	48	白磁椀 IV類	SD7 を切って検出

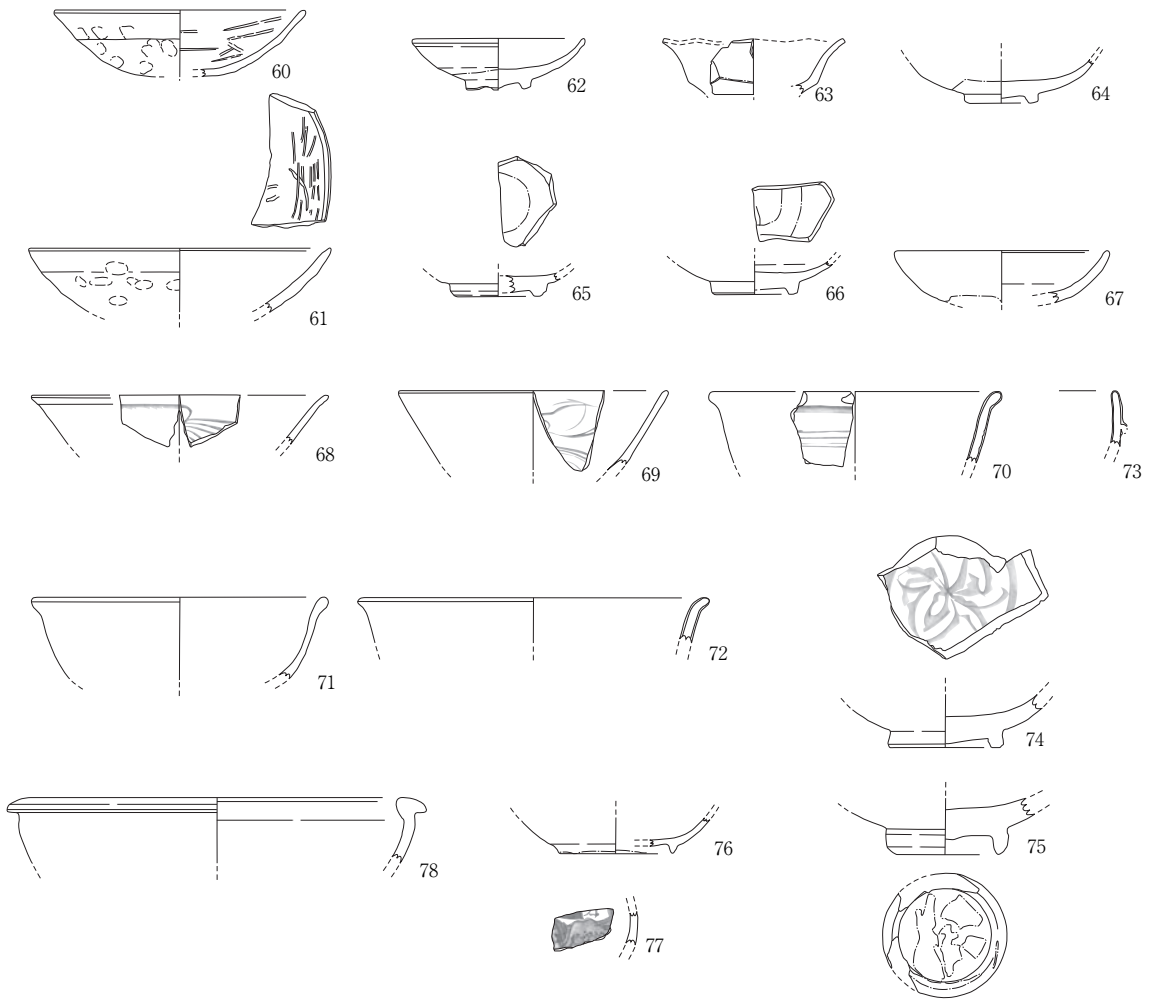
表 2 - 6 下面図版掲載遺物出土ピット計測表



2-15図 ピット出土遺物



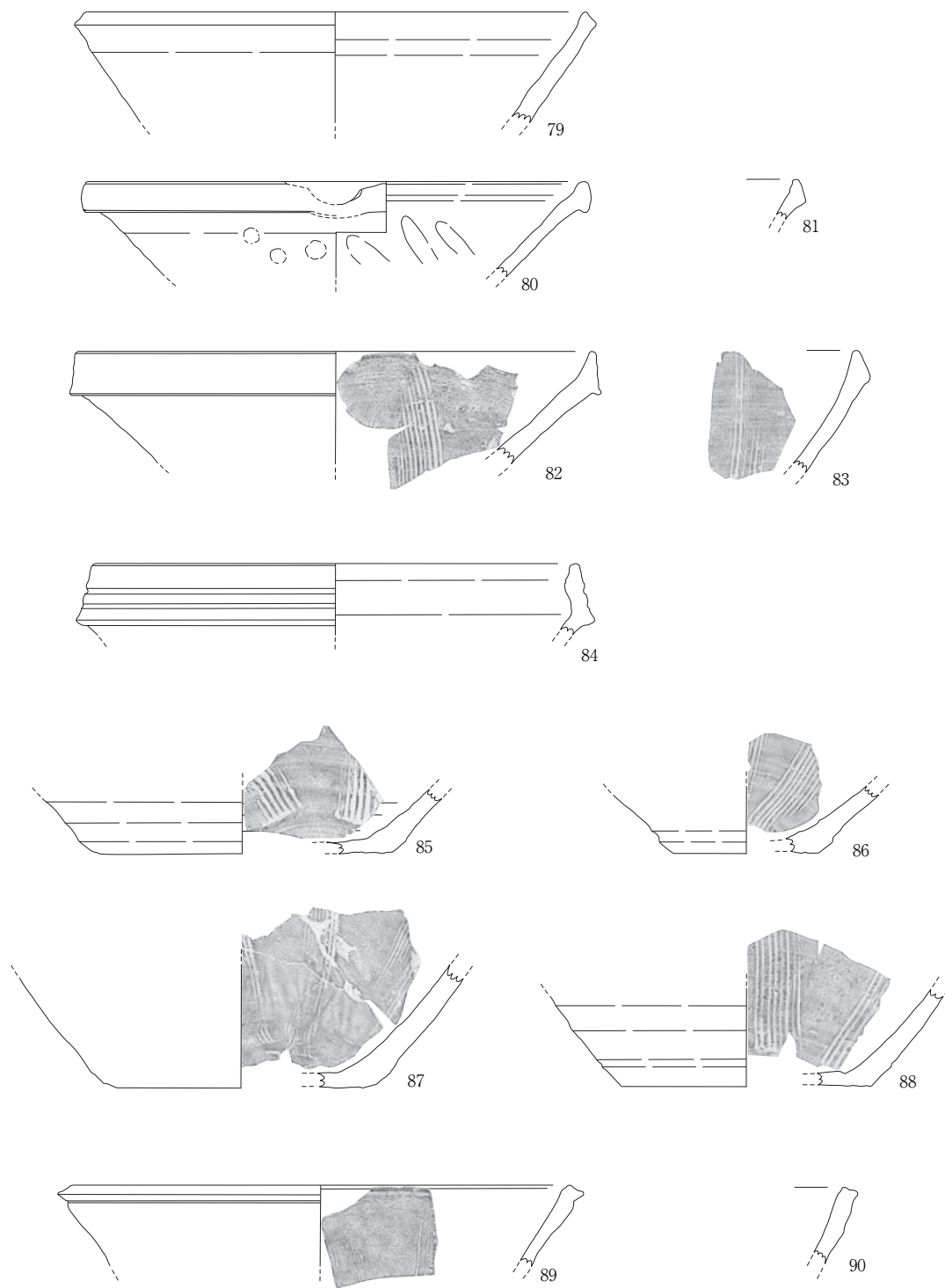
包含層 1 出土遺物



包含層 2 出土遺物

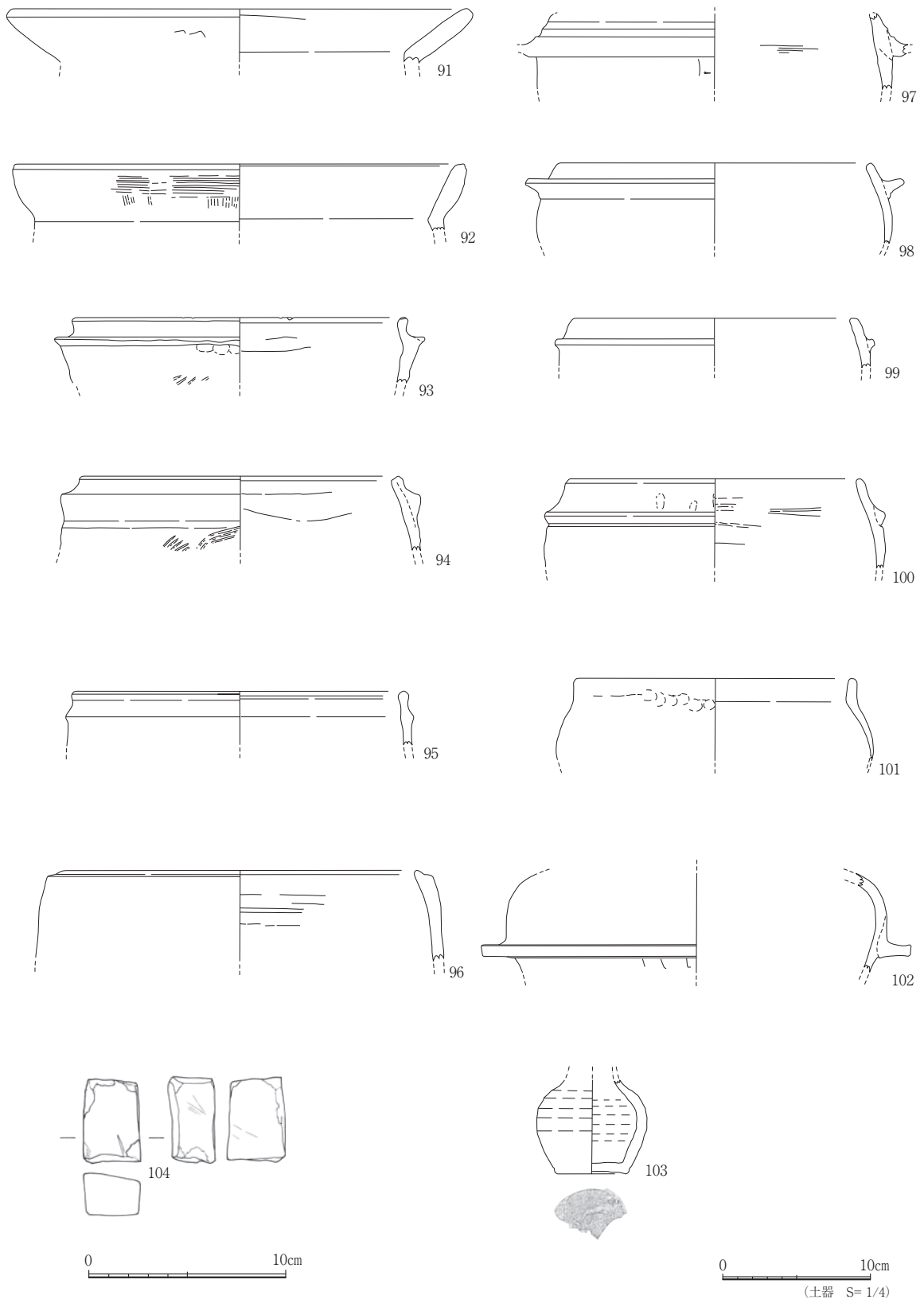
0 10cm
(土器 S=1/4)

2-16 図 包含層 1・2 出土遺物



0 10cm
(土器 S= 1/4)

2-17図 包含層2出土遺物1



2 - 18 図 包含層 2 出土遺物 2

遺物觀察表

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-1	1	備前焼	播鉢	SD1		23.6	7.0	13.8	灰	灰	砂粒多	底部、口縁ともわずかに残	口縁上方に拡張、器高低い、7条1組の摺目。外内面回転ナデ。	備前と考えるが器高低い。
1-1	2	備前焼	播鉢	SD1	1層	35.8	(3.95)		褐灰	褐灰	細かな砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁大きく拡張。口縁外内面とも回転ナデ。	口縁火ぶくれ。
1-1	3	土師質土器	羽釜	SD4		20.0	(3.1)		橙	黒	細かな砂粒多	口縁周わずかに残	内傾する口縁、口縁下に小さな鋸が付く。外面口縁横ナデ、体部平行タタキ。	播磨型羽釜
1-1	4	土師質土器	羽釜	SD5			(3.7)		橙	にぶい橙	細かな砂粒多	口縁周一部残	内傾する口縁、口縁端部斜面、口縁下小さな鋸が付く。外面口縁横ナデ、内面ナデ。	播磨型羽釜
1-1	5	白磁	碗	SD5		20.1	(3.55)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残	口縁端部外に引き出す。	森田分類V類の可能性。
1-1	6	備前焼	播鉢	SD5		36.2	(5.6)		褐	褐	細かな砂粒	口縁周わずかに残	口縁上下に大きく拡張。内外面回転ナデ。	備前IV期。
1-1	7	白磁	碗	石列1			(2.8)	5.6	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	高台周約1/2残	高い高台、高台内側無軸。	5の底部の可能性、森田分類V類。
1-1	8	青磁	小皿	石列1		7.8	2.8	3.7	灰オリーブ	灰オリーブ		高台完形、口縁周わずかに残	丸みを帯びた浅い体部、口縁内面細進弁文、高台内側まで施軸。	16世紀後半。
1-1	9	土師質土器	羽釜	石列1		18.2	(4.25)		橙	黒褐		口縁周わずかに残	口縁短い、端部斜面をなす、口縁下に小さな鋸が付く。外内面とも回転ナデ。	播磨型羽釜
1-1	10	土師質土器	羽釜	石列1		19.8	(3.8)		にぶい橙	にぶい橙	細	口縁周一部残	内傾し外反ぎみの口縁、端部は外側に引きだされ斜面となる、口縁下に小さな鋸。内面横ナデ。	付着物有。
1-1	11	瓦器	鍋	石列1		17.8	(4.7)		浅黄	浅黄		口縁周わずかに残	口縁端部面をなす。	色調、焼成は土師質だが胎土、器形は瓦質土器。
1-1	12	瓦質土器	羽釜	石列1		22.0	(8.5)		黒褐	黒褐	白い砂粒入る	口縁周約1/4残	内傾する口縁3条の凹線、口縁下にしつかりした鋸が付く。外面鋸～口縁回転ナデ、内面横ナデ。	河内型羽釜、鋸下部多量の煤付着。
1-1	13	瓦質土器	羽釜	石列1		28.8	(7.6)		浅黄	黄灰	1mm大の砂粒	口縁周一部残	内傾ぎみの口縁、外面3条の凹線、口縁下には大きな鋸が付く。内面ハケ、外面鋸下側部、横方向ヘラケズリ。	河内型羽釜
1-1	14	東播系須恵器	片口鉢	石列1		23.3	(4.4)		灰	灰	2mm大の砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁部大きく拡張。内外面とも横ナデ。	東播III期後半。
1-1	15	備前焼	播鉢	石列1の下		34.4	(8.5)		橙	橙	白い砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁端部上、下に大きく拡張。外、内面とも回転ナデ。	外内面素焼状。
1-1	16	白磁	小碗	SK1	マ	8.6	4.0	3.6	灰白	灰白	良	底部周、口縁周ともわずかに残	小型、丸い体部から外反する口縁、体部下露露体、内面貫入。	胎土磁器質に近い。
1-1	17	石器	石錘	SK1		全長3.5	全幅4.3	孔径0.8				ほぼ完形	片側端面についていかに仕上げる。	重量73.14g 石錘の可能性。流紋岩。
1-1	18	東播系須恵器	片口鉢	SK10	マ	27.4	(2.8)		灰	灰	細かな砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁端部わずかに上方に拡張。内面横ナデ。	
1-1	19	近世陶磁器		SK27			(1.4)	3.3	灰白	灰	良	底部周約1/2残	器底の底部、体部は上方に直線的に立ち上がると考える、見込に目跡が残る、下面露胎。	
1-1	20	瓦質土器	羽釜	SD10			(3.5)		灰	灰		口縁周わずかに残	内傾する口縁、口縁外面粘土帯貼付、口縁外面2条の凹線。	
1-1	21	土師質土器	羽釜	SD10 TR1		19.6	(11.8)		浅黄	にぶい黄橙	5mm大の砂粒も有る	口縁周1/4残	内傾する口縁、口縁端部丸い、口縁下に小さな鋸が付く、最大径胴部中央、内外面とも指オサエ痕残る。	煤付着
1-1	22	東播系須恵器	片口鉢	SD10		29.4	(1.9)		灰	灰	細かな砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁端部上下に拡張。外面回転ナデ。	
1-1	23	土師質土器	羽釜	SD11	マ	21.0	(4.0)		にぶい褐	黒褐	砂粒多	口縁周わずかに残	短かな口縁下に小さな鋸が付く。口縁内外面とも強い回転ナデ。	播磨型羽釜
1-1	24	瓦質土器	羽釜	SD11			(5.3)		灰黄	黄灰		鋸わずかに残	しつかりした鋸、鋸端部凹面状。	河内型羽釜の可能性。
1-1	25	備前焼	播鉢	SD11		23.9	(5.7)		灰	灰	白い砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁端部拡張なく斜面スリ目有。外面回転ケズリ、内面回転ナデ。	やや軟質の須恵質、備前III期。
1-1	26	青磁	碗	P9			(5.1)	5.1	オリーブ灰	オリーブ灰				
1-1	27	瓦器	碗	P37	マ		(1.1)	5.4	良	良		高台周一部残	断面三角形の径の大きな高台。	
1-1	28	瀬戸	直縁皿	P39			(3.3)		灰オリーブ	灰オリーブ	良	口縁周わずかに残	口縁端部でわずかに開ききみ、端部斜面をなす。	軸ほとんど剥げる。
1-1	29	瓦質土器	羽釜	P72		22.1	(6.0)		灰	灰		口縁一部残	口縁部内傾3条の凹線、下部には大きな鋸、端部は面をなす。外面口縁凹線、内面横ハケ。	河内型羽釜。
1-1	30	土製品	土錘	P75		全長4.95	全幅1.6	孔径5.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙		端部、欠損	やや不整形。	重量10.3g
1-1	31	青磁	碗	P89		12.8	(2.2)		オリーブ灰	オリーブ灰	良	口縁わずかに残	口縁端部で外反、透明感の強い釉。	
1-1	32	土製品	土錘	P126		全長(4.4)	全幅1.3	孔径0.3	にぶい橙	にぶい橙		端部わずかに欠損	中央部に最下径。	重量5.90g
1-1	33	青磁	碗	P152			(1.85)	6.6	明オリーブ灰	明オリーブ灰	普通	高台周1/4残	内面見込み軸ハギ、外面高台外面まで施軸。削出し高台。	
1-1	34	白磁	丸皿	P152		8.6	(1.75)		灰白	灰白	良	口縁わずかに残	丸みを帯びた浅い体部、白濁釉、外面ピンホール、有。口縁回転痕。	
1-1	35	東播系須恵器	片口鉢	P152			(2.6)		にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒	口縁わずかに残、内面剥落	大きく上方に拡張された口縁。	二次被熱。

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-1	36	石器	砥石	P159	マ	全長5.3	全幅4.45	全厚2.2				断面不定形状一側面のみに欠損白色の緻密な石、断面両端以外3面使用	鉄、砥石か。	重量 44.15g
1-1	37	青磁	碗	P171		17.2	(4.3)		オリーブ灰	オリーブ灰	良	口縁わずかに残	口縁端外反ぎみ、端部丸く収める、外面無文。	
1-1	38	土師器	甕	P177	マ	31.0	(3.5)		にぶい黄褐	にぶい黄褐	砂粒入る	口縁わずかに残	口縁端部凹面。	
1-1	39	土師質土器	小皿	P178	マ	6.2	1.6	4.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	口縁一部欠損、磨耗	平底から直線的に短かく立ち上がる、内面中央凹む。外面ナデ。不明。	
1-1	40	土師質土器	羽釜	P183	マ	19.8	(3.1)		灰黄褐	にぶい褐	細かな砂粒	口縁部わずかに残	内傾する口縁、口縁下に小さな髷が付く。外面口縁横ナデ、内面口縁下横ハケ。	
1-1	41	東播系須恵器	片口鉢	P189			(3.0)		灰	灰	1mm大の砂粒	口縁わずかに残	上、下に拡張された口縁。	
1-1	42	瀬戸	卸皿	P193	マ		(1.1)	4.4	淡黄	淡黄	良	底部わずかに残	陶質卸皿、平底。回転系切り。	
1-1	43	青磁	皿	石列、P194		12.7	4.45	5.9	にぶい黄褐	にぶい黄褐	陶質	高台完形、口縁周1/3残	稜花皿、内面陰刻花文、高台見込ハギ。	焼成甘い。
1-1	44	土師質土器	杯	P198	マ	13.0	3.55	6.7	にぶい橙	浅黄橙	小さな砂粒入る	底部周、口縁周とも一部残、磨耗	平底から直線的に開く体部。回転系切り、粘土寄りのこる。	
1-1	45	瓦質土器	鍋	P209	マ	16.4	(6.2)		灰	灰		口縁わずかに残	短かく直立ぎみの口縁、端部は雑な面をなす。内面口縁横ナデ、口縁下横ハケ。	
1-1	46	東播系須恵器	片口鉢	P306、P320	マ	26.8	(4.5)		灰	灰		口縁わずかに残	口縁端部上下に拡張された凹面状。	(P306) と (P320) 接合。
1-1	47	土師質土器	杯	P315		11.8	3.8	6.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒入る	ほぼ完形	平底から立ち上がる、内底中央凹む。外面三段に回転ナデ、底部附近強い。回転系切り。	内底、外底に凹形にうすい煤付着。
1-1	48	白磁	碗	P350		17.4	(1.5)		灰白	灰白	良	口縁わずかに残	玉縁状の口縁、ピンホール有。	IV類碗。
1-1	49	土師質土器	小皿		ホ1	7.8	1.7	6.0	橙	橙	普通	完形	平底から短かく立ち上がる、外面底部近く強いナデ、内底中央部へソ状。外内面とも回転ナデ。回転系切り。	
1-1	50	土師質土器	杯		ホ1	12.1	3.8	6.8	浅黄橙	浅黄橙	普通	口縁わずかに欠損	平面形楕円形、平底から立ち上がり、体部中央で屈曲、内底中央部凹む。外内面とも回転ナデ。回転系切り。	
1-1	51	土師質土器	杯		ホ1	14.4	3.6	7.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部2/3残、口縁周一部残、外面磨耗、付着物有	平底から立ち上がり、体部中央で外反して開く。外面回転ナデ痕残る。不明。	
1-1	52	近世陶磁器			ホ		(3.8)	5.3	黒褐	灰褐		高台周完形	削出し高台、内面黒色釉、外面一部白色釉、下半～高台見込一部まで鉄分。	近世。
1-1	53	白磁	皿		ホ1		(1.7)	5.2	灰白	灰白	良	高台1/2残	断面五角形状の高台、高台外面の一部まで白色釉、内面見込み沈線。	
1-1	54	白磁	碗		ホ1		(2.5)		灰白	灰白		口縁わずかに残	大きな玉縁の口縁。	白磁碗IV類。
1-1	55	天目	茶碗		ホ1、ホ2	12.4	(4.95)		黒褐	暗オリーブ褐		口縁周一部残	口縁外反ぎみ下半釉ハギ。	二次被熱、瀬戸大窯1。
1-1	56	近世陶磁器			ホ1	13.6	(1.95)		灰白	灰白	良陶質	口縁周わずかに残	丸みを帯びた体部、口縁は大きく引き出す、透明釉。	近世。
1-1	57	東播系須恵器	片口鉢		ホ1		(3.4)		灰	灰		口縁周一部残、口縁端部欠損	口縁端部玉縁状に拡張。	
1-1	58	備前焼	搦鉢		ホ1、ホ2	28.1	(7.9)		橙	橙	1mm大の砂粒多	口縁周わずかに残	口縁部拡張、下端引き出す。外面回転ナデ。	内面、表面粒子、磨滅。
1-1	59	東播系須恵器	壺		ホ1		(6.0)		灰	灰	白い粒子入る	胴部わずかに残	上胴部に断面四角形の突帯が巡る。外面粗いタタキ、内面ナデ。	
1-1	60	瓦器	碗		ホ2	13.5	(3.6)		灰白	灰白	白い砂粒入る	口縁周一部残	口縁外反。外面口縁部二段ナデ、体部ユビオサエ。	炭素吸着なし。
1-1	61	瓦器	碗		ホ2	16.2	(3.45)		灰	灰	普通	口縁周わずかに残、磨耗	口縁わずかに外反。外面口縁ナデ。	外面付着物多。
1-1	62	白磁	丸皿		ホ2	9.2	2.8	3.5	灰白	灰白	良	高台完形、口縁周わずかに残	割り高台、丸みを帯びた浅い体部、体部下露胎、白濁釉。外面回転ナデ痕。	D類 15世紀後半。
1-1	63	白磁	八角皿		ホ2		(3.0)		灰白	灰白	陶質	口縁一部残	八角皿、下半露胎。	15世紀後半。
1-1	64	白磁	丸皿		ホ2		(2.35)	3.9	灰白	灰白	良	底部完形	径の小さな高台から丸みを帯びて開く体部、体部下露胎。	二次被熱。
1-1	65	白磁			ホ2		(1.3)	4.5	灰白	灰白	良	高台一部残	削出し高台、高台無釉。	
1-1	66	白磁	碗		ホ2		(1.8)	4.6	灰白	灰白	精良	高台周1/4残	削出高台、体部下露胎、内面見込蛇目状、白濁釉。	
1-1	67	青磁	皿		ホ2	11.3	(2.8)		暗灰黄	暗灰黄	赤橙色	口縁周一部残	浅く内湾する体部、外面下半露胎。	二次被熱。
1-1	68	青磁	碗		ホ2	15.8	(2.8)		オリーブ灰	オリーブ灰	良	口縁一部のみ残	外面口縁端部下ケズル、内面陰刻文様、透明釉。	
1-1	69	青磁	碗		ホ2	14.3	(4.3)		灰オリーブ	灰オリーブ	良	口縁一部残	外面無文、ピンホール有、内面草花文。	
1-1	70	青磁	碗		ホ2	15.4	(3.8)		オリーブ灰	オリーブ灰		口縁一部残	口縁端部外反、外面雷文帯くずれ、内外面とも貫入る。	15世紀末、雷文帯くずれ。
1-1	71	青磁	碗		ホ2	15.6	(4.4)		灰オリーブ	灰オリーブ	灰白	口縁周わずかに残	口縁外反、端部丸くなる、ピンホール有、無文。	

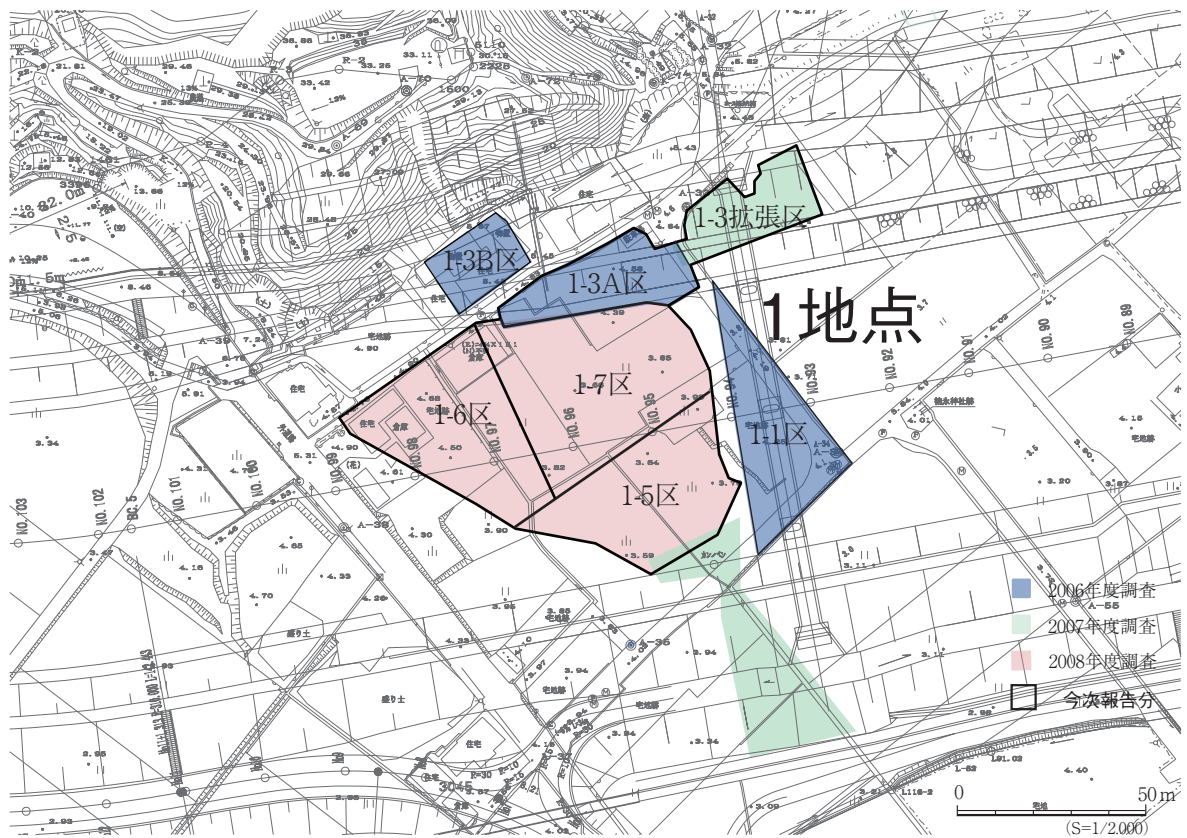
調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-1	72	青磁	碗		ホ2	18.4	(2.5)		オリーブ灰	オリーブ灰	良	口縁周わずかに残	口縁短かく外反、厚手の釉、内面貫入する。	
1-1	73	青磁			ホ2		(3.0)		オリーブ灰	オリーブ灰	普通	一部残存	端部下部に突帯。	器種不明、焼成時軸着と考える。
1-1	74	青磁	碗		ホ2		(2.85)	5.9	灰	灰オリーブ	良	高台周完形	内面見込、陰刻花文、畳付～高台見込、無釉。	
1-1	75	青磁	碗		ホ2		(3.0)	5.6	オリーブ灰	オリーブ灰	良	高台周3/4残	厚手の底部、高台内側面に軸残る。	二次被熱。
1-1	76	染付	碗		ホ2		(2.0)	6.2	灰白	灰白	精良	高台わずかに残	断面三角形の高台、畳付のみ無釉。	胎土磁器質、中世青花。
1-1	77	近世陶磁器			ホ2		(1.8)					一部のみ残	白地にコバルトブルーの染付。	近世。
1-1	78	近世陶磁器	鉢		ホ2	21.0	(3.5)		灰黄	灰赤		口縁のみ一部残	口縁端部拡張横に引き出す。	近世の可能性。
1-1	79	東播系須恵器	片口鉢		ホ2	30.0	(6.6)		灰白	灰白	細かな砂粒入る	口縁わずかに残	口縁わずかに上方に拡張。外面回転ナデ、内面口縁回転ナデ。	
1-1	80	東播系須恵器	片口鉢		ホ2	(30.0)	(5.7)		暗灰	暗灰	角礫入る	口縁一部残	口縁端部上下に大きく拡張。外面口縁横ナデ、内面口縁横ナデ下ナデ。	
1-1	81	東播系須恵器	片口鉢		ホ2		(2.4)		灰	灰		口縁わずかに残	口縁端部上方に拡張。	
1-1	82	備前焼	播鉢		ホ2	30.8	(6.7)		褐灰	灰褐	1mm大の砂粒入る	口縁周一部残	口縁端部上下に拡張、10条1組の摺目。外面口縁下横ナデ、内面横ナデ。	外面口縁下布目痕。
1-1	83	備前焼	播鉢		ホ2		(7.3)		灰黄	にぶい黄橙	砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁端部上方に拡張、弱い6条1組の摺目。外面横方向ケズリ、内面横方向ナデ。	備前皿期発色は備前と異なる。
1-1	84	備前焼	播鉢		ホ2	28.6	(4.3)		にぶい赤褐	にぶい赤褐	細かな砂粒	口縁わずかに残	口縁大きく拡張し凹線が巡る。	備前Ⅳ期。
1-1	85	備前焼	播鉢		ホ2		(3.8)	17.0	赤褐	赤褐	5mm大の大きな砂粒	底部周わずかに残	6条1組の太い摺目。外内面横ナデ。	全体にレンガ色、内面表面磨減。
1-1	86	備前焼	播鉢		ホ2		(4.0)	8.8	褐灰	褐灰	砂粒入る	底部わずかに残	平底から外反ぎみに開く、8条1組の摺目。外面横ナデ。	小さな底部。
1-1	87	備前焼	播鉢		ホ2		(7.3)	14.8	明赤褐	にぶい褐	1mm～3mm砂粒多	底部一部残	弱い摺目入る、内面表面磨減。	二次被熱。
1-1	88	備前焼	播鉢		ホ2		(5.8)	15.0	灰赤	灰赤	甘い砂粒	底部周わずかに残	8条1組の摺目。外面横ナデ。	
1-1	89	瓦質土器	播鉢		ホ2	29.9	(4.85)		灰白	灰		口縁一部残	口縁端部強いナデで引き出され凹面状、外内面横ナデ。	
1-1	90	瓦質土器	鉢		ホ2		(4.7)		灰白	灰	良	口縁一部のみ残	口縁端部斜面をなす。外面口縁下ナデ。	
1-1	91	土師器	鍋		ホ2	30.6	(3.6)		にぶい褐	灰褐	砂粒多	口縁わずかに	厚い口縁、口縁端部面。	13世紀。(ホ2)と(haj6)接合。
1-1	92	土師質土器	鍋		ホ2	30.3	(4.5)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	砂粒	口縁一部残	厚手の口縁、外面横ハケ。	13世紀代舟戸で類似有。
1-1	93	土師質土器	鍋		ホ2	22.2	4.4		にぶい橙	黒	細かな砂粒	口縁一部残	短かい口縁端部は斜面をなし内傾、短かな鑊が付く。外面タタキ、内面横ナデ。	播磨型。
1-1	94	土師質土器	羽釜		ホ2	21.2	(5.0)		にぶい褐	黒褐	細かな砂粒	口縁一部残	内傾する口縁、口縁端部平坦、口縁下に短い鑊が付く。外面鑊下タタキ、内面ナデ。	播磨型 15世紀半～外面ス。
1-1	95	土師質土器	羽釜		ホ2	22.6	(3.6)		橙	にぶい赤褐	細かな砂粒	口縁わずかに残	口縁端部丸みを帯びる口縁下退化した鑊。内面横ナデ。	播磨型。
1-1	96	土師質土器	鍋		ホ2	13.8	(6.1)		にぶい赤褐	褐灰(炭化物)	砂粒多金雲母	口縁わずかに残	内傾ぎみの口縁端部わずかに引き出され受口状。内面横ハケ。	播磨型、16世紀代。
1-1	97	瓦質土器	羽釜		ホ2		(5.05)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒多	一部残	口縁内傾し凹線が巡る。	河内型。
1-1	98	瓦質土器	羽釜		ホ2	21.1	(5.4)		灰	灰	良	口縁周わずかに残	内傾する口縁、鑊は上方を向く。	
1-1	99	土師質土器	羽釜		ホ2	18.4	(3.3)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒	口縁一部残	内傾する口縁、口縁端部面をなす。口縁下に小さな鑊が付く。	
1-1	100	瓦質土器	羽釜		ホ2	19.6	(6.0)		灰	灰	普通	口縁一部残	内傾ぎみの口縁、口縁下小さな鑊が付く。外面、口縁、鑊接合時指オサエ、鑊下部強い横ナデ。	
1-1	101	瓦質土器	鍋		ホ2	18.6	(5.5)		灰	灰	1mm大の砂粒	口縁周一部残	口縁部直立ぎみ、外面口縁指オサエ、内面口縁横ナデ。	
1-1	102	瓦質土器	茶釜		ホ2		(6.7)		灰黄	黒褐	細かな砂粒	鑊部分一部残	肩がはる、水平な鑊が付く。	14世紀代。
1-1	103	須恵器	小型壺		ホ2		(6.3)	4.8	灰	灰	細かな砂粒	底部1/3残	外面回転ケズリ痕。回転糸切り。	内面付着物なし。
1-1	104	石製品	砥石		ホ2	全長4.3	全幅2.9	全厚2.2						重量48.7g 角柱状、両端以外四面使用。仕上げ砥石、赤い筋入る。

第Ⅲ章 1-3A区の調査

1. 1-3A区の概要

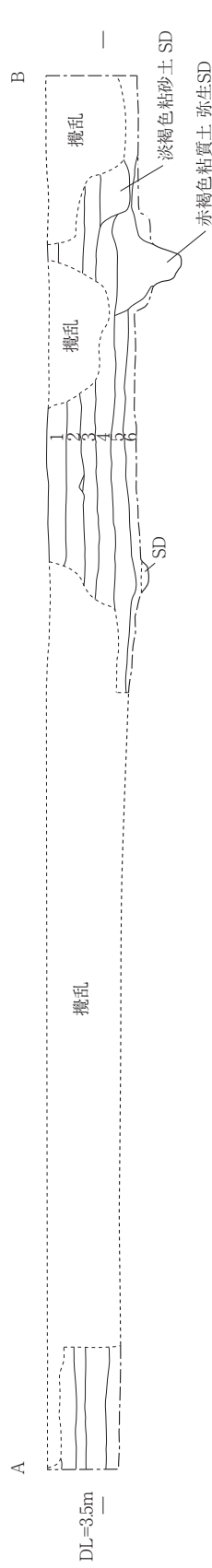
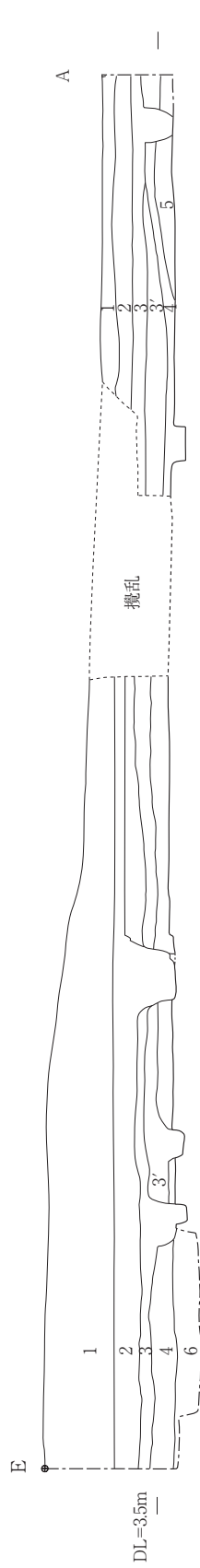
1地点は城山南側に位置する調査地点で調査順に1-1～1-7区として7分割した。1-3区は最も北側に位置する調査区で新居城跡直下にあたる。調査区内は更に1-3A・3B・拡張区の3部分に分け順次調査した。1-3A区は1-3区の中央部に位置し北西に1-3B区、東に1-3拡張区が位置している。他の調査区では1-7北区が南側に隣接している。

調査前は東側は宅地で西側は農地であり調査前標高は約4.8mであった。調査区の基本層序は1～6層に大きく分けることができ1層は表土、2層は淡灰褐色砂質土、3層は包含層1-1とした灰褐色粘砂土、4層は暗褐色粘質土で包含層1-2、5層は黒褐色粘土の包含層2で、6層は黄褐色粘質土の地山面である。遺構は3・5・6層で検出しているが3層検出の遺構は石列状遺構とハンダ土坑で何れも近世後半～近現代のものと考えられる。報告書では上面、下面で報告し、3層検出遺構については5層検出遺構と合わせて上面で報告する。1-3A区の調査平面積は540㎡で調査延べ面積は1620㎡、調査期間は平成18年11月～19年3月までであった。

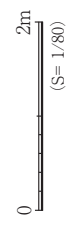
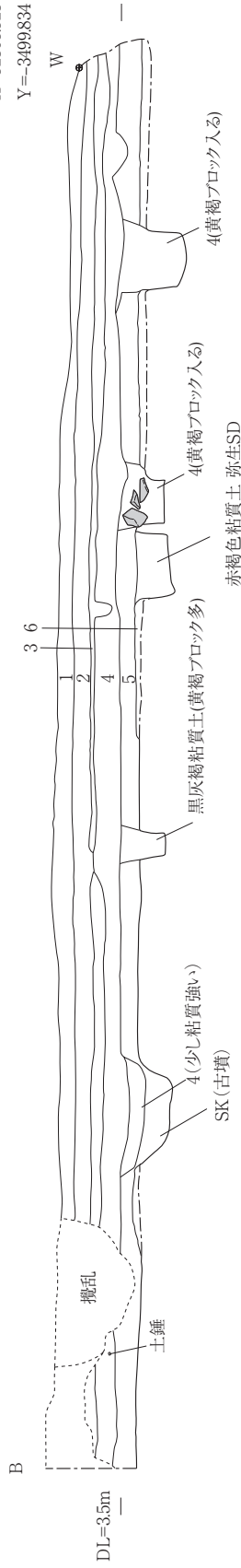


3-1図 調査区位置図

X=52342.363
Y=-3458.067

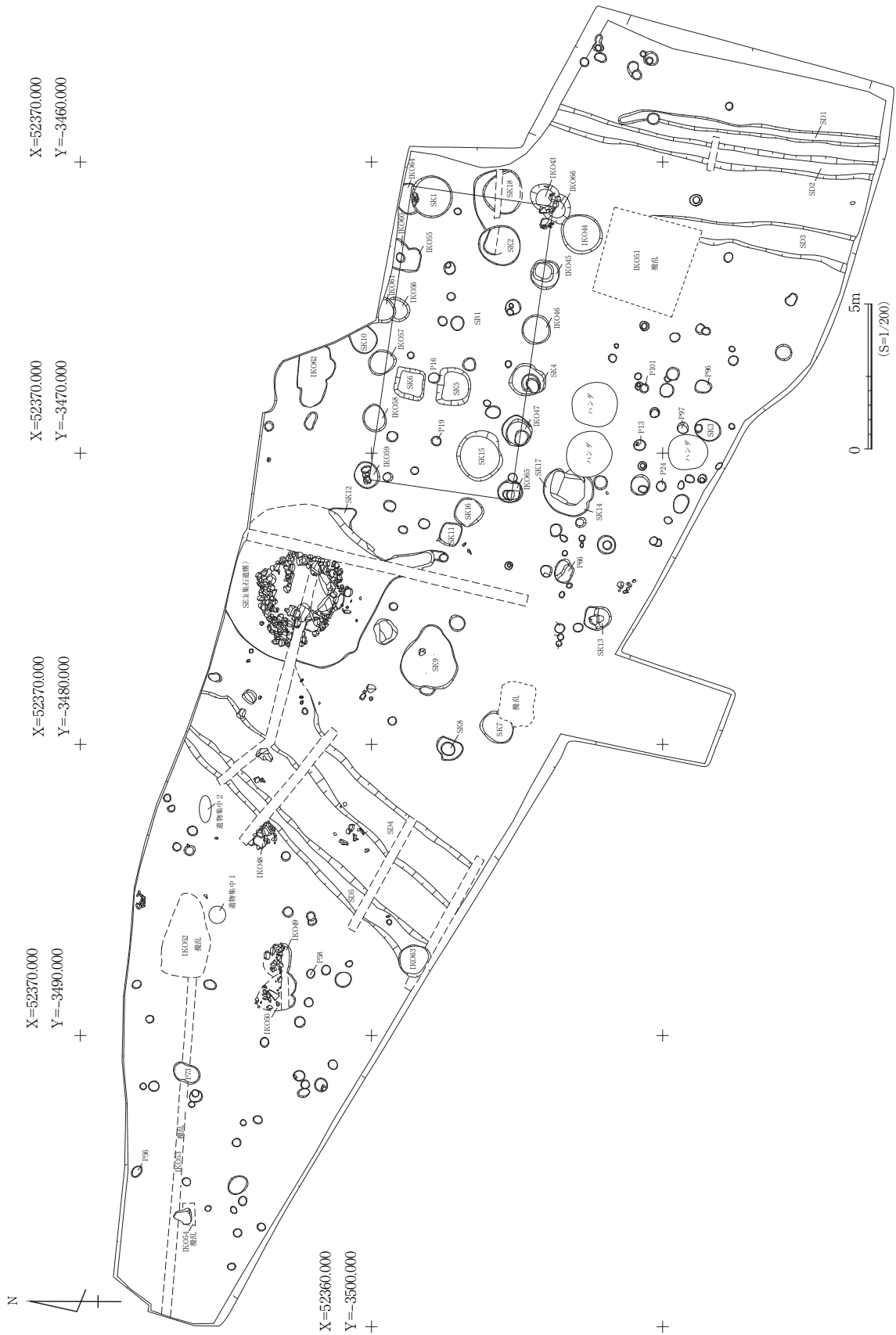


X=52365.523
Y=-3499.834



- 1 : 表土
- 2 : 淡灰褐色砂質土
- 3 : 灰褐色粘砂土(砂粒多く含む ホ1-1)
- 3' : 暗灰褐色粘質土(灰褐色混じる)
- 4 : 暗褐色粘質土(ホ1-2)
- 5 : 黒褐色粘土(ホ2)
- 6 : 黄褐色粘質土

3 - 2 図 基本層序



3-3図 上面遺構全体図

2. 検出遺構と遺物

(1) 上面の遺構と遺物

上面の遺構は掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、土坑18基、ピット142個、石列状遺構1ヶ所、溝跡5条、性格不明で近世以降の遺構の可能性の高いIKO43～66の24基、その他では、ハンダ土坑3基を検出した。この内、石列状遺構、IKO44、ハンダ土坑3基は最上層で検出したものである。最上層の検出標高は3.8～3.9m、上層の検出標高は3.3～3.6mで標高は西側に向かって下がっていく状態であった。上面検出遺構からは近現代から古代の遺物が混在して出土しており、遺構についても同様と考えられる。

IKO

遺構埋土などから近世以降の攪乱の可能性が高いと考えられる遺構についてIKOとしてIKO43～66までの遺構番号を付けた。IKO66は下面で確認したが上面に属する攪乱と判断したため確認したのみで掘削は行わなかった。IKO45～47・55～59・64～66はSB1の柱穴と確認できた。

遺構名	長径×短径×深さ 直径 (m)	平面形	断面形	出土遺物	時期	備考
IKO43	0.98 × (1.61)	円形	円筒		近現代	近現代井戸跡
IKO44	1.45 × 0.29	円形	-	土師器・瓦器・常滑		集石状に石入る 最上層検出 掘方有り、水溜状土坑を埋め戻しか
IKO45	1.03 × 0.76	円形	逆凸状	土師器・須恵器・瓦器・近世陶磁器	近世以降	SB1 上面石入る 柱痕状部分有り
IKO46	1.06 × 0.84	円形	箱形	土師器・瓦器・近世以降の陶磁器	近世以降	SB1 石入る 樹皮 柱痕状部分有り
IKO47	1.0 × 1.03	不整形円形	逆凸状	土師器・青磁・近世陶磁器・土錘	近世以降	SB1 集石状に石入る 柱痕状部分有り
IKO48	1.0	円形	-	土師器・須恵器・黒色土器B類・緑釉陶器		黒色土器B類搬入か 集石状に石入る 断面では掘方無く浅い
IKO49	0.99 × 0.97 × 0.2	楕円形	-	土師器・須恵器		集石状に石入る 掘方無く集石に伴う土攪乱状で浅い
IKO50	1.53 × 1.32 × 0.06	不整形	-	土師器・須恵器		集石状に石入る 掘方無く集石に伴う土攪乱状で浅い
IKO51	-	-	-		近現代	試掘確認坑 攪乱坑
IKO52	-	-	-		近現代	攪乱坑
IKO53	-	-	-		近現代	暗渠攪乱坑 暗渠
IKO54	-	-	-			石入る 下P3の上層の可能性
IKO55	0.85 × (0.43) × 0.4	隅丸方形	箱形			SB1 IKO60に切られる 石入る 樹皮入る
IKO56	0.85 × (0.5) × 0.39	楕円形	箱形	土師器・須恵器		SB1 IKO61に切られる 石入る 樹皮 柱痕有り
IKO57	0.95 × 0.82 × 0.65	楕円形	箱形	土師器・須恵器		SB1 樹皮 柱痕状部分 石入る 樹皮入る
IKO58	0.98 × 0.78 × 0.71	楕円形	箱形	土師器・須恵器・妬器		SB1 柱痕状部分痕跡か、樹皮入る
IKO59	0.96 × 0.85 × 0.53	楕円形	箱形	土師器・須恵器		SB1 柱痕状部分有り 樹皮 柱痕状部分に石入る
IKO60	1.0 × (0.49) × 0.44 (柱痕0.63)	円形	逆凸状	土師器		IKO55を切る SB1に伴う可能性 柱痕状部分 石入る
IKO61	0.88 × (0.55) × 0.83	円形	箱形			IKO56を切る SB1に伴う可能性
IKO62	1.50 × 1.33 × 0.22	円形	箱形			
IKO63	1.07 × 0.9	円形	箱形			SD5を切る 埋土は灰色土に黄色土混じる攪乱状
IKO64	1.07 × 0.07	円形	箱形	土師器		播磨型土師質釜 SK1に切られる 攪乱状埋土
IKO65	0.88 × 0.36 × (柱痕0.41)	円形	逆凸状	土師器・須恵器		柱痕状部分 石入る
IKO66	0.95 × 0.85 × 0.83	不整形	箱形			下面から移動

表3-1 IKO一覧表

掘立柱建物跡(SB)

掘立柱建物跡は1棟のみを検出した。SB1は調査区北東部で検出した遺構で下面で検出した下SD1と重複しており、下SD1埋没後に建てられている。棟方向はN-82°-Wである。梁行1間×桁行5間で柱間寸法は梁行が約5.0m、桁行が約1.8～1.9mを測る。建物規模は5.0m×9.7mで建物面積は約48.5㎡である。

SB1の柱穴はIKO45～47・55～59・64～66・SK4である。その他IKO61がIKO56・60がIKO55と切り合うが一体のもの可能性が高い。何れも直径約1.0m、深さ0.4～0.8mと規模の大きな柱穴である。また、直径25～30cmの柱痕と考えられる部分が残存している柱穴が10基あった。遺構埋土は全て埋め戻しと考えられ、黄褐色土、黒灰色土などが斑状に入る土であった。埋土中からは人頭大の砂岩が全ての柱穴から出土し、IKO47は検出面で集石状になっていた。またIKO59は柱痕状に残った樹皮の内側に石を入れた状態であった。柱穴の埋土中からの遺物では土師器、瓦器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、常滑焼などが出土し、IKO45・46からは近世以降の陶磁器が1点ずつではあるが出土している。いずれも出土量は少なく細片のみで図示できる遺物はなかった。また全ての柱穴中からは樹皮が出土しており柱のものと考えられるが、木質は残っていなかった。この樹皮についてはIKO56・58・59についてパリノ・サーヴェイ株式会社によって放射性炭素による年代測定を実施しており、いずれも江戸時代から近現代の数値を示し「現代に近い過去のもの」との結果がでている。

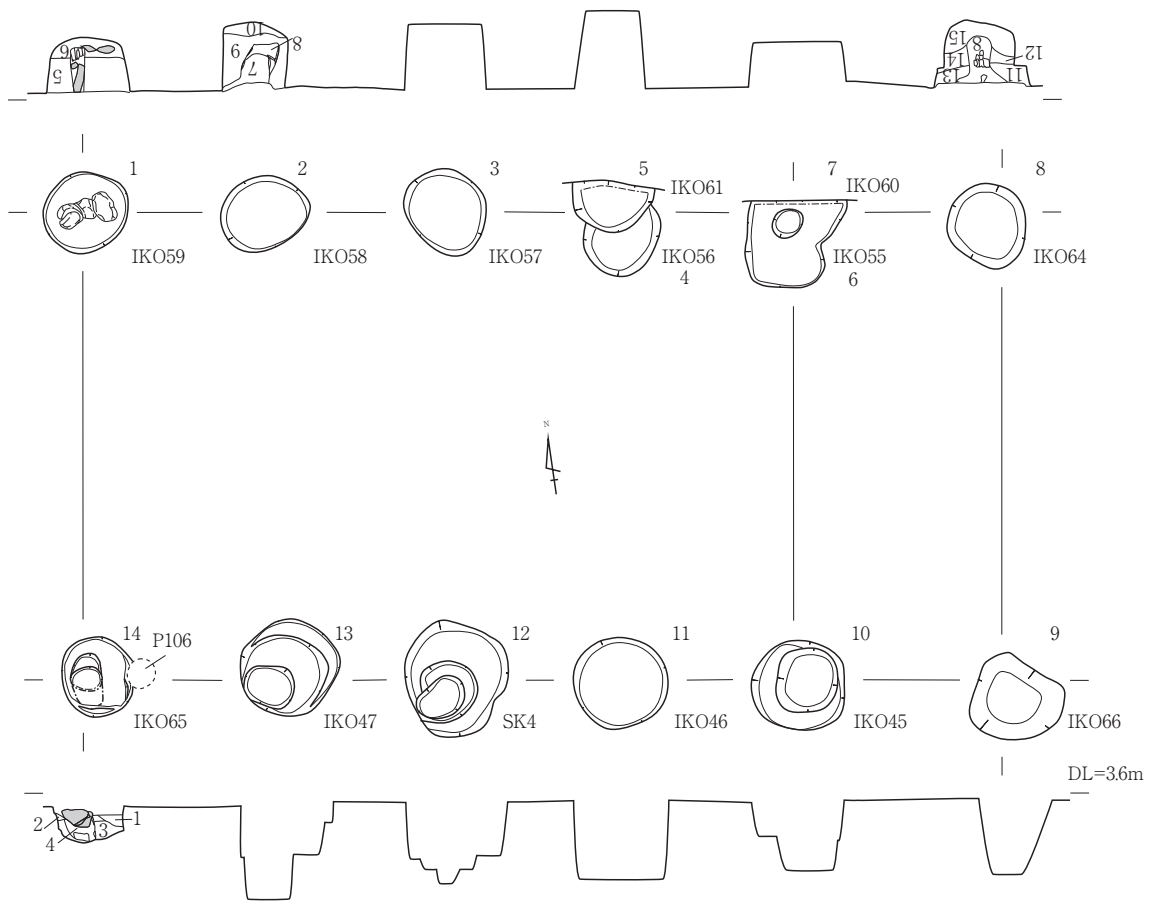
これらのことから、SB1は近世以降近現代の可能性が高い遺構と判断され、掘立柱建物で、大きな柱を使用しているが樹皮を残すなど粗雑な造りから倉庫などの住居以外の建物の可能性が考えられる。

遺構名	梁行×桁行(間×間)	梁行×桁行(m×m)	棟方向
SB1	1×5	5.0×9.7	N-82°-W

表3-2 掘立柱建物跡計測表

柱穴番号	遺構名	長径×短径×深さ 直径(m)	平面形	断面形	柱痕	出土遺物	時期	備考
1	IKO59	0.96×0.85×0.53	楕円形	箱形	有り	土師器・須恵器	現代に近い時期	C14年代分析 樹皮。柱痕状部分に石入る。
2	IKO58	0.98×0.78×0.71	楕円形	箱形	有り	土師器・須恵器・妬器	現代に近い時期	C14年代分析 柱痕状部分痕跡か? 樹皮入る。
3	IKO57	0.95×0.82×0.65	楕円形	箱形	有り	土師器・須恵器		柱痕状部分。石入る。樹皮入る。
4	IKO56	0.85×(0.5)×0.39	楕円形	箱形	有り	土師器・須恵器	現代に近い時期	C14年代分析 IKO61に切られる。石入る。
5	IKO61	0.88×(0.55)×0.83	円形	箱形				IKO55を切るIKO56と一体か?
6	IKO55	0.85×(0.43)×0.4	隅丸方形	箱形				IKO60に切られる。石入る。樹皮。
7	IKO60	1.0×(0.49)×0.44 (柱痕0.63)	円形	逆凸状	有り			IKO55を切る。IKO55と一体か? 石入る。
8	IKO64	1.07×0.07	円形	箱形		土師器		播磨型土師質釜。SK1に切られる。攪乱状埋土。
9	IKO66	0.95×0.85×0.83	不整形	箱形				
10	IKO45	1.03×0.76	円形	逆凸状	有り	土師器・須恵器・瓦器・近世陶磁器	近世以降	上面石入る。
11	IKO46	1.06×0.84	円形	箱形	有り	土師器・瓦器・近世以降陶磁器	近世以降	石入る。樹皮。
12	SK4	1.21×1.11×0.88	楕円形	逆凸状	有り	土師器・瓦質土器・青磁		石入る。
13	IKO47	1.0×1.03	不整形円形	逆凸状	有り	土師器・青磁・近世陶磁器・土錘	近世以降	集石状に石入る。
14	IKO65	0.88×0.36×(柱痕0.41)	円形	逆凸状	有り	土師器・須恵器		石入る。

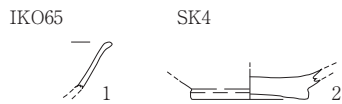
表3-3 SB1柱穴計測表



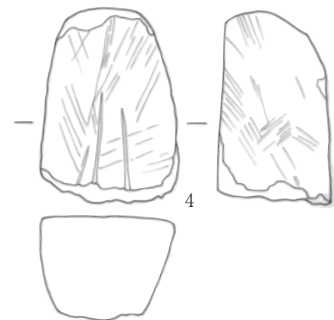
SB1

- 1: 灰白色砂質土(鉄分多く含む)
- 2: 灰白色粘砂土
- 3: 青灰色粘土(少し黒灰色ブロック混じる)
- 4: 灰褐色粘質土
- 5: 褐色土(黄褐色ブロック混じる)
- 6: 暗灰色粘土
- 7: 褐色粘土
- 8: 灰色粘土
- 9: 灰色粘土(緑色ブロック混じる)
- 10: 緑色粘土(地山可能性)
- 11: 暗灰色粘土(緑灰色混じる)
- 12: 緑灰色粘土
- 13: 緑灰色土(灰色粘土混じる)
- 14: 暗灰色粘土(緑灰色粘土混じる)
- 15: 黒灰色粘土(緑灰色粘土混じる)

0 2m
(S= 1/80)



IKO44



0 10cm
(土器 S= 1/4)

0 10cm

3 - 4 図 上面 SB1

ハンダ土坑

ハンダ土坑は最上面で3基検出しており、現況表土直下で検出した。SK14に伴う大きな石の側面にハンダが塗られており、宅地もしくはそれ以前の農地の地表面から掘り込まれたもので、それに伴うものと考えられ、近世後期から近現代の時期のものである。

土坑(SK)

上面で検出した土坑は18基で調査区東側、SD4より東に分布している。SK1は近現代で、SK2・9・12は近世と考えられる。またSK4はSB1の柱穴と確認した。SK14は直径約1mの大きな石が入っており石に伴う土坑と考えられ、隣接するSK17はSK14と同一土坑の可能性が高い。土坑を多く検出した調査区東側は調査前宅地で建物が建っていたため一部検出面がグライ化した部分があり不安定な土壌であった。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK1	1.43 × 1.40 × 0.24	円形	箱形	N - 50° - W		近現代瓦	近現代	
SK2	1.45 × 1.35 × 0.32	楕円形	-	N - 11° - E		近世陶磁器	近世	
SK3	0.93 × 0.71 × 0.18	楕円形	皿状	N - 22° - E		土師器・瓦質土器・ 須恵器・土鍾		
SK4	1.21 × 1.11 × 0.88	楕円形	逆凸状	N - 12° - E		土師器・瓦質土器・ 青磁・緑釉陶器		SB1 柱穴
SK5	1.30 × 1.15 × 0.34	方形	逆台形	N - 84° - W		土師器・須恵器		
SK6	1.05 × 1.00 × 0.65	方形	逆台形	N - 7° - E		土師器・須恵器		
SK7	1.15 × (0.82) × 0.31	楕円形	箱形	N - 41° - W		土師器・須恵器・土鍾・ 緑釉陶器		
SK8	0.92 × 0.77 × 0.19	楕円形	逆凸状	N - 40° - W		土師器・須恵器		
SK9	2.20 × 1.95 × 0.53	不整形	箱形	N - 68° - E		土師器・須恵器・天目・ 近世陶磁器 (銅緑釉)	近世	
SK10	(0.81) × 0.90 × 0.39	-	箱形	N - 65° - E		土師器		円形の可能性
SK11	0.83 × 0.72 × 0.54	正方形	箱形	N - 73° - E		土師器・須恵器・瓦質 土器		
SK12	(0.55) × 0.70 × 0.03	-	皿状	-		須恵器	近世	
SK13	0.92 × 0.82 × 0.22 0.92 × 0.82 × 0.42	楕円形	-	N - 5° - E		土師器・瓦器・青磁・ 土鍾		播磨型土師質羽釜
SK14	1.75 × (1.41) × 0.21	-	-	-		土師器		SK17 と一体
SK15	1.70 × 1.59 × 1.08	円形	箱形	N - 77° - W		土師器・瓦器・須恵器・ 青磁・土鍾		
SK16	0.97 × 0.93 × 0.31	隅丸方形	箱形	N - 58° - W		土師器・須恵器・弥生		
SK17	1.75 × (1.41) × 0.17	-	-	-		土師器・弥生		SK14 と一体
SK18	1.50 × 1.33 × 0.20	不整形	皿状	N - 60° - W		土師器・青磁		

表 3 - 4 上面土坑一覧表

SK5

SK5は調査区東部で検出した土坑でSK6と隣接しP16と重複している。平面形は方形で長軸約1.30 m、短軸約1.15 m、深さ約34cmを測り、断面形は逆台形である。埋土は1層が黄褐灰色粘砂土、2層は黄灰色粘質土、3層は暗褐灰色粘質土、4層は黄褐色に褐灰色混じる粘質土である。埋土中からは土師器、須恵器が出土しているが細片が多く図示できたものは5の土師器皿のみである。5は底部には切り離し痕が残存していない。

SK6

SK6は調査区東部で検出した土坑でSK5と隣接している。平面形は方形で長軸約1.05 m、短軸約1.0 m、深さ約65cmを測り、断面形は逆台形である。埋土はSK5とほぼ同じで1層が黄褐灰色粘砂土、2層は黄灰色粘質土、3層は暗褐灰色粘質土、4層は黄褐色に褐灰色が混じる粘質土、5層は褐灰色に黄褐色ブロック状に混じる粘質土である。埋土中からは土師器、須恵器が出土しているが図示できたものは6の須恵器杯のみである。

SK7

SK7は調査区中央部に位置する楕円形の土坑で東側を攪乱土坑に切られている。長軸約1.15 m、短軸約0.82 m、深さ約31cmを測り、断面形は箱形である。埋土は1層のみで黄褐色粘質土に褐色ブロックが入る。埋土中からは土師器、須恵器、緑釉陶器、土錘が出土している。図示できた遺物は7の瓦器皿、8・9の緑釉陶器である。8は胎土軟陶で淡い緑色釉を薄く施釉、9は胎土硬陶で淡い緑色釉を薄く施釉しており、両方とも京都産の可能性が高いと考えられる。

SK8

SK8は調査区中央部に位置し上面で検出した土坑では最も西側で検出した土坑である。平面形は不整形な楕円形で中央部にピットを伴う。土坑の長軸は約0.92 m、短軸約0.77 m、深さ19cmを測る。ピットは直径約0.48 mで深さ約13cmを測る。検出埋土は灰黄褐色粘質土である。埋土中からは土師器、須恵器が出土している。図示できたのは10の土師器羽釜のみである。

SK9

SK9は調査区中央部に位置する不整形な土坑である。長軸約2.2 m、短軸約1.95 m、深さ53cmを測り、断面形は箱形であった。検出埋土はグライ化しており暗青灰色粘土で他の遺構とは異なっていた。グライ化は検出面から50cm以上しており床面の確認が困難であった。不整形な形態であるためグライ斑の可能性も考えられたが輪郭が明瞭であること、壁がしっかりしていることから土坑と判断した。土師器、須恵器、天目茶碗等とともに銅緑釉が施釉された近世陶磁器が出土しており近世の土坑と考えられる。

SK11

SK11は調査区中央部に位置しSK16と隣接している。平面形は方形で規模は長軸約0.83 m、短軸約0.72 m、深さ約54cmを測る。断面は箱形を呈し、埋土は1層は浅黄色粘質土に灰色土が混じる土、2層は褐色粘質土、3層は黒褐色粘質土、4層は黄褐色に褐色混じる粘質土であった。埋土中からは円盤状高台土師器、瓦質土器、須恵器壺が出土しているが、いずれも出土量は少なく細片のみの出土で図示できる遺物は無かった。

SK13

SK13は調査区中央部南側に位置している。平面形は楕円形で床面は二段に落ちている。落ち口

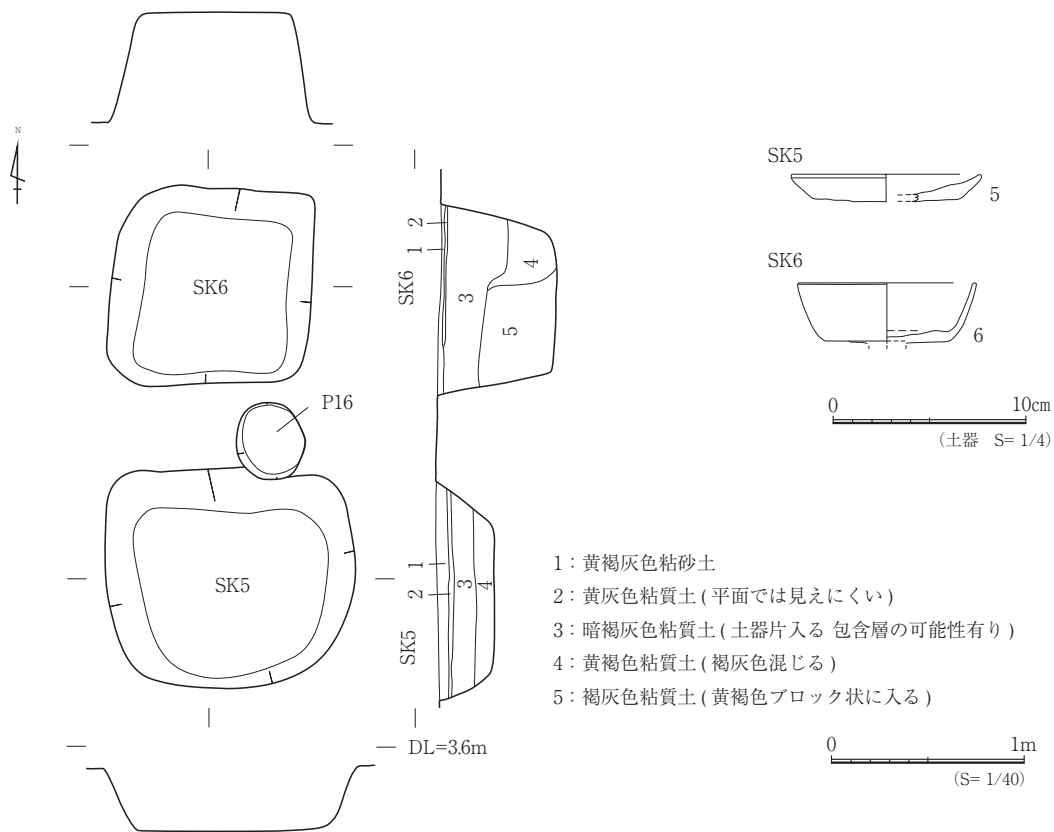
には幅 25cm程の石が 2 個入っていた。規模は長軸約 0.92 m、短軸約 0.82 m、深さ約 22cmと 42cmを測る。検出埋土は灰黄褐色粘質土で埋土中からは瓦器、播磨型土師質羽釜、青磁、土錘が出土しているが、いずれも細片のみの出土で図示できる遺物は無かった。中世の遺構の可能性が考えられる。

SK15

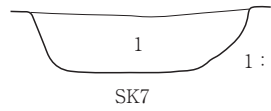
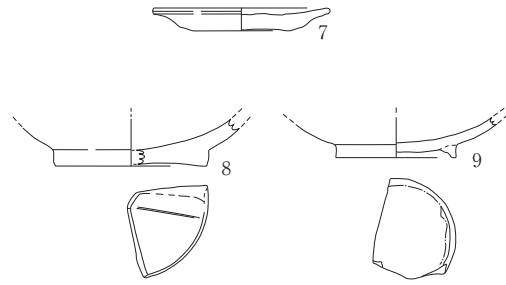
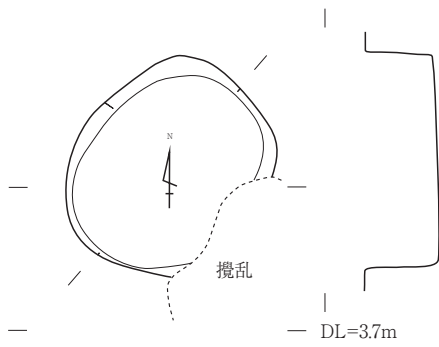
SK15は調査区中央部に位置している。平面形は不整形な円形で規模は長軸約 1.70 m、短軸約 1.59 m、深さ約 108cmを測る。断面は箱形を呈し、埋土は黄褐色灰色粘質土がグライ化した土である。埋土中からは土師器、瓦器、須恵器、青磁、土錘が出土している。図示できた遺物は 11 の土師器小杯、12 の土師器羽釜のみである。埋土がグライ化し不整形な土坑であるため近世以降の時期と考えたが遺物はいずれも古代～古代末の時期である。

SK16

SK16は調査区中央部に位置し SK11 と隣接している。平面形は隅丸方形で規模は長軸約 0.97 m、短軸約 0.93 m、深さ約 31cmを測る。断面は箱形を呈し、埋土は 1 層で暗灰色粘土である。埋土中からは土師器、須恵器、弥生土器が出土している。図示できる遺物は無かった。

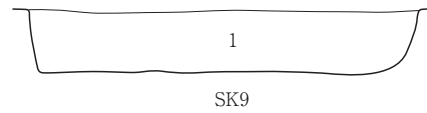
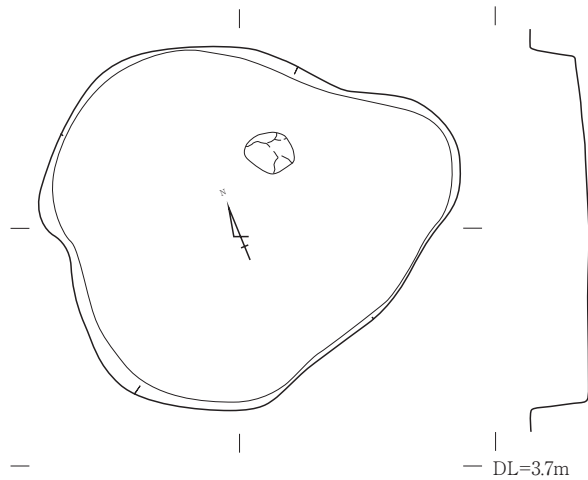
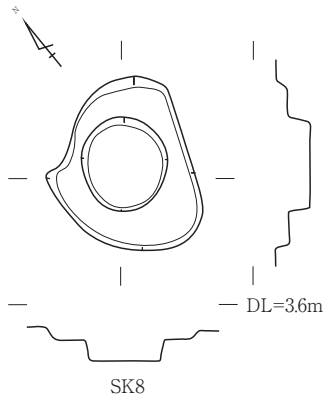


3-5 図 SK5・6



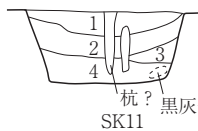
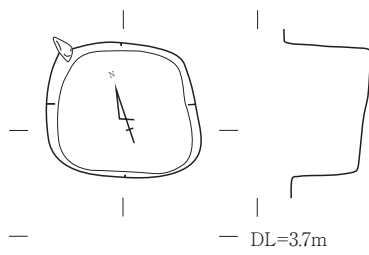
1: 黄褐色粘質土 (褐色土ブロック入る)

SK7



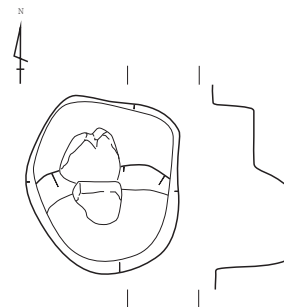
1: 暗青灰色粘土 (土器片入る)

SK9

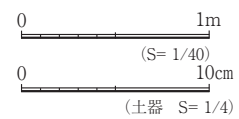


- 1: 浅黄色粘質土 (灰色土混じる)
- 2: 褐色粘質土
- 3: 黒褐色粘質土
- 4: 黄褐色粘質土 (褐色土混じる)

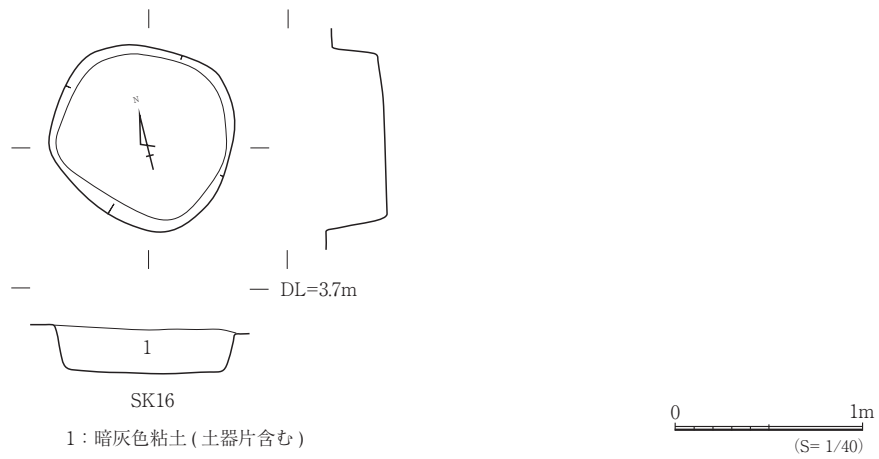
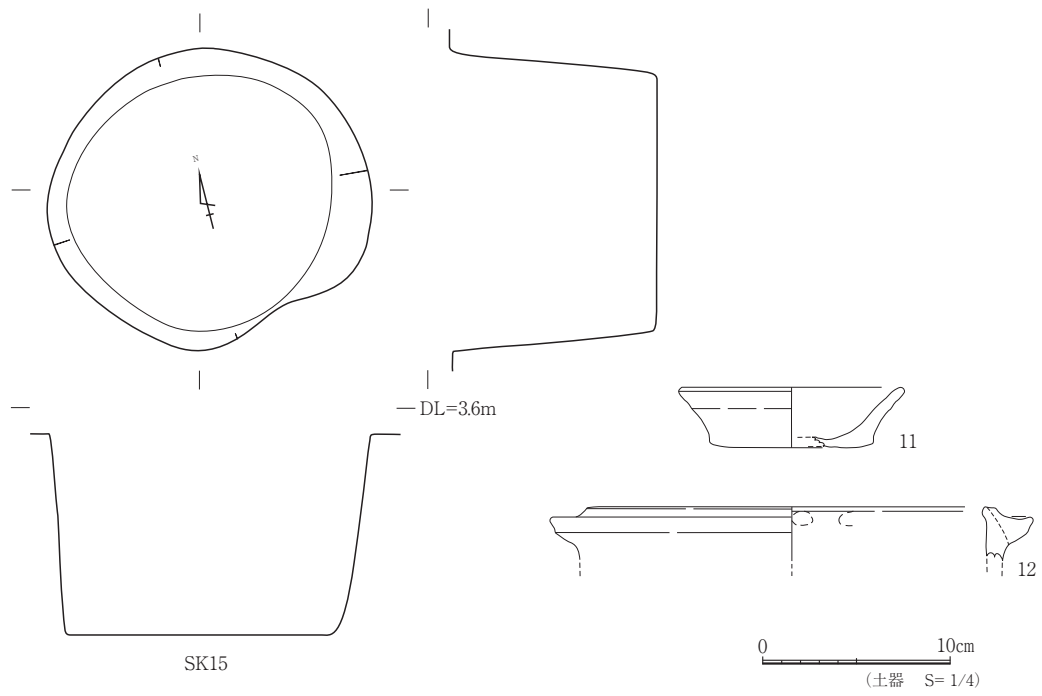
SK11



SK13 DL=3.6m



3-6図 SK7~9・11・13



3-7 図 SK15・16

溝跡(SD)

溝跡は5条検出している。SD1～3は調査区東部で隣接しておりSD1・2は重複している。SD4・5は調査区中央部に位置し約1.3mの間隔で並行している。溝跡の方向はいずれも南北方向である。

遺構名	長さ×幅×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SD1	9.05 × 0.79 × 0.07	直線状	皿状	N - 8° - E		土師質土器・瓦質土器・白磁・青磁		
SD2	11.0 × 0.87 × 0.16	直線状	皿状	N - 11° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・青磁・土錘		
SD3	6.95 × 1.13 × 0.11	直線状	皿状	N - 6° - E		土師質土器・須恵器・瓦器・備前焼		
SD4	11.30 × 1.54 × 0.22	直線状	皿状	N - 41° - E		須恵器・黒色土器・緑釉陶器・土師質土器・土師器		
SD5	11.0 × 0.91 × 0.31	直線状	舟底状	N - 45° - E		須恵器・土師器・黒色土器・土錘		

表3-5 上面溝跡一覧表

SD1～3

SD1～3は調査区東部で検出した溝跡である。溝跡の方向は南北方向で他調査区への延長は確認できなかった。SD1・2は北側で重複しており、最上面の石列がほぼ重複している。SD3は北側を試掘坑の攪乱によって切られている。溝跡の深さは7～16cmで浅く断面形は皿状である。埋土は何れも灰色土でSD1からは土師質土器、瓦質土器、白磁、青磁、SD2からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、青磁、土錘、SD3からは土師質土器、瓦器、須恵器、備前焼が出土しているが図示できたのはSD1出土の13の口禿げ口縁白磁皿と14の青磁碗のみである。14世紀以降と考えられる。

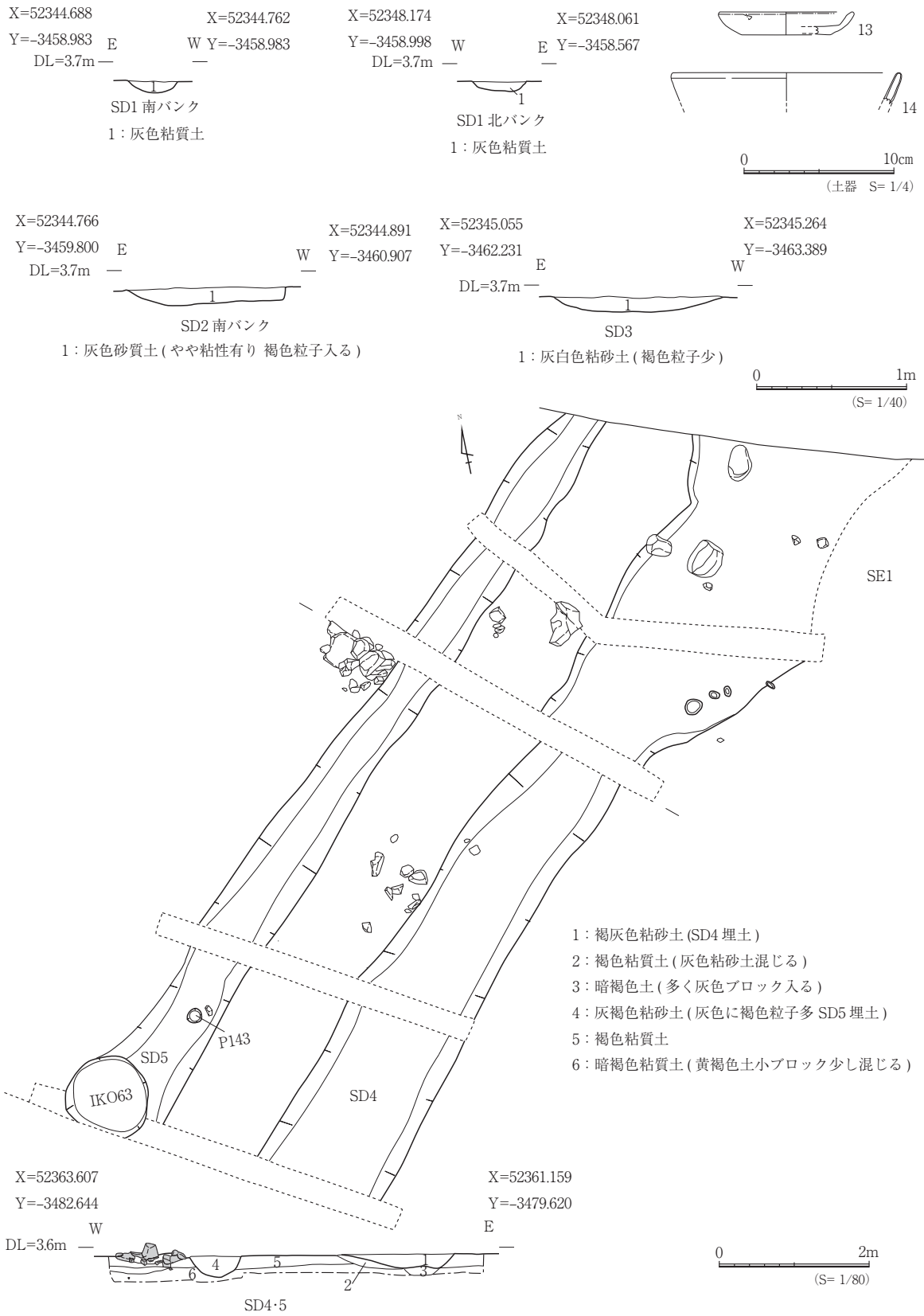
SD4

SD4は調査区中央部で検出した溝跡である。西側のSD5と約1.3mの間隔で並行しており、北側では東に向かって開くが東側肩部はSE1に切られている。検出長は約12mで調査区をほぼ南北に縦断している。上端幅は南側では約1.7m、北側トレンチ設定部分では東側をSE1に切られており残存幅は約3mである。溝跡の深さは22cm、断面形はレンズ状で、埋土は1層は褐灰色粘砂土、2層は褐色粘質土に褐灰色砂質土が混じる土である。3層は基盤層が溝跡によって変化したものと考えられる。埋土中からは土師器、土師質土器、須恵器、黒色土器A類、緑釉陶器など多くの遺物が出土している。15～19は土師器杯で、いずれも回転糸切り痕はみられず16は回転ヘラ切り痕が残る。20は土師器碗で在地産の可能性が高い。22は黒色土器A類碗で胎土に雲母が多く入り畿内産の搬入品と考えられる。23・24は緑釉陶器碗で胎土は硬陶で薄く施釉され京都産の可能性が考えられる。おおむね10世紀を中心とした時期の可能性が考えられる。SD4は南側の1～7北区では検出できなかったが1～5・7区では軸方向は異なるが延長部分の可能性が高い溝跡を検出しており総検出長は約74mを超え、更に南に続いていると考えられる。

SD5

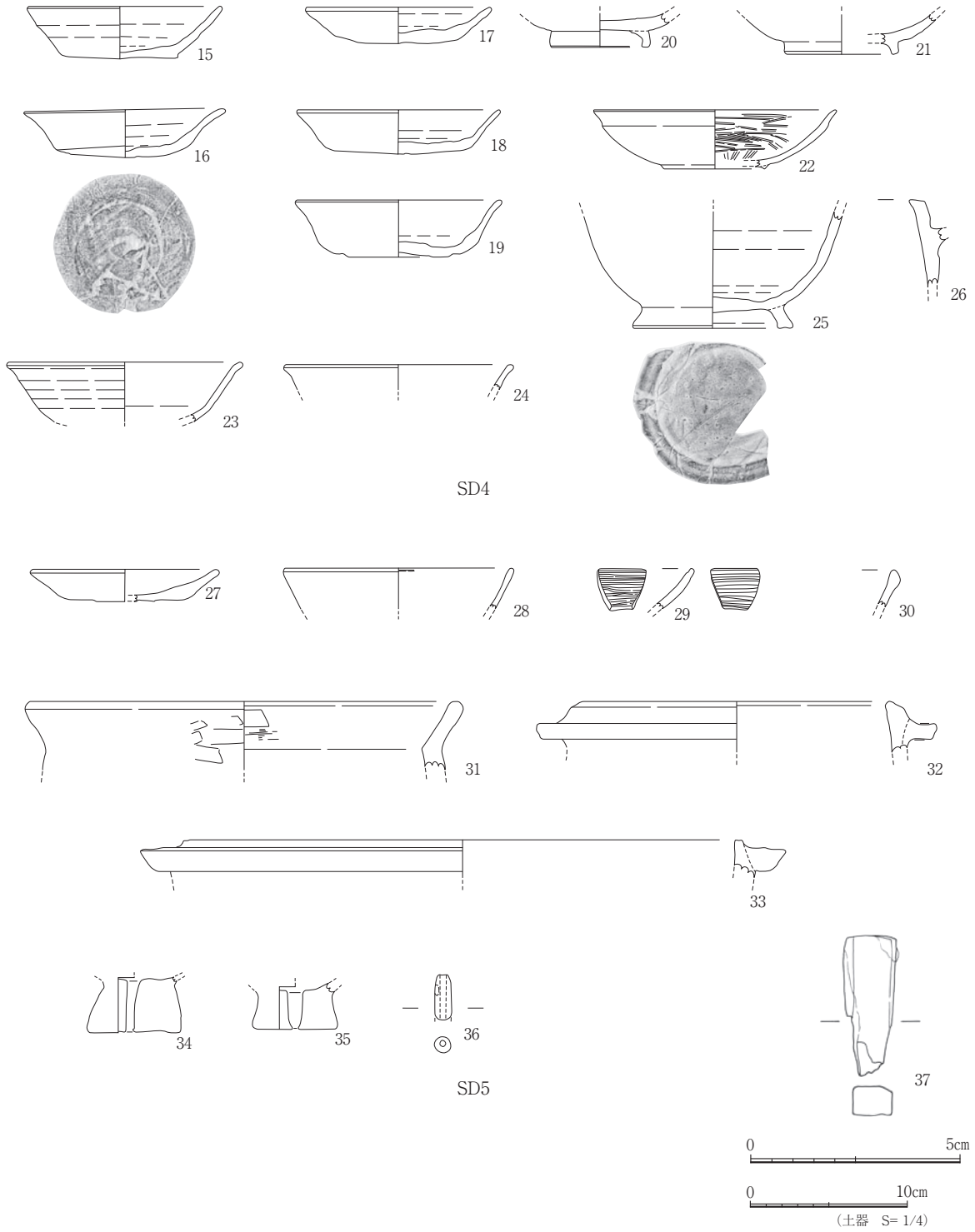
SD5は調査区中央部で検出した溝跡である。南端部でIKO63と重複している。東側のSD4とは約1.3mの間隔で並行している。調査区を南北に縦断しており検出長は11.0mである。上端幅は0.9mで深さは約30cmを測る。遺構の断面形は舟形で遺構埋土は灰褐色(灰色に褐色粒子が多く混じる)粘砂土である。

埋土中からは土師器、須恵器、黒色土器、土錘などが出土している。29は黒色土器B類碗の口縁で、口縁端部内面には沈線状の段がみられる。32・33は撰津型の羽釜で搬入の可能性が考えられる。34・35は円柱状高台で底部には切り離し痕が残らず、中央部に焼成前穿孔が施されるもので



3-8 図 SD1~5

上部には小皿が付き燭台状になると考えられる。SD4 とは時期差は無いものと考えられる。延長も SD4 と同様に 1 - 7 北区では検出できなかったが 1 - 5・7 区では延長部分の可能性が高い溝跡を検出しており、総検出長は約 74 m を超え、更に南に続いていると考えられる。



3 - 9 図 SD4・5 出土遺物

井戸跡(SE)

井戸跡は1基を確認している。SE1は調査区中央部で検出した遺構で上層表土直下は攪乱状になっていた。他の遺構との関係では、SB1と隣接しており、SD4を切っている。

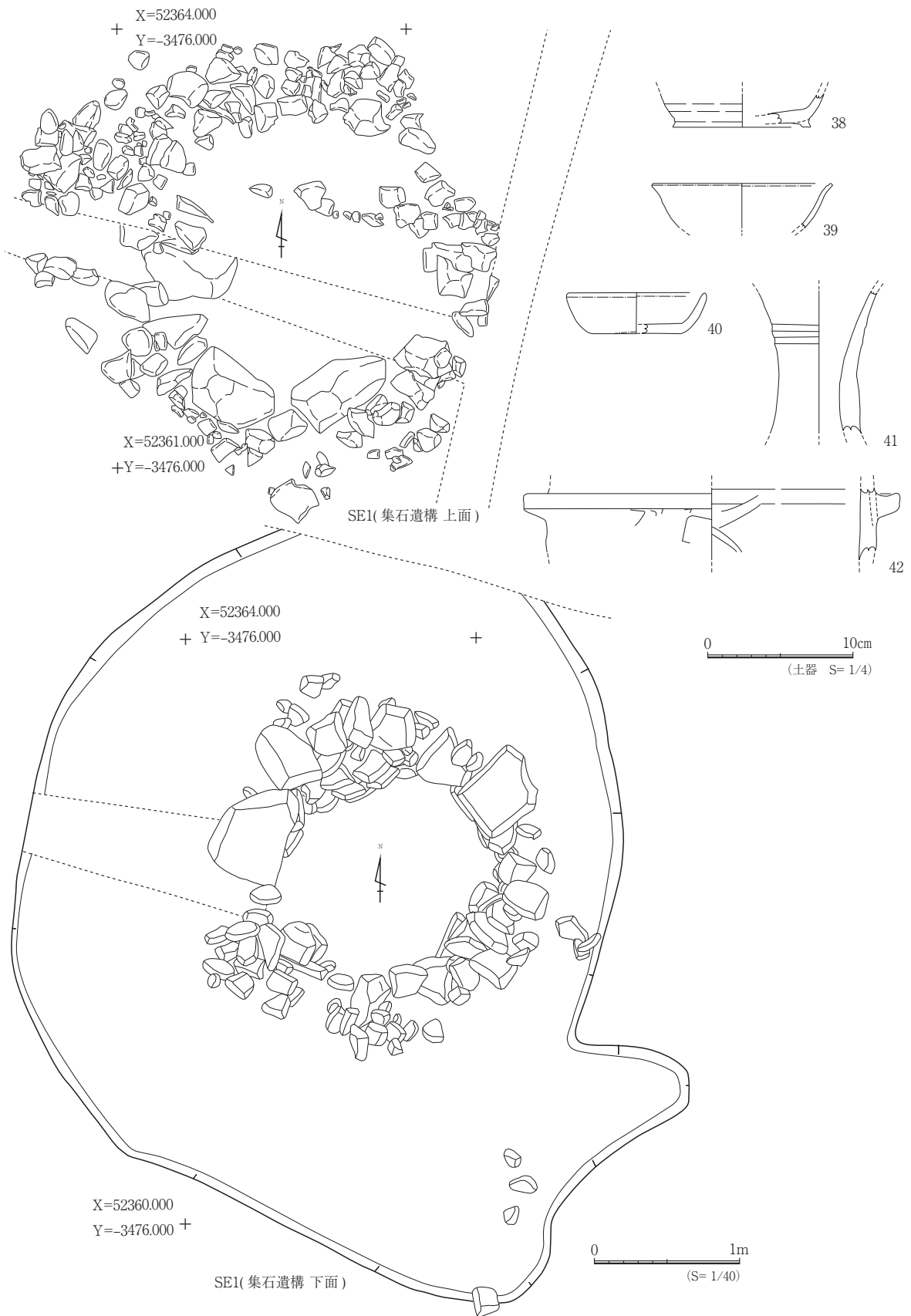
直径約5.5mの不整形な円形プランの中央部に白色砂岩が環状になっている状態で検出したため、当初、集石遺構としたがトレンチ確認を行ったところ、環状部分中央部分が深くなっており井戸跡であることを確認した。上層の集石状の石を除去すると内側に面を持つ石組み井戸枠が確認できた。

井戸枠は内径約1.50mを測る。石組みは石材の大きさは最も大きなものは67×48cmであるが、多くが20×30cm程度のものであり大きな石材は裏込めはみられないが比較的小さな石では二石から三石の裏込め状の控えがみられる。井戸枠内側の掘削を試みたが内径の規模に比べて石組の石材が小さなものが多いことと、積み上げが粗雑なため崩落の危険性が高く人力による完掘を断念した。下層については重機による半截掘削を行い石積みは検出面より3.5m下まで存在し、その下に刳り抜き式の井筒があったことを確認した。

井戸枠内部や掘方埋土中からは土師器、瓦質土器、須恵器、黒色土器、炆器、白磁が出土しているが出土量は少なく細片のみ出土している。SE1の時期について遺物は古代～中世の時期を示すが、3-3区で検出した井戸跡と類似しており近世の可能性が高いと考えられる。

石列状遺構

石列状遺構は最上面の調査区東端部で検出した遺構である。南北方向約11.0m、幅約0.3mの石列による溝跡である。石材は白色の砂岩で長辺20～30cm、高さ15～25cm程のものである。溝内側に面を持つが、積み上げはみられず控え石もみられない規模の小さなものである。埋土中からの出土遺物は少ないが近世～近現代と考えられる陶磁器が出土している。調査前は宅地となっており、それに伴う可能性が考えられる。



3 - 10 図 SE1

ピット(P)

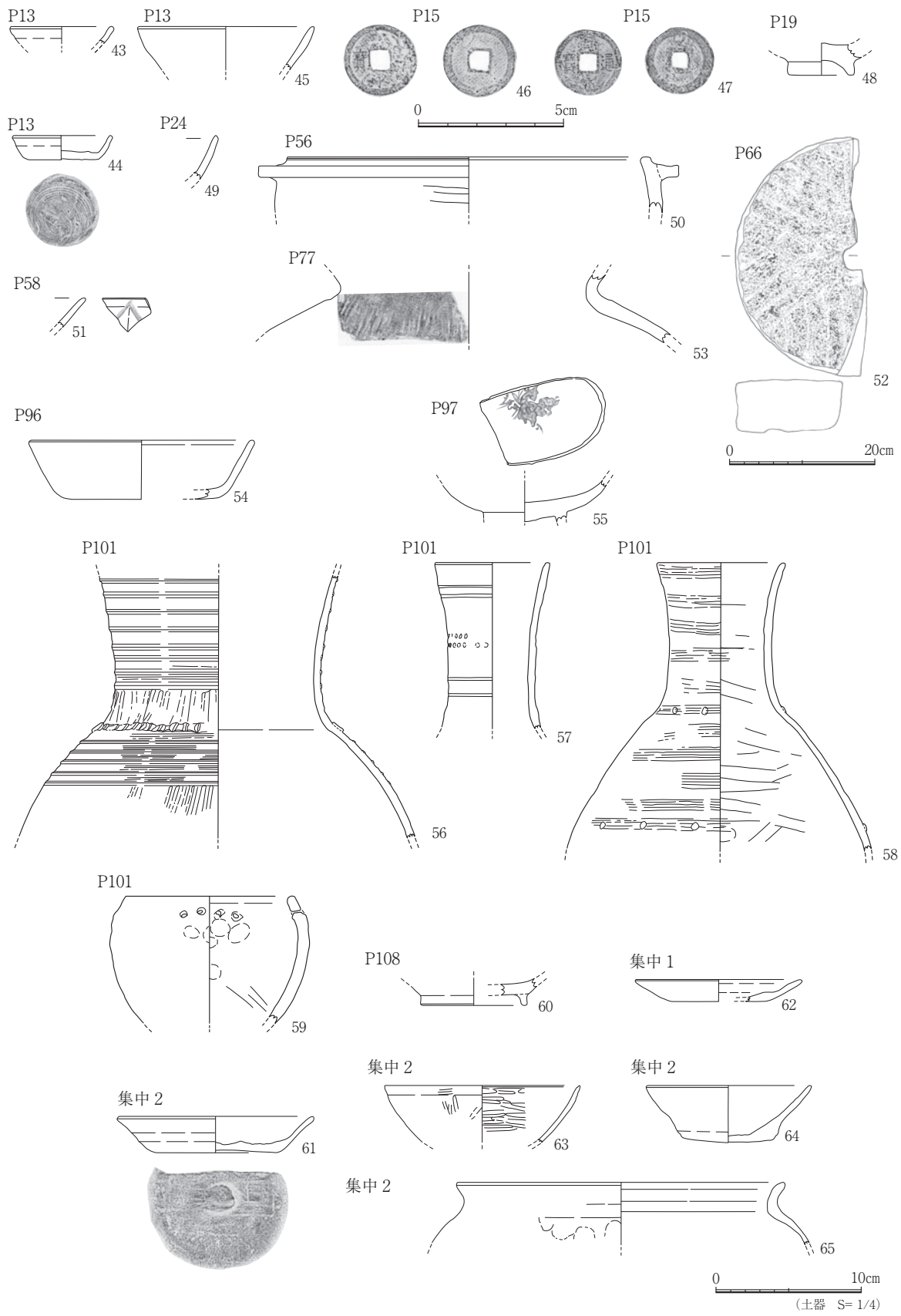
ピットは検出時 150 まで遺構番号を付け検出したが精査の結果、遺構と判断できなかったもの、重複したものがあためピットとして確認できたものは 142 個である。遺構分布は SD4・5 を挟んで東西に分布しており中央部は少ない。ピットの検出埋土は灰色砂質土、灰色粘砂土、褐灰色粘質土、灰黄褐色粘質土、暗褐灰色粘質土の 5 種類を確認している。注目されるピットとして土鍾が 68 個出土した P73 と弥生土器壺が 3 個体出土した P101 を上げることができる。P73 は下面調査で下 SB1 の西北隅の柱穴と確認できた。

遺構名	平面形	長径×短径 直径 (cm)	深さ (cm)	埋土	図版No.	出土遺物	備考
P13	楕円形	43 × 37	10	灰黄褐色粘質土	43・44・45	土師器	
P15	円形	45	26	褐灰色粘質土	46・47	土師器・須恵器・銅銭	寛永通寶
P19	円形	37	20	褐灰色粘質土	48	土師器・白磁・青磁	
P24	円形	34	20	灰黄褐色粘質土	49	土師器・白磁	口禿げ口縁
P56	楕円形	45 × 33	31	褐灰色粘質土	50	土師器	P55 一体化
P58	不整楕円形	30	20	灰黄褐色粘質土	51	土師器・青磁	
P66	楕円形	83 × 64	79	灰色粘砂土	52	土師器・瓦器・須恵器・石臼	埋土埋め戻し状
P73	楕円形	94 × 65	54	褐灰色粘質土	72 ~ 125	黒色土器 A 類・土師器甕・土鍾	土鍾 68 個体 下 SB1 柱穴 下 P8 で記載
P77	楕円形	75 × 58		褐灰色粘質土	53	土師器・須恵器	
P96	楕円形	58 × 47	58	灰黄褐色粘質土	54	土師器・須恵器	P95 と一体化
P97	円形	49	6	褐灰色粘質土	55	土師器・青磁	
P101	円形	29	20	灰黄褐色粘質土	56 ~ 59	弥生土器壺 3 個体・弥生土器鉢	
P108	楕円形	30 × 20	18	灰黄褐色粘質土	60	黒色土器 A 類	下 SK16 と同一

表 3-6 上面図版掲載遺物出土ピット計測表

遺物集中

遺物が集中する箇所を 2ヶ所確認し、遺物集中 1・2 とした。いずれも掘方は確認できなかった。



3-11 図 上面ピット・遺物集中出土遺物

(2) 下面の遺構と遺物

下面の遺構は掘立柱建物跡3棟（内1棟は柱穴列のみ）、土坑13基、ピット146個、溝跡12条、性格不明で近世以降の可能性が高い下IKO3基を検出した。下面遺構の検出標高は3.3～3.0mで上面と同じく検出標高は西側に向かって下がる状態であった。東側の検出標高約3.3m、西側での検出標高は約3.0mで6層とした黄褐色粘質土が基盤層となっている。下面検出遺構では中世、古代、弥生時代の遺物が出土しており遺構についても同様と考えられるが、明確に中世の可能性が高いと考えられ、遺構は下SD1のみが中世で、古代に属する遺構が中心と考えられる。

掘立柱建物跡(SB)

掘立柱建物跡は下SB1～3の3棟検出しており、下SB3は調査区西端部で柱穴列を1列のみ検出しているが柱穴の規模から掘立柱建物跡の可能性が高いと判断した。棟方向は下SB1は東西方向、下SB2は正方形に近い平面プランであるが棟方向は南北方向と考えられる。下SB3は不明であるが軸方向は南北方向である。

遺構名	梁行×桁行(間×間)	梁行×桁行(m×m)	桁方向
下SB1	2×3	3.7×5.3	N-88°-W
下SB2	2×2	3.3×3.5	N-10°-W
下SB3	2	3.5	N-1°-W

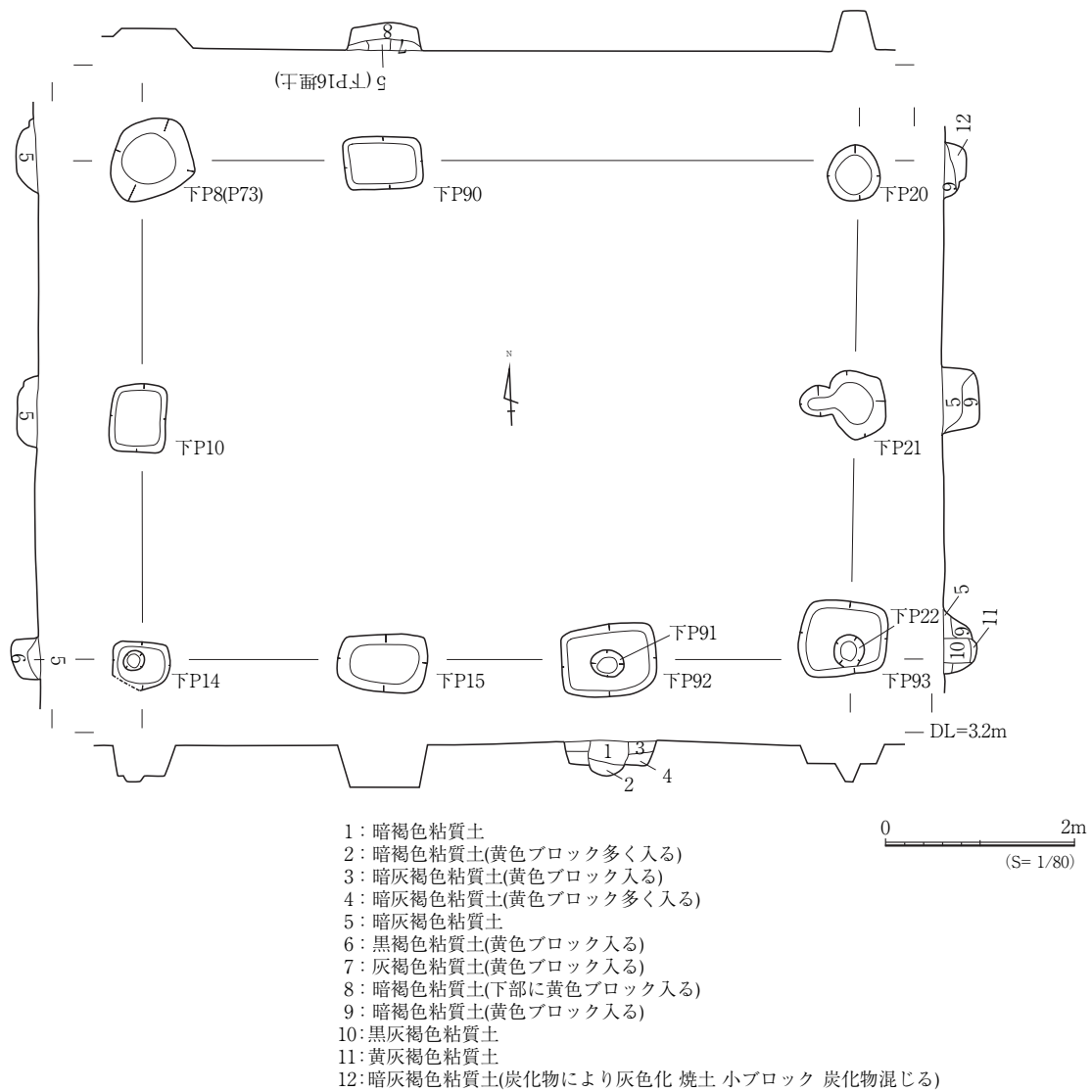
表3-7 下面掘立柱建物跡計測表

下SB1

下SB1は調査区西側で検出した遺構で梁行2間、桁行3間と考えられる建物跡である。建物の規模は3.7m×5.3m、面積は19.61㎡を復元することができ、棟方向はN-88°-Wである。柱穴は9個検出しており北側の1ヶ所は検出できなかった。

柱穴は下P20を除いて長方形の掘方で40～50cm×50～70cm、深さは15～30cmを測る。下P20は40×50cmの楕円形である。下P16・92・93は長方形でピットを切る状態で検出し別遺構名を付けたが、下P91・93は柱穴中の柱痕跡の可能性が高いと考えられる。北西隅の下P8は上面で検出したP73と同一であり上面で検出できた唯一の柱穴である。

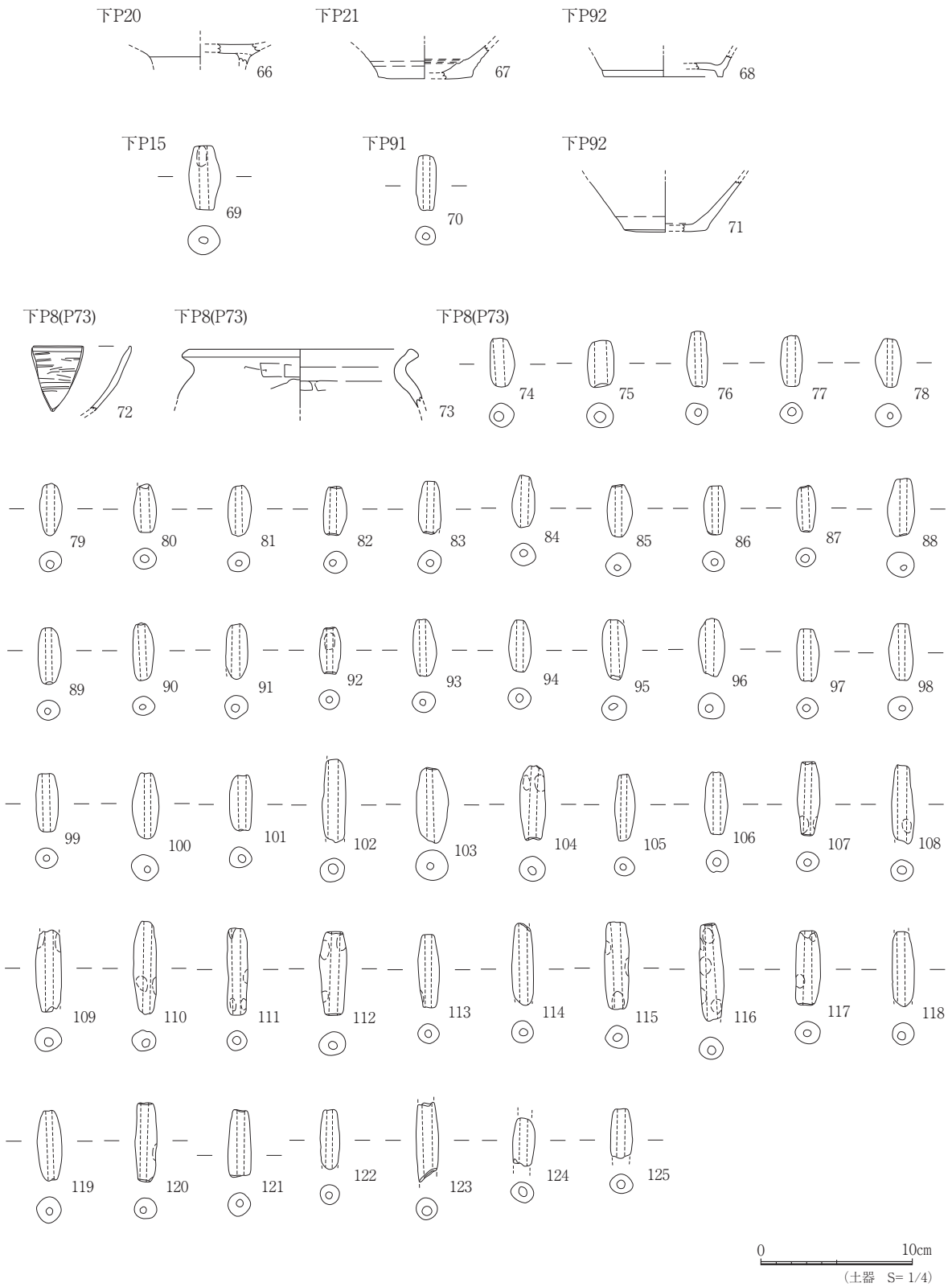
柱穴埋土は暗褐灰色粘質土を中心としたもので柱穴埋土中からは土師器、須恵器、黒色土器A類、土錘などが出土している。特に注目されるのはP73(下P8)で土錘が68個出土しており52個を図示した。また、72は黒色土器A類碗で搬入品の可能性が考えられる。下P20出土の66は同じく黒色土器A類碗であるが胎土中に雲母はほとんど入っていない。搬入品ではない可能性が考えられる。下SB1は柱穴掘方、出土遺物から古代に属する掘立柱建物跡と考えられる。



3-13 図 下SB1

遺構名	平面形	長径×短径	直径 (cm)	深さ (cm)	埋土	出土遺物	備考
下 P8	方形	90 × 80		24	灰色砂質土	土師器 黒色土器 A 類 土錘	P73
下 P90	方形	83 × 55		26	暗褐灰色土(暗い灰褐)	須恵器・土師器・黒色土器 A 類・土錘	
下 P20	楕円形	60 × 55		40	褐灰色粘質土	須恵器・土師器・黒色土器 A 類・土錘	
下 P21	不整形	90 × 75		42	褐灰色粘質土	須恵器・土師器・土錘	
下 P22	楕円形	(35) × 32		40	灰色砂質土	須恵器・土師器	
下 P93	方形	92 × 84		27	褐灰色粘質土	須恵器・土師器	
下 P91	楕円形	35 × 27		40	灰色砂質土	須恵器・土師器・土錘	
下 P92	方形	100 × 76		21	暗褐灰色土(暗い灰褐)	須恵器・古代甕・土師器	
下 P15	方形	95 × 60		44	灰色砂質土	須恵器・土師器・黒色土器 A 類・土錘	
下 P14	方形	60 × 50		33	灰色砂質土	須恵器・土師器・黒色土器 A 類・土錘	
柱痕	円形	20		38	灰色砂質土		
下 P10	方形	72 × 60		24	灰色砂質土	古代甕・土師器	

表 3-8 下SB1 柱穴計測表



3 - 14 図 下SB1 柱穴出土遺物

下SB2

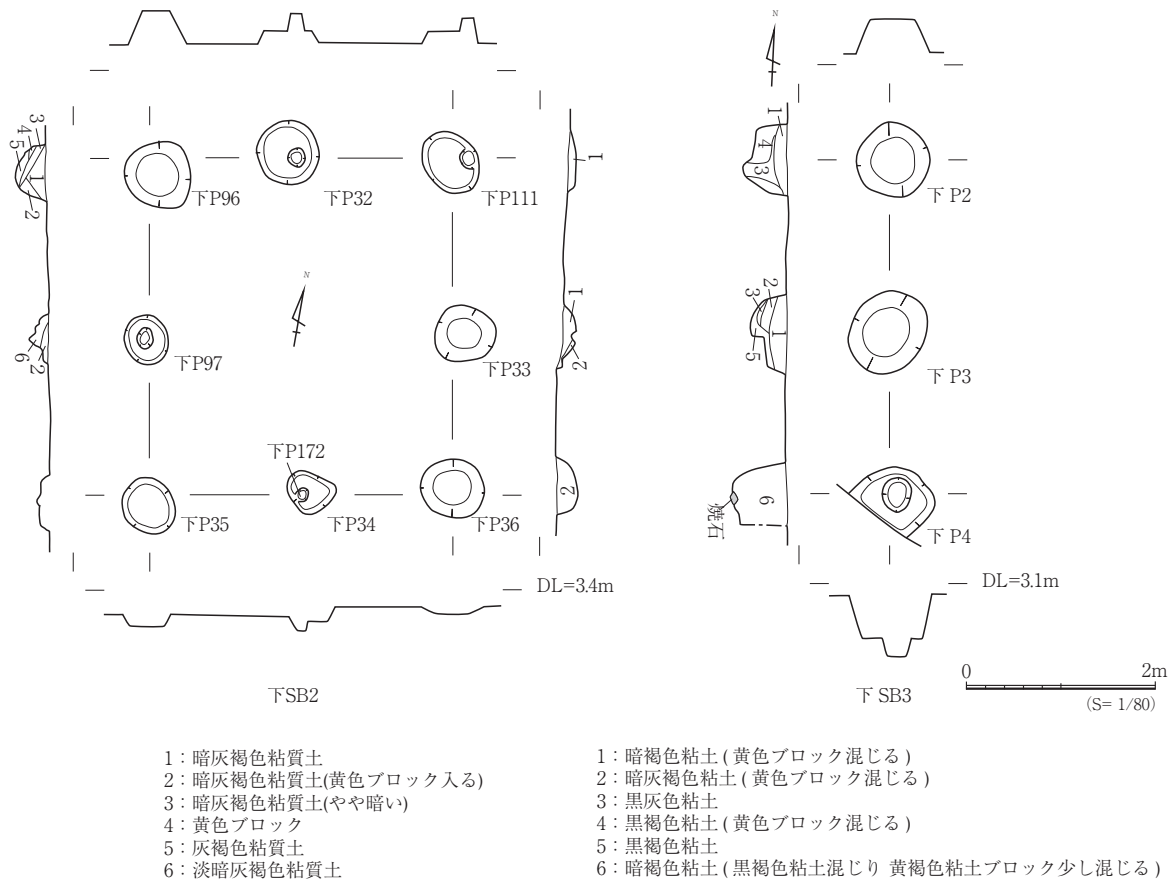
下SB2は調査区中央部に位置し下SB1からは約8m離れた東側に所在し上面で検出したSD4・5を間に挟む。梁行2間、桁行2間と考えられる建物跡である。建物の規模は3.3m×3.5m、面積は11.55㎡を復元することができる。ほぼ正方形の建物跡で、柱間寸法は1.5～1.7mとほぼ同じであるが南北方向がわずかに長い。棟方向はN-10°-Wと考えられる。

柱穴は8個検出しており隅丸方形が崩れたような円形の掘方で規模は直径50～70cm、深さは10～30cmを測る。下P34は下P172と切り合い下P172からまともな弥生土器が出土していることから下SB2を構成するピットは下P34と考えられる。下P32・97・111からは直径15～20cmの柱痕の可能性が考えられるピットを検出している。柱穴埋土は暗灰褐色土を中心としたもので埋土中からの出土遺物は下P36・111から土師器、須恵器の細片が少量出土したのみである。下SB2の時期については不明であるが古代に属する可能性が高いと考えられる。

下SB3

下SB3は調査区西端部で検出した柱穴列である。ピットは3個検出しており下P4は調査区で切られている。柱間寸法は1.8mで検出長は3.5m、軸方向はN-1°-Wである。

柱穴は円形の掘方で直径は80cm、深さは40～50cmを測り、遺構埋土は暗褐色粘土を中心としたもので埋土中からは遺物は出土しなかった。隣接した調査区の1-7北区からは下SB3に該当する遺構は確認されていないが、ピットの規模や検出長が下SB2と類似していることから掘立柱建物跡の可能性が高いと考えられ、所属時期についてもSB2と同時期の可能性が考えられる。



3-15 図 下SB2・3

遺構名	平面形	長径(直径)×短径(cm)	深さ(cm)	埋土	出土遺物	備考
下 P96	楕円形	70×75	36	褐灰色粘質土		
下 P32	楕円形	70×65	14	褐灰色粘質土		
柱痕	円形	20	32	褐灰色粘質土		
下 P111	楕円形	70×55	13	褐灰色粘質土	弥生土器	
柱痕	楕円形	25×20	27	褐灰色粘質土		
下 P33	楕円形	65×60	29	褐灰色粘質土		
下 P36	楕円形	70×60	23	褐灰色粘質土	須恵器・土師器	
下 P34	楕円形	50×40	15	褐灰色粘質土		
下 P172	円形	15	25	灰色粘砂土	弥生土器	
下 P35	楕円形	62×55	15	褐灰色粘質土		
下 P97	楕円形	52×46	9	褐灰色粘質土		
柱痕	楕円形	23×18	21	褐灰色粘質土		

表 3 - 9 下 SB2 柱穴計測表

遺構名	平面形	長径(直径)×短径(cm)	深さ(cm)	埋土	出土遺物	備考
下 P2	円形	75	35	暗褐色粘土		
下 P3	楕円形	90×80	44	暗褐色粘土		
下 P4	楕円	76×(60)	47	暗褐色粘土	土師器	調査区に切られる
柱痕	楕円形	45×30	66	暗褐色粘土		

表 3 - 10 下 SB3 柱穴計測表

土坑(SK)

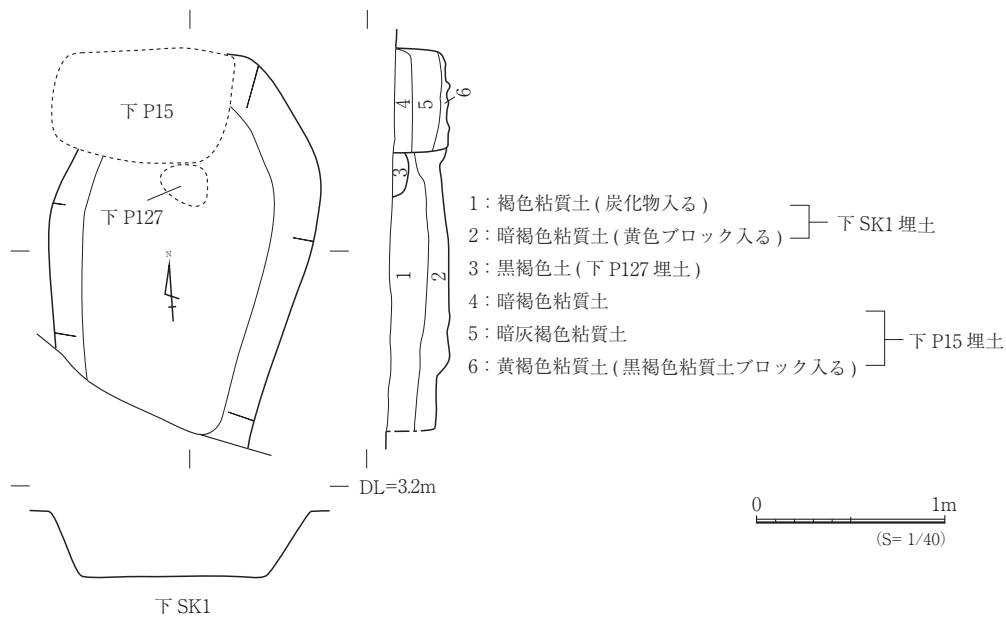
土坑は検出時 16 基検出し下 SK1～16 の遺構番号を付けて調査した。調査の結果、下 SK3・5・14 は土坑とは確認できなかったため欠番とした。土坑と確認できた遺構は 13 基である。土坑の分布は比較的偏った状況でおおむね 3ヶ所にまとまった状況を示している。土坑からの出土遺物は下 SK2 から多く出土し、図示できた遺物は 15 点あったが、その他、遺物が図示できた遺構は下 SK4・7・11 で、それ以外の土坑からは細片が少量出土したのみである。下 SK10 は遺物は多く出土したが、細片で図示できる遺物は無かった。

遺構名	長径×短径×深さ(m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
下 SK1	(1.90)×1.40×0.34	楕円形	逆台形	N-15°-E		土師器・須恵器		古代甕 1-7 北区に延長部分検出
下 SK2	2.07×1.67×0.80	楕円形	箱形	N-15°-E		土師器・須恵器・弥生土器		土器多 弥生土器中心
下 SK3	欠番							斜め堆積、包含層の可能性
下 SK4	1.05×(0.55)×0.37	長方形	逆凸状	N-27°-E		土師器・須恵器		柱痕上部分有り
下 SK5	欠番							検出のみ
下 SK6	0.85×0.84×0.22	台形	皿状	N-81°-W		土師器・瓦器・須恵器・近世陶磁器・土鍾	近世	
下 SK7	1.25×(0.49)×0.26	-	皿状	N-66°-W		弥生土器		下 SD1 に切られる。下 P137 と重複
下 SK8	0.95×0.78×0.24	楕円形	逆台形	N-21°-E		弥生土器	弥生	
下 SK9	1.00×0.65×0.19	長方形	-	N-79°-W		弥生土器	弥生	
下 SK10	(2.20)×(0.63)×0.66	長方形	逆台形	N-69°-W		土師器・須恵器・弥生土器		攪乱に切られる。
下 SK11	(3.25)×1.15×0.14	-	皿状	-		土師器・瓦質土器・須恵器・弥生土器・近世陶磁器		近世陶磁器 1 点混入か
下 SK12	1.50×1.03×0.32	長方形	-	N-8°-W		土師器・青磁・弥生土器		
下 SK13	1.45×1.32×0.43	楕円形	-	N-22°-E		土師器・須恵器・弥生土器		弥生土器中心
下 SK14	欠番							
下 SK15	0.58×0.55×0.16	正方形	逆台形	N-55°-E				
下 SK16	1.37×(0.65)×0.20	-	逆台形	N-68°-W				

表 3 - 11 下面土坑一覧表

下 SK1

下 SK1 は調査区西側で検出した土坑で南側は調査区によって切られた状態で検出し、北側は下 SB1 の柱穴の下 P15 と下 P127 に切られていた。平面形は楕円形で土坑の長軸は残存長約 1.90 m、短軸約 1.40 m、深さ 34cmを測る。遺構埋土は上層が褐色粘質土に炭化物が入る土、下層は暗褐色粘質土であった。埋土中からは土師器、須恵器が出土しているが図示できる遺物は無かった。隣接する 1-7 北区で延長部分と考えられる遺構を検出しているが該当する遺構は溝跡であった。このため下 SK1 は溝跡端部の水溜状遺構の可能性が高いと考えられる。



3-16 図 下 SK1

下 SK2

下 SK2 は調査区西側に位置し、下 SK1 の北に隣接している。下 SK2 北端部は上層で掘削したトレンチに切られた状態で検出した。平面形は楕円形で長軸 2.07 m、短軸 1.67 m、深さ 80cmを測る。断面形は箱形で床面は平坦でなくゆるやかな凸凹がある。埋土は褐色土系の粘質土で中層に赤変した土を含む層とその上に炭化物を多く含む層がみられる。埋土中からは土師器、須恵器、弥生土器が多く出土しており、特に弥生土器は細片が出土遺物の中心をしめる。図示できた遺物は 15 点で 126 は土師器杯で丸みを帯びた体部、口縁部は立つが、ナデによりわずかに外反する。端部内面は斜面をなしている。127 は須恵器杯で体部は丸みを帯び、口縁部は外反し立つ。133 は須恵器高杯で筒状の脚から大きく開き裾端部は面をなしている。138 の甕は口縁端部を摘み上げ、面をなす。口縁内面には横ハケが残るが口縁部の屈曲は稜を持たない。138 以外は古い様相を持つ可能性が高く下ノ坪遺跡 I-2 期に相当すると考えられる。138 は混入の可能性があり弥生土器についても周

辺に弥生時代の遺構が存在することから混入したものと考えられる。

下 SK4

下 SK4 は下 SB1 の柱穴である下 P92 と隣接し、下 P126 と重複して検出した土坑である。長方形の平面形で中央には柱痕と考えらるピット部分がある。土坑の規模は長軸は 1.05 m、短軸は残存長が 0.55 m、深さは柱痕状部分が 37cm である。遺構断面形は逆凸状で埋土は暗褐色粘質土、柱痕状部分は暗灰褐色粘質土に黄褐色土が混じった土と黒褐色粘質土である。埋土中からは土師器、須恵器が出土しており図示できたのは土師器のみである。143 は柱痕状部分から出土した杯底部小片で底部外面には糸切り痕が残る。

下 SK7

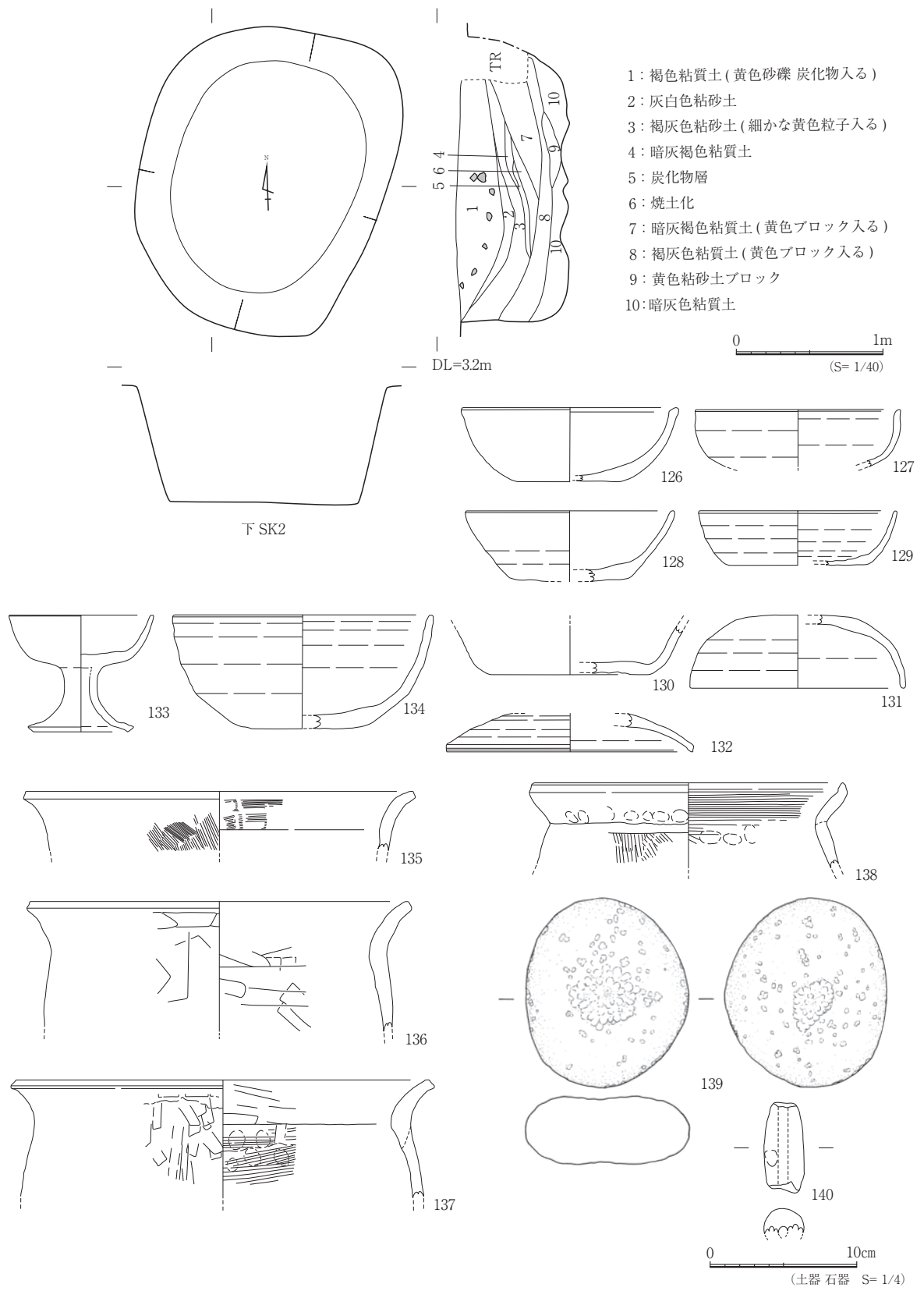
調査区東側に位置し下 P85・137 と重複し下 SD1 に南側を切られた状態で検出した。土坑の規模は長軸は 1.25 m、短軸は残存長が 0.49 m、深さは 26cm である。遺構埋土は茶褐色粘質土で埋土中からの出土遺物は少ないが弥生中期末と考えられる凹線文のある高杯脚 145 を図示することができた。

下 SK10

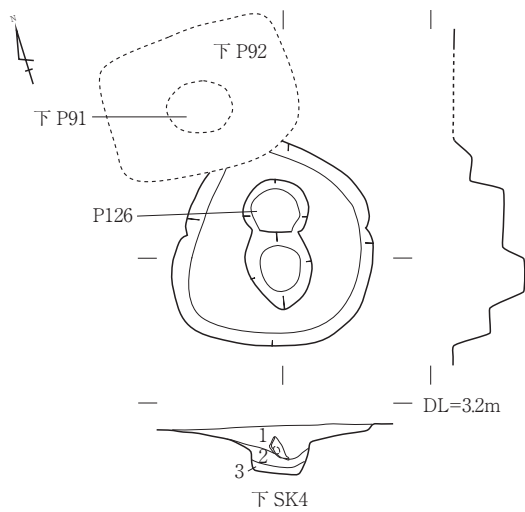
下 SK10 は SE1 に隣接する土坑で SE1 と攪乱土坑によって大きく壊された状態で検出した。残存規模は 2.20 m × 0.63 m で深さ約 66cm である。埋土は黒褐色粘質土で、埋土中からは土師器、須恵器、弥生土器が出土し、出土量では弥生土器が多い。下 SK10 は当初下 SD5 としたが土坑の可能性が高いため下 SK10 とし下 SD5 を欠番とした。

下 SK11

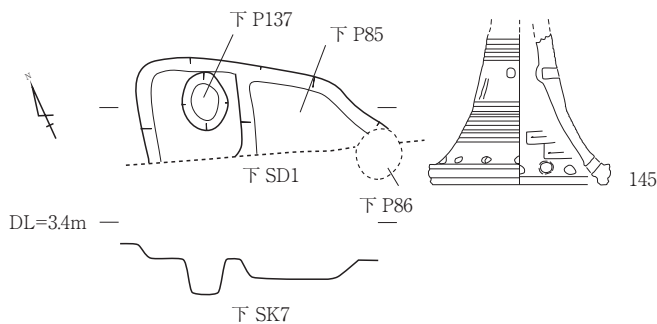
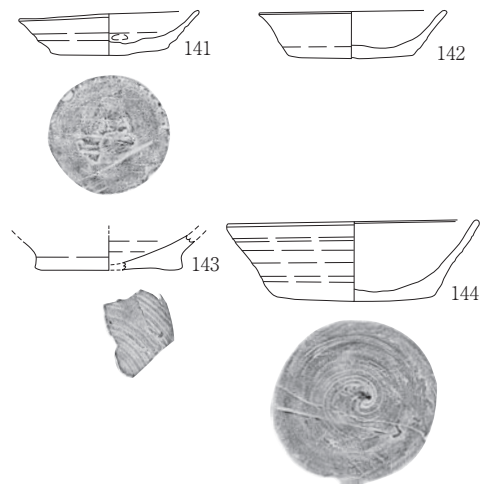
下 SK11 は下 SD1 と隣接し一部を切られ、L 字状になるとみられる不整形な溝状の土坑で、上面で検出した遺構にも切られた状態で検出した。また別遺構の可能性が考えられる部分が 2ヶ所あるが埋土によって分けることが困難であったため同一遺構として扱った。残存長は東西方向 3.25 m、幅約 1.15 m、深さ約 14cm を測る。埋土は褐色粘質土で埋土中からは土師器、須恵器、弥生土器が出土している。瓦質土器と近世陶磁器が 1 点ずつ出土しており混入の可能性が考えられる。出土遺物は弥生土器が多かったが弥生土器は図示できるものは無く、図示できた遺物は 147 の須恵器杯、148 の須恵器高杯など 5 点である。これらは下 SK2 出土の遺物と同時期の可能性があり下ノ坪遺跡 I - 2 期に相当すると考えられる。



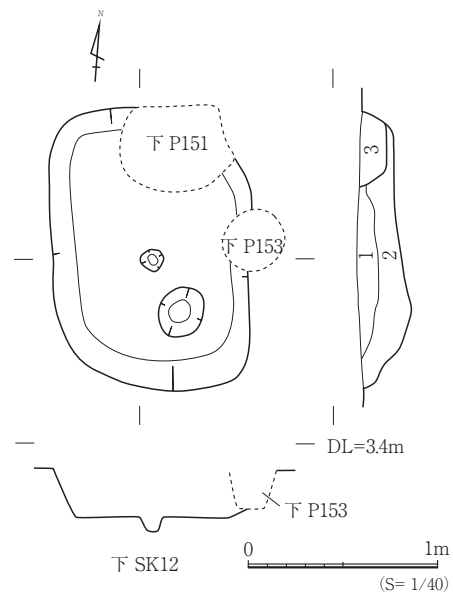
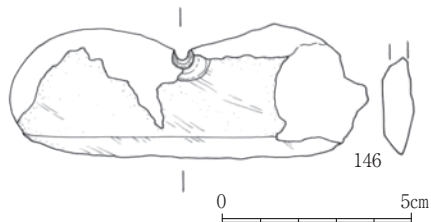
3-17 図 下SK2



- 1: 暗褐色粘質土
- 2: 暗灰褐色粘質土(黄褐色ブロック入る)
- 3: 黒褐色粘質土

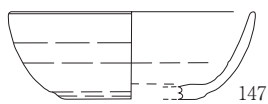


下 SK11

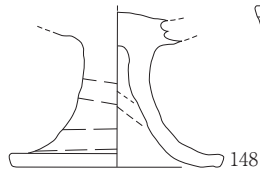


- 1: 暗褐色粘質土
 - 2: 暗褐色粘土(黄色ブロック混じる)
 - 3: 暗灰色粘土(下 P151 埋土)
- 下 SK12 埋土

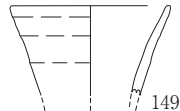
下 SK11



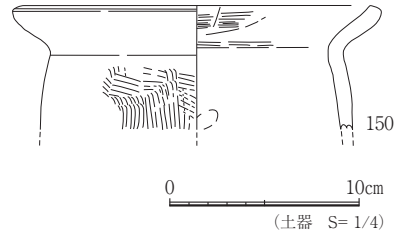
下 SK11



下 SK11



下 SK11



3 - 18 図 下 SK4・7・11・12

溝跡(SD)

溝跡は下SD1から下SD13までの遺構番号を付け調査を行った。下SD5は下SK11と遺構番号を変更したため溝跡としたものは12条であった。調査区へ延長しているものは下SD1のみで他のものは全て調査区内で完結しており最も延長の短い下SD13は延長約1.5mである。これら調査区内で完結する溝跡は溝状土坑の可能性が高いが幅と延長のバランスから溝跡とした。下SD1はL字状に曲がる平面形を持ち、断面形はV字状で規模の大きな溝跡である。中世の環溝の可能性が考えられる。下SD2・7・11・12・13は弥生時代の溝状土坑と考えられる。

遺構名	長さ×幅×深さ(m)	平面形	断面形	長軸方向	接続	出土遺物	時期	備考
下SD1(南北部)	8.15×1.92×0.80	L字状	V字状	N-6°-E		土師器・瓦器・瓦質土器・須恵器・常滑・備前焼・白磁・青磁・土鍾・鉄釘・軽石・銅銭		
下SD1(東西部)	15.5×2.60×1.36	L字状	V字状	N-73°-W	1-3拡張区			
下SD2(南北部)	4.50×0.44×0.22	Y字状	皿状	N-27°-E		弥生土器	弥生	
下SD2(東西部)	1.50×0.55×0.17	Y字状	皿状	N-86°-W				
下SD3	3.53×0.33×0.10	直線状	皿状	N-14°-E				
下SD4	2.20×0.27×0.44	直線状	皿状	N-6°-E	1-7北区	土師器		
下SD5	欠番							下SK10に変更
下SD6	1.25×0.75×0.17	直線状	皿状	N-5°-E				
下SD7	1.66×0.88×0.29	直線状	逆台形	N-20°-E		弥生土器	弥生	
下SD8	2.07×0.54×0.34	直線状	逆台形	N-3°-W		土師器・弥生土器		土師器細細片1のみ
下SD9	2.62×0.56×0.25	直線状	皿状	N-5°-E		土師器		
下SD10	2.37×0.60×0.12	直線状	皿状	N-9°-E		土師器		
下SD11	4.30×1.17×0.49	直線状	テラス部有り 箱形	N-10°-E		弥生土器・瓦質土器・石器	弥生	瓦質土器1点のみ混入の可能性
下SD12	4.16×0.60×0.38	直線状	テラス部有り U字状	N-36°-E		弥生土器	弥生	
下SD13	1.50×0.47×0.16	直線状	皿状	N-64°-W		弥生土器	弥生	

表3-12 下面溝跡一覧表

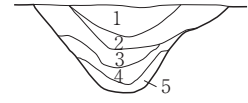
下SD1

下SD1は調査区北東部で検出し、調査区北端から南に約8m延びた後、直角に方向を東に変えて調査区東端まで延びたL字状の溝跡である。南北部分は延長は約8.15m、上端幅約1.0~1.9m、深さ約80cm、東西部分は約15.5m、上端幅約1.7~2.6m、深さ約84~136cmを測る。溝の断面形はV字状、埋土は灰褐色粘質土で黄褐色砂質土がブロック状に入る。最下層は灰色粘土化している。

埋土中からは土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、常滑焼、備前焼、白磁、青磁、銅銭、鉄釘、軽石が出土している。図示できたものでは、169は外面には煤が付着した土師質土器甕と考えられる土器で口縁部は上方に摘み上げられ拡張し、胴部は球形である。胎土中には雲母が多く入り器壁は薄く搬入土器と考えられる。紀伊型もしくは大和型の可能性が考えられるが口縁下部~上胴部に突帯はみられない。168は瓦質土器の鍋で所謂土佐型鍋で14世紀半ば~15世紀半ばの時期に収まるものである。171~173は銅銭である。

下SD1は東へ延長しており、この延長を確認するために次年度に調査を行った1-3拡張区では延長部分及び終端部を検出し、下SD1はコの字状に城山の裾部を囲むものでなくL字状であったことを確認している。しかし規模及び構造から区画溝の可能性が高く壕的な性格を持つものと考えられる。

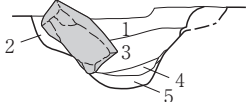
X=52352.306 X=52354.339
 Y=-3465.692 Y=-3465.148
 DL=3.4m A B



下SD1バンク1

- 1: 淡灰褐色粘砂土(砂質強)
- 2: 灰褐色粘砂土(黄色砂質ブロック入る)
- 3: 褐灰色粘砂土
- 4: 褐灰色粘砂土(黒褐色粘土ブロック入る)
- 5: 灰色粘質土(黒褐色ブロック入る)

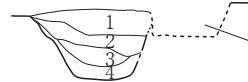
X=52358.329 X=52357.791
 Y=-3480.879 Y=-3468.795
 DL=3.4m C D



下SD1バンク2

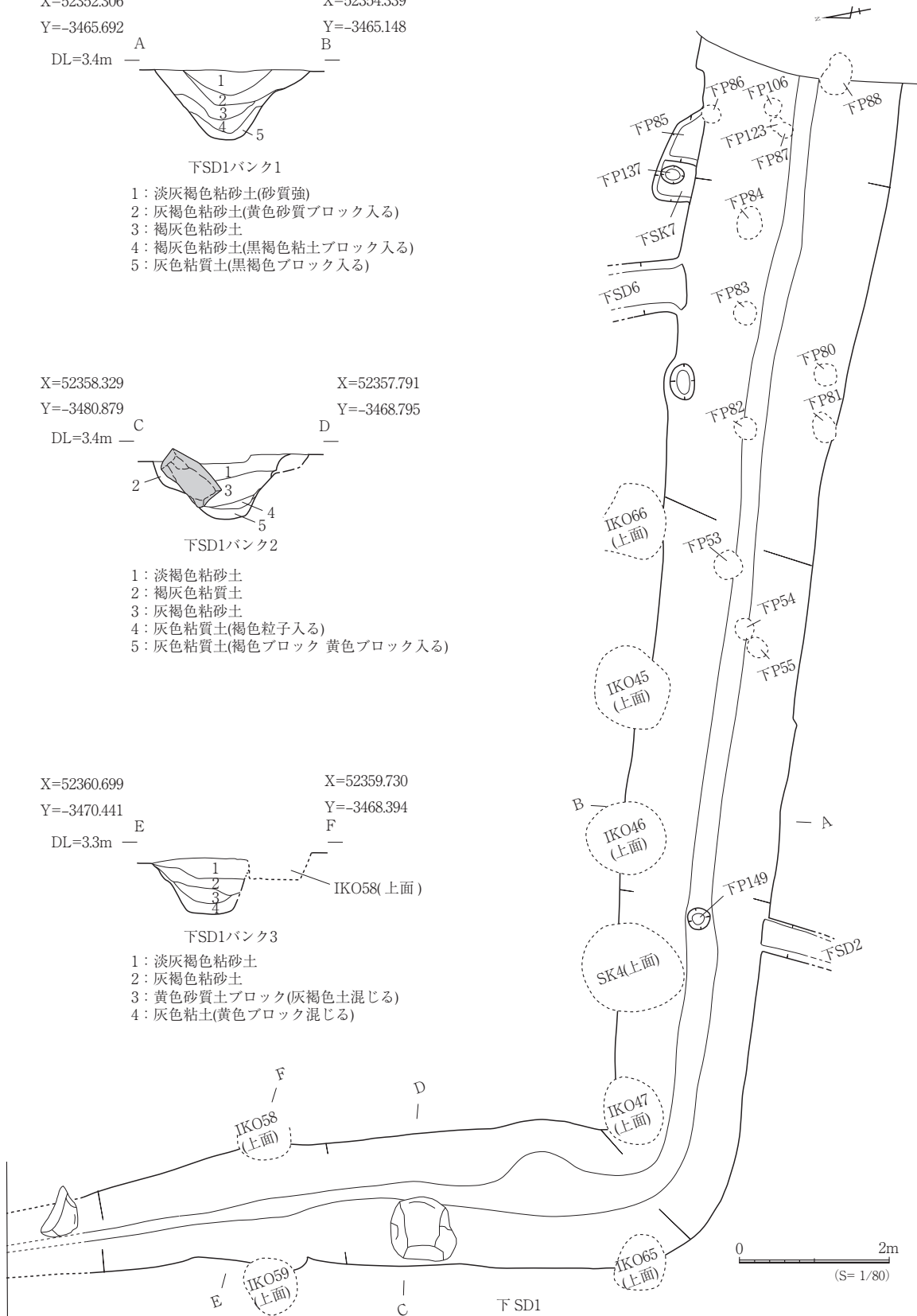
- 1: 淡褐色粘砂土
- 2: 褐灰色粘質土
- 3: 灰褐色粘砂土
- 4: 灰色粘質土(褐色粒子入る)
- 5: 灰色粘質土(褐色ブロック 黄色ブロック入る)

X=52360.699 X=52359.730
 Y=-3470.441 Y=-3468.394
 DL=3.3m E F

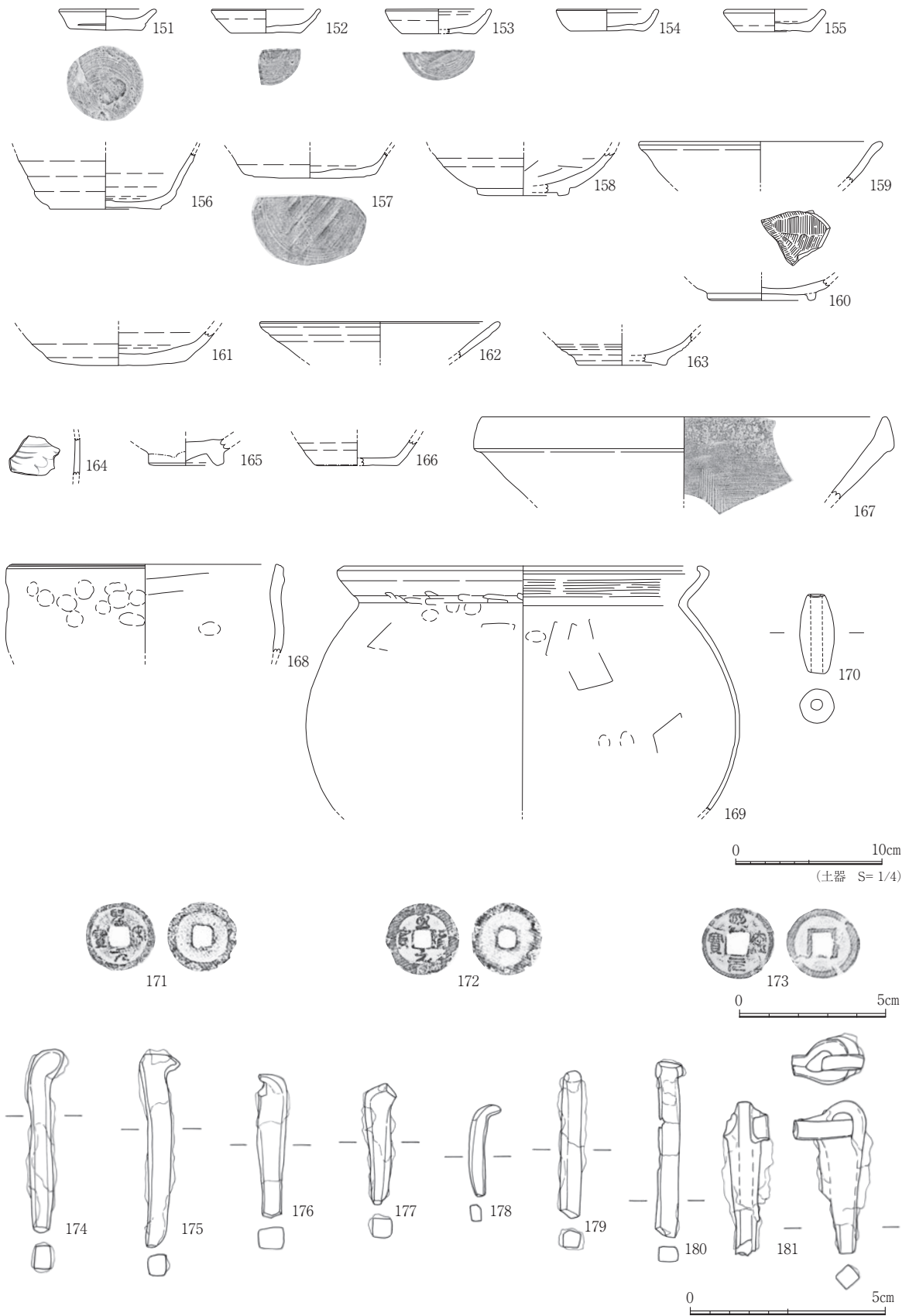


下SD1バンク3

- 1: 淡灰褐色粘砂土
- 2: 灰褐色粘砂土
- 3: 黄色砂質土ブロック(灰褐色土混じる)
- 4: 灰色粘土(黄色ブロック混じる)



3 - 19 図 下SD1



3-20図 下SD1出土遺物

下 SD2

調査区東側に位置する溝跡で北側部分を下SD1に切られる。y字状の溝跡で直線的に南北に約4.5 m延びる部分と、南端から1.5 mの地点で西方向へ分岐し1.5 m延びる部分に分かれる。溝の規模は南北部分は上端幅0.44 m、深さは22cm、東西部分は上端幅0.55 m、深さ17cmを測る。溝の断面形は皿状で埋土は茶褐色粘質土で埋土中からは弥生土器が出土する。182・183は凹線文の壺、183は在地色の強い壺口縁、186は櫛描き文、浮文、粘土帯貼り付けなどで加飾された甕で所謂南四国型甕である。

下 SD11

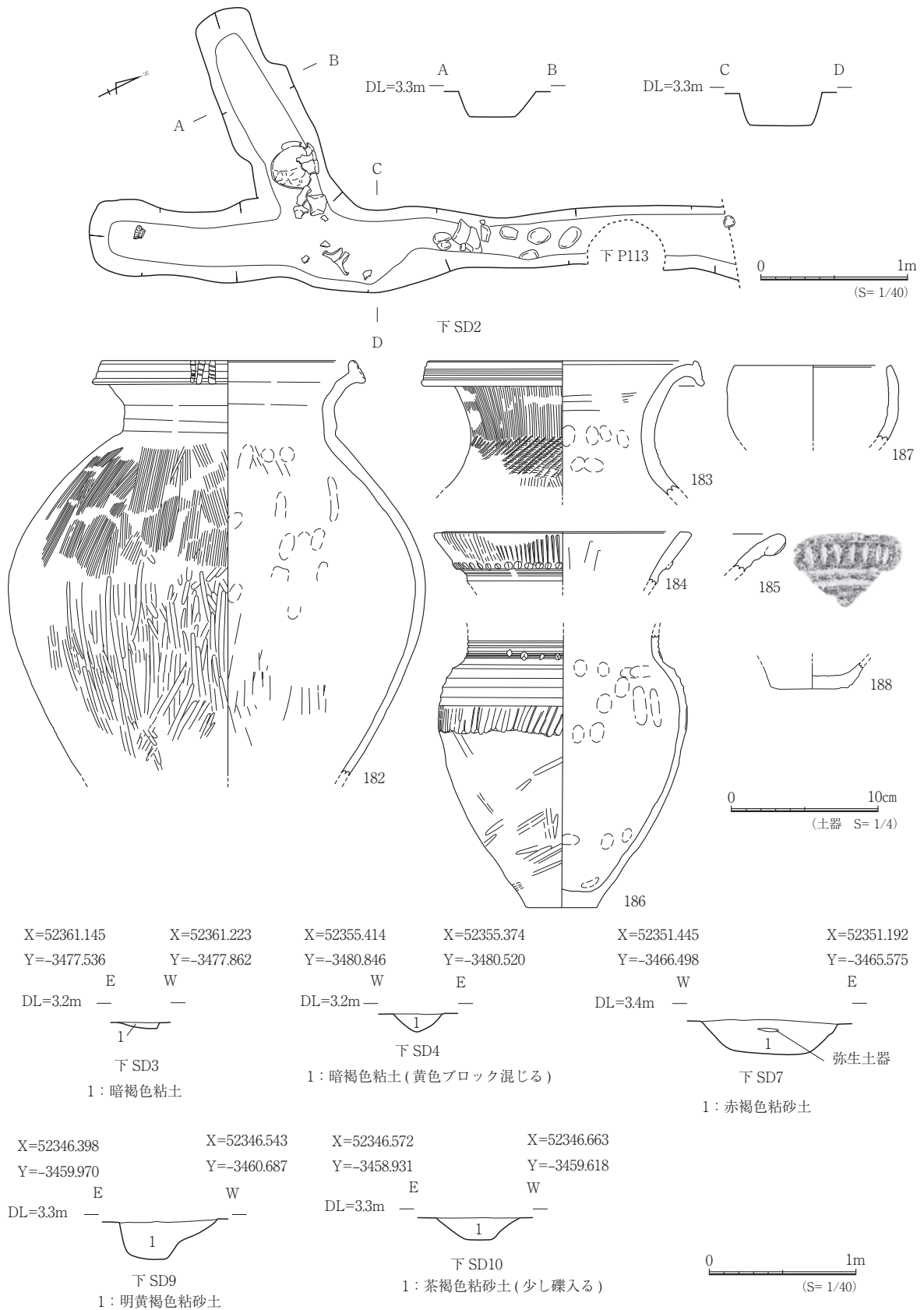
下SD11は調査区西側で検出した溝状の遺構で南側を調査区で切られる。残存長4.3 m、上端幅1.17 m、深さ49cmを測る。遺構の断面形はテラス状部分のある箱形で埋土は3層に分かれ1層は茶褐色粘質土、2層は暗茶褐色粘質土、3層は暗灰褐色粘質土に黄色土が混じった土である。埋土中からは凹線文の施された弥生土器、叩石、瓦質土器片1点が出土している。瓦質土器は混入の可能性が高い。下SD11の延長部分は隣接する1-7北区では検出できていないため下SD11は弥生時代の溝状土坑と考えられる。

下 SD12

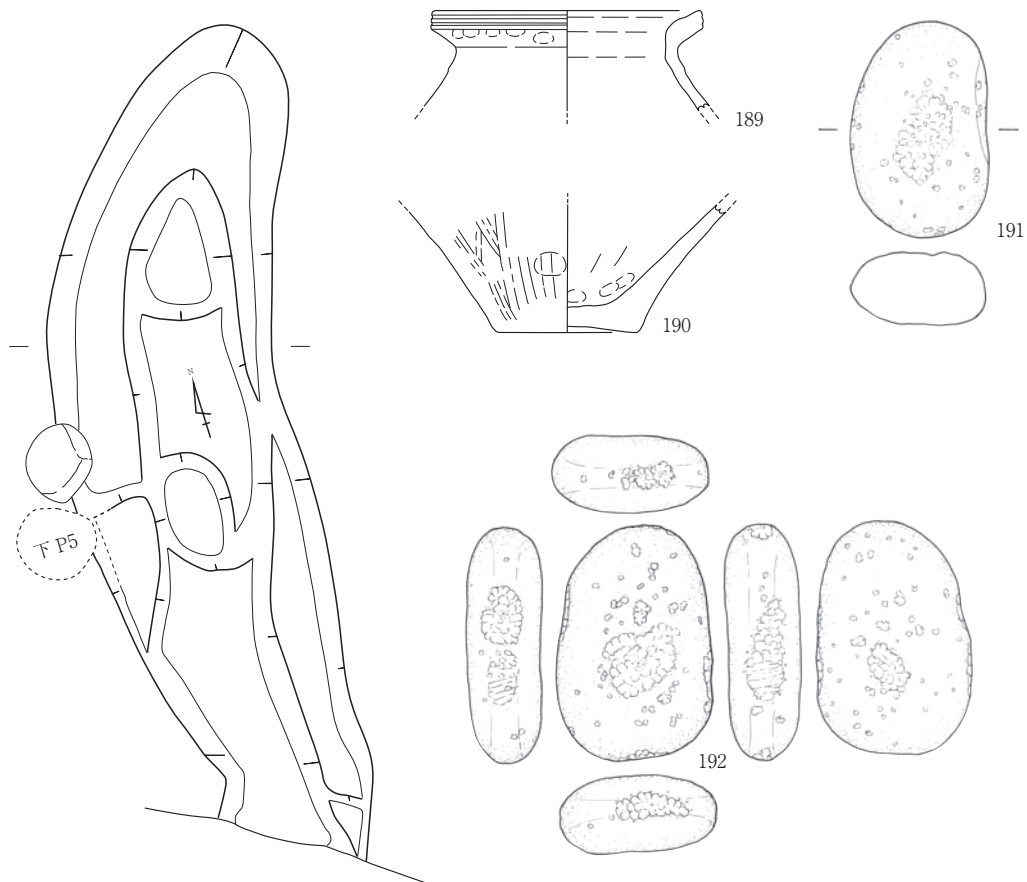
下SD12は調査区中央部で検出した溝状の遺構で調査区に南側を切られた状態で検出した。遺構の規模は残存長が4.16 m、上端幅0.6 m、深さ38cmを測る。断面形はテラス部分をもったU字状で埋土は茶褐色粘質土である。埋土中からは弥生土器が出土しており、図示できた遺物は12点である。195～204は在地色の強い土器で、201は口縁端部に粘土帯を貼り付け肥厚させ刻目を施した長頸壺である。206は筒状の脚部に一体整形の杯部が付くもので、脚部には鋸歯文、脚端部には凹線文が施される高杯である。下SD12は1-7北区では検出できていないことから弥生時代の溝状土坑と考えられる。

下 SD13

下SD13は調査区北西部で検出した遺構で下SB1の柱穴であるP73に切られていた。遺構の規模は残存長1.5 m、上端幅0.47 m、深さ16cmを測る。遺構の断面は浅い皿状、埋土は上層が茶褐色粘質土、下層は淡茶褐色粘質土である。埋土中からは弥生土器が出土しており4点図示できた。207・210は筒状の頸部を持ち、口縁端部は粘土帯貼り付けにより肥厚する壺である。208は大きく開く口縁で外面にはわずかに微隆起状の突帯が残る。209は208の体部の可能性が考えられる。いずれも弥生時代中期末の在地色の強い土器である。下SD13は調査区内で完結しており弥生時代中期末の小規模な溝状土坑と考えられる。

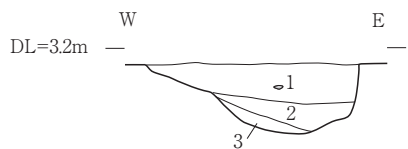


3-21 図 下SD2～4・7・9・10

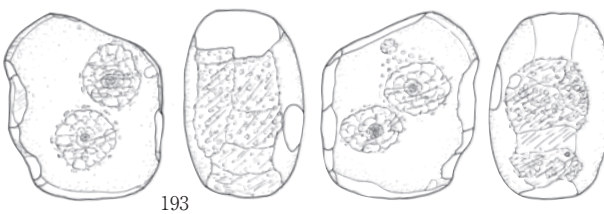


X=52365.289
Y=-3495.139

X=52364.937
Y=-3493.992



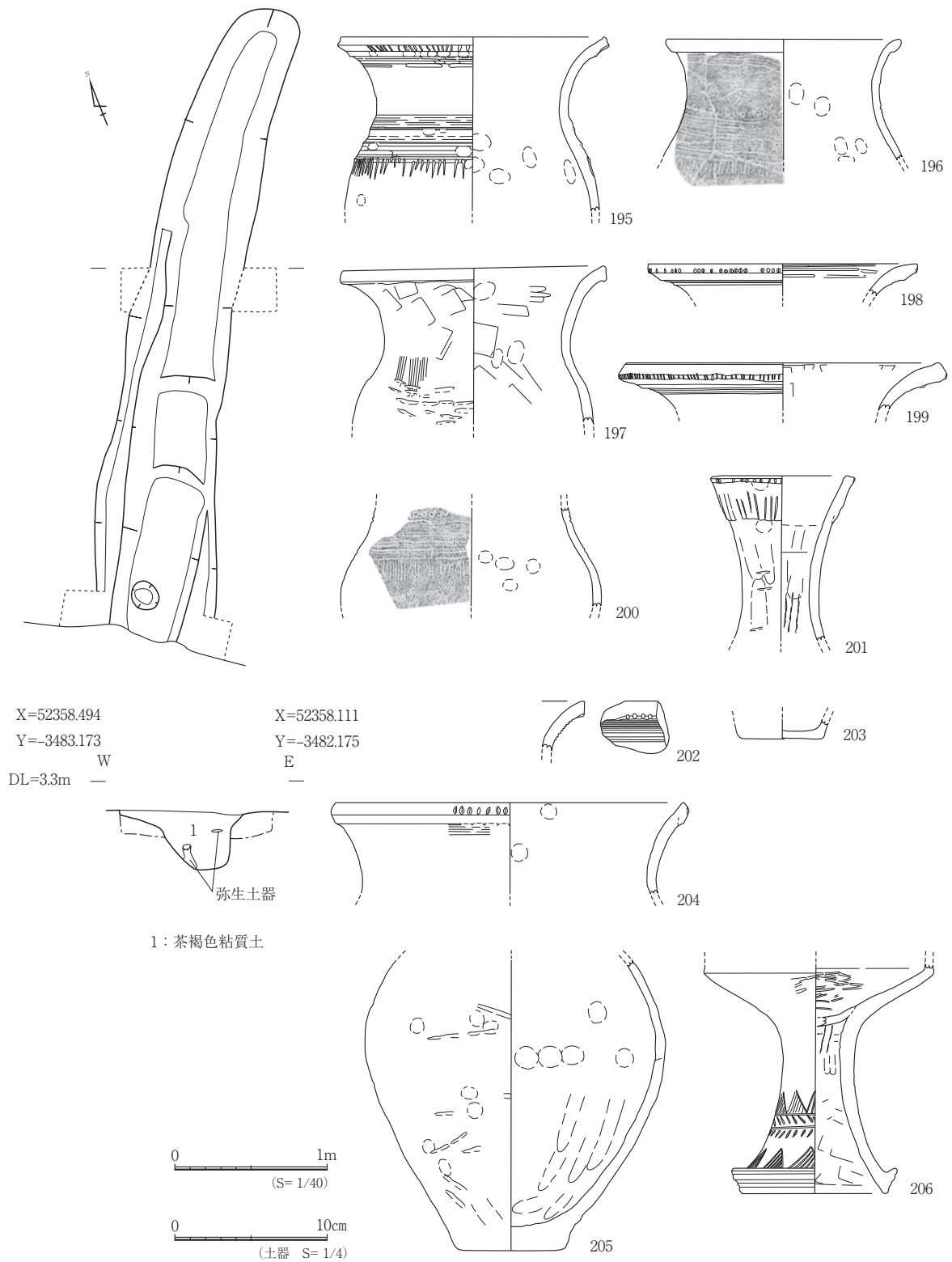
- 1: 茶褐色粘質土
- 2: 暗茶褐色粘質土
- 3: 暗灰褐色粘質土(黄色土混じる)



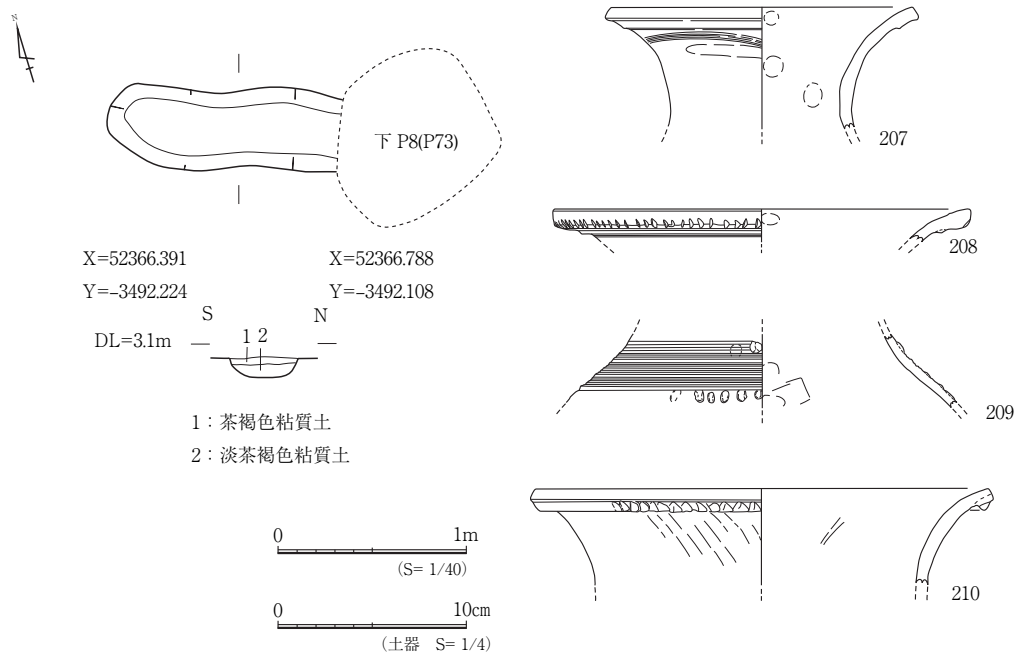
0 1m
(S= 1/40)

0 10cm
(土器 石器 S= 1/4)

3 - 22 図 下 SD11



3-23 図 下 SD12



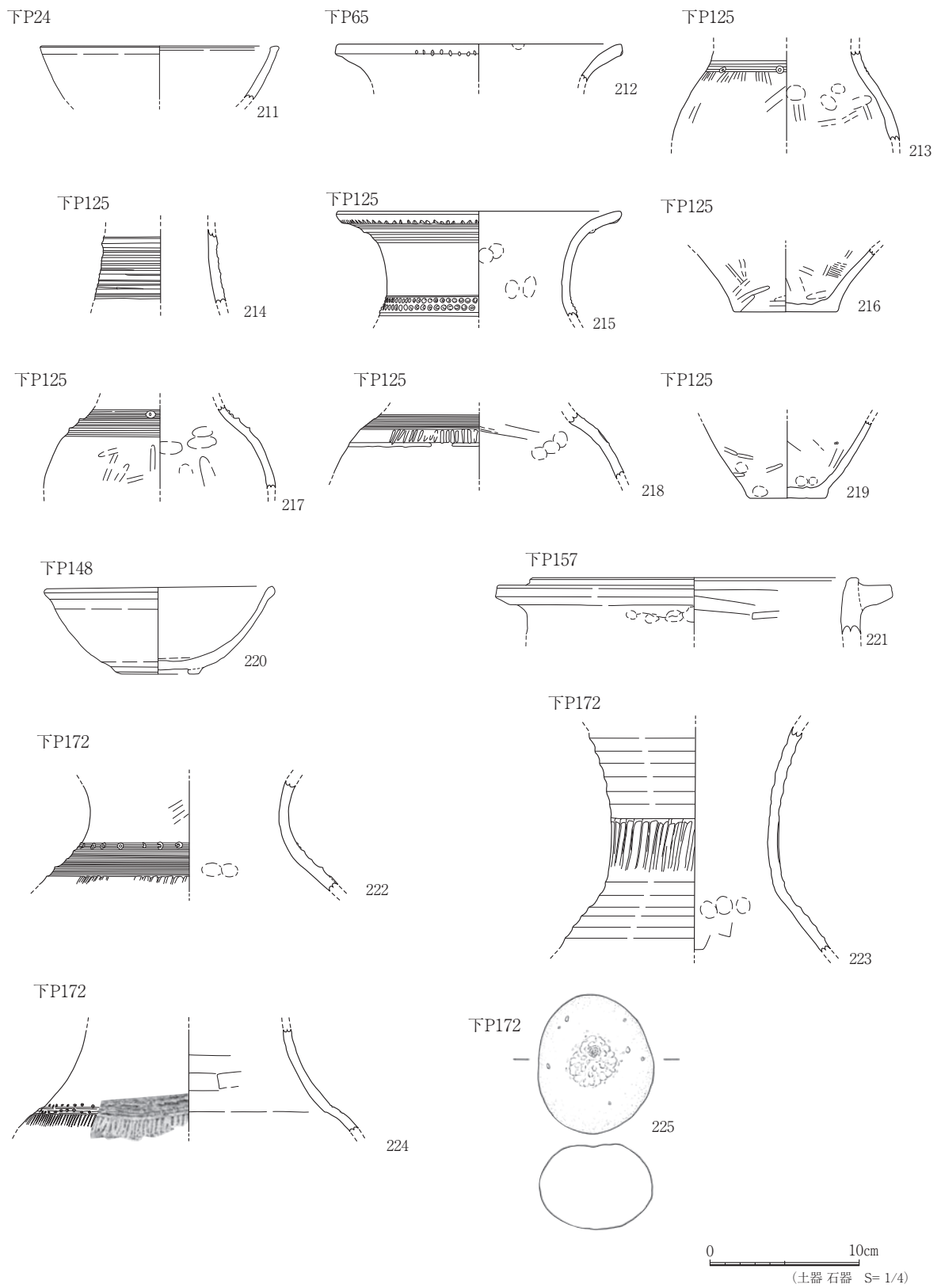
3 - 24 図 下 SD13

ピット(P)

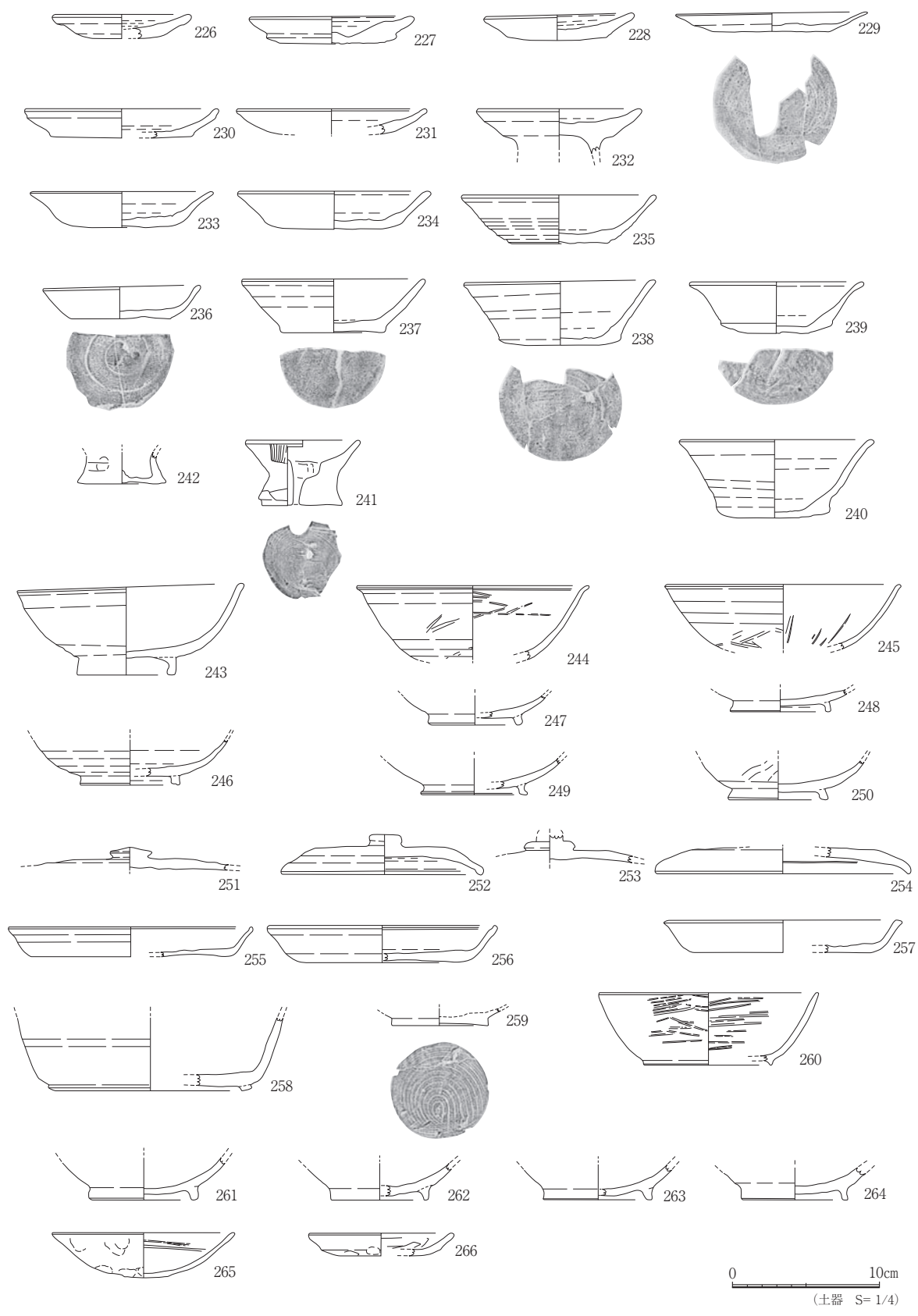
下ピットは下 P172 まで遺構番号を付け検出した。精査の結果 26 個のピットが重複や包含層と判明したため欠番となりピットと確認できたものは 146 個である。ピットで掘立柱建物跡の柱穴として確認できたものは 23 個である。これら以外で注目されるピットとして土師器椀が完形で出土した下 P148、弥生土器が多く出土した下 P125・172 を挙げることができる。下 P172 は下 P34 と切り合っているが下 SB2 の柱穴となっている。下 P34 が下 P172 を切っているものと考えられる。

遺構名	平面形	長径×短径 直径 (cm)	深さ (cm)	埋土	図版No	出土遺物	備考
下 P24	楕円形	45 × 33	50	褐灰色粘質土	211	土師器・黒色土器 B 類	
下 P65	楕円形	66 × 40	23	褐灰色粘質土	212	弥生土器	
下 P125	楕円形	37 × 27	31	灰色粘砂土	213 ~ 219	弥生土器	
下 P148	楕円形	30 × 25	17	褐灰色粘質土	220	土師器・白磁	
下 P157				褐灰色粘質土	221		上面 SK7 の可能性
下 P172	円形	13	25	灰色粘砂土	222 ~ 225	縄文土器・弥生土器・叩石	

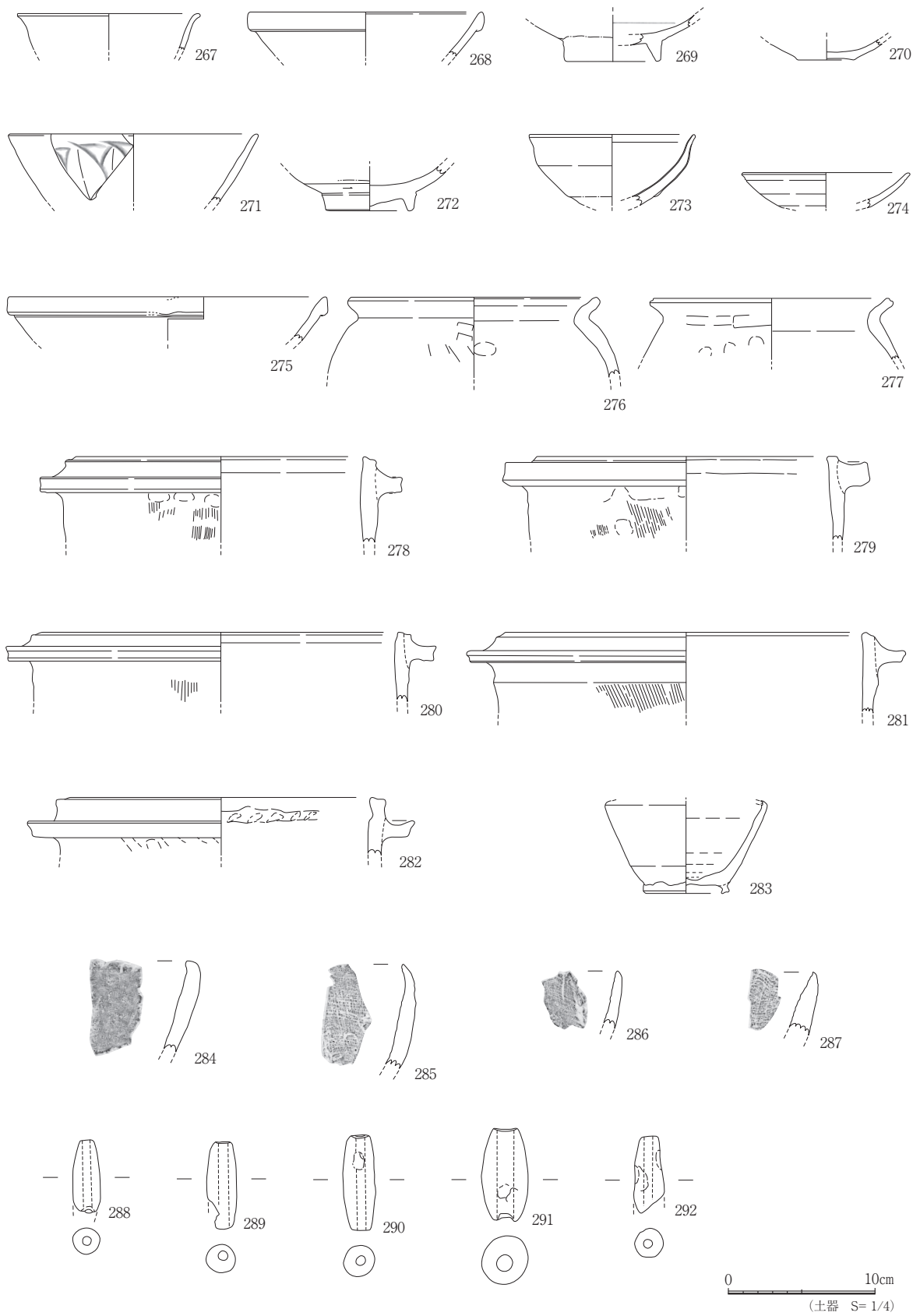
表 3 - 13 下面図版掲載遺物出土ピット計測表



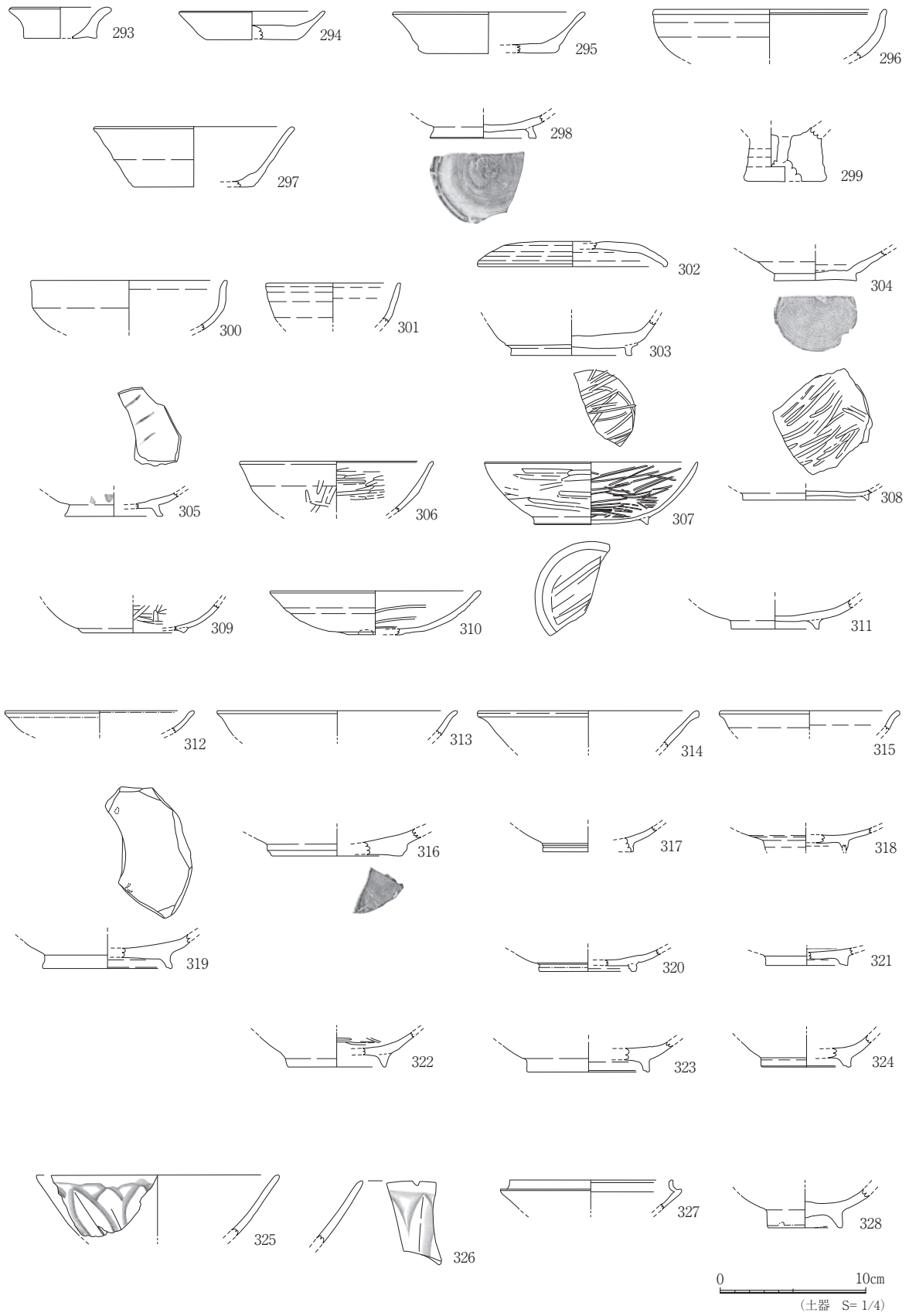
3-25 図 下面ピット出土遺物



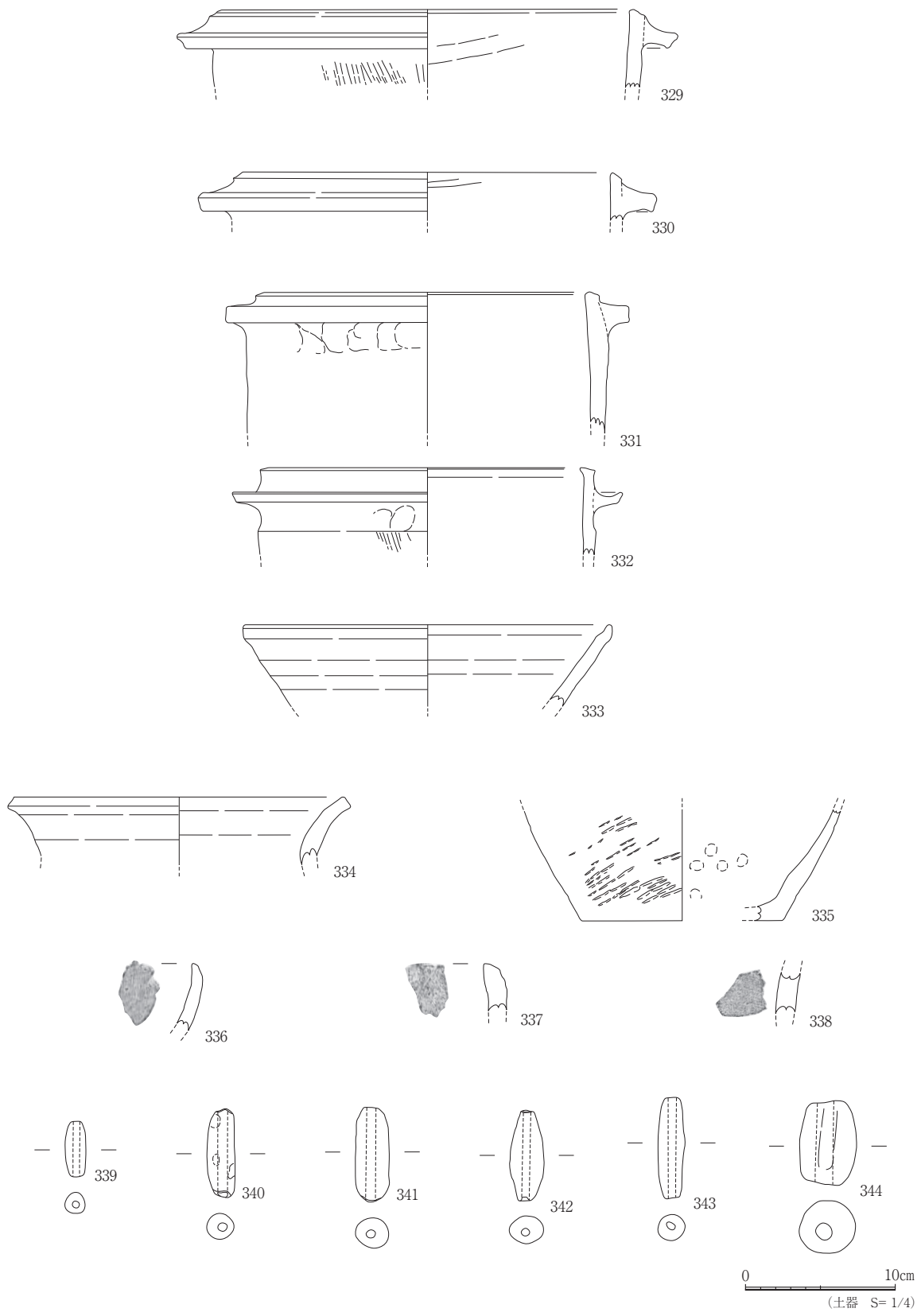
3 - 26 図 包含層出土遺物 1



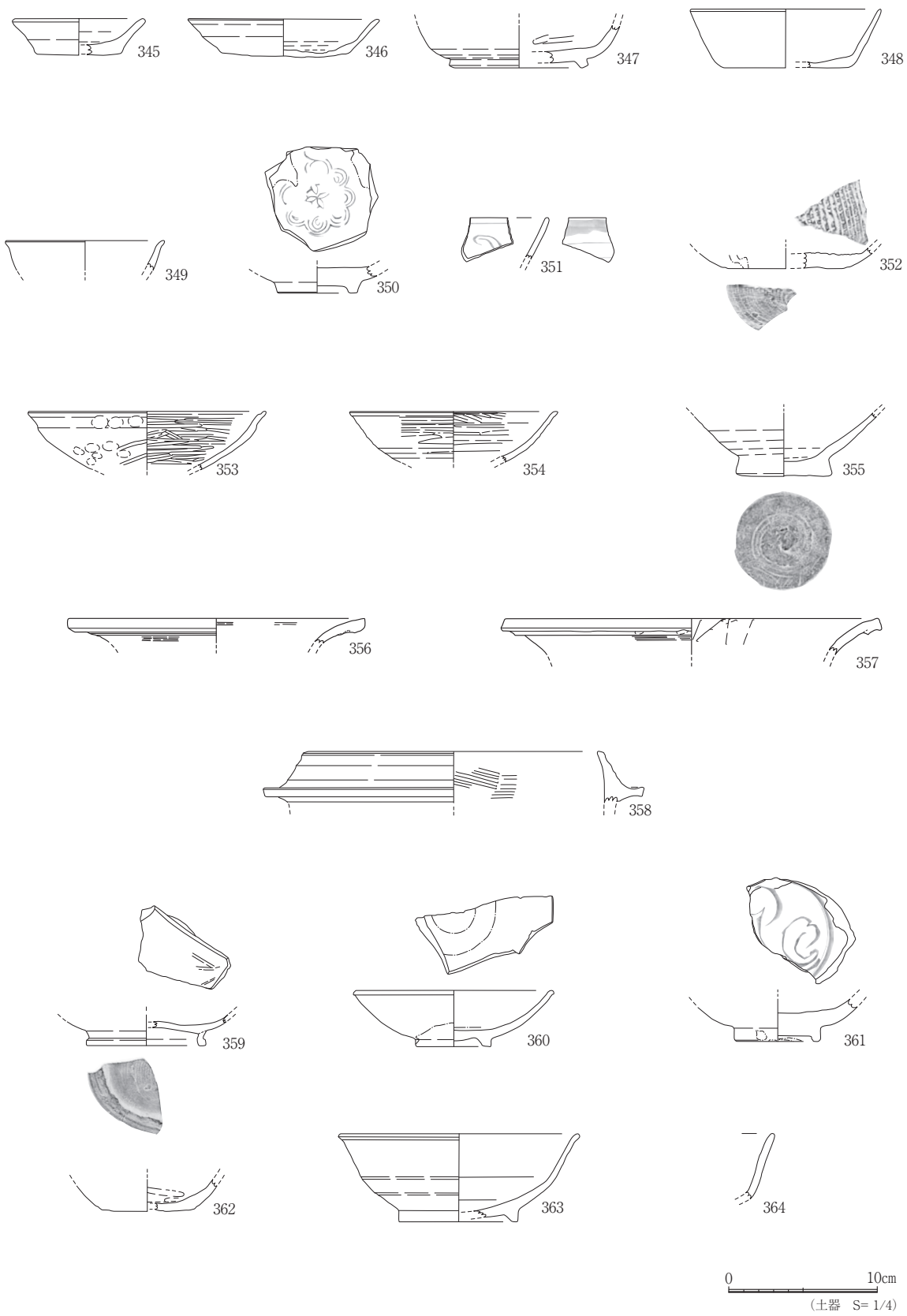
3-27図 包含層出土遺物2



3 - 28 図 包含層出土遺物 3



3-29図 包含層出土遺物4



3 - 30 図 包含層 1 - 2・包含層 2・トレンチ・表採・攪乱出土遺物

遺物觀察表

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3A	1	緑釉陶器	椀	IKO65	マ		(2.5)		オリーブ灰	オリーブ灰	普通	口縁周わずかに残	口縁端部外反、緑色のうすい釉。外内面回転ナデ痕。	うすい器壁、胎土、硬陶
1-3A	2	緑釉陶器	椀	SK4	マ	(1.6)		6.2	灰白	淡緑	良	高台完形	削り出し円盤状高台、釉は淡緑色で薄く、高台外面まで施釉。削出し、中央部削りこむ。	胎土京都系緑釉、焼感良いが軟陶
1-3A	3	黒色土器A類	椀	IKO48 TR	マ	14.4	(3.6)		黒	にぶい黄橙	細かな砂粒	口縁周わずかに残、磨耗	丸みを帯びた体部。	外面、内面磨耗、雲母ほとんど入らない、在地産の可能性も
1-3A	4	石器	砥石	IKO44	マ	全長7.8	全幅5.5	全厚4.15	灰白	灰白			白色の緻密な泥岩、表裏、側面3面使用の可能性金属用仕上げ砥石か	重量 262.8g
1-3A	5	土師器	皿	SK5	マ	9.8	1.4		にぶい黄橙	にぶい黄橙		底部周、口縁周ともわずかに残	平底ぎみの底部、体部は短かく開く内面ゆるやかに傾斜。切り離しなし。	
1-3A	6	須恵器	脚付杯	SK6	マ	9.1	(3.1)		灰	灰	良	杯部、底部周、口縁周約1/2残脚部欠損	底部から直線的に立ち上がる体部。外、内面に回転痕。	
1-3A	7	瓦器	皿	SK7	マ	9.2	1.2	6.4	黄灰	黄灰	良	底部周、口縁周とも一部残	平底ぎみの底部から短かく外反して開く体部、内面傾斜ゆるく、浅い。内底のみ回転ナデ痕。切り離しなし。	
1-3A	8	緑釉陶器	椀	SK7	マ		(2.5)	8.0	明黄褐	明黄褐		高台周1/4残	円盤状高台、橙かかった淡い緑色のうすい釉を底部外面まで施釉。	胎土は軟質、京都系
1-3A	9	緑釉陶器	椀	SK7	マ		(2.1)	6.4	灰オリーブ	灰オリーブ	良	高台周1/4残	輪高台、淡緑色の薄い釉を皿付まで施釉。外内面回転痕残る。貼付輪高台、高台見込割る。	胎土は硬陶、京都系
1-3A	10	土師器	羽釜	SK8	マ	23.8	(6.35)		灰黄褐	にぶい黄橙	金雲母入る	口縁周わずかに残	凹面状で上方を向く。口縁部、直下にはしっかりした厚い鐙が付く。	摂津C類
1-3A	11	土師器	小杯	SK15	マ	11.6	3.2	8.6	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな赤褐色砂粒入る	底部、口縁とも一部残	外反する口縁。外面口縁回転ナデ、内面口縁回転ナデ。切り離し痕なし。	
1-3A	12	土師器	羽釜	SK15	マ	20.6	(2.85)		灰黄褐	にぶい黄橙	金雲母入る	口縁周わずかに残	口縁端部上方を向く、直下に断面三角形のしっかりした鐙が付く。内面横ナデ。	摂津C類
1-3A	13	白磁	小皿	SD1	マ	8.8	1.5	6.0	明オリーブ灰	明オリーブ灰	良	底部周、口縁周ともわずかに残	平底から短かく開く。口禿、底部外面まで施釉。	
1-3A	14	青磁	椀	SD1	マ	15.2	(2.05)		オリーブ灰	オリーブ灰	良	口縁周のみわずかに残る		
1-3A	15	土師器	杯	SD4	マ	12.2	3.35	7.3	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒入る	底部周2/3残、口縁周一部残、磨耗	平底から直線的に開く。外面回転ナデ痕。切り離しなし。	
1-3A	16	土師器	杯	SD4	マ	12.55	3.1	8.7	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒	ほぼ完形磨耗	丸みを帯びた平底から大きく外反する口縁。粘土紐巻き上げ痕。	10世紀代
1-3A	17	土師器	杯	SD4	マ	11.7	2.3	8.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒	底部完形、口縁周わずかに残、磨耗	丸みを帯びた平底からゆるやかに外反。内底に回転痕。切り離しなし。	10世紀代
1-3A	18	土師器	杯	SD4	マ	12.9	2.8	9.2	浅黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒多	底部周1/2残、口縁周わずかに残	丸みを帯びた平底から外反する口縁。内底回転痕。切り離しなし。	10世紀代
1-3A	19	土師器	杯	SD4 (底)	マ	12.9	3.6	9.7	黄橙	黄橙	細かな砂粒多	底部周1/3残、磨耗	底部、体部境甘い。口縁部外反。内底回転痕。切り離し痕なし。	
1-3A	20	土師器	椀	SD4	マ		(2.1)	6.0	橙	橙	普通	高台周一部残、底部見込み残	貼付輪高台。	
1-3A	21	黒色土器A類	椀	SD4	マ		(2.5)	7.2	オリーブ黒	橙	細かな砂粒	底部周一部残、磨耗著しい	輪高台、丸みを帯びた体部。	在地の可能性
1-3A	22	黒色土器A類	椀	SD4	マ	15.2	3.8	6.4	黒	にぶい黄橙	雲母多量入る	底部周、口縁周ともわずかに残。	口縁端部で外反、体部は丸を帯び浅い、高台小さい、断面三角形。内面口縁一体部横方向ミガキ見込タテ方向ミガキ。貼付輪高台。	搬入。
1-3A	23	緑釉陶器	椀	SD4	マ	14.8	(3.8)		オリーブ灰	オリーブ灰	良	口縁周わずかに残	丸みを帯びた体部、口縁は外反。濃緑色の釉をうすく施釉。外面回転痕残。	胎土は硬陶
1-3A	24	緑釉陶器	椀	SD4	マ	14.4	(2.1)		うすいオリーブ灰	オリーブ灰	良	口縁周わずかに残	濃緑色の釉がうすめに施釉。	胎土硬陶、京都産か
1-3A	25	須恵器	壺	SD4	マ		(7.4)	10.2	灰	灰	白い細かな砂粒入る	高台周1/2残	ハの字に開く長めの高台、丸みを帯びて立ち上がる。外面回転痕、内面強い回転痕。貼付高台。	底部外面ヘラ記号
1-3A	26	土師器	羽釜	SD4	マ		(5.6)		灰黄	にぶい黄橙	雲母カクセン石入る		外面強い板状工具ナデ	
1-3A	27	土師器	皿	SD5	マ	11.6	2.05	8.4	橙	にぶい黄橙	普通	底部周1/2、口縁周一部残	平底から外面ぎみに開く口縁。内面わずかに回転ナデ痕。切り離し後調整。	
1-3A	28	黒色土器B類	椀	SD5	マ	14.4	(2.5)		オリーブ黒	オリーブ黒	緻密	口縁周わずかに残		
1-3A	29	黒色土器B類	椀	SD5	マ		(2.6)		黒	黒	雲母多く入る	口縁わずかに残	口縁端部内面沈線状の段。内面もていねいな横方向ミガキ。	搬入 10世紀
1-3A	30	白磁	椀	SD5	マ		(2.35)		灰白	灰白	白	口縁周わずかに残		
1-3A	31	土師器	甕	SD5	マ	27.2	4.35		橙	にぶい黄橙	砂粒多、金雲母入る	口縁周わずかに残	口縁内面くの字状に屈曲。口縁内面横ハケ。	
1-3A	32	土師器	羽釜	SD5	マ	19.2	(3.25)		にぶい黄	明赤褐	砂粒多	口縁わずかに残	口縁端部段状になる。口縁直下にしつかりした鐙。	摂津C類

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
1-3A	33	土師器	羽釜	SD5	マ	35.4	(2.4)		にぶい 橙	にぶい 褐				摂津C類	
1-3A	34	土師質 土器	柱状高 台杯	SD5	マ		(3.5)	5.95	にぶい 橙	にぶい 黄橙	1cm大の石入る	底部周2/3残、上 面残	不整形中央付近に径8mmの孔、焼成前 穿孔。	燭台状	
1-3A	35	土師質 土器	柱状高 台杯	SD5	マ		(2.9)	5.2	灰白	にぶい 黄橙	普通	底部周残、上面残	中央部に径9mmの孔、焼成前穿孔。	燭台状	
1-3A	36	土製品	土錘	SD5	マ	全長 (2.85)	全幅 1.05	孔径 0.35		にぶい 黄橙		両端部欠損		重量 2.7g	
1-3A	37	鉄器	楔状 鉄器	SD5	マ	全長 3.3	全幅 1.2	全厚 0.7				表面剥離有り、楔 状になる可能性、 未処理		重量 6.7g	
1-3A	38	須恵器	杯	集石外	マ		(2.3)	9.5	灰白	灰白	良	高台周わずかに残	底部端部に輪高台、高台型付凹む。貼 付高台。		
1-3A	39	白磁	椀	集石外	マ	122	(3.0)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残	丸みを帯びた体部、口縁端部露胎。	口禿	
1-3A	40	白磁	皿	SE1	マ	9.3	2.8	6.0	灰白	灰白	良	底部周、口縁周と も1/4残	平底から丸みを帯び立ち上がる、口縁 端部内外面露胎、底部露体、茶褐色。		
1-3A	41	須恵器	壺	SE1	マ		(9.6)		灰	灰	良	頸部のみ残			
1-3A	42	土師器	羽釜	SE1	カク ラン		(4.9)		にぶい 黄橙	黒褐	細かな赤い砂粒 入る	口縁周欠損踵周わ ずかに残	断面台形状のしっかりした罫。内面横 ナデ。	摂津C類	
1-3A	43	土師質 土器	小杯	P13	マ	6.9	(1.15)		にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細かな砂粒	口縁周1/3残	外面回転痕。	うす手	
1-3A	44	土師質 土器	小杯	P13	マ	6.7	1.65	5.1	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細やかな砂粒	底部完形口縁周 2/3残	平底から短く立ち上がる。外内面とも 回転ナデ。内底、回転底。回転糸切り。		
1-3A	45	土師質 土器	杯	P13	マ	12.0	3.0		浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒	口縁周わずかに残	口縁部、内湾さみ。		
1-3A	46	銅製品	銅銭	P15		外径 2.4	内郭 0.7							寛永通宝	
1-3A	47	銅製品	銅銭	P15		外径 2.3	内郭 0.7							寛永通宝	
1-3A	48	白磁	椀	P19	マ		(2.15)	4.4	灰白	灰白	良	高台完形	畳付のみ無釉、貫入、黄色跡と帯びた 釉		
1-3A	49	白磁	皿	P24	マ		(2.8)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残	口剥げ。	白磁皿	
1-3A	50	土師器	羽釜	P56	マ	24.8	(3.8)		にぶい 橙	にぶい 橙	赤色の砂粒多 量入る	口縁周わずかに残	口縁端部、上方を向く、直下に罫が 付く、罫端部。罫下板状工具ナデ。	雲母入らず	
1-3A	51	青磁	椀	P58	マ		(2.0)		明オ リーブ 灰	明オ リーブ 灰	良	口縁周わずかに残	蓮弁文。		
1-3A	52	石器	石臼	P66	マ	全長 33.9	全幅 17.3	孔径 3.5					5mm大の黒色の塵が入る、摺目、表面 つぶれないが滑浅くなる。	重量 7150g	
1-3A	53	須恵器	壺	P77	マ		(4.7)		孔径 0.4	灰	灰		頸部周わずかに残	くの字に屈曲する頸部から大きく開く 上胴部。	摩耗著しい。上胴部、タ タキ痕か
1-3A	54	土師器	杯	P96	マ	15.2	4.05	11.2	にぶい 橙	にぶい 橙	赤い細かな砂粒	底部周、口縁周と もわずかに残	直線的に開く体部。	古代	
1-3A	55	青磁	椀	P97	マ		(2.85)		緑灰	緑灰		底部見込み一部残	内底見込陰刻文。		
1-3A	56	弥生 土器	壺	P101	マ		(18.2)		にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	砂粒多 量入る	頸部周1/2残	太い頸部、頸部～上胴部、微隆起、櫛 描直線文、豆粒状浮文、縦方向に粗い ハケ状の沈線文で加飾される。	薄手、高知県西部地域の 土器かⅢ～Ⅳ	
1-3A	57	弥生 土器	壺	P101	マ	7.8	(11.4)		黄橙	黄橙	1mm大の砂粒多 量入る	口縁周一部残頸部 周完形	細く伸びる頸部口縁でゆるやかに外 反。2条一組の沈線、刺突文施される。	弥生中期、高知県西部地 域の土器か	
1-3A	58	弥生 土器	壺	P101	マ	8.6	(14.9)		にぶい 黄橙	にぶい 黄褐	1mm大の砂粒多 量入る	口縁わずかに残 る、頸部～体部約 1/2残	ナデ肩から細い直立さみの頸部口縁ゆ るやかに開く。口縁下、回転力の弱い、 櫛描直線文、施文自体も弱い、櫛描文 にうすい円形浮文を円周に貼付する。	Ⅲ～Ⅳ、高知県西部地域	
1-3A	59	弥生 土器	鉢	P101	マ	11.6	(8.7)		灰白	にぶい 黄橙	1mm大の砂粒多 量入る	口縁周約1/2残	内湾する体部、口縁下に2個一組の穿 孔、対面して一対になると考える。内 面指オサエ痕と粗いナデ痕が残る。	焼成前外面から穿孔、 タール被熱有	
1-3A	60	黒色土 器A類	椀	P108	マ		(2.3)	(7.1)	灰	浅黄橙	細かな砂粒入る	高台わずかに残る			
1-3A	61	土師器	杯	集中2	ホ1 ～2	13.3	2.5	9.2	にぶい 橙	橙	細かな砂粒多 量入る	底部周1/2残口縁 周わずかに残	口縁外反。内底に回転痕。切り離し痕 なし。		
1-3A	62	土師器	皿	集中1	ホ 1、2	11.2	1.5	6.8	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細かな砂粒入る	底部周、口縁周と も一部残	平底から開く。		
1-3A	63	黒色土 器A類	椀	集中2	ホ 1-2	13.4	(3.9)		黒	にぶい 黄橙	雲母多く入る	口縁周わずかに残	口縁わずかに外反、内面沈線状の段。 内面横方向へラミガキ。	黒色土器A類、搬入	
1-3A	64	土師器	杯	集中2	ホ1 ～2	11.2	3.9	6.2	浅黄橙	にぶい 黄橙	良	底部完形磨耗	平底から直線的に開く体部。ヘラ切り。		
1-3A	65	土師器	甕	集中2	ホ 1-2	22.4	(4.3)		褐	褐	角閃石、雲母入 る	口縁周わずかに残	口縁短く屈曲、屈曲弱い。口縁ナデ。	外面煤付着古代	
1-3A	66	黒色土 器A類	椀	下P20	マ		(1.35)		黒	黄橙	良	高台わずかに残	内面黒色ミガキ。内面ミガキ、単位 性	黒色土器A類、在地の可 能性	
1-3A	67	土師質 土器	杯 底部	下P21	マ		(2.2)	6.2	にぶい 黄橙	灰黄褐	普通	底部周1/2残	平底から斜めに開く。内面強い回転痕。 切り離し痕不明板目痕。		
1-3A	68	須恵器	杯	下P92	マ		(1.4)	7.8	灰	灰	良	高台周わずかに残	底部端部に輪高台。		
1-3A	69	土製品	土錘	下P15	マ	全長 4.25	全幅 2.1	孔径 0.6	にぶい 黄橙			完形		重量 13.3g	
1-3A	70	土製品	土錘	下P91	マ	全長 3.6	全幅 1.3	孔径 0.5				ほぼ完形		重量 5.3g	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3A	71	土師質土器	杯	下P92	マ		(3.3)	5.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	底部周1/4残	平底から立ち上がる。	内面タール、煤付着
1-3A	72	黒色土器A類	椀	P73	マ		(4.4)		黒	にぶい黄橙	雲母多量に入る	口縁わずかに残	口縁端部内面、沈線状の段になる。内面ミガキ。	楠葉型 下P8
1-3A	73	弥生土器	甕	P73	マ	(14.5)			灰白	にぶい黄橙	砂粒少	口縁周わずかに残	短く外反する口縁。内面口縁下横ナデ。	下P8
1-3A	74	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.2	全幅1.6	孔径0.65		灰黄		ほぼ完形磨耗		重量6.8g 下P8
1-3A	75	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.1	全幅1.8	孔径0.7		褐灰		ほぼ完形		重量7.2g 下P8
1-3A	76	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.7	全幅1.4	孔径0.45		にぶい黒		片側欠損		重量6.1g 下P8
1-3A	77	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.35	全幅1.4	孔径0.5		灰		ほぼ完形		重量5.3g 下P8
1-3A	78	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.2	全幅1.4	孔径0.4		灰黄		完形		重量6.7g 下P8
1-3A	79	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.4	全幅1.45	孔径0.5		黄灰		完形磨耗		重量5.9g 下P8
1-3A	80	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.2	全幅1.5	孔径1.55		にぶい黄橙		片側端部欠損		重量5.2g 下P8
1-3A	81	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.4	全幅1.5	孔径0.4		黄灰		完形磨耗		重量5.4g 下P8
1-3A	82	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.3	全幅1.6	孔径0.5		にぶい黄		ほぼ完形		重量5.8g 下P8
1-3A	83	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.5	全幅1.45	孔径0.5		灰黄		片側端部欠損		重量6.3g 下P8
1-3A	84	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.4	全幅1.55	孔径0.55		にぶい黄橙		片側端部欠損		重量5.8g 下P8
1-3A	85	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.4	全幅1.7	孔径0.4		灰黄		完形磨耗		重量7.1g 下P8
1-3A	86	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.2	全幅1.4	孔径0.4		灰黄		完形		重量5.7g 下P8
1-3A	87	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.0	全幅1.3	孔径0.5		黄灰		完形		重量4.0g 下P8
1-3A	88	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.8	全幅1.8	孔径0.4		にぶい黄褐		ほぼ完形		重量8.9 下P8g
1-3A	89	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.7	全幅1.5	孔径0.4		オリブ黒		ほぼ完形		重量6.3g 下P8
1-3A	90	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.8	全幅1.4	孔径0.45		灰黄		完形		重量6.6g 下P8
1-3A	91	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.7	全幅1.45	孔径0.55		灰		片側端部欠損		重量7.2g 下P8
1-3A	92	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.1	全幅1.4	孔径0.4		灰		完形		重量4.9g 下P8
1-3A	93	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.25	全幅1.55	孔径0.4		オリブ黒		完形磨耗		重量7.0g 下P8
1-3A	94	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.4	全幅1.5	孔径0.45		にぶい黄橙		片側端部欠損		重量5.9g 下P8
1-3A	95	土製品	土鍾	P73	マ	全長4.0	全幅1.6	孔径0.55		灰黄		片側端部欠損		重量7.5g 下P8
1-3A	96	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.85	全幅1.7	孔径0.55		灰黄褐		片側欠損		重量9.0g 下P8
1-3A	97	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.5	全幅1.5	孔径0.5		褐灰		ほぼ完形		重量5.1g 下P8
1-3A	98	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.8	全幅1.6	孔径0.45		にぶい黄橙		完形		重量7.8g 下P8
1-3A	99	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.8	全幅1.5	孔径0.4		黄灰		ほぼ完形磨耗		重量7.3g 下P8
1-3A	100	土製品	土鍾	P73	マ	全長4.35	全幅1.75	孔径0.4		暗灰黄		片側端部欠損		重量9.9g 下P8
1-3A	101	土製品	土鍾	P73	マ	全長3.7	全幅1.45	孔径0.55				完形		重量6.9g 下P8
1-3A	102	土製品	土鍾	P73	マ	全長(5.5)	全幅1.55	孔径0.6		黄灰		両端部欠損		重量11.1g 下P8
1-3A	103	土製品	土鍾	P73	マ	全長4.95	全幅2.1	孔径4.5		にぶい黄橙		片側端部欠損		重量16.9g 下P8
1-3A	104	土製品	土鍾	P73	マ	全長4.9	全幅1.7	孔径0.55		にぶい黄橙		片側端部欠損		重量11.0g 下P8
1-3A	105	土製品	土鍾	P73	マ	全長4.4	全幅1.35	孔径0.4		灰黄		ほぼ完形		重量5.7g 下P8
1-3A	106	土製品	土鍾	P73	マ	全長4.1	全幅1.6	孔径0.5		灰		完形		重量7.7g 下P8
1-3A	107	土製品	土鍾	P73	マ	全長4.85	全幅1.45	孔径0.45		にぶい黄橙		片側端部わずかに欠損		重量7.9g 下P8
1-3A	108	土製品	土鍾	P73	マ	全長5.2	全幅1.4	孔径0.6		灰		片側端部欠損		重量8.5g 下P8

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3A	109	土製品	土鉢	P73	マ	全長 (5.4)	全幅 1.7	孔径 0.6		にぶい黄橙		両端部欠損		重量 12.4g 下 P8
1-3A	110	土製品	土鉢	P73	マ	全長 6.15	全幅 1.5	孔径 0.5		にぶい黄橙		ほぼ完形		重量 10.8g 下 P8
1-3A	111	土製品	土鉢	P73	マ	全長 5.7	全幅 1.3	孔径 0.55		にぶい橙		完形		重量 9.8g 下 P8
1-3A	112	土製品	土鉢	P73	マ	全長 5.5	全幅 1.8	孔径 0.6		にぶい黄橙		完形		重量 13.2g 下 P8
1-3A	113	土製品	土鉢	P73	マ	全長 4.85	全幅 1.4	孔径 0.45		黄灰		完形		重量 8.0g 下 P8
1-3A	114	土製品	土鉢	P73	マ	全長 5.4	全幅 1.4	孔径 0.55		灰黄		片側端部欠損		重量 9.7g 下 P8
1-3A	115	土製品	土鉢	P73	マ	全長 5.25	全幅 1.55	孔径 0.6		にぶい橙		完形		重量 12.2g 下 P8
1-3A	116	土製品	土鉢	P73	マ	全長 6.35	全幅 1.5	孔径 0.5		にぶい黄橙		ほぼ完形		重量 11.9g 下 P8
1-3A	117	土製品	土鉢	P73	マ	全長 4.9	全幅 1.65	孔径 0.5		灰白		完形		重量 10.6g 下 P8
1-3A	118	土製品	土鉢	P73	マ	全長 4.95	全幅 1.45	孔径 0.5		灰黄		両端部欠損われ口 甘くなる磨耗		重量 8.6g 下 P8
1-3A	119	土製品	土鉢	P73	マ	全長 4.65	全幅 1.6	孔径 0.4		にぶい黄		片側端部欠損		重量 9.9g 下 P8
1-3A	120	土製品	土鉢	P73	マ	全長 5.25	全幅 1.4	孔径 0.4		黄		完形		重量 9.6g 下 P8
1-3A	121	土製品	土鉢	P73	マ	全長 4.4	全幅 1.5	孔径 0.5		灰黄		片側端部欠損		重量 8.7g 下 P8
1-3A	122	土製品	土鉢	P73	マ	全長 3.9	全幅 1.3	孔径 0.45		にぶい橙		片側端部欠損		重量 5.5g 下 P8
1-3A	123	土製品	土鉢	P73	マ	全長 (5.2)	全幅 1.5	孔径 0.7		浅黄		両端部欠損		重量 8.1g 下 P8
1-3A	124	土製品	土鉢	P73	マ	全長 (3.2)	全幅 1.5	孔径 0.5		にぶい黄		両端部欠損		重量 4.6g 下 P8
1-3A	125	土製品	土鉢	P73	マ	全長 (3.3)	全幅 1.5	孔径 0.55		黄灰		片側欠損		重量 4.8g 下 P8
1-3A	126	土師器	杯	下 SK2	マ	14.6	5.0	7.0	橙	浅黄橙	1mm大の砂粒多量	口縁周 1/3 残、磨耗	平底から丸みを帯びた体部、口縁端部斜面をなす。	
1-3A	127	須恵器	杯	下 SK2	マ	13.9	(3.8)		灰	灰	良	口縁周わずかに残	丸みを帯びた体部、口縁直立し外反きみ。外内面とも回転痕。	
1-3A	128	須恵器	杯	下 SK2	マ	14.2	4.8	8.3	灰白	灰白	1mm大砂粒入る	口縁周 1/3 残	平底から立ち上がる、口縁部やや丸みを帯びる。外内面とも回転ナデ。	
1-3A	129	須恵器	杯	下 SK2	マ	13.3	3.7	9.6	灰	灰	砂粒入る	底部周 1/3 残、口縁周わずかに残	平底から立ち上がる。外内面とも回転ナデ。回転ヘラ。	
1-3A	130	須恵器 (底部)	下 SK2	マ		(3.3)	10.6	灰白	灰白	良	底部周一部残、表面剥離	平底から直線的に立ち上がる。		
1-3A	131	須恵器	蓋	下 SK2	マ	14.4	5.0		にぶい黄橙	にぶい黄橙		口縁周 1/3 残	稜はなく丸みを帯びた器形口縁端部丸い。外内面とも回転ナデ痕。	生焼けの発色、硬い
1-3A	132	須恵器	蓋	下 SK2	マ	16.8	(2.6)		灰白	灰白	普通	口縁周わずかに残	ゆるやかに開く体部、端部は面をなす。外面口縁部ナデ、体部ヘラズリ痕。	
1-3A	133	須恵器	高杯	下 SK2	マ	9.8	4.95	6.4	灰	灰	良	杯部 1/2、脚部 1/2 残	杯部ゆがむ。小型。回転ナデ痕。	
1-3A	134	須恵器	鉢	下 SK2	マ	17.5	7.7	9.4	灰	灰	砂粒多	口縁周わずかに残、表面あれる	平底から丸みを帯びた体部。外内面とも回転ナデ。	須恵器と考えるが焼き甘く瓦質状
1-3A	135	土師器	甕	下 SK2	マ	26.4	(4.0)		灰褐	にぶい褐	チャート粒多く入る	口縁わずかに残	外面口縁下半弱いタテハケ、内面強めのヨコハケ。	
1-3A	136	土師器	甕	下 SK2	マ	25.8	(8.8)		にぶい赤褐	にぶい赤褐	砂粒多	口縁周わずかに残	短かく外反きみに開く口縁端部は面。口縁外面指オサエ後ナデ、口縁下半ヘラナデ状、内面胴部横方向板ナデ状。	付着物多
1-3A	137	土師器	甕	下 SK2	マ	28.1	(8.0)		にぶい赤褐	にぶい橙		口縁周わずかに残	短かく外反する口縁、口縁端部面、胴部張らない。外面口縁ナデ、口縁下半から板ナデ内面ヨコハケ。	
1-3A	138	土師器	甕	下 SK2	マ	21.0	(5.8)		褐灰	灰黄褐	2mm大の砂粒	口縁周わずかに残	甘いくの字に屈曲する口縁部、端部はつまみ上げ面をなす。外面胴部タテハケ、内面口縁ヨコハケ。	
1-3A	139	石器	凹石	下 SK2	マ	全長 12.9	全幅 11.0	全厚 4.6				砂岩、両面敲打による凹み、片側側面弱い敲打痕、弥生に伴うか		重量 960g
1-3A	140	土製品	土鉢	下 SK2	マ	全長 6.15	全幅 2.7	孔径 (0.65)	にぶい黄橙	にぶい黄橙		タテ割れ 1/2 残		全厚 (1.7) g
1-3A	141	土師器	小皿	下 SK4 柱痕	マ	9.4	2.35	6.2	にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒多	底部完形、口縁周 1/2 残	平底の底部、直線的に開く体部、内底中央回転によりヘソ状。外面強回転痕。回転ヘラ切り。	
1-3A	142	土師器	小皿	下 SK4 柱痕	マ	9.7	2.55	6.6	橙	橙	細かな砂粒	完形、磨耗	平底から外反きみに開く、内底中央やヘソ状。外内面とも回転痕。回転ヘラ切り。	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
1-3A	143	土師器	杯	下SK4 柱痕	マ		(1.8)	7.7	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良	高台周わずかに残	円盤状高台。糸切り。		
1-3A	144	土師器	杯	下SK4	マ	13.2	4.3	8.4	浅黄橙	浅黄橙	良	ほぼ完形	平底、体部中央で屈曲変化。外面回転痕。回転ヘラ切り。		
1-3A	145	弥生土器	高杯 (脚)	下SK7	マ		(8.0)	9.2	にぶい 橙			脚端部周わずかに残	脚端部拡張凹線文、鉄器によると考える直線文。	弥生中期末	
1-3A	146	石器	石包丁	下 SK11	マ	全長 9.35	全幅 3.5	全厚 0.8					砂岩、石材表面、裏面剥離面、表面調整なし、片刃、一穴と考える	重量 33.1g	
1-3A	147	須恵器	杯	下 SK11	マ	12.8	4.6	7.8	黄灰	灰	2mm大の砂粒	底部周、口縁周ともわずかに残	平底から丸みを帯びて立ち上がる。外面回転痕。		
1-3A	148	須恵器	高杯	下 SK11	マ		(8.2)	10.8	灰	灰	1mm大の砂粒	脚裾部周1/3残、 磨耗	脚、細い柱状、裾部水平に開く端部面。 脚部内部螺旋状痕。		
1-3A	149	須恵器	(口縁)	下 SK11	マ	8.1	(4.7)		灰	灰	白い細かな砂粒	口縁周わずかに残	薄い逆ハの字状に開く。外面ナデ痕。	内面自然軸	
1-3A	150	土師器	甕	下	マ	18.3	(6.5)		にぶい 褐	にぶい 黄褐		口縁周わずかに残	ゆるやかなくの字状の口縁、端部は斜面。外面胴部粗いタテハケ。		
1-3A	151	土師質土器	小皿	下SD1- 1	中層	6.5	1.45	4.7	にぶい 黄橙	にぶい 橙	普通	底部周完形	平底から短かく外反して開く。外面回転ナデ。回転糸切り。	内面口縁端部タール附着	
1-3A	152	土師質土器	小皿	下SD1- 1	マ下	7.4	1.65	4.8	にぶい 橙	にぶい 橙	細かな砂粒	底部周、口縁周とも1/4残	平底。外面二段に回転ナデ。回転糸切り。		
1-3A	153	土師質土器	小皿	下SD1- 1	中	7.2	1.7	5.0	にぶい 橙	にぶい 橙	普通	底部周、口縁周とも1/3残	平底から短く立ち上がる、口縁一部歪み。外内面とも回転痕。回転糸切り。		
1-3A	154	土師質土器	小皿	下SD1- 1	中層	6.6	1.45	5.0	浅黄	浅黄	細かな砂粒	底部周、口縁周とも1/3残	平底からやや丸みを帯びて、短く立ち上がる、器壁うすい。内面見込横方向指ナデ。回転糸切り。		
1-3A	155	土師質土器	小皿	下SD1- 1	中層	6.5	1.5	5.0	褐灰	褐灰	普通	底部周、口縁周とも1/2残	平底、短く開く体部。外面、内面とも回転痕。回転糸切り。		
1-3A	156	土師質土器	杯	下SD1- 2	中層		(3.8)	7.6	橙	橙	良	底部周1/4残、磨耗	平底から立ち上がる、外面強い回転ナデにより段になる。外面強い回転ナデ。糸切り。		
1-3A	157	土師質土器	杯	下SD1- 1	マ、 下			7.6	浅黄橙			底部周1/2残	平底。内面見込強い横方向、2条の指ナデ。回転糸切り。		
1-3A	158	土師器	碗	下SD1 EW TR1	マ		(2.9)	6.2	浅黄橙	にぶい 橙	普通	高台周わずかに残	幅の広い低めの高台。外面わずかに回転痕。		
1-3A	159	須恵器	碗	下SD1- 1	下層	16.4	(2.8)		灰白	灰白	細かな砂粒	口縁周一部残、磨耗	丸みを帯びた体部、口縁部外反。		
1-3A	160	須恵器	碗	下SD1- 1	上、 マ		(1.45)	7.3	灰白	灰白		高台わずかに残	輪高台。内面単位の短い分割ハケ。貼付高台。		
1-3A	161	須恵器	(底部)	下SD1- 2	中層		(2.3)	9.2	灰	灰	普通	底部1/2残	厚手の底部、内面に自然軸。	器種不明	
1-3A	162	須恵器	杯	下SD1- 1	下層	16.2	(2.5)		灰	灰	白い細かな砂粒	口縁周わずかに残	直線的に開く。回転ナデ痕。	器形	
1-3A	163	緑釉陶器	碗	下SD1- 2	下層		(2.2)	6.0	灰	灰		底部周わずかに残	円盤高台緑色のうすい釉が高台外面まで施釉。外面回転ケズリ痕。回転、削り出し。	京都系、硬陶	
1-3A	164	青磁	碗	下SD1- 1	マ、 中		(2.4)		灰オ リーブ	灰オ リーブ				内面草花文	
1-3A	165	白磁	碗 (底部)	下SD1- 2	下層		(1.85)	5.1	灰オ リーブ	灰オ リーブ	普通	高台周1/3残	高台露胎。		
1-3A	166	白磁	皿	下SD1- 1	上、 マ		(1.75)	5.5	灰白	灰白	良	底部周わずかに残	平底、底部露体し褐色。		
1-3A	167	備前焼	播鉢	下SD1- 1	上、 マ	27.1	(5.6)		黄灰	黄灰	細かな砂粒多	口縁周わずかに残	口縁端部拡張、内面強い横方向ハケの後摺目。内面横方向ハケ。	器形は備前、焼成須恵質または瓦質の焼きしまるもの、内面の横ハケ、産地不明	
1-3A	168	瓦質土器	鍋	下SD1- 1	中層	17.8	(6.0)		暗灰	黄灰	細かな砂粒	口縁周わずかに残	直立ぎみの口縁、端部は上方を向く面。外面口縁端部ナデ、口縁下指オサエ。		
1-3A	169	土師質土器	甕	下SD1	マ	24.4	(16.65)		明黄褐	灰黄褐	細かな砂粒	口縁周一部残	口縁内面稜線、やや受け口状、端部つまみ上げる、肥厚なし、器壁うすい。口縁回転ナデ。	上胴部突帯なし、河内系、10世紀代、搬入、煤多	
1-3A	170	土製品	土錘	下SD1- 1	中マ	全長 5.4	全幅 2.35	孔径 0.8					端部わずかに欠損	重量 24.7g	
1-3A	171	銅製品	銅銭	下SD1- 1	中マ	外径 2.2	内郭 0.8								
1-3A	172	銅製品	銅銭	下SD1- 1	中層	外径 2.4	内郭 0.6								
1-3A	173	銅製品	銅銭	下SD1	中マ	外径 2.4	内郭 0.7								
1-3A	174	鉄器	鉄釘	下SD1	上層	全長 4.7	全幅 1.1	全厚 0.8					先端欠損	鉄釘、頭部折り曲げ	重量 3.9g
1-3A	175	鉄器	鉄釘	下SD1 パンク	上層	全長 5.0	全幅 1.1	全厚 0.6					断面方形	鉄釘頭部折り曲げ	重量 4.3g
1-3A	176	鉄器	鉄釘	下SD1	上層	全長 3.7	全幅 0.9	全厚 0.5					先端欠損	鉄釘、頭部折り曲げ	重量 3.2g

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3A	177	鉄器	鉄釘	下 SD1	中層	全長 3.1	全幅 0.9	全厚 0.7						重量 2.2g
1-3A	178	鉄器	鉄釘	下 SD1	中層	全長 2.3	全幅 0.5	全厚 0.4				先端欠損	鉄釘、頭部折り曲げ	重量 0.7g
1-3A	179	鉄器	鉄釘	下 SD1	下層	全長 3.8	全幅 0.7	全厚 0.6					鉄釘、頭部折り曲げ弱い	重量 1.9g
1-3A	180	鉄器	鉄釘	下 SD1	中層	全長 4.6	全幅 0.5	全厚 0.4				残存不良、頭部わずかに残る		重量 2.0g
1-3A	181	鉄器	金具	下 SD1	マ中	全長 3.9	全幅 1.9	全厚 1.2					先端円環状部分を組み合わせた金具	重量 7.8g
1-3A	182	弥生土器	壺	下 SD2	マ	17.0	(20.82)		褐灰	橙	チャート粒入る	口縁周完形	短かく直立ぎみ頸部、口縁部上下に拡張凹線文、キザミのある 3 本 1 組の棒状浮文を貼付。外面頸部、回転力のある横ナデ、上胴部タテハケ、下胴部タテ方向ミガキ、内面下胴部ヘラケズリ痕	凹線文土器、中期
1-3A	183	弥生土器	壺	下 SD2	マ	18.1	(9.25)		橙	橙	赤色チャート粒入る	口縁周 1/2 残	口縁部上下に拡張、頸部木口による長いキザミ。	凹線文口壺、中期末
1-3A	184	弥生土器	壺	下 SD2	マ	16.1	(3.6)		にぶい黄橙	橙	角礫、砂粒多	口縁周一部残	大きく開く口縁、口縁部肥厚し、細長いキザミ、豆粒状浮文、肥厚下ナデにより集合沈線状になる。	中期西部地域土器
1-3A	185	弥生土器	壺(口縁)	下 SD2	マ		(2.65)		橙	明黄褐	赤色砂粒多	口縁わずかに残	口縁部粘土帯貼付により肥厚させ、太いキザミ、肥厚下ための沈線。	
1-3A	186	弥生土器	甕	下 SD2	マ		(18.5)	4.8	褐灰	灰褐	砂粒多	底部周 3/4 残、胴部周 1/3 残、器壁うすい	小さな底部、肩が張る器形、肩部、ナデによる 6 条の微隆起、棒状微隆起のぐる、頸部、浮文、多条沈線。外面胴部下半、ヘラナデ。	外面煤、内面タール付着、西部地域の中期末土器
1-3A	187	弥生土器	鉢	下 SD2	マ	10.6	(5.1)		灰褐	にぶい褐	砂粒多	口縁一部残	内湾する体部。	被熱
1-3A	188	弥生土器	(底部)	下 SD2	マ		1.8	5.5	黄灰	明黄褐	チャート角礫粒多	底部完形		中期の西部地域のものか
1-3A	189	弥生土器	甕	下 SD11	マ	14.0	15.0		橙	橙	赤い砂粒多	口縁わずかに残、磨耗	口縁全体に肥厚ぎみ端部弱い沈線。	
1-3A	190	弥生土器	(底部)	下 SD11	マ		(6.6)	7.4	灰黄	橙	1mm 大の砂粒多	底部周 1/2 残	やや上げ底ぎみの底部、外反ぎみに開く体部。外面、タテ方向ヘラナデ。	
1-3A	191	石器	叩石	下 SD11	マ	全長 11.3	全幅 7.1	全厚 3.8					砂岩両面中央敲打痕	重量 475g
1-3A	192	石器	叩石	下 SD11	マ	全長 12.3	全幅 8.0	全厚 4.0					砂岩両面、両端部、両側面とも敲打痕、側面敲打痕以外に線状痕	重量 600g
1-3A	193	石器	叩石	下 SD11	マ	全長 9.75	全幅 8.0	全厚 6.1					砂岩、5 面使用、残り 1 面摺った痕跡	重量 800g
1-3A	194	石器	叩石	下 SD11	マ	全長 11.1	全幅 8.9	全厚 5.0					砂岩小判形、両端、タタキ痕、両面中央凹む、片側側面タタキ痕	重量 750g
1-3A	195	弥生土器	甕	下 SD12	マ	17.2	(11.4)		黒褐	灰黄褐	砂粒多量に入る	口縁わずかに残、表面剥離	頸部のあるカメ、加飾のある土器、口縁扁平な微隆起、線状のキザミ、頸部、回転力のない弱い多条沈線、頸部微隆起、多条沈線、線状キザミ。	西部地域土器
1-3A	196	弥生土器	甕	下 SD12	マ	15.2	(7.9)		黒灰	黄橙	砂粒多	口縁わずかに残	貼付口縁、口縁から上胴加飾、弱い多条沈線、竹管文、弱く細いキザミ。	西部地域土器、中期
1-3A	197	弥生土器	甕	下 SD12	マ	17.1	(10.4)		橙	褐灰	砂粒多量に入る	口縁周ほぼ完形	ゆるやかに開く口縁、口縁部表面、加飾なし。	内面煤、西部地域土器
1-3A	198	弥生土器	甕	下 SD12	マ	17.6	(2.0)		にぶい褐	にぶい褐	砂粒多量に入る	口縁周 1/2 残	大きく開く口縁、口縁部下キザミ、口縁下微隆起、弱い多条沈線。内面ヘラナデ状。	西部地域土器
1-3A	199	弥生土器	甕	下 SD12	マ	20.4	(3.1)		にぶい橙	灰褐	砂粒多量に入る	口縁周 1/3 残	大きく開く口縁、端部下キザミ、口縁下微隆起、微隆起にかけて、弱いクシによる多条沈線。	198 と同一の文様構成西部地域土器
1-3A	200	弥生土器	甕	下 SD12	マ		(6.4)		にぶい黄橙	褐灰	砂粒多	上胴部わずかに残	竹管文、クシ描き多条沈線、縦方向クシ描きによる列点状文様、すべてネガ文様。	西部地域土器
1-3A	201	弥生土器	壺	下 SD12	マ	8.2	(10.8)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	砂粒多	口縁周完形、表面剥離	細頸壺、口縁粘土貼り付けにより肥厚、端部上方を向く面、口縁部から肥厚部、細い線状のキザミ、頸部弱い多条沈線か。外面縦方向指ナデ、内面シボリ痕。	Ⅲ～Ⅳ、高知県西部地域
1-3A	202	弥生土器	甕	下 SD12	マ		(3.3)		にぶい黄褐	にぶい黄橙	砂粒多	口縁わずかに残	口縁部下垂状になりキザミ有、クシによる多状沈線。	内面煤付着、西部地域土器甕
1-3A	203	弥生土器	(底部)	下 SD12	マ		(1.3)	5.4	にぶい褐	にぶい褐	砂粒多	底部周完形	正円に近い。	煤付着、西部地域土器甕底部と考える
1-3A	204	弥生土器	甕	下 SD12	マ	22.8	(5.95)		にぶい黄橙	灰黄褐	砂粒多	口縁わずかに残	貼付口縁、口縁下端キザミ、貼付下弱いクシによる多条沈線。	西部地域土器
1-3A	205	弥生土器	壺	下 SD12	マ		(19.0)	7.1	にぶい褐	にぶい褐	1mm 大の砂粒	胴部から底部ほぼ完形	外面上胴部粗いヘラナデ。	外面煤付着、内面なし、粘土帯接合部で割れる
1-3A	206	弥生土器	高杯	下 SD12	マ		(15.0)	9.4	にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒	脚部完形	円盤充填、脚端部に拡張凹線文、脚外面、鋸歯文二段、間に羽状文。脚内面上部しぼり、横方向ヘラケズリ。	凹線文土器

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3A	207	弥生土器	壺	下SD13		16.0	(6.4)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	砂粒多	口縁わずかに残	貼付口縁の可能性、口縁部にわずかに段、段下部クシ描き文。	西部地域土器
1-3A	208	弥生土器	壺	下SD13		22.0	(1.7)		にぶい橙	にぶい橙	角礫砂粒多	口縁わずかに残	大きく開く口縁、下端キザミ、微隆起、弱いクシ描き文。	西部地域土器
1-3A	209	弥生土器	壺	下SD13	マ		(3.8)		にぶい黄	橙	砂粒多量に入る	頭胴間わずかに残	豆粒状浮文、微隆起弱い、多条沈線が施される。	薄手、西部地域土器
1-3A	210	弥生土器	壺	下SD13		24.0	(5.1)		にぶい橙	にぶい褐		口縁わずかに残	口縁貼り付けにより断面方形状に拡張、大きなキザミ	Ⅲ～Ⅳ、高知県西部地域
1-3A	211	黒色土器B類	椀	下P24	マ	16.0	(3.6)		オリーブ黒	オリーブ黒	雲母	口縁周わずかに残	口縁端部内傾する面。	
1-3A	212	弥生土器	(口縁)	下P65	マ	19.0	(2.5)		にぶい黄褐	にぶい橙	砂粒多	口縁わずかに残	大きく開く口縁、下端キザミ。	西部地域土器
1-3A	213	弥生土器	甕	下P125	マ		(6.0)		にぶい褐	にぶい黄橙	普通	上胴部わずかに残	クシ描き、ドーナツ状浮文、棒状、微隆起。	外内面に煤付着
1-3A	214	弥生土器	壺	下P125			(5.0)		黄灰	黄灰	砂粒多	頭部わずかに残	微隆起の間にクシ描き文。	
1-3A	215	弥生土器	甕	下P125	マ	18.9	(7.1)		にぶい黄褐	にぶい黄褐	砂粒多	口縁わずかに残	大きく開く口縁、口縁下端キザミ、微隆起、回転力の弱いクシ描き、頭部下扁平な粘土帯に2条の竹管文。	西部地域土器甕
1-3A	216	弥生土器	(底部)	下P125	マ		(4.2)	7.0	灰黄褐	にぶい黄橙	角礫砂粒多	底部周1/3残	内面弱い横方向ヘラナデ。	
1-3A	217	弥生土器	甕	下P125	マ		(5.5)		にぶい黄	にぶい黄橙	砂粒多	上胴部わずかに残	微隆起、クシ描き文、ドーナツ状浮文。	西部地域土器
1-3A	218	弥生土器	甕	下P125	マ		(4.4)		灰黄褐	にぶい黄橙	普通	上胴部わずかに残	微隆起の間にクシ描き文、うすい幅広い粘土帯貼付後棒状キザミ。	外面煤付着
1-3A	219	弥生土器	(底部)	下P125	マ	5.2	5.2		灰黄褐	灰黄褐	砂粒多	底部周完形	器壁うすい、小さな底部。	外面被熱
1-3A	220	土師器	椀	下P148	マ	15.1	5.85	5.6	浅黄橙	浅黄橙	良	高台完形、口縁周3/4残、表面剥離	幅広く低い輪高台から丸みを帯びた体部口縁外反し端部丸みを帯びる。底部切り離し痕不明、貼付高台。	在地系か
1-3A	221	土師器	羽釜	下P157	マ	21.7	(3.75)		灰黄褐	灰黄褐	石英粒多	口縁周わずかに残	上方を向く口縁端部、口縁直下に大きな罫。	摂津C類
1-3A	222	弥生土器	壺	下P172	マ		(7.4)		にぶい黄橙	褐灰	砂粒多	頭胴間わずかに残	ドーナツ状浮文、微隆起の間に弱いクシ描き文、棒状微隆起。	
1-3A	223	弥生土器	壺	下P172	マ		(15.05)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	砂粒多量に入る	頭部周1/3残	長い頭部、微隆起帯と微隆起帯の間に縦方向の細い棒状微隆起。	西部地域土器
1-3A	224	弥生土器	壺	下P172	マ		(6.9)		にぶい黄橙	灰黄褐		頭部～上胴部わずかに残	頭胴間に加飾、微隆起帯に弱い騎描文、竹管文状の刺突文縦長のキザミが施される	器壁うすく砂粒多、西部地域の土器
1-3A	225	石器	凹石	下P172	マ	全長93	全幅7.55	全厚5.7					砂岩、片面のみ敲打による凹み	重量 575g
1-3A	226	土師器	小皿		ホ1-2	9.0	1.6	6.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm大の砂粒	口縁周1/4残、磨耗	ての字状口縁皿に似る。内面回転痕ある。	回転台使用の可能性
1-3A	227	土師器	皿		ホ1、2	10.8	1.85		浅黄橙	にぶい黄橙	普通	口縁周1/3残	不整形、体部と底部の境段になる内底一部強いナデにより凹むが全体に浅い。内面ナデ。切り離しなし。	ての字状の皿とは異なる
1-3A	228	土師質土器	皿		ホ1-2	9.85	1.9	7.9	浅黄橙	にぶい黄橙	普通	ほぼ完形	平底からゆるやかに外反して開く、内面浅い。外内面回転痕。切り離し後ナデ。	
1-3A	229	土師質土器	皿		ホ1-2	13.0	1.4	7.9	にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒	底部周、口縁周とも2/3残、磨耗	平底から大きく開く、浅い体部。二段のナデによる外反。外面回転ナデ。回転ヘラ切り後、ナデ。	底部外面に煤付着定形復元
1-3A	230	土師器	皿	集中1	ホ1-2	12.9	2.0	9.7	橙	橙	細かな砂粒多	底部周、口縁周一部残、磨耗	突出ぎみで円盤高台状の底部から直線的に開く体部口縁端部つまみ上げ状。不明。糸切りでない可能性。	
1-3A	231	土師器	皿	集中1	ホ1-2	12.7	(1.7)		にぶい橙	にぶい黄橙	細かな砂粒	口縁周1/3残	浅く丸みを帯びた体部。口縁部ナデ。不明。	
1-3A	232	土師器	高台付皿		ホ1、2	11.0	(3.05)		橙	橙	普通	皿部、口縁1/3残、磨耗	浅い皿に脚が付く。	
1-3A	233	土師器	杯		ホ1-2	12.4	2.5		橙	橙	細かな砂粒	底部周1/3、口縁周1/4、磨耗	底部、体部境界甘い、外反する口縁。内面口縁回転ナデ、底部強い回転痕。回転ヘラ切り後調整か。	
1-3A	234	土師器	杯	集中1	ホ1-2	12.8	2.6	9.2	にぶい橙	橙	細かな砂粒多	底部周1/3、口縁周わずかに残、磨耗	底部体部境界甘い、外反して開く口縁。内面わずかに回転痕。切り離し不明。	
1-3A	235	土師質土器	杯		ホ1-2	13.0	3.3	6.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部周約1/3残、口縁周わずかに残	平底から直線的に開く体部、口縁外反ぎみ。外面回転ナデ。回転ヘラ切り。	
1-3A	236	土師器	皿		ホ1-2	10.6	2.3	6.7	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒	底部周、口縁周とも1/2残	平底から立ち上がる、口縁外反ぎみ。外面回転ナデ。回転ヘラ切りの可能性。	
1-3A	237	土師質土器	杯		ホ1-2	12.2	3.6	7.1	にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒多	底部周1/3残、口縁周一部残、磨耗	平底から直線的に開く体部。調整により、切り離し不明。	
1-3A	238	土師器	杯	集中1	ホ1-2	12.9	4.4	8.2	にぶい橙	にぶい橙		底部周、口縁周とも2/3残	平底から直線的に立ち上がる、口縁端部外反ぎみ。底部突出ぎみ。外面回転痕、内底回転ナデ。回転ヘラ切り、後調整。	
1-3A	239	土師器	杯		ホ1-2	11.45	3.5	7.6	橙	橙	細かな砂粒	底部周1/3残、口縁周一部残	底部、体部境界屈曲強く体部外反、底部中央に向って傾斜。切り離し後調整。	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3A	240	土師質土器	杯	集中1	ホ1-2	12.85	5.3	7.3	橙	にぶい橙	細かな砂粒多	底部完形口縁周1/4 残	円盤高台状の底部、口縁ゆるやかに外反。内底、回転痕残る。切り離し痕不明。	底部わずかに丸みを帯びる
1-3A	241	土師質土器	柱状高台杯		ホ1-2	7.6	4.4	5.4	浅黄橙	にぶい橙	細かな砂粒入る	底部完形口縁周わずかに残	柱状高台から受け皿状になる、中央部孔、二段になる、焼成前穿孔。外面底部から斜め上方に強いナデ。回転糸切り。	燭台状
1-3A	242	土師質土器	杯		ホ1-2		(2.2)	6.0	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部周完形	中空の柱状高台、中央部ラセン状に突出。内面ラセン状に回転痕。鼓状の形になるか。	
1-3A	243	土師器	椀		ホ1-2	15.2	6.2	6.6	浅黄橙	にぶい橙	石英粒子多く入る	高台完形口縁周1/2 残	高めの口縁から丸みを持つ体部口縁でわずかに外反さみ。外内面ともわずかに回転痕。貼付輪高台、径、112、113と同一切り離し痕不明、高台貼付後ナデ。	淡く橙色が剥離前の表面か
1-3A	244	土師器	椀		ホ1-2	15.6	(5.05)		灰白	灰黄	8mm大の小石入る	口縁周1/3 残	丸みを帯びた体部、口縁外反。外面口縁回転ナデ、体部回転ヘラケズリ。	白色、内面火禱、うすい
1-3A	245	土師器	椀		ホ1-2	15.8	(4.4)		灰白	灰白	良	口縁周一部残	丸みを帯びた体部。外面強い回転痕、下半ミガキ。	焼成良く、外面火禱
1-3A	246	土師器	椀		ホ1-2		(3.05)	6.7	黄白	黄白	良	高台周わずかに残	輪高台から丸みを帯びた体部。外面回転痕わずかに残。貼付高台。	白色、内面火禱、高台径7cm前後
1-3A	247	土師器	椀		ホ1-2		(2.0)	6.2	灰白	灰白	良	高台周1/3 残	輪高台	白色の胎土
1-3A	248	土師器	椀		ホ1-2		(1.5)	6.8	灰白	浅黄橙	細かな砂粒	高台周2/3 残	貼付輪高台。底部ナデによる仕上げ。	
1-3A	249	土師器	椀		ホ1-2		(2.5)	7.2	灰白	灰白	良	高台周1/3 残	外側にふんばった高台、丸みを帯びて開く。外面回転痕。	白色、須恵器の生焼けに近いが土師器と考える高台約7cmで他の土師器椀と同一
1-3A	250	土師器	椀		ホ1-2		(2.65)	6.6	淡黄	淡黄	良	高台周完形	内面見込火ダグスキ状。内外面ともいねいなミガキ。回転ナデ後ミガキ。	白色、在地の可能性
1-3A	251	須恵器	蓋		ホ1-2		(1.6)		灰白	黄灰	普通	天井部一部残	うすい宝珠形のつまみ。外面天井部回転ケズリ痕。	つまみ径2.8cm
1-3A	252	須恵器	蓋		ホ1-2	13.5	2.7		灰	灰	白い砂粒入る	ほぼ完形	円盤状のつまみ、口縁端部つまみ出す。外内面とも口縁部回転ナデ。	つまみ径2.2cm厚手
1-3A	253	須恵器	蓋		ホ1-2		(1.9)		灰黄	灰		天井部一部残	円盤状のつまみの上に小さなつまみが付き二段になる。天井部ケズリ痕。	壺蓋
1-3A	254	須恵器	蓋		ホ1-2	17.0	(1.8)		灰白	灰白	1mm大砂粒入る	口縁周わずかに残、磨耗	平坦な天井部、口縁端部弱いつまみ出し。外面天井部回転ケズリ内面回転ナデ。	
1-3A	255	須恵器	皿		ホ1-2	16.4	2.0	13.4	灰	灰	普通	口縁周わずかに残	やや外反さみの体部、口縁端部つまみ上げ状。外面回転ナデ、内面底部まで回転ナデ。	
1-3A	256	須恵器	皿		ホ1-2	15.4	2.5	11.6	オリープ灰	オリープ灰	白い砂粒入る	底部周完形、口縁わずかに残	口縁端部つまみ上げ状、内面沈線状になる。口縁外面回転ナデ。底部ヘラ切り痕。	
1-3A	257	須恵器	皿		ホ1-2	16.2	2.2	12.0	灰	灰	良	底部周、口縁周ともわずかに残	口縁端部外反。外内面とも回転ナデ痕。	
1-3A	258	須恵器	杯		ホ1-2		(5.0)	13.8	灰黄	灰黄	良	高台周1/3 残	高台から直線的に立ち上がる。外内面とも回転ナデ、ていねいな仕上げ。	杯の可能性が高い
1-3A	259	須恵器	椀		ホ1-2		(1.0)	6.5	灰白	灰白	普通	高台完形	円盤状高台、内面剥落、回転糸切り。須恵器碗。	
1-3A	260	黒色土器B類	椀		ホ1-2	14.8	4.9	8.6	黒	黒	雲母、長石多量	高台、口縁周ともわずかに残	ゆるやかに立ち上がる体部、高台は底部端に付く。全面に幅の狭いミガキ。	楠葉黒色土器B類、IV類か10世紀半ば
1-3A	261	黒色土器A類	椀		ホ1-2		(2.85)	7.4	黒	赤褐	細かな砂粒	高台周ほぼ完形、磨耗	丸みを帯びた体部。貼付輪高台。	椀在地
1-3A	262	黒色土器A類	椀		ホ1-2		(2.5)	6.6	黒	にぶい褐	細かな砂粒	高台周1/4 残、磨耗	丸みを帯びた体部。貼付輪高台。	在地
1-3A	263	黒色土器A類	椀		ホ1-2		(2.7)	7.3	黒	浅黄橙	普通	底部周一部残	丸みを帯びた体部。貼付輪高台。	断面にも付着物、在地
1-3A	264	黒色土器A類	椀		ホ1-2		(2.2)	7.2	黒	赤褐	砂粒入る	高台周完形、磨耗	輪高台から丸みを帯びて開く。底部切り離し不明。	
1-3A	265	瓦器	椀		ホ1	12.3	3.1	3.0	灰	灰白	普通	底部残、口縁周1/4 残	浅い体部、口縁外反強い高台、三日月状の低い粘土を貼付、形骸化。外面口縁弱いナデ、体部指オサエ、内面ミガキほとんどなし。切り離しなし。	外面炭素吸着ほとんどなし、内面炭素吸着弱いIV2～13世紀後～14世紀
1-3A	266	瓦器	皿		ホ1-2	9.7	1.55		黄灰	黄灰		口縁周一部残	口縁短く外反。外面、口縁ナデ、体部指オサエ。切り離しなし。	外内面に黄灰色の付着物
1-3A	267	緑釉陶器	椀		ホ1	12.3	(2.45)		オリープ灰	オリープ灰	白い細かな砂粒	口縁周わずかに残	外反する口縁端部、濃緑色の釉厚手、内面斑。	胎土軟陶と考えるが焼成良
1-3A	268	白磁	椀		ホ1-2	15.6	(3.0)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残	玉縁口縁、内面釉だけ。	白磁IV類
1-3A	269	白磁	椀		ホ1		(3.15)	6.1	灰白	灰白	1mm大の石入る	高台周1/3 残	高い高台、下半露胎。高台ケズリ痕。	森田分類V類
1-3A	270	白磁	皿		ホ1-2		(1.4)	3.8	灰オリープ	灰白	良	底部周2/3 残	平底から大きく開く、体部下～底部無釉。回転ケズリ痕。	
1-3A	271	青磁	椀		ホ1-2	16.8	(4.6)		オリープ灰	オリープ灰	良	口縁周わずかに残	厚手の釉、蓮弁文、鏽強い。	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3A	272	白磁	椀		ホ 1		(3.0)	6.0	灰白	灰黄	粗めの土、緻密でない	高台周完形	白濁釉、体部下半一露胎。外面体部下ケズリ痕。	
1-3A	273	天目茶碗	茶碗		ホ 1-2	11.2	(4.8)		黒	黒	陶質	口縁周わずかに残、外面残存良好	口縁部斜め上方に外反、体部外部釉剥ぎにより露胎。	胎土陶質、瀬戸
1-3A	274	銅緑釉	皿		ホ 1	11.3	(2.4)		緑灰	灰白		口縁わずかに残	外面うすい緑色、内面濃緑色。外面回転ケズリ。	内野山か 近世
1-3A	275	須恵器	片口鉢		ホ 1-2	21.6	(3.0)		灰	灰		口縁周わずかに残、片口部わずかに残	口縁部拡張小さい、体部うすい。外面回転痕。	東播系
1-3A	276	土師器	甕		ホ 1-2	16.7	(5.45)		にぶい橙	灰褐	雲母多	口縁周わずかに残	短かくくの字に屈曲する口縁。	
1-3A	277	土師器	甕		ホ 1、2	16.0	(4.2)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	雲母入る	口縁周わずかに残	ゆるやかなくの字の口縁、口縁部沈線状の凹面。口縁下横方向ヘラケズリ。	古代
1-3A	278	土師器	羽釜		ホ 1-2	19.7	(5.8)		明赤褐	明赤褐	全雲母入る	口縁周わずかに残	口縁部上方を向く凹面直下には鈎が付く、鈎部凹面。外面体部タテハケ内面口縁横ナデ。	摂津 C 類
1-3A	279	土師器	羽釜		ホ 1-2	20.4	(5.7)		にぶい黄褐	にぶい黄褐	砂粒多大きな砂粒、金雲母入る	口縁周、鈎周とも一部残	口縁部面をなし上方を向く。直下に太い鈎が付く。外面体部タテハケ。	摂津 C 類
1-3A	280	土師器	羽釜		ホ 1-2	24.0	(4.8)		暗灰黄	にぶい褐	雲母入る	口縁周一部残	口縁部上方を向く凹面直下に鈎が付く、鈎部凹面。外面、口縁、鈎回転ナデ、体部タテハケ、内面横ナデ。	摂津 C 類
1-3A	281	土師器	羽釜		ホ 1-2	24.6	(5.6)		にぶい赤褐	にぶい赤褐	砂粒多	口縁周わずかに残	口縁部凹面状、直下に鈎、鈎部凹面。外面体部タテハケ。	摂津 C 類
1-3A	282	土師器	羽釜		ホ 1、2	20.6	(3.9)		にぶい黄褐	にぶい黄褐	砂粒多	口縁周、鈎周ともわずかに残	口縁部凹面状で上方を向く。鈎部つまみ上げる。口縁内面強い指オサエ。	摂津 C 類
1-3A	283	須恵器	小型壺		ホ 1-2		(6.3)	5.8	灰白	灰白		高台周完形、胴屈曲部で欠損	小型の壺と考える。外面下部ヘラケズリ。貼付高台。	
1-3A	284	粗製土器	焼塩壺		ホ 1-2		(6.2)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	砂粒多		粗製、中片端部、わずかに残内面布目、胎土、土師質	
1-3A	285	粗製土器	焼塩壺		ホ 1-2		(7.1)		灰	灰	砂粒多		粗製、中片、端部わずかに残内面布目、胎土須恵質になる	
1-3A	286	粗製土器	焼塩壺		ホ 1-2		(3.95)		にぶい橙	にぶい橙	砂粒多		粗製、小片、端部わずかに残内面布目、胎土土師質	
1-3A	287	粗製土器	焼塩壺		ホ 1-2		(4.3)		灰	灰	砂粒多		粗製小片、端部わずかに残内面布目、胎土須恵質になる	
1-3A	288	土製品	土鍾		ホ 1-2	全長 (5.0)	全幅 1.9	孔径 0.5				片側端部欠損		重量 14.6g
1-3A	289	土製品	土鍾		ホ 1-2	全長 (5.9)	全幅 2.0	孔径 0.7				片側欠損		重量 18.8g
1-3A	290	土製品	土鍾		ホ 1-2	全長 6.5	全幅 2.2	孔径 0.6				完形円筒形に近い		重量 28.3g
1-3A	291	土製品	土鍾		ホ 1-2	全長 6.2	全幅 3.2	孔径 1.1		褐灰		片側端部欠損大型土鍾長さに比して径大		重量 51.1g
1-3A	292	土製品	土鍾		ホ 1-2	全長 (5.3)	全幅 2.1	孔径 0.6				片側欠損		重量 17.2g
1-3A	293	土師質土器	小杯		ホ 1-2	6.5	2.15	5.0	にぶい橙	にぶい橙	良	底部周、高台周ともわずかに残	柱状高台状底部から外反する内底おちこむ。	
1-3A	294	土師器	皿		ホ 1-2	10.0	1.95	6.3	橙	橙	普通	底部周 1/2 残、口縁周わずかに残、磨耗	平底から斜めに直線的に開く、器高に比して厚い底部。切り離し痕なし。	
1-3A	295	土師器	皿		ホ 1-2	13.0	2.8	9.0	にぶい橙	にぶい黄橙	細かな砂粒	底部周、口縁周とも一部残	平底から外反ぎみに開く。切り離し後調整か。	
1-3A	296	土師器	杯		ホ 1-2	15.9	(3.3)		橙	橙	細かな雲母入る	口縁周わずかに残	口縁直立きみで短く外反、内面沈線状の段。外内面とも回転痕。	8 世紀代
1-3A	297	土師器	杯		ホ 1-2	13.6	4.1	8.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒	底部わずかに残、口縁周 1/3 残	平底から直線的に立ち上がる。外面回転ナデ痕。切り離し後調整か。	外内面一部に煤付着
1-3A	298	土師器	椀		ホ 1-2		(1.6)	7.2	灰白	灰白	1mm 大の砂粒入る。	高台周わずかに残	輪高台、丸みを帯びて開く。貼付高台、底部回転ヘラ切り。	白色、土師器椀在地
1-3A	299	土師質土器	燭台状		ホ 1-2		(3.7)	5.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部周 1/3 残、上面残存	円柱状、焼成前穿孔。外面回転痕。	
1-3A	300	須恵器	杯		ホ 1-2	13.4	(3.4)		黄灰	黄灰	普通	口縁部わずかに残	口縁部直立きみに外反体部丸みを帯びる。	7 世紀～8 世紀杯下ノ坪杯 C-1
1-3A	301	須恵器	小杯		ホ 1-2	9.2	(2.7)		褐灰	褐灰	細かな白い粒子	口縁周 1/4 残	直線的に伸びる体部。外内面とも回転痕。	
1-3A	302	須恵器	蓋		ホ 1-2	12.8	1.75		黄灰	黄灰	普通	口縁周わずかに残	平坦な天井部、口縁部小さくつまむ。外内面とも回転痕。	
1-3A	303	須恵器	杯		ホ 1-2		(2.2)	8.3	灰	灰	中に細かなスが入る	高台周わずかに残	底部端に高台。外面に高台貼付痕、底部ツメ状圧痕。	
1-3A	304	須恵器	椀		ホ 1-2		2.0	5.6	灰	灰	細かな白い砂粒入る	高台周 1/2 残	円盤状高台から開く体部。回転糸切り。	
1-3A	305	土師器	椀		ホ 1-2		(1.6)	6.7	黄灰	黄灰	良	高台周 1/4 残	ハの字状に開く高台、丸みを帯びて開く、外内面火漶。	白色土器、火漶、ていねい、在地
1-3A	306	黒色土器 A 類	椀		ホ 1-2	13.2	(3.5)		黒褐	にぶい黄橙	良	口縁周わずかに残	口縁わずかに外反、内面沈線状の段。内面横方向の緻密なミガキ、外面口縁横ナデ。	在地の可能性

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3A	307	黒色土器A類	椀		ホ1-2	14.6	4.3	7.7	オリブ黒	にぶい橙	雲母多量に入る	高台周1/3残、口縁周1/4残	断面三角形輪高台、高台径、口径に比して大きい、器高低く体部丸み弱い。内外面ともミガキ、ミガキやや粗めでハケ状痕残る。切り離し後ミガキ。	10世紀代、搬入の可能性高い
1-3A	308	黒色土器A類	椀		ホ1-2		(0.7)	8.6	黒	橙	雲母、石英多く	高台周わずかに残	細く小さな断面三角形の輪高台、底部平坦でうすい。内面輪のせまいミガキ。高台見込不明。	内外面とも赤色を意識、赤色塗彩もしくは赤色の化粧土の可能性、10世紀代、搬入の可能性
1-3A	309	黒色土器A類	椀		ホ1-2		(2.0)	6.9	黒	にぶい橙	雲母多く入る	高台周わずかに残	断面三角形の輪高台から丸みを帯び立ち上がる。内面横方向へラミガキ。貼付高台。	搬入
1-3A	310	瓦器	椀		ホ1-2	14.4	3.0	3.7	灰白	灰	普通	高台周、口縁周ともわずかに残	口縁ゆるやかに外反、高台ほとんど退化し形骸化。外面口縁二段にナデ、二段目弱い、体部、指オサエ、内面ミガキ3条。	内面炭素吸着なし
1-3A	311	瓦器	椀		ホ1-2		(2.0)	6.0	黒灰	灰白	良	高台周1/4残	細い逆台形状のしっかりした高台。	外面炭素吸着弱
1-3A	312	緑釉陶器	皿		ホ1-2	12.9	(1.5)		灰	オリブ灰	緻密	口縁周わずかに残	口縁端部わずかに外反、淡緑色のうすい釉、口縁端部外内面とも無釉。	皿の可能性、胎土硬陶
1-3A	313	緑釉陶器	椀		ホ、1-2	16.3	(1.7)		オリブ灰	オリブ灰	良	口縁周わずかに残	口縁端部外反、濃緑色の釉内面釉剥離	胎土軟陶と考えるが緻密近江
1-3A	314	緑釉陶器	椀		ホ1-2	14.9	(2.5)		オリブ灰	オリブ灰	普通	口縁周一部のみ残、表面釉剥離	口縁端部外反、濃緑色釉。	胎土軟陶白色
1-3A	315	緑釉陶器	椀		ホ1-2	12.0	(1.3)		灰オリブ	灰オリブ	緻密	口縁周わずかに残	口縁端部外反、緑色の釉を薄く施釉。	胎土硬陶陶か
1-3A	316	緑釉陶器	底部		ホ1-2		(1.8)	9.0	浅黄	明黄褐	良	底部わずかに残	円盤状高台、淡い橙色がかかった淡緑色のうすい釉を底部外面まで施釉。切り離し痕なし。	胎土軟陶
1-3A	317	緑釉陶器	底部		ホ1-2		(1.7)	6.2	淡緑	淡緑	緻密	高台周一部残	輪高台、淡緑色の薄い釉高台外面、一部畳付まで施釉。外面高台近く、ケズリ痕。	胎土、橙色のため軟陶と考えるか、緻密でかたい
1-3A	318	緑釉陶器	底部		ホ1-2		(1.6)		オリブ灰	オリブ灰	良	高台周一部残	輪高台、緑色の釉を薄く高台外面まで施釉。	胎土硬陶うすい
1-3A	319	緑釉陶器	底部		ホ1		(2.3)	8.8	灰オリブ	灰オリブ	良	高台周わずかに残	輪高台、弱いが段有、濃緑色の釉、厚手、斑点状になる。高台見込まで施釉見込に小さな目跡。	胎土軟陶だが緻密、近江
1-3A	320	緑釉陶器	底部		ホ1-2		(1.5)	6.6	オリブ灰	オリブ灰	良	高台周わずかに残	輪高台、緑色釉を薄く施釉高台外側上部まで施釉。貼付高台。	胎土硬陶、うす手
1-3A	321	緑釉陶器	底部		ホ1-2		(1.2)	5.6	灰オリブ	灰	白い細かな砂粒入る	高台周わずかに残	輪高台、緑色の薄い釉高台外面一部畳付まで施釉。	胎土硬陶、京都
1-3A	322	黒色土器A類	椀		ホ1、2		(2.4)	6.6	黒	にぶい黄橙	普通	高台周わずかに残	断面三角形の大きな高台。	内面ミガキ確認できないか、平滑、在地
1-3A	323	緑釉陶器	底部		ホ1-2		(2.0)	8.4	灰オリブ	灰オリブ	細かな砂粒	高台周わずかに残、釉一部残	濃緑色の釉、高台無釉輪高台。	胎土硬陶、近江
1-3A	324	緑釉陶器	底部		ホ1-2		(2.2)	6.0	灰オリブ	灰オリブ	良	高台周わずかに残	輪高台、濃緑色釉、厚めに高台見込まで施釉。	胎土軟陶
1-3A	325	青磁	椀		ホ1-2	16.6	(4.2)		灰	緑灰	良	口縁周一部残	透明感の強い釉、蓮弁文、鈍弱い。	
1-3A	326	青磁	椀		ホ1-2				オリブ灰	オリブ灰	良	口縁周わずかに残	蓮弁文、鏝しっかり。	
1-3A	327	須恵器	杯		ホ1-2	11.2	(2.0)		灰	灰	細かな砂粒	口縁周わずかに残	かえり短い。	古墳時代
1-3A	328	近世陶磁器	椀		ホ1-2		(2.7)	5.1	灰白	灰白	陶質	底部完形高台周一部残	白濁釉付のみ無釉、ピンホール有。	内面やや黄味かかる近世陶磁器灰釉
1-3A	329	土師器	羽釜		ホ1-2	27.6	(5.3)		にぶい褐	にぶい褐	雲母入る	口縁周一部残	口縁端部凹面状の斜面、直下に鈔が付く、端部凹面。外内面とも横ナデ、外面体部粗いタテハケ。	摂津C類
1-3A	330	土師器	羽釜		ホ1-2	24.7	(2.2)		橙	にぶい黄褐	砂粒多、雲母入る	口縁周わずかに残	口縁端部斜面、直下に鈔が付く、端部凹面状。外面鏝、横ナデ。	摂津C類
1-3A	331	土師器	羽釜		ホ1-2	20.6	(9.5)		にぶい黄橙	にぶい橙	砂粒多	口縁周一部残、磨耗	口縁端部上方を向き面をなす、口縁直下に鈔が付く。外面口縁～鈔ナデ、鈔接合部指オサエ。	器形は摂津
1-3A	332	土師器	羽釜		ホ1-2	20.8	(5.8)		にぶい褐	にぶい褐	砂粒多	口縁周わずかに残	口縁端部斜面、口縁下にうすい鈔が付く、端部拡張きみの面。外面体部、タテハケ。	搬入の可能性
1-3A	333	須恵器	片口鉢		ホ1-2	24.4	(5.4)		にぶい橙	にぶい橙	砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁端部強いナデによって斜面となる。外内面とも回転ナデ。	内面葉付着、東播系片口鉢が二次加熱の可能性
1-3A	334	須恵器	壺		ホ1-2	22.0	(4.5)		灰	灰		須恵器壺口縁		
1-3A	335	須恵器	壺		ホ1、2		(7.4)	13.4	黄灰	灰	普通	底部周わずかに残	外面タキキ痕。	
1-3A	336	粗製土器	焼塩壺		ホ1-2		(4.5)		にぶい橙	褐灰	砂粒多	小片	粗製、端部わずかに残内面布目、胎土土師質、外面焼け良	
1-3A	337	粗製土器	焼塩壺		ホ1-2				灰黄	灰黄	砂粒多	小片	粗製、小片端部残内面布目、胎土、土師質だが灰色に近い発色、焼き締まる。	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3A	338	粗製土器	焼塩壺		ホ 1-2				にぶい 黄橙	にぶい 橙	砂粒多	小片	内面布目、焼締まる。	
1-3A	339	土製品	土鍾		ホ 1、2	全長 3.7	全幅 1.4	孔径 0.45				片側端部斜めに欠損		重量 6.0g
1-3A	340	土製品	土鍾		ホ 1-2	全長 5.9	全幅 1.9	孔径 0.6		にぶい 黄橙		両端部欠損、円筒形		重量 17.5g
1-3A	341	土製品	土鍾		ホ 1-2	全長 6.35	全幅 2.2	孔径 0.6		にぶい 黄橙		ほぼ完形、円筒形状		重量 29.2g
1-3A	342	土製品	土鍾		ホ 1-2	全長 6.0	全幅 2.3	孔径 0.5		にぶい 黄橙		ほぼ完形		重量 21.7g
1-3A	343	土製品	土鍾		ホ 1-2	全長 6.75	全幅 1.8	孔径 0.6		明黄褐		完形		重量 16.1g
1-3A	344	土製品	土鍾		ホ 1-2	全長 5.6	全幅 3.8	孔径 1.1				完形大型土鍾		重量 68.4g
1-3A	345	土師質土器	皿		ホ 2	8.6	2.45	5.9	橙	橙	細かな砂粒	底部周、口縁周とも 1/3 残	平底から外反して開く。外面回転痕。切り離し後調整。	
1-3A	346	土師質土器	皿		ホ 2	12.8	2.6	8.4	橙	にぶい 橙	細かな砂粒	底部周 2/3、口縁周 1/4 残	平底の底部から開く体部、内底回転によりゆるやかな段。内面回転痕。切り離し後調整回転ヘラ切りか。	内底一部煤付着
1-3A	347	須恵器	杯		ホ 2		(2.8)	8.3	灰	灰	白い細かな砂粒	高台周一部残	ハの字に開く高台、外面回転ナデ痕。	杯の可能性
1-3A	348	須恵器	杯		ホ 2	12.8	3.9	8.2	灰白	灰白	普通	底部周、口縁周とも一部残外面磨耗著しい	平底から直線的に立ち上がる。	
1-3A	349	緑釉陶器	椀		ホ 2	10.5	(2.0)		暗オリーブ	暗オリーブ	緻密	口縁周わずかに残	口縁端部外反、濃緑色、厚手の釉。	胎土軟陶、緻密
1-3A	350	青磁	椀		ホ 2		(1.8)	5.4	オリーブ灰	オリーブ灰		高台周完形	内面見込み陰刻花文高台外面まで施釉、皿付～高台内側無文。	
1-3A	351	青磁	椀		ホ 2		(2.8)		灰オリーブ	灰オリーブ	良	口縁わずかに残	内面草花文。	
1-3A	352	瀬戸	卸皿		ホ 2		(1.3)	8.6	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	良	底部わずかに残	内面摺目。回転糸切り。	焼きしまる
1-3A	353	瓦器	椀		ホ 2	15.9	(3.9)		黒	黒褐	雲母多量に入る	口縁周一部残	口縁外反、内面沈線。外面口縁指オサエ、ナデ、体部指オサエ、ミガキ。	搬入
1-3A	354	土師器	椀		ホ 2	13.6	(3.4)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残	丸みを帯びた体部、口縁端部外反。外面回転ケズリ後ミガキ、内面回転ケズリ後ミガキ。	白色、火襷
1-3A	355	土師質土器	椀		ホ 2		(4.2)	6.4	にぶい 橙	にぶい 橙	細かな砂粒	高台完形	台形状の円盤高台、内底落ちこみぎみ。外面回転ナデ状。回転ヘラ切り。	
1-3A	356	弥生土器	甕		ホ 1-2	20.0	(1.6)		にぶい 黄橙	橙	砂粒多	口縁わずかに残、表面剥離	大きく開く口縁、口縁肥厚、微隆起、微隆起下クシ描き文。	
1-3A	357	弥生土器	壺		ホ 1-2	25.2	(2.4)		灰黄褐	にぶい 黄褐	砂粒多	口縁わずかに残	貼付口縁、口縁端部面をなし、わずかに下垂、貼付下弱いナデ状の多糸沈線。	
1-3A	358	瓦質土器	羽釜	トレンチ 1		19.4	(3.5)		灰	灰	普通	口縁わずかに残、鋳周わずかに残	口縁内傾し 3 条の凹線、口縁下に鋳が付く。内面横ハケ。	河内型、14 世紀後～15 世紀半
1-3A	359	土師器	椀		表探		(2.1)	8.0	灰黄	灰黄	良	高台周わずかに残	高めのしっかりした高台、内面火ダグキ。内底ミガキ。	歪み有、白色土器在地
1-3A	360	銅緑釉	皿		表探	13.2	3.8	5.0	灰オリーブ	灰白	良	高台周 1/2 残	丸みを帯びた体部、内面見込蛇の目状に釉剥ぎ。	近世
1-3A	361	青磁	椀	東西トレンチ 2	マ、下		(2.85)	5.4	オリーブ灰	オリーブ灰	良	高台周 1/4 残	見込み草花文、高台皿付～高台見込露胎、うすい鉄サビ色。	
1-3A	362	土師質土器	杯	下カク	上層		(2.1)	6.4	浅黄橙	にぶい 橙	普通	底部周わずかに残、磨耗	わずかに円盤状を呈する不整形な底部。外面回転痕わずかに残る。	
1-3A	363	緑釉陶器	椀	下カク		15.9	5.9	8.0	灰オリーブ	灰オリーブ	良	底部周 1/4 残、口縁周わずかに残 (完形復元可能)	口縁端部外反、体部中央に弱い屈曲部、輪高台、濃緑色の釉厚めに、皿付まで施釉。外内面ともケズリ痕。	露胎部にぶい赤褐色、軟陶だが焼成良
1-3A	364	青磁	椀	下カク	上層		(4.05)		オリーブ黄	オリーブ黄	普通	口縁周わずかに残	透明感の強い釉、貫入。	

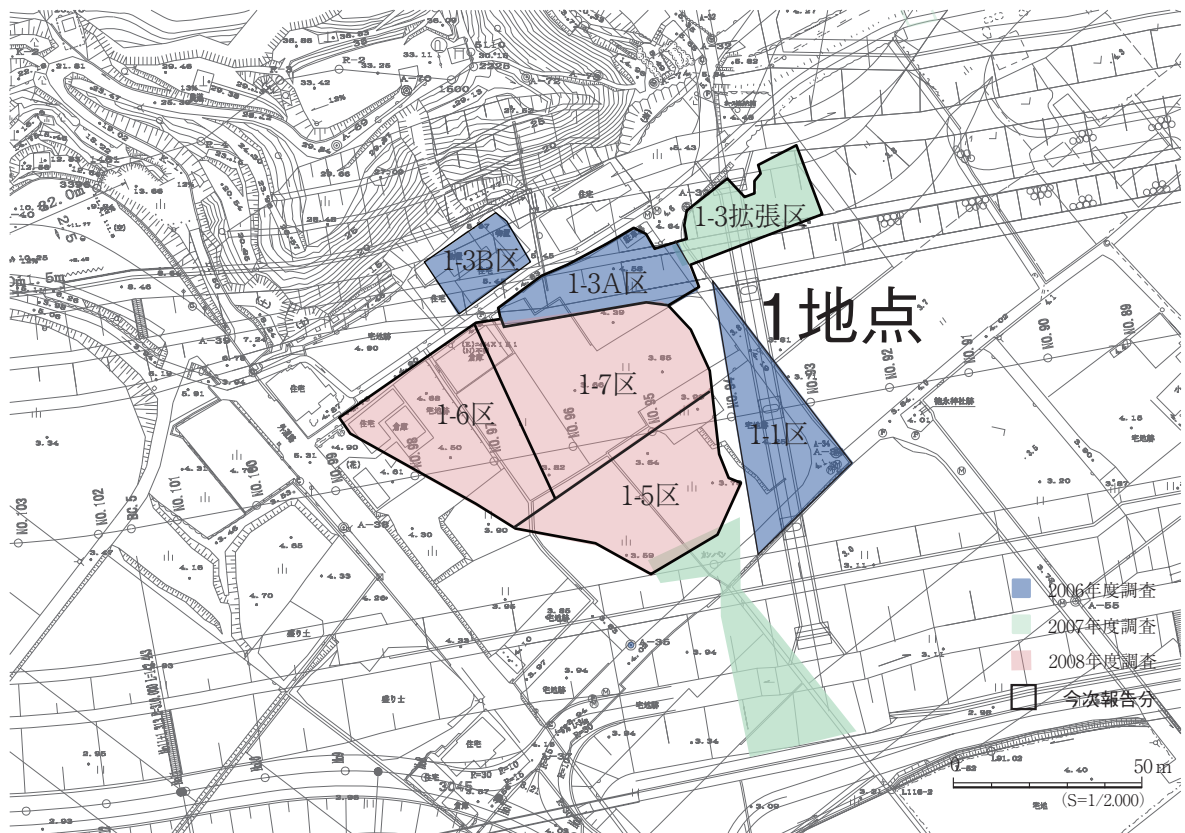
第Ⅳ章 1－3B区の調査

1. 1－3B区の概要

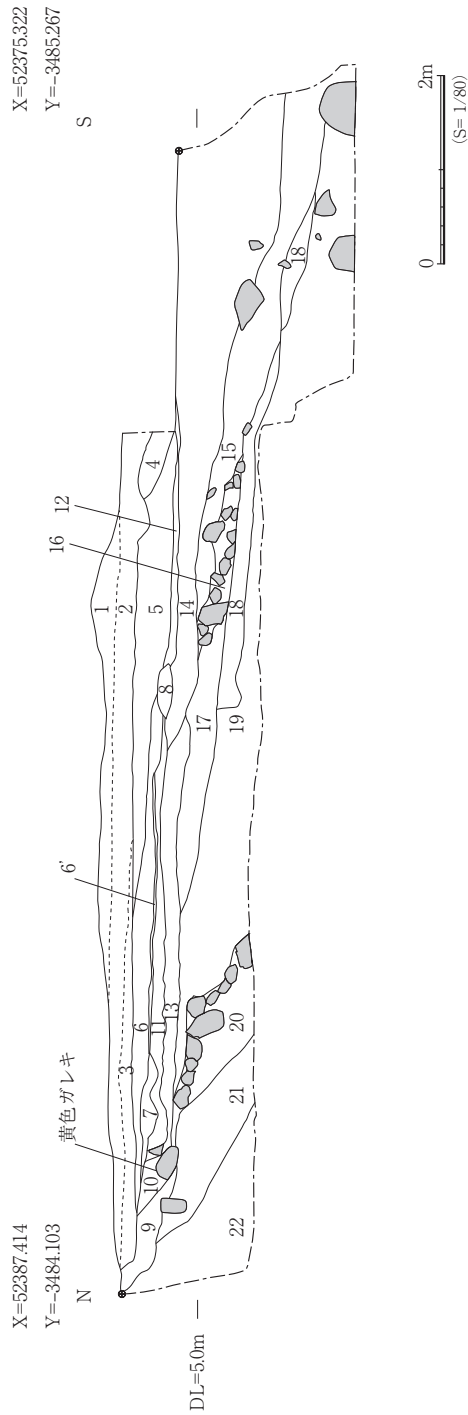
1－3B区は1－3区の北西側、コンクリートで作られた用水を挟んだ上段の調査区で城山直下にあたる。調査区北側は城山の崖となって幅の狭い調査区となっている。

調査前は宅地となっており調査前標高は約6.0mで平坦な面を形成していた。調査区の結果、黄褐色の基盤は1－3B区北端部では標高約5.0mを測り、約20m南側の1－3A区北端部では標高約3.0mを測る。このため調査区の旧地形は1－3A区に向かって下がる斜面であったことを確認した。また断面確認で当初は調査区北側と南側の二段の段状に整地され、更に南端部を埋める整地作業を経て現況平坦面になったことを確認した。遺構は上面、下面の2回に分け検出を行い、上面は灰褐色土を除去した面で検出を行った。検出面は北端部は表土、整地層直下の黄褐色粘質土、調査区中央部では黒色粘質土に黄色小礫を多量に含む面、南部は黒灰褐色土である。下面は南側の黒灰褐色土、黒褐色粘質土を除去し黒色粘質土に黄色小礫を多量に含む面を検出し遺構を確認した。本来的には同土層面で検出を行ったものを精査し時期を弁別し報告すべきであるが、本報告においては調査順にしたがって上面、下面で報告することとする。

1－3B区の調査平面積は300㎡で調査延べ面積は600㎡、調査期間は平成18年12月～平成19年3月までであった。



4－1図 調査区位置図



- | | |
|------------------------------|---|
| 1 : 表土 | 11 : 黒褐色粘砂土 (黄色小礫入る) |
| 2 : 整地層 | 12 : 灰色粘砂土シルト (整地層) |
| 3 : 整地層 (褐灰色強い) | 13 : 灰黄褐色粘砂土 (黄色小砂礫含む・ホ 1-1) |
| 4 : 赤褐色粘質土 | 14 : 黒褐灰色粘砂土 (礫混じる) |
| 5 : 暗黄褐色粘質土 (黒色土混じり 黄色砂礫土含む) | 15 : 赤褐色粘砂土 (黄色小砂礫含む・ホ 1-2) |
| 6 : 褐灰色粘質土 | 16 : 礫層 |
| 6' : 赤褐色粘土 (タタキ縮め状) | 17 : 赤褐色粘砂土 (黄色小砂礫含む・ホ 1-2 14層と同一) |
| 7 : 褐灰色粘質土 | 18 : 黒褐色粘質土 (黄色砂礫少なく赤色砂礫入る 土器片多い 古代ホ 2) |
| 8 : 黒褐色粘質土 (ブロック入る) | 19 : 黒色粘質土 (多量に黄色砂礫含む 軟質地山) |
| 9 : 暗灰褐色粘質土 (黄色砂礫多く入る) | 20 : 暗褐灰色粘砂土 (大礫入る) |
| 10 : 暗灰褐色粘質土 | 21 : 褐灰色粘砂土 (大礫入り 黄色砂礫多く入る) |
| | 22 : 黄色ガレキ混じり込み土 (地山) |

4-2 図 1-3B 区基本層序

2. 検出遺構と遺物

(1) 上面の遺構と遺物

上面の遺構は13層灰褐色土を除去した面で検出を行い、土坑6基、ピット68個、溝状遺構1条、石列状遺構1ヶ所、ハンダ土坑3基を検出した。上層の検出標高は調査区北端部が約5.0m、南端部が約4.8mと緩やかに南に向かって下がる斜面をなしており、3つの土層にからなっている。遺構の時期も3時期以上が混在しており、上面検出遺構からは近現代から弥生時代の遺物が混在して出土し、遺構についても同様と考えられる。

土坑 (SK)

土坑は土坑6基検出している。いずれも石列状遺構北側から検出したものである。平面形、底面とも不整形なものが多く、出土遺物もごく少量にとどまり図示できる遺物はなかった。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK1	0.98 × 0.63 × 0.33	長方形	箱形	N - 13° - W				床面二段
SK2	(0.60) × 0.56 × 0.19	不整形	箱形	-				攪乱に切られる。
SK3	1.04 × 0.83 × 0.11	楕円形	皿状	N - 59° - W				
SK4	1.65 × 0.96 × 0.14	不整形	-	N - 20° - W				
SK5	0.77 × 0.62 × 0.26	楕円形	-	N - 82° - W				
SK6	0.79 × 0.80 × 0.37	楕円形	-	N - 29° - E				不整形落ち込み部分有り。

表4-1 上面土坑一覧表

石列状遺構

調査区中央部で東西に延びる石列状の遺構である。調査区西端部から約11.8mまでは石の密度が高く、それより東側では散漫な状況となるが調査区を東西に横断するものと考えられる。検出規模は長さ約18.9m、幅約1.15mである。石は大きなもので長軸30cm×短軸15cm程度の石で多くはそれ以下である。石材は白色砂岩角礫である。構造は2石から3石が重なるが投げ込まれた状態であり積み石構造にはならない。

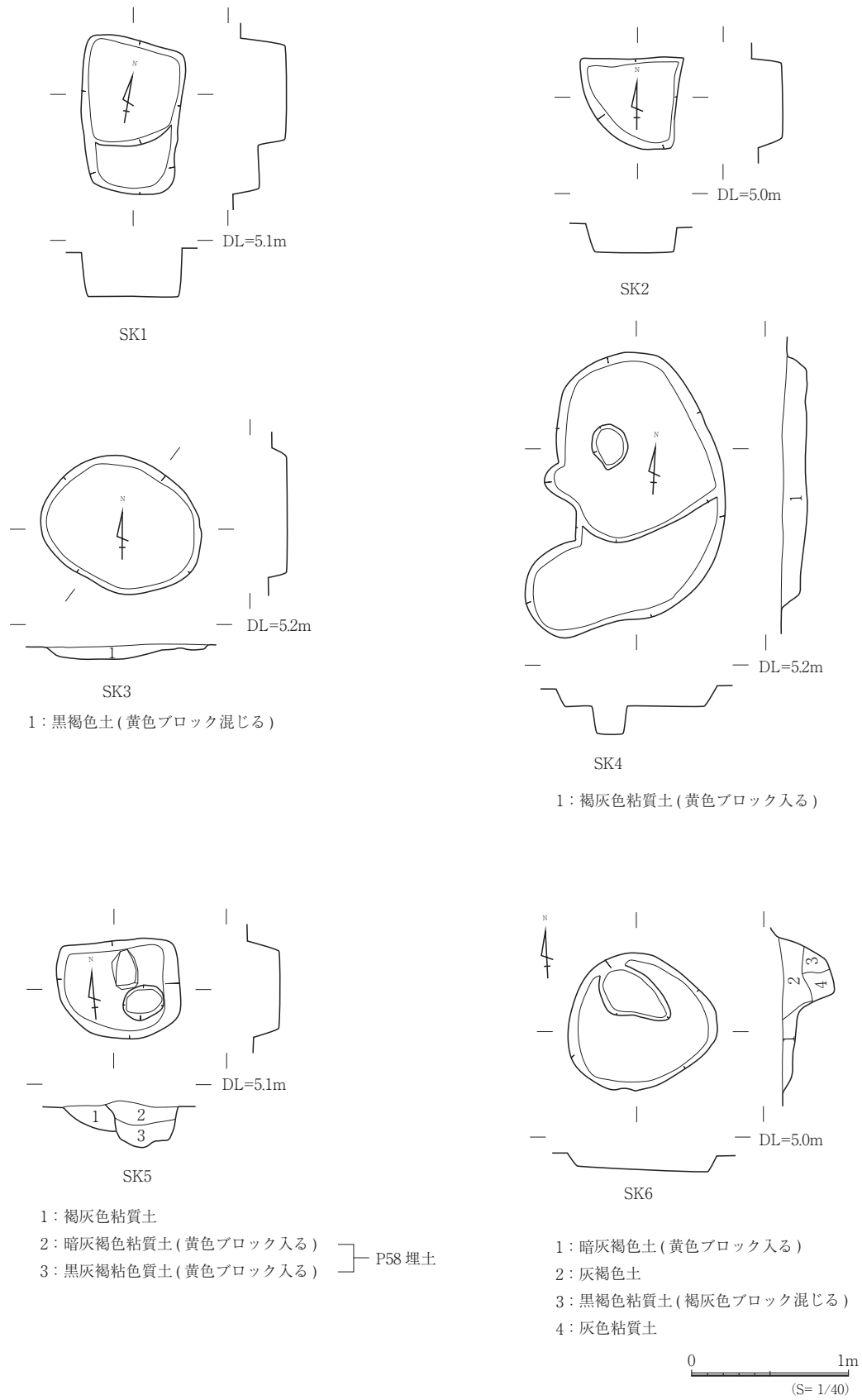
調査区北側平坦面を整地した際の土留めのためのものと考えられる。石列中からは土師器、須恵器、灰釉陶器、黒色土器A類椀、瓦器などが出土している。底部に回転糸切り痕が残る4の近江産と考えられる緑釉陶器などが図示できた。遺物中には近世～近現代の屋地に伴う遺物は見られないため古代～中世の遺構の可能性が高いと考えられる。

ピット (P)

ピットは検出時遺構番号P72までを付けたが欠番や重複したものを除いて68個確認した。検出埋土は、褐灰色粘質土、黒褐色粘質土、灰褐色粘質土、赤褐色粘質土の4種類を確認している。図示できた遺物が出土したのはP16・32・67のみでP16は須恵器杯、P32は播磨型土師質羽釜、P67は古代の甕を図示した。



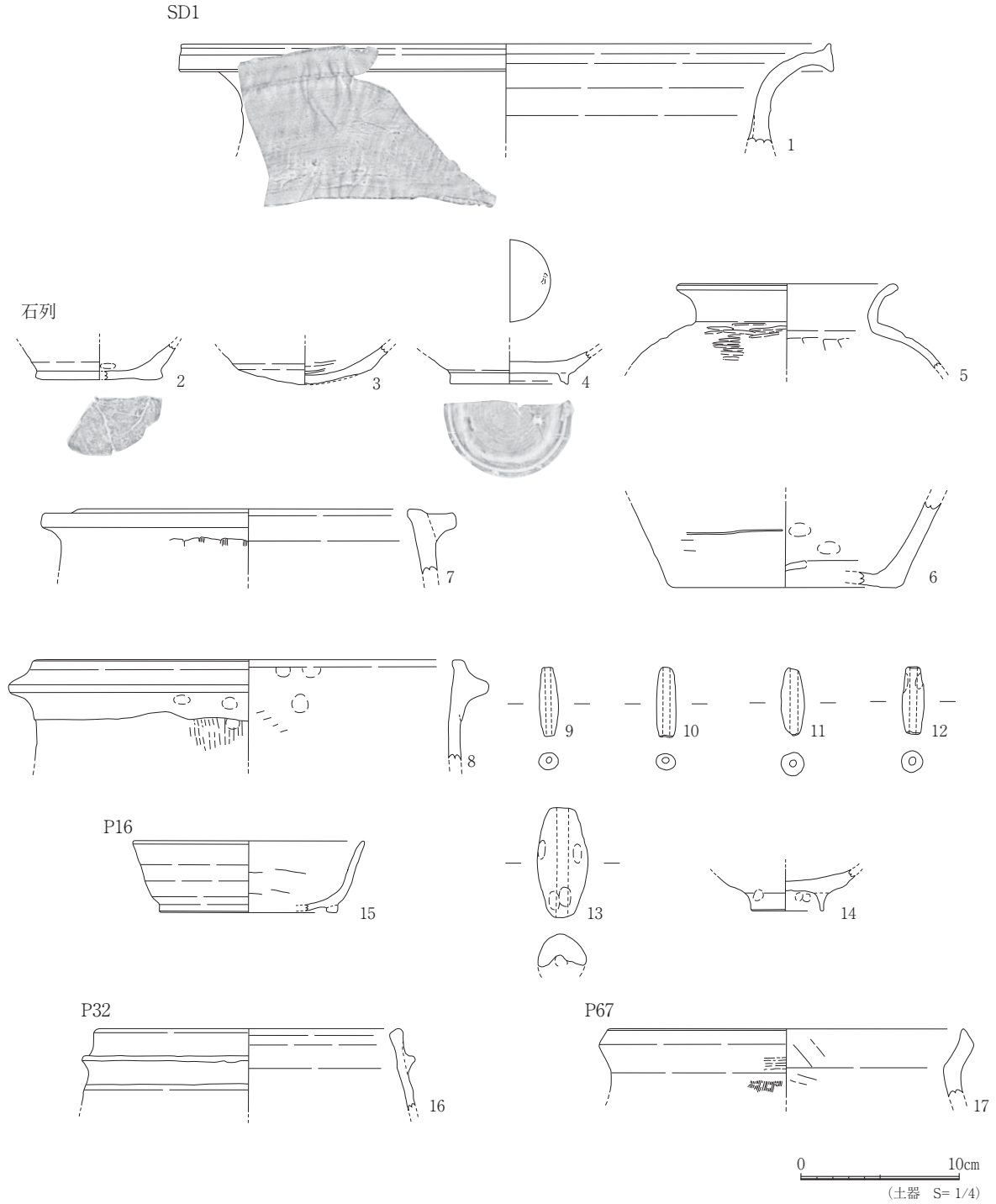
4-3図 上面遺構全体図



4-4図 上面SK1~6

溝跡 (SD)

規模の小さな南北方向の溝跡1ヶ所検出している。両端部を攪乱坑に切られていた。溝跡の軸方向はN-1°-Eで検出長は2.2m、上端幅0.36m、深さ約4cm、断面形は浅い皿状であった。検出埋土は灰褐色土である。遺物は土師器、須恵器が出土しているが少量で細片のみであった。



4-5図 上面溝跡・石列・ピット出土遺物

(2) 下面の遺構と遺物

下面の遺構は石列状遺構から南側部分の整地盛土下層から検出した。土坑8基、ピット21個、溝状遺構1条、遺物集中出土地点1ヶ所を検出し掘立柱建物跡1棟、柱穴列1列を復元できた。検出標高は4.0～4.2mである。遺構の時期は9世紀以降の古代と考えられ、1-3B区南側の1-3A区、1-6区、1-7区等で検出した古代の遺構と同時期と考えられる。

掘立柱建物跡・柱穴列 (SB・柱穴列)

掘立柱建物跡は下SB1、1棟のみを検出した。棟方向は東西方向である。下SB1の北側に中心間で約1.7m離れ並行し柱穴列を検出している。柱穴位置もほぼ対応するが、柱穴規模や掘方が異なることから下SB1を構成する柱穴列と判断できなかった。

下SB1

下SB1は南端部で検出した遺構で梁行1間、桁行3間を検出している建物跡である。柱間寸法は桁行1.8m、桁行約1.5mで桁行側がやや狭くなっている。棟方向はN-88°-Wである。

柱穴は7個を検出しており柱穴1・4に対応する柱穴は検出できなかった。柱穴5を除いて方形掘方を意識した掘方である。柱穴の規模は北側の柱穴1～4は長軸約1.0～1.25m、短軸0.7～1.2mを測り、中央部に直径約23～26cmの円形の柱痕と見られるピットを検出している。掘方の深さは38～58cmを測る。南側の柱穴5・6はやや規模が細く柱穴5は直径0.5m、柱穴6は方形で一辺約0.7mを測る。深さは16～33cmを測る。

柱穴1～4は柱穴埋土中からは土師器、須恵器、瓦器、弥生土器などが出土しており、古墳時代の須恵器蓋も混じるが19の須恵器杯が遺構の時期に相当すると考えられる。

柱穴1～4の北側では柱穴列1を検出しており、下SB1を構成する柱穴列の可能性を検討したが、柱穴の規模や発掘時の状況から別遺構の可能性が高いものと判断した。

柱穴列1

下SB1北側に中心間で約1.7m離れ並行した柱穴列である。柱穴列はピット4個を検出しており柱間寸法は約1.8mで検出長5.3mを測る。軸方向はN-88°-Wである。柱穴の規模は最も大きなP12で0.7m×0.64mで、最も小さなP21は直径0.22mである。

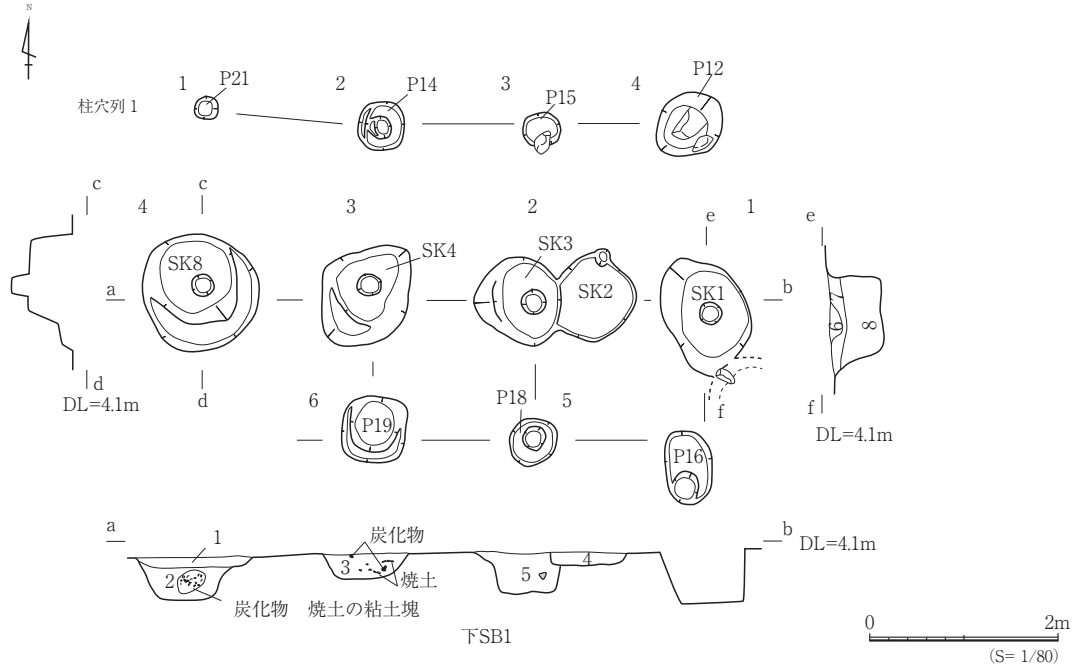
埋土中から遺物が確認できたのはP12のみで須恵器細片が出土している。

柱穴番号	遺構名	長径(直径)×短径×深さ(m)	平面形	断面形	出土遺物	時期	備考
1	SK1	1.17×0.86×0.58	楕円形		土師器・須恵器		
	柱痕	0.26×0.25	円形				
2	SK3	0.92×0.73×0.47	楕円形		土師器		SK2と切り合う
	柱痕	0.26×0.6	円形				
3	SK4	1.25×0.98×0.38	楕円形		土師器・須恵器・弥生土器		
	柱痕	0.2×0.2	円形				
4	SK8	1.26×1.23×0.46	円形		土師器・瓦器		
	柱痕	0.2×0.2	円形				
5	P18	0.5×0.16	円形				
	柱痕	0.23×0.08	円形				
6	P19	0.7×0.65×0.33	隅丸方形				

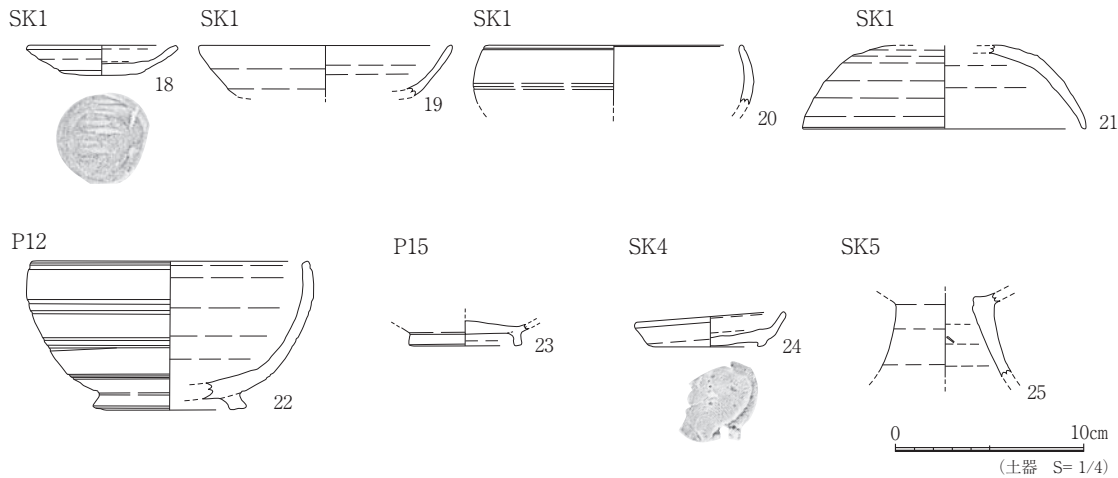
表4-2 下SB1 柱穴計測表

柱穴番号	遺構名	長径(直径)×短径×深さ(m)	平面形	断面形	出土遺物	時期	備考
1	P21	0.22 × 0.28	円形				
2	P14	0.52 × 0.48 × 0.2	楕円形				
	柱痕	0.2 × 0.17	円形				
3	P15	0.36 × 0.18	円形				
4	P12	0.7 × 0.64 × 0.26	楕円形		須恵器		石が入る

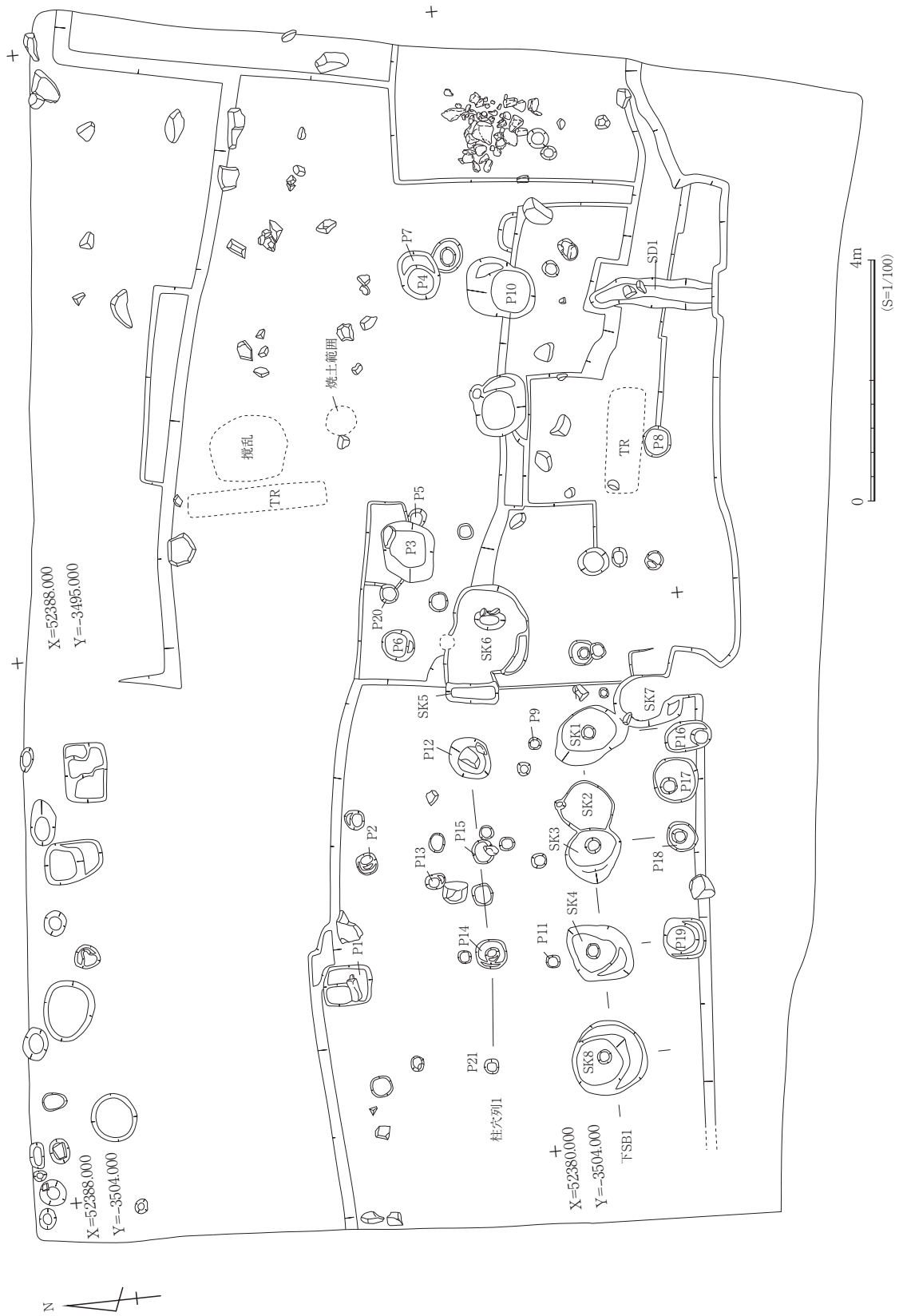
表 4 - 3 下面柱穴列 1 計測表



- 1: 灰褐色(7.5YR 6/2)粘土(風化礫を含む)
- 2: 黒褐色(7.5YR 3/2)粘土(風化礫を含む)
- 3: 黒褐色(7.5YR 3/2)粘土(風化礫を含み炭化物 焼土を多く含む)
- 4: 黒褐色(7.5YR 3/2)粘土(風化小礫含み炭化物 焼土を多く含む)
- 5: 黒褐色(7.5YR 3/2)粘土(風化小礫含み炭化物 焼土を多く含む)
- 6: 褐灰色(5YR 6/1)粘土(炭化物と焼土を多く含む)
- 7: 褐灰色(5YR 5/1)粘土(中粒砂を含む)
- 8: 黒褐色(5YR 3/1)粘土(風化礫 炭化物を含む)



4 - 6 図 下 SB1・柱穴列 1 出土遺物



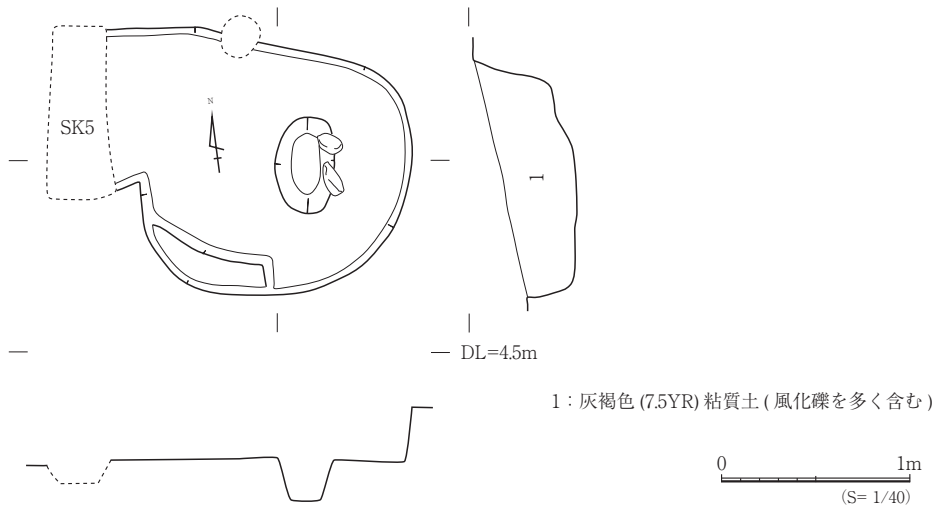
4-7図 下面遺構全体図

土坑 (SK)

土坑は8基検出しており、SK1・3・4・8は下SB1の柱穴である。この他の土坑ではSK6・7が規模が大きくしっかりした掘方を持つものであるが不整形で遺構の性格は不明である。遺構の埋土中からはSK5から須恵器高杯脚、SK7から土師器、瓦器細片が出土している。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK1	1.17 × 0.86 × 0.82	楕円形	箱形	N - 38° - W		土師器・須恵器		下SB1柱穴
SK2	0.85 × 0.82 × 0.15	楕円形	皿状	N - 36° - E				
SK3	0.92 × 0.73 × 1.09	楕円形	逆台形	N - 68° - W		土師器		下SB1柱穴
SK4	1.25 × 0.98 × 0.60	楕円形	逆台形	N - 38° - E		土師器・須恵器・弥生土器		下SB1柱穴
SK5	0.89 × 0.32 × 0.16	長方形	-	N - 9° - E		土師器・須恵器・弥生土器		
SK6	(1.60) × 1.30 × 0.58	長方形	箱形	N - 73° - W				
SK7	1.12 × 0.86 × 0.31	楕円形	箱形	N - 8° - W		土師器・瓦器		
SK8	1.26 × 1.23 × 0.65	円形	-	N - 29° - W				下SB1柱穴

表4-4 下面土坑一覧表



4-8図 下面SK6

溝跡 (SD)

調査区南東部で検出した南北方向の溝跡である。溝跡の軸方向はN-12°-Eで検出長は約2.0m、上端幅0.45m、深さ約25cm、断面形は逆台形状であった。埋土は上層が灰褐色粘土で下層は赤褐色粘土であった。

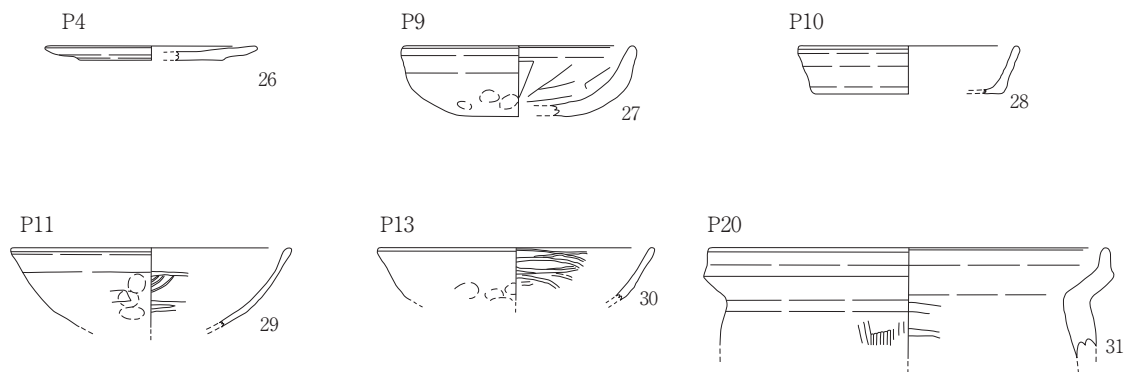
遺物は少なく回転ヘラ切り痕が残る土師器底部、須恵器が出土しているが細片のみで図示できる遺物は無かった。

ピット (P)

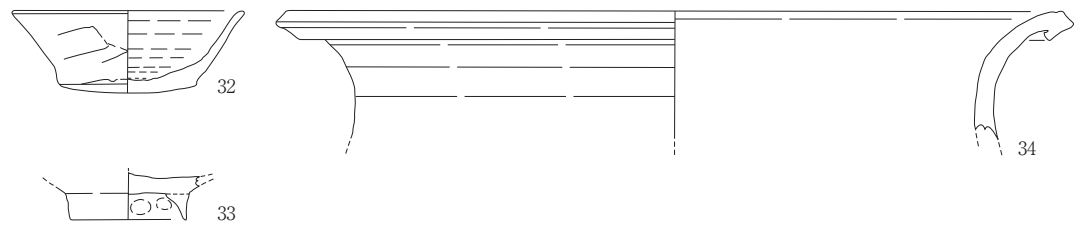
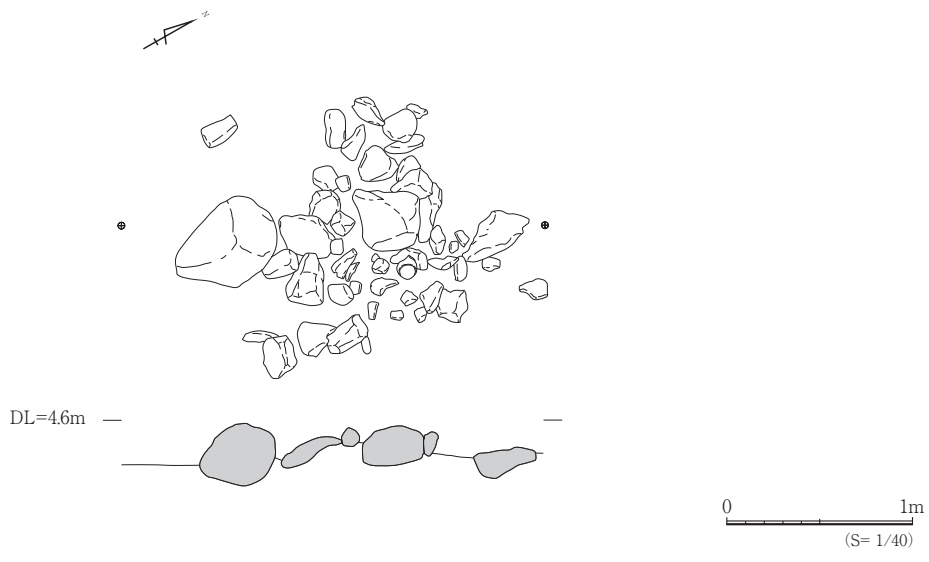
ピットは21個検出した。検出したピットでP18・19は下SB1、P12・14・15・21は柱穴列1を構成する柱穴と判断した。遺物が出土したピットは下SB1、柱穴列1を構成するものを除いてP4・9・10・11・13・20である。P11出土29、P13出土30は瓦器椀で何れも小片である。P9出土27は土師器杯でやや厚手で内面に放射状にコテ当て痕が残る。P20出土31は胎土には雲母が多量に入る搬入品の可能性が考えられる。

土器集中地点

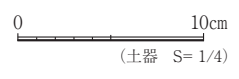
調査区南東部で検出した。白色砂岩と遺物が集中した部分で検出規模は2.0m×1.4mである。石は最も大きなもので長軸60cm、短軸40cmで多くは長軸20cm程度のものである。検出面に食い込むが掘方はなく、積石状の構造を持たない。遺物では底部切り離し痕が確認できない土師器杯、輪高台土師器杯、須恵器大甕口縁を図示できた。



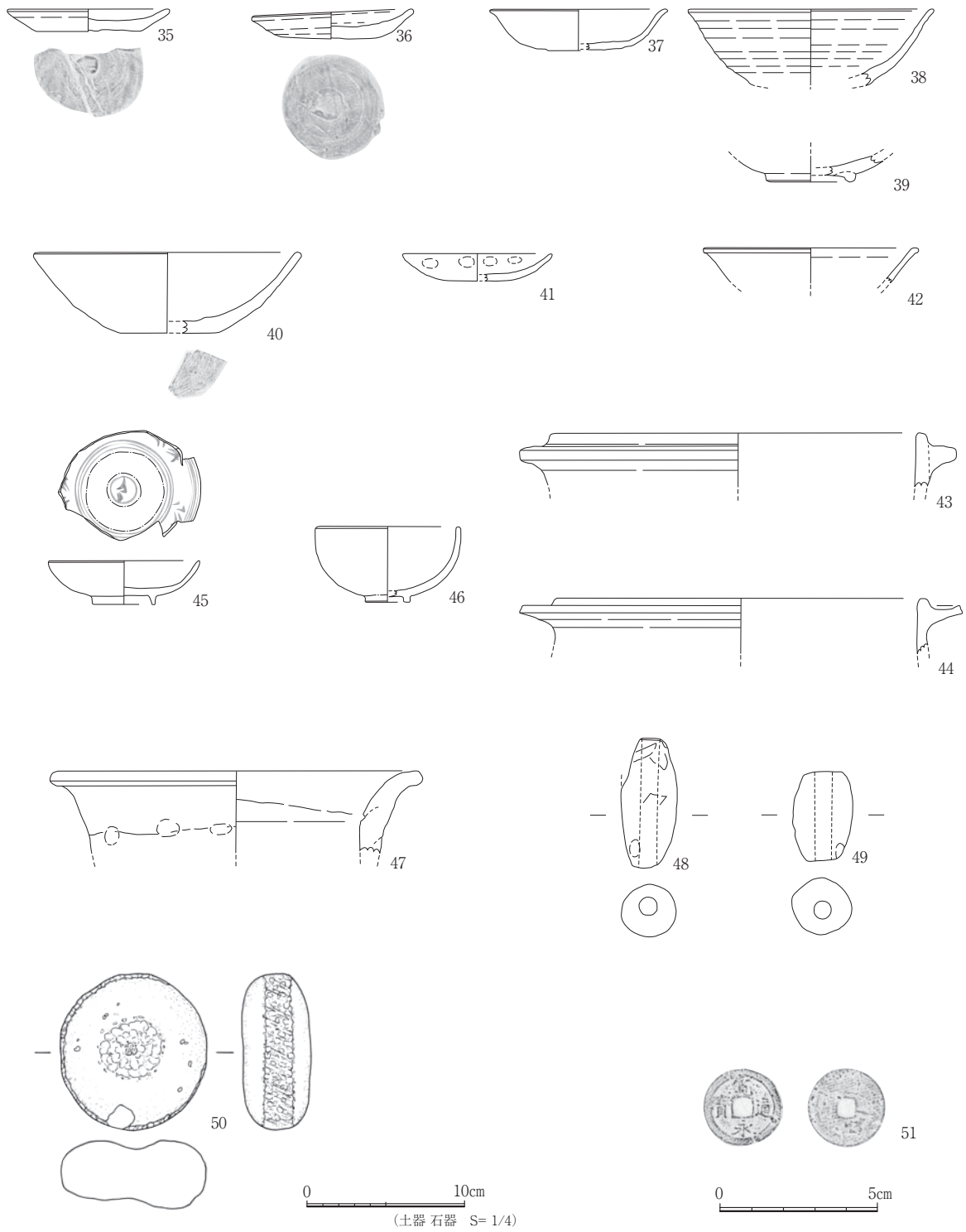
下面ピット



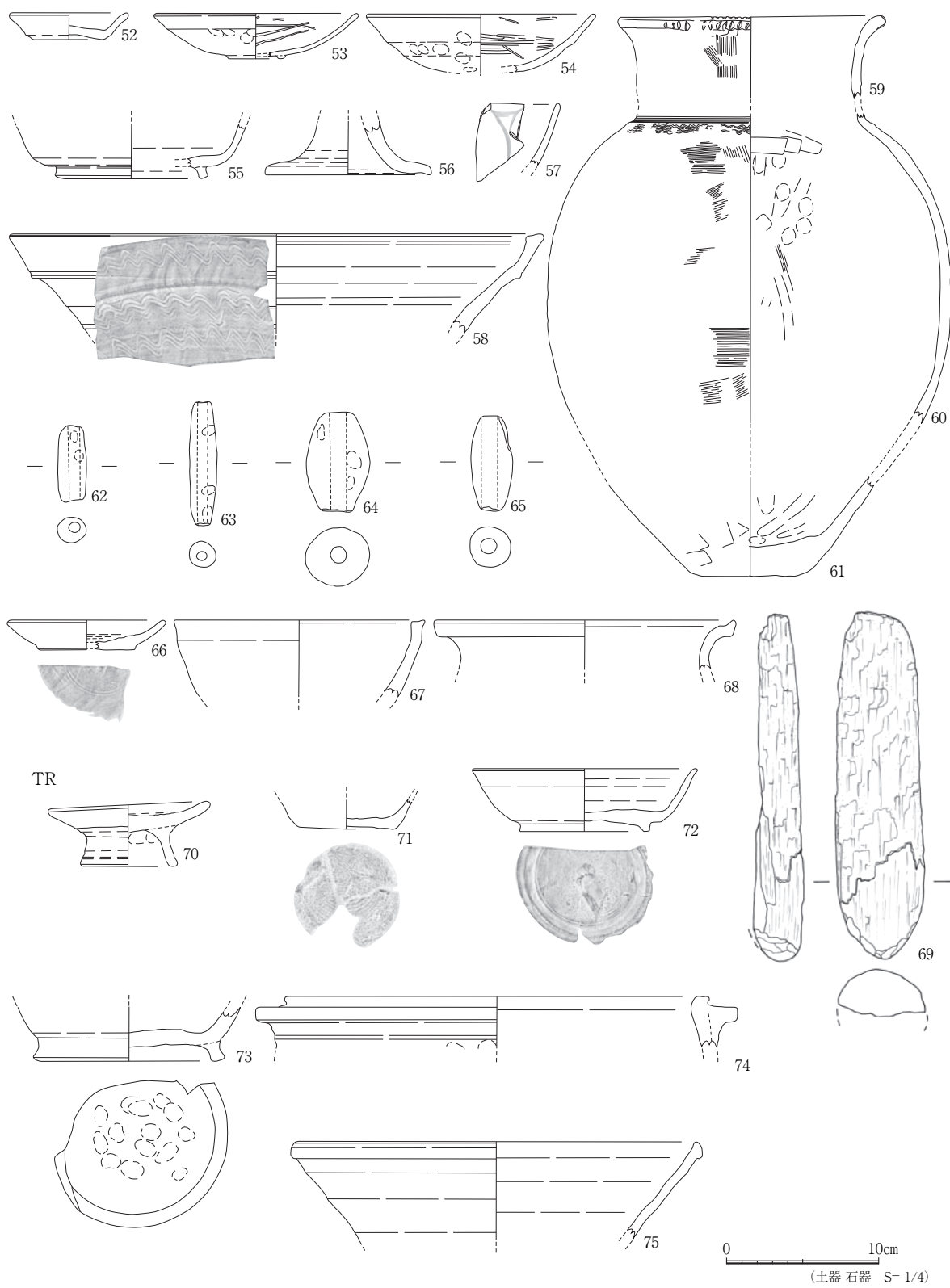
土器集中 1



4-9 図 下面ピット出土遺物・土器集中 1



4-10図 包含層1出土遺物



4 - 11 图 包含層 2 - 3 出土遺物

遺物觀察表

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3B	1	須恵器	甕	SD1、表面	ホ1	40.5	(6.3)		灰	灰	白い砂粒	口縁わずかに残	大きく開く口縁、口縁上部に拡張、頸部直立、ヘラミガキ。	
1-3B	2	土師質土器	杯	石列	マ		(2.2)	8.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	底部周1/4残	体部より突出ぎみの円盤高台。回転ヘラ切。	
1-3B	3	土師器	杯	石列	マ		(2.4)		橙	橙	普通	底部1/3残、磨耗	丸底ぎみ、底部一部表面剥離。	作り粗く、表面剥離、磨耗有。
1-3B	4	緑釉陶器	皿	石列	ホ1		(2.05)	7.4	暗オリーブ	暗オリーブ	軟陶	高台周1/2残	輪高台、高台付段状になる、濃緑色の厚手の釉が高台見込まで施軸、内面見込目と痕。内面見込ケズリ痕。底部回転糸切り。	黄橙色の軟陶だが焼成極めて良、近江。
1-3B	5	須恵器	壺	石列	マ	13.4	(5.3)		灰黄	灰黄	細かな砂粒	口縁わずかに残、表面磨耗	口縁短かくゆるやかに開く、全体にうす手。外面胴部タタキ。	
1-3B	6	須恵器	壺	石列	マ		(5.35)	14.8	灰	灰	白い細かな砂粒	底部わずかに残	平底から直線的に立ち上がる。	
1-3B	7	土師器	羽釜	石列	マ	21.2	(4.1)		橙	橙	砂粒多	口縁わずかに残	内傾ぎみの口縁、口縁上部の上方を向く面、口縁下部直下に大きな鈔が付く。外面、鈔下に弱いタテハケ。	被熟有。
1-3B	8	土師器	羽釜	石列	マ	26.2	(6.35)		にぶい褐	にぶい褐	小さい砂粒、多く雲母入る	口縁周わずかに残	口縁上部を向く面をなし、直下に断面三角形の鈔が付く、鈔先端丸い。鈔貼付下、粗いタテハケ。	拱津。
1-3B	9	土製品	土鍾	石列	マ	全長4.3	全幅1.2	孔径0.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙		片側端部欠損		重量7.0g
1-3B	10	土製品	土鍾	石列	マ	全長4.4	全幅1.2	孔径0.45	黄灰	黄灰		ほぼ完形		重量5.5g
1-3B	11	土製品	土鍾	石列	マ	全長4.25	全幅1.45	孔径4.0	橙	橙		両端部わずかに欠損		重量7.0g
1-3B	12	土製品	土鍾	石列	マ	全長4.3	全幅1.35	孔径0.5		にぶい黄		ほぼ完形		重量6.6g
1-3B	13	土製品	土鍾	石列下	マ	全長6.9	全幅3.2	孔径0.7		黄灰		縦割、半分欠損		重量36.2g
1-3B	14	黒色土器A類	碗	石列下	マ		(2.6)	4.7	黒灰	褐灰	細かな砂粒	底部完形、高台欠損有、磨耗	断面細い三角形の高めの高台、作り粗い。	在地産。
1-3B	15	須恵器	杯	P16		14.4	4.5	11.3	灰白	灰白	細かな砂粒	高台周、口縁周ともわずかに残、磨耗	底部端に幅の不均一な高台、体部直線的に立ち上がる。外面弱い回転ナデ痕。	
1-3B	16	土師質土器	羽釜	P32		19.1	(5.1)		橙	橙	細かな砂粒多	口縁わずかに残	口縁端部斜面、口縁下小さな貼付の鈔が付く。口縁外内面とも横ナデ。	播磨型、15半～16世紀。
1-3B	17	土師器	甕	P67	マ	22.3	(4.3)		にぶい褐	にぶい褐	細かな砂粒多	口縁わずかに残	口縁短かく上方に屈曲、端部斜面をなす。外面体部タテハケがうすくのこる。	搬入。
1-3B	18	土師質土器	小皿	SK1		7.6	1.6	4.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	普通	底部周、口縁周とも2/3残	円盤高台状に突出ぎみの底部から開く。口縁外内面とも回転ナデ、内面見込ナデ。切り離し痕なし、板目痕。	
1-3B	19	須恵器	杯	SK1		13.1	(2.65)		黄灰	黄灰		口縁周わずかに残	開きぎみの体部。外内面とも回転痕。	
1-3B	20	須恵器	碗	SK1		13.6	(3.1)		黄灰	黄灰	良	口縁周わずかに残	内湾する口縁、外面口縁下沈線状。口縁下幅の狭い強い回転痕。	
1-3B	21	須恵器	蓋	SK1		14.9	(4.4)		にぶい黄橙	灰黄			口縁周一部残。丸みを帯びた器形。外面回転ナデ痕。	生焼けて、土師質の胎土。
1-3B	22	高台付鉢	碗	P12	マ	14.5	7.85	7.8	灰	灰	2mm大の砂粒	高台周、口縁周とも1/3残	輪高台、丸みを帯びた体部、口縁内湾ぎみ外面口縁沈線、体部2条、一組弱い沈線。回転痕。貼付輪高台。	古墳時代7世紀後半。
1-3B	23	灰釉陶器	碗	P15			(1.3)	5.95	灰黄	灰黄	良	高台周わずかに残	貼付輪高台、体部脚施軸、高台露胎。ヘラ切り。	胎土硬陶、白っぽい。
1-3B	24	土師質土器	小皿	SK4	マ	7.9	1.85	5.6	橙	橙	細かな砂粒	底部周、口縁周とも一部残	底部、糸切りによって粘土が縊り高台になる部分有、平底の小皿。回転糸切り、切りっぱなし。	
1-3B	25	須恵器	高杯	SK5			(4.4)		黄灰	黄灰	黒色の砂粒入る	脚部わずかに残	径のある柱状部。外内面とも回転痕。	8世紀。
1-3B	26	土師器	皿	P4	マ	11.0	0.75	7.7	浅黄橙	浅黄橙	赤褐色の砂粒入る	底部周、口縁周ともわずかに残、磨耗	低い円盤高台状の底部から大きく開く深さのない体部。切り離し痕なし。	
1-3B	27	土師器	杯	P9		12.2	3.8	7.0	褐灰	にぶい黄橙		口縁周一部残	丸みを帯びた体部、口縁部上方に立ち上がりぎみ、厚手。外面口縁、回転力のないナデ、体部指オサエ。切り離しなし。	
1-3B	28	須恵器	杯	P10		11.6	2.6	10.0	灰	灰	細かな砂粒	底部周、口縁周ともわずかに残、磨耗	平底から上方に立ち上がる。外面回転痕。	
1-3B	29	瓦器	碗	P11		15.0	(4.2)		灰	灰	良	口縁周わずかに残	口縁部弱い外反。外面口縁横ナデ、内面横方向ヘラナデミガキ不明瞭。	
1-3B	30	瓦器	碗	P13		14.8	(2.8)		灰	灰	良	口縁周わずかに残	口縁弱い外反。口縁横ナデ、内面横方向ヘラミガキ。	
1-3B	31	土師器	甕	P20		21.2	(5.9)		にぶい黄褐	にぶい黄褐	雲母、多量に入る、白い砂粒	口縁周わずかに残	くの字に屈曲する口縁、口縁上部に拡張凹面状。外内面ともナデ、外面体部粗いタテハケ。	搬入か、北河内。
1-3B	32	土師器	杯	土器集中1		12.3	4.4	7.4	にぶい橙	にぶい橙	赤褐色の砂粒	底部完形、口縁周わずかに残	突出ぎみの厚い底部、直線的に立ち上がる深い体部、口縁わずかに外反、内面強い回転痕により段状。外面斜方向の回転力のないナデ、内面強い回転痕。回転ヘラ切、後調整。	
1-3B	33	土師質土器	杯	土器集中1			(2.5)	6.2	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒	高台周1/2残、磨耗	断面直角三角形の大きな高台、内底中央凹状ぎみ、全体に粗いつくり。貼付高台。	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3B	34	須恵器	甕	土器集中1		41.6	(6.85)			灰色	灰色		大きく開く口縁、口縁端部、扁平な粘土帯による拡張、端部、端部下ともシャープな面外内面とも回転ナデ痕	
1-3B	35	土師質土器	皿		ホ1	10.2	1.4	7.8	にぶい橙	にぶい橙	普通	底部周1/2残、口縁周わずかに残、磨耗	平底から大きく開く、浅い体部。回転ヘラ切り。	
1-3B	36	土師質土器	皿		ホ1	9.95	1.9	5.95	にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒	底部完形、口縁周2/3残	平底から開く、浅い体部。外内面とも弱い回転痕。回転ヘラ切り、板目痕。	
1-3B	37	土師器	小杯		ホ1	11.0	2.6	7.4	橙	橙	赤褐色の砂粒入る	底部周1/3、口縁周わずかに残	平底から丸みを持ち立ち上がる、口縁端部外反。切り離し後調整。	
1-3B	38	土師器	椀		ホ1	15.5	(4.8)	7.7	にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	口縁周わずかに残	丸みを帯びた体部口縁外反、外内面に火襷。外内面とも回転ナデ。	在地産か。
1-3B	39	土師器	椀		ホ1、S	(16)	5.6	淡黄	淡黄	良	高台周1/3残	輪郭の甘い輪高台。貼付高台。		
1-3B	40	須恵器	椀		ホ1、S	16.3	5.1	6.4	灰黄	灰黄	砂粒入る	底部周、口縁周ともわずかに残	平底から丸みを持ち開く、内面輪高台状の突起物。外内面とも回転ナデ。回転痕。	焼成弱く瓦質に近いが須恵器、東播磨の可能性。
1-3B	41	瓦器	皿		ホ1	9.4	1.75	4.6	黒灰	黒灰	良	口縁周一部残	丸みを帯びた浅い体部口縁部弱い外反。体部弱い指オサエ。切り離しなし。	
1-3B	42	白磁	椀		ホ1、S	13.2	(2.2)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残	口縁端部外反、透明感のある釉、貫入入る。	
1-3B	43	土師器	羽釜		ホ1	22.8	(3.4)		黄橙	黄橙	砂粒多	口縁周わずかに残	口縁短く直立し、下部にしっかりした鈹が付く。	
1-3B	44	土師器	羽釜		ホ1	22.7	(3.5)		黄橙	黄橙	赤褐色の砂粒	口縁周わずかに残	口縁短く直立下にうす手の鈹が付く。	鈹下部煤付着。
1-3B	45	柴付	丸皿		ホ1南	9.5	2.75	3.9	灰白	灰白	精良	高台完形、口縁周わずかに残	丸みを帯びた小皿、内面見込、蛇の目状に釉剥ぎ、柴付。	近世～
1-3B	46	陶器	丸椀		ホ1、南	8.7	4.75	2.8	灰白	灰白	陶質	高台周1/3残、口縁周わずかに残	丸みを帯びた器形、小型、小さくシャープな高台、高台露胎。	陶器、近世～
1-3B	47	弥生	壺	石列S	ホ1	22.4	(5.2)		明黄褐	明黄褐	赤褐砂粒多	口縁わずかに残	短かくゆるやかに開く口縁、口縁肥厚さ、口縁端部丸い。外面横ナデ。	粘土帯接合痕有、遠賀川系壺か。弥生
1-3B	48	土製品	土錘		ホ1	全長8.2	全幅4.55	孔径0.85	橙	橙		大型土錘片側端部大きく欠損		重量65.0g
1-3B	49	土製品	土錘		ホ1	全長5.7	全幅3.8	孔径1.1		橙		大型土錘径に比して短い、片側端部欠損		重量63.9g
1-3B	50	石器	凹石		ホ1	全長9.9	全幅9.1					砂岩、両面大きく凹む、縁辺、面をなし、両端敲打痕		重量600g
1-3B	51	銅製品	銅鏡		ホ1	外径2.5	内径0.7							寛永通寶
1-3B	52	土師器	小皿		ホ2、S	7.5	1.75	4.5	橙	橙	赤い砂粒入る	底部周、口縁周とも一部残、磨耗	ヘン皿状に底部中央部に向かって突出する。	
1-3B	53	瓦器	椀		ホ2	13.1	2.95	3.7	灰白	灰白	普通	高台周1/2、口縁周わずかに残	口縁部わずかに外反、体部浅い、高台扁平ながらしっかりする。外面口縁幅せまく弱いナデ、内面ミガキヘラナデ状、ほとんどなし。貼付輪高台。	器高、法量に比して高台しっかりする、内面炭素吸着ほとんどなし。
1-3B	54	瓦器	椀		ホ2、S	14.8	(3.8)		黒灰	黒灰	普通	口縁周一部残	口縁外反。外面口縁ナデ、口縁下横方向指オサエ、体部指オサエ、内面、横方向ミガキ、やや密に入る。	
1-3B	55	須恵器	杯		ホ2、S	(3.6)	10.0		灰	灰	白い細かな砂粒	高台周わずかに残	ハの字に開く高台から上方に立ち上がる体部。内外面とも回転ナデ。貼付高台。	
1-3B	56	須恵器	高杯		ホ2	(3.5)	10.8		灰白	灰白	2mm大の砂粒入る	脚部周わずかに残	裾部大きく開く、端部わずかにつまみ出す。内面回転ナデ。	
1-3B	57	青磁	椀		ホ2、S	(4.05)			黄褐	黄褐	良	口縁周わずかに残	片彫り連弁文。	
1-3B	58	須恵器	壺		ホ2	34.6	(6.6)		黄灰	灰黄		口縁わずかに残	大きく開く口縁、口縁端部で段を持ち屈曲、端部は面をなし内傾する、口縁外面クシ指波状文が施される。内面ナデ。	古墳時代。
1-3B	59	弥生土器	壺		ホ2	17.0	(5.3)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	赤色の砂粒多量入る	口縁、胴部、底部、一部なく接合不揃い	筒状の頭部から短く外反する口縁、口縁端部作り粗雑、端部キザミ入るか。場所によって面とりする場所としない場所有。頭胴間クシ描文。	
1-3B	60	弥生土器	壺		ホ2	(20.3)			にぶい黄橙	にぶい黄橙				
1-3B	61	弥生土器	壺		ホ2	(6.5)	7.4		灰黄褐	にぶい黄橙				
1-3B	62	土製品	土錘		ホ2	全長5.05	全幅1.9	孔径0.75	にぶい黄橙	にぶい黄橙		片側端部欠損		重量14.3g
1-3B	63	土製品	土錘		ホ2	全長8.2	全幅1.75	孔径0.6				完形径に比して長い		重量21.7g
1-3B	64	土製品	土錘		ホ2、S	全長6.55	全幅4.15	孔径1.05				完形大型、径に比して短い		重量89.9g
1-3B	65	土製品	土錘		ホ	全長6.25	全幅2.25	孔径1.05		橙		ほぼ完形。		重量31.2。
1-3B	66	土師器	皿		ホ	9.9	1.95	6.2	灰黄褐	にぶい赤褐	良	底部周、口縁周とも一部残	円盤状高台の底部からゆるやかな丸みを帯びて短かく立ち上がる。内面強い回転痕。回転ヘラ切り。	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3B	67	須恵器	鉢		ホ	16.4	(5.0)		灰	黄灰		口縁わずかに残。		
1-3B	68	須恵器	壺		ホ	19.6	(3.2)		灰	灰	4mm大の大きな砂粒も入る	口縁周わずかに残	口縁端部上方に拡張され面をなす。口縁、外内面とも回転ナデ。	
1-3B	69	石器	石棒		ホ 3	全長 22.7	全幅 5.6	全厚 3.1				緑色変岩、先端加工痕		重量 550g
1-3B	70	土師器	高台付皿	TR		10.2	4.25	6.0	黄橙	黄橙	細かな砂粒	高台完形、皿口縁 2/3 残	ハの字に開く高い高台、皿部、浅く、丸みを帯びて大きく開く。外面回転痕、皿見込強い回転痕。貼付高台。	
1-3B	71	土師質土器	杯	TR			(1.9)	6.4	橙	橙	細かな砂粒多	底部周完形、磨耗	平底から立ち上がる。	
1-3B	72	須恵器	杯	TR1		14.4	4.1	8.5	黄灰	黄灰	黒色の 2mm 大の砂粒入る	高台周 2/3、口縁周わずかに残	逆台形の高台から立ち上がり口縁周わずかに外反。外内面とも体部回転ナデ、内面見込中央横ナデ。外底中央に向かって凹む、ヘラ切りか。	
1-3B	73	須恵器	壺	TR2			(3.5)	12.5	黄灰	黄灰	白い砂粒入る	高台周 1/2 残	ハの字に開く高台。底部指オサエ痕明瞭。	
1-3B	74	土師器	羽釜	TR		27.6	(3.4)		明褐	明褐	砂粒多	口縁周わずかに残	口縁端部上方を向く面をなし直下にはっきりした鈎が付く。口縁端部ナデ。	摂津。
1-3B	75	東播系須恵器	片口鉢	TR		26.2	(6.35)		灰	灰	砂粒多	口縁わずかに残	口縁端部小さく拡張器壁うすい。外内面横ナデ痕。	東播捏鉢。

第V章 1-3拡張区の調査

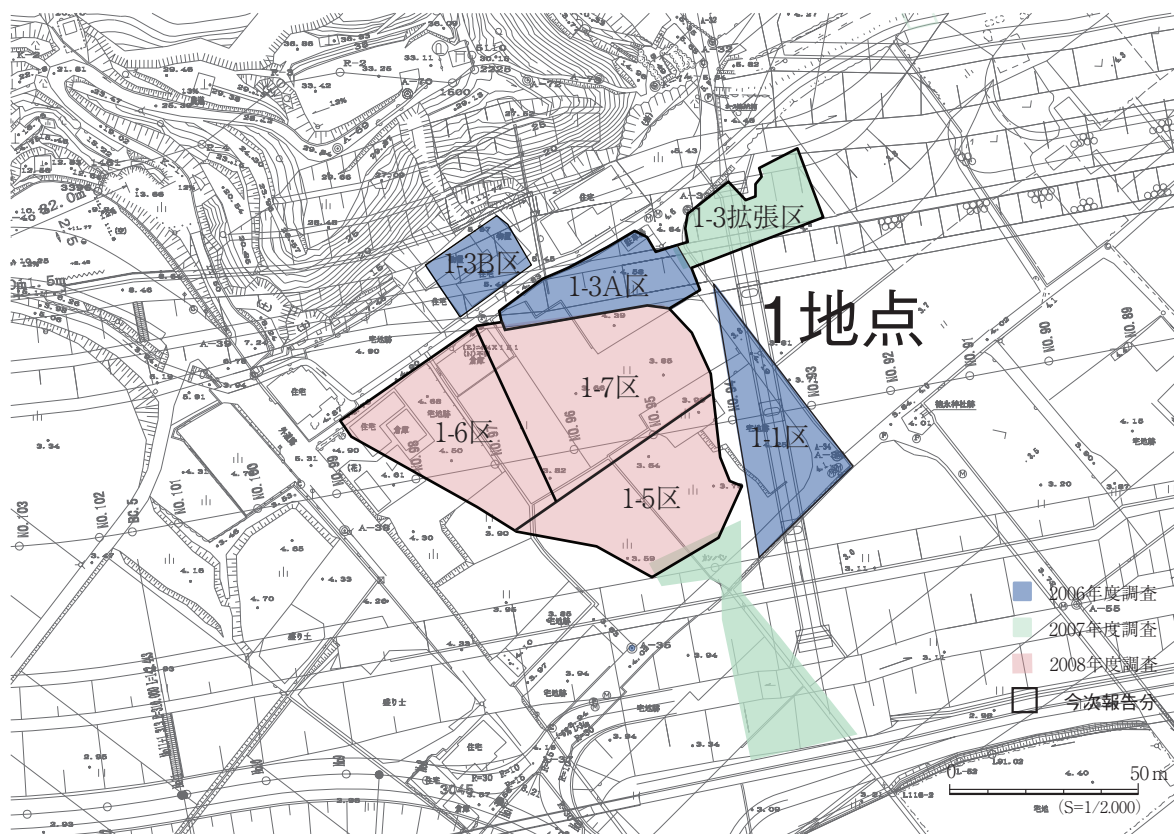
1. 1-3拡張区の概要

1-3拡張区は1-3区の東端に位置し1-3A区の東側延長部分にあたる。1-3A区で検出した下SD1の延長確認のため設定した調査区である。調査区は当初1-3A区下SD1の延長と考えられる部分を推定しL字状に設定したが、下SD1を検出することができなかったため調査区西部を北側に拡張した。

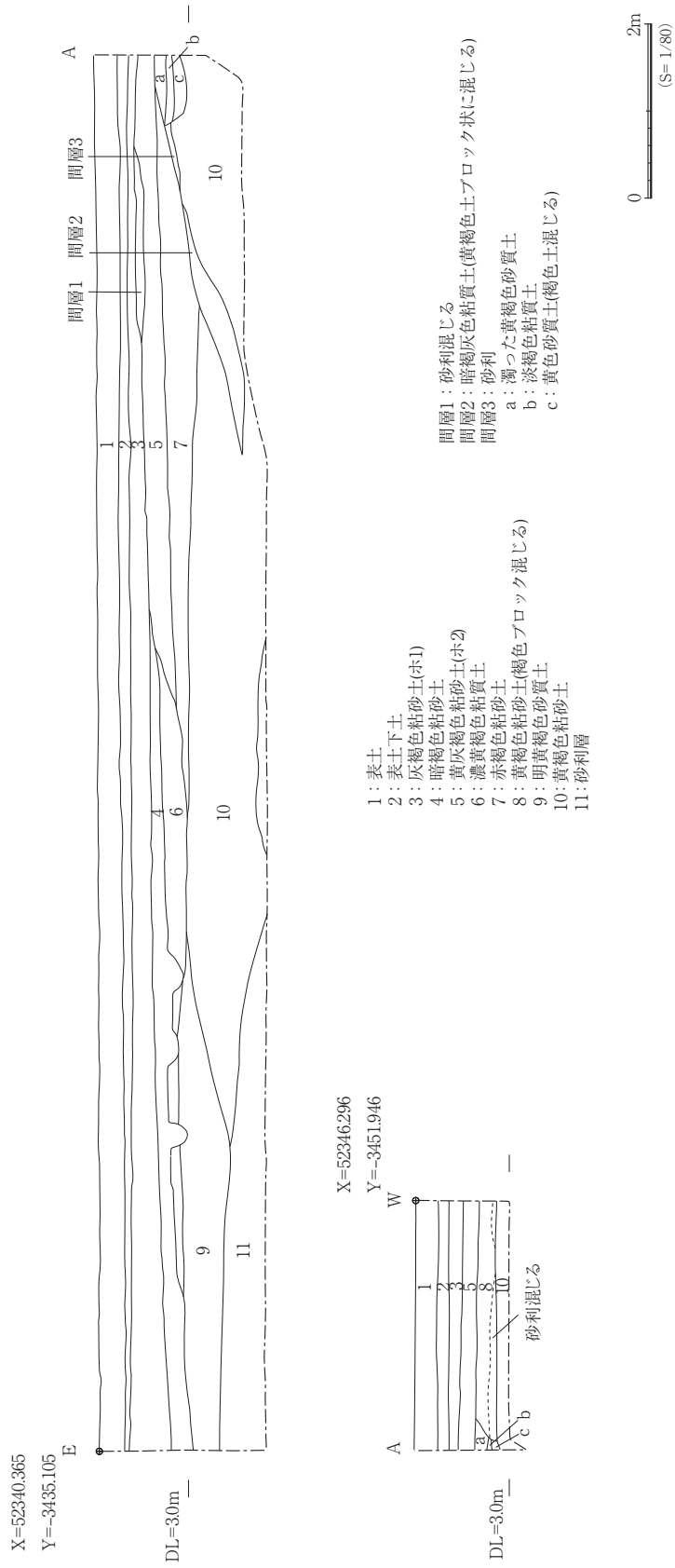
調査前は耕作地で調査前標高は約4.0mであった。調査区の基本層序は1～9層に大きく分けることができ1層は表土、2層は表土下土である。3層は灰褐色粘砂土、4層は調査区南部で検出した暗褐色粘砂土で、3層と4層を包含層1とした。5層は黄灰褐色粘砂土、6層は濃黄褐色粘質土で5～6層が包含層2である。7層は赤褐色粘砂土、8層は黄褐色粘砂土、9層は明黄褐色砂質土で8、9層が地山層と考えられる。3層と5層の間には砂利層が間層として入っていた。7層と9層の間にも砂利層が入る。

遺構面は3面検出した。包含層1掘削後の標高約3.4～3.5mを上面とし、包含層2掘削後の標高3.2～3.3mを下面として調査した。最下面は当初地山面と考えた下面検出面である7層より更に下層で遺構を検出したため部分的に調査確認を行った。

拡張区の調査平面積は500㎡で、調査期間は平成19年4～7月までであった。



5-1図 調査区位置図



5-2図 1-3拡張区最終トレンチ南面図

2. 検出遺構と遺物

(1) 上面の遺構と遺物

上面の遺構は掘立柱建物跡1棟、柱穴列1列、土坑11基、石列状遺構1ヶ所、溝跡1条、ピット100個、性格不明で近世以降の遺構の可能性の高い遺構名IKOとした土坑3基を検出した。上面の検出標高は約3.4～3.5mであった。

掘立柱建物跡・柱穴列 (SB・柱穴列)

SB1

掘立柱建物跡は調査区東側で1棟検出した。SB1は柱穴6個を検出しており、梁行1間×桁行2間の建物を復元することができる。柱間距離は梁行側では3.1mを測り、桁行は2.1mを測る。建物規模は3.1×4.2mで面積は13.02㎡である。棟方向はN-87°-Wである。柱穴は直径25～40cmで深さ12～19cmを測る。柱穴埋土はP17～19は灰黄褐色シルト、P20～22までが灰褐色粘砂土であった。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器、青磁、鉄片が出土するがいずれも細片で図示できるものはなかった。

遺構名	平面形	長径×短径 (直径) cm	深さ cm	埋土	遺物出土	備考
P17	円形	30	16	灰黄褐色シルト	土師質土器・瓦器	
P18	楕円形	45×35	19	灰黄褐色シルト	土師質土器	
P19	円形	27	14	灰黄褐色シルト	土師質土器	
P20	楕円形	38×30	13	灰褐色粘砂土	土師質土器・青磁・鉄片	
P21	楕円形	42×37	12	灰褐色粘砂土	土師質土器・瓦器	
P22	円形	38	19	灰褐色粘砂土	土師質土器・須恵器	

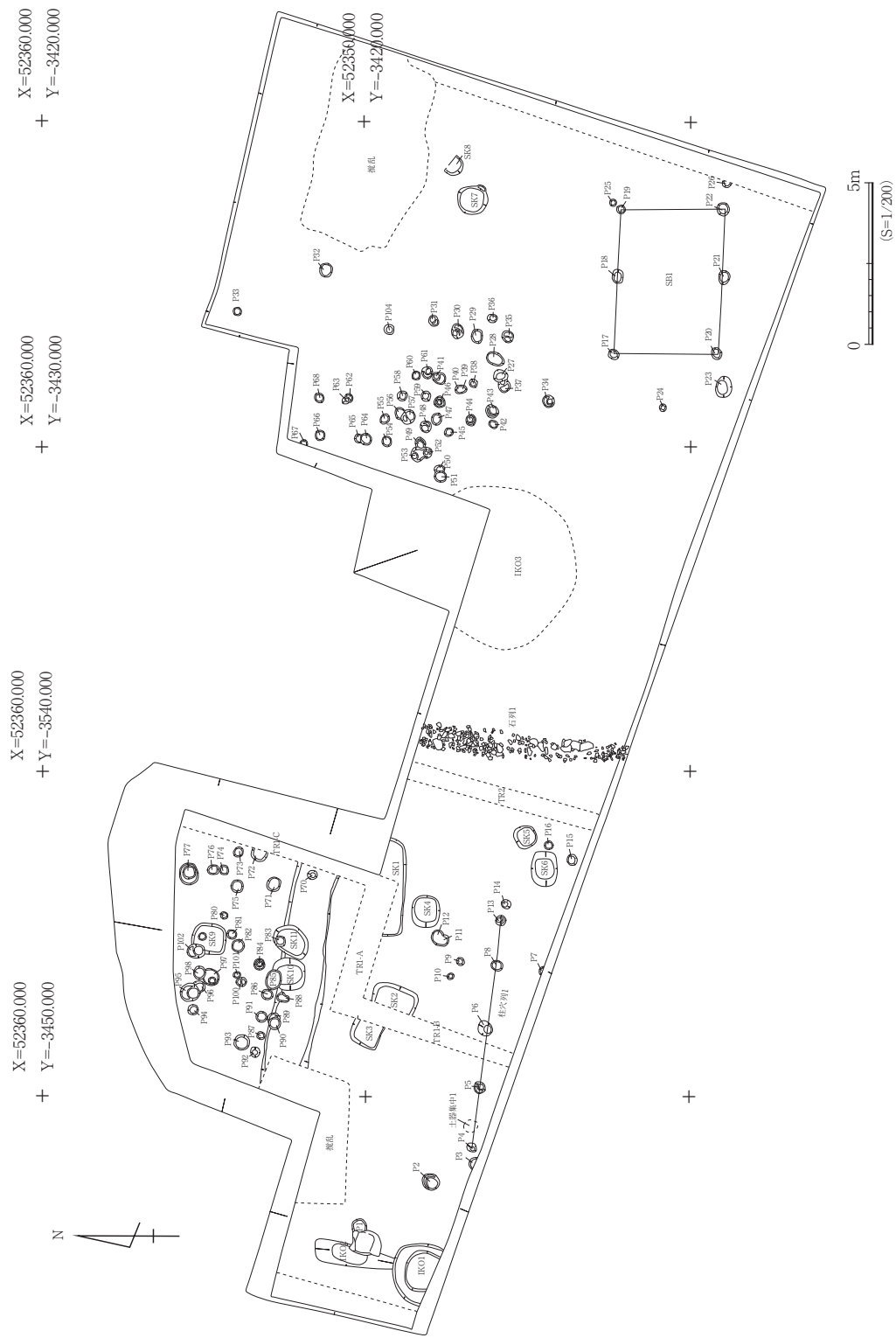
表5-1 SB1 柱穴計測表

柱穴列1

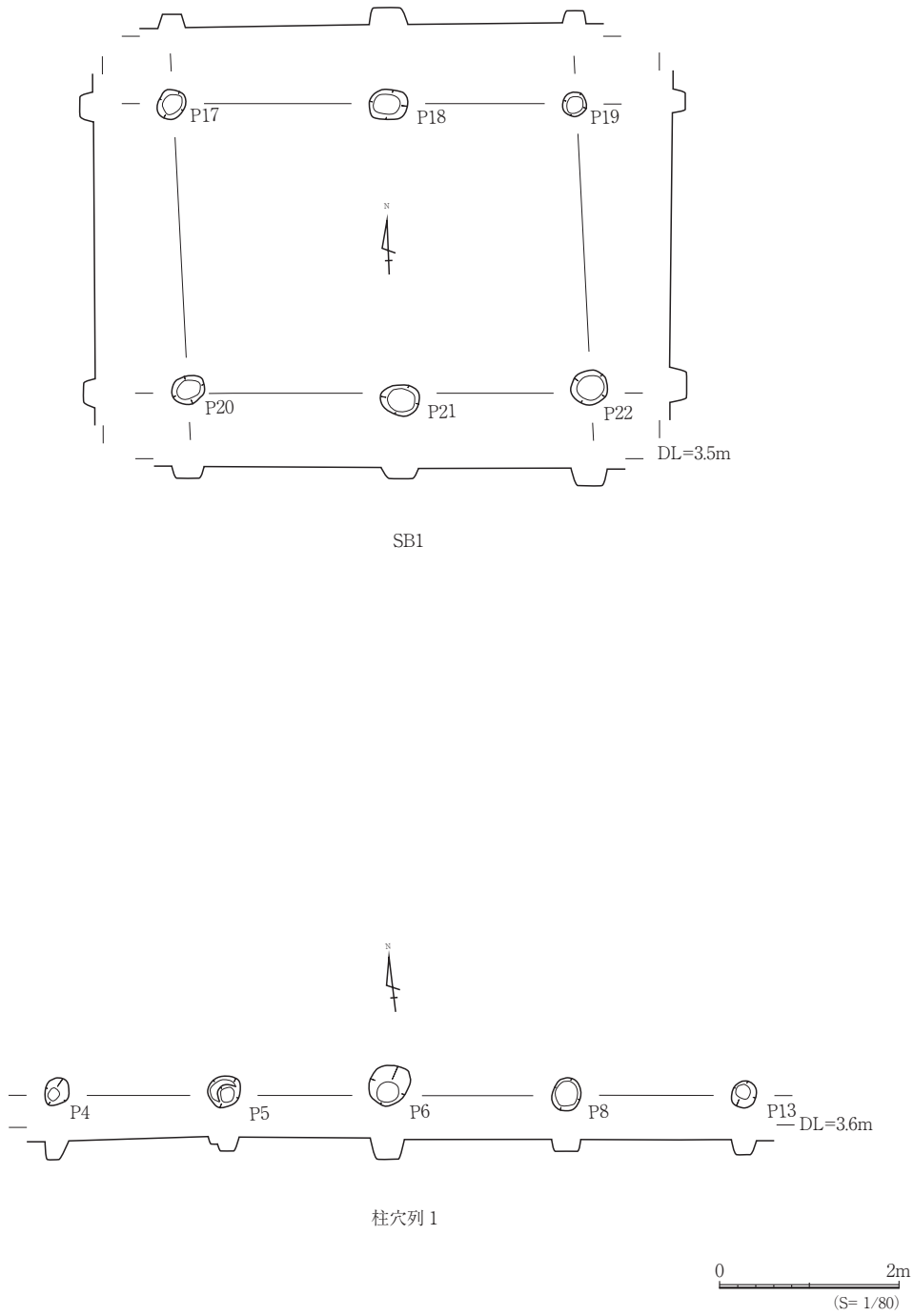
柱穴列1は調査区西側で検出した柱穴列で、ピット5個が約1.8mの等間隔で並ぶ。検出長は7.6mで軸方向はN-82°-Wである。対応するピットを確認できなかったため掘立柱建物跡として復元できなかった。遺構埋土は灰褐色粘砂土で埋土中からは土師質土器、瓦器、白磁などが出土するが細片のみで図示できる遺物はなかった。

遺構名	平面形	長径×短径 (直径) cm	深さ cm	埋土	遺物出土	備考
P4	楕円形	30×25	21	灰褐色粘砂土		
P5	円形	35	16	灰褐色粘砂土		
P6	円形	45	23	灰褐色粘砂土	土師質土器・白磁	
P8	楕円形	36×30	14	灰褐色粘砂土	土師質土器・瓦器	
P13	円形	30×25	15	灰褐色粘砂土	土師質土器・瓦器	

表5-2 上面柱穴列1計測表



5-3図 上面遺構全体図



5 - 4 図 SB1・柱穴列 1

土坑 (SK)

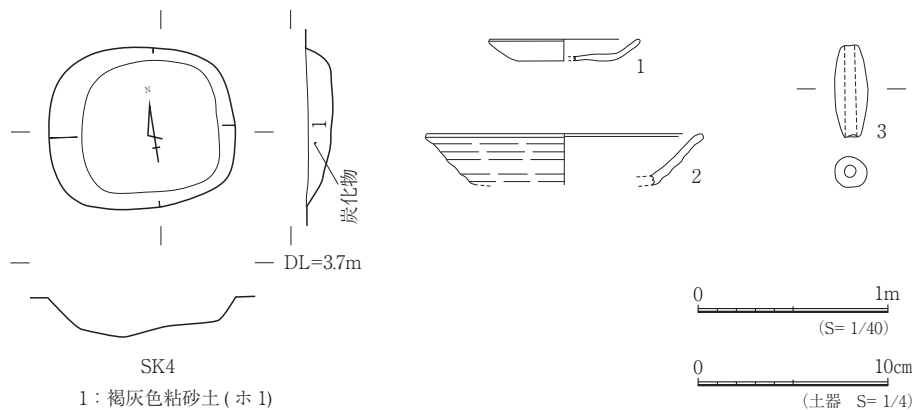
上面で検出した土坑は11基である。SK1はTR1と調査区に切られ残存が不良であった。SK2・3もTR1に切られ、SK8は攪乱坑に切られ不整形な完掘状況を呈する。SK10・11はSD1を切った状態で検出した。遺物を図示できる土坑はSK4のみである。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK1	3.00 × (0.72) × 0.09	-	皿状	N - 84° - W		土師質土器・瓦質土器・須恵器・白磁・青磁		
SK2	1.43 × (0.72) × 0.15	-	皿状	N - 20° - E		土師質土器・瓦質土器		
SK3	0.93 × (0.74) × 0.12	-	皿状	N - 17° - E		土師質土器・瓦質土器		
SK4	0.99 × 0.85 × 0.18	方形	皿状	N - 86° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・青磁・土錘		瓦質三足釜
SK5	0.68 × 0.67 × 0.09	楕円形	皿状	N - 24° - W		土師質土器・瓦質土器		
SK6	1.06 × 0.78 × 0.25	楕円形	逆台形	N - 86° - W		土師質土器・瓦質土器・須恵器・白磁・青磁		
SK7	0.95 × 0.90 × 0.14	楕円形	皿状	N - 16° - E		土師質土器・瓦質土器		
SK8	0.60 × (0.42) × 0.15	-	皿状	N - 45° - W		土師質土器・瓦器・東播系須恵器		
SK9	1.06 × 0.93 × 0.27	長方形	-	N - 9° - E		土師質土器		P102に切られる
SK10	1.00 × 0.97 × 0.18	楕円形	逆台形	N - 3° - W		土師質土器		P85に切られSD1を切る
SK11	1.18 × 0.84 × 0.13	楕円形	逆台形	N - 24° - E		土師質土器		P83に切られSD1を切る

表5-3 上面土坑一覧表

SK4

SK4は調査区西側で検出した土坑である。平面形は方形で長軸約1.0m、短軸約0.85m、深さ約18cmを測り、断面形は皿状である。埋土は褐灰色粘砂土で炭化物が混じる。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、青磁、土錘が出土している。図示できたものは1の瓦器皿、2の土師質土器杯、3の土錘である。図示できなかったが瓦質三足釜の脚が出土している。

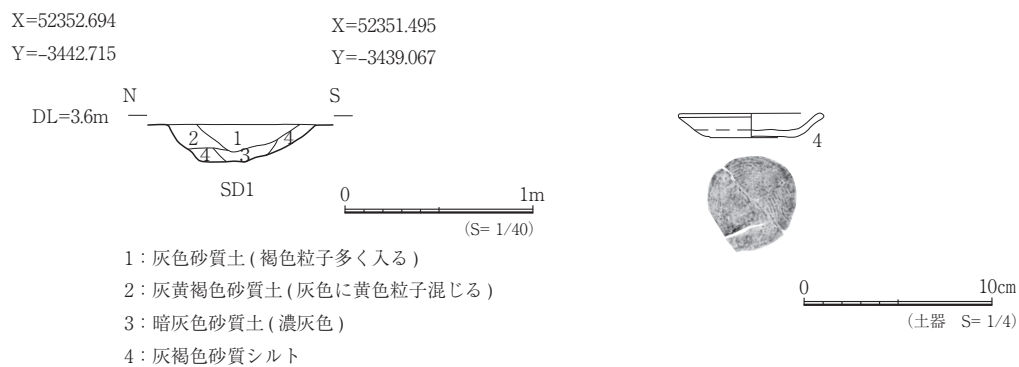


5-5図 SK4

溝跡 (SD)

上面で溝跡は1条検出している。調査区西側の調査区を拡張した部分で検出した東西方向の溝跡で下SD1と重複しており下SD1埋没後の遺構である。P70・88～90、SK10・11に切られている。

検出長は約5.5mで拡張した部分をほぼ東西に横切り、東端部をトレンチに西端部を攪乱土坑に切られていた。上端幅は南側では約1.5m、深さは48cm、断面形は逆台形状で埋土は4層に分層できた。1層は灰色砂質土に褐色粒子が混じる土、2層は灰黄褐色砂質土、3層は暗灰色砂質土、4層は灰褐色砂質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、青磁、土師器が出土しているが図示できたものは底部回転糸切り土師質土器小皿4のみである。



5 - 6 図 SD1

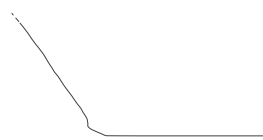
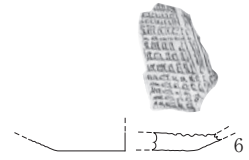
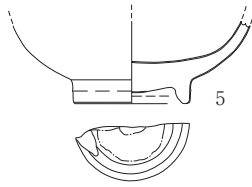
石列

石列1は調査区中央部で検出した南北方向に調査区を横断する石列である。石列の規模は検出長約6.3m、幅約1.0mである。軸方向はN-5°-Eである。石は投げ込まれた状態で2～3石が重なる部分がみられるが積み石構造ではない。使用石材は長軸30cm、短軸20cm程度の石材もみられるが大部分は10～20cm程度の小さな石材で白色の砂岩で割れ石であった。石列中から出土した遺物では青磁、瀬戸卸皿、備前焼播鉢、瓦質土器鍋を図示した。5の青磁は底部内側が蛇の目状に露胎している。6は瀬戸卸皿である。8は土佐型の瓦質土器鍋で14世紀後半～15世紀代と考えられる。7は備前焼の壺底部である。

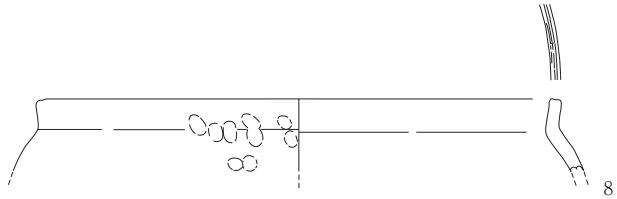


0 1m
(S= 1/40)

X=52348.000
Y=-3438.000
+



X=52344.000
Y=-3438.000
+

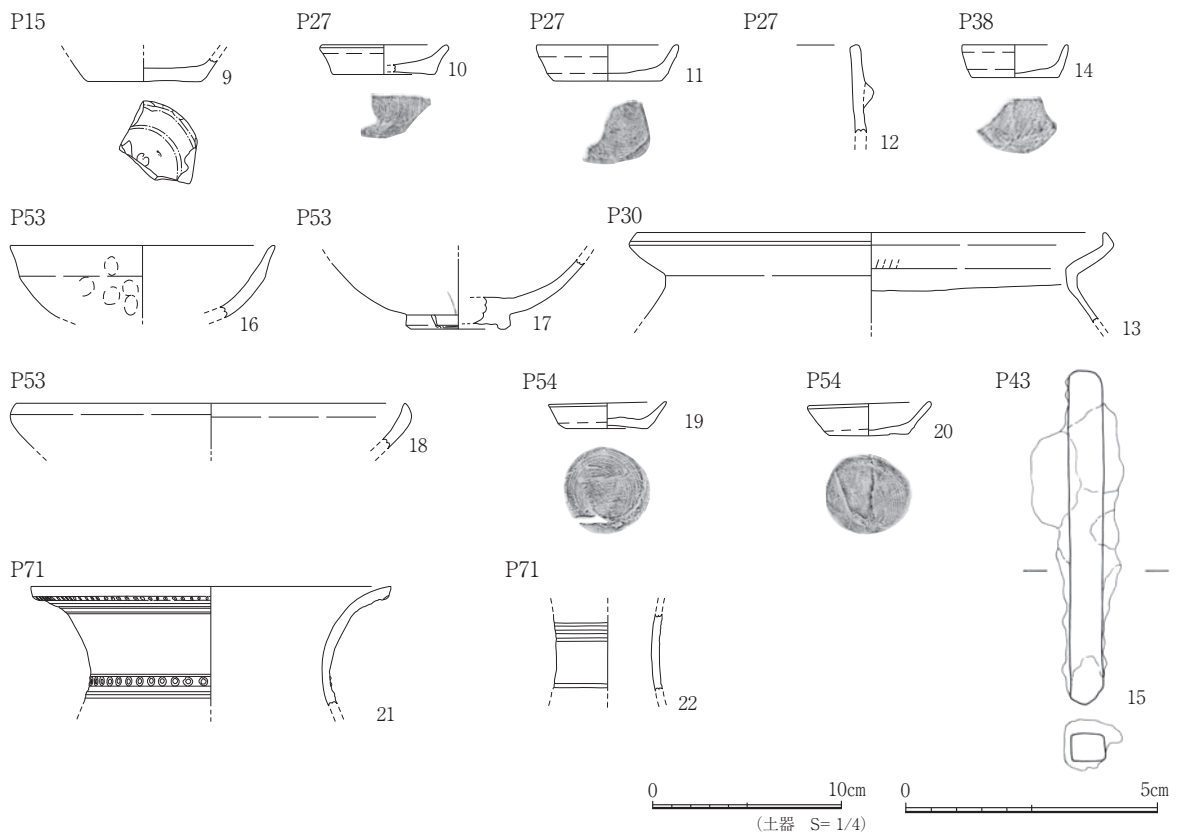


0 10cm
(土器 S= 1/4)

5 - 7 图 石列 1

ピット(P)

ピットは上面ではP1～104までの遺構番号を付け検出を行った。欠番があるためピットとして確認できたものは100個である。100個の内、建物跡を構成する柱穴と確認できたものは6個である。ピットの検出埋土は灰褐色粘砂土、灰黄褐色シルト、暗褐色シルトがほとんどで灰色シルト、その他を1つずつ確認している。埋土中からの遺物は63個のピットで確認できており土師質土器、土師器、瓦器、瓦質土器、黒色土器、須恵器、炆器、青磁、弥生土器、土錘、鉄釘などが出土している。図示できる遺物が出土したピットはP15・27・30・38・43・53・54・71である。P27は瓦質土器羽釜と回転糸切り底部の土師質土器小皿2点を図示した。P30出土の13は器壁が薄く、くの字に屈曲する口縁、口縁端部は上方に拡張する特徴から紀伊型土師器甕と考えられる。P43出土の鉄器は断面方形状で釘の可能性が考えられる。P54はほぼ完形の底部糸切り土師質土器小皿2点を図示した。P53は3点図示した。16の瓦器椀は在地産の可能性が考えられる。17の青磁椀は高台豊付けから露胎している。18は東播系須恵器片口鉢と考えられるが口縁端部の拡張は弱い。P71では弥生土器のみが出土しており21は高知県西部地域で多くみられる弥生時代中期末の甕で所謂土佐型甕である。22は在地系細頸壺の頸部である。



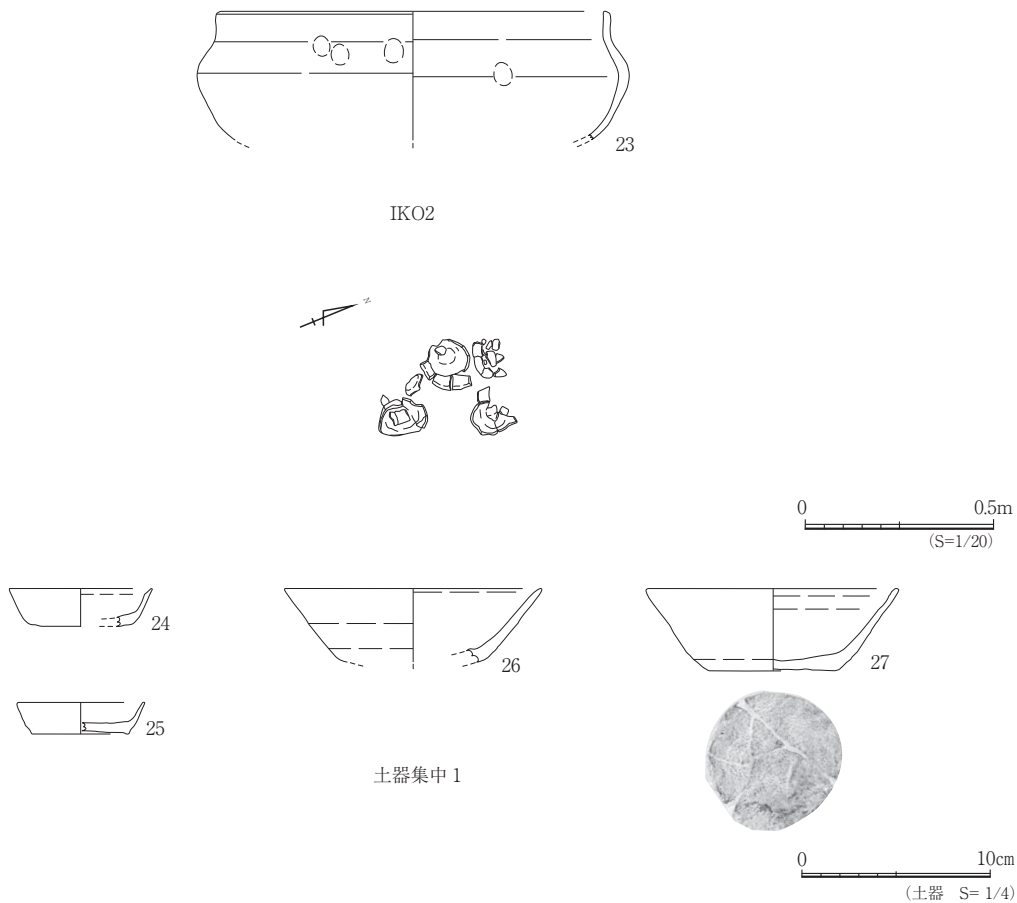
5-8図 上面ピット出土遺物

IKO

性格不明で近世以降の遺構の可能性の高い遺構をIKOとした。IKOは3基検出しており、IKO1は円形で直径約1.5m木製桶が埋め込まれた状態の土坑であった。埋土は灰色粘土に黄褐色土が混じる攪乱状の土で埋土中からは近現代の虫ゴム、口金金具などが出土しており近現代の水溜状の遺構と考えられる。IKO2は調査区西端で検出した南北方向の溝状遺構で埋土は青灰色粘土で樹皮を検出面で確認している。また隣接して暗渠排水と考えられるパイプを確認しており、暗渠の可能性が高く近世以降の遺構と考える。IKO2からは23の瓦質の所謂土佐型鍋が出土しており、15世紀前半と考えられ当該調査区の遺構の時期を推定する資料として貴重である。IKO3は円形の掘方を持つもので近世以降の井戸跡と考えられる。

土器集中1

調査区西側、柱穴列1の西端部P4に隣接して土師質土器皿、杯が押しつぶされた状態で出土した。掘方は確認できなかった。小皿2点と杯2点を図示した。底部には回転糸切り痕が残る



5 - 9 図 IKO2・土器集中1

(2) 下面の遺構と遺物

下面で検出した遺構は土坑47基、溝跡7条、ピット276個、性格不明で近世以降の遺構の可能性の高い遺構名IKOとした土坑1基を検出した。下面の検出標高約3.1～3.3mであった。



5-10図 下面遺構全体図

土坑 (SK)

下面ではSK12～62までの遺構番号を付け調査を行った。SK12・56は精査の結果遺構と判断できなかったため掘削しなかった。またSK38・53については上面遺構の残滓と確認した。このため、検出した土坑は47基である。遺構の分布は調査区東側に密集した状態が見られ、SD4の西側でも集中が見られる。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK12	欠番					土師質土器・瓦質土器		
SK13	1.25 × 0.73 × 0.21	楕円形	逆台形	N - 14° - W		土師質土器・瓦質土器・須恵器・青磁		
SK14	1.70 × 0.95 × 0.17	長方形	逆台形	N - 53° - E		土師質土器・瓦質土器・須恵器		
SK15	0.85 × 0.73 × 0.28	楕円形	逆台形	N - 18° - W		土師質土器・須恵器		瓦質三足釜
SK16	0.80 × 0.79 × 0.24	楕円形	逆台形	N - 16° - W		土師質土器・須恵器・軽石		
SK17	0.80 × 0.60 × 0.34	不整形	-	N - 42° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器		
SK18	(1.05) × 0.76 × 0.17	不整形	皿状	N - 0° - W		土師質土器・瓦器		
SK19	1.00 × 0.96 × 0.08	円形	皿状	N - 33° - W		土師質土器・瓦器		
SK20	1.08 × 0.92 × 0.11	楕円形	皿状	N - 17° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器		
SK21	1.15 × 1.05 × 0.37	楕円形	逆台形	N - 8° - E		土師質土器・瓦器・須恵器・土鍾		
SK22	0.80 × 0.80 × 0.20	円形	逆台形	N - 34° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・青磁		白磁口売げ口縁皿
SK23	1.05 × 0.95 × 0.16	楕円形	箱形	N - 27° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・白磁		
SK24	0.90 × 0.75 × 0.08	楕円形	皿状	N - 64° - W		土師質土器・瓦器・土鍾		
SK25	0.76 × 0.70 × 0.10	楕円形	皿状	N - 9° - E		土師質土器・瓦器		
SK26	0.68 × 0.58 × 0.14	楕円形	皿状	N - 72° - W		土師質土器		
SK27	0.95 × 0.74 × 0.24	楕円形	逆台形	N - 14° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・白磁		
SK28	0.93 × 0.87 × 0.15	正方形	皿状	N - 8° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・常滑焼・土鍾		
SK29	0.86 × 0.72 × 0.18	楕円形	皿状	N - 30° - E		土師質土器・瓦器		
SK30	1.29 × 0.97 × 0.16	長方形	皿状	N - 21° - E		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK31	(1.05) × 0.08 × 0.06	長方形	皿状	N - 72° - W		土師質土器・瓦器		
SK32	1.15 × 1.05 × 0.26	正方形	箱形	N - 28° - E		土師質土器・瓦器・東播系須恵器・鉄釘		
SK33	0.87 × 0.72 × 0.09	長方形	皿状	N - 65° - W		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK34	(0.75) × 0.70 × 0.09	楕円形	皿状	N - 42° - E		土師質土器		
SK35	1.37 × 1.00 × 0.33	楕円形	-	N - 4° - E		土師質土器・瓦器・須恵器・青磁・土鍾		
SK36	0.75 × 0.75 × 0.13	正方形	皿状	N - 40° - W		土師質土器・瓦器		
SK37	0.77 × 0.70 × 0.11	長方形	皿状	N - 6° - E		土師質土器・瓦質土器・須恵器		
SK38	欠番							SK7と重複
SK39	(0.56) × 0.68 × 0.10	円形	皿状	N - 17° - W		土師質土器		
SK40	(1.15) × 0.66 × 0.11	楕円形	皿状	N - 9° - W		土師質土器・青磁		
SK41	0.69 × 0.65 × 0.12	楕円形	皿状	N - 16° - W		土師質土器		
SK42	(0.95) × 0.77 × 0.10	楕円形	皿状	N - 16° - W		土師質土器・瓦器		
SK43	0.95 × 0.90 × 0.16	正方形	箱形	N - 7° - W		土師質土器・須恵器・土鍾		
SK44	1.40 × 1.20 × 0.27	楕円形	逆台形	N - 12° - W		土師質土器・須恵器		
SK45	(0.80) × (0.65) × 0.31	-	逆台形	-		土師質土器		
SK46	0.79 × 0.70 × 0.28	隅丸方形	逆台形	N - 75° - W		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK47	1.03 × 0.71 × 0.38	楕円形	箱形	N - 14° - E		土師質土器・瓦器・須恵器・青磁		
SK48	(0.60) × 0.92 × 0.30	楕円形	箱形	-		土師質土器・瓦器		土器出土多
SK49	4.20 × 1.45 × 0.14	長方形	皿状	N - 82° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・青磁・白磁		土器出土多
SK50	0.81 × 0.60 × 0.04	楕円形	皿状	N - 10° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器		
SK51	0.97 × 0.35 × 0.35	楕円形	逆台形	N - 78° - E		土師質土器・瓦器・青磁		
SK52	(3.60) × (0.95) × 1.21	不整形	逆台形	N - 70° - W		土師質土器・東播系須恵器・土鍾		
SK53	欠番							SK6と重複
SK54	0.64 × 0.28 × 0.24	楕円形	逆台形	N - 6° - W				
SK55	0.87 × 0.70 × 0.39	不整形	-	N - 21° - W				
SK56	欠番							
SK57	1.43 × 1.25 × 0.11	方形	皿状	N - 88° - W		土師質土器・瓦質土器		石入る
SK58	1.35 × 1.30 × 0.57	楕円形	逆台形	N - 10° - W		土師器・土師質土器		
SK59	(3.45) × 0.95 × 0.34	長方形	箱形	N - 79° - E		土師器・土師質土器・須恵器		長胴甕
SK60	(1.10) × 1.65 × 0.15	-	皿状	-		土師器・土師質土器・軽石・粘土塊		長胴甕
SK61	1.13 × (1.15) × 0.20	不整形	-	N - 11° - E		土師質土器・瓦質土器・須恵器		
SK62	0.65 × 0.60 × 0.46	楕円形	逆台形	N - 27° - W		土師質土器		

表5-4 下面土坑一覧表

SK21

SK21は調査区東側に位置する楕円形の土坑でSD7の東端部で重複する。長軸約1.15m、短軸約1.05m、深さ37cmを測り、断面形は逆台形であった。遺構埋土は灰褐色粘砂土で砂利が混じるほか炭化物も入る。埋土中からは土師器、瓦器、須恵器、土錘などが出土しており、土師器羽釜、土錘を図示した。

SK23

SK23は調査区東側に位置する土坑である。平面形は楕円形で長軸は約1.05m、短軸約0.95m、深さ16cmを測る。断面形は浅い箱形で埋土は暗灰褐色粘砂土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、白磁が出土している。図示した遺物は30の東播系須恵器片口鉢である。

SK24

SK24は調査区東側に位置しP341が床面にある。平面形は楕円形で長軸は約0.90m、短軸約0.75m、深さ8cmを測る。断面形は皿状の浅い土坑で埋土は淡灰褐色粘砂土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、土錘が出土している。図示できたのは31の土錘のみで重さ約5.9g、孔径約4mmを測る。

SK28

SK28は調査区東南に位置し周辺はピットが密集する。SK28はP334～336を切る。平面形は正方形で長軸約0.93m、短軸約0.87m、深さ約15cmを測る。断面形は皿状、検出埋土は1層は暗灰色シルトで炭化物が入る。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、常滑焼、土錘が出土しているが、図示できた遺物は32のみである。32は厚手で不整形な土師質土器である。体部は丸みを帯びており碗の可能性が考えられる。

SK43

SK43は調査区北東部に位置している。周辺は土坑が密集した状態で検出している。SK43は重複はみられず単独の土坑である。平面形は正方形で長軸約0.95m、短軸約0.90m、深さ約16cmを測る。断面形は浅い箱形を呈し、埋土は2層で上層は褐灰色粘砂土で下層は黄褐色に褐灰色が混じる粘質土である。埋土中からは土師質土器、須恵器、土錘が出土している。図示できた遺物は34の底部回転糸切りの土師質土器小皿と33の土錘の2点である。土錘は重さ約4.5g、孔径4mmをはかる小型のものである。

SK46

SK46は調査区北東隅に位置する。平面形は隅丸方形で規模は長軸約0.79m、短軸約0.70m、深さ約28cmを測る。断面形は逆台形を呈し、埋土は1層で黄白色に灰色が混じる粘砂土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器が出土している。図示できた遺物は35の底部回転糸切りの小皿のみである。

SK48

SK48は調査区北側に位置する。西側を攪乱土坑に切られた状態で検出した。平面形は楕円形の可能性が高く長軸側が切られていたと考えられる。長軸の残存長は約0.60m、短軸約0.92m、深さ約30cmを測る。断面形は箱形で埋土は上層は黄灰褐色粘砂土で縞状に炭化物が入る。下層は同じく黄灰褐色粘砂土であるがブロック状に土が混じった状態である。埋土中からは土師質土器、瓦器が出土している。36・37の土師質土器口縁は口縁端部が摘み上げ状になり先端が尖る。38は回転糸切り痕が残る底部である。39は瓦器皿で口縁と体部の境が明瞭で体部は丸みを帯びている。

SK49

SK49は調査区南東部の遺構が密集している部分で検出した長い長方形の土坑である。SK49内で検出したピットは全て床面検出である。土坑の長軸は4.20 m、短軸は1.45 m、深さは14cmである。埋土は褐灰色粘質土、灰褐色粘砂土、黄灰色粘砂土3層に分層でき埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、青磁、白磁が出土している。図示した40は底部回転糸切り痕が残り外面にも明瞭な回転痕の残る土師質土器小皿である。41は比較的小さな玉縁を持つ白磁碗口縁である。

SK51

SK51は調査区中央部で検出した細長い楕円形土坑で東側端部床面から直径約20cm、深さ約9cmのピットを検出した。土坑の規模は長軸0.97 m、短軸0.35 m、深さ約35cmを測る。遺構検出埋土は灰褐色粘砂土で、埋土中からは土師質土器、瓦器、青磁が出土している。42は体部はわずかに丸みを帯び、底部は低い円盤状を呈する。底部切り離しは不明であるが土師質土器小皿と考えられる。43・44は瓦器皿で扁平な器形である。45は内面に陰刻文様が施された青磁碗である。

SK52

SK52は調査区南東部で検出した不整形な土坑である。SD7を挟んでA部分とB部分に分かれる。検出時埋土が暗褐色粘砂土に砂利の混じる同一の埋土であったことから同一遺構と判断したが、遺構の立ち上がりからA部分とB部分は別遺構の可能性が高いと考える。

A部分はSD7を挟んだ西側に位置し不整形な楕円形を呈し南側は調査区で切られている。長軸3.60 m、短軸残存長0.95 m、深さ121cmを測る。断面形は楕円状である。

B部分はSD7東側に位置し不整形な長方形を呈する。長軸1.79 m、短軸残存長0.49 m、深さ約17 cmを測り、断面形は浅い皿状である。

埋土は暗褐色粘砂土に砂利の混じる土である。埋土中からは土師質土器、東播系須恵器、土錘が出土している。

SK57

SK57は下SD1より北側に位置しSK58と重複しており、SK58の埋土上で検出した土坑である。平面形は方形で長軸1.3 m、短軸1.25 mを測る。断面形は皿状で深さは約11cm、埋土は淡黄灰色粘砂土である。埋土中からは土師質土器、瓦質土器が出土し、図示した49は高台の付く盤である。

SK58

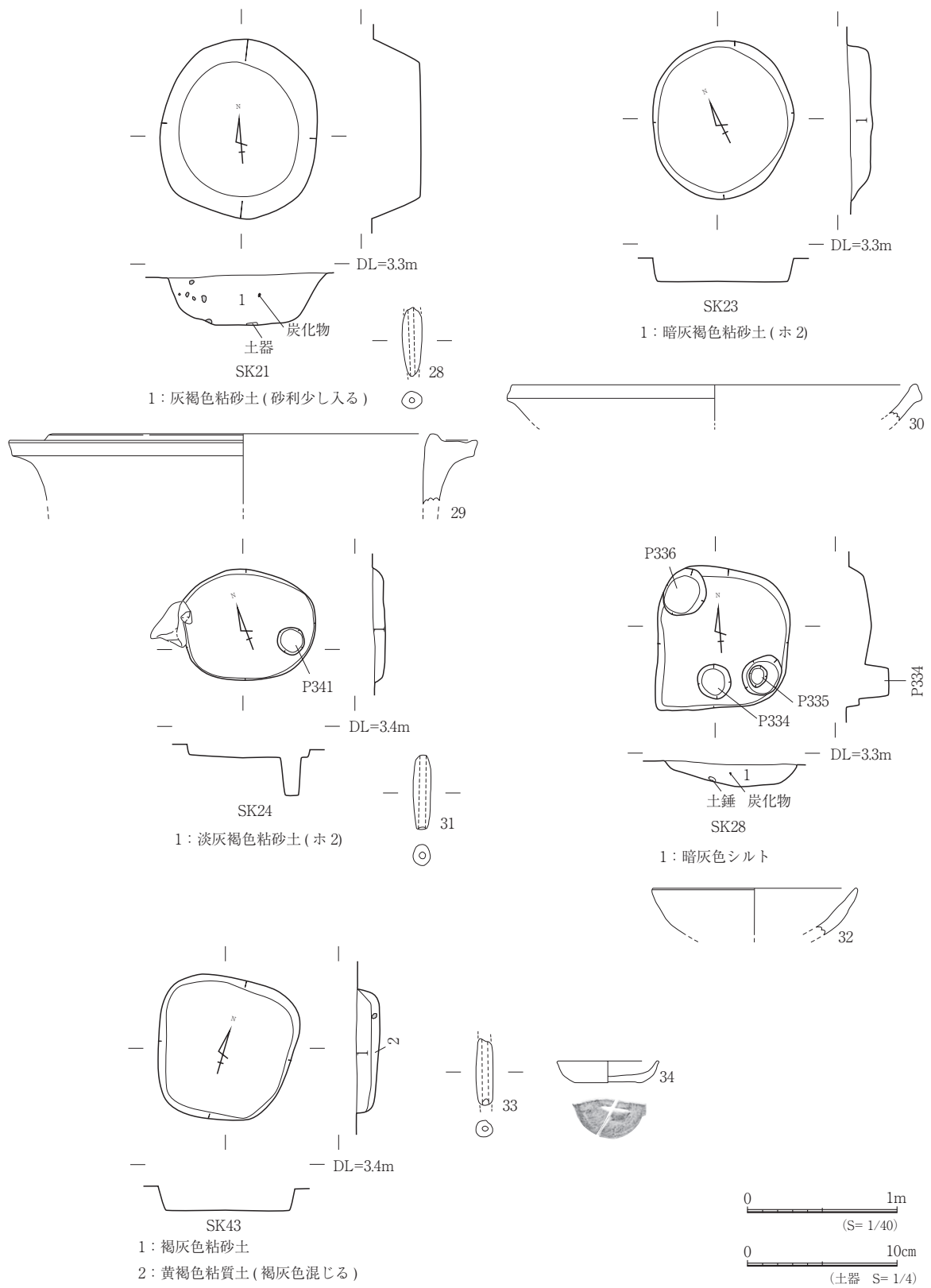
SK58は下SD1の北側に位置しSK57・59と重複し、SK57に切られSK59を切る。円形に近い楕円形を呈し長軸1.35 m、短軸1.30 mを測る。断面形は逆台形状で深さは57cmである。埋土は、上層は黒褐色粘質土で下層は黄褐色ブロックが混じる。埋土中からは土師器・土師質土器が出土している。50は屈曲が弱く緩やかに開く口縁の持ち端部は面をなし、わずかに上方に拡張される古代の甕である。

SK59

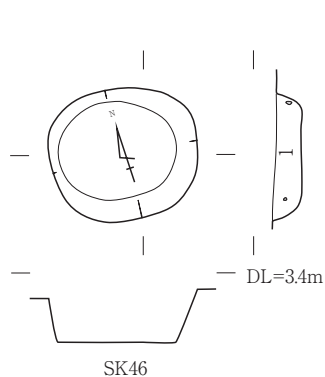
SK59は下SD1の北側に位置しSK58・60と重複し切られる。東西方向の溝状土坑で東側は調査区に西側はSK58に切られている。長軸残存長約3.45 m、短軸0.95 m、深さ約34cmを測る。断面形は箱形で検出埋土は暗褐色土である。埋土中からは土師器、土師質土器、須恵器が出土するが図示できる遺物はなかった。

SK60

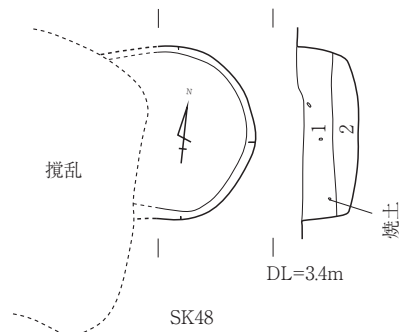
SK60はSK59を切った状態で検出した浅い土坑で埋土は灰色土であった。埋土中からは角柱状に



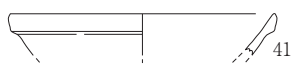
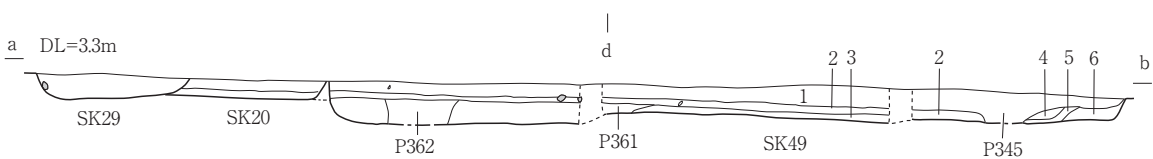
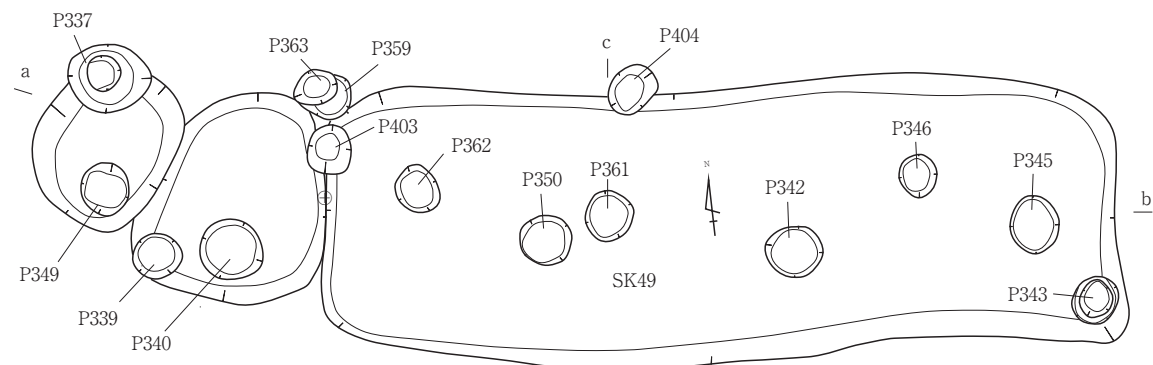
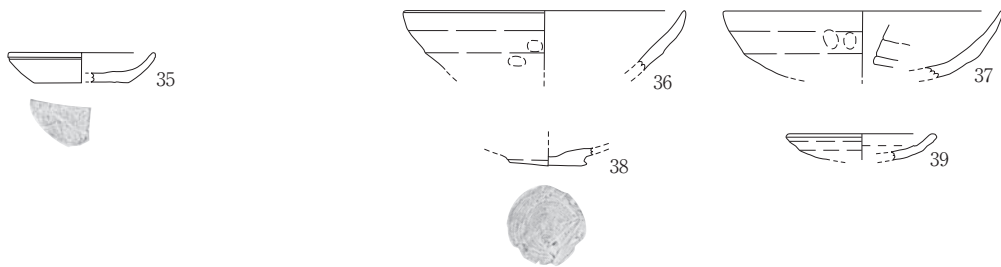
5 - 11 図 SK21・23・24・28・43



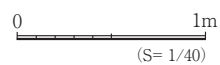
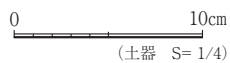
1: 黄白色粘砂土 (灰色混じる)



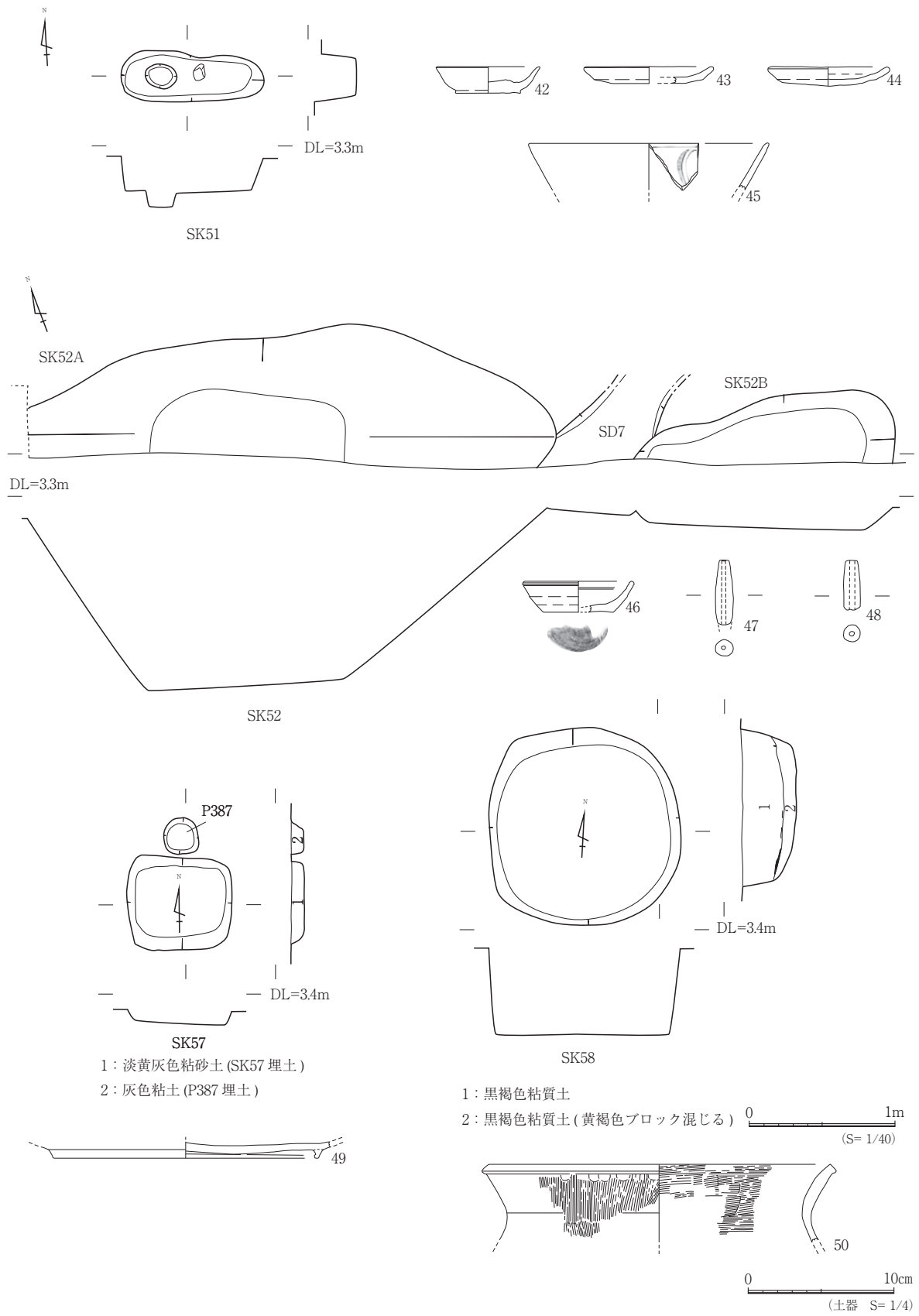
1: 黄灰褐色粘砂土 (縞状に炭化物入る)
2: 黄灰褐色粘砂土 (ブロック状に土混じる 中世)



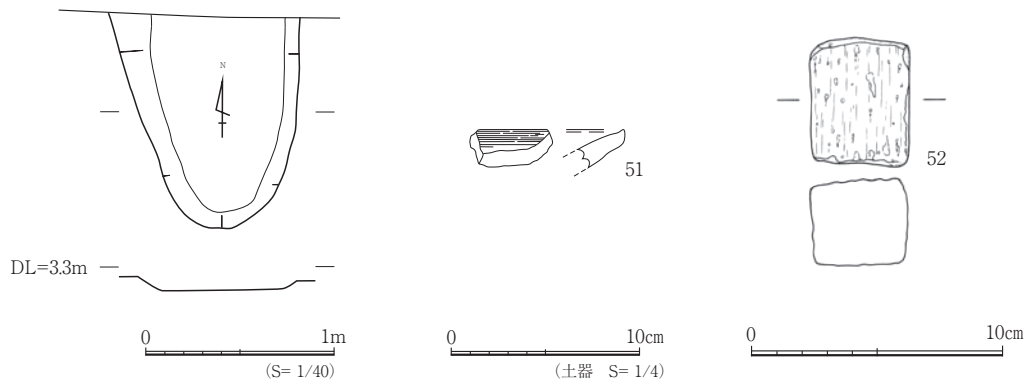
1: 褐灰色粘質土
2: 灰褐色粘砂土
3: 黄灰色粘砂土
4: 褐灰色粘質土 (黄色ブロック混じる)
5: 暗褐灰色粘砂土
6: 灰黄褐色粘砂土



5 - 12 図 SK46・48・49



5 - 13 図 SK51・52・57・58



5 - 14 図 SK60

整形した軽石が出土している。
溝跡 (SD)

溝跡はSD3～8までの遺構番号を付け調査した。SD1は1-3A区で検出した下SD1の延長部分にあたり、遺構名を引き継いだため欠番である。またSD2は下SD1の一部と確認したため欠番となった。SD4～6は南北方向、その他は東西方向である。

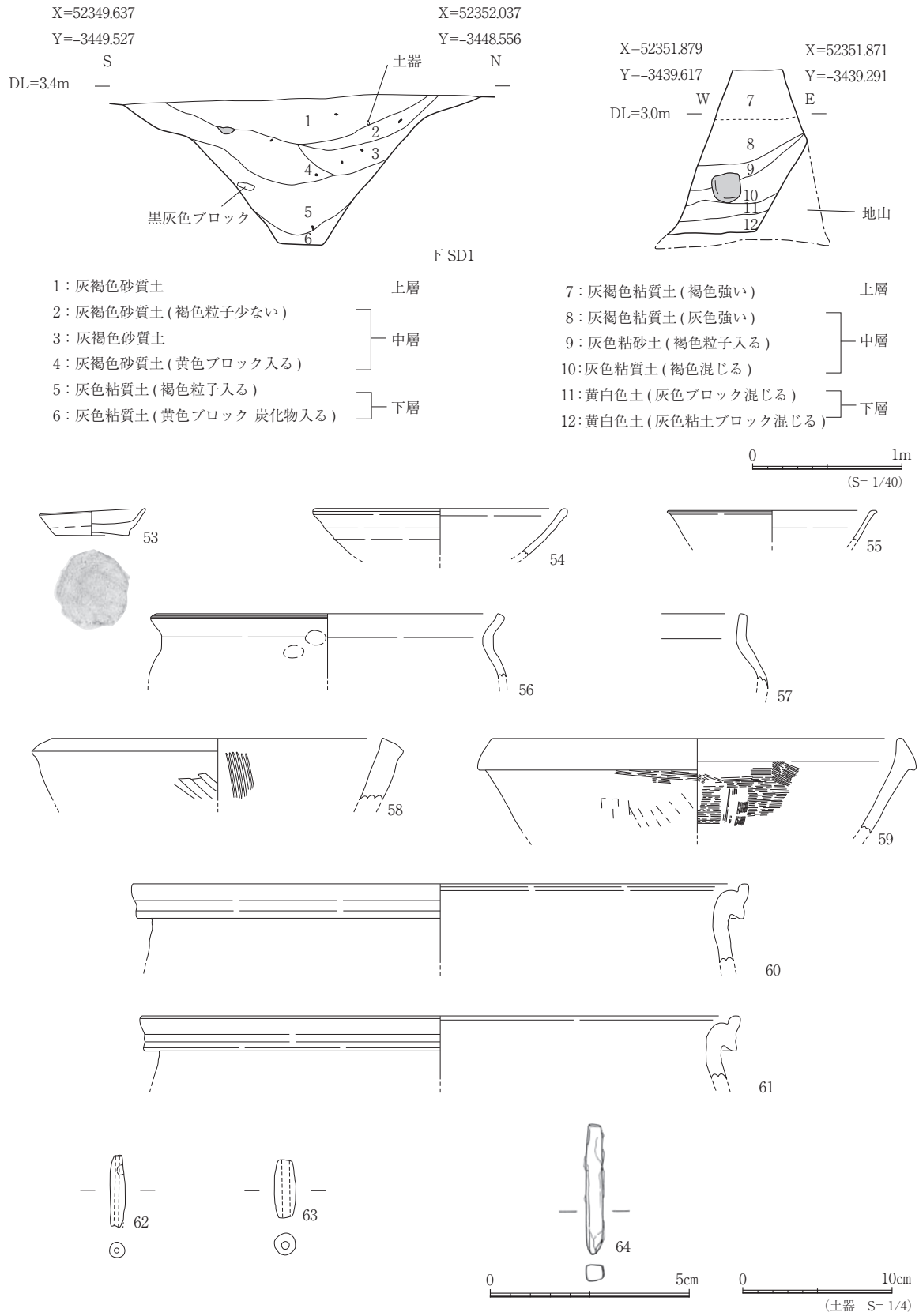
下SD1

1-3A区から続く溝跡である。当初、1-3A区で確認した環濠的性格から1-3A区から直線的に東西方向に延び城山を取り囲む様にコの字に区画する可能性を想定し調査を行ったが、想定した直線的延長部分では確認できなかった。

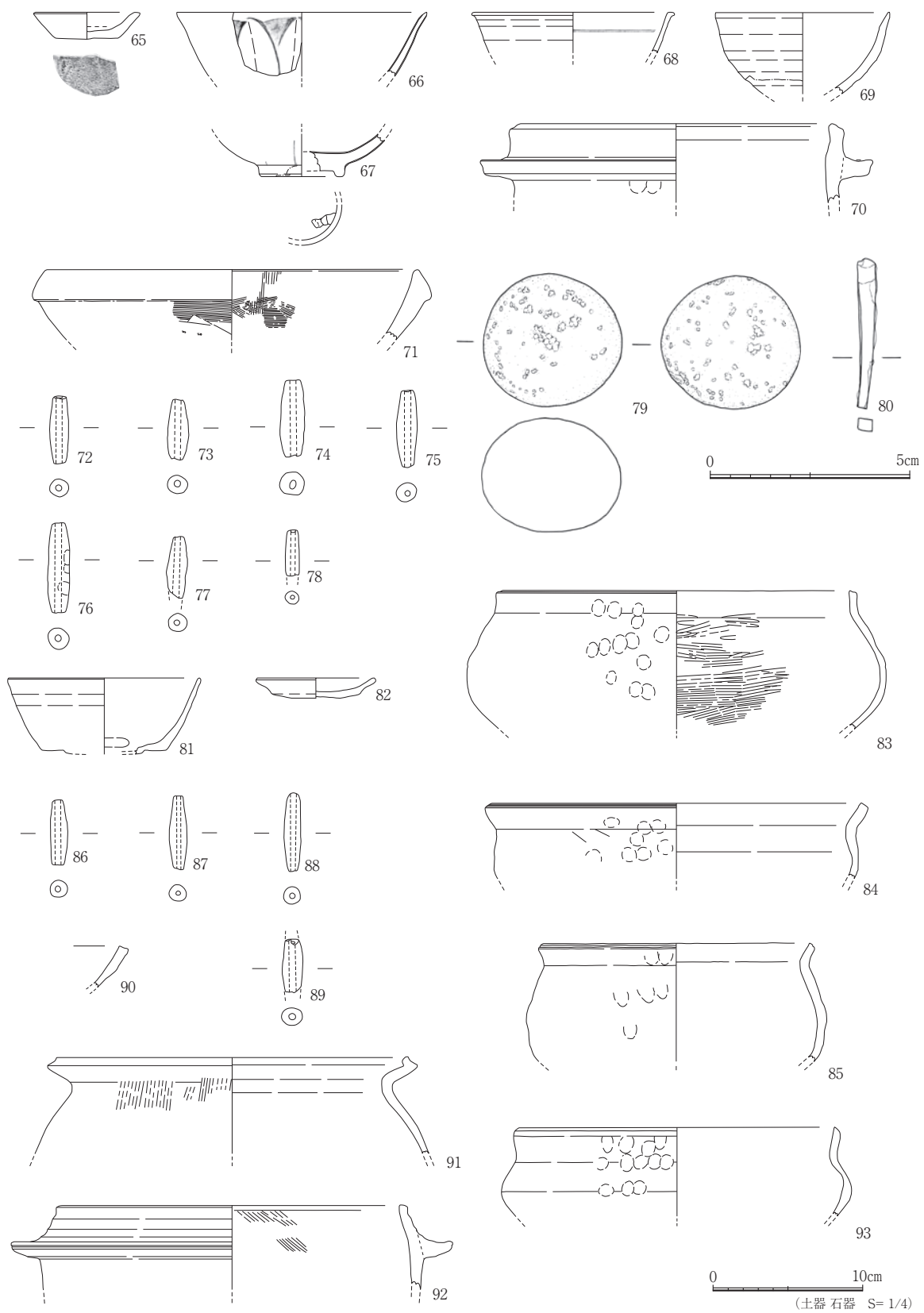
今次調査で1-3A区と拡張区の境界部分で北側方向に約23°に向きを変え約16.6m延び突然終結する事を確認した。下SD1の当調査区での方向はN-86°-Eで規模は検出長約16.6m、上端幅約2.2m、下端幅0.15～0.35m、深さ約1.0～1.2mを測る。断面形はV字状である。

埋土は基本的に灰褐色土で若干の明るさの違い、黄色ブロック土の混入度合いの違いから6層に分層した。遺物は1層を上層、2～4層を中層、5・6層を下層として取り上げた。図示した遺物では53～64が上層出土遺物、65～78・80は中層出土遺物、83は中、下層で接合した。79・81・82・84～88は下層出土遺物である。89～93は層位不明で埋土一括取り上げの遺物である。上層出土の57は所謂土佐型の瓦質土器鍋で15世紀代と考えられる。また、中、下層で接合した83も土佐型瓦質土器鍋である。上層出土の59、中層出土の71は備前焼系播鉢で備前焼IV期のものと考えられる。このように各層位での遺物の大きな時期の相違はみられない、また埋土も層位間で大きな差異は無く、黄色ブロックが多く混じる事から下SD1は15世紀代に一気に埋め戻されたものと考えられる。

下SD1は当初想定したような城山下をコの字状に囲む環濠では無いことを確認したが、V字状の断面形を持ち、終端部は地面から約60°の角度で急激に立ち上がっている事から計画的に作られたことは明らかで濠的性格を持つものと考えられる。



5 - 15 図 下 SD1 上層出土遺物



5 - 16 図 下 SD1 中層・下層・埋土出土遺物

SD3

SD3は調査区西側で検出した浅い溝跡で埋土は黒灰褐色粘質土であった。SD3と重複するピットは全てSD3の埋土上で検出したものである。SD3の検出長は6.6m、上端幅約0.95mで深さは約9cmで断面形は浅い皿状である。埋土中からは弥生土器が出土し94は直立気味の杯口縁を持つ高杯で杯部には穿孔がみられる。SD3は立ち上がりがはっきりしていないことから自然の落ち込みに弥生時代の包含層が残存したものと考えられる。

SD4

SD4は調査区中央部で検出した南北方向の溝跡でSD5と重複しSD5を切っている。SD4の残存長は約8.0m、上端幅は約0.6mで深さは約15cmを測る。断面形は浅い皿状で埋土は褐灰色粘質土であった。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器、青磁が出土したが図示できる遺物はなかった。

SD5

SD5は調査区中央部で検出した溝跡でSD4と重複し北側で切られている。南端部は調査区に切られる。残存長は約6.4m、上端幅は約0.6mで深さは約10cmを測る。断面形は浅い皿状で埋土は黒灰色粘質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、緑釉陶器が出土している。図示した96は緑釉陶器椀で胎土は硬陶で外面には淡緑色の釉を薄く刷毛塗りしている。

SD6

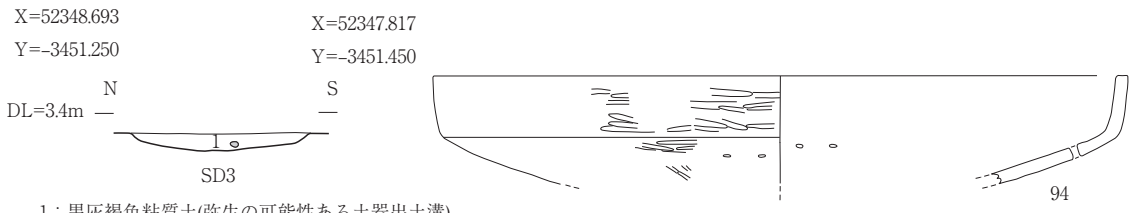
SD6は調査区中央部に位置する南北方向の溝跡である。北側を近世以降の井戸跡と考えられるIKO3に切られる。幅が広く浅い上層と断面U字状の深い下層がある。上層は残存長約3.3m、上端幅約3.5m、深さ約5～10cmを測る。下層は上層中央よりやや南に位置し軸方向は西側に傾く。埋土は同一の灰黄褐色シルトであった。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器、備前焼播鉢、青磁、土錘などが出土している。図示した遺物では97は土師質土器小杯で外面には回転痕が残るが底部切り離しは不明であった。98・99は瓦器皿である。100は青磁皿で口縁一部以外は露胎する。101の青磁椀内面には飛雲文が施される。103は備前焼Ⅳ期と考えられる備前焼播鉢である。

SD7

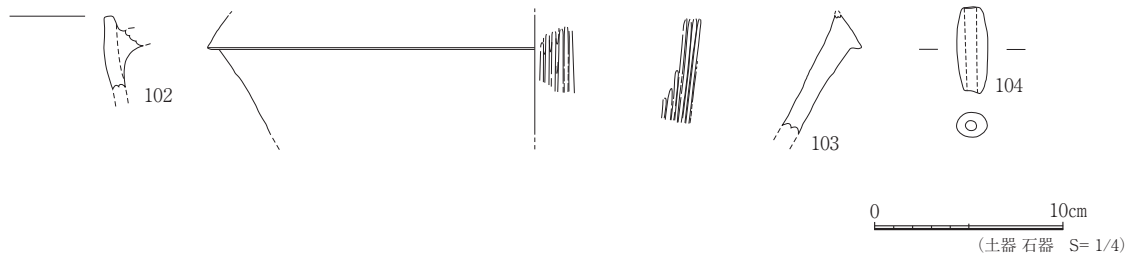
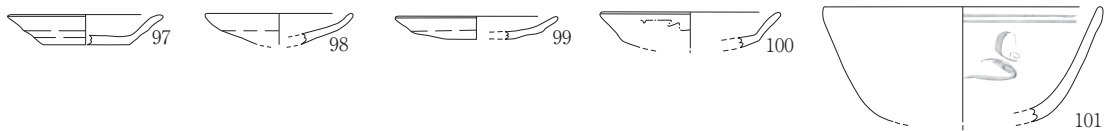
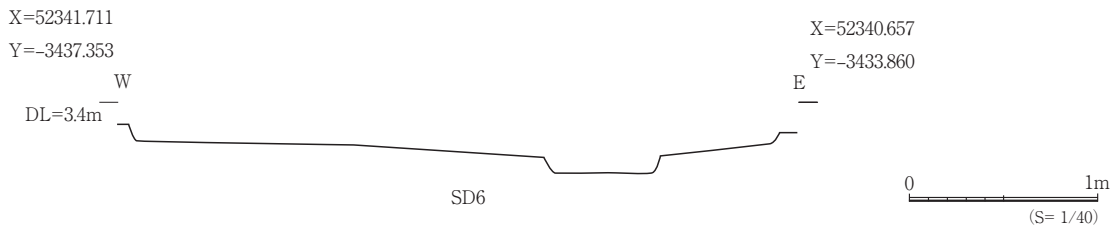
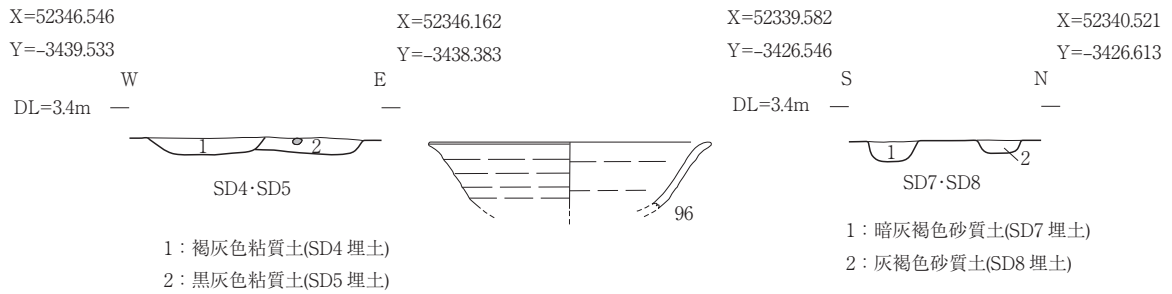
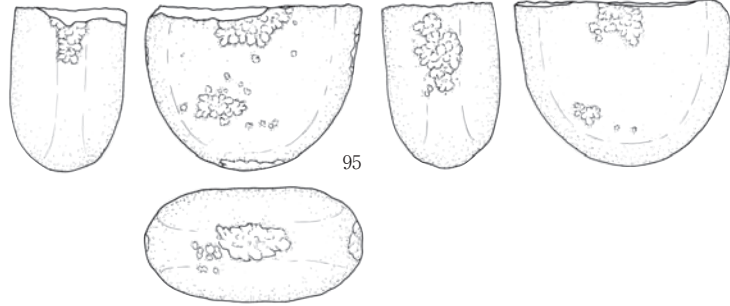
SD7は調査区東側で検出した浅く不整形な弧状の溝跡である。南側端部は調査区、東側端部はSK21に切られている。残存長は約4.8m、上端幅は約0.25mで深さ約7cmを測る。埋土は暗灰褐色砂質土で埋土中からは土師質土器、瓦器の細片が出土している。

SD8

SD8は調査区東側に位置しSD7に隣接しており周辺は遺構が密集している。浅く西側端部は自然に消えた状態である。残存長は約2.0m、上端幅約0.25m、深さ約8cmを測る。埋土は灰褐色砂質土であった。



1: 黒灰褐色粘質土(弥生の可能性ある土器出土溝)



5 - 17 図 SD3 ~ 6

ピット(P)

ピットは遺構番号P124～432までを付け検出したが精査の結果、遺構と判断できなかったもの、重複したものが39個あるためピットとして確認できたものは270個である。検出埋土は暗灰色シルト、灰色シルト、灰褐色粘砂土、灰黄褐色シルト、暗褐色灰色シルトの5種類を確認しており大部分は暗灰色シルトであった。注目されるピットとして土錘が61個出土したP171挙げられる。これは1-3A区で検出したP73から68個の土錘が出土したのに次ぐ出土量である。ピットの中で建物跡を構成する柱穴と確認できたものは無かった。

遺構名	平面形	長径×短径 (直径) cm	深さ cm	埋土	図版No	出土遺物	備考
P136	円形	30	29	暗灰色シルト	166 167	土師器	
P141	楕円形	40×30	18	暗灰色シルト	168	瓦器	
P159	楕円形	57×35	15	暗灰色シルト	169	石鏃	
P171	楕円形	26×23	35	暗灰色シルト	105～165	土錘	
P176	楕円形	25×20	21	灰色シルト	170 171	土師質土器・土錘	
P198	円形	37	23	暗灰色シルト	172 173	白磁・青磁	
P201	楕円形	28×23	34	暗灰色シルト	174	土師器・黒色土器	
P212	楕円形	(45)×45	32	灰色シルト	175	土師器	
P225	楕円形	31×26	29	暗灰色シルト	176	土師器・須恵器	
P231	円形	40	39	暗灰色シルト	177 178	土師器・須恵器・土錘	
P232	楕円形	40×30	37	暗灰色シルト	179	土師質土器・瓦器	
P236	円形	36×(25)	16	暗灰色シルト	180	土師質土器・瓦器・砥石	
P245	楕円形	32×27	48	暗灰色シルト	181	土師質土器	
P267	楕円形	30×25	29	暗灰色シルト	182 183	土師質土器	
P270	円形	25	39	暗灰色シルト	184	土師質土器・瓦器	
P278	円形	35	35	灰色シルト	185～189	土錘	
P283	円形	30	46	暗灰色シルト	190	土師質土器・瓦器	
P293	楕円形	40×32	29	暗灰色シルト	191	土師質土器	
P310	楕円形	50×45	22	暗灰色シルト	192	土師器・瓦器	
P320	円形	40	24	暗灰色シルト	193	土錘	
P352	楕円形	30×25	19	暗灰色シルト	194	土師器	
P393	円形	55	64	灰褐色粘砂土	195	土師質土器・瓦器	
P404	楕円形	30×20	42	暗灰色シルト	197	土師質土器	
P408	楕円形	25×22	20	暗灰色シルト	198	土師質土器	
P414	楕円形	30×25	6	暗灰色シルト	196	土師質土器	
P416	円形	25	37	暗褐色灰色シルト	199	土師質土器	
P429	円形	25	33	灰褐色粘砂土	200	土師質土器・土錘	

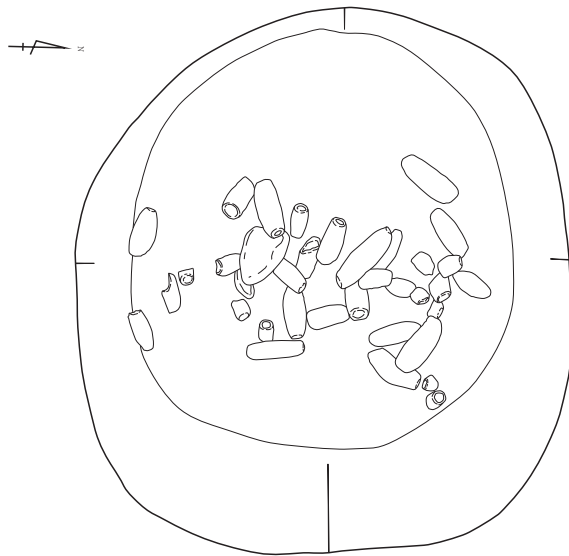
表5-5 下面図版掲載遺物出土ピット計測表

P171

P171は下SD1の北側で検出したピットである。長軸26cm、短軸23cmとわずかに楕円形状を呈し深さは約35cmである。埋土は暗灰色シルトで周辺のピットと同様であった。埋土中からは土錘が61個出土している以外他の遺物は出土していない。出土した土錘は表面は摩耗するものが多いが大きく欠損するものは少なかった。

X=52354.331
Y=-3446.844

S
●

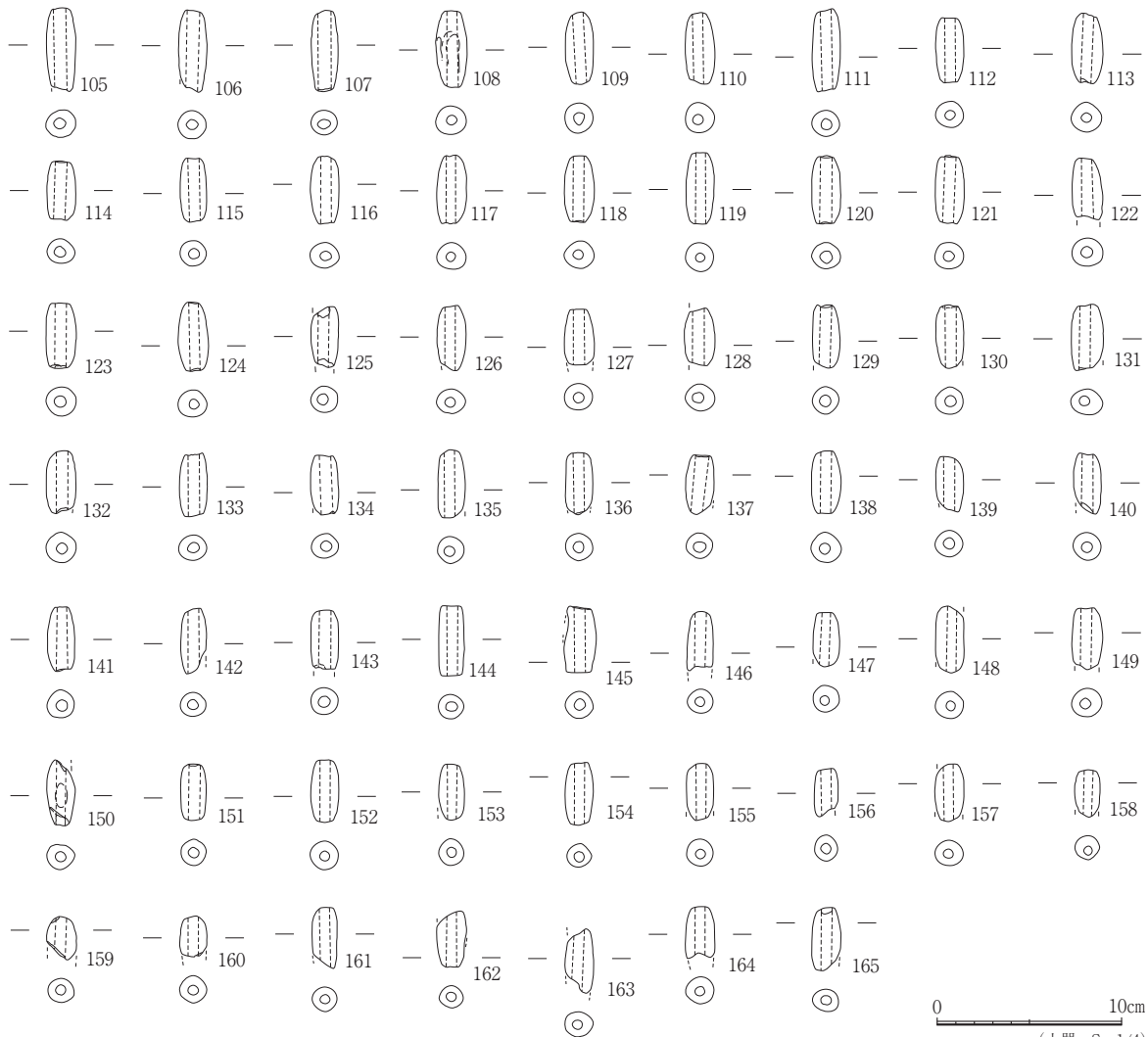


X=52354.708
Y=-3446.864

N
●

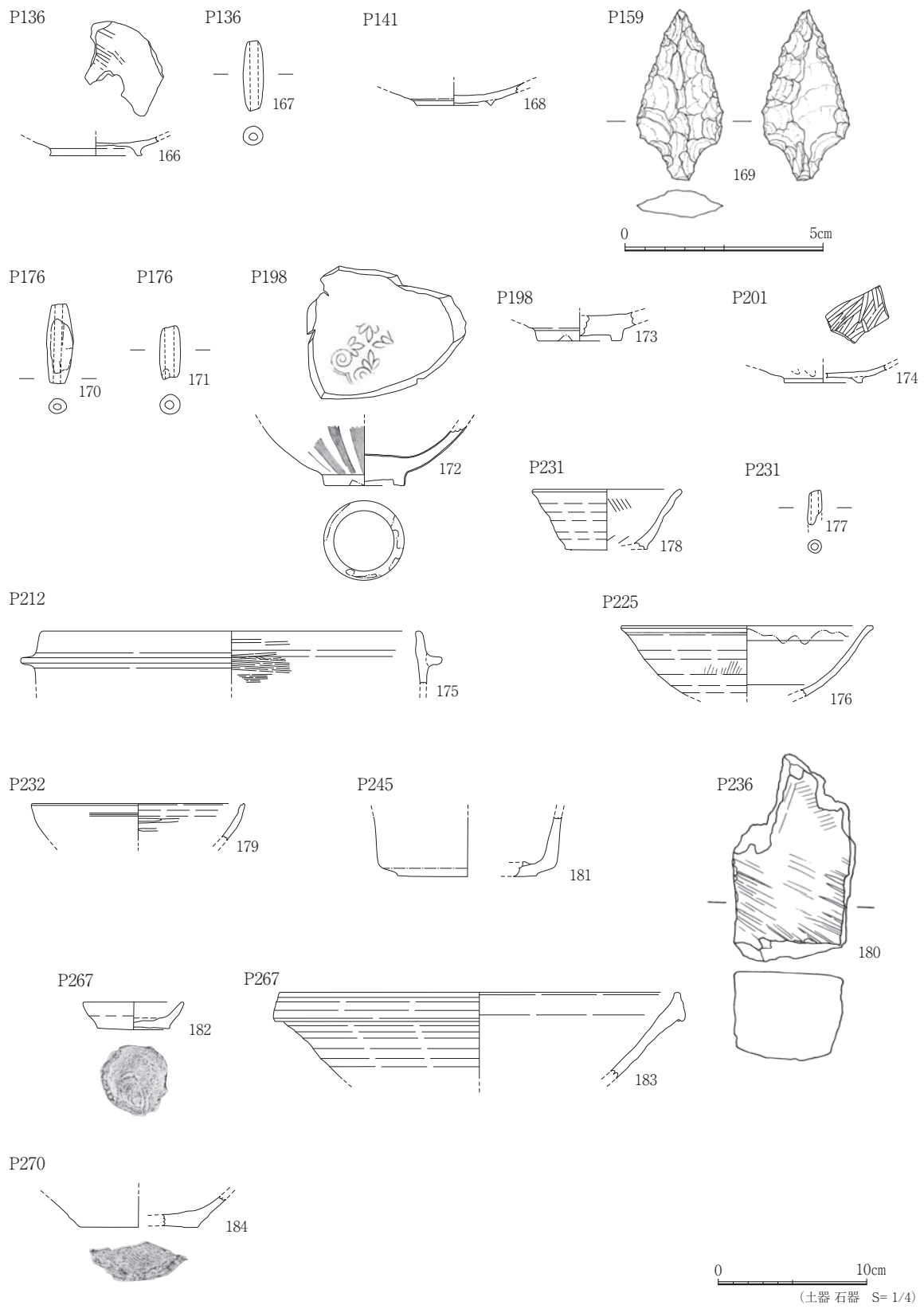
出土遺物狀況

0 10cm
(S= 1/4)

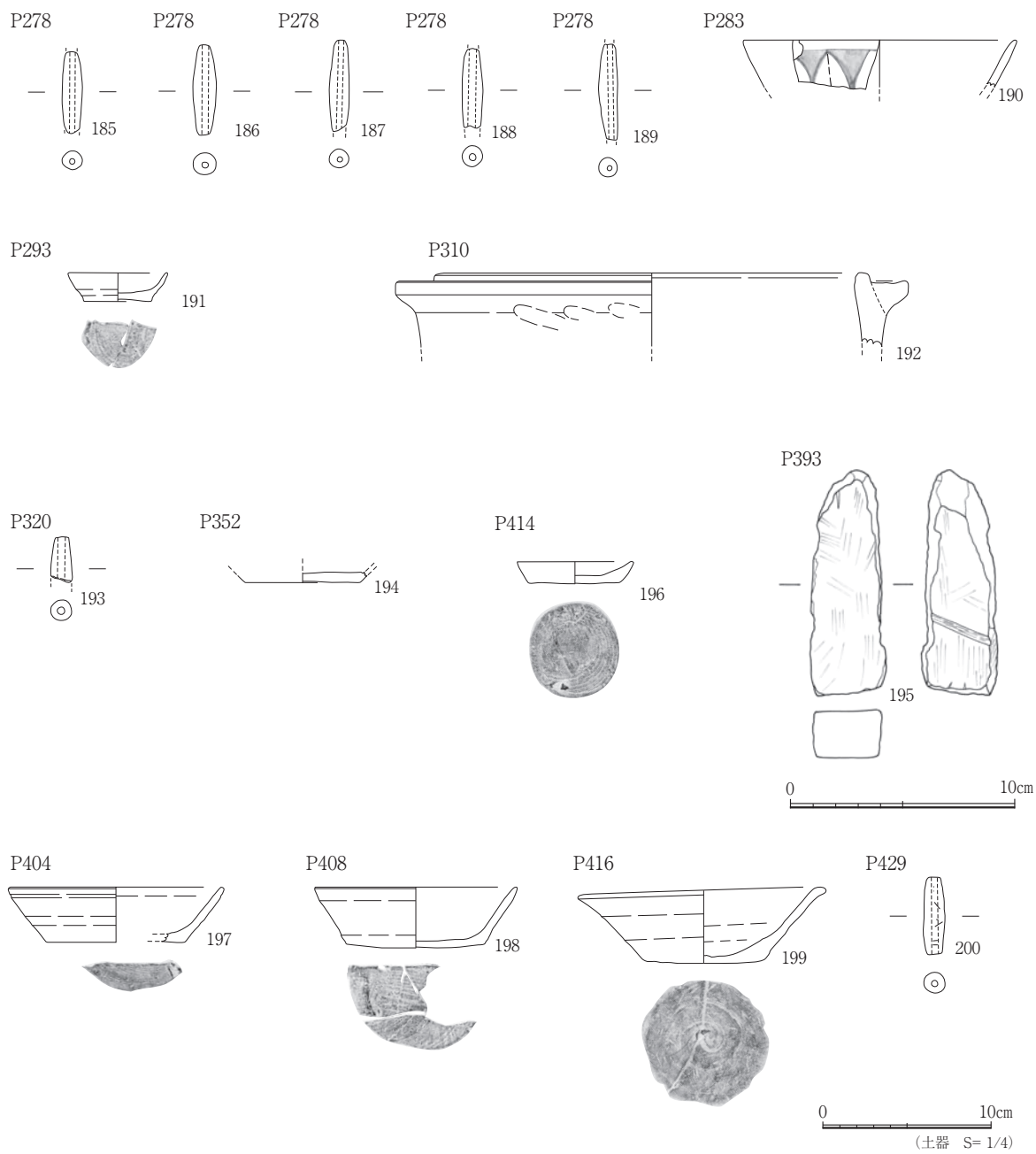


0 10cm
(土器 S= 1/4)

5 - 18 図 P171



5 - 19 図 下面ピット出土遺物



5 - 20 図 下面ピット出土遺物

(3) 最下面の遺構と遺物

当初、下面検出面の7層を地山面と考えていたが、下面完掘後下層確認を行ったところ、遺構を検出したため部分的に調査確認を行った。遺構面の検出標高は2.9～3.0mで下SD1より北側部分が高く3.3mであった。検出した遺構は土坑6基、溝跡3条、ピット62個である。

柱穴列

最下面では柱穴が直線的に並ぶ柱穴列を確認した。上面で確認した柱穴列と連番で柱穴列2とした。柱穴列2は調査区中央部で検出した柱穴列で、ピットが4個約1.7mの等間隔で並ぶ。検出長は5mで軸方向はN-85°-Wである。対応するピットを確認できなかったため掘立柱建物跡として復元できなかった。遺構埋土は灰黄褐色シルトで埋土中から遺物が出土したピットはP437のみで

遺構名	平面形	長径(直径)×短径(cm)	深さ(cm)	埋土	出土遺物	時期	備考
P437	円形	35	30	褐灰色シルト	土師器		
P438	円形	43	16	褐灰色シルト			
P439	楕円形	40×36	22	褐灰色シルト			
P463	楕円形	27×22	28	暗褐灰色シルト			

表5-6 最下面柱穴列2計測表

土師器細片が出土している。

土坑(SK)

最下面で検出した土坑はSK63～68までの6基である。

遺構名	長径×短径×深さ(m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK63	0.69×0.68×0.25	正方形	逆台形	N-87°-W				
SK64	1.02×0.73×0.63	長方形	逆台形	N-4°-E				
SK65	3.42×0.98×0.10	楕円形	皿状	N-87°-E				
SK66	1.16×0.74×0.12	長方形	皿状	N-14°-E				
SK67	0.78×0.59×0.14	長方形	皿状	N-18°-E		土師質土器		
SK68	1.89×0.96×0.25	楕円形	箱形	N-66°-E		土師質土器・瓦器・須恵器		

表5-7 最下面土坑一覧表

SK63

SK63は下SD1の北側で検出した土坑でSD11を切る。平面形は正形状を呈し軸長は約0.7mで深さ約25cmを測る。埋土は暗灰色シルトである。埋土中からは遺物は出土していない。

SK64

SK64は下SD1の北側で検出した土坑でSK63に隣接しSD11を切る。平面形は長方形で長軸1.02m、短軸0.73m、深さ約63cmを測る。埋土は灰褐粘砂土である。埋土中から遺物は出土していない。

SK65

SK65は調査区東側で検出した溝状の土坑である。長軸3.42m、短軸0.98m、深さ10cmを測る。断面形は皿状で埋土は黄白色粘砂土に灰色ブロックが混じる土である。埋土中から遺物は出土していない。

SK66

調査区中央部でSD10に隣接して検出した長方形の土坑でP493と重複する。長軸1.16m、短軸0.74m、深さ12cmを測る。断面形は浅い皿状で埋土は黄灰褐色粘質土である。埋土中から遺物は出土していない。

SK67

SK67は調査区中央部に位置しSK66に隣接して検出した長方形の土坑である。長軸は0.78m、短軸は0.59m、深さは14cmを測る。断面形は浅い皿状で埋土は黄白色粘砂土である。埋土中からは土師質土器細片が出土している。

SK68

SK68は調査区中央部に位置する不整楕円形の土坑である。長軸は1.89m、短軸は0.96m、深さは25cmである。埋土は黄白色粘砂土に灰色土が混じる土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器細片が出土している。

溝跡 (SD)

溝跡は3条を検出した。何れも調査区内で終わっており、溝状の土坑と考えられるが、検出時溝跡として遺構番号をSD9～11としたため便宜的に溝跡として報告する。

SD9

調査区西側で検出した長方形に近い溝状遺構である。長軸2.7m、短軸0.82m、深さ14cmを測る。断面形は皿状で埋土は黄褐色土に褐色ブロックが混じる土である。埋土中から遺物は出土していない。溝状土坑の可能性が考えられる。

SD10

調査区中央で検出したへの字状の平面形をした溝状遺構である。検出全長は8.7mで、直線部分の延長は6.5m、上端幅は1.15m、深さ18～20cmを測る。断面形はレンズ状で埋土は黄褐色に褐色が混じる粘質土である。埋土中からは口縁内面に沈線の入る土師器椀、須恵器細片、弥生土器片が出土している。

SD11

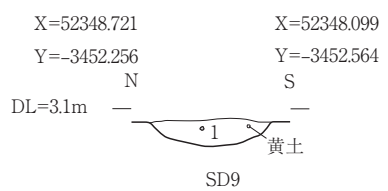
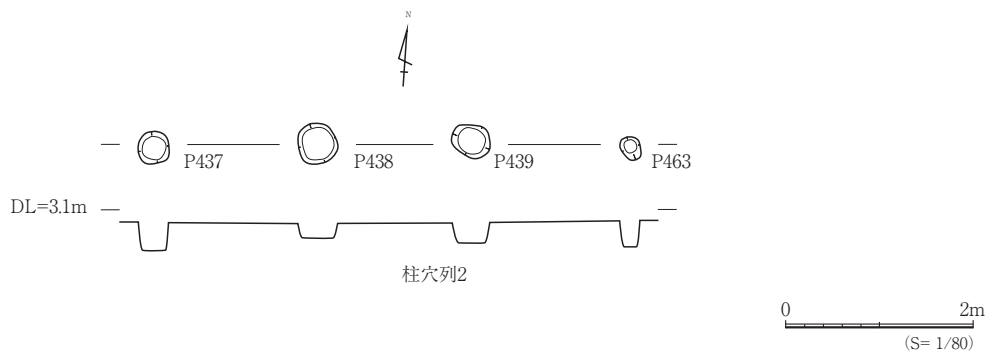
下SD1北側に位置する不整形な溝状遺構でSK63・64、下SD1に切られている。検出長は5.8m、上端幅1.2m、深さ19cmを測る。埋土は褐灰色粘質土で埋土から遺物は出土しなかった。

ピット (P)

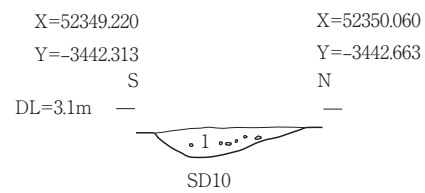
最下面では遺構番号P433～503までを付け検出したが精査の結果、遺構と判断できなかったもの、重複したものが8個あるためピットとして確認できたものは62個である。ピットの検出埋土は上面、下面で検出した暗灰色シルト、灰色シルト、灰褐色粘砂土、灰黄褐色シルト、暗褐灰色シルトの5種類と褐灰色シルトを確認しており大部分は褐灰色シルトであった。埋土中から出土した遺物で図示できたピットはP447とP489の2個のみである。建物跡の柱穴と確認できたものはないが、等間隔でピットが並ぶ柱穴列を1列検出した。



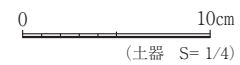
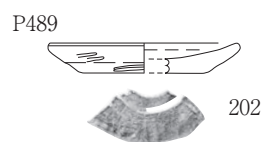
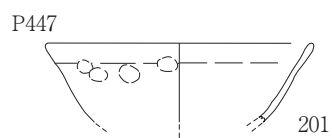
5 - 21 図 最下面遺構全体図



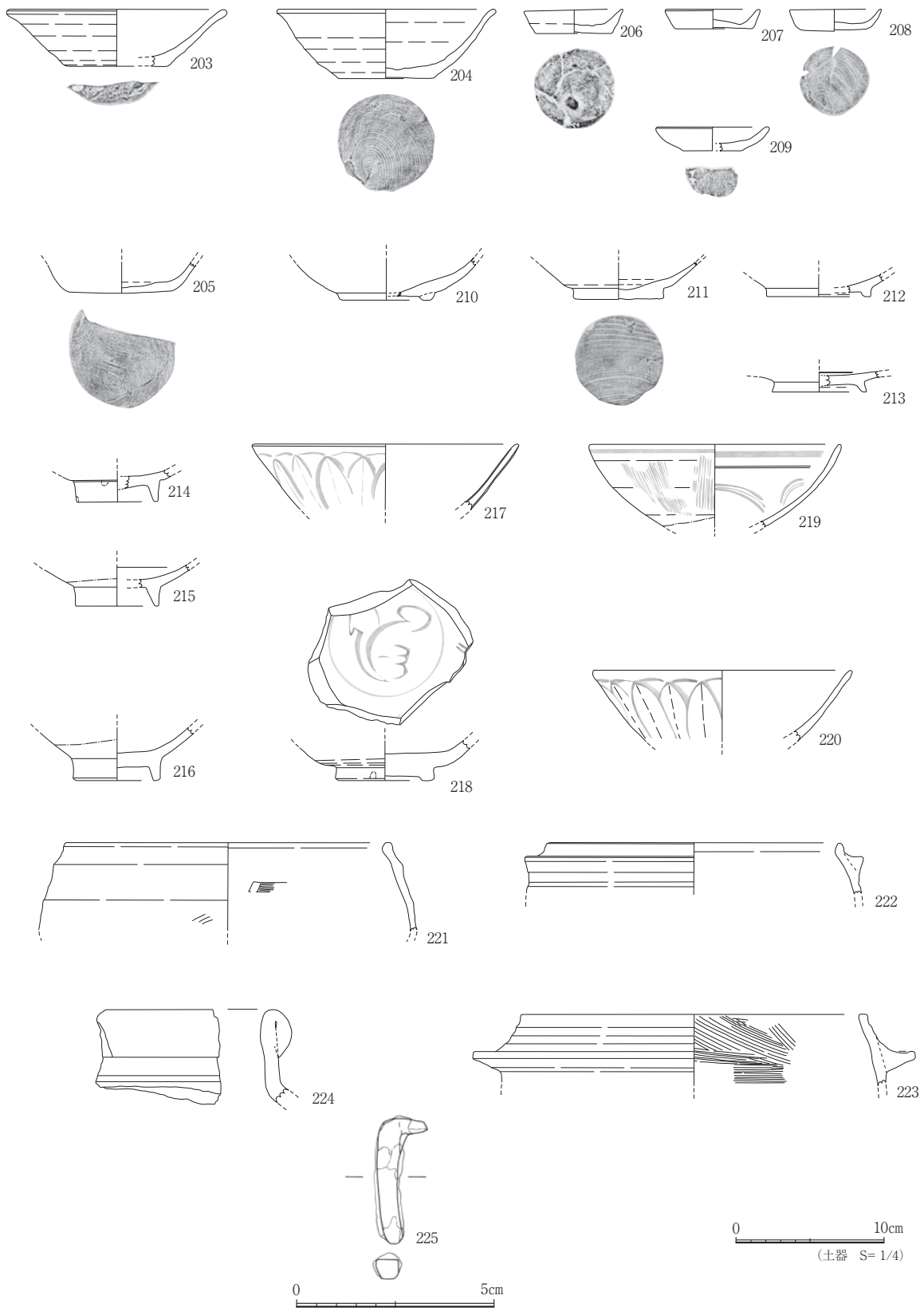
1: 黄褐色土 (褐色ブロック多く混じる)



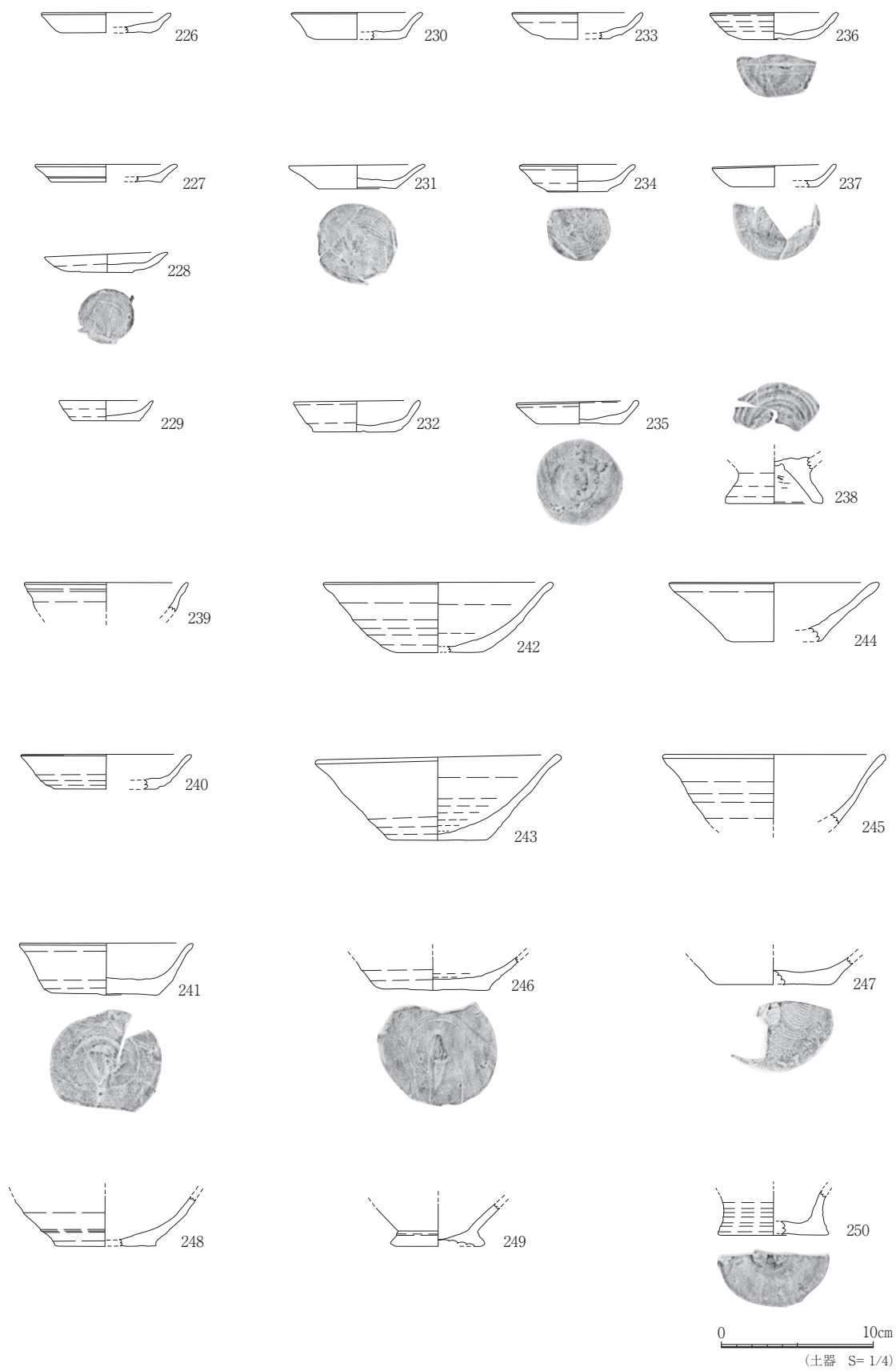
1: 黄褐色粘質土



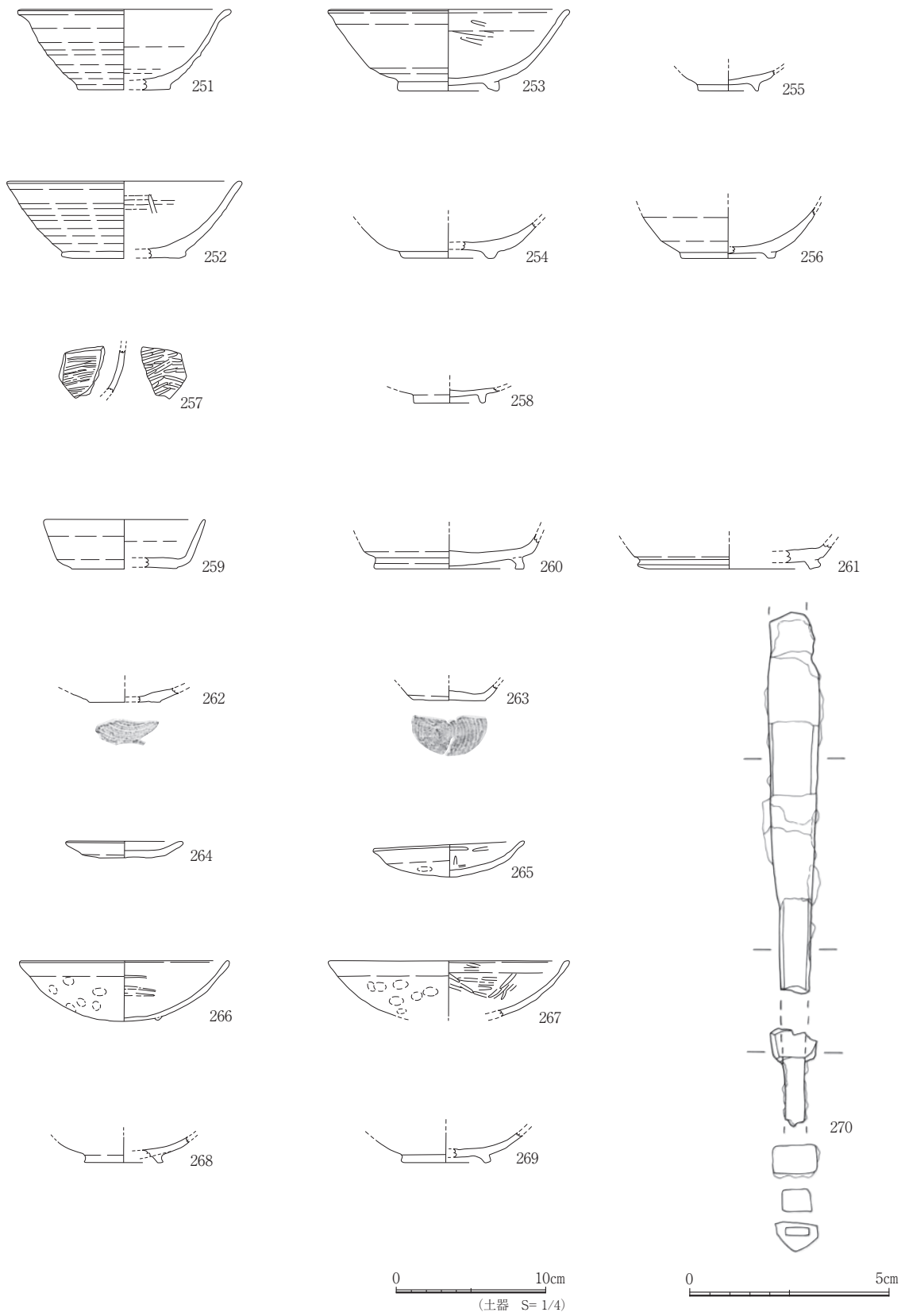
5 - 22 図 柱穴列 2・SD9・10・最下面ピット出土遺物



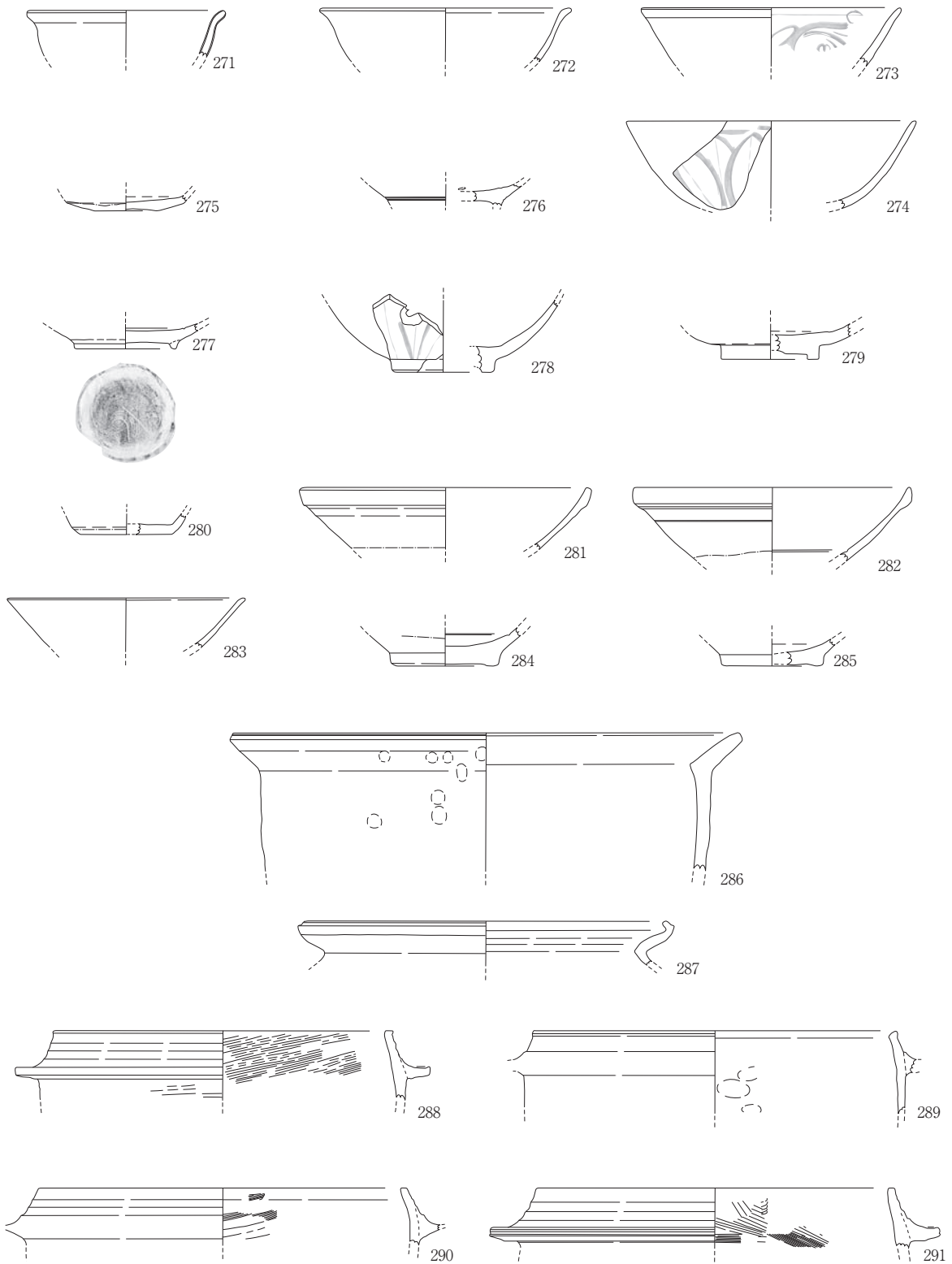
5 - 23 図 包含層 1 出土遺物



5 - 24 図 包含層 2 出土遺物 1

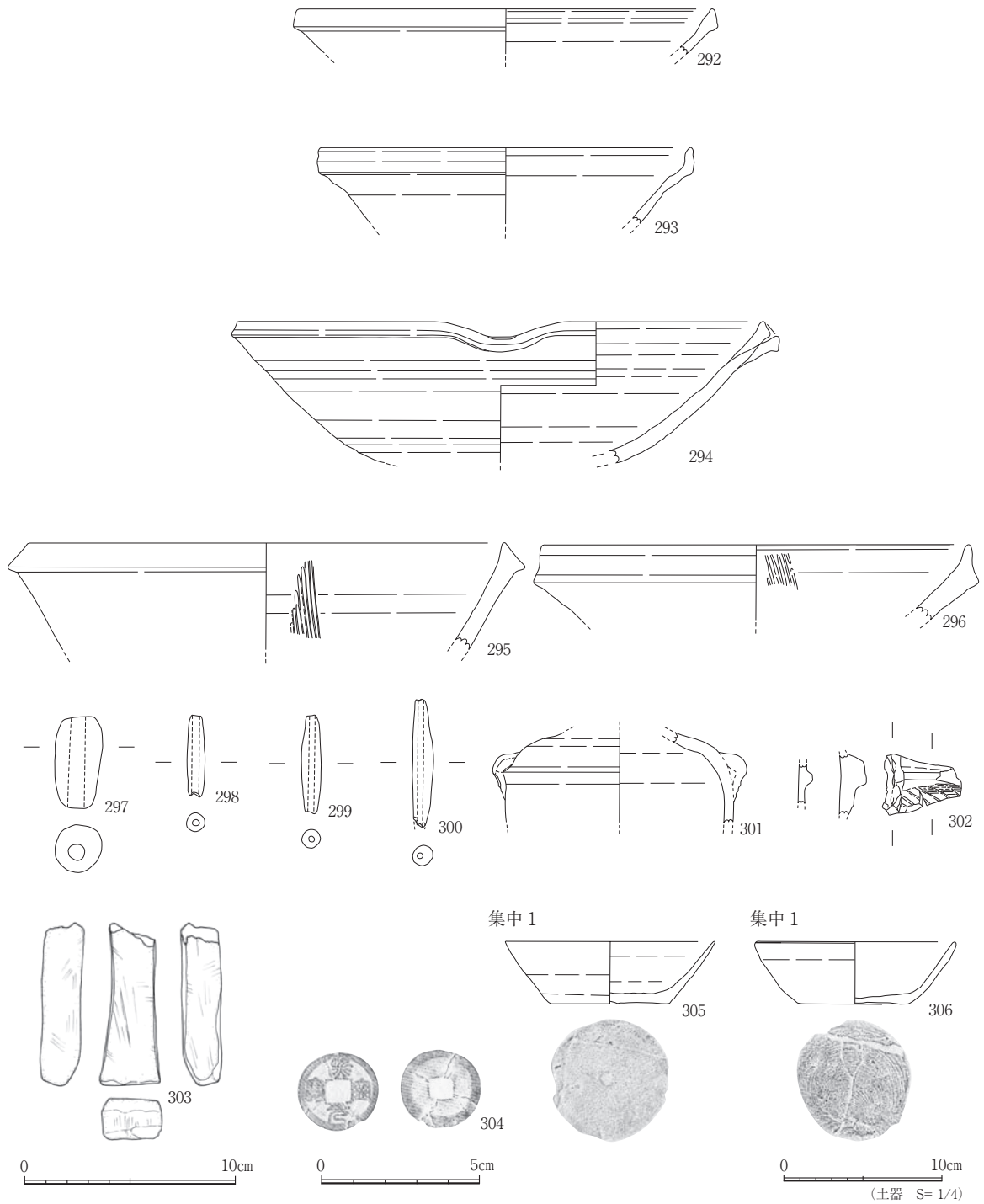


5 - 25 図 包含層 2 出土遺物 2



0 10cm
 (土器 S= 1/4)

5 - 26 図 包含層 2 出土遺物 3



5 - 27 図 包含層 2・集中 1 出土遺物 4

遺物觀察表

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3 拡張	1	瓦器	皿	SK4	マ	7.8	1.15		灰	灰	細かな砂粒入る	口縁周わずかに残。	口縁外反ほとんどなし、扁平な器形。	炭素吸着良
1-3 拡張	2	土師質土器	杯	SK4、 パンク		14.5	(2.7)		にぶい 褐	にぶい 橙	細かな砂粒多く 入る	口縁周わずかに残。	口縁端部外反、外面回転痕。外面強い 回転ナデ痕。	
1-3 拡張	3	土製品	土鍾	SK4、 パンク		全長 4.8	全幅 1.7	孔径 0.6		橙		完形。		重量 100g
1-3 拡張	4	土師質土器	小皿	SD1		7.45	1.3	4.5	橙	橙	赤い砂粒入る	底部完形、口縁周 1/2 残、表面磨耗。	平底から外反して開く。外面二段に回 転ナデ、内面底面まで回転ナデ。回転 糸切り。	
1-3 拡張	5	青磁	碗	石列 1		(4.35)	6.1		灰オ リーブ	灰オ リーブ	良	高台周 1/2 残。	無文、ピンホール有、細かな斑点状に 発色、高台内面蛇の目状になる。	
1-3 拡張	6	瀬戸	卸皿	石列 1		(0.95)	7.6		灰白	にぶい 黄橙	良	底部わずかに残。	内底に粗い摺目が縦横に入る。回転糸 切り。	瀬戸卸皿、摺目磨耗なし
1-3 拡張	7	備前焼	壺	石列 1		(6.5)	18.8		灰	淡褐	白い砂粒入る	底部わずかに残。	壺底部か。	備前IV期
1-3 拡張	8	瓦質土器	鍋	石列 1		26.6	(3.8)		灰白	黒灰	細かな砂粒多	口縁わずかに残。	口縁歪み有、短かく直立きみの口縁、 端部面をなす。外面口縁屈曲部指オサ エ。	土佐型
1-3 拡張	9	白磁	皿	P15		(1.2)	6.0		明オ リーブ 灰	浅黄		底部周わずかに残。	平底、底部外面うすく軸が残るが、露 胎を意識。	白磁皿と考えるが軸は緑色 がかる
1-3 拡張	10	土師質土器	小皿	P27	マ	6.6	1.55	5.4	にぶい 橙	にぶい 橙	細かな砂粒多	底部周 1/4、口縁 周わずかに残。	平底から短かく外反きみに立ち上 がる。回転糸切り。	
1-3 拡張	11	土師質土器	小皿	P27	マ	7.4	1.9	5.9				底部周、高台周と も一部残。	平底から上方に立ち上がる。外面回転 ナデ痕残る。回転糸切り。	
1-3 拡張	12	瓦質土器	羽釜	P27	マ	(4.6)			灰白	灰	細かな白い砂粒 多	口縁わずかに残。	口縁上方に伸びる、端部面をなす、断 面カマボコ状の不整形な鈎が付く。	
1-3 拡張	13	土師器	甕	P30	マ	24.6	(4.7)		にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細かな砂粒多	口縁周わずかに残。	うすいつくり、くの字に屈曲する口縁、 口縁端部上方に拡張。	紀伊型の可能性
1-3 拡張	14	土師質土器	小皿	P38	マ	5.5	1.7	4.6	にぶい 橙	にぶい 橙	良	底部周 1/4、口縁 周わずかに残。	平底から立ち上がる。外面回転ナデ。	
1-3A 拡張	15	鉄器	鉄釘	P43	マ	全長 6.6	全幅 1.8	全厚 1.0				鉄釘、断面長方形。		重量 11.2g
1-3 拡張	16	瓦器	碗	P53	マ	13.7	(3.8)		暗灰	暗灰		口縁周わずかに残。	口縁外反きみ、端部尖る、体部厚手。	在地産瓦器か
1-3 拡張	17	青磁	碗	P53	マ	(3.7)	5.5		灰オ リーブ	灰オ リーブ	細い細かな砂粒 入る	高台周わずかに残。	高台五角形状、高台壘付内側露胎。	
1-3 拡張	18	東播系 須恵器	片口鉢	P53	マ	20.5	(2.4)		にぶい 黄灰	にぶい 黄灰	細かな白い砂粒 入る	口縁わずかに残。	全体にうすい口縁端部、拡張ほとんど なくやや肥厚。	焼き甘い、東播系片口鉢と 考えられる
1-3 拡張	19	土師質土器	小皿	P54	マ	6.2	1.4	4.3	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細かな砂粒入る	口縁周一部欠損。	平底から立ち上がる。外内面とも回転 ナデ、内底中央指オサエ。回転糸切り。	
1-3 拡張	20	土師質土器	小皿	P54		6.4	1.8	4.2	にぶい 橙	にぶい 橙	細かな赤色砂粒 入る	口縁周一部欠損。	平底から斜め上方に立ち上がる。外内 面とも回転ナデ、内底中央凹みナデ。 回転糸切り、ヘラ起し。	
1-3 拡張	21	弥生土器	甕	P71		19.0	(6.3)		にぶい 黄橙	灰黄褐	砂粒多	口縁一部残。	大きく開く口縁、口縁端部刻目、微隆 起、櫛描沈線浮文による加飾。	薄手、西部地域土器
1-3 拡張	22	弥生土器	壺 (頸部)	P71		(3.9)			褐灰	にぶい 黄橙	砂粒多	頸部のみわずかに 残。	細い円筒状の頸部、外面櫛描沈線。	弥生時代中期、西部地域土 器か
1-3 拡張	23	瓦質土器	鍋	IKO2		20.2	(6.8)		黄灰	褐灰	細かな砂粒入る	口縁わずかに残。	口縁直立きみ。外面口縁横ナデ、体部 指オサエ、内面横ナデ。	土佐型
1-3 拡張	24	土師質土器	小皿	集中 1		7.5	2.0	5.5	橙	橙	細かな砂粒多	底部周わずかに残、 口縁 1/3 残。	全体に薄い、歪み有。	
1-3 拡張	25	土師質土器	小皿	集中 1		6.7	1.15	5.1	橙	橙	細かな砂粒多	底部周、口縁周と も 1/2 残。	全体に薄い。回転糸切り。	
1-3 拡張	26	土師質土器	杯	集中 1		13.6	(3.9)		橙	橙	細かな砂粒多	口縁周 1/3 残、磨 耗。	直線的に開く体部、口縁端部内面ナデ により面状。外面回転ナデ痕。	
1-3 拡張	27	土師質土器	杯	集中 1		13.0	4.35	7.1	にぶい 橙	にぶい 橙	細かな砂粒多	底部完形、口縁周 わずかに、磨耗。	平底から直線的に斜上方に立ち上 がる。回転糸切り。	
1-3 拡張	28	土製品	土鍾	SK21	マ	全長 4.55	全幅 1.3	孔径 0.4		橙		両端部欠損。		重量 5.2g
1-3 拡張	29	土師器	羽釜	SK21	マ	25.4	(4.7)		灰黄褐	にぶい 黄橙	細かな砂粒多量 に入る	口縁わずかに残。	厚手、断面台形状の厚い鈎の上方にわ ずかに口縁ある。外面鈎ナデ。	
1-3 拡張	30	東播系 須恵器	片口鉢	SK23	マ	27.0			灰白	灰白	2～3mm大の砂 粒入る	口縁わずかに残。	口縁端部わずかに拡張。外内面とも口 縁ナデ。	
1-3 拡張	31	土製品	土鍾	SK24		全長 4.9	全幅 1.15	孔径 0.4	にぶい 黄橙			片側欠損。		重量 5.9g
1-3 拡張	32	土師質土器	碗	SK28		13.6	(3.1)		にぶい 黄灰	にぶい 黄灰	細かな砂粒	口縁周一部残。	全体に厚手、口縁端部、尖りきみ。	不定形な碗か
1-3 拡張	33	土製品	土鍾	SK43	マ	全長 4.4	全幅 1.1	孔径 0.4				両端部欠損。		重量 4.5g
1-3 拡張	34	土師質土器	小皿	SK43	マ	6.7	1.45	2.7	灰黄褐	灰黄褐	細かな砂粒入る	底部周、口縁周と も 1/2 残。	平底から上方に立ち上がる、口縁端部 わずかに外反、内底わずかに凹む。外 面三段に回転ナデ、内面回転ナデ。回 転糸切り。	
1-3 拡張	35	土師器	小皿	SK46	マ	7.7	1.6	5.0	浅黄橙	浅黄橙	赤色砂粒入る	底部周、口縁周と も一部残。	平底から丸みを帯びた体部、口縁沈線 状の回転ナデ痕。回転糸切り。	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
1-3 拡張	36	土師質 土器	(口縁) SK48	マ	14.8	(3.15)			灰黄褐	にぶい 橙	細かな砂粒	口縁わずかに残。	口縁端部尖る。外面回転ナデ。		
1-3 拡張	37	土師質 土器	(口縁) SK48	マ	14.8	(3.5)			にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細かな砂粒	口縁周わずかに残。	口縁端部尖る、体部丸みを帯びる。外面口縁回転ナデ。	全体に雑な作り 36 と同一 個体の可能性	
1-3 拡張	38	土師質 土器	(底部) SK48	マ		(0.95)	4.1		にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	チャートの細か な砂粒入る	底部残。	低い円盤高台状の径の小さな底部、内 底中央凹む。内底回転痕、中央指オサ エ。回転糸切り。		
1-3 拡張	39	瓦器	皿 SK48	マ	7.7	(1.35)			灰	灰白	白い細かな砂粒	口縁周 1/2 残。	丸みを帯びた体部、口縁外反。外面口 縁ナデ、内面口縁体部境強い回転方向 ナデ痕。		
1-3 拡張	40	土師質 土器	皿 SK49 バ		9.0	1.65	6.0		にぶい 橙	にぶい 橙	良	口縁周わずかに残。	平底から直線的に開く、外面幅の狭い 階段状。外面強い回転痕。糸切り。		
1-3 拡張	41	白磁	椀 SK49- ②	マ	14.0	(2.2)			灰白	灰白	良	口縁周わずかに残。	細めの玉縁口縁、貫入する。	IV類	
1-3 拡張	42	土師質 土器	小皿 SK51	マ	7.0	1.8	4.4		にぶい 橙	にぶい 橙	1mm大の砂粒入 る	底部周 1/2、口縁 周わずかに残る。	平底から丸みを持ち立ち上がる、内底 盛り上がりきみ。		
1-3 拡張	43	瓦器	皿 SK51	マ	8.6	1.15	7.4		黄灰	黄灰	良	口縁周わずかに残。	口縁短かく外反。口縁外内面ともナデ。		
1-3 拡張	44	瓦器	皿 SK51	マ	8.0	1.35	6.4		灰黄	灰黄	良	口縁周 1/2 残。	底部中心に向ってわずかに傾斜、口縁 外反。外内面とも回転方向ナデ、体部 外面指オサエ。切り離しなし。	炭素吸着一部のみ	
1-3 拡張	45	青磁	椀 SK51	マ	16.3	(3.2)			灰オ リーブ	灰オ リーブ	良	口縁周わずかに残。	内面陰刻文。		
1-3 拡張	46	土師質 土器	小杯 SK52	マ	7.2	2.1	4.8		にぶい 橙	にぶい 橙	細かな砂粒多く 入る	底部周、口縁周と も 1/3 残。	平底から斜めに立ち上がる。外、内面 とも回転ナデ。回転糸切り。		
1-3 拡張	47	土製品	土錘 SK52	マ	全長 4.4	全幅 1.2	孔径 0.25					片側端部欠損。		重量 4.8g	
1-3 拡張	48	土製品	土錘 SK52	マ	全長 3.3	全幅 1.15	孔径 0.35			橙		片側欠損。		重量 4.0g	
1-3 拡張	49	土師質 土器	盤 SK57			(1.1)	18.2		橙	浅黄橙	細かな砂粒	高台周わずかに残、 表面磨耗。	全体に薄いつくり、断面三角形の薄く 小さな高台が付く。		
1-3 拡張	50	土師器	甕 SK58	マ	23.4	(5.3)			橙	にぶい 橙	1mm～3mm大の砂 粒多く入る	口縁わずかに残。	ゆるやかに開く口縁、口縁端部面。外 面縦ハケ、内面横ハケ。		
1-3 拡張	51	土師器	甕 SK60	マ		(2.0)			にぶい 橙	にぶい 橙	1mm～3mm大の砂 粒多く入る		口縁端部わずかにつまみ上げ、内面横 ハケ。		
1-3 拡張	52	石器	軽石 SK60	マ	全長 5.1	全幅 3.9	全厚 3.4								軽石、四角柱状、全面平坦 重量 28.0g
1-3 拡張	53	土師質 土器	小皿 下 SD1	上層	7.0	1.8	4.9		橙	橙	細かな砂粒多 く	底部周完形、口縁 わずかに残。	平底から立ち上がる。外面回転ナデ。 回転糸切り。		
1-3 拡張	54	須恵器	椀 下 SD1	マ	16.6	(3.1)			灰白	灰白	4mm大の砂粒入 る	口縁周わずかに残。	丸みを帯びた体部、口縁端部丸く収め る。外内面とも回転ナデ。	東播系の椀の可能性	
1-3 拡張	55	白磁	椀 下 SD1	上層	13.8	2.1			灰白	灰白	良	口縁周わずかに残。	薄手、口縁端部外反。	V類	
1-3 拡張	56	瓦質 土器	鍋 下 SD1	上	22.8	(4.3)			灰	灰		口縁わずかに残。	口縁短かく斜め上方に開く、口縁端部 面をなす。外面口縁端部木口状ナデ、 口縁～体部指オサエ。	土佐型	
1-3 拡張	57	瓦質 土器	鍋 下 SD1	上層	12.0	(5.0)			灰	灰	良	口縁わずかに残。	短かく直立きみの口縁、口縁端部面を なす。外面体部指オサエ。		
1-3 拡張	58	備前焼	播鉢 下 SD1- ②	上層	22.0	(4.1)			にぶい 黄褐	にぶい 黄橙	細かな白い砂粒 入る	口縁わずかに残。	口縁端部斜面、二段にナデ摺目。外面、 口縁端部ナデ、内面、横方向ナデ。	備前Ⅲ期	
1-3 拡張	59	備前焼	播鉢 下 SD1	上層	27.4	(6.3)			黄灰	黄灰	白い砂粒多く入 る	口縁わずかに残。	口縁端部拡張、内面摺目。外内面口縁 端部ナデ、外面端部下横ハケ、内面細 かな横ハケ。	器形は備前、焼成須恵質	
1-3 拡張	60	常滑焼	甕 下 SD1		41.0	(5.2)			褐	灰赤	砂粒多く入る	口縁わずかに残。	小さなN字状口縁、外面一条の凹縁。	6型式 13世紀半～	
1-3 拡張	61	常滑焼	甕 下 SD1- ②		39.8	(4.2)						口縁わずかに残る。	口縁端部上下に拡張、N字状口縁。	6型式 13世紀半～	
1-3 拡張	62	土製品	土錘 下 SD1- ②		全長 4.8	全幅 1.0	孔径 0.3					両端部欠損。		重量 4.2g	
1-3 拡張	63	土製品	土錘 下 SD1	上層	全長 4.0	全幅 1.4	孔径 0.5					両端部再加工か。		重量 6.4g	
1-3 拡張 C 拡	64	鉄器	鉄釘 下 SD1	上層	全長 3.2	全幅 0.5	全厚 0.4					鉄釘、両端部欠損、 曲る、未処理。		重量 1.1g	
1-3 拡張	65	土師質 土器	小皿 下 SD1	中層	7.2	2.3	4.2		にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細かな砂粒多 く	底部周、口縁周 1/3 残。	平底から斜めに開く、口縁端部斜面状。 切り離し痕なし。		
1-3 拡張	66	青磁	椀 下 SD1- ②	中層	16.6	(4.2)			灰オ リーブ	灰オ リーブ	良	口縁わずかに残。	片影蓮弁文類有。	I-5類	
1-3 拡張	67	青磁	椀 下 SD1- ①	中層		(2.8)	5.7		灰オ リーブ	灰オ リーブ	良	高台周 1/3 残。	畳付、高台内側の一部まで施釉、高台 内側粘土軸着。		
1-3 拡張	68	白磁	椀 下 SD1- ②	中層	13.3	(2.7)			灰白	灰白	良	口縁わずかに残。	口縁端部外反し水平な面をなす、内面 口縁下に細い沈線が入る。		
1-3 拡張	69	天目 茶椀	椀 下 SD1	中層	11.6	(5.4)			黒	黒	良	口縁周一部残。	口縁端部尖る、外面、口縁茶色、体部 黒色釉下半露胎、釉溜り有。外面回転 痕。	内面縦方向擦痕、胎土、焼 きしまり、硬陶に近い	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3 拡張	70	土師器	羽釜	下 SD1-①	中層	20.7	(5.2)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな雲母入る	口縁わずかに残。	口縁直立きみ、端部凹んだ斜面、断面台形状のしっかりした鑊が付く。	埋没時付着物多
1-3 拡張	71	備前焼	描鉢	下 SD1-②	中層	24.8	(4.7)		黄灰	黄灰	細かな白い砂粒多	口縁わずかに残。	口縁部上下に拡張、内面摺目浅く弱い。外面口縁下横ハケ、内面横ハケ。	口縁部は備前焼に似るが調整、摺目が異なる備前焼系
1-3 拡張	72	土製品	土鍾	下 SD1-②	中層	全長 4.5	全幅 1.25	孔径 0.4				両端部欠損。		重量 6.1g
1-3 拡張	73	土製品	土鍾	下 SD1-②	中層	全長 4.0	全幅 1.35	孔径 0.4				両端部欠損。	埋没時付着物多い。	重量 5.3g
1-3 拡張	74	土製品	土鍾	下 SD1-②	マ、中層	全長 5.1	全幅 1.6	孔径 0.4				片側端部欠損。	外面にエビオサエ痕凸凹	重量 11.7g
1-3 拡張	75	土製品	土鍾	下 SD1-①	中層	全長 5.1	全幅 1.35	孔径 0.4				両端部欠損。		重量 6.8g
1-3 拡張	76	土製品	土鍾	下 SD1-②	中層	全長 6.0	全幅 1.35	孔径 0.45				完形。	外面指オサエ痕残り凸凹	重量 11.2g
1-3 拡張	77	土製品	土鍾	下 SD1-②	中層	全長 4.1	全幅 1.25	孔径 0.4				片側欠損。	外面指オサエ痕凸凹	重量 4.9g
1-3 拡張	78	土製品	土鍾	下 SD1	中層	全長 3.05	全幅 0.9	孔径 0.3				片側欠損、端部欠損。		重量 2.2g
1-3 拡張	79	石器	磨石	下 SD1	下層	全長 8.9	全幅 9.2	全厚 7.6					砂岩、表面粒子摩滅	重量 860g
1-3 拡張 A	80	鉄器	鉄釘	下 SD1-②	中層	全長 3.8	全幅 0.5	全厚 0.4				鉄釘、両端部欠損、未処理。		重量 0.8g
1-3 拡張	81	土師器	杯	下 SD1-①	下層	12.7	(5.05)		橙	橙	良	底部周 1/3、口縁周わずかに残、磨耗著しい。	底部中央部脱落、底部凸凹有、うすく深い体部。	
1-3 拡張	82	瓦器	皿	下 SD1	マ、下層	7.8	1.35	5.9	黄灰	黄灰	白い細かな砂粒入る	口縁周わずかに残。	凸凹の底部、口縁短かく外反。外内面とも口縁ナデ、外面底部強い指オサエ。	焼成時降灰付着物有 1 と似る同一の可能性も
1-3 拡張	83	瓦質土器	鍋	下 SD1-②	中、下層	23.1	(9.2)		灰黄	灰白	良	口縁一部残。	全体に薄い、口縁直立きみ、端部面をなし強いナデ、体部ふくれる。外面指オサエ痕、内面体部粗い横ハケ。	土佐型、炭素吸着弱い瓦質
1-3 拡張	84	瓦質土器	鍋	下 SD1	下層	24.6	(5.0)		黄灰	褐灰		口縁わずかに残。	口縁垂む、斜め上方に立ち上がる口縁、端部は面をなし強いナデ。	土佐型
1-3 拡張	85	土師質土器	鍋	下 SD1	マ、下層	17.8	(7.8)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	赤い砂粒入る	口縁周わずかに残。	口縁短かく斜め上方に開く、口縁端部面。全体に指オサエ痕残る。	瓦質ナベの形態、焼成は土師質
1-3 拡張	86	土製品	土鍾	下 SD1-②	下層	全長 4.3	全幅 1.15	孔径 1.1				片側端部欠損。		重量 4.0g
1-3 拡張	87	土製品	土鍾	下 SD1-①	下層	全長 4.9	全幅 1.15	孔径 0.3				片側端部欠損。		重量 4.9g
1-3 拡張	88	土製品	土鍾	下 SD1	下層	全長 5.15	全幅 1.1	孔径 0.35				片側端部欠損。		重量 5.7g
1-3 拡張	89	土製品	土鍾	下 SD1-1	マ	全長 3.5	全幅 1.35	孔径 0.45				両側欠損。		重量 5.3g
1-3 拡張	90	瀬戸		下 SD1-1	マ		(2.8)		灰白	灰白		口縁小片。	陶質で灰釉かかる。	瀬戸か
1-3 拡張	91	土師器	甕	下 SD1、sec2 パンク		23.4	(6.4)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒多く入る	口縁わずかに残。	口縁くの字に屈曲、端部上方に拡張し凹面。口頸部縦ハケ。	紀伊型
1-3 拡張	92	瓦質土器	羽釜	下 SD1		22.4	(5.6)		褐灰	灰黄褐	細かな雲母入る	口縁周わずかに残。	内傾きみにのび、凹線が巡る口縁、口縁下に大きめの鑊が付く。外面回転ナデ、内面口縁斜方向ハケ、体部横ナデ。	搬入、河内型
1-3 拡張	93	瓦質土器	鍋	下 SD1-①		21.0	(5.9)		灰白	黄灰	灰	口縁わずかに残。	口縁直立きみ、口縁端部、木口状部分でナデ。外面指オサエ。	土佐型、焼成良須恵質状
1-3 拡張	94	弥生土器	高杯	SD3-①	マ	35.8	(5.7)		橙	橙	チャート礫多	杯部口縁周 1/3 残。	直立きみの口縁、口縁端部上方を向く面、2 個の補修孔。杯体部ケズリ痕、ミガキ。	中期末～後期の可能性
1-3 拡張	95	砂岩	叩石	SD3		全長 8.65	全幅 11.4	全厚 6.0					両面、両側面、端面に敲打痕、表面粒子磨滅	重量 930g
1-3 拡張	96	緑釉陶器	椀	SD5	マ	14.8	(3.5)		灰	灰	良	口縁周わずかに残。	口縁端部大きく外反、全体に淡緑色の非常に薄い釉。外内面回転ナデ。	胎土須恵器
1-3 拡張	97	土師質土器	小杯	SD6	マ	7.7	1.3	4.7	橙	橙	赤色の砂粒入る	底部周、口縁周とも 1/3 残、表面磨耗。	平底から斜めに開く端部外面し、内面は上方を向く面をなす。外面回転ナデ痕残る。	
1-3 拡張	98	瓦器	皿	SD6	マ	7.8	(1.6)		橙	橙	細かな白い砂粒	口縁わずかに残。	外内面ともナデ、外面体部指オサエ。切り離しなし。	器形は瓦器皿、発色は橙色、胎土は土師質と異なる
1-3 拡張	99	瓦器	皿	SD6	マ	8.5	1.2		黄灰	黄灰	細かな白い砂粒入る	口縁周わずかに残。	口縁外反。	
1-3 拡張	100	青磁	皿	SD6	マ	9.3	1.9		灰オリーブ	灰白		口縁周わずかに残。	口縁外反、内面全面施釉、外面口縁一部施釉。	
1-3 拡張	101	青磁	椀	SD6		14.7	6.05		明緑灰	明緑灰	良	口縁周わずかに残。	内面口縁下に 2 条の沈線、飛雲文。	I-4 類か (森田分類)
1-3 拡張	102	土師器	釜	SD6	マ		(3.85)		橙	橙	砂粒多	口縁周わずかに残。	鑊より短かく上方に立ち上がる口縁、口縁端部は面。	摂津 C とは胎土異なる

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3 拡張	103	備前焼	播鉢	SD6	マ		(6.3)		赤褐	赤褐	砂粒多く入る	口縁周わずかに残、口縁端部欠損。	口縁端部下に拡張。外内面とも回転ナデ。	摺目磨減なし
1-3 拡張	104	土製品	土鉢	SD6	マ	全長 4.55	全幅 1.65	孔径 0.6				片側端部欠損。		重量 7.8g
1-3 拡張	105	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 4.5	全幅 1.55	孔径 0.6		灰白		両端欠損。		重量 8.5g
1-3 拡張	106	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 4.4	全幅 1.55	孔径 0.65		灰白		片側端部欠損。		重量 8.3g
1-3 拡張	107	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 4.4	全幅 1.45	孔径 0.7		灰白		両端欠損。		重量 6.3g
1-3 拡張	108	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 4.1	全幅 1.7	孔径 0.55		灰白		片側端部欠損。		重量 8.4g
1-3 拡張	109	土製品	土鉢	P171	マ、 底面	全長 3.9	全幅 1.5	孔径 0.6		灰白		両端部欠損。		重量 7.6g
1-3 拡張	110	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.8	全幅 1.55	孔径 0.55				片側端部欠損。		重量 8.0g
1-3 拡張	111	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 4.45	全幅 1.5	孔径 0.6		にふい 黄橙		両側端部欠損。		重量 7.8g
1-3 拡張	112	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.5	全幅 1.5	孔径 0.55		にふい 黄橙		両側端部欠損。		重量 6.5g
1-3 拡張	113	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.8	全幅 1.55	孔径 0.55		にふい 黄橙		両端部欠損。		重量 7.9g
1-3 拡張	114	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.2	全幅 1.55	孔径 0.6		にふい 黄橙		片側端部欠損。		重量 5.5g
1-3 拡張	115	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.45	全幅 1.4	孔径 0.6		にふい 黄橙		両端部欠損。		重量 5.4g
1-3 拡張	116	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.65	全幅 1.55	孔径 0.55		にふい 黄橙		両端とも磨耗。		重量 6.8g
1-3 拡張	117	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.7	全幅 1.6	孔径 0.5		にふい 黄橙		両端部欠損。		重量 7.4g
1-3 拡張	118	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.6	全幅 1.6	孔径 0.55		にふい 黄橙		完形。		重量 7.3g
1-3 拡張	119	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.85	全幅 1.5	孔径 0.5		にふい 黄橙		片側端部欠損。		重量 7.7g
1-3 拡張	120	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.7	全幅 1.6	孔径 0.65		にふい 黄橙		両端部欠損後磨耗。		重量 6.7g
1-3 拡張	121	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.7	全幅 1.5	孔径 0.6		にふい 黄橙		片側端部欠損。		重量 7.1g
1-3 拡張	122	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.3	全幅 1.6	孔径 0.6		にふい 黄橙		片側欠損。		重量 6.7g
1-3 拡張	123	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.5	全幅 1.6	孔径 0.6		にふい 黄橙		片側端部欠損。		重量 7.5g
1-3 拡張	124	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.75	全幅 1.55	孔径 0.55		にふい 黄橙		両端部欠損。		重量 7.5g
1-3 拡張	125	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.3	全幅 1.45	孔径 0.6		にふい 黄橙		両側欠損。		重量 5.0g
1-3 拡張	126	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.5	全幅 1.35	孔径 0.6		にふい 黄橙		片側端部欠損。		重量 5.4g
1-3 拡張	127	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.0	全幅 1.55	孔径 0.6		にふい 黄橙		土鉢片側、片側端部欠損。		重量 5.5g
1-3 拡張	128	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.1	全幅 1.6	孔径 0.6		にふい 黄橙		両端部欠損後磨耗。		重量 5.7g
1-3 拡張	129	土製品	土鉢	P171	マ	全長 3.4	全幅 1.45	孔径 0.6		にふい 黄橙		両側端部欠損。		重量 5.4g
1-3 拡張	130	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.4	全幅 1.5	孔径 0.6		にふい 黄橙		両側端部欠損。		重量 5.7g
1-3 拡張	131	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.55	全幅 1.65	孔径 0.5		にふい 黄橙		片側端部欠損。		重量 7.2g
1-3 拡張	132	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.4	全幅 1.6	孔径 0.6		にふい 黄橙		両側端部欠損。		重量 6.5g
1-3 拡張	133	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.4	全幅 1.6	孔径 0.55		にふい 黄橙		両側端部欠損。		重量 5.6g
1-3 拡張	134	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.2	全幅 1.45	孔径 0.6		にふい 黄橙		両側端部欠損。		重量 5.2g
1-3 拡張	135	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.65	全幅 1.45	孔径 0.55		にふい 黄橙		両端部欠損。		重量 6.3g
1-3 拡張	136	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.35	全幅 1.45	孔径 0.55				両端部欠損。		重量 5.9g
1-3 拡張	137	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.2	全幅 1.45	孔径 0.65		にふい 黄橙		片側側面欠損。		重量 4.4g
1-3 拡張	138	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.35	全幅 1.6	孔径 0.6				片側端部欠損。		重量 6.6g
1-3 拡張	139	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.0	全幅 1.5	孔径 0.6		灰白		両端部欠損後磨耗。		重量 5.0g
1-3 拡張	140	土製品	土鉢	P171	マ、 底	全長 3.25	全幅 1.45	孔径 0.55		にふい 黄橙		両端部欠損後磨耗。		重量 5.3g

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3 拡張	141	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 3.5	全幅 1.45	孔径 0.55		にぶい黄橙		両端部欠損。		重量 6.0g
1-3 拡張	142	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 3.5	全幅 1.35	孔径 0.6		にぶい黄橙		片側端部欠損、片側側面欠損。		重量 4.5g
1-3 拡張	143	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 3.15	全幅 1.45	孔径 0.65		浅黄橙		両端部欠損。		重量 5.9g
1-3 拡張	144	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 3.75	全幅 1.35	孔径 0.6		にぶい黄橙		土鍾同筒状、片側端部欠損。		重量 6.3g
1-3 拡張	145	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 3.6	全幅 1.45	孔径 0.6		にぶい黄橙		側面剥離。		重量 7.8g
1-3 拡張	146	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 3.2	全幅 1.35	孔径 0.55		浅黄橙		土鍾片側欠損、片側端部欠損。		重量 4.0g
1-3 拡張	147	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 2.9	全幅 1.4	孔径 0.55		浅黄橙		片側端部欠損後磨耗。		重量 4.8g
1-3 拡張	148	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 3.6	全幅 1.55	孔径 0.5		浅黄橙		土鍾片側欠損、片側端部欠損、欠損後磨耗。		重量 5.7g
1-3 拡張	149	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 3.3	全幅 1.55	孔径 0.55		灰白		土鍾片側欠損、片側端部欠損、欠損後磨耗。		重量 5.4g
1-3 拡張	150	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 3.5	全幅 1.5	孔径 0.55		浅黄橙		土鍾ユビオサエ痕残る、両側欠損。		重量 5.3g
1-3 拡張	151	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 3.0	全幅 1.35	孔径 0.6		灰白		両端部欠損後磨耗。		重量 4.7g
1-3 拡張	152	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 3.35	全幅 1.5	孔径 0.55		浅黄橙		片側端部欠損。		重量 6.6g
1-3 拡張	153	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 3.0	全幅 1.35	孔径 0.5		灰白		片側端部欠損。		重量 4.3g
1-3 拡張	154	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 3.35	全幅 1.35	孔径 0.55		灰白		片側側面欠損、片側端部欠損、欠損後磨耗。		重量 4.6g
1-3 拡張	155	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 3.1	全幅 1.45	孔径 0.55		灰白		土鍾両端部欠損、欠損後磨耗。		重量 4.8g
1-3 拡張	156	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 2.6	全幅 1.25	孔径 0.55				土鍾両端部欠損、欠損後磨耗。		重量 3.4g
1-3 拡張	157	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 3.1	全幅 1.55	孔径 0.5				片側側面欠損。		重量 4.6g
1-3 拡張	158	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 2.55	全幅 1.35	孔径 0.45		灰白		土鍾両端部欠損、欠損後磨耗。		重量 3.4g
1-3 拡張	159	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 2.3	全幅 1.6	孔径 0.6		にぶい黄橙		土鍾両端部欠損、欠損後磨耗。		重量 3.4g
1-3 拡張	160	土製品	土鍾	P171	マ、底	全長 2.2	全幅 1.4	孔径 0.55		灰白		土鍾両端部欠損、欠損後磨耗。		重量 3.6g
1-3 拡張	161	土製品	土鍾	P171	マ	全長 3.4	全幅 1.35	孔径 0.55		灰白		両端部欠損。		重量 4.3g
1-3 拡張	162	土製品	土鍾	P171	マ	全長 3.0	全幅 1.6	孔径 0.55		にぶい黄橙		片側欠損、片側端部欠損。		重量 5.0g
1-3 拡張	163	土製品	土鍾	P171	マ	全長 3.45	全幅 1.5	孔径 0.6		にぶい黄橙		両端部欠損。		重量 5.1g
1-3 拡張	164	土製品	土鍾	P171	マ	全長 2.8	全幅 1.55	孔径 0.55		灰白		片側欠損、片側端部欠損。		重量 4.9g
1-3 拡張	165	土製品	土鍾	P171	マ	全長 3.4	全幅 1.4	孔径 0.55	灰白			片側端部、片側側面欠損。		重量 4.3g
1-3 拡張	166	黒色土器 B 類	椀	P136	マ		(125)	6.2	褐灰	褐灰	細かな白い砂粒入る	高台周一部残。	黒色土器 B 類と考える、細いがしっかりした高台。	搬入の可能性
1-3 拡張	167	土製品	土鍾	P136	マ	全長 4.65	全幅 1.35	孔径 0.6				両端部欠損。		重量 6.7g
1-3 拡張	168	瓦器	椀	P141	マ		(155)	5.0	淡灰	暗灰	良	高台周わずかに残。	断面三角形の高台。	
1-3 拡張	169	石器	石鏃	P159	マ	全長 4.3	全幅 2.1	全厚 0.7					サヌカイト、凸基式有葉石鏃、断面菱形。	重量 4.3g
1-3 拡張	170	土製品	土鍾	P176	マ	全長 5.3	全幅 1.8	孔径 0.5		浅黄橙		表面、裏面とも表面剥離。		重量 8.8g
1-3 拡張	171	土製品	土鍾	P176	マ	全長 3.6	全幅 1.4	孔径 0.6		灰白		両端部欠損。		重量 5.2g
1-3 拡張	172	青磁	椀	P198	マ		(40)	5.4	明緑灰	オリープ灰	良	高台周完形。	厚い底部、外面蓮弁文、内面スタンプ文、畳付施軸一部残り、高台内側露胎。	
1-3 拡張	173	青磁	椀	P198	マ		(19)	5.6	灰オリープ	灰オリープ	良	高台周 1/2 残。	高台外面まで施軸。削出高台回転ケズリ痕。	
1-3 拡張	174	瓦器	椀	P201	マ		(12)	5.2	灰	灰	1mm 大の砂粒入る	高台周わずかに残。	断面逆台形状のしっかりした高台。内底緻密なミガキ。貼付高台。	
1-3 拡張	175	瓦質土器	釜	P212	マ	25.5	(36)		灰白	灰白	細かな白い砂粒	口縁周わずかに残。	うす手、上方に伸びる口縁口縁端部は丸い、うすい鑊が付く。	
1-3 拡張	176	白磁	椀	P225		16.8	(47)		灰白	灰白	良	口縁周 1/3 残。	口縁端部外反して水平に開く、内底近くに一条の沈線、外面ピンホール有。	白磁類 (森田分類)
1-3 拡張	177	土製品	土鍾	P231		全長 2.3	全幅 0.9	孔径 0.5		橙		両側大きく欠損。		重量 1.0g

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
1-3 拡張	178	土師質 土器	杯	P231		9.6	(4.0)		橙	橙	2mm大の砂粒入る	口縁周一部残。	口縁歪み有。外面強い回転痕残る。		
1-3 拡張	179	黒色土 器B類	椀	P232	マ	14.2	(2.5)		黒	明赤褐	細かな白い砂粒入る	口縁周わずかに残。	口縁端部沈線入り段状になる。内面ミガキ。		
1-3 拡張 B	180	石器	砥石	P236		全長 14.0	全幅 8.15	全厚 5.8					白色に赤色入る泥岩、断面形状に整形、使用1面、使用面長軸に対して斜交するように断面V字の線条痕。	重量 900g	
1-3 拡張	181	瀬戸		P245		(4.0)	9.3		灰白	灰白		底部一部のみ残。	底部から上方に直線的に立ち上がる、外内面ともに灰釉。底部糸切り。	瀬戸筒形香炉の可能性	
1-3 拡張	182	土師質 土器	小皿	P267		6.6	1.85	4.8	黄灰	灰黄褐	細かな砂粒多く入る	底部周完形、口縁周1/2残。	口縁歪み有、平底から立ち上がる。外面二段に回転ナデ、内面内面に回転痕。回転糸切り、ヘラ起し。		
1-3 拡張	183	備前焼	描鉢	P267	マ	26.4	(5.8)		灰	灰	細かな砂粒多	口縁周わずかに残。	口縁端部上下に拡張。外面回転ナデ痕。	備前焼と考えるが須恵質	
1-3 拡張	184	土師器 (底部)		P270	マ		(2.1)	8.0	黄白	黄白	細かな赤色砂粒	底部周1/3残。	平底。内面回転痕。回転糸切り。		
1-3 拡張	185	土製品	土鉢	P278	マ	全長 4.85	全幅 1.2	孔径 0.3		褐		両側部欠損、表面 磨耗。			重量 5.7g
1-3 拡張	186	土製品	土鉢	P278	マ	全長 5.35	全幅 1.35	孔径 0.4		橙		完形。			重量 7.4g
1-3 拡張	187	土製品	土鉢	P278	マ	全長 5.4	全幅 1.25	孔径 0.3		褐灰		片側欠損、表面磨 耗。			重量 5.9g
1-3 拡張	188	土製品	土鉢	P278		全長 4.7	全幅 1.2	孔径 0.4				両側部欠損、表面 磨耗。			重量 6.2g
1-3 拡張	189	土製品	土鉢	P278		全長 5.65	全幅 1.1	孔径 0.3		橙		両側部欠損。			重量 5.6g
1-3 拡張	190	青磁	椀	P283		16.0	(2.8)		オリーブ 灰	オリーブ 灰	良	口縁周わずかに残。	篩選弁文。		
1-3 拡張	191	土師器	小皿	P293	マ	5.9	1.7	4.0	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒	底部周1/2残、口 縁周わずかに残。	低い円盤高台状の底部から丸みを持ち立ち上がる。外面回転痕。回転糸切り。		
1-3 拡張	192	土師器	羽釜	P310		24.6	(4.4)		灰黄褐	灰黄	砂粒多	口縁わずかに残。	厚みのある台形状の踵、口縁短かく上方を向く。	摂津C型	
1-3 拡張	193	土製品	土鉢	P320	マ	全長 2.7	全幅 1.2	孔径 0.45				片側部、片側欠 損。			重量 3.1g
1-3 拡張	194	白磁	皿	P352		(0.6)	6.7		灰白	灰白	良	底部周一部残。	底部外面まで施釉。		
1-3 拡張	195	石器	砥石	P393		全長 10.1	全幅 3.3	全厚 2.8		白色に 赤みが かる			白色に赤みがかる泥岩、細かな目仕上げ用。断面長方形状、2面使用。	重量 119.2g	
1-3 拡張	196	土師質 土器	小皿	P414	マ	6.7	1.35	5.4	明黄褐	明黄褐	大きな8mm大の 石入る	ほぼ完形、表面磨 耗。	平底から短かく開く、内面傾斜ゆるやか。回転糸切り。		
1-3 拡張	197	土師質 土器	杯	P404		12.4	3.25	8.2	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	砂っぽい胎土	底部周、口縁周と も1/2残。	平底から斜めに開く。外面回転ナデ、内面回転ナデ。回転糸切り。		
1-3 拡張	198	土師質 土器	杯	P408	マ	12.0	3.6	8.2	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	細かな砂粒入る	底部周1/2、口縁 周一部残。	平底、口縁立ちきみ。外面回転ナデ。回転糸切り。		
1-3 拡張	199	土師質 土器	杯	P416	マ	14.0		7.15	にぶい 橙	にぶい 橙	赤い砂粒入る	底部完形、口縁周 1/3欠損、磨耗。	平底から直線的に開く、口縁端大きく外反。外面回転痕。回転ヘラ切。		
1-3 拡張	200	土製品	土鉢	P429		全長 4.6	全幅 1.25	孔径 0.35				完形。			重量 7.0g
1-3 拡張	201	瓦器	椀	P447		13.9	(4.2)	7.5	橙	橙	細かな砂粒多	口縁周1/3 わずか に残。	口縁歪み有り、内桶きみ。外内面とも口縁ナデ。外面口縁下横方向指オサエ。	不整形な瓦器椀	
1-3 拡張	202	土師質 土器	皿	P489		9.9	1.6	7.0	浅黄橙	橙	細かな砂粒多	底部完形。	平底から直線的に大きく開く。内面傾斜緩やか。外面内面とも回転ナデ。回転ヘラ切り。		
1-3 拡張	203	土師器	杯		ホ1	14.4	3.85	7.2	にぶい 黄橙	褐灰	やや軟質	底部周、口縁周と も一部残。	平底から開く体部、口縁端部外反。外面回転ナデ。回転糸切り。		
1-3 拡張	204	土師質 土器	杯		ホ1	14.5	4.75	6.4	にぶい 橙	にぶい 橙	赤色の砂粒入る	底部周完形、口縁 周わずかに残。	平底から内湾きみの体部、口縁外反。外面回転ナデ痕、内底中央部回転痕。回転糸きり。		
1-3 拡張	205	土師質 土器	杯		ホ1		(2.1)	7.0	褐灰	褐灰	細かな砂粒多	底部周2/3残、磨 耗。	平底から立ち上がる。回転糸切り。		
1-3 拡張	206	土師質 土器	小皿		ホ1	6.6	1.65	5.2	橙	橙	良	口縁一部欠損、磨 耗。	平底から立ち上がる。回転糸切り。		
1-3 拡張	207	土師質 土器	小皿		ホ1	6.1	1.3	5.2	橙	橙	良	完形、磨耗。	平底から短かく立ち上がる。		
1-3 拡張	208	土師質 土器	小皿		ホ1	6.1	1.5	4.5	橙	にぶい 橙	良	口縁一部欠損。	口縁歪む、平底から立ち上がる。外内面回転ナデ。回転糸切り。		
1-3 拡張	209	土師器	小皿		ホ 1-2	7.4	1.6	4.0	橙	橙	細かな砂粒入る	底部周、口縁周と も一部残。	低い円盤高台状になる底部、丸みを帯びて開く体部、回転糸切り。		
1-3 拡張	210	土師器	椀		ホ1	2.9	6.2		にぶい 橙	にぶい 橙	細かな砂粒入る	高台周1/3残、磨 耗。	幅の広い高台。		
1-3 拡張	211	須恵器	椀		ホ1	(2.5)	6.05		灰白	灰白	良	高台完形。	円盤高台、全体にシャープ。外内面とも回転ナデ。静止糸切り。	搬入か	
1-3 拡張	212	緑釉 陶器			ホ1	(1.5)	7.0		浅緑	灰オ リーブ	良	高台周わずかに残。	浅緑色の薄い釉、ハケ塗。	浅黄色の焼成の良い土師質、京都産か	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-3 拡張	213	緑釉陶器			ホ1		(1.35)	6.3	灰白一部緑色	灰白一部緑色	良	高台周わずかに残。	輪高台、高台内面まで釉残る、緑色のうすい釉。	胎土硬陶須恵京産
1-3 拡張	214	白磁	椀		ホ1		(2.1)	5.5	灰白	灰白	良	高台周 1/3 残。	残存部露胎、高い高台。	V類 (森田分類)
1-3 拡張	215	白磁	椀		ホ1		(2.8)	5.6	灰白	灰白	良	高台周 1/4 残。	体部下半まで施釉、高い高台。	V類 (森田分類)
1-3 拡張	216	白磁	椀		ホ1		3.55	5.8	灰白	浅黄橙	良	高台周 1/2 残。	やや茶色かかった軸が下半まで施釉、化粧土、高台外面までかかる、高い高台。	V類か (森田分類)
1-3 拡張	217	青磁	椀		ホ1、2	17.9	(4.4)		オリーブ灰	オリーブ灰	良	口縁周一部残。	弱い竈連弁文。	I-5類 (森田分類)
1-3 拡張	218	青磁	椀		ホ1		(2.7)	6.7	オリーブ灰	オリーブ灰	良	高台周完形。	厚手の底部、畳付一部まで釉残る、内面見込飛雲文。	高台一部淡黄色の胎土、I-4類の底部か
1-3 拡張	219	青磁	椀		ホ1	16.9	(5.6)		灰オリーブ	灰オリーブ	良	口縁わずかに残。	透明感の強い釉、外面櫛目文、内面沈線が巡る。	同安窯系 I-1b 類 (森田分類)
1-3 拡張	220	青磁	椀		ホ1	17.3	(4.8)		オリーブ灰	オリーブ灰	良	口縁周 1/3 残。	甘い竈、連弁文、貫入有。	
1-3 拡張	221	土師質土器	羽釜		ホ1	21.8	(5.95)		橙	橙	細かな砂粒多	口縁わずかに残。	口縁端部玉縁状に肥厚、口縁下小さな突帯状の窪の浅窪が付く。外面胴部斜方向タタキ、内面横方向ハケ。	播磨型、Ⅶ～Ⅷ期、16世紀末～17世紀初期
1-3 拡張	222	土師質土器	羽釜		ホ1	19.5	(3.4)		橙	橙	細かな砂粒多	口縁周わずかに残。	短い口縁下に断面三角形の短い罫が付く、罫外面段状になる。罫外面回転ナデ。	播磨型の可能性
1-3 拡張	223	瓦質土器	羽釜		ホ1	22.2	(4.8)		黄灰	黒褐		口縁わずかに残。	口縁外面段状、しっかりした罫が付く。	河内型
1-3 拡張	224	備前焼	壺		ホ1		(6.25)		にぶい褐	にぶい褐	砂粒多	口縁わずかに残。	大きな玉縁の口縁。	備前Ⅲ期か
1-3 拡張	225	鉄器	鉄釘		ホ1	全長 3.2	全幅 1.2	全厚 0.7					鉄釘、頭部折り曲げ、先端欠損、未処理。	重量 3.5g
1-3 拡張	226	土師器	小皿		ホ2	8.4	1.3	6.4	灰白	浅黄橙	良	底部周、口縁周とも一部残。	外反する口縁扁平な器形。外内面とも回転ナデ。回転ヘラ切り。	
1-3 拡張	227	土師器	小皿		ホ2	9.2	1.15	7.3	橙	橙	細かな赤色の砂粒	底部周、口縁周とも一部残。	平底から短かく外反ぎみに開く、扁平な器形。回転糸切り。	
1-3 拡張	228	土師質土器	皿		ホ2	8.1		3.45	橙	橙	細かな赤色の砂粒入る	底部完形、口縁周 2/3 残、磨耗。	小さな底部から大きく開く体部、扁平な器形。回転糸切り。	
1-3 拡張	229	土師器	小皿		ホ2	6.1	1.8	4.4	橙	橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、口縁周とも一部残。	平底から斜め上方に短かく開く。糸切り、ヘラ起し。	
1-3 拡張	230	土師器	小皿		ホ2	8.4	1.75		浅黄橙	浅黄橙	赤色砂粒入る	底部周、口縁周とも一部残、磨耗。	口縁で外反する。外面、内面底部回転ナデ。	
1-3 拡張	231	土師器	小皿		ホ2	8.8	1.6	5.2	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周 2/3、口縁周 1/2 残。	平底から外反して開く。回転糸切り。	
1-3 拡張	232	土師器	小皿		ホ2	8.2	2.05	5.9	浅黄橙		細かな砂粒入る	完形。	平底から立ち上がる。外面回転ナデ、内面底部見込回転ナデ。回転ヘラ切り。	
1-3 拡張	233	土師器	皿		ホ2	8.5	1.75		浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒入る	口縁周一部残。	丸みを帯びた体部。	
1-3 拡張	234	土師質土器	小皿		ホ2	7.5	1.8	4.0	橙	橙	赤色砂粒入る	底部周 2/3、口縁周わずかに残。	円盤高台状の底部、体部～口縁、二段に屈曲。外面回転ナデ。回転糸切り。	
1-3 拡張	235	土師器	小皿		ホ2	7.85	1.55	5.5	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色の砂粒	完形。	平底から斜め上方に立ち上がる、内面見込螺旋状回転痕。内面見込まで回転ナデ。回転ヘラ切り。	
1-3 拡張	236	土師器	皿		ホ2	8.5	1.75	4.7	にぶい橙	にぶい橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、口縁周一部残。	平底からわずかに丸みを帯びる体部、内底同心円状に落ちこみ。外面回転ナデ。ヘラ起し。	
1-3 拡張	237	土師器	小皿		ホ2	8.2	1.45	5.6	浅黄橙	浅黄橙	良	底部周、口縁周とも 2/3 残。	平底から丸みを帯び開く、扁平な器形、内底凹む。ヘラ起し痕。	
1-3 拡張	238	土師質土器	脚台		ホ2		(3.0)	6.4	浅黄橙	浅黄橙	1mm大の砂粒入る	高台周わずかに残。	ハの字に開く高い高台、上面は残存し、回転痕。外面、高台、上面回転痕、内面、高台、ケズリ。	
1-3 拡張	239	土師器	(口縁)		ホ2	10.7	(1.9)		橙	橙	細かな砂粒入る	口縁周わずかに残。	外面回転痕段状、体部丸みを帯びるか。外面回転ナデ。	
1-3 拡張	240	土師器	小杯		ホ2	10.9	2.25	6.8	橙	橙	細かな白色砂粒入る	底部周、口縁周ともわずかに残。	平底から丸みを帯び立ち上がり、中央部で外反する。外内面とも回転ナデ。	
1-3 拡張	241	土師質土器	杯		ホ2	11.2	3.4	7.2	橙	橙	細かな砂粒多く入る	底部完形、口縁周わずかに残、磨耗。	体部下端で屈曲し外反。内面見込回転痕。回転ヘラ切り。	
1-3 拡張	242	土師器	杯		ホ2	14.8	4.6	6.0	黄橙	黄橙	細かな白い砂粒入る	底部周、口縁周とも 1/3 残。	平底から丸みを帯びる体部、口縁外反。外面強い回転ナデ痕。	
1-3 拡張	243	土師器	杯		ホ2	15.7	5.6	6.5	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒入る	口縁周 1/3 欠損。	小さめの底部から開く、口縁外反。外面回転ナデ、内面螺旋状の回転ナデ痕。ヘラ起し。	
1-3 拡張	244	土師器	杯		ホ2	13.4	3.85	6.4	浅黄橙	浅黄橙	良	底部周、口縁周ともわずかに残。	体部ゆるやかに外反。外面口縁ナデ。	
1-3 拡張	245	土師器	杯		ホ2	14.2	(4.6)		にぶい橙	にぶい橙	細かな白色砂粒入る	口縁周わずかに残、磨耗。	わずかに丸みを帯びた体部、口縁外反し肥厚さみ。外面回転ナデ。	
1-3 拡張	246	土師器	杯		ホ2		(2.2)	7.4	橙	橙	細かな砂粒多く入る	底部周 2/3 残。	外面階段状の回転痕。外面強い回転ナデ、内面見込回転ナデ。回転糸切り。	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
1-3 拡張	247	土師器	(底部)		ホ2		(18)	7.8	にぶい 橙	にぶい 橙	細かな砂粒多	底部周一部残、磨 耗著しい。	平底。回転系切り。		
1-3 拡張	248	土師器	(底部)		ホ2		(3.25)	6.7	橙	橙	細かな赤色砂粒 入る	高台周1/2残、磨 耗。	円盤高台、丸みを帯びる体部。外面回 転痕。糸切り。		
1-3 拡張	249	土師器	杯		ホ2		(28)	6.2	橙	橙	良	底部わずかに残。	円盤高台、体部より突出、底面脱落、 内底凹み、中空状に。外面回転ナデ。		
1-3 拡張	250	土師質 土器	杯		ホ2		(29)	7.2	にぶい 橙	にぶい 橙	良	底部周1/2残。	円柱状の中空の高台。外面、幅の狭い 回転痕。		
1-3 拡張	251	土師器	杯		ホ2	13.8	5.35	6.2	橙	橙	細かな赤色砂粒 入る	底部周1/3、口縁 わずかに残。	低い円盤高台、丸みを帯びた体部、口 縁外反。外面回転ナデ。		
1-3 拡張	252	土師器	椀		ホ2	15.4	5.15	8.2	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒多く 入る	底部周、口縁周と も1/3残。	雑な作りの円盤高台、丸みを帯びた体 部、口縁でわずかに外反。外面回転ナ デ痕残る。糸切り。		
1-3 拡張	253	土師器	椀		ホ2	15.9	5.4	6.6	浅黄橙	浅黄橙	チャート粒入る	高台周2/3、口縁 周1/2残。	高台畳付ナデにより斜面、丸みを帯び た体部、口縁外反。外面口縁～体部下 部回転ナデ、体部下回転ナデ、内 面口縁回転ナデ。貼付高台。	内面粘土盛り残る、在地産 か	
1-3 拡張	254	土師器	椀		ホ2		(2.35)	6.3	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒 入る	高台周一部残、磨 耗。	断面かまぼこ状に近い甘い高台、丸み を帯びて立ち上がる。		
1-3 拡張	255	土師質 土器	輪高台 (底部)		ホ2		(1.35)	4.0	橙	浅黄橙	細かな砂粒入る	高台周1/3残。	断面三角形の高台。	瓦器碗底部の可能性	
1-3 拡張	256	土師器	椀		ホ2		(3.4)	6.2	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒多	高台周1/2残、磨 耗。	幅の広い高台、丸みを帯びた体部。外 面ケズリ痕。貼付高台。		
1-3 拡張	257	黒色土 器A類	椀		ホ2		(28)		黒	黒			黒色土器A類胴部、外内面ともていね いなミガキ。	搬入と考える	
1-3 拡張	258	黒色土 器B類	椀		ホ2		(1.0)	4.8	黒灰	黒灰	細かな白い砂粒 多	高台周1/3残。	底部平坦、しっかりした輪高台。	炭素吸着良好、黒色土器B 類	
1-3 拡張	259	須恵器	杯		ホ2	10.6	3.25	7.0	灰	灰	白い砂粒入る	底部周、口縁周と も一部残。	平底から腰を持ち上方に立ち上がる。		
1-3 拡張	260	須恵器	(底部)		ホ2		(2.3)	10.0	灰	灰	細かな白色砂粒 入る	高台周わずかに残。	底部端に断面長方形の輪高台。貼付高 台。		
1-3 拡張	261	須恵器	壺		ホ2		(1.65)	12.3	黄灰	黄灰	細かな白い砂粒 入る	高台周わずかに残。	底部端にハの字状の幅広の輪高台。内 面底部、斜め方向ナデ。	須恵器壺か	
1-3 拡張	262	須恵器	(底部)		ホ2		(0.9)	4.8	灰	灰	細かな白色砂粒 入る	底部周わずかに残。	平底。回転系切り。		
1-3 拡張	263	須恵器	(底部)		ホ2		1.0	4.8	灰	灰	細かな白い砂粒	底部周1/2残。	平底、うす手。外内面回転痕。回転系 切り。		
1-3 拡張	264	土師器	皿		ホ2	7.4	1.1	5.6	灰	黄灰	白い砂粒入る	口縁周1/3残。	扁平な器形、大きく開く口縁。内外面 とも口縁ナデ。切り離しなし。		
1-3 拡張	265	瓦器	椀(皿)		ホ2	9.8	2.4		灰白	灰白		口縁周一部欠損。	底部丸底、口縁外反。外面口縁指オサ エと後ナデ。切り離しなし。	椀と考えるIV期14世紀代	
1-3 拡張	266	瓦器	椀		ホ2	14.0	4.0		橙	橙	細かな白色砂粒 入る	高台わずかに残る、 口縁周1/3残、高 台剥離。	口縁長く外反、口縁上半横ナデ、下手 指オサエ。	二次被熱	
1-3 拡張	267	瓦器	椀		ホ2	15.8	(3.7)		黒灰	黒灰	良	口縁周わずかに残。	口縁屈曲、内面の方が強い、体部凸凹、 外内面とも口縁横ナデ、外面体部指オ サエ。		
1-3 拡張	268	瓦器	椀		ホ2		(1.7)	5.2	灰	灰		高台周わずかに残。	逆台形状のしっかりした高台。貼付高 台。		
1-3 拡張	269	瓦器	椀		ホ2		(2.0)	6.0	灰白	黄灰	良	高台周1/3残。	ハの字状のしっかりした輪高台、丸み を帯びて立ち上がる。	内面灰白色、瓦質土器と考 える	
1-3 拡張	270	鉄器	鉄鎌		ホ2 (中央)	全長 (9.5)	全幅 1.3	全厚 0.9						基部分有、接合しないうが同一個体と考 える、断面形方形、桁刃の鉄鎌の可能 性。	重量 18.6g
1-3 拡張	271	青磁	椀		ホ2	12.7	(3.0)		灰オ リーブ	灰オ リーブ	良	口縁周わずかに残。	斑点状になる釉、口縁外反。	5と同一個体か	
1-3 拡張	272	青磁	椀		ホ2	16.1	(3.5)		灰オ リーブ	灰オ リーブ	良	口縁周わずかに残。	口縁端部外反、擦痕。		
1-3 拡張	273	青磁	椀		ホ2	16.8	(3.8)		オリ ーブ灰	オリ ーブ灰	良	口縁周わずかに残。	外面口縁発色異なる、内面陰刻文様。	うすいが内面2条沈線、I 4類の可能性	
1-3 拡張	274	青磁	椀		ホ2	18.8	(5.7)		オリ ーブ黄	オリ ーブ黄	灰	口縁周わずかに残。	幅の広い片彫り、連弁文、低い鑊。		
1-3 拡張	275	青磁	皿		ホ2		(1.0)	4.2	オリ ーブ黄	オリ ーブ黄	良	底部周一部残。	体部下部～底部露胎。外面下半～底部 回転ナデ痕。	青磁皿I・I b類か	
1-3 拡張	276	緑釉 陶器			ホ2		(1.4)		濃緑	濃緑	良	底部わずかに残。	輪高台、濃緑色の厚めの釉。外面下部 ケズリ痕。	胎土、土師質、近江産か	
1-3 拡張	277	緑釉 陶器			ホ2		(1.6)	6.6	灰オ リーブ	灰オ リーブ	良	高台周完形。	底部外面まで濃緑色釉、施釉、内面見 込1条沈線巡る。内面底部回転痕。回 転系切り。	胎土軟陶土師質、近江産か	
1-3 拡張	278	青磁	椀		ホ2		(4.7)	6.7	オリ ーブ灰	オリ ーブ灰	良	高台わずかに残。	外面鑊連弁文。	青磁椀I-5類(森田分類)	
1-3 拡張	279	青磁	椀		ホ2		(2.3)	6.4	灰オ リーブ	灰オ リーブ	良	底部周わずかに残。	濁った釉、内面見込沈線状の段巡る。	二次被熱の可能性	
1-3 拡張	280	白磁	(底部)		ホ2		(1.35)	6.0	灰白	灰白		底部周わずかに残。	体部下部～底部露胎。	白磁皿X類か	

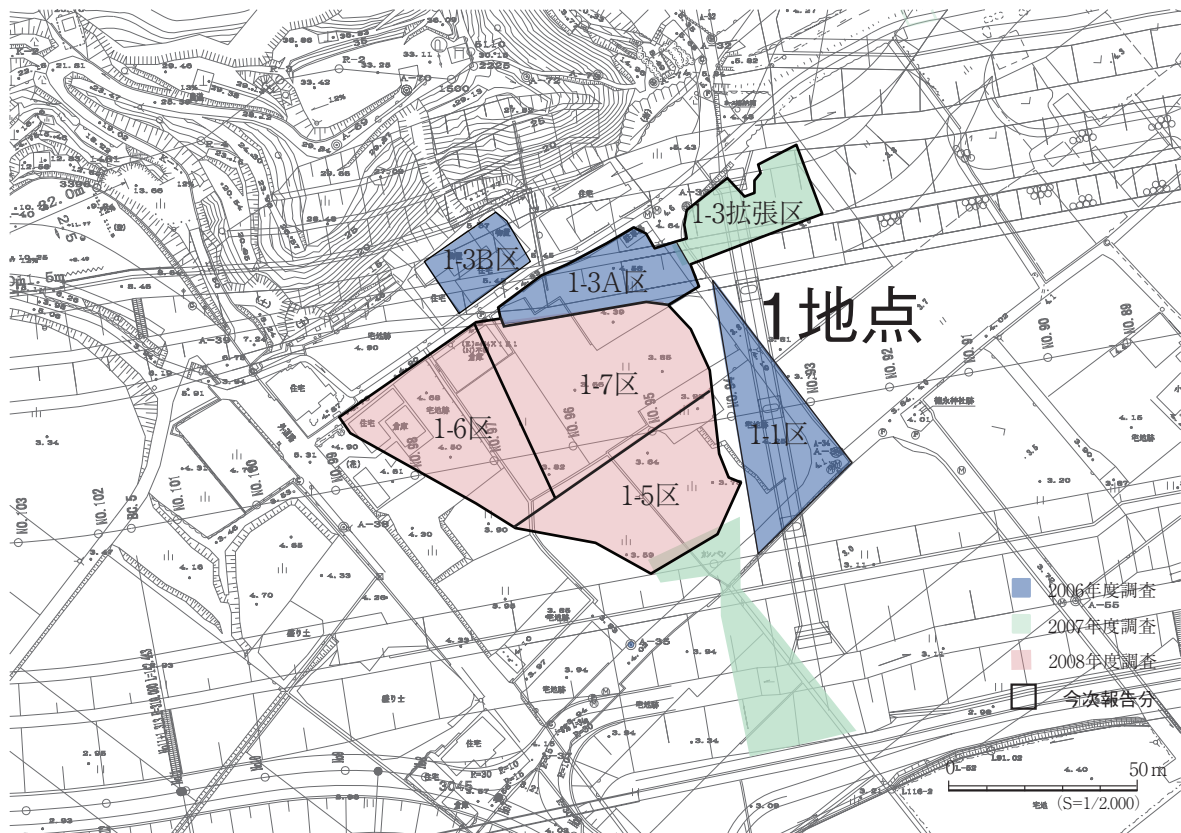
調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
1-3 拡張	281	白磁	椀		ホ 2	18.3	(4.0)		灰白	灰白	良	口縁わずかに残。	口縁端部玉縁、外面ピンホール多、内面口縁下軸垂れ。	白磁Ⅳ類椀	
1-3 拡張	282	白磁	椀		ホ 2	18.0	(4.8)		灰白	灰白	良	口縁周一部残。	玉縁の口縁、体部下露胎。	白磁Ⅳ類	
1-3 拡張	283	白磁	椀		ホ 2	15.5	(3.2)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残。	口縁端部水平に外反。		
1-3 拡張	284	白磁	椀		ホ 2		(2.5)	7.0	灰白	灰白	良	底部周完形。	厚い底部、ケズリ出しの低い高台。ケズリ出し高台。	Ⅳ類の可能性	
1-3 拡張	285	白磁	椀		ホ 2		(1.7)	6.6	灰白	灰白	良	高台周 1/3 残。	低いケズリ出し高台。	白磁Ⅳ類底部か	
1-3 拡張	286	土師器	甕		ホ 2	33.0	(9.0)		にぶい 褐	にぶい 褐	砂粒多、全曇母多	口縁一部残。	口縁内面稜を持ち、くの字に屈曲、口縁端部拡張なし。外内面口縁～口縁端部ナデ、内面口縁下横ハケ。	搬入	
1-3 拡張	287	土師器	甕		ホ 2	23.4	(2.9)		にぶい 橙	橙	細かな砂粒多	口縁わずかに残。	口縁内面で稜を持ち屈曲、口縁端部上方に拡張。	紀伊型	
1-3 拡張	288	瓦質土器	羽釜		ホ 2	21.4	(4.5)		灰	黄灰		口縁わずかに残。	内傾きみの段状になる口縁、口縁端部面をなす、端部凹面の鑿が付く。外面鑿下、横方向ケズリ、内面横方向ハケ。	河内型	
1-3 拡張	289	土師質土器	釜		ホ 2	23.6	(5.4)		橙	橙	細かな砂粒多	口縁わずかに残。	口縁内傾きみ、端部内傾する面をなす。		
1-3 拡張	290	瓦質土器	羽釜		ホ 2	24.0	(3.8)		褐	にぶい 橙	細かな砂粒多	口縁わずかに残。	内傾する段状の口縁、口縁端部面をなす。内面斜方向ハケ。	二次被熱、河内型	
1-3 拡張	291	瓦質土器	羽釜		ホ 2	22.7	(3.9)		褐灰	黒	細かな砂粒多	口縁わずかに残。	内傾し段状になる口縁、口縁端部面をなす。鑿端部凹面、内面ハケ。	河内型 223 とは別個体	
1-3 拡張	292	東播系須恵器	片口鉢		ホ 2	26.0	(2.8)		灰	灰	白い砂粒入る	口縁周わずかに残。	口縁端部断面三角に肥厚。外内面とも回転ナデ。	東播系片口鉢	
1-3 拡張	293	東播系須恵器	片口鉢		ホ 2	23.4	(4.75)		灰	灰		口縁わずかに残。	口縁端部上方に拡張するが、肥厚なし 2 条の凹線状ナデ、口縁外側に屈曲。内外面回転ナデ。	東播系片口鉢の可能性	
1-3 拡張	294	東播系須恵器	片口鉢		ホ 2	33.2	(8.9)		灰白	灰白	5mm大の砂粒も入る	口縁一部残。	口縁端部拡張弱い、体部わずかに丸みを帯びる。外内面とも回転ナデ。	東播系片口鉢 I - 2 の可能性も 11 世紀末～ 12 世紀	
1-3 拡張	295	備前焼	播鉢		ホ 2	30.0	(6.7)		灰褐	にぶい 褐	砂粒多く入る	口縁わずかに残。	口縁端部下方に拡張。	備前Ⅲ期	
1-3 拡張	296	備前焼	播鉢	集石 2	ホ 2	27.0	(4.7)		明赤褐	明赤褐	砂粒多量に入る	口縁わずかに残。	口縁上方に拡張。	備前Ⅲ期	
1-3 拡張	297	土製品	土鍾		ホ 2	全長 5.8	全幅 2.95	孔径 1.0			浅黄橙		大型片側端部欠損。		重量 47.1g
1-3 拡張	298	土製品	土鍾		ホ 2	全長 5.15	全幅 1.15	孔径 0.45			褐灰		両端部欠損。		重量 6.0g
1-3 拡張	299	土製品	土鍾		ホ 2	全長 6.2	全幅 1.15	孔径 0.35			灰黄褐		片側端部欠損径に比べて長い。		重量 6.8g
1-3 拡張	300	土製品	土鍾		ホ 2	全長 (8.1)	全幅 1.3	孔径 0.35			灰褐		径に比して長い、両端部欠損。		重量 10.4g
1-3 拡張	301	須恵器	壺		ホ 2		(5.8)		灰	灰	白い砂粒入る	肩部わずかに残。	肩部下に断面三角形の突帯が巡り、耳が付く。		
1-3 拡張	302	須恵器	壺		ホ 2				黄灰	黄灰	細かな白色砂粒入る	肩突帯部。	断面逆台形の突帯に耳が付く、下部タタキ。	東播系及耳壺の可能性	
1-3 拡張	303	石器	砥石		ホ 2	全長 7.6	全幅 2.8	全厚 2.0					白色、泥岩か、断面長方形、三面使用。		重量 60.0g
1-3 拡張	304	銅製品	銅銭		ホ 2	外径 2.5	内径 0.9								中国銭
1-3 拡張	305	土師器	杯	集中 1		13.1	3.95	7.5	橙	橙	細かな砂粒多	底部完形、口縁周 1/3 残。	平底から斜め上方に直線的に立ち上がる。外内面とも回転痕、内面見込螺旋状回転痕。回転条切り。		
1-3 拡張	306	土師器	杯	集中 1		12.4	3.95	6.9	浅黄橙	橙	細かな砂粒多	底部完形。	平底から斜め上方に立ち上がる。外面回転ナデ。回転ヘラ切り。		

第Ⅵ章 1－5区の調査

1. 1－5区の概要

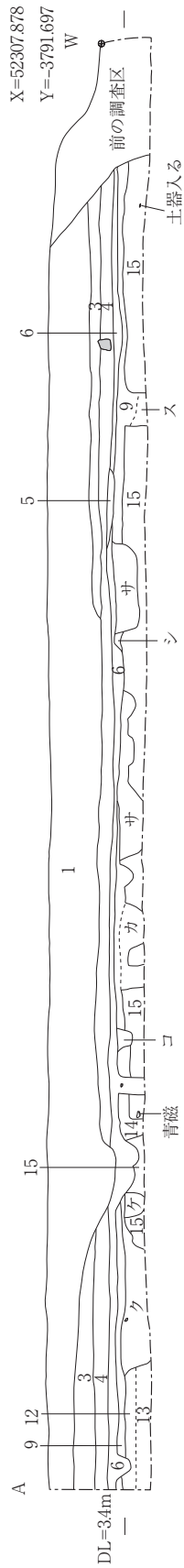
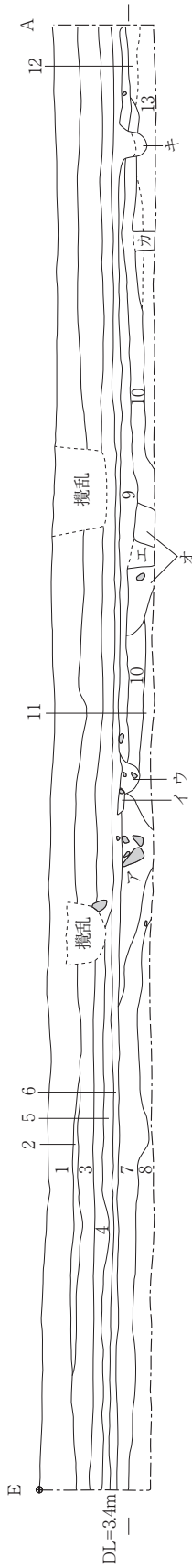
1地点は城山南側に位置する調査地点で調査順に1－1～1－7区として調査区を設定し調査した。1－5区は1地点の中央部に位置し、東側は1－1区、西側は平成18年度に調査したNW区、南側はS区、北側は1－6・7区と接している。

調査前、東側は宅地となっていた。調査区中央部には近現代の大きな攪乱坑が4ヶ所存在していた。調査区の調査前標高は約4.1mであった。遺構検出面は4面で上面、中面、下面、最下面として調査を行い、上面の検出標高は3.2～3.3m、中面の検出標高は2.95～3.2m、下面の検出標高2.8～3.0m、最下面の遺構検出標高は2.5～2.8mであった。4面の合計調査延べ面積は4,950㎡である。調査期間は平成19年11月～20年7月までの2カ年に渡って行われた。平成19年度は上面のみ調査が行われ、平成20年度は中面から最下面の調査を行った。



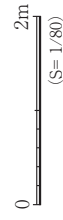
6-1図 調査区位置図

X=52307.221
Y=-3480.660



- 1: 盛土
- 2: 砕石盛土
- 3: 表土(旧耕作土)
- 4: 表土(旧耕作土) 少し褐色入る粘土)
- 5: 表土下層(マンガン付着層)
- 6: 灰色粘砂土
- 7: 淡褐色粘砂土
- 8: 黄褐色粘質土
- 9: 灰褐色粘質土(灰色砂質土 黄褐色土 褐色粒子が混じる ホ1)
- 10: 灰褐色粘質土(灰色に褐色粒子多量に入る)
- 11: 灰色粘質土(砂混じる)
- 12: 黄褐色粘質土
- 13: 暗褐色粘質土
- 14: 褐灰色
- 15: 黄褐粘砂土(褐色粒子入る)

- ア: 灰色粘質土(褐色粒子多く入る)
- イ: 暗灰色砂質土(ブロック)
- ウ: 暗灰色粘質土(ピット埋土)
- エ: 黄褐色ブロック混じる(ピット埋土)
- オ: 暗灰色土(褐色粒子多量に入る 遺構の可能性)
- カ: 暗灰色粘質土(ピット埋土)
- キ: 暗灰色化
- ク: 灰色粘砂土(褐灰粒子入る)
- ケ: 褐色粘質土(灰色粘質土粒子入る)
- コ: Pt埋土
- サ: 暗灰色粘砂土(遺構の可能性)
- シ: 灰色砂質ブロック
- ス: 暗灰色褐色土



6-2 図 TR1 セクション 図



6-3図 上面遺構全体図

2. 検出遺構と遺物

(1) 上面の遺構と遺物

上面の遺構は土坑 39 基、ピット 619 個、溝跡 13 条を検出した。上面の検出標高は 3.2 ～ 3.3 m である。遺構は調査区中央部に東西方向に帯状に分布しており、特に調査区南西部は遺構密度が低くなっている。上面検出遺構からは近世から古代の遺物が出土しているが、近世から中世が中心である。遺構は近世と中世後半の時期が中心と考えられる。

土坑 (SK)

上面で検出した土坑は、遺構検出時 SK47 まで遺構番号を付けたが、遺構と確認できなかった 9 ヶ所を欠番としたため 38 基である。調査区中央部に東西方向に帯状の分布がみられ、調査区北東部はやや密集する。土坑埋土中からは近世から古代の遺物が出土している。出土遺物は細片が多く図示できた遺物が出土した土坑は 7 基である。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK1	欠番	-	-	-	-	-	-	-
SK2	0.77 × 0.42 × 0.19	-	皿状	N - 15° - E	-	土師質土器・瓦器・瓦質土器・東播系須恵器	-	-
SK3	1.12 × 0.90 × 0.17	長方形	皿状	N - 3° - W	-	土師質土器・瓦器	-	-
SK4	0.90 × 0.85 × 0.76	円形	-	N - 79° - E	-	土師質土器・須恵器・近世陶磁器・土錘・砥石	-	-
SK5	0.91 × 0.80 × 0.16	楕円形	皿状	N - 3° - W	-	土師質土器・瓦器・須恵器	-	-
SK6	1.00 × 0.83 × 0.44	楕円形	逆台形	N - 76° - W	-	土師質土器・瓦器・須恵器・近世陶磁器・土錘	-	-
SK7	1.23 × 0.64 × 0.18	不整形	逆台形	N - 77° - W	-	土師質土器・瓦器	-	-
SK8	0.98 × 0.76 × 0.12	楕円形	皿状	N - 27° - E	-	土師質土器	-	-
SK9	1.10 × 0.75 × 0.08	楕円形	皿状	N - 77° - W	-	土師質土器	-	-
SK10	1.35 × 1.17 × 0.17	楕円形	皿状	N - 8° - W	-	土師質土器・須恵器	-	-
SK11	1.22 × 1.10 × 0.13	円形	皿状	N - 39° - E	-	土師質土器・土錘	-	-
SK12	(1.00) × 0.81 × 0.06	-	皿状	N - 8° - E	-	土師質土器・瓦器・須恵器	-	-
SK13	0.92 × (0.70) × 0.06	-	皿状	N - 11° - W	-	土師質土器・瓦質土器	-	-
SK14	0.64 × 0.60 × 0.16	楕円形	皿状	N - 11° - E	-	土師質土器・瓦器・青磁・白磁	-	-
SK15	0.76 × 0.70 × 0.68	円形	逆台形	N - 39° - E	-	土師質土器・瓦質土器・近世陶磁器	-	-
SK16	0.85 × 0.68 × 0.09	楕円形	皿状	N - 4° - W	-	土師質土器・須恵器	-	-
SK17	欠番	-	-	-	-	-	-	-
SK18	0.95 × (0.70) × 0.10	楕円形	皿状	N - 4° - W	-	土師質土器・瓦器	-	-
SK19	2.31 × 1.57 × 0.19	楕円形	-	N - 12° - W	-	土師質土器・須恵器	-	-
SK20	(0.90) × 0.83 × 0.10	-	皿状	-	-	土師質土器・瓦器	-	-
SK21	1.10 × 0.50 × 0.10	不整形	皿状	N - 8° - E	-	土師質土器	-	-
SK22	1.20 × 0.96 × 0.11	楕円形	皿状	N - 50° - E	-	土師質土器・瓦器	-	-
SK23	欠番	-	-	-	-	-	-	-
SK24	0.92 × 0.87 × 0.24	円形	箱形	N - 67° - E	-	土師質土器・瓦器・常滑焼・須恵器・青磁・土錘	-	-
SK25	欠番	-	-	-	-	-	-	-
SK26	欠番	-	-	-	-	-	-	-
SK27	1.13 × 1.05 × 0.05	楕円形	皿状	N - 25° - E	-	土師質土器・須恵器	-	-
SK28	1.52 × 1.25 × 0.07	楕円形	皿状	N - 85° - E	-	土師質土器・土錘	-	-
SK29	0.95 × (0.50) × 0.07	-	皿状	N - 29° - W	-	-	-	-
SK30	2.41 × (1.50) × 0.24	-	逆台形	N - 8° - E	-	土師質土器・瓦器・灰器・白磁	-	-
SK31	1.00 × 0.66 × 0.72	楕円形	-	N - 64° - W	-	-	-	-
SK32	0.94 × 0.60 × 0.08	楕円形	皿状	N - 27° - E	-	土師質土器	-	-
SK33	0.80 × 0.75 × 0.11	楕円形	皿状	N - 38° - E	-	土師質土器	-	-
SK34	0.69 × (0.40) × 0.19	-	-	N - 9° - E	-	土師質土器・瓦器・須恵器	-	-
SK35	(1.20) × 1.07 × 0.10	-	皿状	N - 26° - W	-	土師質土器	-	-
SK36	1.89 × 0.86 × 0.12	長方形	皿状	N - 5° - W	-	土師質土器・瓦質土器	-	-
SK37	1.00 × 0.51 × 0.56	楕円形	-	N - 51° - W	-	土師質土器・瓦器・須恵器	-	-
SK37 柱痕状	0.44 × 0.29 × 0.25	楕円形	逆凸状	N - 53° - W	-	土師質土器・瓦器	-	-
SK38	0.90 × 0.60 × 0.10	長方形	皿状	N - 83° - W	-	土師質土器・瓦器・須恵器	-	-
SK39	0.51 × (0.20) × 0.09	-	皿状	N - 61° - W	-	土師質土器	-	-
SK40	欠番	-	-	-	-	-	-	-
SK41	欠番	-	-	-	-	-	-	-
SK42	欠番	-	-	-	-	-	-	-
SK43	欠番	-	-	-	-	-	-	-
SK44	1.10 × 0.95 × 0.18	楕円形	皿状	N - 11° - E	-	-	-	-
SK45	1.02 × 0.65 × 0.63	楕円形	-	N - 24° - W	-	土師質土器・瓦器・杭状木片	-	-
SK46	1.41 × 1.18 × 0.73	楕円形	-	N - 17° - W	-	土師質土器・須恵器	-	-
SK47	1.43 × 1.24 × 0.42	楕円形	箱形	N - 3° - W	-	土師質土器・瓦器・東播系須恵器	-	-

表 6 - 1 上面土坑一覧表

SK4

SK4は調査区西側で検出した土坑で周辺はピットが密集している。平面形は円形で直径約0.9 m、床面は二段底になっており、深さは51cmと76cmを測る。埋土は5層に分層できるが1～3層までの灰色土がベースの上層と黄褐色土が入る下層に大別できる。1層は褐灰色粘土、2層は灰色粘土、3層は褐灰色粘土、4層は褐色粘土で黄褐色ブロックが混じる。5層は黄褐色に褐灰色混じる粘土である。埋土中からは土師質土器、須恵器、近世陶磁器、土錘、砥石が出土している。1は近世陶磁器の小椀である。3は断面方形の砥石である。SK4は近世の土坑と考えられる。

SK11

SK11は調査区北東部で検出した土坑でSD5と隣接しており周辺には遺構が多い。平面形は不整形な円形で長軸約1.22 m、短軸約1.1 m、深さ約13cmを測る。断面形は皿状で浅い土坑である。埋土は褐灰色粘砂土で土師質土器と土錘が出土している。

SK15

SK15は調査区西側に位置する円形の土坑である。土坑の規模は直径0.76 m、深さ約68cmを測る。断面形は逆台形で埋土は2層に分層できるが何れも灰色土がベースとなり褐色土がブロック状に混じるものである。

埋土中からは土師質土器、瓦質土器、近世陶磁器が出土している。図示できた遺物は5の近世陶磁器の皿のみである。SK15は近世の土坑である。

SK16

SK16は調査区東側で検出した土坑である。平面形は不整形な楕円形である。土坑の長軸は約0.85 m、短軸約0.68 m、深さ9cmを測る。検出埋土は灰黄褐色粘質土である。埋土中からは土師質土器、須恵器が出土している。図示できたのは6の土師質土器のみである。

SK24

SK24は調査区中央部に位置する円形の土坑 P568 を切っている。土坑の規模は直径約0.92 m、深さ約24cmを測る。断面形は箱形で検出埋土は灰色土がベースの土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、常滑焼、須恵器、青磁、土錘が出土しているが、いずれも細片のみの出土で図示できる遺物は7の土師質土器小皿のみであった。

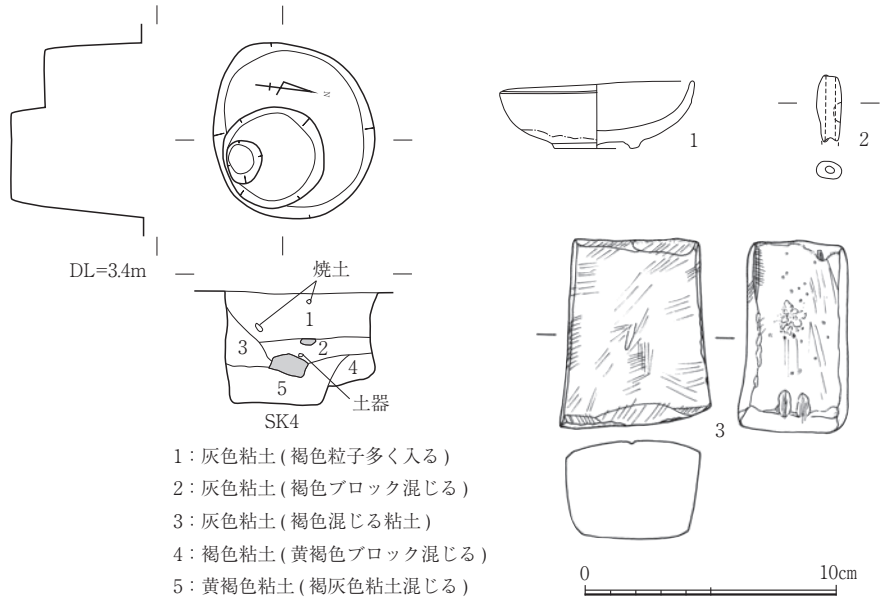
SK36

SK36は調査区東側に位置する土坑でSD8と重複しSD8に切られている。平面形は長方形で規模は長軸約1.89 m、短軸約0.86 m、深さ約12cmを測る。断面形は皿状を呈し、埋土は灰茶色粘性土である。埋土中からは土師質土器、瓦質土器が出土している。図示できた遺物は退化した鏝を持つ瓦質土器羽釜8のみである。

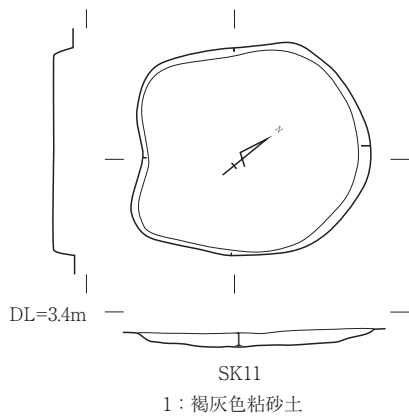
SK37

SK37は調査区中央部に位置し周辺には遺構が密集する。平面形は掘方部分は長方形で楕円形の柱痕状部分がみられる。規模は掘方部分が長軸約1.0 m、短軸約0.51 m、深さ約56cmを測り、柱痕部分は長軸約0.44 m、短軸約0.29 m、深さ約25cmを測る。土坑の断面形は逆凸状である。埋土は掘方が灰色粘質土に褐色土が混じる1層と暗灰色粘質土に黄色ブロック混じる2層が相当する。柱痕埋土は3層の灰褐色粘質土に暗灰褐色ブロックが混じった土である。埋土中からは掘方、柱痕とも土師質土器、瓦器、須恵器が出土している。図示した9は扁平で口縁のみを外反させた瓦器皿

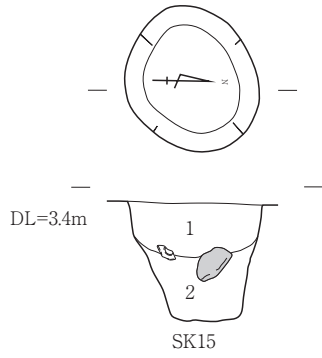
である。



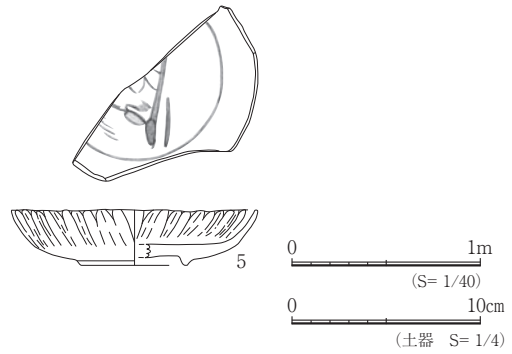
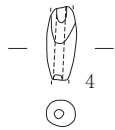
- 1: 灰色粘土 (褐色粒子多く入る)
- 2: 灰色粘土 (褐色ブロック混じる)
- 3: 灰色粘土 (褐色混じる粘土)
- 4: 褐色粘土 (黄褐色ブロック混じる)
- 5: 黄褐色粘土 (褐灰色粘土混じる)



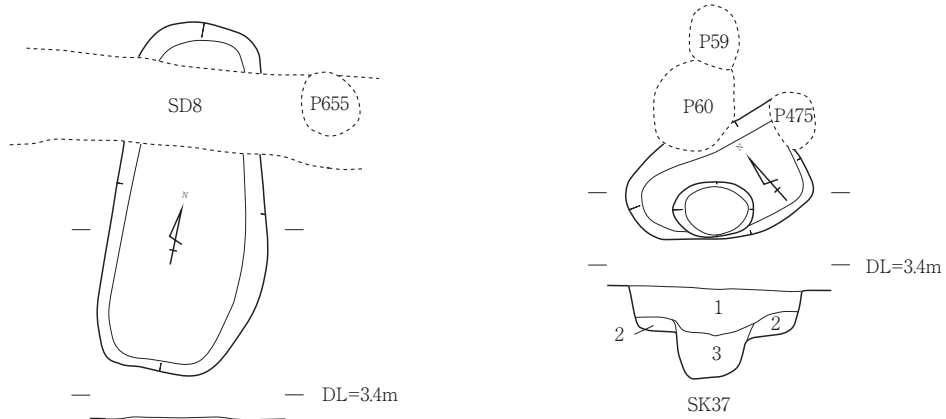
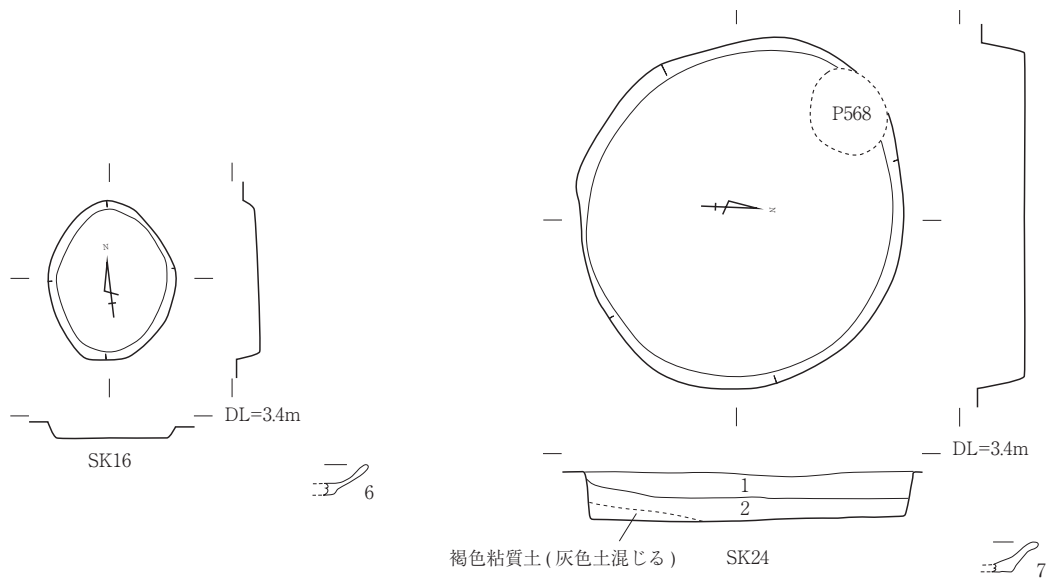
- 1: 褐灰色粘砂土



- 1: 灰色粘土 (褐色ブロック混じる)
- 2: 灰色粘土 (褐色土ブロック少し混じる)

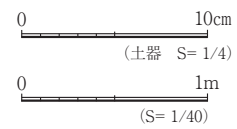


6-4図 SK4・11・15



1: 灰茶色粘性土

1: 灰色粘質土 (褐色土混じる)
2: 暗灰色粘質土 (黄色ブロック混じる)
3: 灰褐色粘質土 (暗灰褐色ブロック混じる)



6-5図 SK16・24・36・37

溝跡 (SD)

溝跡は検出時 13 条検出したが SD3・4 は SD1 と同一、SD6・10 は SD9 と同一とし欠番としたため溝跡は 9 条を確認している。SD2 は SD1 と重複し SD1 上にあり、SD1 掘削時には消滅した。溝跡の方向は SD1・7・11・12 が南北方向、SD9・8 が東西方向、SD5 は L 字状である。SD13 のみ N - 56° - W と南北方向からずれている。

遺構名	長さ×幅×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	接続	出土遺物	時期	備考
SD1	23.90 × 3.50 × 0.47	直線状	-	N - 2° - W	1 - 7 区	土師質土器・瓦器・瓦質土器・備前焼・常滑焼・須恵器・青磁・近世陶磁器・土錘		
SD2	24.90 × 1.90 × 0.24	直線状	レンズ状	N - 2° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・青磁・砥石		播磨型羽釜
SD3	欠番							SD1
SD4	欠番							SD1
SD5 (南北)	3.35 × 0.40 × 0.16	L 字状	皿状	N - 6° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・青磁		
SD5 (東西)	4.00 × 0.40 × 0.14	L 字状	皿状	N - 86° - W				
SD6	欠番							SD9 に統一
SD7	3.43 × 0.75 × 0.07	直線状	皿状	N - 10° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・備前焼・常滑焼・須恵器		
SD8	4.90 × 0.51 × 0.08	直線状	皿状	N - 84° - E		土師質土器		
SD9	26.50 × 2.30 × 0.25	直線状	レンズ状	N - 83° - W		土師質土器・土師器・瓦器・瓦質土器・常滑焼・須恵器・青磁・白磁・瀬戸・土錘		
SD10	欠番							SD9 に統一
SD11	5.20 × 1.00 × 0.13	直線状	皿状	N - 0° - W		土師質土器・瓦器・常滑焼・東播系須恵器		
SD12	4.26 × (0.40) × 0.24	直線状	皿状	N - 8° - E		土師質土器・瓦質土器・白磁		
SD13	2.84 × 0.63 × 0.14	直線状	皿状	N - 56° - W				播磨型羽釜

表 6 - 2 上面溝跡一覧表

SD1

SD1 は調査区東部で検出した溝跡である。溝跡の方向は N - 2° - W で南北方向である。北側は 1 - 7 区に続き、南側は調査区外に延長している。SD1 は SD2 と重複し SD2 に切られている。また検出時東側肩部を SD3・4 としたが同一の溝跡と判断し SD1 に統一した。1 - 5 区での検出長は 23.9 m、上端幅 3.5 m、深さは 47cm を測る。断面形は西側肩がしっかりするが東側ではテラス状になる。特に南側では多段に落ち SD3・4 とした部分の名残がみられる。埋土は 3 層に分層でき 1 層は灰色シルト、2 層は灰褐色粘質土、3 層は黄茶色シルトで何れも灰色がベースとなっていた。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、備前焼、常滑焼、須恵器、青磁、近世陶磁器、土錘が出土している。13 は近世以降の陶磁器であるが攪乱坑からの混入の可能性が考えられる。17・18 は最下層からの出土である。

SD2

SD2 は SD1 の埋土を切る状態で検出した溝跡で、SD1 掘削後は消滅した。方向、延長ともに SD1 と同一であった。検出長は約 24.9 m で調査区をほぼ南北に縦断している。上端幅は南側では約 1.9 m、深さは 24cm、断面形はレンズ状で埋土は 1 層で明るい灰色砂質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、青磁、砥石が出土しており、図示できた 19 は瓦質河内型羽釜、20 は土師質の播磨型羽釜で 15 世紀代半ばから 16 世紀代前半のものと考えられる。

SD5

SD5 は調査区東部で検出した溝跡で周辺は遺構が密集し SK10・16 に切られている。L 字状の溝跡で東西方向 4.0 m の検出長を測り、西端部から南に 3.35 m 延びる。上端幅は 0.4 m、深さは東西部分は浅く 14cm で南北部分は 16cm を測る。断面形は皿状である。遺構埋土は灰黄白色粘質土で締

まりが無くぼそぼそした状態であった。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、青磁が出土している。22は底部切り離し後調整が行われたとみられる小皿である

SD7

SD7は調査区南部で検出した南北方向の溝跡である。検出長は3.43mと短く南端部は調査区によって切られており、北端部はSK46と重複する状態でSK46を切り終熄する。SD7の上端幅は0.75m、深さは7cmと浅く皿状の断面形を呈する。埋土は褐色土に黄灰色土が混じった土である。埋土中からは、土師質土器、瓦器、瓦質土器、備前焼、常滑焼、須恵器が出土しており、23の河内型の瓦質羽釜を図示できた。

SD8

SD8は調査区東側で検出した東西方向の溝跡で東端部は調査区に切れ、西側はSD1の手前で終熄している。また重複したSK36を切っている。規模は検出長4.9m、上端幅0.51m、深さ8cmを測る。断面形は浅い皿状を呈し埋土は灰茶色粘性土である。埋土中からは土師質土器細片が少量出土している。

SD9

SD9は調査区北側で検出した東西方向の溝跡である。検出時南側肩部をSD6、北側肩部をSD10としたが掘削確認の後、同一の溝跡と判断しSD9に統一した。検出長は26.5mで西端部は調査区に切れ、東端部はSD1の西側で終熄している。上端幅は2.3m、深さは25cmを測り断面形はレンズ状である。東側端部の深くなっている部分は南北方向の別の溝跡と考えられる。埋土は10層まで分層したが全て灰白色粘砂土がベースとなっている。埋土中からは土師質土器、土師器、瓦器、瓦質土器、常滑焼、須恵器、青磁、白磁、瀬戸、土錘が出土している。

SD11

SD11は調査区中央で検出した南北方向の溝跡でSD12と重複しSD12を切っている。SD11の検出長は5.2mで調査区内で終熄している。上端幅は1.0m、深さは13cmで断面形は皿状である。埋土は灰色粘質土に褐色粒子が入る土で埋土中からは土師質土器、瓦器、常滑焼、東播系須恵器が出土しており、27の東播系須恵器片口鉢を図示できた。

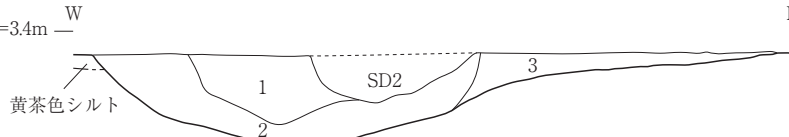
SD12

SD12は調査区中央で検出した溝跡でSD11と重複し東側の肩を切られている。SD12の検出長は4.26m、上端幅は0.4m残る。深さは24cmを測り断面形は皿状を呈する。埋土は灰褐色粘砂土である。埋土中からは土師質土器、瓦質土器、白磁が出土しており、28の河内型の瓦質羽釜を図示した。図示できなかったが播磨型の土師質土器羽釜も出土している。

SD13

SD13は調査区中央西側に位置する溝状の遺構である。遺構の方向は他の遺構がほぼ南北又は東西方向なのに対しN-56°-Wで北西方向を向く。規模は検出長2.84m、上端幅0.63m、深さ約14cmを測る。埋土は灰褐色シルトである。5個のピットと重複していることや規模、方向などからピット埋没時の落ち込みの可能性が高いと考えられる。

X=52307.400
Y=-3489.515
DL=3.4m

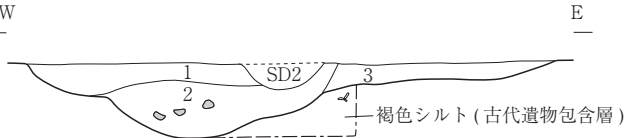


SD1 北バンク

X=52307.209
Y=-3485.825
E

- 1: 灰色シルト質粘土
- 2: 灰黄茶色シルト
- 3: 灰褐色シルト

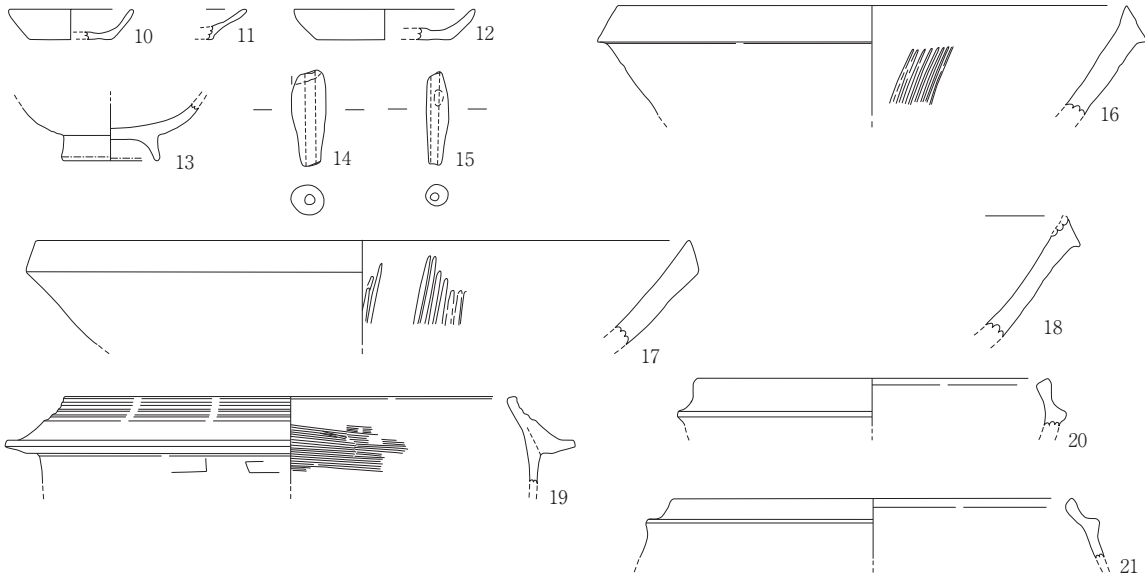
X=52301.590
Y=-3489.097
DL=3.4m



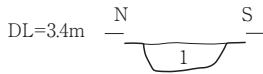
SD1 南バンク

X=52301.600
Y=-3489.160
E

- 1: 灰色シルト
(茶色シルトがブロック状に混じる)
- 2: 灰褐色粘質土
- 3: 黄茶色シルト



X=52315.665
Y=-3481.283



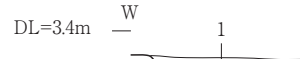
SD5

- 1: 灰黄白色粘質土 (黄褐色土少し入る)



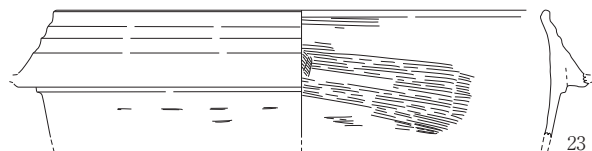
X=52315.047
Y=-3481.292

X=52295.842
Y=-3492.244

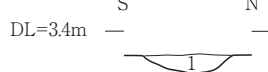


SD7

- 1: 褐色土 (黄灰色土混じる)



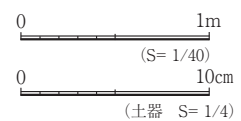
X=52306.186
Y=-3482.858



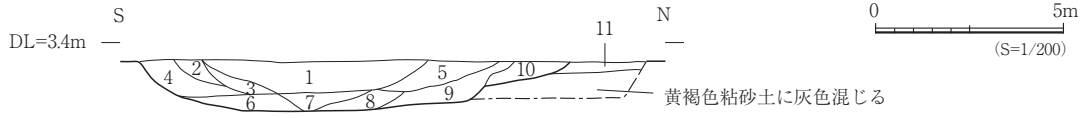
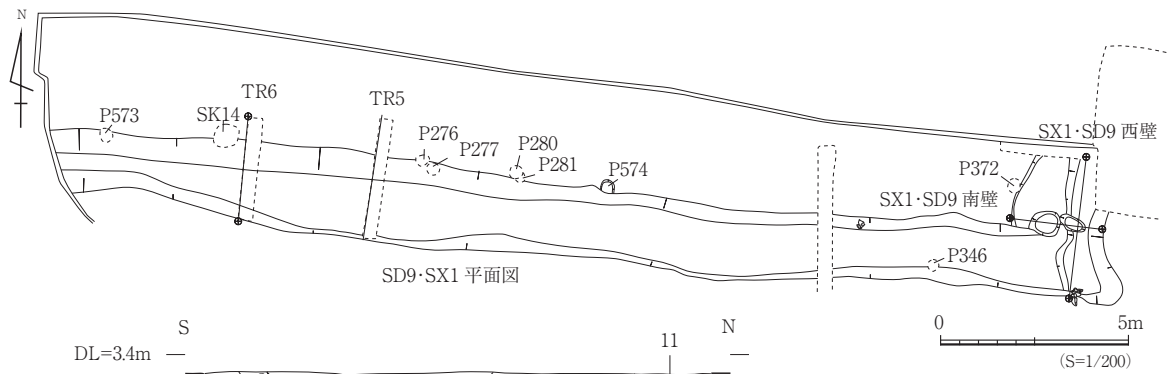
SD8

- 1: 灰茶色粘性土

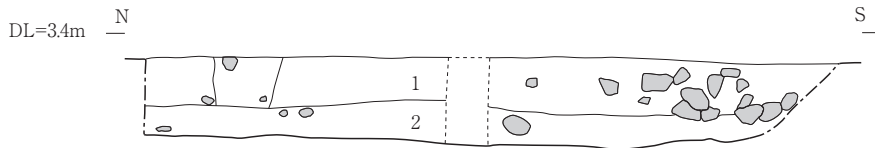
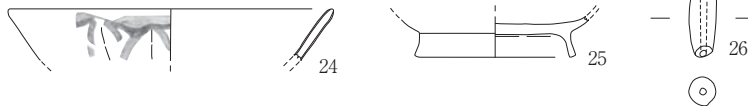
X=52306.694
Y=-3482.918



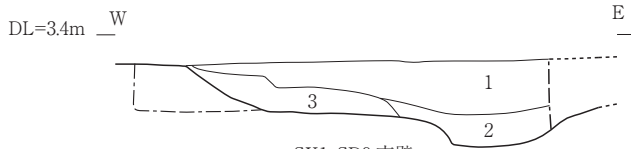
6-6 図 上面 SD1・2・5・7・8



- SD9埋土
- 1: 灰白色粘砂土 (褐色粒子5~7mm大混じる)
 - 2: 灰白色粘砂土
 - 3: 灰白色粘砂土 (褐色粒子入る)
 - 4: 灰色粘砂土 (黄色粒子多く入る)
 - 5: 灰色粘砂土 (褐色粒子多く入る)
 - 6: 灰色粘砂土 (褐色粒子少し混じる)
 - 7: 灰白色粘砂土 (黄色粒子入る)
 - 8: 灰色粘砂土 (褐色粒子多量に入る)
 - 9: 灰色粘砂土 (褐色粒子入る)
 - 10: 黄褐色粘砂土 (灰褐色ブロック混じる)
 - 11: 黄褐色粒子と灰色粒子細かく混じる
- SD9埋土



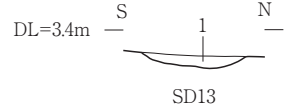
SX1·SD9 西壁



SX1·SD9 南壁

- 1: 灰色粘砂土 (褐色粒子多量に入る SD9埋土 東西方向)
- 2: 暗灰色粘質土 (褐色粒子入る 下層SD9埋土 南北方向)
- 3: 褐灰色粘砂土 (褐色粒子多く入る 下層SD9埋土 南北方向)

X=52305.254 X=52305.858
Y=-3505.349 Y=-3505.037

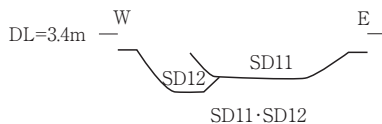


SD13

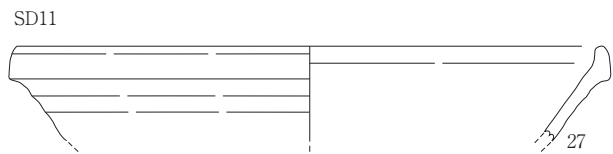
- 1: 灰褐色シルト

X=52310.230
Y=-3491.691

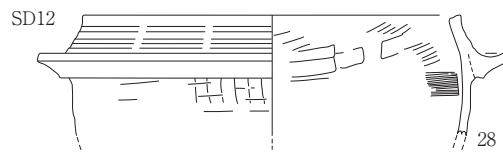
X=52310.219
Y=-3490.364



SD11·SD12



27



28

6-7図 上面SD9・11~13・SX1

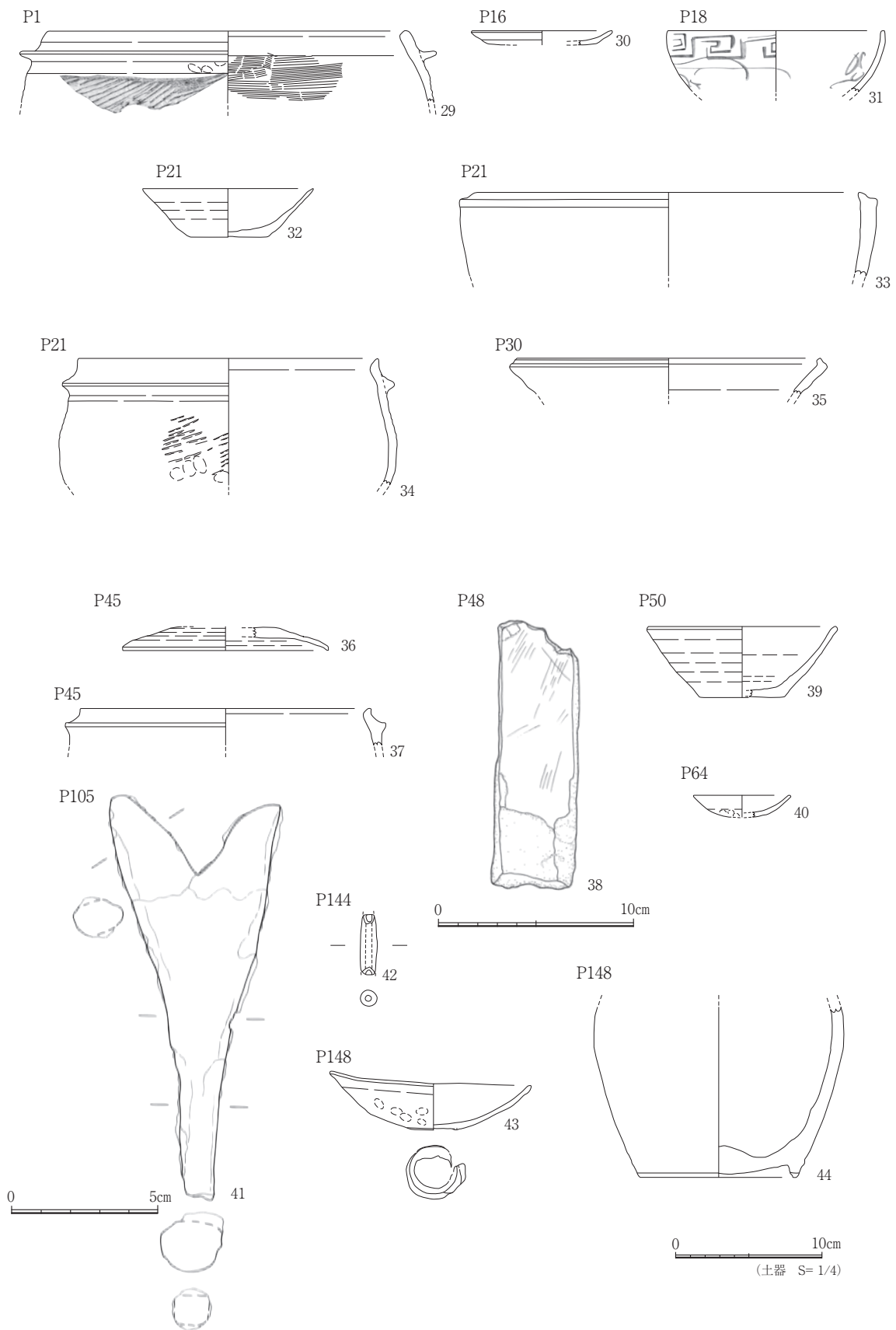
ピット (P)

ピットは検出時 P676 まで遺構番号を付けたが精査の結果、遺構と判断できなかったもの、重複したものが 56 個あったことからピットとして確認できたものは 620 個である。遺構分布は SD9 と SD1 に囲まれた内側から多くのピットを検出しており重複、切り合いが多くみられる。ピットは多く検出したが建物跡は復元できず柱穴と確認できたものはない。

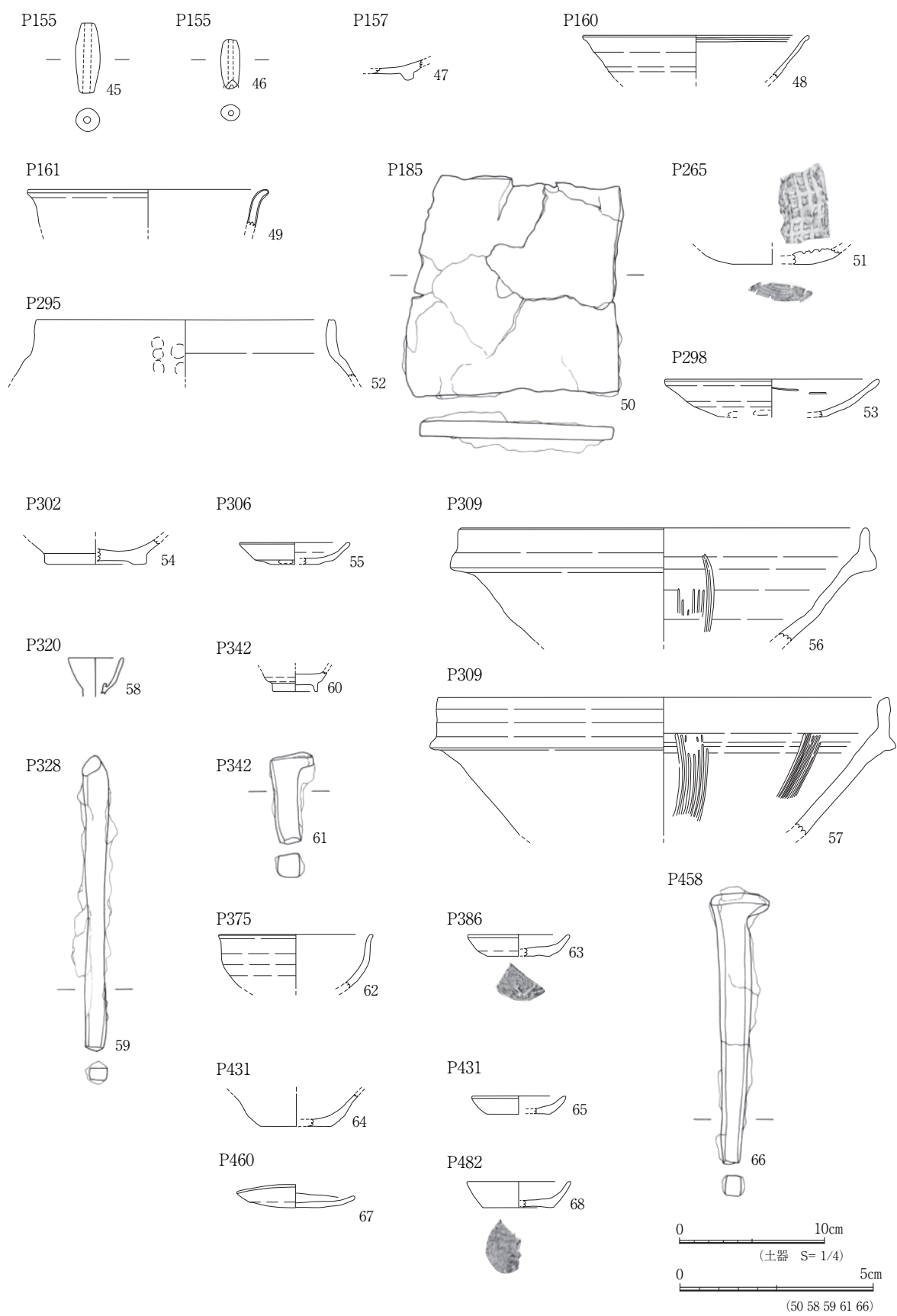
ピットの検出埋土は褐灰色土、灰褐色土、灰色土、黄橙色土、ブロック状に混在する土の 5 種類を確認している。近世から中世のものが混在すると考えられる。注目されるピットとして大型の雁股鍬が出土した P105 が挙げられる。

遺構名	平面形	長径×短径 直径 (cm)	深さ (cm)	埋土	図版No	出土遺物	備考
P1	楕円形	42 × 30	32	灰褐色粘質土	29	土師質土器	
P16	楕円形	38 × 34	44	灰褐色粘質土	30	土師質土器・瓦器	
P18	円形	20	26	灰褐色粘質土	31	土師質土器・瓦器・青磁	
P21	円形	52	40	灰褐色粘質土	32～34	土師質土器・瓦器	
P30	不整形	78	56	灰褐色粘質土	35	土師器・土師質土器・瓦器・須恵器・青磁・白磁	
P45	楕円形	76 × 58	45 70	灰褐色粘質土	36・37	土師質土器・須恵器・青磁・白磁	
P48	楕円形	(79) × 59	60	灰色土	38	土師質土器・瓦器・瓦質土器・砥石	
P50	円形	59	44	灰褐色粘質土	39	土師質土器・瓦器・須恵器	
P64	円形	60	49	灰褐色粘質土	40	土師質土器・瓦器・白磁	
P105	円形	50	56	褐灰色土	41	土師質土器・瓦器・青磁・鉄鍬・鉄釘	
P144	円形	28	30	褐灰色土	42	土師質土器・土鍬	
P148	不整楕円形	41 × 38	49	褐灰色土	43・44	土師質土器・瓦器・須恵器	
P155	楕円形	22 × 17	22	褐灰色土	45・46	土師質土器・瓦器・土鍬	
P157	楕円形	39 × 36	60	褐灰色土	47	土師器・土師質土器・瓦器・青磁	播磨型羽釜片
P160	楕円形	63 × (40)	50	褐灰色土	48	土師質土器・瓦器	
P161	楕円形	45	21 48	褐灰色土	49	土師質土器・瓦器・須恵器・青磁	
P185	楕円形	27 × (25)	34	灰褐色粘質土	50	板状鉄器	
P265	円形	50	56	灰褐色粘質土	51	瀬戸卸皿	
P295	円形	40	60	褐灰色土	52	土師質土器・瓦質土器・須恵器	
P298	楕円形	(61) × 47	34	褐灰色土	53	土師質土器・瓦器	
P302	長方形	(63) × 54	57	褐灰色土	54	土師質土器・白磁	
P306	円形	45	14 52	褐灰色土	55	土師質土器・瓦器・青磁	
P309	円形	30	44	灰褐色粘質土	56・57	土師質土器・備前焼	
P320	円形	43	47	灰褐色粘質土	58	土師質土器・瓦質土器・青銅煙管火受け皿・粘土塊	
P328	円形	40	38	褐灰色土	59	鉄釘	
P342	楕円形	71 × 67	51	褐灰色土	60・61	土師質土器・瓦器・白磁・近世陶磁器・鉄釘	
P342 柱痕	楕円形	56 × 41	61	褐灰色土			
P375	楕円形	62 × 55	36	灰褐色粘質土	62	土師質土器・天目茶碗	近世の可能性
P386	円形	42	11 44	褐灰色土	63	土師質土器・瓦器・須恵器	
P431	円形	46	50	褐灰色土	64・65	土師質土器	
P458	円形	38	15	褐灰色土	66	土師質土器・瓦質土器・鉄釘	
P460	(円形)	53	43	灰褐色粘質土	67	土師質土器・瓦器	
P482	楕円形	89 × 58	16	灰褐色粘質土	68	土師質土器・炭化物	
P482 柱痕	円形	24	32	灰褐色粘質土			
P486	楕円形	60 × 52	36	灰褐色粘質土	69	土師質土器・瓦質土器・須恵器・白磁・石鍬	
P525	楕円形	(47) × 42	36	灰褐色粘質土	70	土師質土器・須恵器・青磁・白磁・鉄片	
P531				灰褐色粘質土	71	土師質土器・瓦質土器・白磁	
P532	不整形	44	24	灰褐色粘質土	72	土師質土器・瓦質土器	
P541	不整形	(51) × 38	32	灰褐色粘質土	73	土師質土器・瓦器・黒色土器	
P549	円形	45	35 50	灰褐色粘質土	74	土師質土器・瓦器・白磁	
P574	円形	20	32	灰褐色粘質土	75	土師質土器・瓦器・瓦質土器・鉄滓・炭化物	
P595	円形	28	39	褐灰色土	76	土師器・土師質土器	
P616	円形	40	40	灰褐色粘質土	77・78	土師質土器・青磁	
P626	不整円形	34	16	灰褐色粘質土	79	土師質土器	
P631	不整円形	40	28 45	褐灰色土	80	土師質土器・瓦器	
P645	楕円形	46 × 35	27	褐灰色土	81	土師質土器・瓦器・土鍬	
P663	楕円形	41 × (32)	29	灰褐色粘質土	82・83	土師質土器	
P673	円形	37 × 33	51	灰褐色粘質土	84	土師質土器・須恵器	

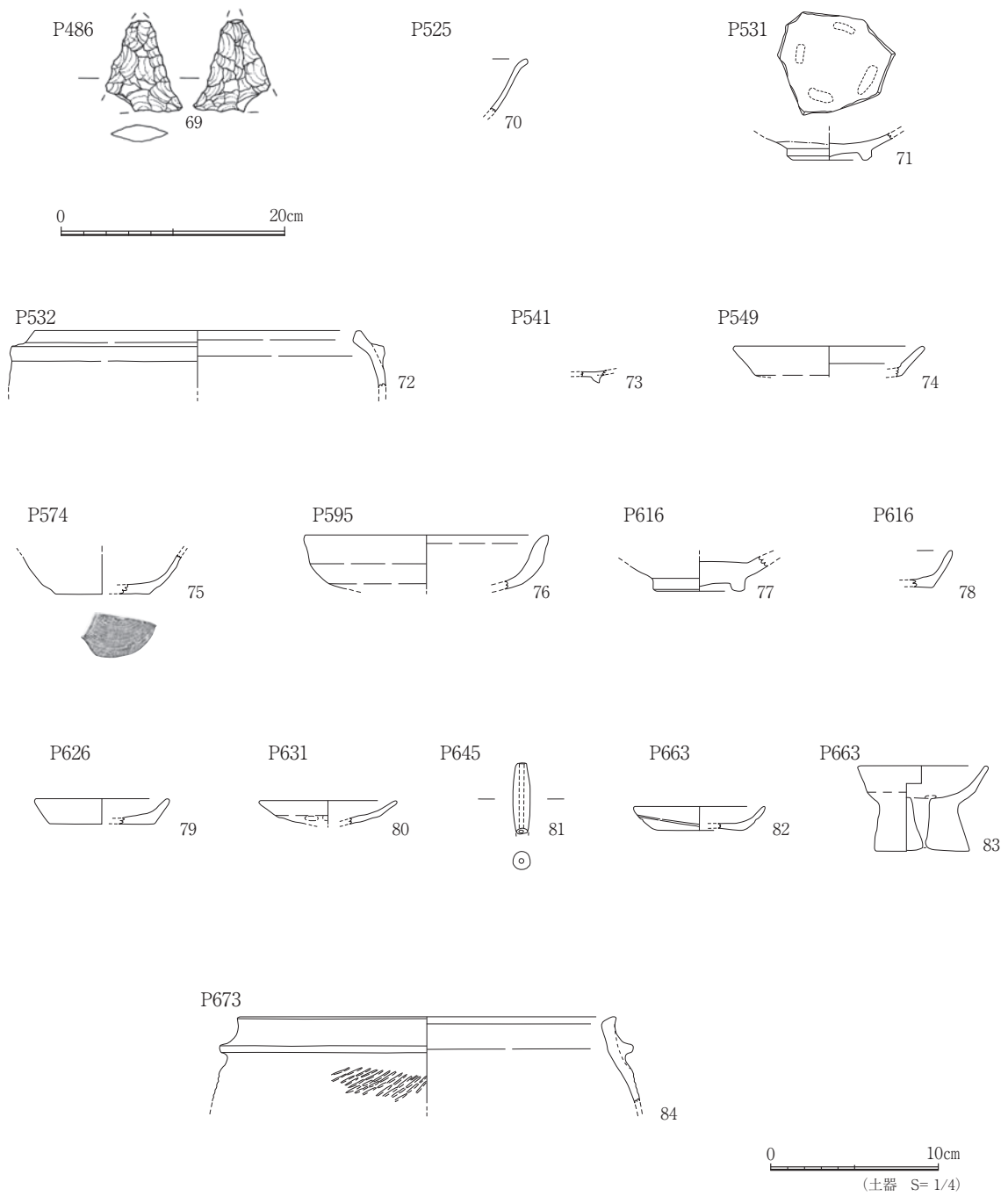
表 6 - 3 上面図版掲載遺物出土ピット一覧表



6-8図 P1~148出土遺物



6 - 9 图 P155 ~ 482 出土遺物



6-10図 P486～673 出土遺物

(2) 中面の遺構と遺物

中面の遺構は土坑 23 基、ピット 507 個、溝跡 6 条を検出した。中面の検出標高は 2.95 ～ 3.2 m である。遺構は SD16・17・18 に囲まれた内側と北東隅の 2 群に大別できる。SD15・16 については自然流路の可能性が高いと考えられる。遺構は中世が中心と考えられる。遺構番号は上面からの連番である。

土坑 (SK)

上面で検出した土坑は 23 基である。遺構検出時 SK48 ～ 73 まで遺構番号を付けたが、遺構と確認できなかったもの 3 基を欠番とした。他の遺構と同様に溝跡の内側に分布の集中がみられる。遺物が図示できた遺構は少なく 4 基のみである。このうち SK50 は井戸跡であったため SE1 とした。SK60・64 は近世陶磁器が出土しており近世の遺構の可能性が高い。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK48	0.63 × 0.54 × 0.35	楕円形	逆台形	N - 59° - W		土師質土器・瓦器		
SK49	0.55 × 0.54 × 0.47	円形	-	N - 59° - W		土師質土器・瓦器・軽石		
SE1 (SK50)	1.58 × 1.54 × (1.13)	楕円形	-	N - 39° - W		白磁・砥石		
SK51	1.57 × 1.46 × 0.14	楕円形	皿状	N - 85° - E		土師質土器・瓦器・常滑焼・須恵器・青磁・白磁・		
床						輪羽口		
SK52	0.70 × (0.30) × 0.38	不整形	-	N - 86° - W		土師質土器・鉄滓		
SK53	1.40 × (0.71) × 0.08	-	皿状	N - 84° - W		土師質土器・瓦器		
SK54	(0.50) × (0.30) × 0.08	-	皿状	-		土師質土器・瓦器・炭化物		
SK55	(0.85) × (0.60) × 0.16	-	-	N - 73° - W		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK56	0.53 × 0.49 × 0.34	楕円形	-	N - 38° - W		土師質土器		
SK56 柱痕						土師質土器		
SK57	(0.66) × 0.65 × 0.04	-	皿状	N - 17° - W		土師質土器・土錘		
SK58	欠番							
SK59	2.54 × 1.66 × 0.04	長方形	浅い箱形	N - 8° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器		
SK59 - P1						土師質土器		
SK59 - P3						土師質土器		
SK59 - P4						土師質土器		
SK60	1.20 × 1.07 × 0.21	楕円形	逆台形	N - 66° - E		土師質土器・瓦器・近世陶磁器		
SK61	1.20 × 0.99 × 0.39	楕円形	逆台形	N - 84° - W		土師質土器		
SK62	0.58 × 0.54 × 0.18	楕円形	皿状	N - 73° - W		土師質土器		
SK63	0.85 × 0.65 × 0.25	楕円形	-	N - 35° - E				
SK64	2.10 × (1.50) × 0.58	円形	箱形	N - 39° - W		上層 土師質土器・瓦器・備前焼 中層 土師質土器・瓦器・青磁・粘土塊		
SK65	(2.20) × 2.18 × 0.16	楕円形	逆台形	N - 8° - W				
SK66	1.29 × (1.00) × 0.10	-	皿状	N - 81° - W		土師質土器		
SK67	0.43 × 0.27 × 0.12	-	-	N - 20° - W				
SK68	1.06 × 0.51 × 0.55	不整形	-	N - 46° - E		土師質土器		
SK69	欠番							
SK70	0.65 × 0.58 × 0.21	長方形	-	N - 38° - E		土師質土器・瓦器		
SK71	0.59 × 0.52 × 0.33	楕円形	-	N - 55° - W		土師質土器		
SK72	欠番							
SK73	(0.70) × 0.53 × 0.44	楕円形	-	-		土師質土器・瓦器		

表 6 - 4 中面土坑一覧表



6-11図 中面遺構全体図

SK59

SK59は調査区南西部に位置する長方形の土坑で、断面形は浅い箱形である。周辺は遺構が密集しておりSK59もピットと重複している。土坑の規模は長軸2.54m、短軸1.66m、深さ4～7cmを測る。埋土は灰褐色土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器が出土するが図示できる遺物はなかった。SK59には石列状に並んだ砂岩角礫と埋土下から検出したP1～4が伴うと考えられるが、建物跡を復元する柱穴は確認できなかった。中世の遺構と考えられるが性格は不明である。

SK61

SK61は調査区北西隅で検出した楕円形の土坑で、東端部からピットを検出した。土坑の規模は長軸約1.2m、短軸約1.0m、深さ約39cmを測る。東端部のピットは直径0.3m、深さ38cmを測る。土坑の断面形は逆台形状で検出埋土は黄灰色土である。埋土中からは土師質土器が出土しており85を図示した。底部には回転糸切り痕とヘラ起こし痕が残る。

SK64

攪乱土坑に隣接しSD18の延長部分と重複する円形の土坑である。直径約2.1m、深さ約58cmを測る。断面形は箱形で埋土は灰色に褐色土ブロックが斑状に混じるものである。埋土からは近世陶磁器と考えられる86が出土しており近世の水溜状遺構の可能性が考えられる。SD18延長上にSK65があり残存状態が不良であるが直径がほぼ同一と考えられ円形が復元できる。SK65からは遺物を確認していないがSK64と同様のものと考えられる。

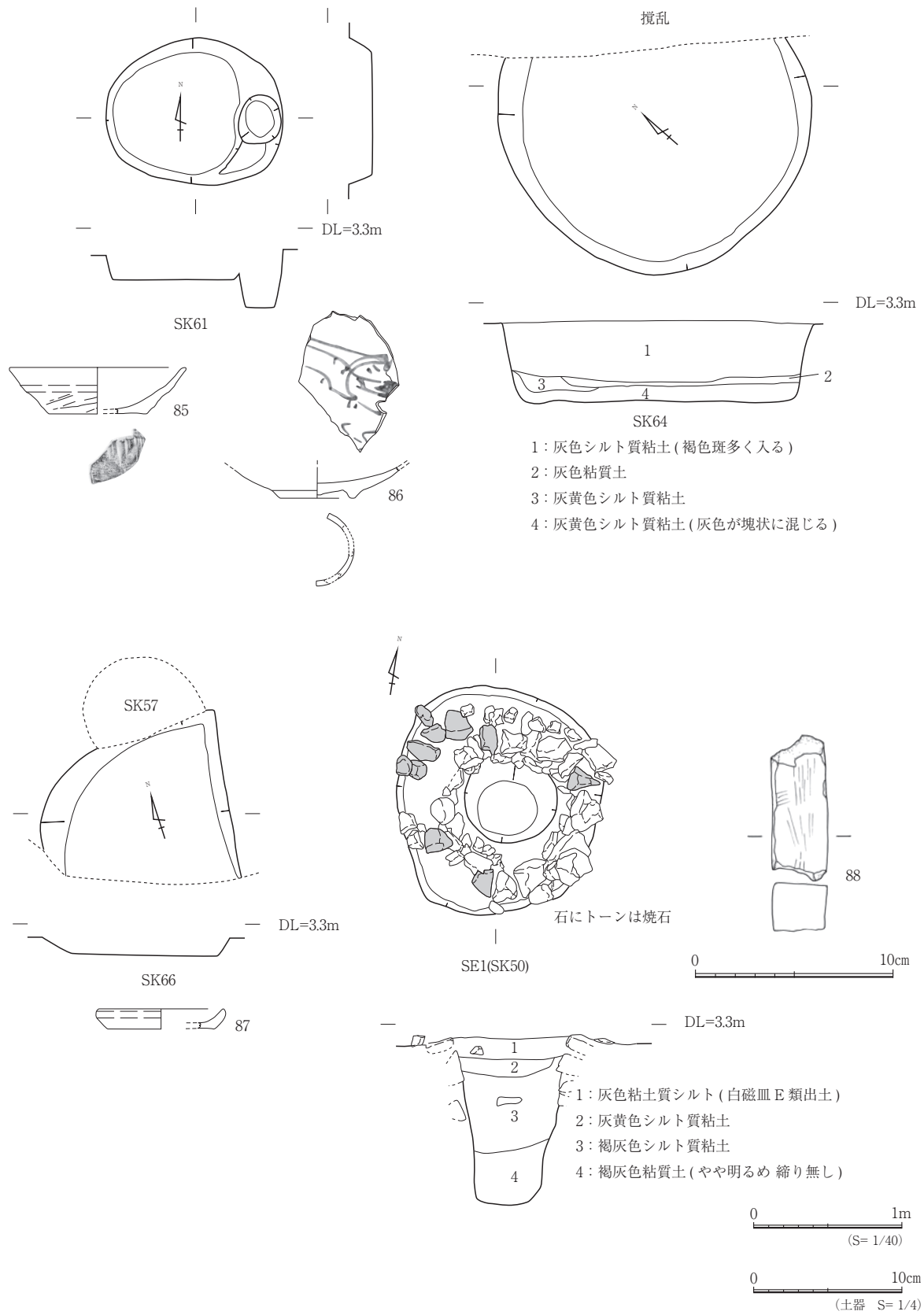
SK66

調査区北西隅で検出しSK57と重複する。不整形な土坑で南半は検出できなかった。残存規模は約1.3m×約1.0m、深さ10cmである。断面形は南に向かって浅くなる。埋土中からは土師質土器が出土しており底部糸切り痕が残る87の小皿を図示した。

SE1

SE1は当初SK50とした遺構である。SD17と重複しSD17を切っている。掘方の直径は約1.6mで掘方には砂岩の割石が入り井戸枠を形成している。井戸枠は内径約0.6mを測る。検出面下約1.1m、標高2.1mまで掘削したところで湧水したため掘削を中止した。最終的に深掘り掘削を行ったが井筒は確認できなかった。井戸枠を形成する石は砂岩の割れ石で最も大きなもので長軸70cm、短軸30cmで多くが30cm程の砂岩角礫である。被熱によると考えられる赤変した割れ石も散在的に入っていた。井戸枠の構造は4～5石を積むもので最下面までは積まれてなく下部は素掘りである。

埋土中からは遺物は少量しか出土していないが、1層から白磁皿E類の端反り白磁皿が出土している。また図示した角柱状の砂岩砥石が出土していることも注目される。SE1は構造、出土遺物から3-2区や1-3A区で検出した井戸跡に先行する時期のものと考えられ、15世紀後半の可能性が考えられる。



6-12図 中面 SK61・64・66・SE1

溝跡 (SD)

溝跡はSD14～19までの6条を検出している。SD17・18は比較的しっかりした溝跡で、SD15・16は断面形、平面形ともに不規則であり流路の可能性が考えられる。SD14は溝状の土坑の可能性が考えられ、SD19は不規則な溝跡である。溝跡の方向はSD14・18は南北方向、SD15～17は東西方向である。

遺構名	長さ×幅×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	接続	出土遺物	時期	備考
SD14	1.88 × 0.59 × 0.06	直線状	皿状	N - 3° - E		土師質土器・瓦器		
SD15	15.20 × 3.81 × 0.35	直線状	皿状	N - 81° - W		土師器・土師質土器・瓦器・須恵器・東播系須恵器・備前焼・緑釉陶器・青磁・白磁・天目・発泡滓		蛇行している 土器多量に出土 播磨型土師質土器羽釜出土
SD16	12.90 × 2.45 × 0.12	弧状	皿状	N - 79° - W		土師器・土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・東播系須恵器・備前焼・緑釉陶器・青磁・白磁・天目・土錘		土器多量に出土 15世紀代遺物
SD17	16.90 × 1.21 × 0.27	直線状	箱形	N - 87° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・炆器・白磁		播磨型土師質土器羽釜出土
SD18	22.01 × 2.40 × 0.25	直線状	逆台形	N - 11° - W	1 - 7区	土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・東播系須恵器・炆器・砥石		一部検出できず
SD19	3.54 × 0.61 × 0.05	直線状	皿状	N - 29° - W		土師質土器・瓦器・須恵器・土錘・軽石		須恵器集中出土部分有り 土器集中古代

表6-5 中面溝跡一覧表

SD14

SD14は調査区東部に位置する溝状の土坑で残存長約1.9m、上端幅約0.6m、深さ6cmを測る。断面皿状の浅い遺構で検出埋土は褐灰色土である。埋土中からは土師質土器、瓦器が出土しているが自然の落ち込みの可能性が高いと考えられる。

SD15

SD15は調査区南側で検出した東西方向を基本とする蛇行した不規則な溝跡である。残存長は15.2mで西端部は調査区に切られている。東端はSD18と重複しSD18の東側では検出できなかった。SD15は蛇行し上端幅も場所によって異なっており約3.9～1.75mを測る。東端部の床面標高は3.0m、西端部は3.2mで一部溜まり状部分は標高2.9mであった。断面形は立ち上がりの甘い皿状で、溜まり部分ではわずかにテラス状部分が見られ二段落ち状になる。

検出埋土は灰褐色土で、埋土遺物は土師器、土師質土器、瓦器、須恵器、東播系須恵器、備前焼、緑釉陶器、青磁、白磁、天目、発泡滓など多くの種類が出土しており遺物出土量も多い。図示できた遺物は89～93である。89は白磁皿で下半露胎、高台断面五角形状を呈する。91は備前焼Ⅲ期とみられる播鉢である。92は播磨型土師質土器羽釜である。15世紀後半と考えられる。

SD16

SD16は調査区南端部に位置する東西方向を基本とするやや弧状の溝跡で東西両端部は調査区に切られている。検出長は約13.0m、上端幅約2.5mを測る。深さは約12cmで浅く、断面形は立ち上がりが非常に弱い皿状である。検出埋土は灰褐色土で埋土中からは土師器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、東播系須恵器、備前焼、緑釉陶器、青磁、白磁、天目、土錘が出土しており、図示できた遺物は94～104である。94～96は上層出土である。図示できた遺物では煮炊具が目につき何れも搬入品もしくは模倣品と考えられる。

SD16の時期は100の播磨型土師質土器羽釜の時期であり15世紀半ばから後半と考えられる。SD15と同時期であり出土遺物も同様の傾向が認められるため同一性格のものと考えられる。自然流路と考えられるSD15が流路を変えたのか、オーバーフローしたものと考えられる。

SD17

SD17は調査区北側に位置する東西方向の溝跡である。溝跡の東端部は攪乱坑に切られ、西端部は調査区内で終熄している。井戸跡であるSE1に切られ、東端部ではSD18の延長部分と重複している。規模は残存長16.9m、上端幅1.21m、深さ約27cmを測る。断面形は浅いが比較的立ち上がりがありがしっかりしており低い箱形を呈する。埋土は褐灰色粘土質シルト、黄褐灰色粘土質シルトが検出され、下層には灰色に褐色粒子含むシルト質粘土があった。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、炆器、白磁が出土しており、図示できたのは15世紀代後半と考えられるアーチ状高台の白磁皿105のみであった。

SD18

SD18は調査区南側に位置する南北方向の溝跡である。途中一部未検出になるが調査区を縦断し北側は1-7区に延長する。上面検出SD2の東端部の落ち込み状部分はSD18と考えられる。規模は検出長約22.01m、上端幅約2.4m、深さ約25cmを測る。断面形は緩やかな逆台形状を呈する。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、東播系須恵器、炆器、砥石が出土しており、106～109を図示した。106はSD16と重複する部分から出土しており、SD16に属する可能性も考えられる。108は土師質土器羽釜であるが外面は叩きでなく荒いハケメで仕上げであり器形は播磨型土師質土器羽釜に類似するが在地産の可能性が高い。

SD19

SD19は調査区北西隅で検出した不整形な溝状の遺構である。検出規模は検出長3.54m、上端幅0.61m、深さ5cmである。断面形は皿状であり非常に浅い。埋土には橙色のブロックが多く混じり110～118までの遺物が集中して出土している。116は大型の須恵器甕であるが口縁、底部は出土していない。不整形な遺構であり溝ではなく遺物集中出土地点と考えられる。

X=52300.151

Y=-3504.706

DL=3.3m

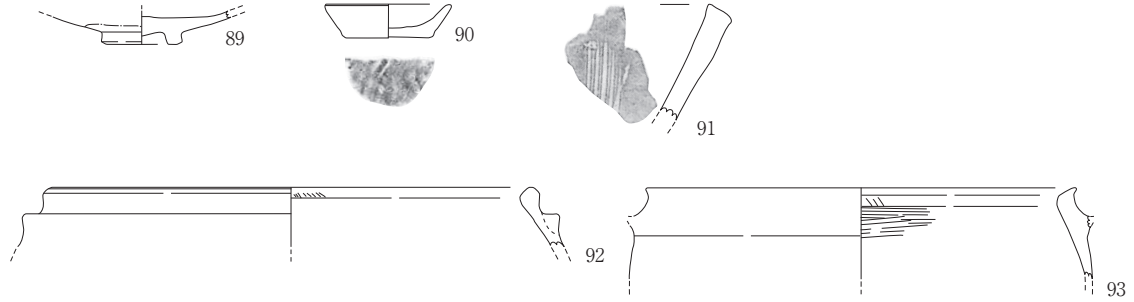
S

X=52302.621

Y=-3503.320

N

SD15



X=52296.652

Y=-3502.962

DL=3.3m

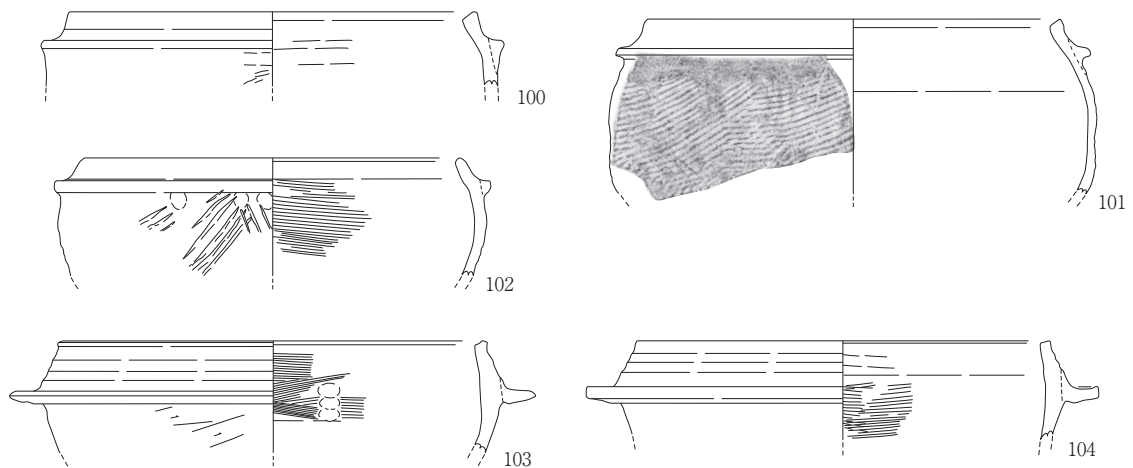
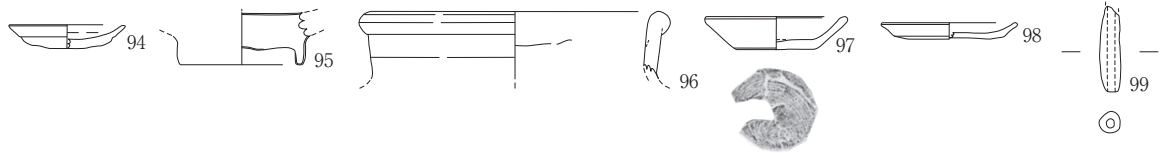
S

X=52298.862

N Y=-3501.705

SD16

0 1m
(S=1/40)

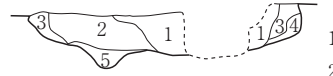


0 10cm
(土器 S=1/4)

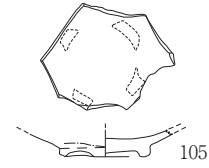
6 - 13 図 中面 SD15・16

X=52317.127
Y=-3496.917
DL=3.2m

X=52318.777
Y=-3496.726

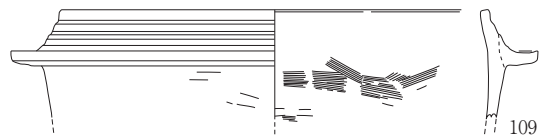
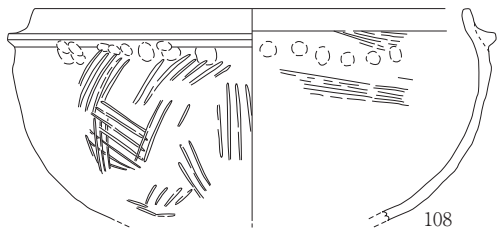
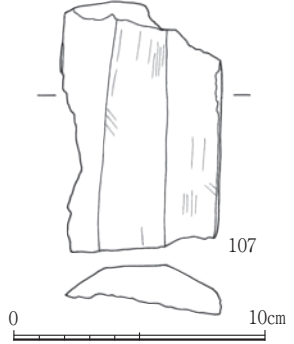
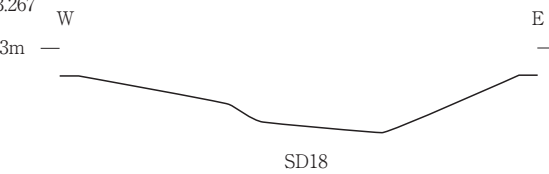


- 1: 褐灰色粘土質シルト
- 2: 黄褐灰色粘土質シルト
- 3: 褐灰色シルト質粘土 (灰黄色含む)
- 4: 灰色シルト質粘土 (褐色粒含む)
- 5: 黄褐色粘土質シルト



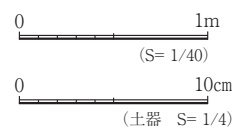
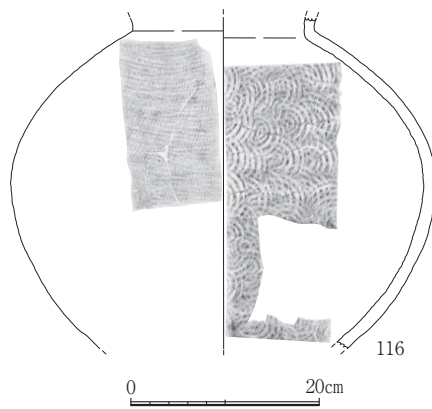
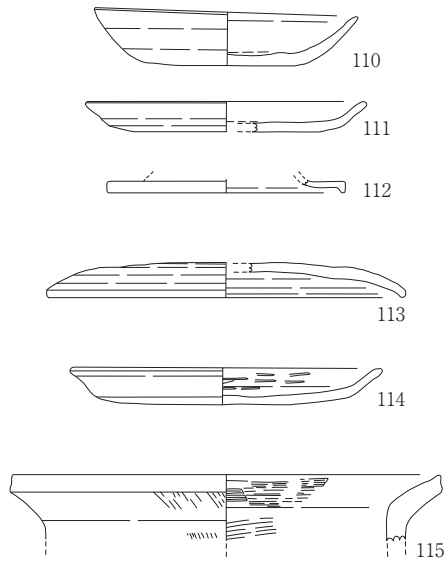
X=52309.283
Y=-3493.267
DL=3.3m

X=52309.262
Y=-3490.764



X=52324.428
Y=-3517.945
DL=3.2m

X=52324.666
Y=-3517.110



6-14 図 中面SD17・18・19

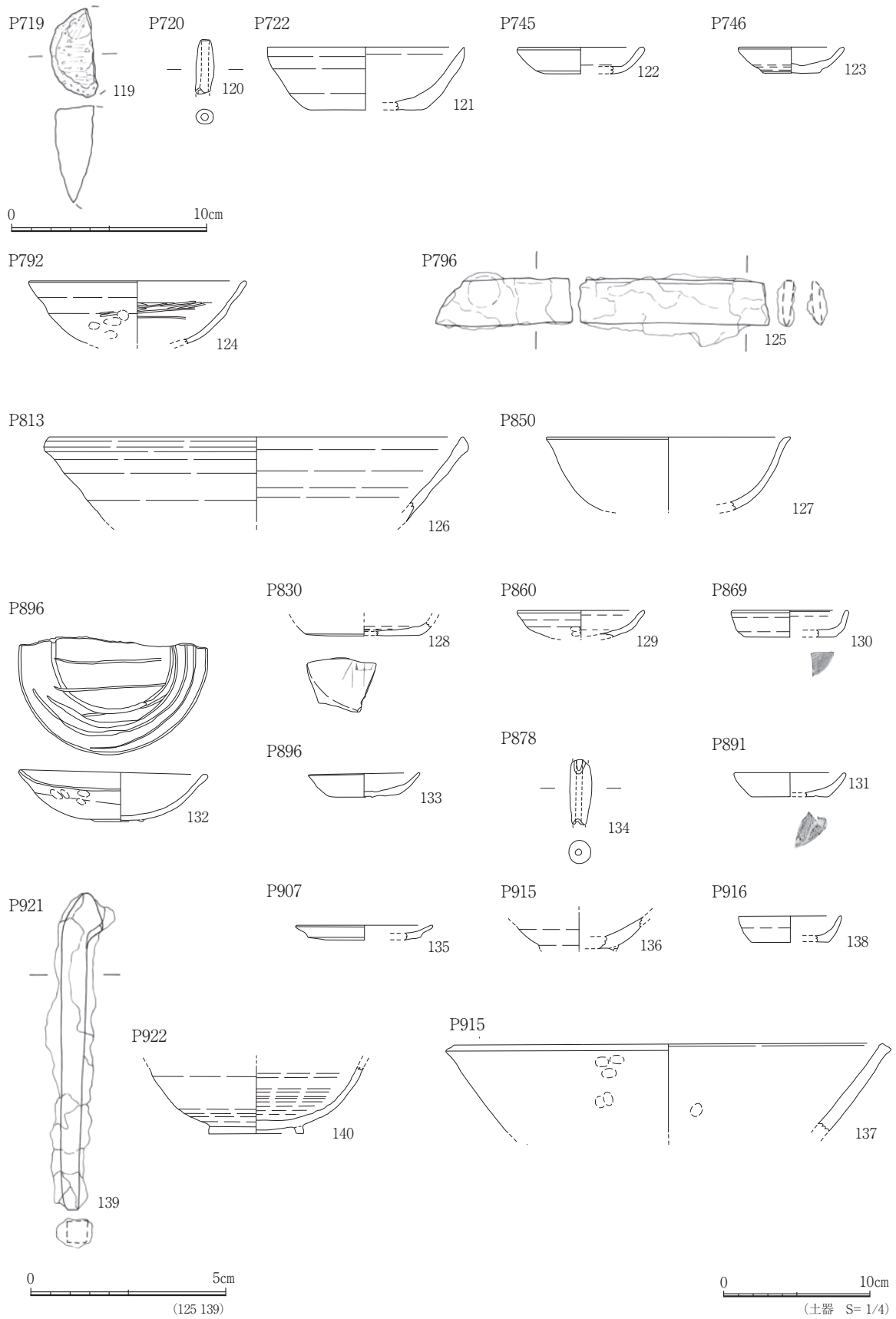
ピット (P)

中面のピットは検出時 P677 ~ 1239 で遺構番号を付け検出したが精査の結果、遺構と判断できなかったもの、重複したものが 56 個あったことからピットとして確認できたものは 507 個である。遺構分布はおおむね 2 群に分ける事ができる。最も集中が見られるのは SD15・17・18 に囲まれた内側からである。多くのピットを検出しており重複、切り合いが多くみられる。しかし建物跡は復元できず柱穴と確認できたものはない。また調査区と北東隅部分からも比較的多くのピットを検出した。遺構密度は小さく切り合い重複はあまり見られない。上面でも北東部では同じ状況であった。

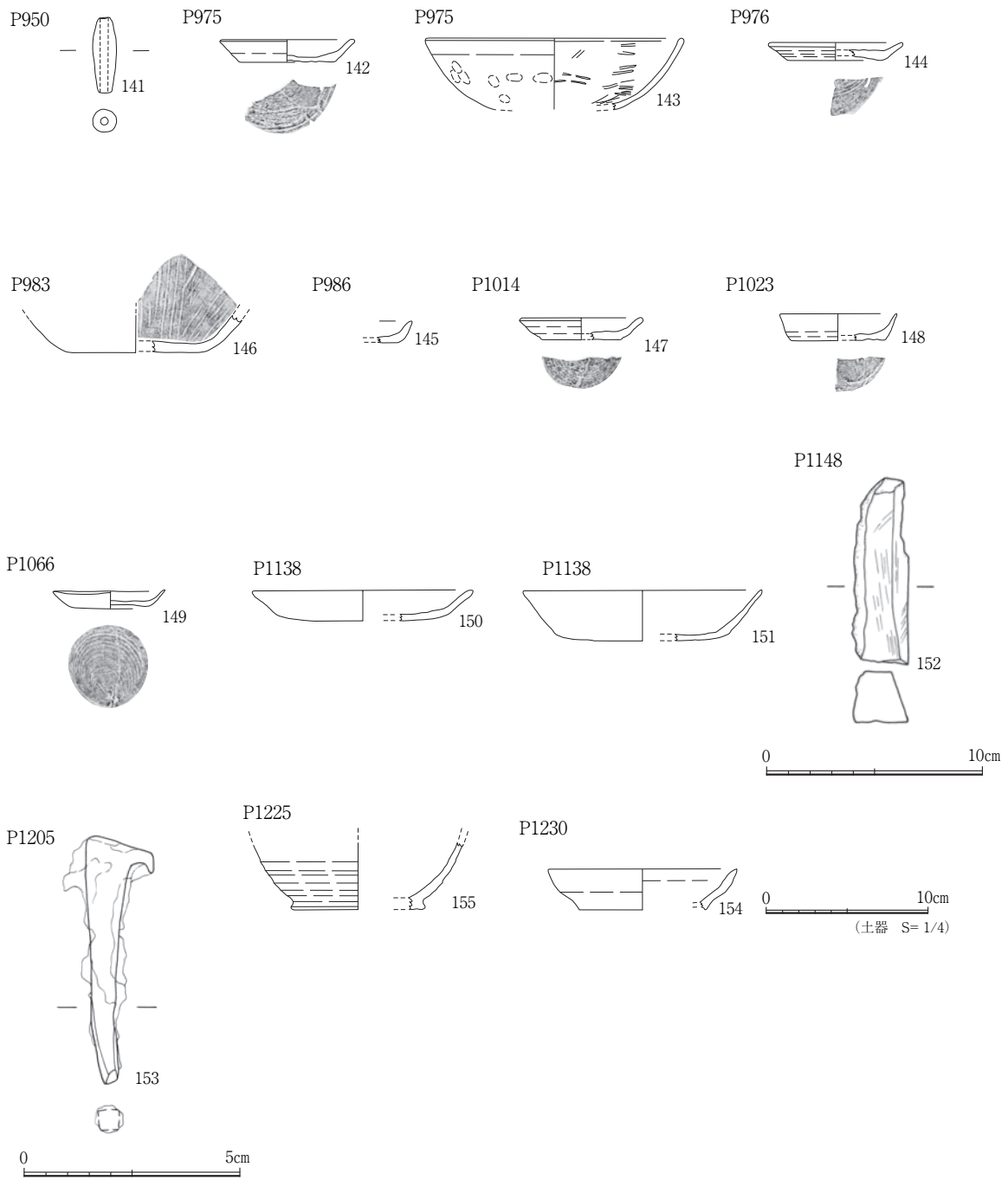
ピットの検出埋土は褐灰色土、灰褐色土、灰色土、灰色土(やや褐色混じる)、黄灰色土、黄灰褐色土、黄橙色土、暗褐灰色土の 8 種類を確認しているが、大部分が褐灰色土、灰褐色土である。図示できた遺物が出土したピットの埋土は黄褐灰色土、灰褐色土である。中世から古代の遺物が出土しているが中世が中心をしめる。注目される遺物では P830 出土の底部に「仲」の線刻が施された土師器杯 128、P915 出土の 137 常滑焼播鉢は高知県では上ノ村遺跡以外では確認できていない資料である。

遺構名	平面形	長径×短径 直径 (cm)	深さ (cm)	埋土	図版No	出土遺物	備考
P719	円形	45	32	灰褐色土	119	土師質土器・軽石・土錘	
P720	楕円形	30×26	36	灰褐色土	120	土師器・土師質土器・瓦器	
P722	楕円形	31×27	33	灰褐色土	121	土師質土器・瓦器	
P745	不整形	25×21	34	灰褐色土	122	土師質土器・瓦器	
P746	楕円形	25	15	灰褐色土	123	土師質土器・瓦器	
P792	楕円形	63×50	17	灰褐色土	124	土師質土器・瓦器・瓦質土器・砥石	
		28	6	灰褐色土			
P796	円形	34	27	灰褐色土	125	刀子状鉄器	
P813	楕円形	32×27	10 10	灰褐色土	126	土師質土器・瓦器・東播系須恵器	
P830	円形	36	21	灰褐色土	128	土師器・土師質土器・瓦器・須恵器	土師器底部「仲」
P850	円形	29	35	灰褐色土	127	土師質土器・瓦器・須恵器・青磁	
P860	円形	39	6	灰褐色土	129	土師質土器・瓦器・鉄釘	SK59 と重複する
P869	不整形	63×35	36	灰褐色土	130	土師質土器・瓦器・須恵器・鉄滓	
P878	不整形楕円形	70×42	28	灰褐色土	134	土錘	
	円形	30	13	灰褐色土			
	円形	20	5	灰褐色土			
P891	楕円形	40×30	33	灰褐色土	131	土師質土器	
P896	楕円形	51	9	灰褐色土	132・133	土師質土器・瓦器	播磨型羽釜片
P907	楕円形	55×47	27	灰褐色土	135	土師質土器・瓦器	
P915	楕円形	45	12	褐灰色土	136・137	土師器・土師質土器・瓦器・炆器・常滑焼	
P916	楕円形	47	11	褐灰色土	138	土師質土器・瓦器・青磁	
	円形	27	9	褐灰色土			
P921	楕円形	31×26	4 26	褐灰色土	139	土師質土器・瓦器・鉄釘	
P922	円形	33	21 30	褐灰色土	140	土師器	
P950	円形	78×70	13	褐灰色土	141	土師質土器・瓦質土器・須恵器・土錘	
	円形	18	35	褐灰色土			
P975	楕円形	29	18	褐灰色土	142・143	土師質土器・瓦器	
P976	長方形	20	18	灰褐色土	144	土師質土器	
P983	円形	55	50	灰褐色土	146	土師質土器・瓦器・瓦質土器	
P986	円形	81	26	灰褐色土	145	土師質土器	
P1014	円形	31	18 9	灰褐色土	147	土師質土器	
P1023	不整形円形	33×31	26	灰褐色土	148	土師質土器・発泡土器	
P1066	楕円形	28×25	2 14	灰褐色土	149	土師質土器	
P1138	楕円形	29	19	灰褐色土	150・151	土師器	
P1148	楕円形	22×20	26	灰褐色土	152	土師器・土師質土器・砥石	
P1205	楕円形	40×32	17	灰褐色土	153	鉄釘	
P1225	円形	18	14	灰褐色土	155	土師質土器	
P1230	不整形円形	47	25	灰褐色土	154	土師質土器・瓦器・鉄滓	SD15 重複

表 6 - 6 中面図版掲載遺物出土ピット一覧表



6-15 図 中面 P719 ~ 922 出土遺物



6 - 16 図 中面 P950 ~ 1230 出土遺物

(3) 下面の遺構と遺物

下面の遺構は土坑15基、ピット598個、溝跡17条を検出した。下面の検出標高2.8～3.0mである。遺構は下SD22の西側に分布し北西方向の帯状に分布が見られる。検出した溝跡は、上面、中面の溝方向が南北方向を基本にそれに直交しているのに対し、下面の溝跡は北西方向を基本とし直交する溝跡からなっている。ピットは多く検出したが建物跡は復元できなかった。遺構はおおむね中世から古代で古代が中心と考えられる。遺構番号は下面から遺構番号の前に「下」を付けた。

土坑(SK)

土坑は検出時、下SK1～18までの遺構番号を付けたが、精査の結果下SK1・4・10が欠番となったため、土坑と確認したものは15基である。土坑は調査区西側に多く分布する。下SK9を除き何も検出した深さは20cm以下であり浅いものが多く、埋土中からの出土遺物は下SK14を除いて少なく図示できる遺物も少なかった。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
下SK1	欠番							下P155と重複
下SK2	1.14 × 0.84 × 0.13	半月形	皿状	N - 84° - E		土師質土器・瓦器		
下SK3	1.15 × 1.00 × 0.13	長方形	浅い箱形	N - 3° - W		土師質土器・瓦器・須恵器・土錘		
下SK4	欠番							
下SK5	1.10 × 0.80 × 0.21	楕円形	逆台形	N - 38° - E		土師質土器		
下SK6	(0.80) × 0.75 × 0.10	楕円形	皿状	N - 27° - W				
下SK7	1.25 × (1.00) × 0.12	円形	皿状	N - 74° - E		土師質土器・瓦器		
下SK8	1.30 × 1.00 × 0.08	長方形	皿状	N - 38° - E		土師質土器・須恵器		
下SK9	0.70 × 0.60 × 0.62	楕円形	-	N - 18° - E		土師質土器・瓦器・須恵器		
下SK10	欠番							
下SK11	2.41 × (2.00) × 0.25	円形	逆台形	N - 28° - W		土師質土器・須恵器		播磨型土師質土器羽釜細片
下SK12	0.70 × (0.40) × 0.06	不整形	皿状	N - 30° - W		土師質土器		
下SK13	1.09 × 0.60 × 0.13	不整形	皿状	N - 61° - W		土師質土器・須恵器		
下SK14	2.06 × (1.50) × 0.20	方形	皿状	N - 24° - W		土師器・須恵器・粗製土器		焼塩壺
下SK15	2.02 × 1.17 × 0.19	長方形	箱形	N - 15° - E		土師器・須恵器・土錘		
下SK16	0.90 × (0.30) × 0.17	不整形	二段状	N - 7° - E		土師質土器・瓦器・須恵器・土錘		
下SK17	(1.20) × 0.53 × 0.10	長方形	皿状	N - 5° - E		土師質土器・土錘・瓦器		
下SK18	(0.95) × 0.94 × 0.08	不整形	皿状	N - 4° - E		土師器・須恵器		

表6-7 下面土坑一覧表



6 - 17 図 下面遺構全体図

下 SK3

下 SK3 は調査区北西部で検出した長方形の土坑で下 SD13 の北部と重複し切っている。下 P174 に切られている。長軸 1.15 m、短軸 1.0 m、深さ 13cm を測る。遺構断面形は浅い箱形を呈し立ち上がりはしっかりする。埋土は 2 層に分層できるが何れも黄白色を呈する。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器、土錘を検出しており土錘 156 のみ図示できた。

下 SK14

下 SK14 は調査区西端部で検出した土坑で調査区により西半分が切られた状態で、不整形な下 SD15 北端部と重複し下 SD15 を切る。平面形は方形の可能性が高く残存規模は 2.06 × (1.50) m で深さ 20cm を測る。遺構断面形は立ち上がり甘い皿状である。埋土は 2 層に分層でき、灰色粘土の小ブロックが混じり、上層には炭化物が混じる。埋土中からは他の土坑と比べると多くの遺物が出土している。158・159 は内面に布目跡が残る粗製土器で 158 は非常に焼締まっており焼塩壺と考えられる。157 は須恵器の蓋である。下 SK14 は古代と考えられる。

下 SK15

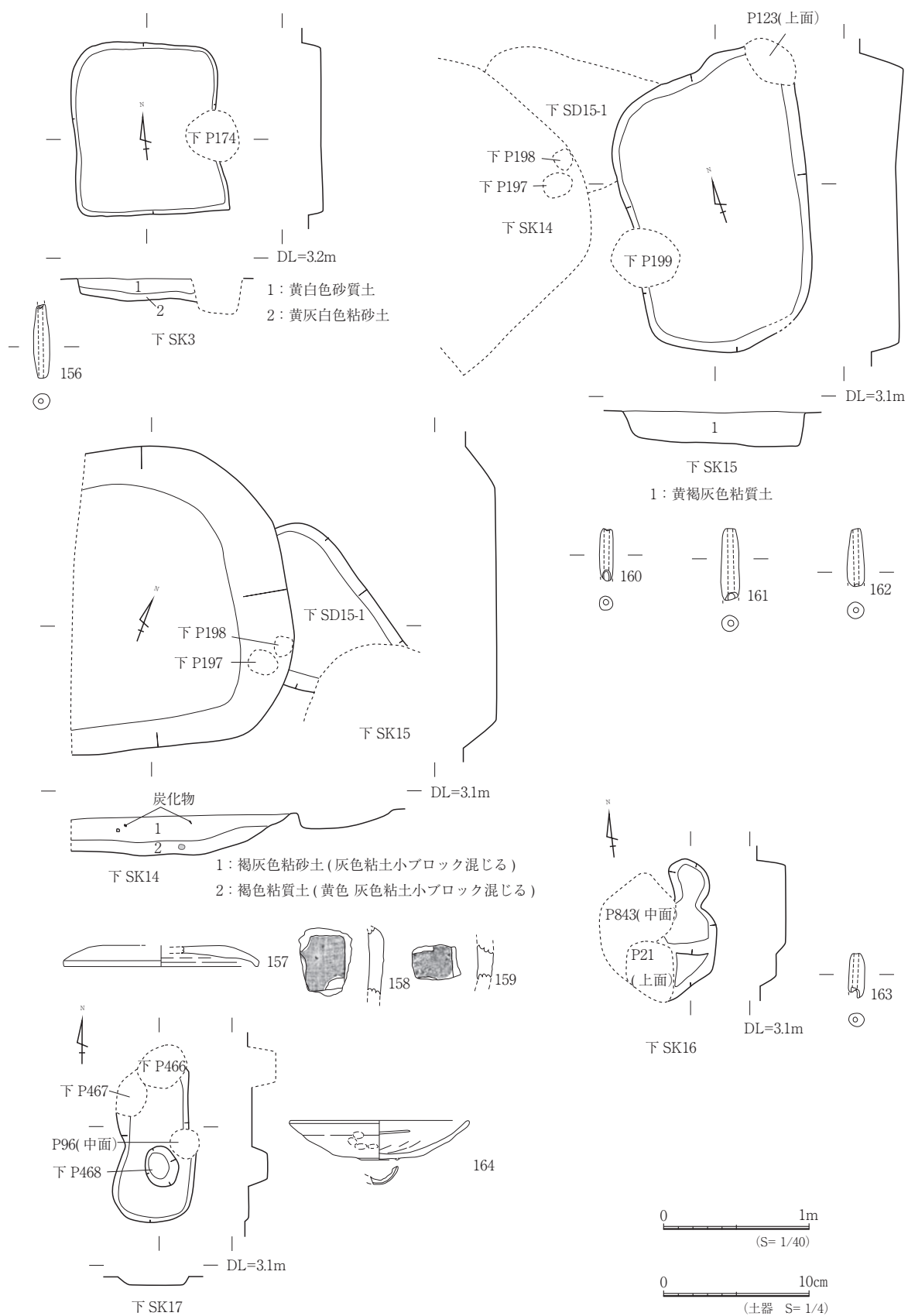
下 SK15 は調査区西端部で検出した土坑で下 SD15 と重複し下 SD15 を切る。周辺には下 SK6・14 があり遺構が密集している。遺構の平面形は長方形で長軸 2.02 m、短軸 1.17 m、深さ約 20cm を測る。遺構の断面形は箱形で立ち上がりは比較的しっかりしている。埋土は 1 層で黄褐灰色粘質土である。埋土中からは土師器、須恵器、土錘が出土しており、土錘 3 点を図示した。3 点とも端部がめくれる様に欠損している。

下 SK16

下 SK16 は調査区西端部で検出した不整形な土坑で、上面で検出したピットに切られ、更に不整形になっている。残存規模は 0.90 × (0.30) m、深さは 17cm で床面は二段になる。遺構検出埋土は黄褐灰色土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器、土錘が出土しており、図示した土錘 163 は片側端部がめくれる様に欠損している。

下 SK17

下 SK17 は調査区南西部で検出した長方形の遺構で床面から下 P468 を検出した。残存規模は (1.20) × 0.53 m、深さは 10cm を測る。遺構断面形は浅い皿状で検出埋土は褐灰色に近い灰色である。埋土中からは土師質土器、瓦器、土錘が出土している。底部高台が退化し全周まわらない瓦器碗 164 を図示した。



6 - 18 図 下 SK3・14 ~ 17

溝跡 (SD)

下面では下 SD1 ~ 22 まで遺構番号を付け調査した。精査の結果、下 SD3・5・8・17・18 が欠番となり 17 条の溝跡を確認した。検出した溝跡の多くは軸方向が N - 25 ~ 35° - W の範囲、もしくはそれに直交するもので、上面、中面で検出した溝跡が南北方向を基本とするものとは異なる様相を示しており、時期差によるものと考えられる。

遺構名	長さ×幅×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	接続	出土遺物	時期	備考
下 SD1	5.00 × 0.50 × 0.12	直線状	逆カマボコ形	N - 32° - W		土師器・黒色土器 A 類・須恵器		
下 SD2	3.10 × 0.51 × 0.09	直線状	皿状	N - 31° - W		土師器		
下 SD3	欠番							
下 SD4 (E W 含む)	6.10 × 1.28 × 0.10	直線状	皿状	N - 33° - W		土師質土器・黒色土器 A 類・瓦器・須恵器・緑釉陶器・土錘		
下 SD5	欠番							
下 SD6	5.90 × 1.30 × 0.12	直線状	皿状	N - 90° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・緑釉陶器・青磁		
下 SD7	2.10 × 0.30 × 0.07	直線状	皿状	N - 35° - W		土師器・須恵器		
下 SD8	欠番							
下 SD9	1.33 × 0.26 × 0.09	直線状	皿状	N - 84° - E		土師器・瓦器・須恵器		
下 SD10 (主線)	8.10 × 0.52 × 0.11	直線状	レンズ状	N - 28° - W		弥生細片		
下 SD10 (副線)	4.00 × 0.35 × 0.06	直線状	皿状	N - 22° - W				
下 SD11	7.20 × 0.60 × 0.14	直線状	レンズ状	N - 32° - W	1-7区	土師器・須恵器・サヌカイト・軽石		
下 SD12 - 1	6.00 × 0.41 × 0.11	直線状	皿状	N - 41° - E				
下 SD12 - 2	1.00 × 0.50 × 0.13	直線状	レンズ状	N - 56° - E				
下 SD12 - 3	0.90 × 0.90 × 0.08	直線状	皿状	N - 39° - E				
下 SD12 - 4	1.80 × 0.60 × 0.08	への字状	皿状	N - 39° - E				
下 SD13 - 1 ~ 2	16.3 × 0.95 × 0.21	直線状	レンズ状	N - 36° - W		土師器・土師質土器・瓦器・須恵器		
下 SD13 - 3 ~ 6	17.5 × 1.20 × 0.4	直線状	箱形	N - 36° - W				
下 SD13A	15.88 × 0.50 × 0.28	直線状	箱形	N - 43° - E	1-7区			
下 SD14	2.10 × 0.40 × 0.05	への字状	皿状	N - 56° - E				
下 SD15 - 1	1.10 × 0.80 × 0.14	直線状	皿状	N - 31° - W		土師器・須恵器		
下 SD15 - 2	4.10 × 0.70 × 0.15	直線状	皿状	N - 31° - W				
下 SD16	3.30 × 0.83 × 0.08	直線状	皿状	N - 30° - W		土師器・須恵器・緑釉陶器・軽石		
下 SD17	欠番							
下 SD18	欠番							
下 SD19	3.40 × 0.60 × 0.08	直線状	皿状	N - 27° - W				
下 SD20	3.00 × (0.90) × 0.10	直線状	皿状	N - 31° - W		土師器・黒色土器 A 類・須恵器		
下 SD21	2.70 × 0.40 × 0.06	直線状	皿状	N - 78° - E		土師器・粗製土器		
下 SD22	21.60 × 2.70 × 0.61	直線状	U 字状	N - 28° - W		土師器・瓦器・須恵器・縄文土器		

表 6 - 8 下面溝跡一覧表

下 SD1

下 SD1 は調査区南西部で検出した溝跡で軸方向は N - 32° - W で南側端部は調査区によって切られ、北側端部は下 SK18 と重複する。延長方向には下 SD15・16 がある。規模は検出長 5.0 m、上端幅約 0.5 m、深さ約 12cm を測る。断面形は逆カマボコ形で埋土は濃黄色砂質土に灰色砂質土が混じるものである。埋土中から土師器、黒色土器 A 類、須恵器が出土し、口縁部が外反して開く土師器皿 165 を図示できた。古代の可能性が高く下 SD15 へ延長する可能性が考えられる。

下 SD2

下 SD2 は調査区南西隅で検出した溝跡で下 SD21 と交差し、これを切っている。軸方向は N - 31° - W で調査区内で終熄する。検出長は 3.1 m、上端幅 0.51 m、深さ約 10cm を測る浅い溝跡である。埋土中からは土師器が出土する。166 は土師器小杯で底部には切り離し痕が残らない。

下 SD4

下 SD4 は調査区南部で検出した溝跡である。南端部は調査区に切られ、北側は二股に分かれる。溝跡の軸方向は N - 33° - W で検出長 6.1 m、上端幅 1.28 m である。南端部から約 4.0 m で分岐

し主線側と考えられる北側の上端幅は約 0.5 m である。深さは約 10cm を測る埋土は主線が黄褐色粘質土、分岐側が黄色砂質土である。埋土中からは土師質土器、黒色土器 A 類、瓦器、須恵器、緑釉陶器、土錘が出土する。

下 SD6

下 SD6 は、調査区南部で検出した。中面 SD15 の下層にあたる。軸方向は N - 90° - W で検出規模は長さ約 5.9 m で攪乱坑に切られ終熄しており、上端幅は約 1.3 m、深さは約 12cm である。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、緑釉陶器、青磁が出土している。図示した緑釉陶器 167 は胎土は硬陶で白色を呈し淡い緑色の釉を薄く施釉している。中面で検出した SD15 と同一の可能性が高いと考える。

下 SD7

下 SD7 は上面 SD1、中面 SD18 との間で検出した東西方向の小さな溝跡である。検出長 2.1 m、上端幅 0.3 m、深さは約 7cm である。埋土は黒褐色粘土で埋土中からは土師器、須恵器が出土するが図示できた遺物はなかった。

下 SD9

下 SD9 は調査区東側で検出した溝跡で下 SD22 を切っている。溝跡の方向は東西方向で N - 84° - E である。検出規模は延長 1.33 m、上端幅 0.26 m、深さ 9cm を測る。検出埋土は明黄褐色砂質土で埋土中からは土師器、瓦器、須恵器が出土するが図示できる遺物はなかった。

下 SD10

下 SD10 調査区北東部に位置する北西方向の溝跡で途中で北側と南側部分に分岐する。北側が主線の可能性が高く軸方向は N - 28° - W である。主線は延長 8.1 m で北側は調査区に切られ南側は終熄している。上端幅 0.52 m、深さ 11cm を測る。遺構断面形はレンズ状で遺構埋土は暗褐色粘土である。埋土中から遺物はほとんど出土せず、わずかに弥生土器の可能性が高い細片が見られるのみである。

下 SD11

下 SD11 は調査区北東部に位置し下 SD10 の東側に沿うような状態で検出した溝跡で北側は調査区に切られ、南側は浅くなり検出できなかった。軸方向は N - 32° - W である。遺構の規模は検出長 7.2 m、上端幅 0.6 m、深さ 14cm を測る。断面形はレンズ状で埋土は黄褐色砂質土に灰色砂質土の小ブロックが多く混じる土である。埋土中からは土師器、須恵器、サヌカイト、軽石が出土している。図示できる遺物はなかった。

下 SD12

下 SD12 は調査区西側で検出した北東方向の溝跡である。下 SD13 と交差し約 3.0 m 延びた後方向を南東に変えた後検出できなくなる。南東方向の延長には下 SD16・4 が位置する。溝の軸方向は N - 41° - E で、下 SD13 - 1 との交差角は 79° である。SD13 の一部未検出部分も含めた検出長は約北東部分約 15.0 m、南南東部分約 0.5 m、上端幅 0.5 m、深さ約 13cm を測る。遺構の断面形はレンズ状で埋土は 3 層に分層できたが褐色シルトが基本となっている。埋土中からは遺物はほとんど出土しなかった。下 SD13 の L 字状の溝跡に沿う事から同様の性格を持つものと考えられる。

下 SD13

下 SD13 は調査区西側で検出した溝跡でトレンチによって各部を細分した。溝跡は軸方向で当初

検出した北西方向の下SD13-1～6までの部分と、掘削時に下SD13の延長部分と判断した北東方向の下SD13A部分に分かれる。精査の結果、溝跡の掘方等から下SD13-3～6と下SD13AまでのL字状の部分が同一の溝跡で、下SD13-1・2までは別の溝跡もしくは時期差を持ち延長した部分と考えられる。このため記述も下SD13-3～6から下SD13Aまでと下SD13-1・2に分け記述する。

下SD13-1・2は調査区北西隅から下SD13A西端部まで直線的に伸び下SD13-3に接続する。延長は16.3m、上端幅は0.95m、深さ約20cmを測る。遺構断面形はレンズ状で埋土は灰色砂質土に褐色砂質土が混じるものである。下SD13-1・2は平面形は上端幅が不揃いで掘方の立ち上がりも弱く埋土も灰色系であり下SD13-3～6から下SD13A部分とは異なっており同一時期の溝跡では無いと判断される。

下SD13-3～6と下SD13Aは、北西方向の下SD13-3～6までの部分と、約105°の角度で曲がり北東方向を向く下SD13A部分に分かれる。下SD13A部分は軸方向N-43°-Eで延長は15.88mを測り更に北東に伸び1-7区に続く。上端幅は0.5m、深さは28cmを測る。断面形は箱形でしっかりした掘方を持つ。埋土は褐灰色土を中心とした土である。下SD13-3～6の部分は17.5m検出しており調査区に切られているが更に続いていると考えられる。上端幅は0.8～1.2mで深さは約30～40cmを測る。断面形はしっかりした立ち上がりをもち一部逆凸状を呈する。埋土は褐灰色土を中心としたものである。埋土中からは土師器、土師質土器、瓦器、須恵器が出土している。

下SD14

下SD14は調査区西側下SD13-1と下SD15-2の間で検出した北東方向の溝跡で、東側端部を下SD13-1に切られる。軸方向はN-56°-Eで検出長は2.1m、上端幅0.4m、深さ5cmを測る。浅い溝跡で断面形は皿状で検出埋土は黄灰褐色土である。埋土中からは遺物は確認できなかった。下SD13-1～2がオーバーフローした時の残滓の可能性が考えられる。

下SD15

下SD15は調査区西端部で検出した北西方向の不整形な溝跡で途中下SK15に切られ北端部は下SK14に南端部は攪乱坑に切られている。軸方向はN-31°-Wで検出長は5.2m、上端幅0.7～0.8m、深さ15cmを測る。断面形は立ち上がりの弱い皿状を呈する。検出埋土は黄褐色土で埋土中からは土師器、須恵器が出土している。下SD15の南東方向延長には下SD1・16が位置し一連の溝跡の可能性が考えられる。

下SD16

下SD16は調査区西側で検出した不整形な溝跡である。溝の軸方向はN-30°-Wで検出長は3.3m、上端幅は不整形で0.5～0.83m、深さは8cmを測る。断面形は浅い皿状で立ち上がりは弱く埋土は灰黄褐色粘砂土である。埋土中からは土師器、須恵器、緑釉陶器、軽石が出土している。土師器皿3点と高台のある土師器杯を図示した。古代の土器である。

下SD16は掘方が甘く不整形であるが北側延長に下SD15、南側延長に下SD4が位置しており一連の溝跡の残滓の可能性が高い。

下SD19

調査区北西隅で検出した溝跡である。浅い溝跡で北側は検出できなかった。軸方向はN-27°

- W で検出規模は延長 3.4 m、上端幅 0.6 m、深さ 8cm である。断面形は浅い皿状を呈する。埋土中から遺物は確認できていない。

下 SD20

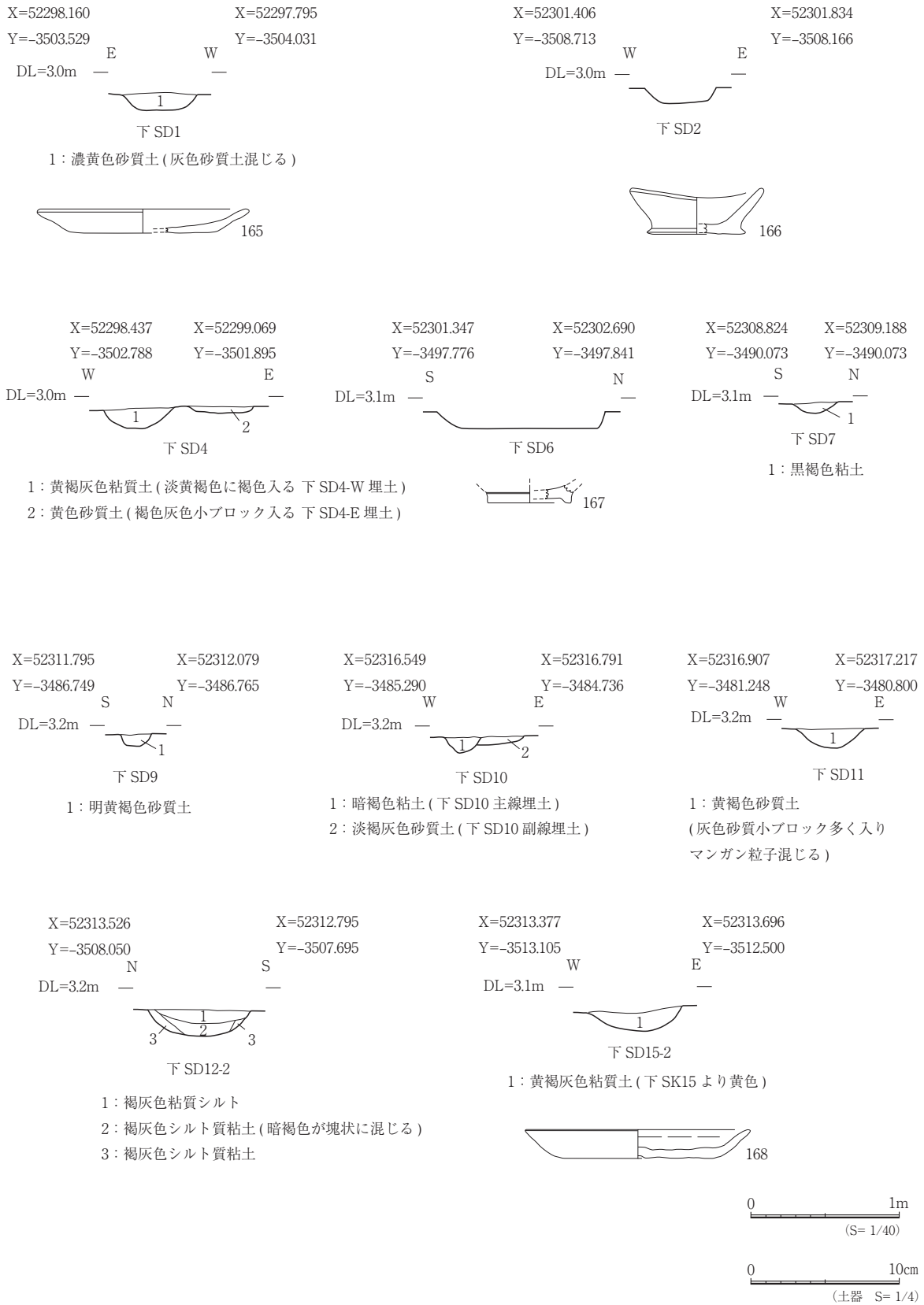
下 SD20 は調査区南西隅で検出した浅い溝跡で南側は調査区に切られている。軸方向は N - 31° - W、規模は延長 3.0 m、残存上端幅約 0.9 m で深さは 10cm を測る。遺構断面形は浅い皿状で埋土中からは土師器、黒色土器 A 類、須恵器の細片が少量出土する。

下 SD21

下 SD21 は調査区南西隅で検出した東西方向の溝跡で下 SD2 と交差し切られている。軸方向は N - 78° - E で検出規模は延長 2.7 m、上端幅約 0.4 m、深さ約 6cm を測る。浅い溝跡で断面形は皿状を呈し埋土中からは土師器、内面に布目の残る焼塩壺と考えられる粗製土器細片 176 を図示した。

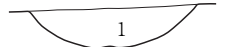
下 SD22

下 SD22 は調査区東部で検出した北西方向のしっかりした溝跡で調査区を貫き北側は 1 - 7 区に延長し、南側は調査区に切られている。北端部でやや西側に傾くが軸方向は N - 28° - W である。検出長は 21.6 m、上端幅 2.7 m、深さは 60cm を測る。断面形はしっかりした U 字状で埋土は上層から褐色粘質シルト、褐色粘質シルトに若干黄色粘土を含む土、灰黄色粘土に褐色シルトを含む土、褐灰色シルト質粘土の 4 層に分層できる。埋土中からは土師器、瓦器、須恵器と最下層から縄文土器が出土するが何れも細片である。溝内側の側面からは直径 5cm 程度の杭跡と見られる小ピットを検出している。この小ピットに杭を差し込むと直立せず内傾するものがほとんどである。



6-19 図 下SD1・2・4・6・7・9～12-2・15-2

X=52321.355
Y=-3514.767 W
DL=3.1m



下 SD13-1

1: 灰色砂質土と黄褐色砂質土混じる (灰色粘土小ブロック入る)

X=52321.485
Y=-3513.898 E

X=52317.226
Y=-3510.825 E
DL=3.1m

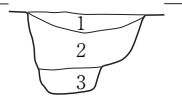


下 SD13-2

1: 灰色砂質土 (褐色砂質土混じり 褐色小ブロック入る)

X=52316.713
Y=-3511.609 W

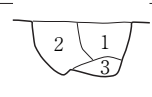
X=52301.939
Y=-3502.164 W
DL=3.1m



下 SD13-3

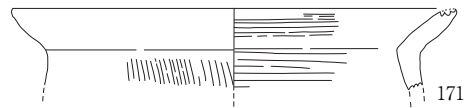
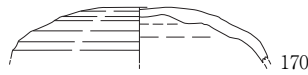
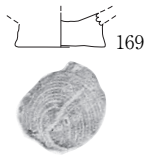
- 1: 褐灰色粘土質シルト (褐色粒含む)
- 2: 暗褐色シルト質粘土 (灰黄斑 褐色粒含む)
- 3: 褐灰色シルト質粘土 (褐色粒含む)

X=52319.907
Y=-3497.630 E
DL=3.1m

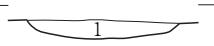


下 SD13A

- 1: 褐色粘土質シルト
- 2: 褐灰色シルト質粘土 (灰黄色 褐色粒含む)
- 3: 灰黄色シルトと褐灰シルト質粘土混じる



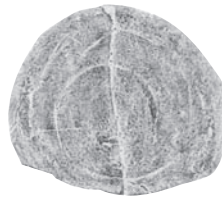
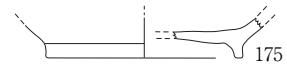
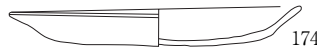
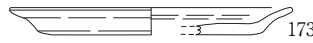
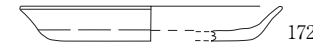
X=52305.508
Y=-3506.967 E
DL=3.1m



下 SD16

1: 灰黄褐色粘砂土 (褐色 灰色小ブロック混じる)

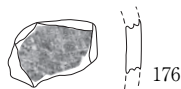
X=52305.191
Y=-3507.793 W



X=52300.836
Y=-3507.406 S N
DL=3.0m



下 SD21



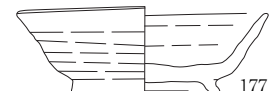
X=52307.709
Y=-3484.331 E
DL=3.0m



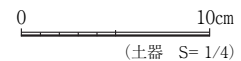
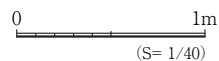
下 SD22 南バンク

- 1: 褐色粘質シルト
- 2: 褐色粘質シルト (若干灰黄色粘土含む)
- 3: 灰黄色粘土 (褐色粘質シルト含む)
- 4: 褐灰色シルト質粘土 (鉄斑含む)
- 5: 褐灰色シルト質粘土 (杭痕 地山土含む)

X=52307.261
Y=-3485.552 W



177



6-20 図 下 SD13・16・21・22

ピット(P)

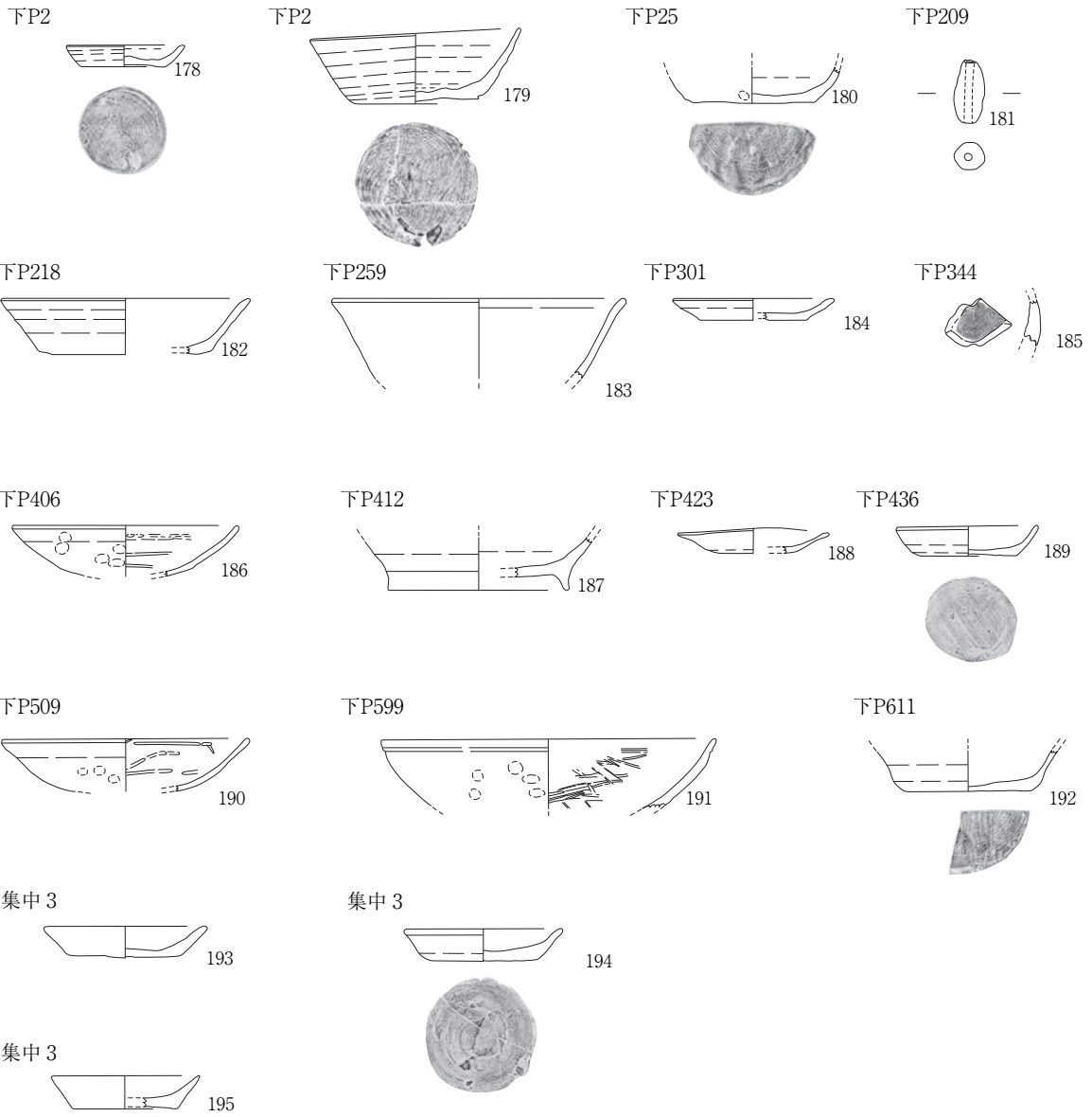
下面のピットは検出時下 P1～643 まで遺構番号を付け検出したが精査の結果、遺構と判断できなかったもの、重複したものが45個あったことからピットとして確認できたものは598個である。遺構分布は溝跡に並行するように分布し下 SD22 と下 SD13A に囲まれた範囲に多く、特に下 SD13-3～6・下 SD13A に区画された範囲では密集した状態で検出した。多くのピットを検出しているが重複、切り合いは少ない。上面から中面で検出したピットに切られた状態も多く平面形が不完全であった。建物跡は復元できず柱穴と確認できたものはなかった。

ピットの検出埋土は褐灰色土、灰褐色土、灰色土、灰色土(やや褐色混じる)、黄灰色土、黄灰褐色土、黄橙色土、暗褐灰色土の8種類を確認している。黄褐灰色土、灰色(やや褐色混じる)、暗褐灰色土のものが多く、図示できた遺物は15点で中世から古代の遺物が出土しており、回転糸切り痕が残るものが5点、瓦器椀3点が図示できた。

ピットについては遺物が出土した約3割程度のピットから細片であるが瓦器または瓦質土器が出土している。またピットの掘方についても方形掘方のものは確認できていない。このことから下面に至っても古代に属することが確実なピットは判然としない状況である。

遺構名	平面形	長径×短径 直径 (cm)	深さ (cm)	埋土	図版No.	出土遺物	備考
下 P2	円形	40	49	灰褐色土	178・179	土師器・土師質土器・瓦器	
下 P25	円形	33	22	灰褐色土	180	土師器・土師質土器	
下 P209	不整楕円形	70×45	9	黄褐色土	181	土師器・土錘	
下 P218	円形	35	35	黄灰褐色土	182	土師器	
下 P259	円形	26	8	灰色土 灰褐色に近い	183	青磁	
下 P301	円形	22	9	灰色土 灰褐色に近い	184	土師器	
下 P344	楕円形	49×42	31	黄灰褐色土	185	粗製土器	
下 P406	楕円形	37×33	33	黄灰褐色土	186	土師質土器・瓦器	
下 P412	楕円形	60×(45)	13	黄灰褐色土	187	土師器・須恵器・サヌカイト・軽石	
下 P423	円形	29	21	黄灰褐色土	188	瓦器	
下 P436	楕円形	70×50	23	黄灰褐色土	189	土師質土器	
下 P509	円形	36	23	黄灰褐色土	190	土師質土器・瓦器	
下 P599	楕円形	60×50	13	灰色土 灰褐色に近い	191	土師質土器・瓦器	
下 P611	円形	28	14	暗褐灰色土	192	土師器・土師質土器・須恵器・サヌカイト・軽石	

表6-9 下面図版掲載遺物出土ピット一覧表



0 10cm
(土器 S=1/4)

6-21 図 下面ピット・集中3出土遺物

(4) 最下面の遺構と遺物

最下面の遺構は掘立柱建物跡1棟、土坑5基、ピット499個、溝跡3条、自然流路と考えられる落ち込み1ヶ所を検出した。下面の検出標高約2.5～2.8mで検出面は黄褐色粘質土である。遺構にはあまり規則性が見い出せない。遺構の時期は古代から弥生で弥生時代では掘立柱建物跡を確認した。また、縄文時代晩期の土坑も確認しており僅少ではあるが縄文時代の遺構も混じる可能性がある。遺構番号は全て5000番台とした。

掘立柱建物跡(SB)

ピットは499個確認しているが建物跡を復元できたものは1棟のみである。

SB5001

SB5001は調査区西側で検出した遺構で梁行1間、桁行4間と考えられる建物跡である。建物の規模は2.6×6.5mで面積は16.9㎡を復元することができる。棟方向はN-47°-Wである。柱穴は10個検出しており、棟北側の柱穴列は約1.5mの間隔で直線に並ぶが棟南側の柱穴列は間隔並びともに不揃いである。柱穴は何れも円形で直径25～30cmを測る。深さは10～30cmを測る。P5108・5416・5060は重複が確認されている。柱穴の検出埋土は暗灰褐色と黄褐色に灰褐色混じる土の2種類確認している。埋土中からの遺物はP5062から細片が出土するが所属時期の確認ができなかった。

SD5001

SB5001の北側に沿うようにSD5001を検出している。SD5001はSB5001と約1.3m離れ並行し、長さはSB5001の両端から約1mずつ外側に出ている。SD5001の軸方向はN-47°-Wで規模は検出長9.0m、上端幅約0.7m、深さ約40cmを測る。断面形はしっかりした立ち上がりを持つ逆台形から舟底形である。埋土は褐色粘砂土、褐灰色粘質土で黄色粘質土が混じっている。埋土中からは弥生土器が出土し、196～198を図示した。何れも在地系の土器であり196・197は所謂土佐型甕の系譜を引くものと考えられる。198は口縁が大きく開き外面に微隆起突帯、櫛描き文が施された土器で壺の可能性が高い。弥生時代中期末の時期と考えられる。

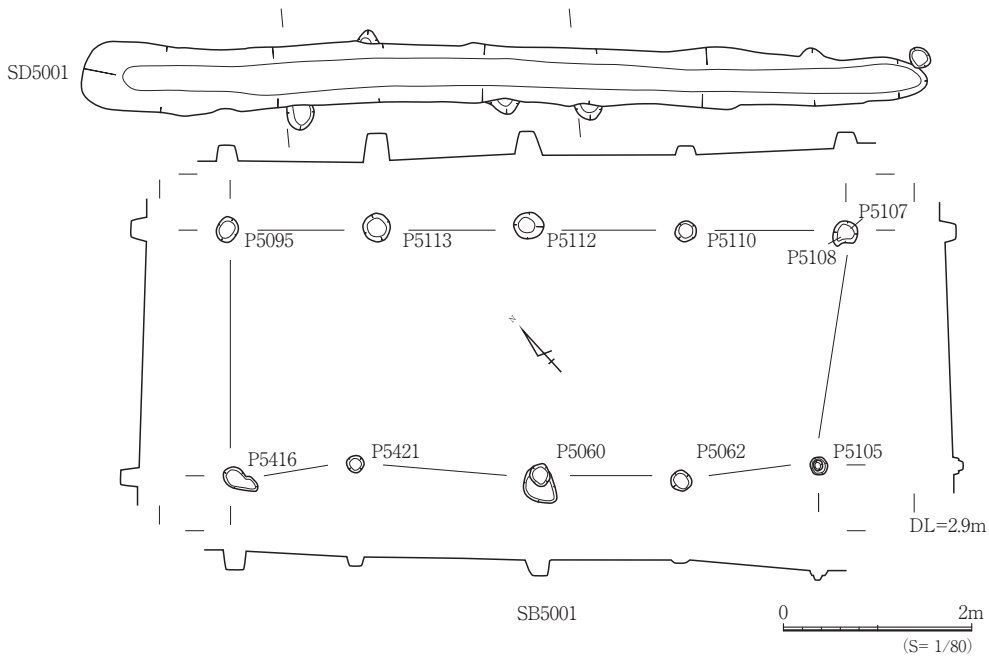
高知県の弥生時代の掘立柱建物跡には溝状土坑を伴う例が田村遺跡群などで前期から中期末にかけて見られ、周辺では北高田遺跡で後期初頭の例が知られる。

遺構名	平面形	長径×短径 直径 (cm)	深さ (cm)	埋土	出土遺物	備考
P5095	楕円形	27×22	16	暗灰褐色		
P5113	円形	30	28	黄褐色に灰褐色混じる土		
P5112	円形	32	25	黄褐色に灰褐色混じる土		
P5110	円形	23	9	暗灰褐色		
P5107	不整形	24	11	黄褐色に灰褐色混じる土		P5108と重複一体化
P5105	楕円形	20	5.5	暗灰褐色		
P5062	楕円形	20	2	黄褐色に灰褐色混じる土	細片 不明	
P5060	楕円形	40×35	10.6	黄褐色に灰褐色混じる土		
		20	6	黄褐色に灰褐色混じる土		
P5421	円形	18	16	暗灰褐色		
P5416	不整形	40×20	18	黄褐色に灰褐色混じる土		P5415と重複一体化

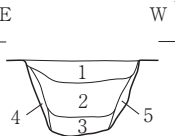
表6-10 SB5001柱穴計測表



6 - 22 図 最下面遺構全体図



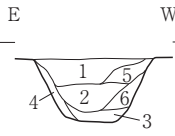
X=52304.388
Y=-3496.958
DL=2.9m



SD5001 南バンク

X=52303.839
Y=-3497.406

X=52306.522
Y=-3499.257
DL=2.9m

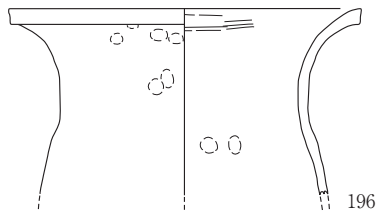


SD5001 北バンク

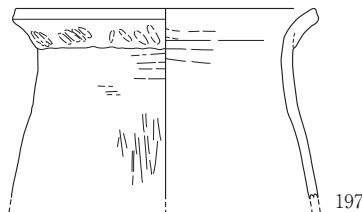
- 1: 褐色粘砂土
- 2: 褐灰色粘質土 (細かな黄色砂質土混じる)
- 3: 褐灰色土 (黄色粘質土混じる)
- 4: 褐色粘質土 (黄色土混じる)
- 5: 黄色粘質土 (褐色粘質土混じる)

- 1: 褐色粘砂土
- 2: 褐灰色粘質土
- 3: 褐灰色粘質土 (黄色砂質小ブロック入る)
- 4: 褐灰色粘質土 (黄色砂質土混じる)
- 5: 褐灰色粘砂土 (黄色砂質ブロック入る)
- 6: 黄色砂質土 (褐色土混じる)

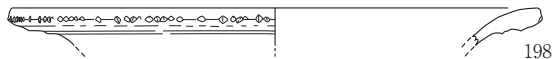
0 1m
(S= 1/40)



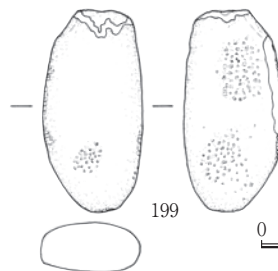
196



197



198



199

0 10cm
(土器 石器 S= 1/4)

6-23 図 SB5001・SD5001

土坑 (SK)

最下面で土坑は SK5001 ～ 5005 までの 5 基を検出した。SK5004 からは縄文時代晩期の孔列文土器 202 が出土しており縄文時代晩期の土坑と考えられる。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK5001	0.65 × 0.65 × 0.10	不整形	浅い箱形	N - 28° - W				
SK5002	0.93 × (0.60) × 0.28	楕円形	箱形	N - 30° - W		弥生土器の可能性細片		
SK5003	(0.86) × 0.40 × 0.30	不整形	皿状	-				
SK5004	0.95 × 0.95 × 0.16	円形	擂鉢状	N - 39° - W		縄文土器、焼石		
SK5005	0.86 × 0.52 × 0.16	楕円形	レンズ状	N - 19° - W				

表 6 - 11 最下面土坑一覧表

SK5001

SK5001 は、調査区南で検出した不整形な土坑である。SB5001 の北側梁行の中央に位置している。長軸 0.65 m、短軸 0.65 m、深さ 10cm である。断面形は浅い箱形で埋土は褐黄灰色シルトである。埋土中からは遺物の出土はない。SB5001 の付属遺構では無いと考えられる。埋土は縄文土器が出土した SK5004 に類似する。

SK5002

SK5002 は下層で検出した下 SD22 に切られた土坑で平面形は楕円形を復元できる。遺構の残存規模は長軸 0.93 m、短軸 0.6 m、深さは 28cm を測る。遺構の断面形は立ち上がりのしっかりした箱形で埋土は上層に褐灰色砂質土、下層に同粘質土があり間層として黄灰色の柔らかな土が入る。黄灰色の柔らかな土は下 SD22 と共通している。埋土中からの土器の出土は少なく僅かに摩耗の著しい細片が出土している。

SK5003

SK5003 は下 SD22 に切られた土坑で平面形は不整形な楕円形を復元できる。遺構の残存規模は長軸 0.86 m、短軸 0.40 m。深さ 30cm を測る。検出埋土は暗褐灰色土である。埋土中からの遺物はわずかに細片が出土するのみで時期確認できなかった。

SK5004

SK5004 は調査区南東部で検出した円形の土坑である。当初平面プランが明瞭でなく周辺を約 10 cm 下げ検出することができた。土坑の規模は直径 0.95 m で深さは 16cm を測る。断面形は擂鉢状で埋土は淡黄灰褐色が基本で、含まれる粒子の違いで 3 層に分層でき炭化物が混じる。埋土中からは赤変した砂岩角礫とともに土器が出土している。出土した土器は何れも縄文土器で 202 は口縁部下に突帯が巡り、突帯下には孔径約 5mm の円孔が約 2.5cm の間隔で巡る孔列文土器である。口径は約 45cm を復元することができる大きなものである。200 は、ふくらみ気味の胴部から外反してなめらかに開く口縁の器形である。201 は 200 の口縁部の可能性が考えられる刻目突帯の口縁部で突帯の上端部に沈線が巡る。器面調整は何れも横方向の条痕である。

SK5005

SK5005 は調査区南東部で検出した楕円形の土坑である。遺構の検出規模は長軸 0.86 m、短軸 0.52 m で深さ約 16cm を測る。断面形は緩やかな立ち上がりを持つレンズ状で埋土は褐灰色砂質土で灰色粒子が混じる。埋土中からは遺物は出土していない。

溝跡・流路 (SD・SR)

溝跡・流路はSD5001～5003とSR5001の遺構番号を付け調査した。SD5001はSB5001に付属する溝状土坑の可能性が高くSB5001で取り扱った。

SD5002

SD5002は調査区南東隅で検出した不整形で弧状の平面プランを持つ遺構である。便宜上溝跡としたが遺構の性格は不明である。遺構断面形は片側は緩やかな斜面で片側はしっかりした直角三角形の不整形なもので埋土は褐灰色を基本とした粘砂土である。埋土中からは土師器、須恵器の細片が出土している。

SD5003

SD5003は調査区南東隅で検出した不整形な落ち込みである。南側は調査区に切られ検出できなかった。埋土は灰褐色を基本としたものである。埋土中からは土師器、須恵器が出土している。遺構の性格は不明である。

SR5001

SR5001は調査区北東隅で検出した自然の落ち込みと考えられる。最も深い部分は検出面からの比高は約2mで標高1.9mを測る。調査区北壁では東西方向に急激な落ち込みが確認でき、西壁では南に向かって緩やかに上がっている事が確認できた。北西方向を軸方向とした地形の落ち込みがあったと考えられる。SR5001の埋土はセクション図の1～19層で埋土中からは遺物の出土は少ないが最下層から須恵器が出土している。また埋土中からは瓦器、土師器細片も出土しており最終的に中世に1層である淡赤褐色粘砂土が一気に1m近く堆積し埋没したと考えられる。

遺構名	長さ×幅×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	接続	出土遺物	時期	備考
SD5001	9.00 × 0.70 × 0.40	直線状	舟底形	N - 47° - W		弥生土器	弥生	SB5001に付属
SD5002	5.75 × 1.30 × 0.32	へ字状	直角三角形	-		土師器・須恵器		
SD5003	4.40 × 1.30 × 0.32	直線状	逆台形	N - 54° - E		土師器・須恵器		
SR5001	10.20 × 5.80 × 1.47	-	V字状	N - 19° - E		土師器・瓦器・須恵器		

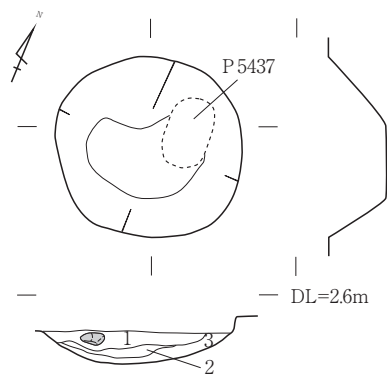
表6-12 最下面溝跡一覧表

ピット (P)

ピットはP5001～5544までの遺構番号を付けたが、精査の結果、遺構と確認できなかったものや上層の遺構残滓であったものが45個あったためピットと確認できたのは499個である。ピットの分布は上層で確認できたピットと異なり規則性や密集は見い出せず散漫に分布し、切り合うものも少なかった。建物跡は1棟復元でき10個のピットを柱穴として確認できた。その他は建物跡は復元できなかった。ピットの検出埋土は暗灰褐色土と黄褐色に灰褐色が混じる土の2種類が大部分を占め、わずかに灰色土など見られる。埋土中から遺物が出土したピットは30個で検出ピット数に比べると少ない。何れも細片で図示できたものはP5417出土の縄文土器203のみである。

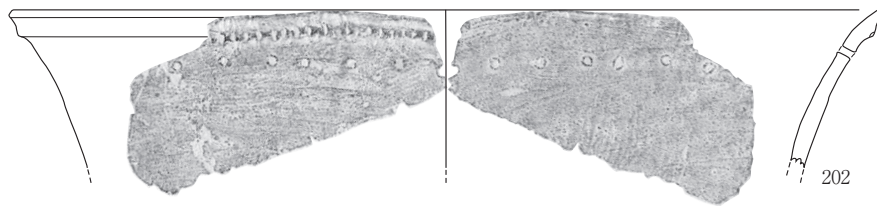
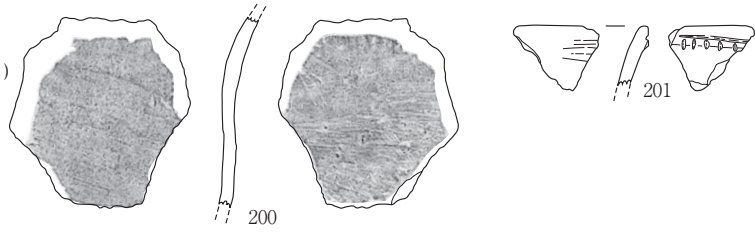
P5417

P5417は調査区西側中央に位置する楕円形の遺構で長軸0.58m、短軸0.48m深さ14cmを測る。埋土中からは縄文土器の中片2点、細片13点が出土し、中片は接合でき203として図示できた。壺型の土器で外面は全面丁寧に磨かれている。縄文時代晩期の土器でSK5004出土の土器と同時期と考えられる。

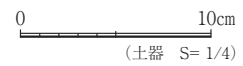
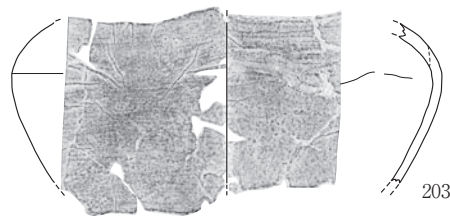


SK5004

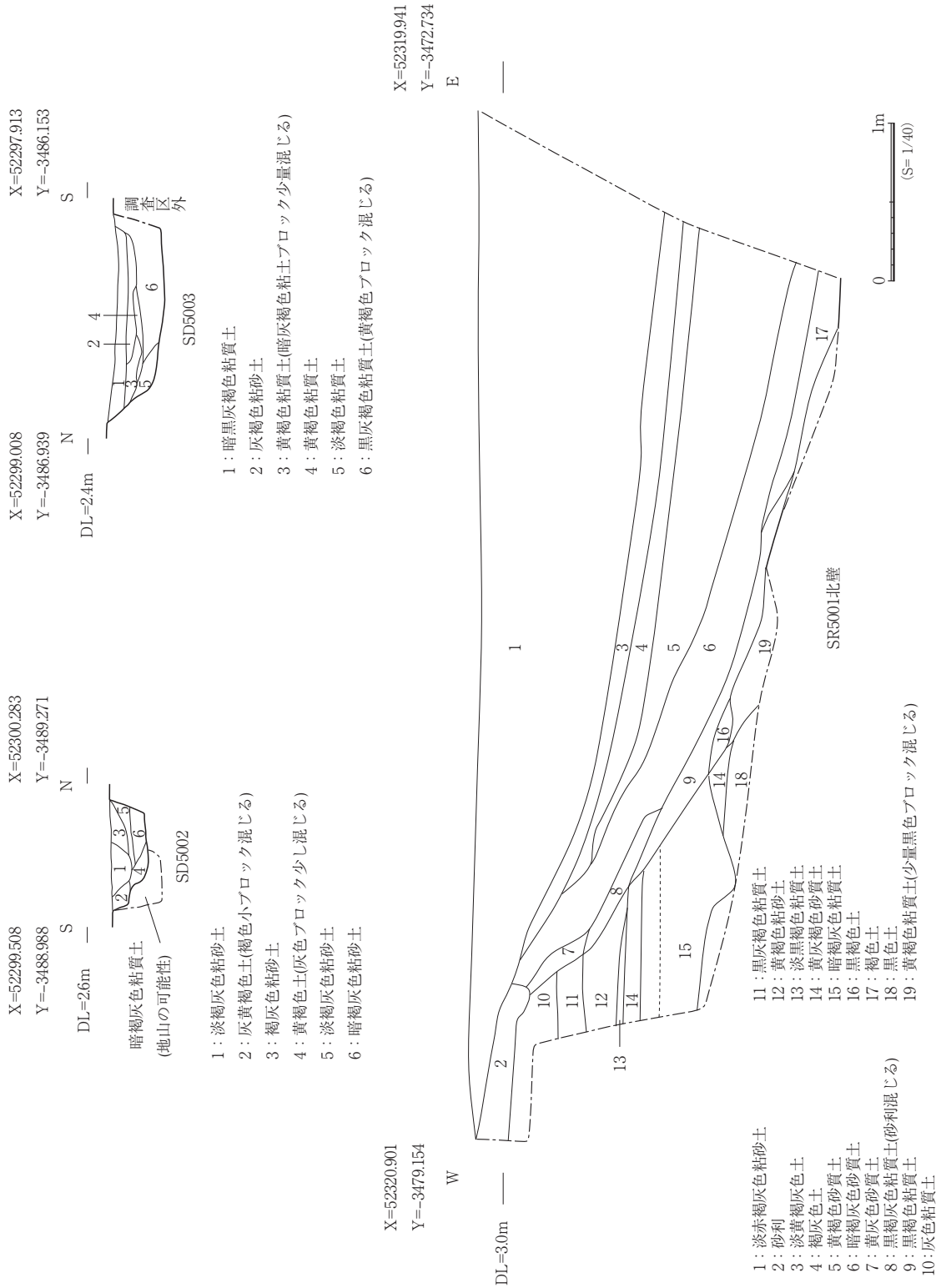
- 1: 淡黄灰褐色砂質土 (褐色粒子混じる)
- 2: 淡黄灰褐色砂質土 (暗灰褐色ブロック混じる)
- 3: 淡灰褐色砂質土 (褐色粒子混じる)



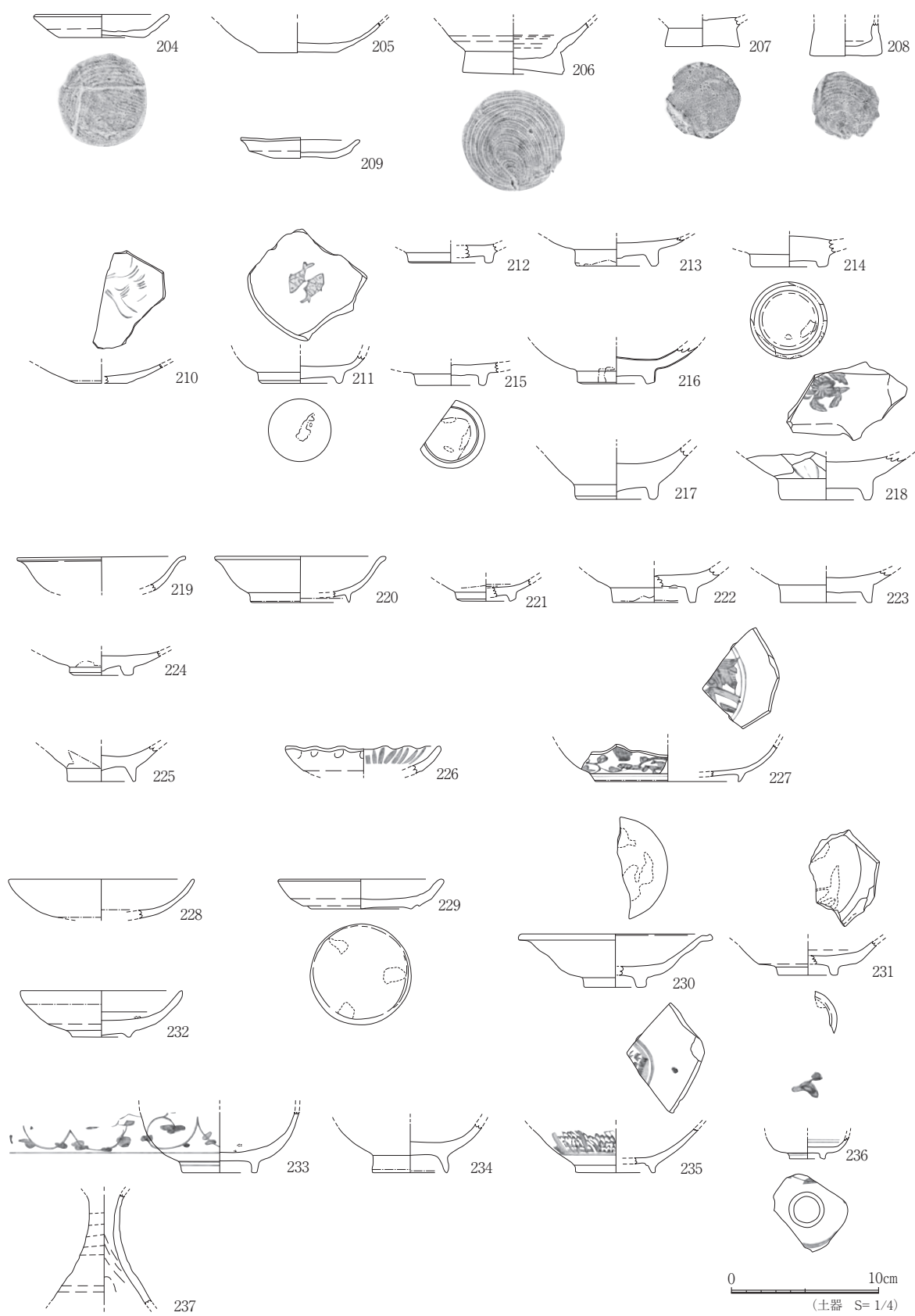
P5417 遺物出土状況



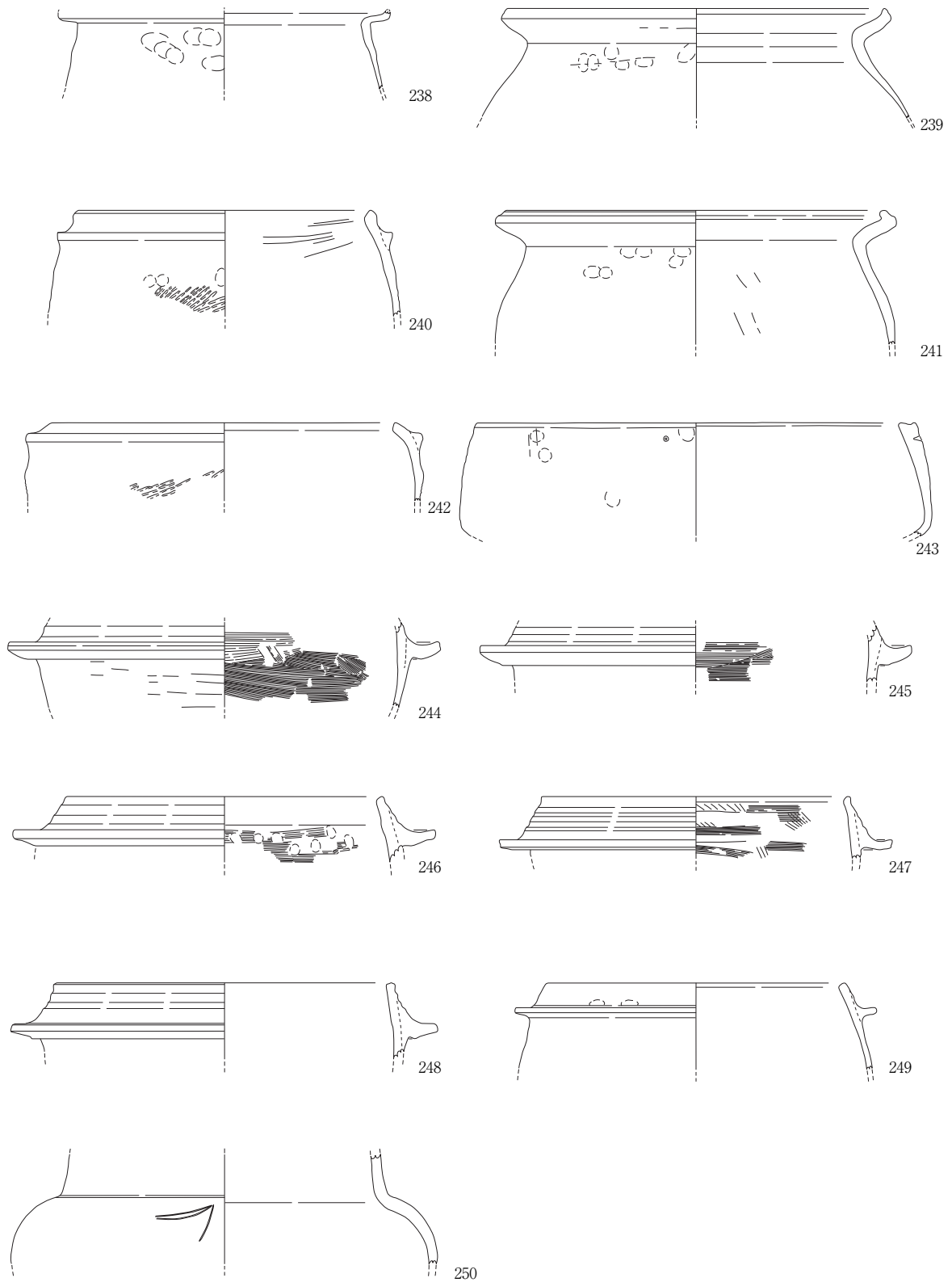
6 - 24 図 SK5004・P5417



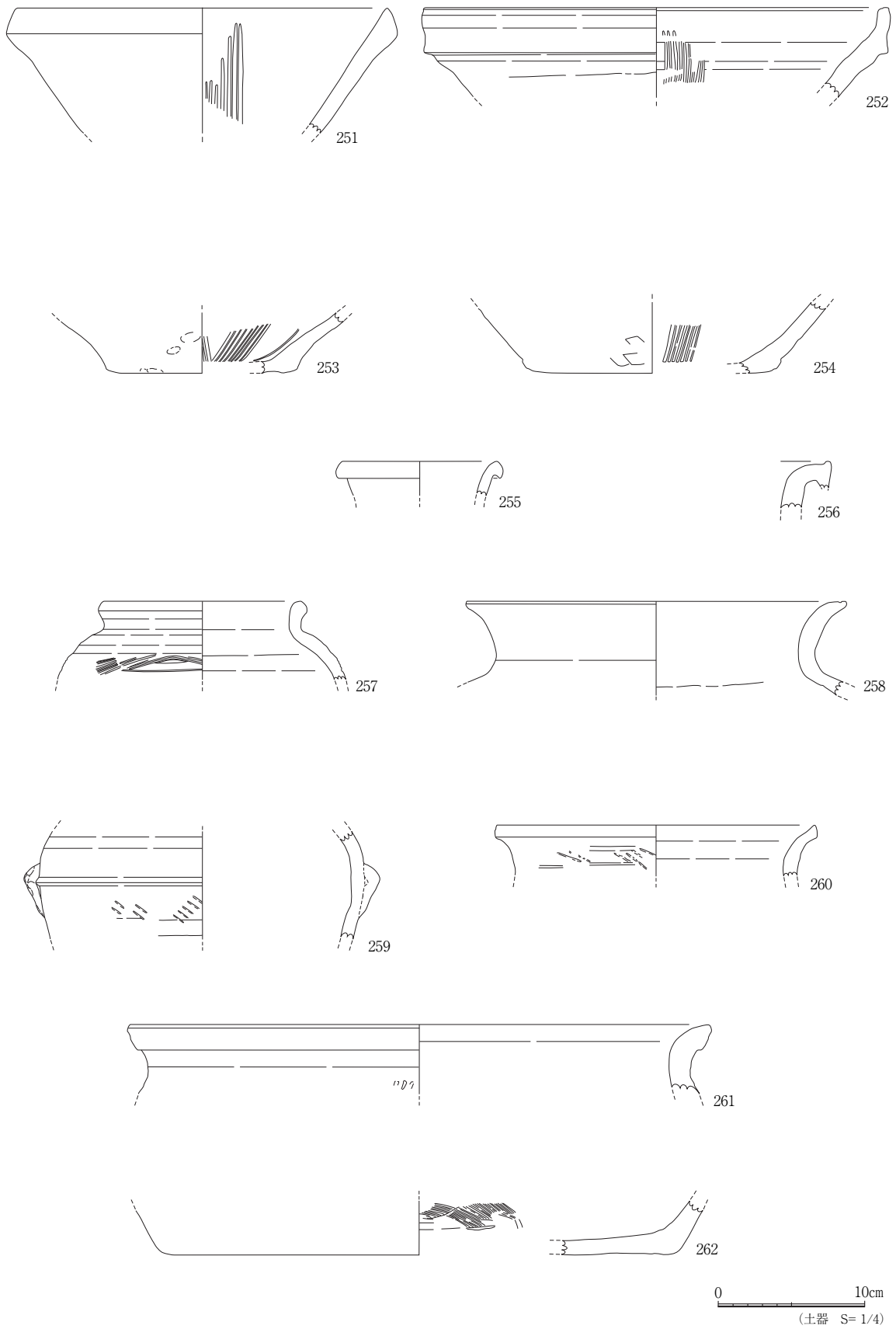
6 - 25 図 SD5002・5003・SR5001



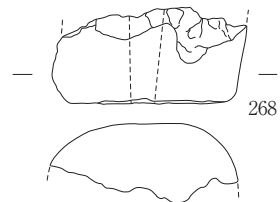
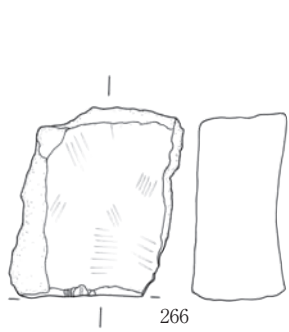
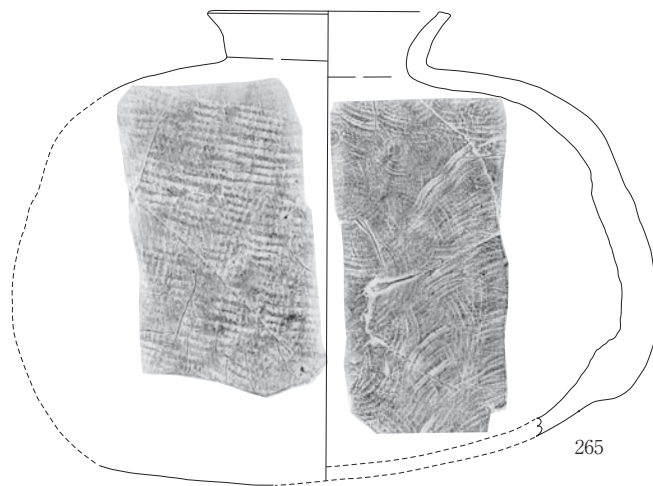
6-26 図 包含層 1 出土遺物 1



6-27 図 包含層1出土遺物2



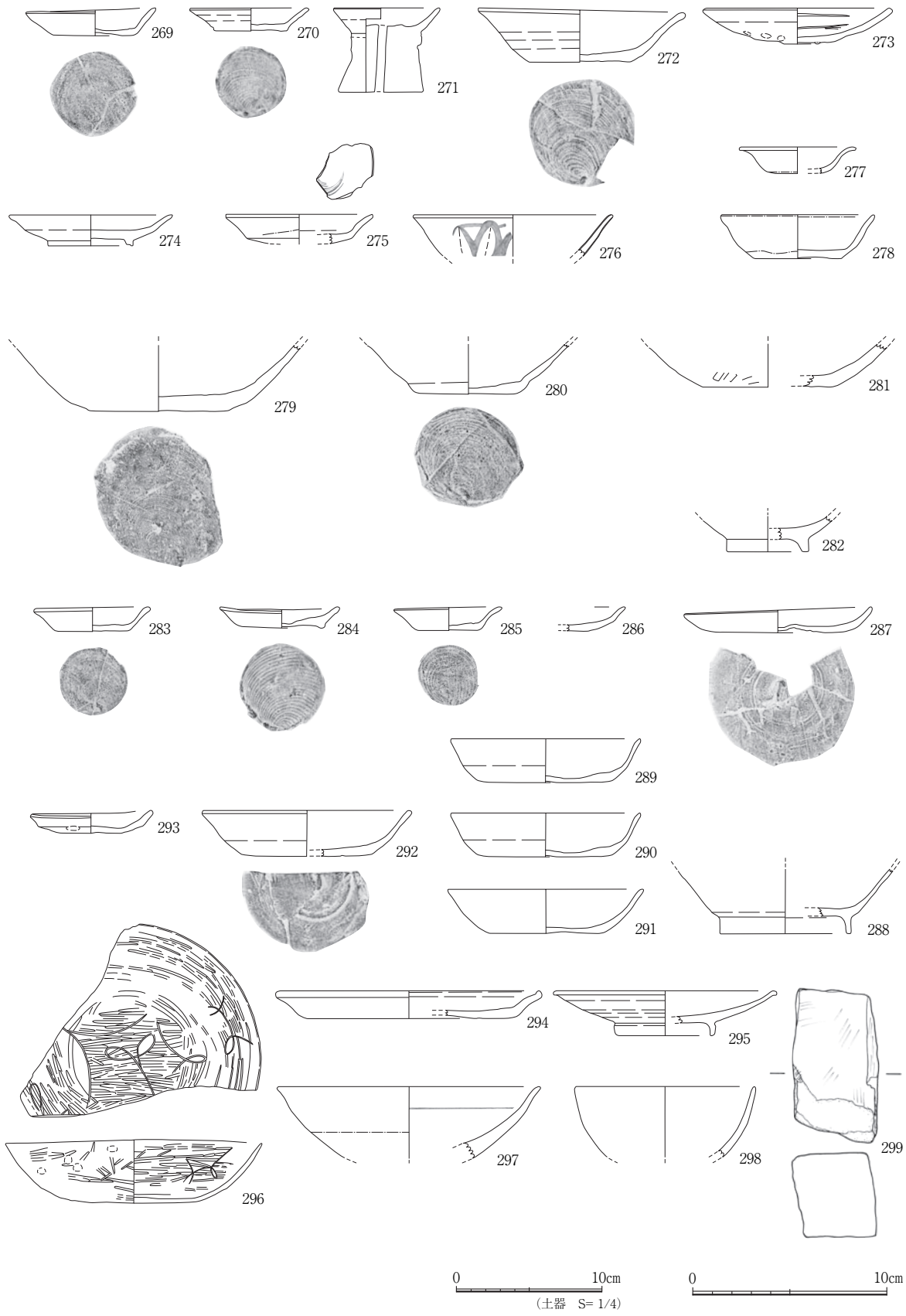
6 - 28 図 包含層 1 出土遺物 3



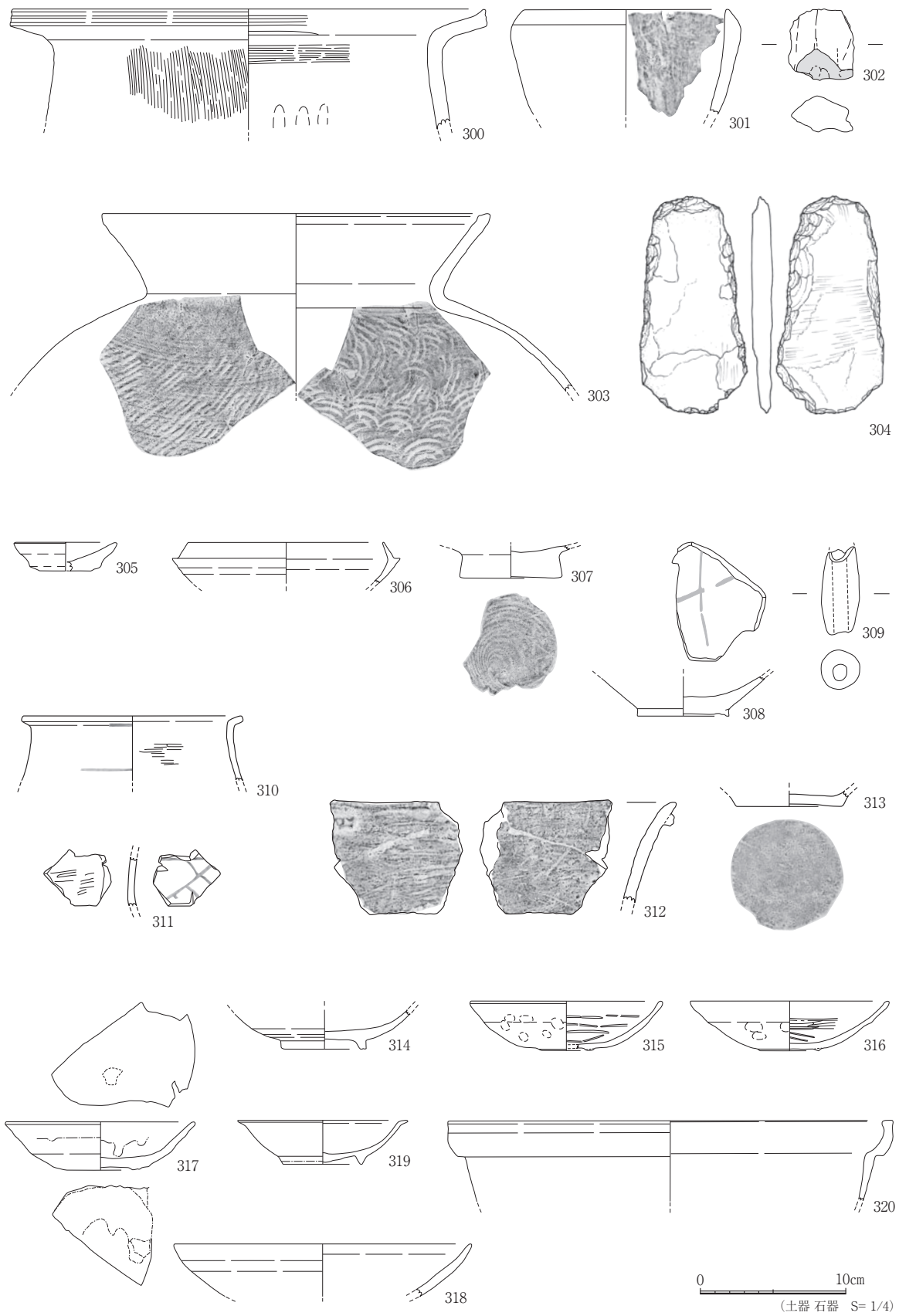
0 10cm

0 10cm
(土器 S= 1/4)

6-29 図 包含層1出土遺物4



6 - 30 図 包含層 2・3 出土遺物



6-31 図 包含層3~5・トレンチ出土遺物

遺物觀察表

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-5	1	近世陶磁器	小椀	SK4	マ	10.1	3.55	4.4	灰白	灰白	良	底部完形、口縁周2/3残	濁った釉、二次被熱によるか、体部下から露胎、内底中央、口縁一部焼け	近世陶磁器
1-5	2	土製品	土鍾	SK4	マ	全長3.45	全幅1.35	孔径0.45				片側端部欠損		重量3.6g
1-5	3	石器	砥石	SK4	マ	全長7.5	全幅5.7	全厚3.9						重量3100g
1-5	4	土製品	土鍾	SK11	マ	全長3.9	全幅1.5	孔径0.5				両端部欠損		重量6.4g
1-5	5	近世陶磁器	皿	SK15		13.0	2.9	5.6	灰白	灰白	良	底部1/3、口縁わずかに残	口縁弱い輪花状、口縁鉄サビ状、濁った灰白色釉に呉須で内底へ施文、畳付のみ露胎。	近世陶磁器
1-5	6	土師質土器	小皿	SK16		(1.6)			にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部、口縁周ともわずかに残	大きく開く口縁。	
1-5	7	土師質土器	小皿	SK24	マ	(1.6)			にぶい黄橙	にぶい黄橙	良	底部、口縁周ともわずかに残	外反して水平に開く口縁。	
1-5	8	瓦質土器	羽釜	SK36	マ	(3.4)			灰	暗灰	良	口縁わずかに残	直線的な口縁、端部は面をなす、断面三角形の小さく雑な鈔。	
1-5	9	瓦器	皿	SK37	マ	8.2	1.1	5.2	灰	灰	細かな白色砂粒入る	口縁周1/2残	扁平な器形、口縁大きく開く、口縁体部間接になる。外面口縁強いナデ。切り離しなし。	内面炭素吸着弱い
1-5	10	土師質土器	小皿	SD1	下層	6.5	1.6	4.4	浅黄橙	浅黄橙		底部周、口縁周ともわずかに残	平底から直線的に立ち上がる。外面回転ナデ。回転糸切り。	
1-5	11	土師質土器	小皿	SD1	下層	(1.6)			浅黄	浅黄	良	底部、口縁ともわずかに残	大きく開く口縁。	
1-5	12	土師質土器	皿	SD1	下層	9.4	1.6	7.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、口縁周ともわずかに残	平底から短く開く、内底中央盛り上がる。切り離し後調整。	
1-5	13	近世陶磁器	椀	SD1		(3.0)	5.0	淡黄	淡黄	良	高台周2/3残	ハの字に開く三角形の高台、畳付のみ露胎。	近世陶磁器、唐津か京焼	
1-5	14	土製品	土鍾	SD1	下層	全長5.1	全幅1.85	孔径0.5				欠損後摩耗か		重量10.9g
1-5	15	土製品	土鍾	SD1	最下層	全長4.9	全幅1.2	孔径0.45				片側欠損、摩耗		重量4.9g
1-5	16	備前焼	播鉢	SD1	下層	27.0	(5.8)		にぶい赤褐	にぶい赤褐	3mm大の砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁端部斜面、拡張弱い。外内面横ナデ。	備前Ⅲ期
1-5	17	備前焼	播鉢	SD1	最下層	34.6	(5.5)		灰褐	灰褐	砂粒多	口縁周わずかに残	口縁切りっぱなし状で斜面。内面横ナデ。	備前Ⅲ期
1-5	18	土師質土器	播鉢	SD1	最下層	(6.3)			褐	褐	砂粒多	口縁周わずかに残	口縁端部斜面わずかに拡張。	備前Ⅲ期
1-5	19	瓦質土器	羽釜	SD2	最下層	23.9	(4.6)		灰	灰	砂っぽい胎土	口縁周わずかに残	口縁上部のみ凹線による段状、口縁、鈔一体状。外面体部横方向ケズリ、内面強い横ハケ。	河内型
1-5	20	土師質土器	播磨型羽釜	SD2	マ	18.6	(2.5)		橙	明黄褐	細かな砂粒	口縁周わずかに残	短く立ち上がる口縁、小さな三角形の鈔。	播磨型羽釜
1-5	21	土師質土器	播磨型羽釜	SD2	マ	21.0	(3.15)		にぶい橙	灰褐	細かな赤色砂粒多	口縁周わずかに残	内傾する口縁、小さな鈔。	播磨型羽釜、Ⅶ期、1520～
1-5	22	土師質土器	小皿	SD5	マ	9.0	1.4	7.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな赤色の砂粒入る	底部、口縁ともわずかに残	扁平な器形。切り離し後調整か。	
1-5	23	瓦質土器	羽釜	SD7	マ	25.8	(6.7)		灰	灰	チャート粒入る	口縁周わずかに残	口縁、凹線により段状になる。外面胴部横方向ヘラケズリ、内面口縁下強い横ハケ。	河内型羽釜
1-5	24	青磁	椀	SD9	下層	17.2	(2.7)		オリブ灰	オリブ灰	良	口縁周わずかに残	外面弱い筋のある蓮弁文。	青磁椀1-5類
1-5	25	土師器	杯	SD9	①、下層	(2.2)	8.5		浅黄橙	橙	赤色の砂粒入る	高台周一部残、摩耗	断面長方形で薄く高い高台。	土師器杯の可能性
1-5	26	土製品	土鍾	SD9	マ	全長4.4	全幅1.4	孔径0.35				両側端部欠損、摩耗		重量8.6g
1-5	27	東播系須恵器	片口鉢	SD11	マ	31.2	(5.0)		灰	灰	白い砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁端部上方に拡張大きい。外四面とも回転ナデ。	東播系須恵器片口鉢
1-5	28	瓦質土器	羽釜	SD12		20.0	(6.4)		黄灰	黒褐	チャート砂粒入る	口縁周1/3残	口縁部短め外面段状しっかりした鈔。内面横方向ハケ、外面横方向ヘラケズリ。	河内型(14世紀後～15世紀中)か
1-5	29	土師質土器	羽釜	P1	マ	24.5	(4.85)		黄橙	明黄褐	細かな赤色砂粒多	口縁一部残	内傾する口縁、短いがしっかりした鈔。外面口縁、鈔横ナデ、胴部平行タタキ、内面口縁横ナデ、胴部横ハケ。	播磨型羽釜、Ⅴ期か
1-5	30	瓦器	皿	P16	マ	9.6	0.95		灰	灰	桃色の砂粒入る	口縁周わずかに残	扁平な器形、口縁体部間接有り。外面口縁ナデ。	
1-5	31	青磁	椀	P18	マ	14.7	(4.15)		明緑灰	明緑灰	良	口縁周一部残	丸い体部口縁部雷文帯。	
1-5	32	土師質土器	杯	P21	マ	11.6	3.3	5.6	橙	橙	細かな青色砂粒入る	底部2/3残、口縁1/3残、摩耗	薄く開く体部、外面回転により段状。外面強い回転痕。糸切り。	
1-5	33	土師質土器	羽釜	P21	マ	26.0	(5.7)		にぶい黄橙	灰黄橙	細かな赤色砂粒多	口縁周わずかに残	口縁端部凸面状、体部直線的。外面凹凸残、内面横ナデ。	播磨型羽釜

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
1-5	34	土師質土器	羽釜	P21	マ	20.4	(8.6)		橙	橙	細かな砂粒多	口縁周わずかに残	口縁短く反りぎみ、小さな鏝が付く。外面平行タタキ、内面回転ナデ。	捕磨型羽釜	
1-5	35	土師器	甕	P30	マ	20.7	(2.4)		明赤褐	灰褐	細かな砂粒多	口縁周わずかに残	口縁凹面状、端部つまみ上げ。	紀伊型甕か	
1-5	36	須恵器	蓋	P45、柱痕	マ	14.0	(1.6)		灰	灰	細かな白い砂粒多	口縁わずかに残	平坦な天井部から直線的な口縁部、端部わずかに引き出され面をなす。外面天井部ヘラケズリ、口縁回転ナデ、内面天井部横ナデ。		
1-5	37	土師質土器	羽釜	P45、柱痕	マ	19.6			橙	橙	細かな砂粒多	口縁周わずかに残	反りぎみの短い口縁、小さな鏝が付く。内面口縁横ナデ。	捕磨型羽釜	
1-5	38	石器	砥石	P48		全長13.5	全幅4.2	全厚9.8							重量 102g
1-5	39	土師質土器	杯	P50	マ	12.7	4.85	5.9	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒入る	底部周、口縁周ともわずかに残	深めの体部、外面ナデにより段状。外面強い回転ナデ、内面回転ナデ。切り離し後調整。		
1-5	40	瓦器	皿	P64	マ	6.5	(1.5)		灰	灰	良	口縁周わずかに残	口縁外反。外面口縁ナデ。	いぶし銀状	
1-5	41	鉄器	鉄族	P105	マ	全長13.7	全幅5.8	全厚2.0						雁股鏃、大型、鏃全体に厚く付着	重量 103.6g
1-5	42	土製品	土錘	P144	マ	全長4.1	全幅1.15	孔径0.4					土錘両側端部欠損		重量 4.6g
1-5	43	瓦器	椀	P148	マ	13.7	4.0	3.2	灰	灰	細かな白い砂粒	口縁2/3残	全体に歪む、高台退化全周まわらず。外面口縁弱いナデ、内面ミガキわずかに痕跡有り。切り離しなし。	IV-2期以降、13世紀3/4～	
1-5	44	須恵器	壺	P148	マ		(11.6)	11.0	灰白	灰白		底部周1/3残	唇寄底状になり、高台状に見えない。外内面回転ナデ。	火ブクレ2ヶ所	
1-5	45	土製品	土錘	P155	マ	全長4.8	全幅1.65	孔径0.5					完形か中型		重量 11.0g
1-5	46	土製品	土錘	P155	マ	全長3.4	全幅1.3	孔径0.35					両側端部欠損、摩耗		重量 4.3g
1-5	47	土師器	椀	P157	マ		(1.4)		灰白	灰白		高台周わずかに残	断面逆台形状のしっかりした高台。	生焼け状	
1-5	48	土師質土器	杯	P160	マ	15.5	(3.0)		にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒	口縁周わずかに残	口縁端部外反ぎみ、丸い。外面幅の広い強い回転ナデ。	杯か	
1-5	49	青磁	椀	P161	マ	16.4	(2.6)		オリーブ灰	オリーブ灰	良	口縁周わずかに残	外反する口縁、厚手の軸。		
1-5	50	鉄器	板状鉄器	P185	マ	全長5.7	全幅5.6	全厚0.8						扁平で平坦な板状、孔等なし	重量 40.5g
1-5	51	瀬戸	卸皿	P265	マ		(1.1)	5.4	灰白	灰白	良	底部わずかに残	卸皿わずかに軸、丸みを帯び立ち上がる。回転糸切り。		
1-5	52	瓦質土器	鍋	P295	マ	19.8	(4.0)		灰白	灰	丸い砂粒入る	口縁周わずかに残	短く直立ぎみの口縁。	土佐型鍋	
1-5	53	瓦器	椀	P298	マ	14.6	(2.6)		灰	灰	チャート入る	口縁周わずかに残	口縁外反長い、ナデは一段。外面口縁ナデ。	二次被熱か、表面敲打状に剥離	
1-5	54	白磁	皿	P302	マ		(1.7)	7.0	灰白	灰白	良	高台周一部残	低く幅の広い削り出し高台。	白磁椀IV類底部か	
1-5	55	瓦器	皿	P306	マ	7.4	1.5	(5.4)	灰	灰		口縁周わずかに残	口縁体部境後有り。内外面とも口縁ナデ。切り離しなし。	降灰状付着物	
1-5	56	備前焼	播鉢	P309	マ	27.9	(7.8)		にぶい橙	にぶい橙	大きな砂粒入る	口縁周一部残	口縁端部上方に拡張。外内面とも回転ナデ。	備前IV期	
1-5	57	備前焼	播鉢	P309	マ	30.6	(9.45)		灰褐	灰褐	大きな砂粒入る	口縁周1/4残	口縁端部上方に拡張。内面回転ナデ痕。	備前IV期	
1-5	58	青銅	煙管	P320	マ	1.4	(0.9)						緑青有、銅製品煙管の火皿か	重量 1.1g	
1-5	59	鉄器	鉄釘	P328	マ	全長7.6	全幅1.0	全厚0.6				鉄釘、頭部わずかに曲り欠損、	大型	重量 6.8g	
1-5	60	白磁	椀	P342	マ		(1.9)	3.1	灰白	灰白	良	高台周完形	全面施釉。	小型、近世以降の可能性も	
1-5	61	鉄器	鉄釘	P342	マ	全長2.4	全幅1.1	全厚0.6				鉄釘、頭部折り曲げ、未処理		重量 1.6g	
1-5	62	天目茶椀	椀	P375	マ	10.4	(3.7)		黒	黒	良	口縁周わずかに残	直立ぎみで外反する口縁。		
1-5	63	土師質土器	小皿	P386	マ	6.9	1.45	4.4	灰白	淡黄	細かな砂粒多	底部周、口縁周ともわずかに残	体部下で屈曲ぎみ。外面口縁回転ナデ。回転糸切り。		
1-5	64	土師質土器	杯	P431	マ		(2.25)	4.8	にぶい橙	にぶい橙	砂粒多く入る	高台周わずかに残、摩耗	平底から腰を持ち立ち上がり、中央部より外反ぎみ。回転糸切りの可能性。		
1-5	65	土師質土器	小皿	P431	マ	6.4	(1.25)	4.5	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、口縁周ともわずかに残	平底から短く開口縁。		
1-5	66	鉄器	鉄釘	P458	マ	全長7.2	全幅1.5	全厚0.6				先端欠損	鉄釘、頭部折り曲げ、	重量 9.0g	
1-5	67	瓦器	皿	P460	マ	7.9	1.6		灰	灰	チャート粒入る	完形	器高低く扁平全体に歪み。外面口縁弱いナデ。切り離しなし。		
1-5	68	土師質土器	小皿	P482	マ	7.0	1.8	4.8	橙	浅黄橙	赤色砂粒入る	底部周1/4残、口縁わずかに残る	平底から立ち上がる。回転糸切り。		
1-5	69	石器	石鏃	P486	マ	全長2.0	全幅1.4	全厚0.4							重量 0.9g
1-5	70	青磁	椀	P525	マ		(3.2)		オリーブ灰	オリーブ灰	良	口縁周わずかに残	うす手、口縁外反。		
1-5	71	白磁	皿	P531	マ		(1.6)	5.0	灰白	灰白	良	高台周完形	濁った乳白色釉、目跡、体部下より露胎、高台六角形状。	白磁丸皿か、15世紀後半～	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-5	72	土師質土器	羽釜	P532	マ	18.9	(3.4)		橙	にぶい褐	チャート多、細かな雲母入る	口縁周わずかに残	内傾する短い口縁、胴部より突出しない小さな鈿。内面口縁横ナデ。	播磨型羽釜
1-5	73	黒色土器A類	椀	P541	マ		(0.8)		黒	橙	角閃石入る	高台わずかに残	断三角形の小さな口縁。内面ミガキ痕有り。	胎土はあまり在地と変わらず
1-5	74	白磁	皿	P549	マ	11.2	(1.8)		灰オリーブ	灰オリーブ	良	口縁周一部残	直線的な口縁、内面段を持ち屈曲、口縁端部まで施軸。	
1-5	75	土師質土器	杯	P574	マ		(2.3)	5.6	にぶい黄橙	灰黄褐	良	底部周1/4残	平面から腰を持ち立ち上げる。回転糸切り。	
1-5	76	土師器	杯	P595	マ	14.4	(3.2)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒多	口縁周わずかに残	口縁直立ぎみに外反、厚い、体部丸みを帯びる。外面口縁ナデ。	
1-5	77	青磁	椀	P616	マ		(205)	5.4	オリーブ灰	オリーブ灰	良	高台周1/3残	厚い底部、畳付の一部まで軸。	
1-5	78	土師質土器	小皿	P616	マ		2.2		にぶい褐	にぶい褐	良	底部周、口縁周ともわずかに残		土師質小皿か
1-5	79	土師質土器	小皿	P626	マ	7.9	1.5	6.4	浅黄褐	浅黄褐	砂っぽい胎土	底部周、口縁周とも一部残、摩耗	扁平な器形、口縁短く立ち上がる。糸切り。	
1-5	80	瓦器	皿	P631	マ	8.0	(1.4)		黒灰	黒灰		口縁周わずかに残	口縁外反。外面口縁ナデ。	外内面降灰状付着物
1-5	81	土製品	土錘	P645	マ	全長4.3	全幅1.0	孔径0.3				片側端部欠損		重量3.9g
1-5	82	土師質土器	小皿	P663	マ	7.8	1.4	5.3	にぶい橙	にぶい橙		底部周、口縁周一部残	わずかに丸みを帯び立ち上がる。回転糸切り。	外面糸切り時の糸痕か
1-5	83	土師質土器	柱状高台小皿	P663	マ	7.4	5.05	5.6	灰黄褐	灰黄褐	砂粒多	高台ほぼ完形、口縁1/3残	底部中央近くに径12mmの焼成前穿孔。回転糸切り後調整か。	燗台状土器か
1-5	84	土師質土器	羽釜	P673	マ	22.4	(5.1)		橙	橙	細かな砂粒多	口縁わずかに残	短な口縁、体部より外に出ない小さな鈿。外面鈿下平行タタキ、内面口縁横ナデ。	播磨型羽釜
1-5	85	土師質土器	杯	SK61	マ	11.8	3.1	6.6				底部周、口縁周ともわずかに残、摩耗	直線的に開く体部。外面回転ナデ痕。回転糸切り後ヘラ起し。	
1-5	86	近世陶磁器	皿	SK64	マ		(2.1)	5.0	灰白	灰白	良	高台周1/2残	青みがかった濁った軸、内底見込くすんだ青色の呉須で文様、畳付砂跡。	漳州窯?
1-5	87	土師質土器	小皿	SK66	マ	8.4	(1.3)		浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒	底部周、口縁周とも一部残、摩耗	口縁ナデによって立ちぎみ。外面体部、口縁端部と三段にナデ。糸切り。	
1-5	88	石器	砥石	SE1	マ	全長6.9	全幅2.7	全厚2.3						重量76.2g
1-5	89	白磁	皿	SD15	マ		(1.7)	4.2	灰白	灰白	良	高台周1/2残	五角形状の高台から大きく開く、体部下部より露胎。	
1-5	90	土師質土器	小皿	SD15	マ	6.5	1.75	4.8	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周1/2、口縁周わずかに残	平底から直線的に立ち上がる。回転糸切り。	埋没時付着物多
1-5	91	備前焼	播鉢	SD15	マ		(6.1)		黒褐	黄灰	白い角礫多	口縁周わずかに残	口縁端部拡張なく斜面。外内面とも横ナデ。	備前Ⅲ期
1-5	92	土師質土器	羽釜	SD15	マ	25.2	(3.05)		橙	にぶい橙	細かな白色砂粒入る	口縁わずかに残	短く反る口縁、端部肥厚。外面口縁、口縁端部横ナデ、内面横ナデ。	播磨型羽釜
1-5	93	土師質土器	羽釜	SD15	マ	22.6	(4.8)		橙	橙	細かな白い砂粒入る	口縁周わずかに残、鈿先端欠損	短く反る口縁、口縁端部面をなす。外面口縁、口縁端部ナデ。	播磨型羽釜
1-5	94	瓦器	皿	SD16	マ上層	6.0	1.25	4.6	灰	灰	細かな白色砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁体部境明瞭。切り離しなし。	降灰状付着物
1-5	95	青磁	椀	SD16	マ上層		(2.5)	6.4	オリーブ	オリーブ	細かな白い砂粒キズ有り	高台周わずかに残	厚い底部に比して低い高台、高台見込蛇ノ目状。	
1-5	96	備前焼	壺	SD16	上層	15.0	(3.55)		灰褐	にぶい赤褐	砂粒多く入る	口縁わずかに残	玉縁状の口縁。	備前壺の口縁、備前Ⅲ～Ⅳ期
1-5	97	土師質土器	小皿	SD16	マ	7.4	1.7	4.4	淡赤橙	淡赤橙	細かな砂粒多	底部周わずかに残	平底から直線的に平く。回転糸切り。	
1-5	98	瓦器	皿	SD16	マ	6.9	0.85	5.8	灰	灰	細かな黒色砂粒入る	口縁周一部残	扁平器形、口縁短く反る。外内面とも口縁横ナデ。切り離し痕なし。	降灰状付着物
1-5	99	土製品	土錘	SD16	マ	全長4.5	全幅1.1	孔径0.4		橙		両側端部欠損、摩耗		重量4.1g
1-5	100	土師質土器	羽釜	SD16南東隅	マ	21.4	(3.9)		にぶい橙	にぶい橙	細かな白色砂粒入る	口縁わずかに残	短く反りぎみの口縁、端部肥厚ぎみの斜面、小さな鈿。外面口縁横ナデ、内面横ナデ。	播磨型羽釜
1-5	101	瓦質土器	羽釜	SD16	マ	21.8	(9.7)		黄橙	黄褐	細かな白色砂粒入る	口縁一部残	短く反りぎみの口縁、端部面をなし斜面、小さな鈿が付く。外面口縁横ナデ、鈿下横ナデ、胴部平行タタキ、内面横ナデ。	胴部外面凸出、播磨型羽釜
1-5	102	土師質土器	羽釜	SD16南東隅	マ	19.8	(6.2)		浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒多	口縁周わずかに残	短い口縁、端部丸い、小さな鈿。外面鈿下粗い重弧文状の髷描き、内面口縁まで横ハケ。	播磨型に似せるか、108と同一個体か

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-5	103	瓦質土器	羽釜	SD16	マ	22.0	(5.9)		暗灰	黒	白い砂粒多く入る	口縁わずかに残	口縁凹線により段状、大きくしっかりした鈔が付く。外面口縁回転ナデ、鈔下横方向ヘラケズリ、内面横ハケ。	河内型羽釜
1-5	104	瓦質土器	羽釜	SD16	マ	21.9	15.2		黄灰	黒灰	砂粒細か	口縁わずかに残	口縁凹線により段状、大きくしっかりした鈔、鈔端部面。外面口縁ナデ、鈔下横方向ケズリ、内面口縁ナデ、口縁下粗い横ハケ。	河内型羽釜
1-5	105	白磁	皿	SD17	マ		(1.4)	4.8	灰白	灰白	良	高台完形	アーチ状高台、体部下半より露胎、アーチ状部分割りうすい。	15世紀後半か
1-5	106	土師質土器	羽釜	SD16 SD18	マ	25.2	(4.9)		にぶい橙	にぶい橙	細かな砂粒多、細かな雲母入る	口縁一部残	短く内傾する口縁、口縁端部斜面、短い鈔受け状に上方を向く。外面口縁横ナデ、胴部平行タタキ、内面口縁横ナデ、口縁下横ハケ。	播磨型羽釜
1-5	107	石器	砥石	SD18	マ	全長 9.8	全幅 6.4	全厚 2.0					断面、多角形状、すべての全表面粒子磨減する、砥石の可能性高い	重量 135.5g
1-5	108	土師質土器	羽釜	SD18	マ	23.1	(11.2)		橙	褐灰	細かな砂粒多	口縁周 1/4 残	短な口縁、口縁端部拡張なく上方を向く、鈔小さいが最大径は鈔にある、外面鈔下、上胴部重弧状の粗いハケ、下胴部斜方向を基本とする粗いハケ。外面鈔オサエ、胴部粗いハケ、内面口縁指オサエ、内面横ハケ。	口縁、播磨型に似る
1-5	109	瓦質土器	羽釜	SD18	マ	22.6	5.8	灰	灰	灰	細かな白色砂粒多く入る	口縁一部残	内傾ぎみの口縁凹線により段状になる、しっかりした鈔が付く。外面鈔下横方向ヘラケズリ、内面口縁横ナデ、口縁下横ハケ。	河内型羽釜
1-5	110	土師器	杯	SD19	マ	13.9	3.1	7.9	灰白	灰白		口縁周 1/3 欠損	平底、腰甘く丸みを帯びた体部。外面回転痕。切り離し不明。	土器集中2、一括取りあげ
1-5	111	土師器	皿	SD19	マ	14.6	(1.6)	9.8	黄橙	黄橙	赤色砂粒入る	口縁周一部残	底部、体部境甘い、口縁外反。口縁二段に横ナデ。切り離し痕不明。	
1-5	112	須恵器	蓋	SD19	マ	12.4	(0.7)		灰白	灰白	良	口縁わずかに残	平坦な天井部、口縁下方につまみ出す。外面天井部回転ナデ。	須恵器壺蓋
1-5	113	土師器	蓋	SD19	マ	18.8	(1.8)		にぶい黄橙	にぶい黄橙		口縁周一部残	扁平な器形、ゆるやかに丸みを帯びた口縁、端部わずかにつまみ出し面。口縁端部外内面とも回転ナデ。	土器集中2、一括取りあげ
1-5	114	土師器	皿	SD19	マ	16.3	2.0	13.5	橙	橙		口縁周 1/3 欠損	扁平な器形、口縁端部外反。外面口縁回転ナデ。底部切り離し痕なし。	外内面とも一部にタール状付着土器集中2、一括取りあげ
1-5	115	土師器	甕	SD19	マ	22.6	(3.5)		褐	橙	砂粒多く入る	口縁わずかに残	内面に稜を持ち開く口縁、端部凹面状、つまみ上げなし。外面口縁端部ナデ、胴部縦ハケ、内面口縁から横ハケ。	
1-5	116	須恵器	甕	SD19	マ		(35.1)		灰	灰	白い砂粒多	口縁、底部欠損	胴部中央に最大径か、頭部短く直立ぎみ。外面格子目タタキ、内面青海波が残る。	土器集中2 一括
1-5	117	土製品	土鉢	SD19		全長 3.55	全幅 1.0	孔径 0.3				両側端部欠損		重量 3.5g 土器集中2、一括取りあげ
1-5	118	土製品	土鉢	SD19	下層	全長 4.1	全幅 1.1	孔径 0.4				両側端部欠損、摩耗		
1-5	119	石製品	軽石	P719	マ	全長 4.6	全幅 2.15	全厚 4.7						重量 9.7g
1-5	120	土製品	土鉢	P720	マ	全長 (3.75)	全幅 1.0	孔径 0.5				両側端部欠損		重量 3.5g
1-5	121	土師器	杯	P722	マ	13.4	4.3	8.0	浅黄	浅黄	良	底部周、口縁周ともわずかに残	厚手口縁端部ナデにより尖る。外面回転ナデ。	
1-5	122	土師質土器	小皿	P745	マ	8.5	1.8	6.0	灰黄褐	にぶい黄橙		底部周、口縁周ともわずかに残	平底から立ち上がる。	
1-5	123	土師質土器	小皿	P746	マ	7.1	(1.75)	3.9	浅黄橙	浅黄橙	赤色砂粒入る、チャート粒入る	底部周一部、口縁周わずかに残	平底下部で屈曲し開く。外面回転ナデ。	
1-5	124	瓦器	碗	P792	マ	14.6	(4.25)		灰白	灰		口縁周わずかに残	深めの体部、口縁二段にナデ。外面口縁横ナデ。	
1-5	125	鉄器	刀子状柱痕	P796	マ	全長 8.5	全幅 1.4	全厚 0.5					接合しないが同一個体と考えられる、身幅平行、刀子の可能性	重量 12.6g
1-5	126	須恵器	片口鉢	P813	マ	28.3	(5.7)		灰白	灰白	細かな砂粒多	口縁わずかに残	口縁端部拡張ほとんどなし。外内面とも回転ナデ。	東播系須恵器片口鉢
1-5	127	青磁	碗	P850	マ	16.6			オリーブ黄	オリーブ黄	良	口縁周わずかに残	丸みを帯びた深い体部、口縁端部外反、無文。外面下手に回転ケズリ痕。	
1-5	128	土師器	杯	P830	マ		(0.95)	8.0	浅黄橙	浅黄橙	チャート粒入る	底部周一部残	底部外面に「仲」と考えられる線刻。	線刻土器
1-5	129	瓦器	皿	P860	マ	8.6	(1.8)		灰	灰	細かな白色砂粒、チャート粒入る	口縁周わずかに残	口縁、体部境なし、口縁二段に外反。外面口縁ナデ、内面口縁見込回転ナデ。	
1-5	130	土師質土器	小皿	P869	マ	7.8	1.8	6.0	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色粒子入る	底部周口縁周ともわずかに残	平底から下部で屈曲し上方に立ち上がる。外面二段に回転ナデ。回転糸切り。	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-5	131	土師質土器	小皿	P891	マ	7.4	1.65	5.2	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒、チャート粒入る	底部周、口縁周ともわずかに残	平底からわずかに丸みを帯び斜め上方に立ち上がる。回転系切り。	
1-5	132	瓦器	碗	P896	マ	12.6	(3.55)	3.1	灰白	灰	細かな白色砂粒入る	高台周 2/3、口縁周 1/2 残	歪み有り、扁平な高台、口縁外反。外面口縁ナデ、体部指オサエ、内面粗い圏線ミガキ、平行ミガキ。切り離し痕なし。	内面炭素吸着弱い
1-5	133	土師質土器	小皿	P896	マ	7.4	1.7	4.8	にぶい橙	にぶい橙	砂粒少ない	底部完形、口縁周 2/3 残	平底から斜めに開く、内面見込同心円状に凹む。内面回転ナデ。外面螺旋状痕有り、接合痕の可能性も。	
1-5	134	土製品	土鍾	P878	マ	全長 4.45	全幅 1.5	孔径 0.4				両側端部欠損		重量 8.5g
1-5	135	瓦器	皿	P907、柱痕	マ	9.3	1.0	7.7	灰	灰	砂粒少ない	口縁周わずかに残	口縁体部境明瞭な稜。口縁内外面ともナデ。	内外面とも炭素吸着弱い
1-5	136	土師器	碗	P915	マ		(2.2)		にぶい橙	にぶい橙	細かなチャート粒入る	残存不良	輪高台碗。貼付高台。	
1-5	137	常滑焼	楕鉢	P915	マ	19.1	(6.0)		褐	褐	砂粒多	口縁わずかに残	直線的に開く体部、口縁端部外へ引き出しぎみの面。	常滑片口鉢
1-5	138	土師質土器	小皿	P916	マ	7.0	1.7	(5.3)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、口縁周ともわずかに残	平底からわずかに丸みを帯び上方に立ち上がる。外内面とも口縁回転ナデ。回転系切り。	
1-5	139	鉄器	鉄釘	P921	マ	全長 8.1	全幅 1.2	全厚 0.7				頭部折り曲げ、断面方形、やや大型		重量 10.2g
1-5	140	土師器	碗	P922	マ		(4.6)	6.4	灰黄褐	にぶい黄橙	砂粒少ない	高台周 1/2 残	ハの字状に開くしっかりした高台、丸みを帯びた体部、内面回転痕があり段状。外面下半回転ケズリ、内面強い回転ナデ痕、内面見込雑なナデ。切り離し痕調整で残らず貼付高台。	スス付着
1-5	141	土製品	土鍾	P950	マ	全長 4.6	全幅 1.45	孔径 0.5				ほぼ完形		重量 6.9g
1-5	142	土師質土器	小皿	P975	マ	8.1	1.4	5.9	浅黄橙	浅黄橙		底部周、口縁周とも 1/3 残	全体にうす手、平底から斜めに開く。外面回転ナデ。回転ヘラ切りか。	埋没時付着物多
1-5	143	瓦器	碗	P975	マ	15.7	(4.4)		灰白	灰白	砂粒少ない	口縁周 1/3 残	丸く深い体部、口縁外半弱い。外面口縁ナデ、体部指オサエ。	内外面とも炭素吸着弱い
1-5	144	土師質土器	小皿	P976	マ	8.2	1.1	5.9	浅黄橙	橙	砂粒少ない	底部周、高台周とも一部残	扁平な器形、平底から短く開く。外面回転ナデ、内面見込横ナデ。回転系切り。	
1-5	145	土師質土器	小皿	P986	マ		(1.3)		にぶい黄橙	褐灰	チャート粒、砂粒少ない	底部周、口縁周ともわずかに残	平底から短く上方に立ち上がる。	
1-5	146	瓦質土器	楕鉢	P983	マ		(2.3)	8.6	黄灰	黄灰	細かな白色砂粒入る	底部わずかに残	平底、内底見込まで放射状の摺目。	炭素吸着ないが、須恵器に近い焼き締まる
1-5	147	土師質土器	小皿	P1014	マ	7.4	1.35	5.0	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、高台周とも 1/3 残	平底の底部から斜めに開く。外面二段に回転ナデ。回転系切り。	
1-5	148	土師質土器	小皿	P1023	マ	7.2	1.65	5.9	浅黄橙	浅黄	赤色砂粒入る	底部周、高台周ともわずかに残	平底から上方に立ち上がる口縁薄い。外面口縁回転ナデ、内面口縁回転ナデ。回転系切り。	
1-5	149	土師質土器	小皿	P1066	マ	6.9	1.15	4.7	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	完形	扁平で薄い、平底から短く開く。内外面とも回転ナデ。回転系切り。	口縁一部わずかに焼ける切り離し時しゃくれる
1-5	150	土師器	皿	P1138	マ	13.4	1.85	10.6	橙	橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、口縁周わずかに残、摩擦著しい	底部からの立ち上がり甘く、口縁外反して開く。	
1-5	151	土師器	杯	P1138	マ	14.7	3.1	10.6	橙	橙	チャート粒赤色砂粒入る	底部周、口縁周一部残、摩擦	底部丸みがかかる、口縁わずかに外反。	
1-5	152	石器	砥石	P1148	マ	全長 8.5	全幅 2.5	全厚 2.3						重量 75.3g
1-5	153	鉄器	鉄釘	P1205、柱痕	マ	全長 5.8	全幅 2.1	全厚 0.7					鉄釘、頭部折り曲げ、断面方形、やや大型	重量 7.5 g
1-5	154	土師質土器	杯	P1230	マ	11.6	(2.5)		浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒	口縁周わずかに残	口縁部で屈曲、口縁端部尖る。	
1-5	155	土師器	碗	P1225	マ		4.1	8.2	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒入る	底部わずかに残	円盤状高台。糸切り。	
1-5	156	土製品	土鍾	F SK3	マ	全長 5.05	全幅 1.15	孔径 0.35	暗緑灰	暗緑灰		土鍾片側端部欠損		重量 5.5g
1-5	157	須恵器	蓋	下 SK14	マ	13.3	(1.4)		灰	灰	良	口縁わずかに残	短く引き出された口縁。	外面自然釉
1-5	158	粗製土器	焼塩壺	下 SK14	マ		(4.5)		灰	灰	砂粒多	口縁わずかに残、口縁端部欠損	直立する口縁、端部内傾か、内面布目痕。	焼き締る、焼塩壺
1-5	159	粗製土器	焼塩壺	下 SK14	マ		(2.4)		浅黄橙	浅黄橙	砂粒多			

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-5	160	土製品	土鉢	下 SK15	マ	全長 3.55	全幅 0.9	孔径 0.35				片側欠損		重量 28g
1-5	161	土製品	土鉢	下 SK15	マ	全長 4.9	全幅 1.1	孔径 0.4				片側端部欠損		重量 62g
1-5	162	土製品	土鉢	下 SK15	マ	全長 4.0	全幅 1.15	孔径 0.35				片側欠損、摩耗		重量 43g
1-5	163	土製品	土鉢	下 SK16	マ	全長 3.2	全幅 1.05	孔径 0.3				片側欠損		重量 22g
1-5	164	瓦器	椀	下 SK17	マ	12.0	2.7	2.5	黒灰	黒灰	細かな白	高台周、口縁周ともわずかに残	口縁外反弱い、高台退化しほとんどなし。口縁ナデ。貼付高台。	
1-5	165	土師器	皿	下 SD1	検面	13.8	1.6	10.6	橙	橙	細かな砂粒入る	底部、口縁周ともわずかに残	底部から外反して開く。外面口縁ナデ。	
1-5	166	土師器	小杯	下 SD2	検面	8.3	3.1	6.6	にぶい橙	にぶい橙	砂粒少ない	底部周、口縁周ともわずかに残	わずかに丸みを帯び斜め上方に立ち上がる。	底部体部より突出するが全周に及ぶか不明
1-5	167	緑釉陶器		下 SD6	マ	(12)	5.6		灰白	灰白	良	高台わずかに残	淡い緑色釉を薄く高台外面まで施釉。	白い胎土、須恵器より焼き弱い
1-5	168	土師器	皿	下 SD 15-2	マ	(15)	1.9	(10)	黄白	灰白	砂粒少ない	底部周、口縁周とも1/3残、摩耗	口縁でわずかに外反、内底中央部へソ状に突出。	粘土巻き上げ痕
1-5	169	土師器	杯	下 SD13	マ	(18)	4.8		にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒入る	底部周ほぼ完形	径に比べて厚い底部、内底凹む。回転糸切り。	柱状高台小皿か
1-5	170	須恵器	蓋	下 SD13	マ上層	(295)			灰	灰	白い砂粒入る	天井部残。	天井部から丸みを持って下る。外面天井部から口縁回転ヘラケズリ、内面回転ナデ。	
1-5	171	土師器	甕	下 SD13	マ	23.5	(4.3)		にぶい黄褐	暗褐	砂粒多、粗い胎土	口縁わずかに残、端部欠損	口縁内面後を持ち、くの字に屈曲。外面胴部縦ハケ、内面横ハケ。	
1-5	172	土師器	皿	下 SD16	マ	13.6	(185)	10.8	黄橙	黄橙	細かな砂粒入る	底部周、口縁周わずかに残	口縁で外反。	
1-5	173	土師器	皿	下 SD16	マ	14.9	(145)	10.6	浅黄橙	浅黄橙	砂粒少ない	底部周、高台周ともわずかに残	底部から大きく外反して開く。外内面とも口縁回転ナデ。切り離した後調整。	
1-5	174	土師器	皿	下 SD16	マ	15.3	2.1	12.0	橙	橙	赤色砂粒入る	底部周、高台周とも1/2残	外反して開く、底部中心部のみ接地。	粘土巻き上げ痕、底部外面「×」のヘラ記号
1-5	175	土師器	杯	下 SD16	マ	(21)	10.4		橙	橙	砂粒少	高台周わずかに残	断面長方形形状の高台。外面高台回転ナデ。	
1-5	176	粗製土器	焼塩壺	下 SD21	マ	(28)			にぶい黄橙	にぶい黄橙	砂粒多	胴部一部のみ残	内面布目痕。	焼塩壺、被熱不明
1-5	177	須恵器	椀	SD22 南バ	マ	13.2	4.6	7.9	灰色	灰色	白色砂粒入る	底部周辺完形、口縁周1/2残	体部から外反して開く。外面底部ヘラケズリ、体部から口縁回転ナデ、内面回転ナデ。貼付高台。	
1-5	178	土師質土器	小皿	下 P2	マ	6.45	1.2	4.65	灰	灰	細かな砂粒多く入る	完形	平底から斜めに開く、内底螺旋状に凹み、中央突出。外面三段に回転ナデ。回転糸切り。	
1-5	179	土師質土器	杯	下 P2	マ	11.5	4.2	6.8	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒多く入る	底部完形、口縁周1/2残	平底から立ち上がる深めの体部、外面ナデにより段状。内外面とも強い回転ナデ。回転糸切り後へら起こし。	
1-5	180	土師質土器	杯	下 P25	マ	(20)	6.8		橙	にぶい橙	細かな黒色砂粒多	底部周1/2残	平底から腰を持ち上方に立ち上がる、内底同心円状に凹む。外面回転ヘラあて痕。回転糸切り。	
1-5	181	土製品	土鉢	下 P209	マ	全長 3.5	全幅 1.7	孔径 0.45				片側端部欠損、表面面とり状に摩耗		重量 80g
1-5	182	土師器	杯	下 P218	マ	13.6	(3.1)	9.5	橙	橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、口縁周ともわずかに残	平底から斜めに直線的に開く。外面回転痕。切り離した後調整。	
1-5	183	青磁	椀	下 P259	マ	16.2	(4.45)		灰オリーブ	灰オリーブ	良	口縁周一部残	口縁わずかに外反、無文ピンホール有り。外面回転ケズリ痕。	
1-5	184	土師器	皿	下 P301	マ	8.8	(1.2)	5.8	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、口縁周とも一部残	底部から大きく開く。外面二段に回転ナデ。切り離した後調整。	
1-5	185	粗製土器	焼塩壺	下 P344	マ	(26)			灰白	灰白	砂粒多	胴部わずかに残	内面布目痕。	被熱痕確認できず、焼塩壺
1-5	186	瓦器	椀	下 P406	マ	12.5	(2.8)		灰	灰	砂粒少ない	口縁わずかに残	口縁外反弱い。外内面口縁ナデ、内面圏線ミガキ。	外面炭素吸着口縁のみ
1-5	187	土師器	杯	下 P412	マ	(29)	10.1		橙	橙	細かな赤色砂粒入る	高台周一部残	底部端部に高台。内面回転ナデ。	
1-5	188	瓦器	皿	下 P423	マ	8.1	1.35	5.4	灰	灰	砂粒少ない	口縁周一部残	口縁歪み大きい、口縁外反強い。外内面とも回転方向ナデ。	
1-5	189	土師質土器	小皿	下 P436	マ	7.7	1.7	5.4	浅黄橙	浅黄橙	赤色粒子はいる	完形	楕円形に歪む、わずかに丸みを持ち立ち上がる。内底同心円状に凹む。外面回転ナデ。回転糸切り、板目痕?	
1-5	190	瓦器	椀	下 P509	マ	13.7	(2.9)		灰白	灰白	砂粒少	口縁周わずかに残	口縁外反、端部丸みを帯びる。外面口縁ナデ、内面粗雑なミガキ。	外内面とも炭素吸着なし
1-5	191	瓦器	椀	下 P599	マ	18.4	(3.8)		黒灰	黒灰	砂粒少	口縁わずかに残	短い口縁、口縁下沈線状。内面幅の狭いミガキ。	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
1-5	192	土師質土器	杯	下 P611	マ		(22)	7.0	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周一部残	平底から腰を持ち斜め上方に立ち上がる。外面回転ナデ、内面底部二本指で横ナデ。回転糸切り、ヘラ起し。		
1-5	193	土師質土器	小皿	集中3		8.8	1.75	6.1	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部完形、口縁周わずかに残る、摩擦著しい	平底から斜めに開く。回転ヘラ切り。		
1-5	194	土師質土器	小皿	集中3		8.6	1.8	6.3	浅黄橙	浅黄橙	砂粒少ない、細かな赤色砂粒有。	底部完形、口縁周1/3残	平底から斜めに開く、口縁反。外面回転ナデ。回転ヘラ切り。		
1-5	195	土師質土器	小皿	集中3		8.2	1.85	5.8	にぶい橙	にぶい橙	赤色砂粒入る、砂っぽい胎土	底部周、口縁周とも一部残、摩擦著しい	平底から直線的に斜めに立ち上がる。		
1-5	196	弥生土器	甕	SD5001南バ	マ	18.6	(9.9)		にぶい黄褐	にぶい黄橙	茶褐色の丸い砂粒多	口縁1/2残	頸部状部分から大きく水平に開く口縁、口縁端面。	表面化粧土状、県西部地域の土器	
1-5	197	弥生土器	甕	SD5001南バ	上層	15.8	(10.1)		橙	橙	赤褐色の丸い砂粒入る	口縁1/2残	貼付口縁ゆるやかにのびる頸部、胴部張り弱い、口縁外面指オサエ。外面頸部横方向ヘラナデ、胴部縦方向ヘラナデ、内面横方向ヘラナデ。	弥生中期土佐型甕か	
1-5	198	弥生土器	壺	SD5001	検出面上層	27.9	(2.0)		にぶい橙	にぶい褐	砂粒多	口縁わずかに残	口縁部肥厚し、端部は面をなし下端刻、微隆起突帯の間ヘクシ描き状線。	高知県西部地域の土器	
1-5	199	石器	叩石	SD5001	マ	全長10.5	全幅5.3	全厚2.6							重量272.2g
1-5	200	縄文土器	深鉢	SK5004	マ		(10.0)		灰褐	黒	砂粒多	胴部わずかに残	弱い張りの胴部から外反きみにのびる口縁。胴部粗い横方向条痕、内面横方向条痕。		
1-5	201	縄文土器		SK5004	マ		(3.1)		にぶい黄褐	にぶい黄橙	1mm大の砂粒		縄文晩期刻目突帯文。口縁直下に一条沈線、沈線下に断面三角形の小さな突帯、直線状の刻目。内面横方向条痕。		
1-5	202	縄文土器		SK5004	マ	45.2	(8.3)		にぶい黄橙	灰黄褐	砂粒多	口縁一部残	なめらかに開く口縁、口縁端面、口縁下、断面三角形の弱い刻目突帯、突帯下約2.5cm間隔の孔が列をなす、孔全面から貫通か。外内面とも巻き貝背による横方向条痕。		
1-5	203	縄文土器	壺形土器	P5417	マ		(8.4)		にぶい赤褐	黒褐	砂粒、金雲母入る	胴部一部残	最大径上胴部による。外面横方向のミガキ、内面上胴部粗い横方向貝の背によるナデ。	口縁部きれいに剥離	
1-5	204	土師質土器	小皿		ホ1	8.8	1.55	5.8	浅黄橙	浅黄橙	赤色砂粒多	ほぼ完形	扁平な器形、直線的に開く口縁。外面二段に回転ナデ、内面内底同心円にナデ痕。回転糸切り。		
1-5	205	土師質土器	杯か皿		ホ1		(20.5)	5.4	橙	にぶい橙	赤色の砂粒多く入る	底部完形、摩擦著しい	全体に薄手、大きく開く体部。回転糸切り。		
1-5	206	土師質土器	杯		ホ1		(3.5)	6.75	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部完形	円盤状高台、内底落ちこむ。内面回転痕。回転糸切り。		
1-5	207	土師質土器	柱状高台底部		ホ1		(1.95)	5.0	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒多	底部完形	柱状高台。回転糸切り後調整。		
1-5	208	土師質土器			ホ1		(2.2)	4.8	橙	橙	細かな赤色砂粒入る	底部完形	小型、口縁わずかに欠損か。回転糸切り。		
1-5	209	瓦器	皿		ホ1上	8.0	1.4	5.9	橙	橙	チャート砂粒入る	完形	口縁体部間後有り。外面口縁ナデ、体部指オサエ。切り難しなし。	二次被熱や炭素吸着とび赤変	
1-5	210	青磁	皿		ホ1		(1.3)	3.4	明緑灰	明緑灰	良	底部周1/2残	青白磁釉、見込弱い陰刻文、底部露胎。		
1-5	211	青磁	碗		ホ1		(1.9)	5.2	オリーブ灰	オリーブ灰	良	高台周ほぼ完形	見込、蛇ノ目状にケズリ、内側に双鱼のスタンプ文、高台内側まで施釉。		
1-5	212	青磁	碗		ホ1		(1.3)	5.3	明オリーブ灰	明オリーブ灰	良	高台周わずかに残	高台見込露胎。		
1-5	213	青磁	碗		ホ1		(1.9)	5.4	オリーブ灰	オリーブ灰	良	高台周1/3残	高台下部斜にケズリ、高台下部より露胎。底部回転ケズリ痕。		
1-5	214	青磁	碗		ホ1上		(2.1)	5.2	オリーブ灰	オリーブ灰	良	高台周完形	厚手の底部、畳付の一部まで施釉。底部回転ケズリ。		
1-5	215	青磁	碗		ホ1		(1.55)	4.4	オリーブ灰	オリーブ灰	良	高台周2/3残	高台見込の一部まで施釉、目跡有り、露胎赤褐色。		
1-5	216	青磁	碗		ホ1		(2.5)	5.2	灰オリーブ	灰オリーブ	良	高台周2/3残	厚手の釉、畳付から高台見込まで露胎、外面進弁か。		
1-5	217	青磁	碗		ホ1		(3.5)	5.2	灰オリーブ	灰オリーブ	良	高台周1/3残	釉厚手、底部厚く重い、高台内側まで施釉。底部回転ケズリ。		
1-5	218	青磁	碗		ホ1		(2.95)	6.0	明オリーブ灰	明オリーブ灰	良	高台周2/3残	厚手の釉、高台内側まで施釉、厚い底部重い、内面スタンプ文、菊花か、進弁文の可能性。		

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-5	219	白磁	椀		ホ1	11.3	(2.3)		灰白	灰白	良	口縁周一部残	丸みを帯びた体部、口縁外反。	乳白色釉
1-5	220	白磁	皿			11.0	3.1	6.6	灰白	灰白	良	高台周、口縁周一部残	丸みを帯びた体部、口縁外反、畳付、高台内側一部露胎。	16世紀か
1-5	221	白磁	椀		ホ1上		(1.45)	4.0	灰オリーブ	灰オリーブ	良	高台周1/3残	内底蛇ノ目状、外面下部から高台露胎。	
1-5	222	白磁	椀		ホ1上		(1.3)	5.6	明緑灰	明緑灰	良	高台周わずかに残	畳付のみ露胎。ビンホール、貫入入る。	淡い青白色に近い発色
1-5	223	白磁	椀		ホ1		(2.1)	6.2	灰白	灰白	良	高台わずかに残	外面残存部全て露胎。	
1-5	224	白磁	皿		ホ1		(1.6)	4.3	灰白	灰白	良	高台周完形	細かな貫入。高台外面から露胎、高台六角形状にケズル、体部大きく開く。	
1-5	225	天目茶碗	椀		ホ1上		(2.4)	4.6	黒褐	黒褐	良	高台周1/3残	断面直角三角形の高台、底部外面近くまで施釉。	瀬戸か
1-5	226	瀬戸焼	皿		ホ1	10.4	(1.85)		灰黄	灰黄	良	口縁一部残	口縁花卉状。	黄瀬戸、菊皿、近世の可能性
1-5	227	染付	染付皿		ホ1		(2.5)	9.8	白	白	良	高台周一部残	呉須で施釉、染付、丸みを帯び立ち上がる。	
1-5	228	近世陶磁器	皿		ホ1	12.4	(2.65)		青灰	灰オリーブ	良	口縁周わずかに残	外面口縁一部除き透明釉、内面体部銅緑釉。	内野山窯、銅緑釉、Ⅲ期
1-5	229	近世陶磁器	皿		ホ1上	11.1	3.0	6.8	灰白	灰白	良	底部ほぼ完形、口縁周一部残	ケズリ出し低い高台状の底部、濁った透明釉底部まで施釉、平滑でなく細かく泡立つ、底部胎土目跡。	近世陶磁器皿
1-5	230	近世陶磁器	皿		ホ1	12.8	3.6	4.2	灰黄	灰黄	良	高台周1/3残、口縁周一部残	口縁水平に外反、端部つまみ上げ見込砂目跡、高台畳付砂目、透明感の強い釉。	唐津か
1-5	231	近世陶磁器	皿		ホ1上		(2.3)	4.0	灰オリーブ	灰オリーブ	良	高台わずかに残	透明感のある灰釉、内底、目跡。外面高台上部ケズリ。	近世陶磁器、唐津
1-5	232	近世陶磁器	皿		ホ1	10.9	3.15	4.0	灰オリーブ	灰黄褐	良	高台1/4残、口縁周わずかに残	口縁外面から内面灰釉施釉。	近世陶磁器
1-5	233	近世陶磁器	椀		ホ1		(4.1)	5.1	灰	灰	良	高台周1/2残	丸みを帯びた体部、畳付砂目跡、釉灰色、呉須で文様。	近世陶磁器、肥前系か
1-5	234	近世陶磁器	椀		ホ1上		(3.3)	5.0	淡黄	淡黄	良	高台周完形	高台うす手、丸を帯びた体部、畳付のみ露胎。	備前系か
1-5	235	近世陶磁器	椀		ホ1		(3.0)	5.4	明オリーブ灰	明オリーブ灰	良	高台周わずかに残	青みがかった白色地に呉須で文様、高台内側露胎。	陶器、染付か
1-5	236	近世陶磁器	椀		ホ1		(1.5)	2.4	白	白	良	高台完形	小さく低い高台、白色に呉須で施釉。	近世から陶磁器
1-5	237	近世陶磁器	花瓶		ホ1		(7.4)		褐灰	褐灰	良	頸部周完形	細い頸部、施釉なし。外面回転痕、内面シボリ目。	花瓶か
1-5	238	土師器	甕		ホ1		(5.1)		橙	橙	細粒多	口縁端部わずかに欠損	くノ字に屈曲する口縁、口縁端部つまみ上げる。	紀伊型甕
1-5	239	土師器	甕		ホ1上	24.7	(7.2)		橙	橙	砂粒	口縁一部残	口縁短く屈曲、口縁端部つまみ上げ斜面。内面横ナデ。	紀伊型甕
1-5	240	土師質土器	羽釜		ホ1	19.0	(6.9)		にぶい橙	黒褐	細かな砂粒、赤色砂粒	口縁わずかに残	鋳三角形に小さく突出。外面タタキ、内面口縁横ナデ。	播磨型、15～16世紀代?
1-5	241	土師器	甕		ホ1	24.6	(8.8)		橙	褐	砂粒多	口縁わずかに残	口縁くノ字に屈曲、口縁端部つまみ上げ斜面をなす。内面指オサエ後、板状工具横ナデ。	紀伊型甕か、突帯なし
1-5	242	土師質土器	羽釜		ホ1	22.4	(5.1)		にぶい赤褐	黒(炭化物付着)	細かな砂粒多	口縁部一部残	口縁内傾、鋳小さい。外面斜方向タタキ、内面口縁横ナデ。	播磨型、16世紀代の可能性
1-5	243	土師質土器	羽釜		ホ1	28.8	(7.4)		橙	灰褐	砂粒多	口縁一部残	わずかに突出する口縁、体部直線的。外面指オサエ、内面横ナデ。	16世紀末～17世紀初? 播磨型の最後
1-5	244	瓦質土器	羽釜		ホ1		(5.6)		灰	黒褐	細かな白色砂粒入る	口縁わずかに残	しっかりした鋳。外面ケズリ、内面横ハケ。	搬入か、15世紀代?
1-5	245	瓦質土器	羽釜		ホ1		(3.7)		灰	灰		口縁わずかに残	口縁段状、しっかりした鋳。内面横ハケ。	
1-5	246	瓦質土器	羽釜		ホ1	20.8	(4.3)		にぶい黄橙	黒灰	チャート粒入る	口縁わずかに残	口縁外面凹線による段、大きくしっかりした鋳。内面横ハケ。	河内型
1-5	247	瓦質土器	羽釜		ホ1	20.2	(4.1)		黄灰	黒灰	細かな白い砂粒入る	口縁わずかに残	口縁明瞭な凹線による段、しっかりした鋳。内面横ナデ。	河内型
1-5	248	瓦質土器	羽釜		ホ1	21.9	(5.7)		灰	灰	細かな砂粒入る	口縁わずかに残	口縁凹線で段がしっかりした鋳。	
1-5	249	瓦質土器	羽釜		ホ1	19.6	(5.7)		灰	灰	チャート砂粒多	口縁わずかに残、表面剥離	薄く雑なつくりの鋳。	
1-5	250	瓦質土器	茶釜		ホ1		(7.7)		灰黄褐	黄灰	細かな白色の砂粒	上胴部わずかに残	外面にヘラ描き文。	瓦器茶釜
1-5	251	備前焼	播鉢		ホ1	25.2	(8.5)		灰	黄灰	5mm大の砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁端部斜面、拡張弱い。	備前Ⅲ期
1-5	252	備前焼	播鉢		ホ1上	31.6	(6.1)		にぶい褐	にぶい橙	5mm大のチャート入る	口縁周わずかに残	口縁端部上方に拡張。	備前Ⅳ期
1-5	253	備前焼	播鉢		ホ1		(4.1)	13.0	にぶい橙	橙	3～4mm大の石粒入る	底部わずかに残	8条一組の摺目。	粘土縫れる

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-5	254	備前焼	播鉢		ホ1		(4.8)	16.9	褐灰	褐灰	大きな砂粒入る	底部周わずかに残	7条一組の摺目。	内面表面粒子磨滅
1-5	255	白磁	壺口縁		ホ1	10.6	(2.3)		明オリープ灰	明オリープ灰	良	口縁わずかに残	丸く折り曲げられた口縁。	白磁四耳壺か
1-5	256	常滑焼	甕		ホ1		(3.2)		にぶい茶褐	にぶい茶褐	砂粒多	口縁わずかに残	口縁端部上下に拡張するが大きい。	常滑甕、6a 型式
1-5	257	備前焼	壺		ホ1上	13.4	(5.3)		灰	灰	白い砂粒	口縁わずかに残	短く直立ぎみの口縁、端部は玉縁状、波状文。外内面とも回転ナデ。	備前Ⅲ期
1-5	258	常滑焼	甕		ホ1	25.3	(6.4)		にぶい褐			口縁周わずかに残	ゆるやかに開く厚手の口縁、内面ナデにより浅い沈線状になる。	常滑甕の可能性、1b 型式か、高知で最も古い例の一つか
1-5	259	須恵器	壺		ホ1		(7.3)		灰	灰		肩部わずかに残	肩部下に断面三角形の突帯耳が付く。外面タタキ、内面ナデ。	
1-5	260	須恵器	甕		ホ1	21.6	(3.5)		褐灰	褐灰		口縁周わずかに残	ゆるやかに短く開く口縁。外面斜方向タタキ。	
1-5	261	須恵器	甕		ホ1	39.4	(4.7)					口縁一部残、風化著しい	短く開く口縁。	
1-5	262	炆器	甕底部		ホ1		(3.7)	35.0	褐灰	褐灰		底部わずかに残		
1-5	263	土師器	高杯		ホ1		(9.7)	10.8	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒入る	裾わずかに残	ゆるやかに短く開く裾、裾端部丸く収める。内面脚上シボリ目。	
1-5	264	土師器	高杯		ホ1		(6.5)		浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒	脚上方のみ残	内面シボリ目。	
1-5	265	須恵器	横瓶	集中1	ホ1	11.5	(24.3)		灰	灰		口縁完形、底部欠損	ハの字に開く口縁、胴部は蕪形に近い、側面は平坦さ、外面格子タタキ、内面青海波が残る。	
1-5	266	石器	砥石		ホ1	全長 7.3	全幅 5.7	全厚 3.9						白色泥岩、重量 228.3g
1-5	267	石器	砥石		ホ1	全長 11.6	全幅 3.3	全厚 0.6						重量 60.7g
1-5	268	輪羽口			ホ1									炉側一部残、発砲、スラグ状物質付着
1-5	269	土師質土器	小皿		ホ2	8.9	1.9	5.7	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒多	完形、摩耗	体部下で屈曲し外反する口縁。回転糸切り。	
1-5	270	土師質土器	小皿		ホ2	8.1	1.6	5	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒入る	底部完形、口縁周1/2残	平底からわずかに外反し開く。内底見込同心円状に凹む。外面回転ナデ。回転糸切り。	
1-5	271	土師質土器	燭台状土器		ホ2	7.2	(5.75)	5.7	浅黄橙	浅黄橙	普通	底部完形、口縁わずかに残	高く重い柱状の高台、高台中央部突孔、短く開く口縁。外面シボリ目、内底同心円状にナデ。回転糸切り。	燭台状土器か、タール付着なし
1-5	272	土師質土器	杯		ホ2	14.1	3.7	7.0	橙	橙	細かな砂粒	底部2/3、口縁周1/2残	平底、口縁で外反、端部丸みを帯びる。外面強い回転ナデ痕。回転糸切り。	
1-5	273	瓦器	椀		ホ2	12.6	(24.5)	2.4	灰白	灰		高台1/2残、口縁周一部残	器高低い、高台退化ほとんど高さなし、口縁外反弱い。外面口縁弱いナデ、貼付高台。内面わずかにミガキ有り。貼付高台。	内面炭素吸着ほとんどなし
1-5	274	緑釉陶器	皿		マ	11.0	2.1	5.8	灰オリープ	灰オリープ	良	高台周1/2、口縁周わずかに残	口縁で外反、濃緑色の厚手の釉、畳付まで施釉、高台畳付役状になる。見込胎土目跡有り。底部回転糸切り。	近江産緑釉陶器、10世紀後半か
1-5	275	青磁	椀		ホ2	10.0	(2.0)		灰オリープ	灰オリープ	良	口縁わずかに残	体部から稜を持ち、外反する口縁、口縁のみ施釉。体部回転ヘラケズリ。	
1-5	276	青磁	椀		ホ2	13.7	(2.8)		オリープ灰	オリープ灰	良	口縁周わずかに残	弱い浮き彫の蓮弁文。	
1-5	277	白磁	皿		ホ2	7.8	(1.8)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残	丸い体部、大きく外反する口縁、体部下から露胎。	
1-5	278	白磁	皿		ホ2	10.4	3.0	6.0	灰白	灰白	良	底部周、口縁周ともわずかに残	平底、口縁でわずかに外反、口縁端部、体部下から底部露胎。	口赤皿、13～14世紀
1-5	279	須恵器	鉢		ホ2		(4.5)	9.6	灰	灰	細かな白い砂粒入る	底部周完形	回転糸切り。	東播系須恵器片口鉢底部
1-5	280	土師質土器	杯		ホ2		3.4	6.7	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒多、砂っぽい胎土	底部周完形	底部で屈曲し開く、内面底部、体部間接合痕。外内面とも回転ナデ。回転糸切り。	焼成良く、カワラケ状
1-5	281	須恵器			ホ2		(2.9)	9.0	灰	灰	砂粒多	底部わずかに残	回転糸切り。	東播系須恵器片口鉢底部か
1-5	282	近世陶器			ホ2		(2.4)	5.6	淡黄	淡黄	良	高台周わずかに残	濁った釉、畳付のみ露胎、高台輪ガラス化していない。	唐津?
1-5	283	土師質土器	小皿		ホ3	7.6	1.65	5.0	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒	ほぼ完形	平底から開く、口縁で外反、内底同心円状に凹む。外面回転ナデ。回転糸切り。	
1-5	284	土師質土器	皿		ホ3	8.1	1.45	5.8	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色の砂粒入る	完形	内面同心円状に凹み、中央部へソ状に凹む。外面回転ナデ。回転糸切り。	
1-5	285	土師質土器	小皿		ホ3	7.2	1.6	4.4	橙	にぶい黄橙	粉かな砂粒多	完形	平底から外反して開く。外面回転ナデ。回転糸切り。	シャープな作り
1-5	286	土師器	皿		ホ3		(1.3)		にぶい橙	にぶい橙	細かな赤色砂粒入る	底部、口縁周ともわずかに残	丸みを帯びた体部、口縁短く外反。切り離し痕不明。	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
1-5	287	土師器	皿		ホ3	12.6	1.8	11	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部、口縁周1/2残	扁平な器形、やや丸みを持ち開く口縁、内面見込螺旋状に凹む。内外面とも口縁回転ナデ。回転ヘラ切り。		
1-5	288	土師器	杯		ホ3		(4.4)	9.0	浅黄橙	浅黄橙	砂粒少ない	高台周一部残、摩耗著しい	薄く高い高台、直線的な体部。		
1-5	289	土師器	杯		ホ3	12.9	3.0	9.4	にぶい黄橙	橙	赤色砂粒入る、砂っぽい胎土	底部周、口縁周とも1/2残、摩耗	口縁わずかに外反、内面見込螺旋状に凹む。		
1-5	290	土師器	杯		ホ3	13.1	3.55	9.5	浅黄橙	浅黄橙	赤色砂粒入る	底部、口縁周わずかに残	直線的に開く体部、口縁わずかに外面。外面体部回転ナデ、底部指オサエ。不明。		
1-5	291	土師質土器	杯		ホ3	13.4	3.0	8.0	黄橙	黄橙	赤色の砂粒入る	底部周1/2、口縁周一部残、摩耗著しい	薄手、口縁外反さみ。回転ヘラ切りか。		
1-5	292	土師器	杯		ホ3	14.2	3.15	9.0	黄橙	黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部、口縁周1/2残	平底から丸みを帯び口縁でわずかに外反、器高低い。外面回転ナデ。回転ヘラ切り。		
1-5	293	瓦器	皿		ホ3	8.1	1.55	7.3	黒灰	黒灰		完形	歪み有り、口縁、体部境稜有り、外底中央凹む。外面口縁ナデ、体部指オサエ。切り離しなし。	降灰状付着物有	
1-5	294	須恵器	皿		ホ3	17.8	(1.9)	14.0	黄灰	黄灰	良	底部周、口縁周とも一部残	口縁外反し、端部つまみ上げ。	須恵器生焼け	
1-5	295	灰釉陶器	椀		ホ3	14.7	3.05	6.8	黄灰	黄灰	良	高台周、口縁周とも1/3残	高台三日月形、丸みを帯びた浅い体部、端部外反し水平に近くなる。施釉内面の一部のみ。内外面とも体部回転ナデ。回転ケズリ痕。	K 90-3 ? (斎藤)	
1-5	296	黒色土器 A 類			ホ3	17.6	4.35		暗灰	暗灰	良	全体の1/6残	緻密なミガキ、暗文による加飾、外面ミガキあるがやや粗い仕上げ。外面口縁横ナデ体部ケズリ痕ミガキ、内面緻密なミガキ。切り離し痕なし、小さな凸凹有り。	9世紀代 黒色土器畿内系I類 (森隆 概説中世の土器・陶磁器) 薄手内面黒色	
1-5	297	青磁	椀		ホ3	17.8	(4.9)		灰オリーブ	灰オリーブ	良	口縁周わずかに残	口縁端部外面、体部下半露胎。外面露胎部横方向ヘラ痕あり。		
1-5	298	天目茶椀	椀		ホ3	12.2	(4.8)		黒褐	黒褐	良	口縁周わずかに残	口縁外反ほとんどなし。		
1-5	299	石器	砥石		ホ3	全長 7.3	全幅 4.3	全厚 4.25							重量 198.3g
1-5	300	土師器	甕		ホ3	32.2	(8.2)		明褐	明褐	砂粒多	口縁周一部残	水平に近くまで大きく開く口縁、口縁端部凹面状、杯部つまみ上げなし。外面口縁ナデ、胴部縦ハケ、内面口縁ナデ、胴部横ハケ。		
1-5	301	粗製土器	焼塩壺		ホ3	14.0	7.2		にぶい橙	にぶい橙	砂粒多	口縁一部残	内傾し尖りぎみの口縁。	焼塩壺	
1-5	302	輪羽口			ホ3							一部残	フイゴ羽口		
1-5	303	須恵器	壺		ホ3	26.3	(12.2)		灰	灰	細かな白色砂粒入る	口縁周わずかに残	ハの字に開く口縁、口縁端部凹面状の水平な面。外面口縁ナデ、胴斜方向平行タタキ、内面青海波残る。	外面鉄滓き出る	
1-5	304	石器	石斧		ホ3	全長 14.8	全幅 7.1	全厚 1.3							重量 230.4g
1-5	305	土師器	皿		ホ4B	7.1	(1.95)	3.5	浅黄橙	浅黄橙	砂っぽい胎土	底部周、口縁周ともわずかに残	厚い底部から二段に屈曲する。外面体部下部強いナデ。		
1-5	306	須恵器	杯身		ホ4	13.4	(2.8)		灰	灰	良	口縁周わずかに残	口縁端部うすい、受け短く水平。外内面とも回転ナデ。		
1-5	307	土師質土器			ホ5		(2.2)	7.0	浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒	高台ほぼ完形	柱状高台、高さ1.6cm。回転糸切り。		
1-5	308	土師器	椀		ホ5			6.3	淡黄	浅黄橙	砂粒少ない	高台周1/2残	底部厚く高台低い、内底火ダスキ。貼付高台。	黄白色系の胎土、在地か	
1-5	309	土製品	土錘		マ	全長 6.0	全幅 2.6	孔径 0.95					両側端部欠損	重量 35.4g	
1-5	310	縄文土器			ホ4、最下	15.0	(4.3)		にぶい黄褐	黒褐	雲母多量に入る	口縁わずかに残	内傾してのびる頸部、口縁短く開く、端部丸く収める、口縁屈曲部と頸部に横方向赤色顔料による直線上の彩文。内外面ともヘラミガキ。	夜臼式壺形土器か、311と同一個体、接合なし	
1-5	311	縄文土器	壺形		ホ4、最下		(3.3)		にぶい黄褐	黒褐	雲母多く入る	胴部わずかに残	上胴部か、赤色顔料による彩文。内外面とも横方向ミガキ。	310と同一個体、夜臼式壺形土器	
1-5	312	縄文土器			ホ6、上層、		(6.9)		にぶい褐	にぶい褐	にぶい褐	口縁わずかに残	ゆるやかに開く口縁、口縁端部丸い、口縁端部下断面台形状での貼付突帯、刻有り。内外面とも横方向粗い条痕。		
1-5	313	縄文土器	底部		ホ6上層		(1.1)	7.3	灰黄褐	灰黄褐	砂粒多	底部完形	底部円盤状に残る、やや上げ底状。底部内面ミガキ。		
1-5	314	土師器	椀	TR1			(2.7)	5.8	浅黄橙	浅黄橙		高台周完形	ハの字状の高台、畳付凹面状丸みを帯び立ち上がる。外内面回転ケズリ。		

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-5	315	瓦器	椀	TR1		13.1	3.35	3.7	黒灰	黒灰		高台周 1/2 残、口縁周一部残	口縁外反弱い、高台扁平だがしっかり。内面粗い圈線ミガキ、外面口縁ナデ弱い。切り離しなし。	和泉型瓦器、IV期
1-5	316	瓦器	椀			13.4	3.4	4.0	灰	灰白	良	高台周 1/4 残口縁わずかに残	小さいがしっかりした高台、口縁体部間後。外面口縁強いナデ、内面粗いミガキ。貼付高台。	外面炭素吸着ほとんどなし
1-5	317	瀬戸焼	小皿	TR1		12.8	3.35		淡緑	淡緑	良	底部 1/2、口縁わずかに残	平底、口縁から内面施釉、口縁外内面釉厚く釉だれ、内面見込釉ハケぬり、内面胎土目跡。回転糸切り。	底部釉着
1-5	318	瀬戸焼				20.3	(3.6)		浅黄	浅黄	良	口縁わずかに残	口縁わずかに屈曲、体部下半露胎。	古瀬戸、灰釉
1-5	319	白磁	皿			11.6	3.0	5.4	明オリープ灰	明オリープ灰	良	高台周 2/3 残、口縁一部残	断面三角形の高台、口縁外反して水平に開く、高台外面から露胎。	15世紀
1-5	320	瓦質土器	鍋	TR3		30.4	(5.5)		暗灰	黒褐	細かな砂粒入る	口縁わずかに残	受け口状口縁、口縁端部やや拡張さみ。外面口縁下横方向ヘラケズリ。	畿内からの搬入か13世紀半

第Ⅶ章 1-6区の調査

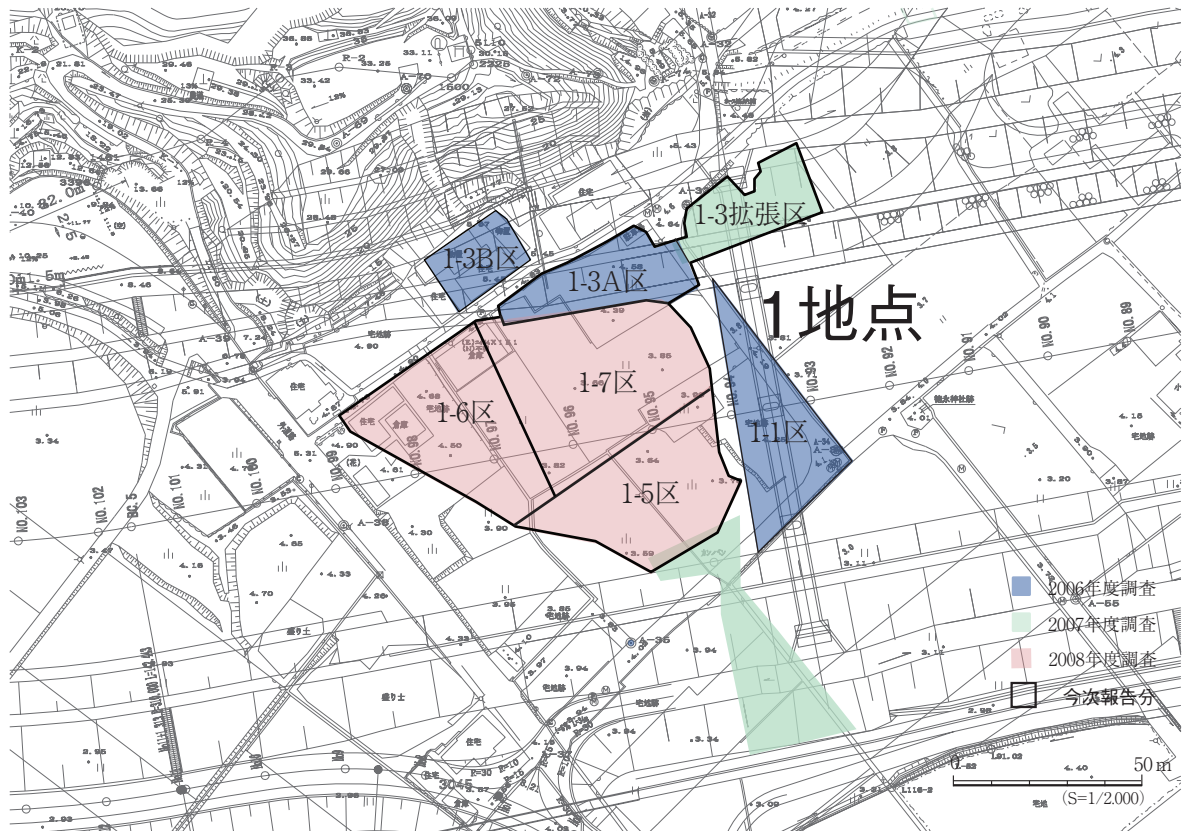
1. 1-6区の概要

1地点は城山南側に位置する調査地点で調査順に1-1～1-7区として調査区を設定した。1-6区は1地点の北側に位置し、東側は1-7区と接している。

調査前は宅地となっており、調査区には近現代の大きな攪乱坑が3ヶ所存在し、旧地割りに沿い土管による暗渠排水が縦横に入る状況であった。調査区の調査前標高は約4.5mであった。遺構検出面は4面で上面、中面、下面、最下面として調査を行い、上面の検出標高は3.25～3.45m、中面の検出標高は3.0～3.25m、下面の検出標高は2.8～3.0m、最下面の遺構検出標高は2.85～2.6mで調査区西側がやや低くなっていた。

基本層序は1層は旧表土、2層は旧耕作土の可能性が高い暗灰色粘質土、3層は灰白色砂質土にマンガンが混じる土で包含層1とした。4層は暗灰色粘砂土で一部のみに見られた。5層は黄褐色灰色粘砂土で上層遺構の検出面であり、包含層2でもある。6層は褐灰色粘砂土で包含層3とし中面遺構の検出面である。7層は黒褐色粘質土で包含層4、下面遺構の検出面である。8層は黄褐色粘質土で包含層5としたが遺物は少ない。8層下面是黄褐色土で最下面の遺構検出面で地山と考えられる。

1-6区の平面積は約1,400㎡で4面の合計調査延べ面積は5,600㎡である。調査期間は平成20年7月～21年3月までである。

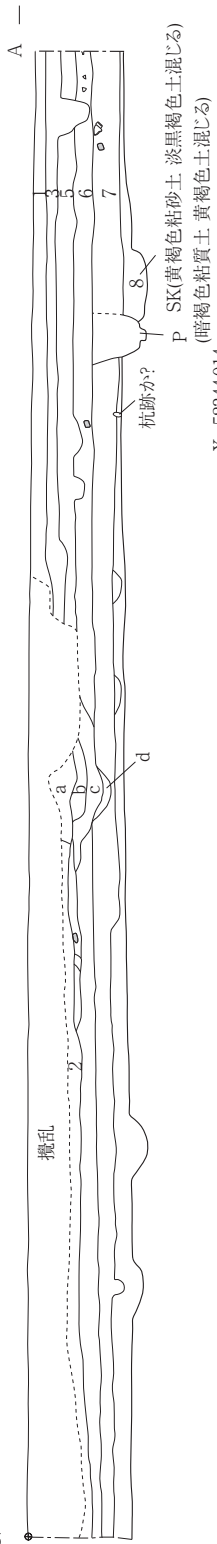


7-1図 調査区位置図

X=52371.245

Y=-3511.494

DL=4.0m N

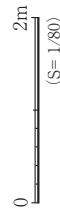
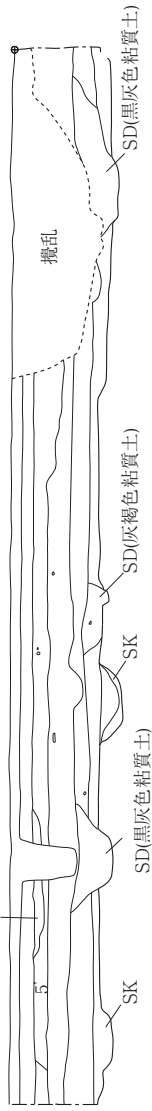


X=52344014

Y=-3511.266

S

DL=4.0m A



- 1: 旧表土
- 2: 旧耕作土
- 3: 灰白色砂質土(マンガン入るホ1)
- 4: 暗灰色粘砂土
- 5: 黄褐色粘砂土(灰色に黄褐色粒子入るホ2)
- 6: 黄褐色粘砂土(少し暗い)
- 7: 褐灰色粘砂土(褐色に灰色粒子入るホ3)
- 8: 黒褐色粘質土(少し黄褐色土混じるホ4)

7-2図 1-6区基本層序



7-3図 上面遺構全体図

2. 検出遺構と遺物

(1) 上面の遺構と遺物

上面の遺構は土坑 52 基、ピット 453 個、溝跡 11 条、近現代土坑 2 基を検出した。上面の検出標高は 3.25 ～ 3.45 m である。調査区中央部では SD1・3・中 SD18 の南北方向の溝跡を検出しピット等の遺構は密度が低くなっている。ピット等の遺構は SD1・2・10 に囲まれた部分と SD5 に区画された部分、SD8 に区画された部分に多く分布しており、区画を反映しているものと考えられる。検出ピットから建物跡は復元できなかった。遺構からの出土遺物は中世から古代の遺物が出土しているが遺構の時期は中世と考える。

土坑 (SK)

上面で検出した土坑は、遺構検出時 SK57 まで遺構番号を付けたが、遺構と確認できなかった 5ヶ所を欠番としたため 52 基である。SD1 より西側にやや多い傾向が見られ比較的平面プラン長方形状のものが多く、遺構埋土中からは土師質土器、瓦器など中世の遺物のほか須恵器、黒色土器 A 類、緑釉陶器など古代に属する遺物も出土している。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK1	1.16 × 0.90 × 0.11	長方形	皿状	N - 0° - W		土師質土器・瓦器		
SK2	1.47 × 0.91 × 0.19	長方形	箱形	N - 6° - W		土師器・瓦器・瓦質土器・須恵器・青磁		
SK3	欠番							
SK4	2.18 × 1.25 × 0.16	長方形	箱形	N - 10° - E		土師器・瓦器・瓦質土器・須恵器・土鍾		SK51 と重複
SK5	1.65 × 0.97 × 0.46	楕円形	逆台形	N - 7° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・備前焼・鉄滓・土鍾		
SK6	1.40 × 0.54 × 0.13	楕円形	皿状	N - 80° - E		土師質土器		
SK7	0.94 × 0.84 × 0.05	楕円形	皿状	N - 87° - E		土師質土器・瓦器		
SK8	欠番							
SK9	1.24 × 1.05 × 0.07	楕円形	皿状	N - 7° - E		土師質土器・瓦器・青磁		
SK10	2.85 × (1.70) × 0.18	長方形	皿状	N - 85° - W		柴付・鉄		ハンダ土坑
SK11	2.12 × 1.23 × 0.26	長方形	逆台形	N - 70° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・灰釉陶器・青磁		
SK12	1.30 × 1.10 × 0.33	楕円形	逆台形	N - 11° - E		土師質土器		
SK13	0.58 × 0.44 × 0.28	楕円形	逆台形	N - 56° - E		土師質土器・須恵器・緑釉陶器		
SK14	0.94 × 0.50 × 0.25	楕円形	-	N - 13° - E		土師質土器・瓦質土器・須恵器・緑釉陶器		
SK15	0.86 × 0.70 × 0.16	楕円形	皿状	N - 8° - W		黒色土器 A 類・須恵器		
SK16	(1.60) × (0.70) × 0.15	(長方形)	-	N - 9° - W		土師質土器		
SK17	0.94 × (0.70) × 0.14	(楕円形)	箱形	N - 74° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・鉄釘		
SK18	2.00 × 0.53 × 0.17	長方形	逆カマボコ状	N - 85° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器		
SK19	1.47 × 1.02 × 0.11	長方形	皿状	N - 86° - W		土師質土器・須恵器		
SK20	1.15 × 0.63 × 0.04	楕円形	皿状	N - 82° - E				
SK21	0.67 × 0.60 × 0.14	楕円形	皿状	N - 15° - W		土師質土器・瓦質土器・青磁		
SK22	1.02 × 0.71 × 0.12	楕円形	皿状	N - 85° - W		土師質土器・瓦器・緑釉陶器		
SK23	1.90 × 0.65 × 0.25	楕円形	箱形	N - 85° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・青磁		
SK24	0.72 × 0.55 × 0.26	楕円形	箱形	N - 53° - W		土師質土器・須恵器		
SK25	1.30 × (0.50) × 0.20			N - 86° - W		土師質土器・須恵器		
SK26	0.91 × 0.85 × 0.15	不整形	浅い逆台形	N - 86° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・青磁・緑釉陶器		京都系緑釉
SK27	1.04 × (0.85) × 0.10	楕円形	皿状	N - 2° - E		土師質土器・瓦器・黒色土器 A 類・須恵器・青磁		
SK28	2.20 × 0.64 × 0.07	楕円形	皿状	N - 89° - E		土師質土器・須恵器・東播系須恵器		
SK29	3.05 × 0.90 × 0.20	楕円形	皿状	N - 82° - E		土師質土器・瓦器・須恵器・土鍾		
SK30	1.32 × 1.25 × 0.12	楕円形	皿状	N - 10° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器		三足釜
SK31	欠番							
SK32	0.90 × 0.65 × 0.40	楕円形	舟底形	N - 11° - W		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK33	0.95 × 0.66 × 0.15	楕円形	皿状	N - 16° - W		土師質土器・瓦質土器・灰釉陶器		
SK34	1.17 × 0.55 × 0.21	楕円形	箱形	N - 19° - W		土師質土器・瓦質土器・黒色土器 A 類		
SK35	1.16 × 0.60 × 0.25	楕円形	箱形	N - 2° - W		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK36	1.30 × 1.00 × 0.17	楕円形	皿状	N - 80° - W		土師質土器		
SK37	1.26 × 1.15 × 0.25	楕円形	皿状	N - 58° - W		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK38	1.50 × 1.43 × 0.35	楕円形	逆台形	N - 15° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・白磁・青磁・鉄滓		口禿げ口縁白磁

表 7 - 1 上面土坑一覧表

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK39	(1.20) × 1.15 × 0.10	(楕円形)	皿状	N - 70° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・白磁・青磁・鉄滓・土錘		
SK40	1.62 × (0.60) × 0.09	楕円形	皿状	N - 6° - E		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK41	3.70 × 0.56 × 0.24	楕円形	箱形	N - 13° - E		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK42	1.42 × 1.18 × 0.25	楕円形	レンズ状	N - 21° - W		土師質土器・瓦器・須恵器・白磁・鉄釘・土錘		口禿げ口縁白磁
SK43	0.95 × 0.93 × 0.13	正方形	皿状	N - 35° - E		土師質土器・須恵器・軽石		
SK44	欠番							
SK45	(1.10) × 0.77 × 0.15	長方形	皿状	N - 20° - E		土師質土器・須恵器		
SK46	欠番							
SK47	0.81 × 0.48 × 0.20	楕円形	箱形	N - 74° - E		土師質土器・瓦質土器・黒色土器 A 類・須恵器・土錘		
SK48	0.60 × 0.55 × 0.20	楕円形	逆台形	N - 65° - W		土師質土器・瓦器		
SK49	0.74 × 0.63 × 0.17	楕円形	-	N - 68° - W		土師質土器・瓦器		
SK50	0.80 × 0.75 × 0.10	楕円形	皿状	N - 78° - W		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK51	0.94 × 0.46 × 0.14	-	皿状	-		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK52	(1.40) × 1.11 × 0.19	-	皿状	N - 81° - E		土師質土器・瓦器		
SK53	0.80 × 0.61 × 0.15	長方形	皿状	N - 81° - W		土師質土器・瓦器		
SK54	0.95 × (0.40) × 0.07	-	皿状	-		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK55	(1.26) × 0.50 × 0.10	(楕円形)	皿状	N - 10° - E		土師器・須恵器		
SK56	1.67 × 1.21 × 0.24	長方形	皿状	N - 14° - E		土師質土器・瓦器・須恵器		
SK57	0.82 × 0.76 × 0.13	正方形	皿状	N - 11° - E		土師質土器・瓦器・黒色土器 A 類・須恵器・土錘		

表 7 - 1 上面土坑一覧表

SK2

SK2 は調査区東側で検出した土坑である。平面形は長方形で長軸 1.47m、短軸 0.91m、深さ約 19cm を測る。遺構断面形は浅い箱形で埋土は灰褐色粘質土に黄褐色土が混じるもので埋土中には炭化物が含まれていた。埋土中からは土師器、瓦器、瓦質土器、須恵器、青磁が出土している。1 は口縁が外反し水平に近く開く土師器皿である。SK2 の下層、下面で下 SD31 を検出している。

SK4

SK4 は調査区東部で検出した土坑で SK51 と重複し切っている。周辺には遺構が多い。平面形は長方形で長軸約 2.18m、短軸約 1.25m、深さ約 16cm を測る。断面形は浅い箱形である。埋土は褐灰色粘質土（灰色ベースに褐色粒子多く混じる）で土師器、瓦器、瓦質土器、須恵器、土錘が出土している。2 は土師器椀で白色の堅く焼締まった胎土に薄い灰色の火襷が入るもので同じ土佐市に所在する天崎遺跡で同様の出土例が知られている。3 は瓦質土器の鍋で所謂土佐型鍋である。SK4 に切られる SK51 は長軸約 0.94m、短軸約 0.46m が残存し、深さは約 14cm を測る。埋土は SK4 と同じく褐灰色粘質土であるが黄色砂質小礫が混じる。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器が出土している。

SK5

SK5 は調査区中央部北側に位置する楕円形の土坑で西側上層を旧地割りによって切られている。土坑の規模は長軸 1.65m、短軸 0.97m、深さ約 46cm を測る。断面形は逆台形であるが立ち上がりの角度は比較的緩やかなものである。埋土は暗灰褐色粘砂土で黄色土がブロック状に混じる。

埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、備前焼、鉄滓、土錘が出土している。図示できた遺物は 5 の土錘のみである。

SK10

SK10 調査区北西部で検出した長方形の大型土坑で北側端部を攪乱溝に切れ下面では下 SD4 を検出している。土坑の長軸は約 2.85m、短軸は残存長 1.70m、深さ約 18cm を測る。検出埋土は明る

い灰褐色シルト質粘土である。埋土中からは近世陶磁器染付、鉄滓が出土している。図示できたのは6の染付のみである。SK10は近世以降の土坑と考えられる。

SK13

SK13は調査区中央部に位置しSK14、P412と重複しており両方を切っている。平面形は不整形な楕円形で規模は長軸0.58m、短軸0.44m、深さ約28cmを測る。断面形は逆台形を呈する。検出埋土は褐灰色シルト質粘土で黄色小ブロック、炭化物が混じる土である。埋土からは土師質土器、須恵器、緑釉陶器が出土している。緑釉陶器の胎土は白色であった。図示できた遺物は7の底部回転糸切り痕が残る土師質土器杯のみである。SK13に切られるSK14は長軸約0.94m、短軸約0.5m、深さ約25cmを測る楕円形の土坑で検出埋土は灰褐色シルト質粘土で炭化物を多く含む。埋土中からは土師質土器、瓦質土器、須恵器、緑釉陶器が出土しているが何れも細片である。

SK17

SK17は調査区南西部に位置する土坑でSK18と重複しSK18に切られている。土坑の平面形は楕円形を復元でき、規模は長軸約0.94m、短軸残存長約0.7m、深さ約14cmを測る。断面形は箱形で埋土は灰黄白色砂質土に鉄分が混じる土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、鉄釘が出土している。8は底部回転糸切りで外面に回転痕の残る杯、9は瓦質土器のミニチュアである。10は瓦質土器羽釜で小さいがしっかりした鏝が巡っている。

SK18

SK18はSK17を切る土坑で細長い長方形で長軸約2.0m、短軸約0.53m、深さ約17cmの規模を測る。遺構の断面形は逆カマボコ状で埋土は黄褐色砂質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器などが出土しており、図示できた11の瓦質土器羽釜は口縁下部に弱い鏝状の雑な粘土帯が貼り付けられる。15世紀以降の時期が考えられるものである。

SK21

SK21は調査区中央西端部に位置する楕円形土坑である。規模は長軸約0.67m、短軸約0.6m、深さ約14cmを測る。断面形は皿状を呈し、検出埋土は明るい灰褐色シルト質粘土である。埋土中からは土師質土器、瓦質土器、青磁が出土している。12の糸切り痕が残る土師質土器杯底部と13の外面に炭素吸着させた瓦質土器の底部を図示した。

SK23

SK23は調査区中央部西側に位置しSK24とわずかに重複し切られる。周辺には遺構が多くある。平面形は長方形に近い楕円形である。規模は長軸約1.90m、短軸約0.65m、深さ約25cmを測り、断面形は箱形で埋土は掘方は暗灰色粘砂土に黄色砂質小礫が入る土で炭化物が入る。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、青磁が出土している。図示できたのは14の小皿と回転糸切り痕が残る杯底部15である。

SK24

SK24はSK23をわずかに切った状態で検出した楕円形の土坑で長軸約0.72m、短軸約0.55m、深さ約26cmを測る。埋土は灰色粘砂土に灰黄白色シルトが混じる土である。埋土中からは回転糸切り痕の残る土師質土器底部や須恵器が出土しているが細片のみで図示できる遺物は無かった。

SK26

SK26は調査区中央部西側に位置する平面形の不整形な土坑である。2基の土坑が切り合ってい

る可能性が考えられたが確認できなかった。規模は長軸約 0.91m、短軸約 0.85m、深さ約 15cmを測る。断面形は浅い逆台形を呈する。埋土は灰白色粘砂土で埋土からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、青磁、緑釉陶器が出土している。図示できた 16 は瓦器皿で扁平な器形であり、平底状で口縁のみを外反させている。

SK27

SK27 は調査区中央部に位置する土坑で P229 に切られている。周辺には遺構が多くある。土坑の平面形は長方形に近い楕円形で長軸約 1.04m、短軸残存長約 0.85m、深さ約 10cmを測る。断面形は浅い皿状で埋土は灰黄色粘砂土で埋土中からは土師質土器、瓦器、黒色土器 A 類、須恵器、青磁が出土している。回転糸切り痕が残る土師質土器杯底部 17 のみ図示できた。

SK28

SK28 は調査区中央部に位置する長方形に近い楕円形の土坑で周辺は遺構が多く確認されている。規模は長軸約 2.2m、短軸約 0.64m、深さ約 7cmを測る。断面形は皿状を呈し、埋土は明るい灰褐色粘砂土である。埋土中からは土師質土器、須恵器、東播系須恵器が出土している。図示できた 18 の東播系須恵器片口鉢は口縁円周が約 1/4、口縁から底部まで残存し完形復元できるものである。

SK39

SK39 は調査区中央部北側に位置し SD3 と重複し切られる。平面形は楕円形を復元できる。遺構の規模は長軸残存長約 1.2m、短軸約 1.15m、深さ約 10cmを測る。断面形は皿状で埋土は灰色粘砂土であった。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、白磁、青磁、鉄滓、土錘が出土するが図示できたものは 19 の土錘のみである。

SK42

SK42 は調査区東部で検出した土坑で SD5 と重複し SD5 を切っている。平面形は楕円形で長軸約 1.42m、短軸約 1.18m、深さ約 25cmを測る。断面形はレンズ状である。埋土は褐灰色砂質土に炭化物、焼土が混じる。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器、白磁、鉄釘、土錘が出土している。図示できた 20 は口禿げ口縁の白磁皿で、13 世紀から 14 世紀と考えられるものである。

SK43

SK43 は調査区南東部で検出した土坑で P425 に切られている。平面形は正方形で長軸約 0.95m、短軸約 0.93m、深さ約 13cmを測る。断面形は皿状である。埋土は灰色に褐色粒子が多量に混じる粘砂土で炭化物、焼土が混じる。埋土中からは土師質土器、須恵器、軽石が出土している。図示できた 22 は底部から直線的に開く体部の小杯で外面には回転ナデ痕が残るが底部切り離しは不明である。

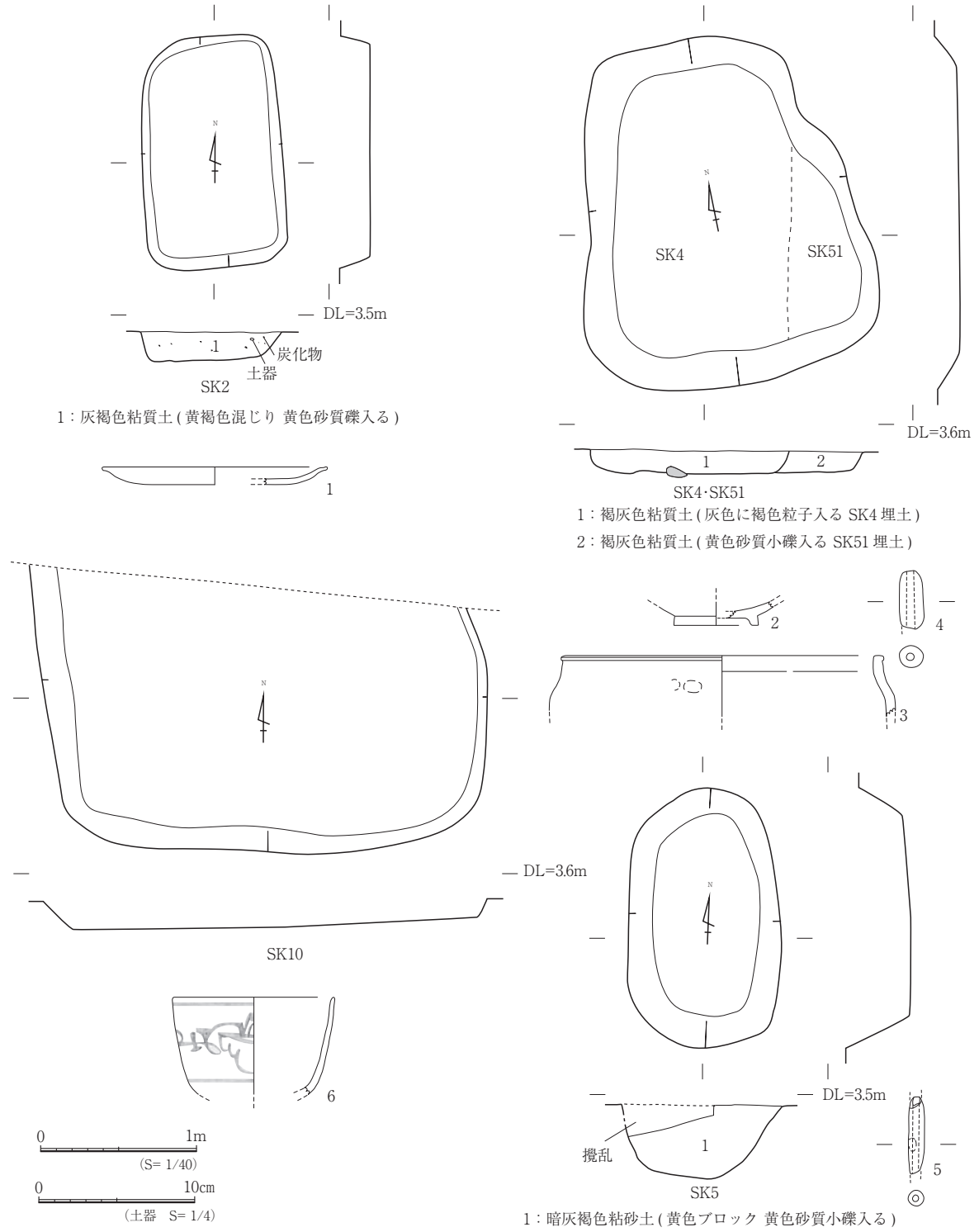
SK53

SK53 は調査区中央部西端で検出した長方形の土坑で SK22 と隣接し P464 と重複している。規模は長軸が約 0.80m、短軸約 0.61m、深さ約 15cmを測る。検出埋土は黄灰褐色粘質土で砂利、炭化物が混じっている。埋土中からは土師質土器、瓦器が出土している。図示できたのは 24・25 でともに底部回転糸切りである。

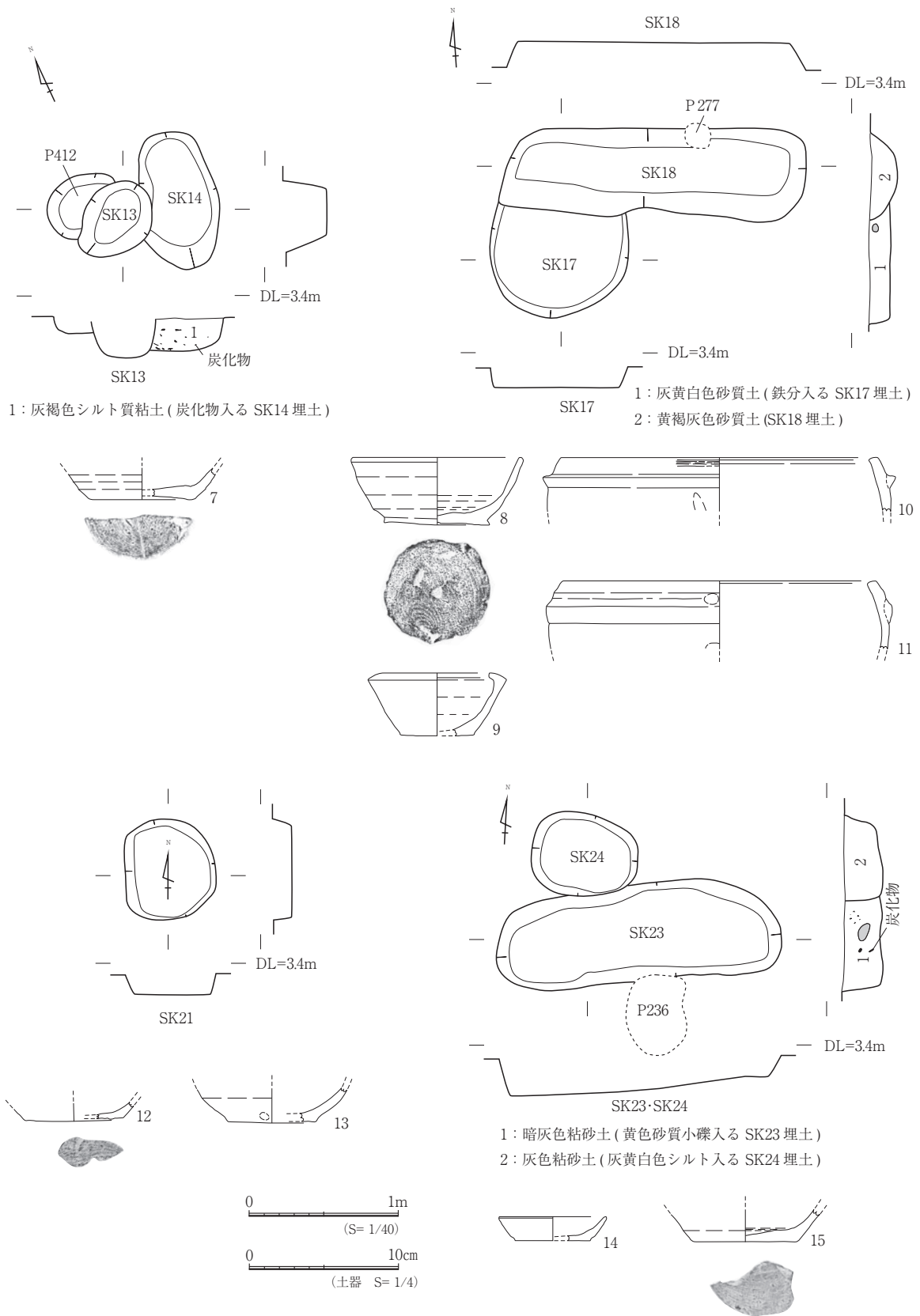
SK55

SK55 は調査区東端部で検出した土坑で調査区に切られている。平面形は楕円形を復元でき長軸残存長約 1.26m、短軸約 0.50m、深さ約 10cmを測る。断面形は皿状の浅いもので埋土は暗灰褐色粘質

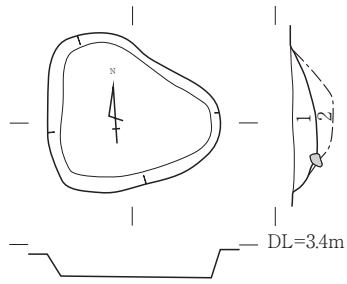
土であった。埋土中からは土師器、須恵器が出土しており、わずかに外反気味に開く体部を持つ古代の杯 23 を図示した。



7 - 4 図 SK2・4・5・10

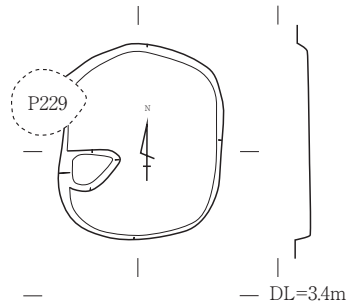


7-5 図 SK13・17・18・21・23・24



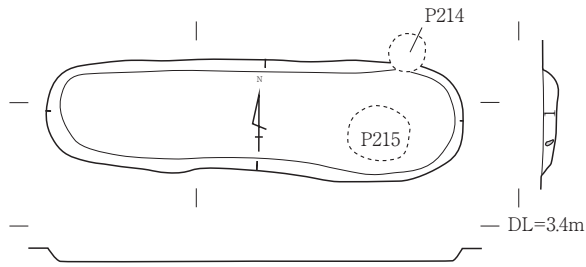
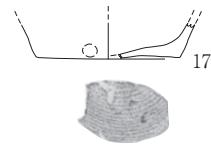
SK26

- 1: 灰白色粘砂土 (鉄分多く入る)
- 2: 暗褐色粘砂土 (地山 TR)



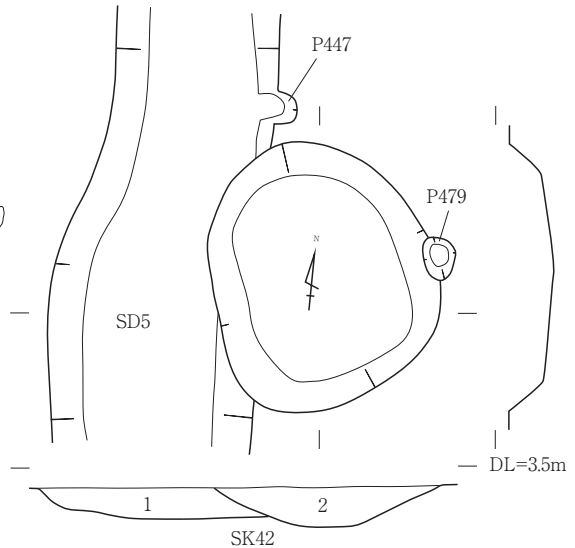
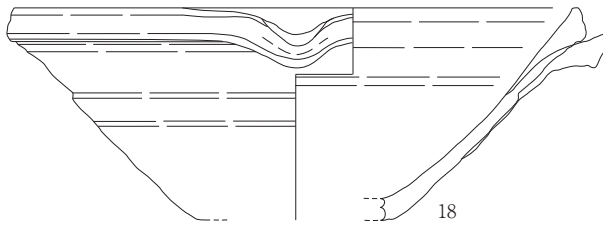
SK27

- 1: 灰黄色粘砂土 (鉄分入る)



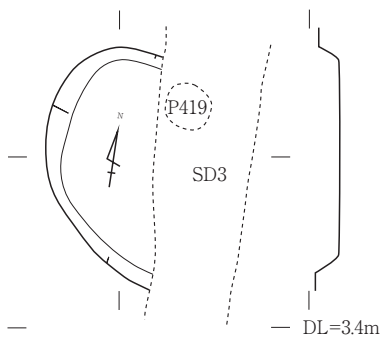
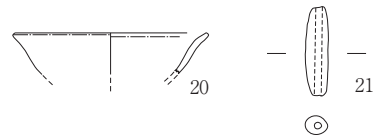
SK28

- 1: 灰褐色粘砂土 (灰色に褐色粒子入る)



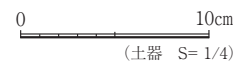
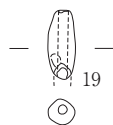
SK42

- 1: 灰褐色粘砂土 (黄色砂質小礫入る SD5 埋土)
- 2: 褐灰色砂質土 (炭化物 焼土入る SK42 埋土)

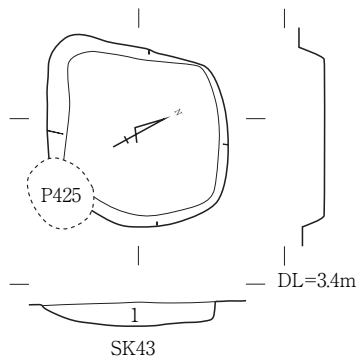


SK39

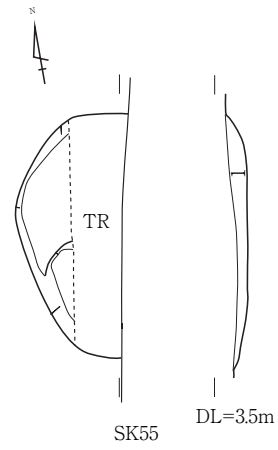
- 1: 灰色粘砂土 (鉄分入り グライ化気味)



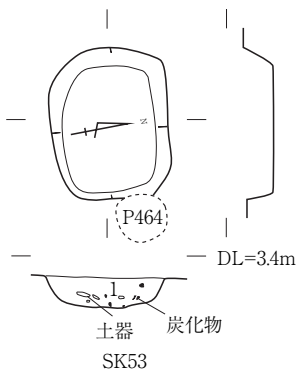
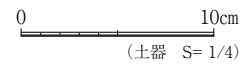
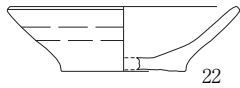
7-6 図 SK26 ~ 28 · 39 · 42



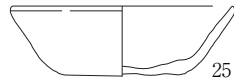
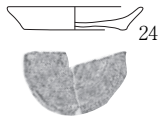
1: 灰色粘砂土 (褐色粒子多量に入る 炭化物 焼土入る)



1: 暗灰褐色粘質土



1: 黄灰褐色粘質土 (炭化物 砂利混じる)



7-7図 SK43・53・55

溝跡 (SD)

溝跡は検出時 SD1 ~ 10 と中 SD18 の溝跡 11 条検出した。上面で検出した溝跡はいずれも南北方向とそれに直交する東西方向の溝跡である。SD5・7・9・中 SD18 は L 字状の溝跡で SD1 は L 字状の溝跡の可能性が高いと考えられる。中 SD18 は上面で検出していたが埋土が攪乱状であったため上面で掘削しなかったが、中面調査で遺構と確認できたため上面遺構であるが中 SD18 と遺構番号を付けた。

遺構名	長さ×幅×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	接続	出土遺物	時期	備考
SD1	31.90 × 0.60 × 0.28	直線状	-	N - 2° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・炆器・瀬戸・須恵器・青磁・鉄滓		
SD2	15.50 × 1.09 × 0.14	直線状	皿状	N - 86° - W		土師質土器・瓦器・常滑焼・須恵器・青磁・鉄滓		播磨型羽釜
SD3	28.50 × 0.60 × 0.20	直線状	逆台形	N - 1° - W		土師質土器・瓦器・須恵器・東播系須恵器・青磁		
SD4	7.10 × 1.00 × 0.21	直線状	皿状	N - 3° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・東播系須恵器・青磁		
SD5 (南北)	23.00 × 1.30 × 0.16	直線状	皿状	N - 1° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・備前焼・常滑焼・須恵器・緑釉陶器・青磁・白磁・土錘・鉄片・軽石		出土量多い 白磁口禿! 口縁皿
SD5A (東西)	8.50 × 1.20 × 0.14	直線状	皿状	N - 84° - W	1 - 7 区	土師質土器・瓦器・瓦質土器・備前焼・常滑焼・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・青磁・白磁・土錘・鉄片・軽石		
SD6	2.30 × 0.60 × 0.18	直線状	箱形	N - 8° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・鉄片		
SD7 (南北)	4.80 × 0.83 × 0.22	F 字状	レンズ状	N - 5° - W		土師質土器・黒色土器 A 類・瓦器・瓦質土器・炆器・須恵器・備前焼		
SD7 (東西)	8.20 × 0.90 × 0.16	F 字状	レンズ状	N - 89° - E	1 - 7 区			
SD7A	2.40 × 0.85 × 0.11	F 字状	皿状	N - 80° - E				
SD8	9.00 × 0.72 × 0.11	直線状	皿状	N - 6° - E		土師器・須恵器		
SD9 (南北)	10.60 × 0.40 × 0.20	L 字状	舟底形	N - 3° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・青磁・白磁		
SD9 (東西)	3.70 × 0.35 × 0.27	L 字状	舟底形	N - 88° - W				
SD10	6.10 × 0.65 × 0.24	直線状	箱形	N - 87° - E		土師器・須恵器・鉄滓		播磨型羽釜
中 SD18 (南北)	(40.1) × 2.00 × 0.45	L 字状	逆台形	N - 1° - W		土師質土器・瓦器・須恵器・東播系須恵器・灰釉陶器・青磁・白磁・土錘・瓦		中面で遺構名を付けるが上面遺構と判断
中 SD18 (東西)	10.00 × 1.90 × 0.37	L 字状	逆台形	N - 69° - W	1 - 7 区			

表 7 - 2 上面溝跡一覧表

SD1

SD1 は調査区中央部で検出した南北方向の溝跡である。近現代の暗渠跡と重複し東側肩部が切られている。溝跡の軸方向は N - 2° - W である。検出長は約 31.9m で北端部は調査区に南端部は SK38 に切られている。SD1 の上端幅は北側の残存部で約 0.6m である。深さは北側では浅く約 21cm、南側では約 30cm を復元できる。断面形は南側の深い部分では U 字状を復元できる。埋土は暗灰色砂質土で鉄分が混じる。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、炆器、瀬戸、須恵器、青磁、鉄滓など多くの遺物が出土するが図示できたのは 26 の土師質土器小皿のみである。

SD1 は中 SK84 に切られるが、西側に延びる SD10 と接続している可能性が高く、SD1 は SD10 も含めた L 字状の溝跡と考えられる。L 字状の溝跡内側には土坑やピットを多く検出しており区画溝の可能性が考えられる。

SD2

SD2 は調査区北側で検出した東西方向の溝跡で軸方向は N - 86° - W である。西端部は調査区に切られる。東端部は SD1 に切れ東側には延長が見られない。溝跡の規模は検出長は約 15.5m で上端幅は約 1.1m、深さは約 14cm を測る。断面形は浅い皿状からレンズ状で埋土は濁った灰白色

砂質土で鉄分が多く混じる。埋土中からは土師質土器、瓦器、常滑焼、須恵器、青磁、鉄滓が出土している。図示できた遺物は27の底部回転糸切りの土師質土器小皿と28の高台径が大きくしっかりした高台を持つ瓦器椀底部のみである。

SD3

SD3は調査区中央部で検出した溝跡でSD1にほぼ並行する南北方向の溝跡で軸方向はN-1°-Wである。南端部でやや東に曲がるが攪乱土坑に切られ延長は確認できない。SD3の検出長は約28.5m、上端幅は約0.6m、深さは約20cmを測る。断面形は逆台形でしっかりした立ち上がりがある。埋土は灰色砂質土で鉄分が多く入る。埋土中から土師質土器、瓦器、須恵器、東播系須恵器、青磁が出土している。29は須恵器杯で内底は落ち込み、外底には糸切り痕が残る。31は東播系須恵器片口鉢の口縁である。

SD4

SD4は調査区中央部で検出した南北方向の短い溝跡である。検出長は約7.1m、上端幅は約1.0m、深さは約21cmを測り長さに対して幅がある。埋土は暗灰色粘砂土で黄白色砂質土ブロックが入り鉄分が多く混じる。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、東播系須恵器、青磁が出土している。I-5類青磁椀の32・33を図示したが2点とも小片である。

SD4は溝状の土坑の可能性が考えられる。

SD5

SD5は調査区東側で検出した南方向に延びた後屈曲し東方向に延びるL字状の溝跡である。南北部分は軸方向N-1°-Eで検出長は約23.0m、上端幅は約1.3m、深さ約16cmを測る。東西部分は8.5m延び調査区で切られるが1-7区では延長部分を確認している。上端幅は約1.2m、深さは約14cmを測る。埋土は南北部分は灰褐色土で埋土中からは投げ込まれた状態の砂岩角礫が出土する。砂岩角礫は長軸25cm程度のもので焼石とみられるものも混じるが埋土中に浮いた状態の出土である。埋土中から出土した遺物は他の遺構と比べ種類、量とも多く土師質土器、瓦器、瓦質土器、備前焼、常滑焼、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、青磁、白磁、土錘、鉄片、軽石が出土している。34は口禿げ口縁の白磁皿である。36は口縁端部を摘み上げた土師器甕で紀伊型の可能性が考えられるものである。38は備前焼Ⅲ期と考えられる播鉢である。42～44は下層で取り上げた遺物である。41は須恵器壺で包含層3出土のものと接合し完形復元できる。SD5は15世紀と考えられ区画溝の可能性が考えられる。

SD6

SD6は調査区北東部中央で検出した短い溝跡で北端部を攪乱坑に切られている。またピットと重複するが何れも切られた状態であった。検出長は約2.3m、上端幅は約0.6mで深さは約18cmを測る。断面形は箱形で埋土は上層が灰色砂質土に小砂礫が混じる土で下層は灰褐色砂質土であった。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、鉄片が出土しているが細片のみで図示できる遺物はなかった。SD6の南延長に溝状のSK41が存在するが同一遺構ではないと判断される。

SD7

SD7は調査区南東部で検出した溝跡である。南下の後、東に向きを変えるL字状の溝跡である。屈曲部分で北上するSD8と合流している。短い枝分かれ部分であるSD7AでSD5と連結している。SD7南北部分は軸方向N-5°-Wで検出長約4.80m、上端幅約0.83m、深さ約22cmを測る。東西

部分は軸方向 N - 89° - E で検出長約 8.2m、上端幅約 0.9m、深さ約 16cm である。SD7A 部分は検出長約 2.4m、上端幅約 0.85m、深さ約 11cm である。埋土は何れも灰色砂質土である。埋土中からは土師質土器、黒色土器 A 類、瓦器、瓦質土器、炆器、須恵器、備前焼が出土している。図示できた 46 は黒色土器 A 類で内面には密なミガキ痕が残り搬入品と考えられる。47 は備前焼播鉢である。

SD7 は東側 1 - 7 区でも延長を検出している。

SD8

SD8 は調査区北南東部で検出した南北方向の溝跡である。北端部で方向を東に変え SD7 に合流している。南端部は中 SD18 に切られるが南に行くに従って浅く不整形になる。軸方向は N - 6° - E で検出長約 9.0m、上端幅約 0.72m、深さ約 11cm を測る。検出埋土は灰褐色粘砂土である。埋土中から土師器、須恵器の細片が少量出土したのみである。

SD9

SD9 は調査区南東部で検出した南北方向の北端部で直角に曲がり東に方向を変える逆 L 字状の溝跡である。南北方向部分は軸方向は N - 3° - E で検出長約 10.6m、上端幅約 0.4m、深さ約 20cm を測る。東西部分は軸方向 N - 88° - W で検出長約 3.7m、上端幅約 0.35m、深さ約 27cm を測る。埋土は何れも黄色砂質土でわずかに褐色が混じっている。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、青磁、白磁が出土しているが図示できる遺物はなかった。

SD10

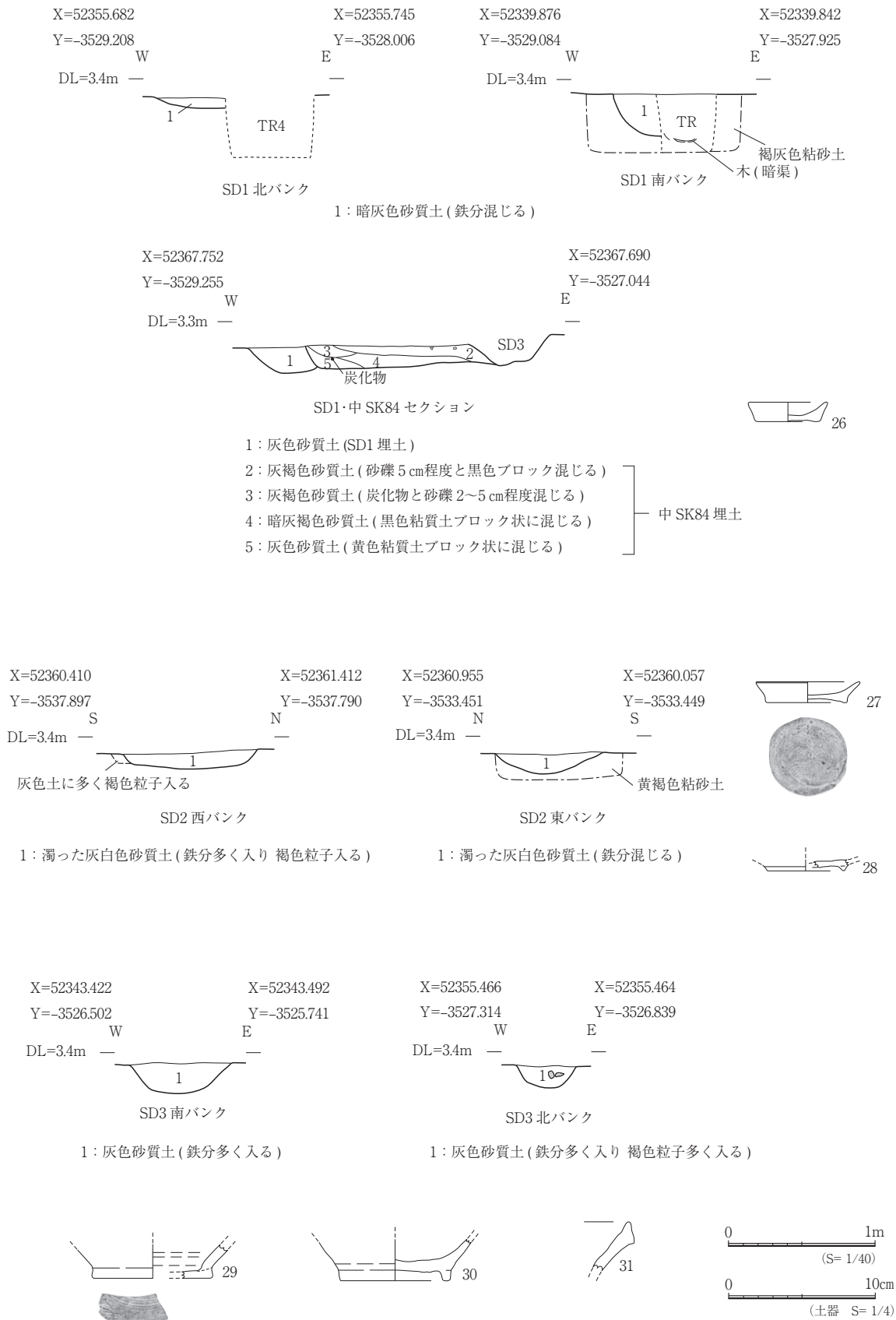
SD10 は調査区南西部で検出した東西方向の溝跡である。西端部は調査区に切れ東端部は SK38 に切られている。検出長約 6.1m、上端幅約 0.65m、深さ約 24cm を測る。遺構の断面形は箱形で立ち上がりはしっかりしている。埋土は灰褐色土を主体とした土で埋土中からは土師器、須恵器、鉄滓が出土しているが細片のみで出土量も少なかった。

SD10 は SD1 と一連の遺構と考えられ L 字状の区画を意図した溝跡の可能性が考えられる。

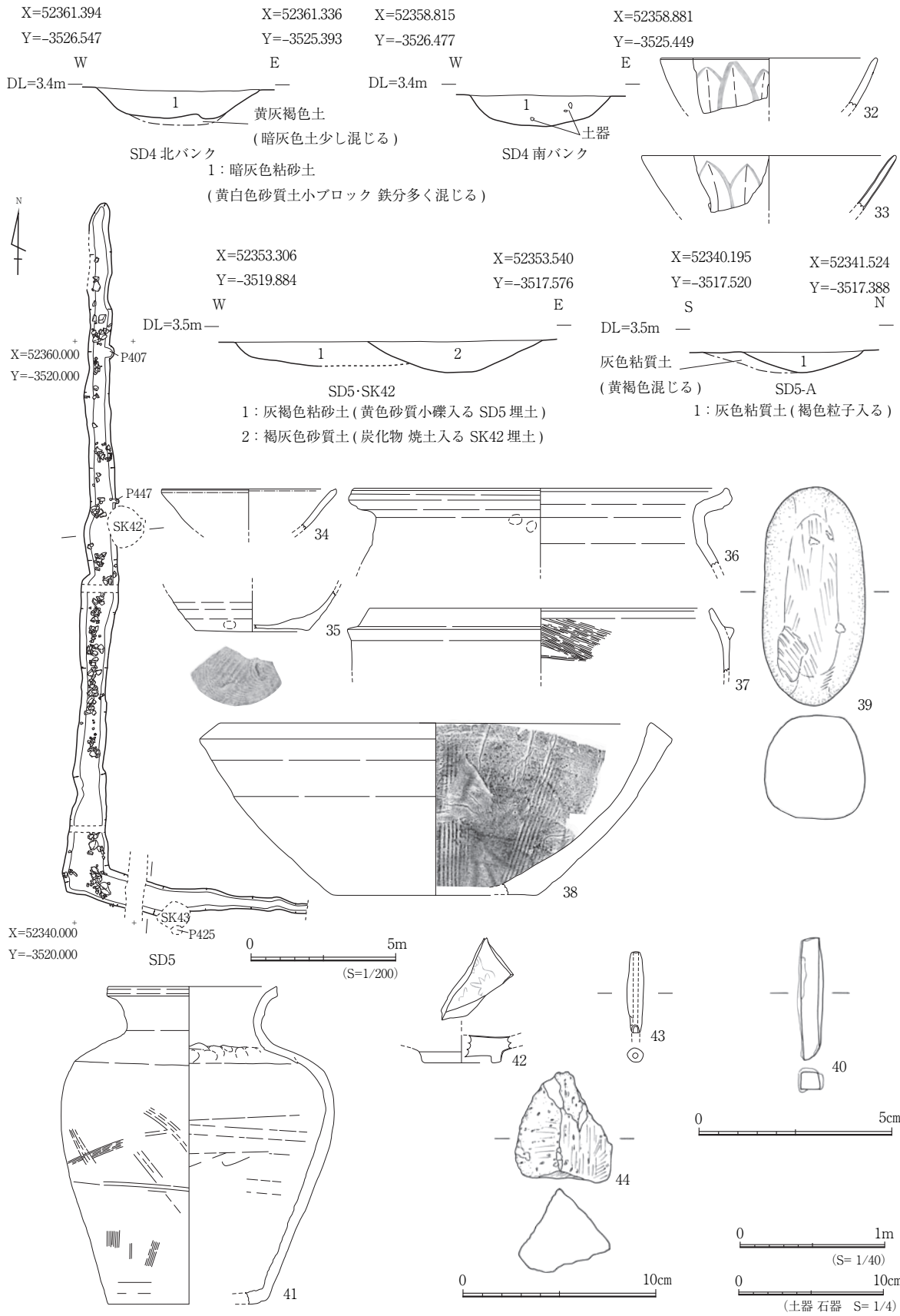
中 SD18

中 SD18 は調査区中央部を縦断し南端部で東に方向を変える L 字状の大型の溝跡である。中 SD18 は上面で検出したが埋土にブロック状に灰色粘土が混じり攪乱状を呈しており近世～近現代の攪乱の可能性が高いと判断したため上面では掘削しなかった。東側の 1 - 7 区での調査の進展により 1 - 1 区まで延長し、中世に遡る可能性が高い事が判明したため、中面で遺構番号を付け掘削調査を行ったため上面の遺構であるが中 SD18 となった。中 SD18 の南北部分は復元延長約 40.1m、上端幅約 2.0m、上面検出面から床面までの深さは約 45cm である。東西部分は検出長約 10.0m、上端幅約 1.9m、上面検出面から床面までの深さは約 40cm であった。遺構の断面形は逆台形で床面は平坦面があり約 45° の角度で立ち上がっている。埋土は褐色土の灰色粘土のブロックが斑状に混ざる土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器、東播系須恵器、灰釉陶器、青磁、白磁、瓦、土錘が出土する。図示できた遺物は 52 の灰釉陶器、50・51 の青磁である。瓦は 1 点のみの出土で表面は摩耗している。内面には木挽き痕が残る。

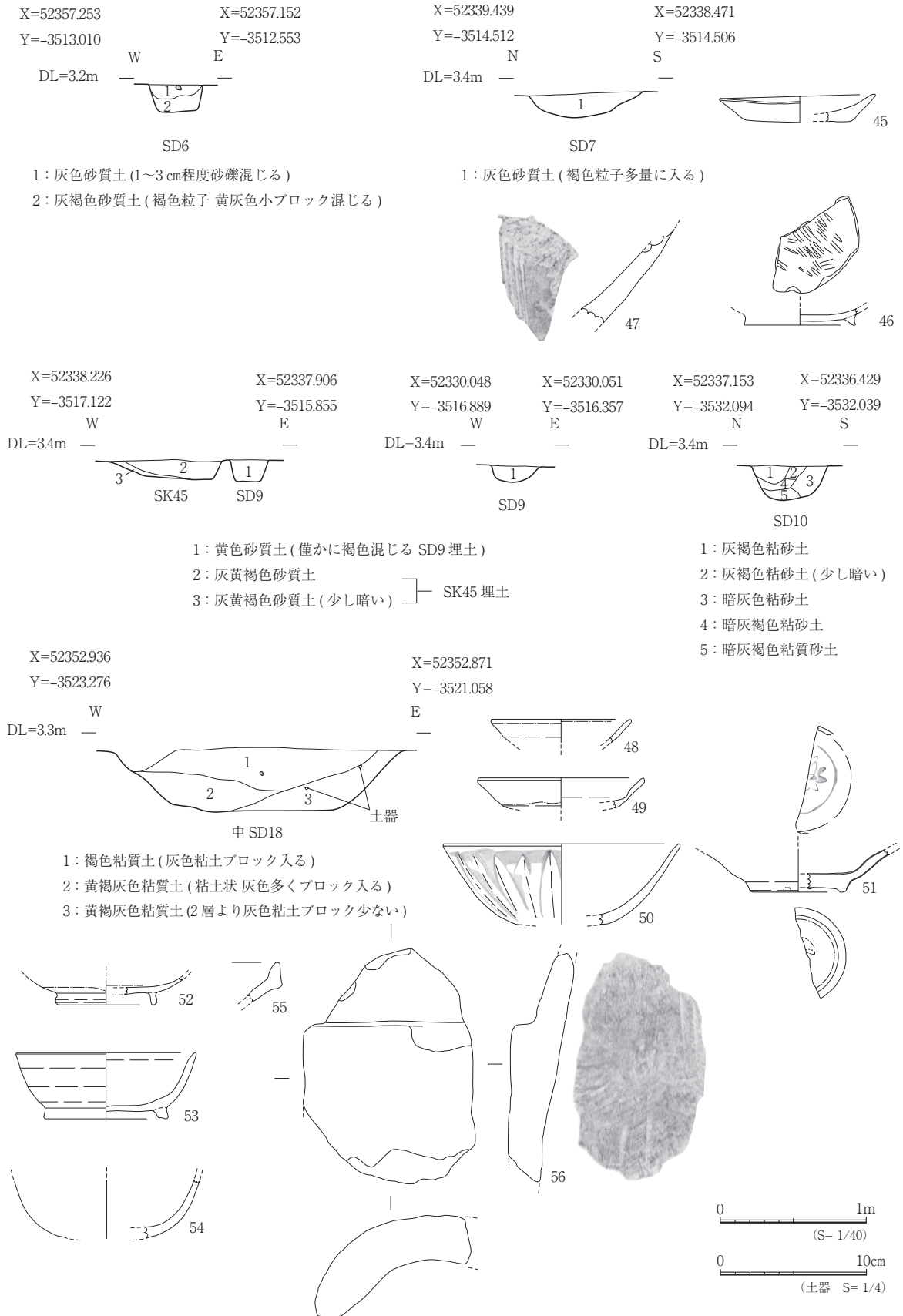
中 SD18 は規模の大きな溝跡で 1 - 1 区まで延長していると考えられ、環溝の可能性が考えられる遺構である。



7-8 図 SD1 ~ 3



7 - 9 図 SD4・5



7-10図 SD6・7・9・10・中SD18

ピット (P)

ピットは上面では検出時 P1 ~ 498 までの遺構番号を付けたが精査の結果欠番が 45 個有り、ピットと確認したものは 453 個である。ピットの検出埋土及び検出比率は黄灰色粘土質シルト 7%、灰褐色シルト質粘土 33%、明灰褐色シルト質粘土 54%、灰色土 2%、褐灰色土 3%、灰色土 (褐色粒子混じる) 1% である。ピットの分布はおおむね SD1 で囲まれた区画、SD5 で囲まれた区画、SD8 で囲まれた区画に分けることができる。SD5 で囲まれた区画から検出したピットの埋土は灰褐色シルト質粘土がやや多い傾向が見られる。何れの区画も建物跡を復元することはできなかった。

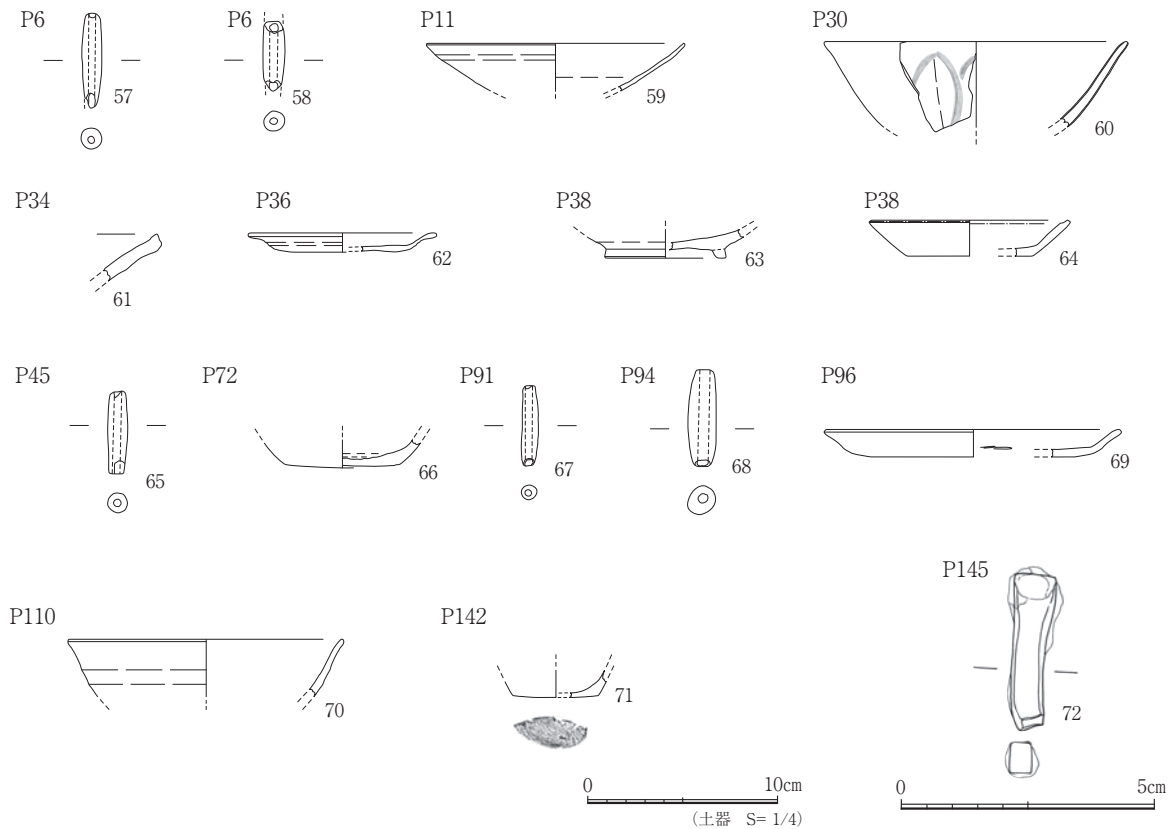
埋土中から出土した土器で図示できた遺物は 69 点である。図示した遺物で中世の遺物では土師質土器杯及び小皿 13 点に底部回転糸切り痕が確認できた。P299 出土の 97 は瀬戸の緑釉陶器皿で口縁部に灰釉陶器を施釉したもので 14 世紀後半と考えられるものである。64・76 は口禿げ口縁白磁皿である。古代に属する遺物では灰釉陶器が P159・217・378・418 から出土している。また黒色土器を 3 点図示しているが何れも内黒の A 類で 84 は搬入、116 は在地産の可能性が考えられる。その他の遺物では土錘 16 点を図示した。

遺構名	平面形	長径×短径 直径 (cm)	深さ (cm)	埋土	図版No	出土遺物	備考
P6	円形	20	32	明灰褐色シルト質粘土	57・58	土師質土器・須恵器・土錘	
P11	円形	35	34	明灰褐色シルト質粘土	59	土師器・土師質土器・瓦器・須恵器	
P30	円形	35×25	22	明灰褐色シルト質粘土	60	土師質土器・瓦器・須恵器・青磁	
P34	円形	30	27	灰褐色シルト質粘土	61	土師質土器・瓦質土器	
P36	円形	20	18	灰褐色シルト質粘土	62	土師器・土師質土器	
P38	円形	35	37	灰褐色シルト質粘土	63・64	土師器・土師質土器・瓦器・白磁	
P45	円形	30×(28)	17	明灰褐色シルト質粘土	65	土師質土器・土錘	
P72	円形	20	19	明灰褐色シルト質粘土	66	土師質土器	
P91	円形	20	20	灰褐色シルト質粘土	67	土師質土器・瓦器・土錘	
P94	円形	25	17	灰褐色シルト質粘土	68	土師質土器・黒色土器 A 類・土錘	
P96	楕円形	45×40	19	明灰褐色シルト質粘土	69	土師器・土師質土器・瓦器・須恵器・発泡土器片	
P110	円形	35	47	明灰褐色シルト質粘土	70	土師器・土師質土器・瓦器・須恵器	
P142	円形	70	13	黄灰色粘土質シルト	71	土師質土器	
P145	円形	30	34	灰褐色シルト質粘土	72	土師質土器・瓦器・須恵器・青磁・鉄釘・鉄滓	
P156	円形	45	32	灰褐色シルト質粘土	73	土師質土器・須恵器	
P159	円形	40	21	灰褐色シルト質粘土	74	土師質土器・瓦質土器・灰釉陶器	
P169	円形	40	46	褐灰色土	75	土師質土器・青磁・鉄滓・炭化物	
P170	円形	35×30	22	灰褐色シルト質粘土	76	土師質土器・白磁	
P171	円形	40×(30)	20	灰褐色シルト質粘土	77	土師質土器・瓦器・須恵器・鉄釘	丸底気味
P174	円形	35	48	明灰褐色シルト質粘土	78	土師質土器・東播系須恵器	
P178	円形	35×30	43	明灰褐色シルト質粘土	79	土師質土器・瓦器・鉄釘	
P179	円形	30×28	31	明灰褐色シルト質粘土	82	土師質土器・瓦質土器・須恵器	
P188	円形	30	18	明灰褐色シルト質粘土	80	土師質土器・炭化物	
P189	円形	30	20	黄灰色粘土質シルト	81	土師器	
P212	円形	45×40	50	明灰褐色シルト質粘土	83	土師質土器・黒色土器 A 類・瓦器・須恵器	
P217	楕円形	45×32	18	灰褐色シルト質粘土	85～87	土師質土器・須恵器・灰釉陶器・土錘	
P219	円形	30	22	明灰褐色シルト質粘土	84	黒色土器 A 類	
P220	正方形	60	18	明灰褐色シルト質粘土	88	土師質土器・瓦器・鉄片・土錘	
P230	円形	40×35	20	灰色土	89	土師質土器・青磁	
P232	楕円形	40×30	29	明灰褐色シルト質粘土	90	土師質土器・砥石・鉄滓・炭化物	
P247	円形	40	25	明灰褐色シルト質粘土	91～93	土師質土器・瓦質土器・瓦器	
P274	楕円形	35×25	13	明灰褐色シルト質粘土	94	土師質土器・土錘	
P281	楕円形	65×45	24	明灰褐色シルト質粘土	95	土師質土器	
P282	楕円形	75×60	17	明灰褐色シルト質粘土	96	土師質土器・瓦器	
P299	円形	35	34	明灰褐色シルト質粘土	97	土師質土器・古瀬戸・鉄滓	
P311	円形	35×30	35	灰褐色シルト質粘土	98	土師質土器	
P319	円形	35×30	16	明灰褐色シルト質粘土	99～102	土師質土器・土錘	
P324	正方形	50×45	25	灰褐色シルト質粘土	103	土師質土器・土錘	
P361	楕円形	45×30	25	灰褐色シルト質粘土	104	土師質土器	

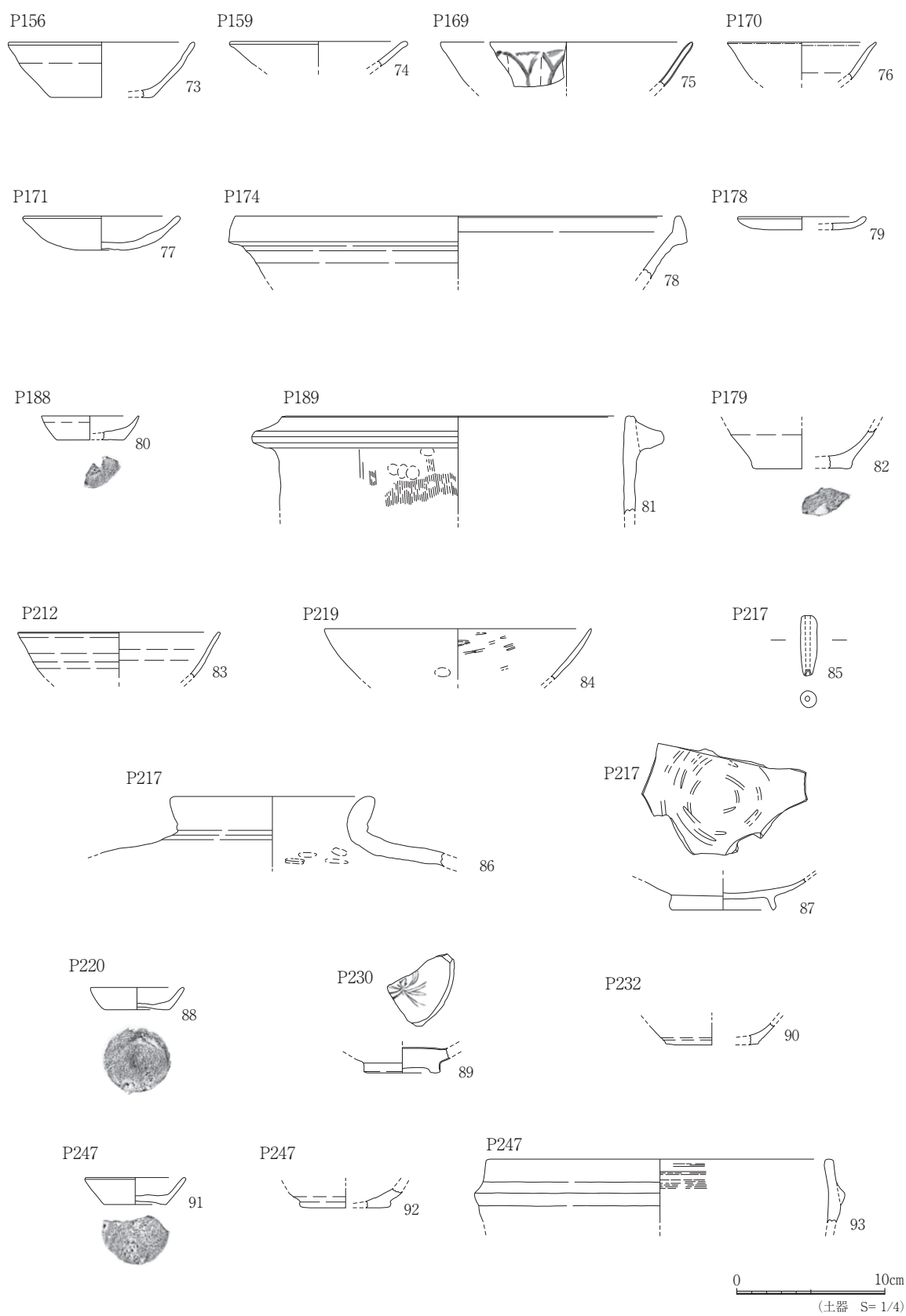
表 7 - 3 上面図版掲載遺物出土ピット計測表

遺構名	平面形	長径×短径 直径 (cm)	深さ (cm)	埋土	図版No.	出土遺物	備考
P365	円形	35 × 30	15	明灰褐色シルト質粘土	105	土師質土器	
P370	円形	20	15	灰褐色シルト質粘土	106	土師質土器	
P373	楕円形	50 × (20)	23	明灰褐色シルト質粘土	107	土師質土器・瓦器・須恵器	
P374	楕円形	45 × 35	38	明灰褐色シルト質粘土	108	土師質土器・瓦器・須恵器・青磁・炭化物	
P378	円形	60 × 55	47	明灰褐色シルト質粘土	109・110	土師器・黒色土器 A 類・瓦質土器・緑釉陶器 灰釉陶器	
P390	円形	70 × (60)	20	明灰褐色シルト質粘土	111	土師器	
P394	楕円形	40 × 30	47	灰褐色シルト質粘土	112・113	土師質土器・青磁・土鍾	
P395	円形	55 × 50	40	灰褐色シルト質粘土	114・115	土師質土器・須恵器	
P400	楕円形	45 × 35	66	灰褐色シルト質粘土	116	土師器・黒色土器 A 類	
P406	円形	30	32	褐灰色土	117	土師質土器・瓦器・瓦質土器・土鍾	
P418	楕円形	75 × 65	13	灰色土	118	土師質土器・瓦器・黒色土器 A 類・灰釉陶器	
P426	円形	35	20	灰褐色シルト質粘土	119	土師器・須恵器	
P441	円形	35 × 30	24	灰褐色シルト質粘土	120	土師質土器・瓦器・黒色土器 A 類・須恵器	
P443	円形	25	21	灰褐色シルト質粘土	121	土師質土器・青磁	
P467	円形	35 × 30	19	明灰褐色シルト質粘土	122・123	土師質土器・東播系須恵器・青磁	
P475	楕円形	50 × 35	18	灰色土 灰褐色がかる	124	土師質土器・土鍾	
P492	円形	30	33	明灰褐色シルト質粘土	125	土師質土器・土鍾	

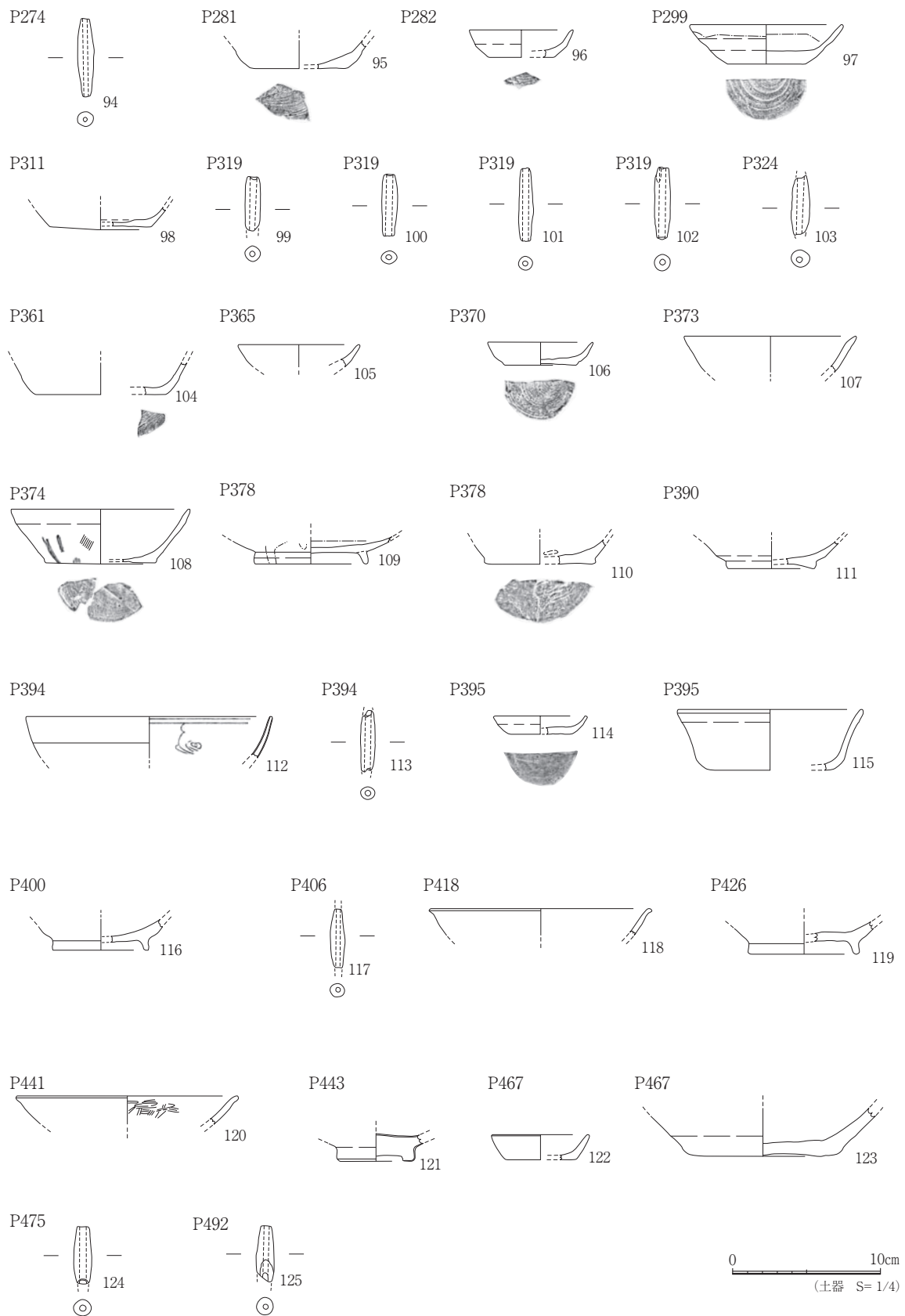
表 7-3 上面図版掲載遺物出土ピット計測表



7-11 図 上面ピット出土遺物 1



7-12 図 上面ピット出土遺物 2



7-13 図 上面ピット出土遺物 3

(2) 中面の遺構と遺物

中面の遺構は土坑 37 基、ピット 281 個、溝跡 10 条を検出した。中面の検出標高は 3.0 ～ 3.25m である。上面と異なり区画溝と見られる L 字状を呈する溝跡は中 SD14 のみである。検出した溝跡は中 SD13 を除き軸方向は東西方向又は南北方向である。ピット等の遺構は調査区北側中央部に集中し、調査区南西部と中 SD11・12 の間から多く検出している。検出ピットから建物跡は復元できなかった。検出した遺構からは中世～古代の遺物が出土しているが上面に比較して古代の様相が強くなっている。

土坑 (SK)

中面で検出した土坑は、上面から引き続いた番号の先頭に中面検出遺構であることを示す「中」を付けた。中面で検出した土坑は中 SK58 ～ 94 までである。調査の結果、遺構と確認できなかった 5ヶ所を欠番としたため土坑と確認したものは 32 基である。遺構の分布はピットと同じく調査区北側中央部に集中が見られる。ほか調査区南西部と中 SD11・12 の間から多く検出している。注目される遺構として中 SK74 を挙げることができる。方形の浅い土坑であるが、埋土中からは土師器杯、漆器杯が重なるように出土し、札状の木片とそれに付着するように銅銭が出土している。



7-14 図 中面遺構全体図

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
中SK58	1.00 × 0.76 × 0.86	楕円形	-	N - 24° - W		土師質土器・須恵器		
中SK59	0.92 × 0.75 × 0.69	楕円形	-	N - 28° - E				
中SK60	欠番					土師質土器・瓦器		
中SK61	0.90 × (0.40) × 0.10	-	皿状	N - 6° - E		土師器・瓦器・瓦質土器・須恵器・土錘		
中SK62	(1.10) × 1.05 × 0.14	-	皿状	N - 79° - W		土師質土器・黒色土器 A 類・B 類・須恵器		
中SK63	1.86 × 0.84 × 0.13	楕円形	皿状	N - 84° - E		土師質土器・瓦器・須恵器		
中SK64	0.87 × 0.83 × 0.05	楕円形	皿状	N - 19° - E		須恵器・瓦器		
中SK65	0.87 × 0.85 × 0.10	正方形	皿状	N - 9° - E		土師質土器・須恵器・緑釉陶器・瓦器		
中SK66	1.15 × 0.90 × 0.17	楕円形	皿状	N - 15° - E		土師質土器・須恵器		
中SK67	欠番							P378 と重複
中SK68	欠番							
中SK69	0.93 × 0.80 × 0.23	楕円形	レンズ状	N - 55° - E		土師質土器・須恵器・備前焼		
中SK70	欠番							SD6 と重複
中SK71	(1.30) × 1.25 × 0.07	楕円形	皿状	N - 10° - E		土師質土器・白磁		口禿げ口縁皿
中SK72	1.26 × 1.17 × 0.19	長方形	逆台形	N - 14° - E		土師器・黒色土器 A 類・須恵器		
中SK73	0.87 × 0.84 × 0.14	楕円形	皿状	N - 14° - E		土師質土器・須恵器		
中SK74	0.76 × 0.75 × 0.15	正方形	逆台形	N - 74° - W		土師質土器・白磁・銭・木札・漆器・鉄釘		漆器取り上げできず
中SK75	0.80 × 0.65 × 0.08	楕円形	皿状	N - 73° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器		
中SK76	1.05 × 1.00 × 0.15	楕円形	皿状	N - 79° - W		土師質土器・粗製土器		
中SK77	(0.80) × (0.50) × 0.11	-	皿状	-				
中SK78	0.81 × 0.60 × 0.11	長方形	箱形	N - 86° - W		土師器		
中SK79	0.85 × (0.50) × 0.08	-	皿状	N - 79° - E		土師質土器・須恵器・発泡土器		
中SK80	1.12 × 1.07 × 0.25	不整形	段状	N - 5° - W		土師質土器・瓦器・灰釉陶器・緑釉陶器		近世水溜状遺構の可能性
中SK81	1.17 × (0.80) × 0.11	楕円形	皿状	N - 88° - E		土師質土器・瓦器・黒色土器 A 類・ 緑釉陶器・鉄釘		
中SK82	0.75 × 0.73 × 0.19	円形	皿状	N - 25° - E		土師質土器・須恵器		
中SK83	1.85 × 1.80 × 0.36	不整形	逆台形	N - 8° - E		土師質土器・瓦器・須恵器・土錘		
中SK84	(1.40) × 1.20 × 0.15	楕円形	箱形	N - 58° - W		土師器・須恵器・土錘		
中SK85	1.18 × 0.65 × 0.52	楕円形	箱形	N - 16° - E		土師器・須恵器・黒色土器 A 類・緑釉陶器		
中SK86	0.76 × 0.68 × 0.38	楕円形	逆台形	N - 2° - E		土師質土器・瓦器・須恵器・灰釉陶器・ 緑釉陶器		
中SK87	0.93 × 0.91 × 0.15	正方形	皿状	N - 3° - W		土師質土器・瓦器・須恵器・灰釉陶器・ 緑釉陶器		
中SK88	1.07 × 1.03 × 0.12	正方形	皿状	N - 6° - W				
中SK89	1.30 × 1.02 × 0.20	長方形	皿状	N - 9° - E		土師質土器・瓦器		
中SK90	1.01 × (0.40) × 0.18	長方形	皿状	N - 4° - E		土師質土器・瓦器		
中SK91	0.95 × 0.92 × 0.26	円形	-	N - 49° - W		土師質土器・須恵器		近世水溜状遺構の可能性
中SK92	0.61 × 0.60 × 0.23	円形	逆台形	N - 22° - E		土師質土器・瓦器・須恵器		柱痕 須恵器
中SK93	0.85 × 0.62 × 0.06	楕円形	皿状	N - 12° - E		土師器・黒色土器 A 類		
中SK94	欠番							

表 7 - 4 中面土坑一覧表

中 SK65

中 SK65 は遺構の集中する調査区北側中央部で検出した方形の土坑で、長軸約 0.87m、短軸約 0.85m、深さ約 10cm を測る。遺構断面形は浅い皿状で埋土は灰色砂質土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器、緑釉陶器が出土している。126 は削り出し円盤状高台の緑釉陶器で胎土は灰色の硬陶で淡緑色の薄い釉が刷毛塗りで施され、京都産の可能性が高く 9 世紀後半と考えられる。

中 SK69

中 SK69 は調査区北東部で検出した楕円形の土坑である。周辺は遺構密度が低い。楕円形の長軸は約 0.93m、短軸約 0.8m、深さ約 23cm を測る。断面形はレンズ状である。埋土は暗灰褐色砂質土で土師質土器、須恵器、備前焼が出土している。127 は底部糸切りの土師質土器小皿で 128 は灰黄色を呈し外面発色は異なるが備前焼播鉢と考えられる。

中 SK72

中 SK72 は調査区中央部北側に位置し中 SD12 の東端部で検出した長方形の土坑で中 P77 を切っている。土坑の規模は長軸約 1.26m、短軸約 1.17m、深さ約 20cm を測る。断面形は浅い逆台形で立ち上がりは比較的しっかりする。埋土は上層は灰褐色粘質土でわずかに炭化物が混じり、下層は暗

灰色粘質土である。埋土中からは土師器、黒色土器 A 類、須恵器が出土している。図示できた遺物は 129 の須恵器壺と 130 の土師器甕である。130 の土師器甕は口縁内面の屈曲は弱いが内面には横ハケ、外面口縁下は縦ハケが残る。

中 SK73

中 SK73 は調査区南東部の周辺に遺構がほとんど見られない場所で検出した楕円形の土坑である。土坑の長軸は約 0.87m、短軸約 0.84m、深さ 14cm を測る。埋土は上層は灰色砂質土、下層は灰褐色砂質土で黄褐色ブロックが混じる。埋土中からは土師質土器、須恵器が出土している。図示できた 131 は立ち上がりは甘く腰に丸みを持ち上方に立ち上がる小皿である。

中 SK74

中 SK74 は調査区中央南端部で検出し上面遺構で大区画溝と考えられる中 SD18 の外側に位置している。平面形は方形で一辺約 0.75m、深さ約 15cm を測り軸方向は N - 74° - W である。断面形は逆台形を呈する。検出埋土は上層が灰色砂質土に褐色の大粒子が混じる土で、下層は褐灰色砂質土に茶褐色粒子が混じる土であった。埋土中からは土師質土器、白磁、銭、木札、漆器、鉄釘が出土している。遺物の出土状況は杯 3 個体が上向きに東側側面に並んだ状態で、北端の杯内面には一回り小さな赤漆が付着し木製赤漆杯又は皿の痕跡と考えられ、重ねて置かれていたと考えられる。杯は完掘確認の結果 3 個体であった。また札状の木片に銅銭が張り付いた状態で出土している。図示できた遺物は 132 ~ 134 の杯 3 点と 135 の皿と 138 の銅銭である。杯は何れも強い回転ナデにより口縁部で外反する同一器形である。底部切り離し痕は確認できなかった。銅銭は鋳上がりが不良で文字がつぶれる。鉄釘は 136・137 の 2 点図示でき何れも頭部を折り曲げたもので断面形は方形である。

中 SK75

中 SK75 は中 SK78 から約 1m 離れた南東に位置する楕円形の土坑である。遺構規模は長軸約 0.8m、短軸約 0.65m、深さ約 8cm 測る。遺構の断面形は皿状で検出埋土は灰色土で灰褐色がかかる。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器が出土しているが図示できる遺物はなかった。

中 SK78

中 SK78 は調査区南西部に位置する土坑で周辺は比較的遺構が密集し中 P128 と重複し切られる。土坑の平面形は長方形で規模は長軸約 0.81m、短軸約 0.6m、深さ約 11cm を測る。断面形は浅い箱形で立ち上がりは比較的しっかりする。埋土は灰色砂質土で鉄分が混じる。埋土中からは土師器が出土している。図示した 139 は中 SK78 と中 SK75 出土のものが接合した土師器皿で、底部からわずかに口縁を外反させた浅い器形のものである。底部に切り離し痕は無く線刻に可能性のある線状痕が一条残る。

中 SK80

中 SK80 は調査区中央部北側の遺構が密集する場所で中 P220・221・173 に切られ P278 を切っている。平面形は不整形である。規模は長軸約 1.12m、短軸約 1.07m、深さ約 25cm を測り、断面形は段状で中央部が少し凹む。埋土は灰色砂質土で埋土中からは土師質土器、瓦器、灰釉陶器、緑釉陶器が出土している。図示した 140・141 は何れも瓦器碗である。中 SK80 の形態は近世の水溜状遺構に似る。

中 SK83

中 SK83 は調査区東に位置する平面形の不整形な土坑である。規模は長軸約 1.85m、短軸約 1.8m、深さ約 36cm を測る。埋土は灰色粘土に褐色ブロックが混じる攪乱状の土で砂岩角礫が投げ込まれた状態に入る。埋土からは土師質土器、瓦器、須恵器、土錘が出土している。図示できた遺物は 142～144 までである。

中 SK83 は井戸の可能性が考えられたため、最終確認で半截し確認した。井戸枠は残存せず埋土に長軸 50～70cm の角礫がわずかに入るのみで、井筒も確認できなかった。掘り込み最下面は標高は約 1.5m、暗黄褐色粘性シルトで湧水は無かった。

中 SK83 は井戸跡の可能性が大きいが 3-3・1-3A 区で検出した近世と考えられる井戸と比べ規模が小さいことから近世以前の井戸の可能性が高く、1-5 区で検出した井戸跡と同時期の可能性が高い。

中 SK84

中 SK84 は調査区中央部北端部の遺構が密集する場所で検出した土坑で東側は攪乱溝に切られている。土坑の平面形は長方形に近い楕円形を復元することができる。長軸残存長約 1.4m、短軸約 1.2m、深さ約 15cm を測る。断面形は浅い箱形で埋土は灰褐色土を基本とするもので炭化物、砂礫、黒色土ブロックの混じり方で分層した。埋土中からは土師器、須恵器、土錘が出土している。147 は須恵器の把手で甑の把手の可能性が考えられるが土坑の時期を示す遺物ではない。

中 SK85

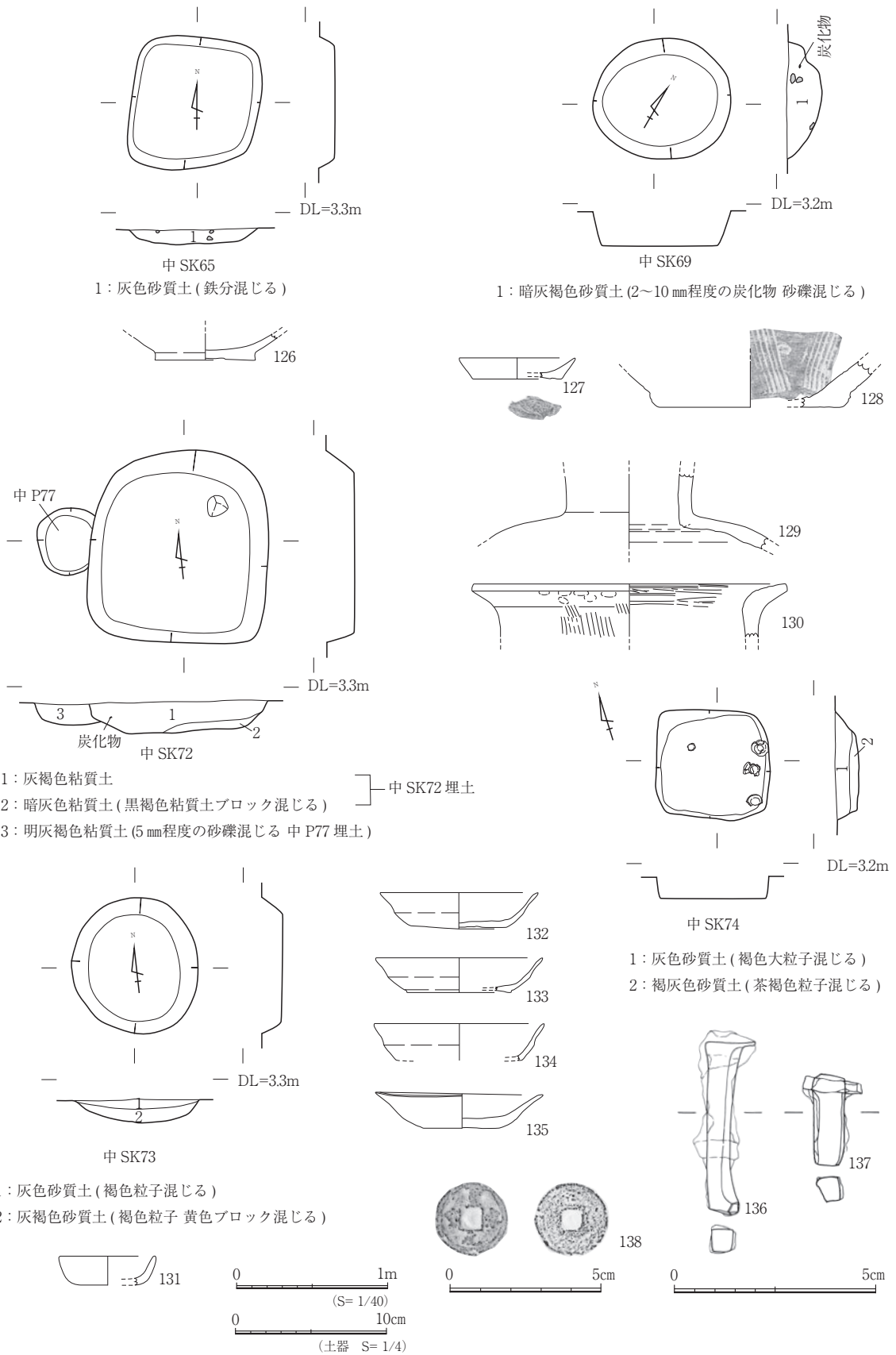
中 SK85 は調査区中央部北側の遺構が密集する部分で検出した楕円形の土坑である。土坑の規模は長軸約 1.18m、短軸約 0.65m、深さ約 52cm を測る。断面形は箱形で、埋土は灰色粘質土を基本とするもので褐色粒子、黄色小ブロックの混じり方で分層した。埋土中からは土師器、須恵器、黒色土器 A 類、緑釉陶器が出土している。図示できた 149 の緑釉陶器は胎土は橙色の軟陶で濃緑色の釉が厚く施される。近江産の可能性が考えられるものである。

中 SK89

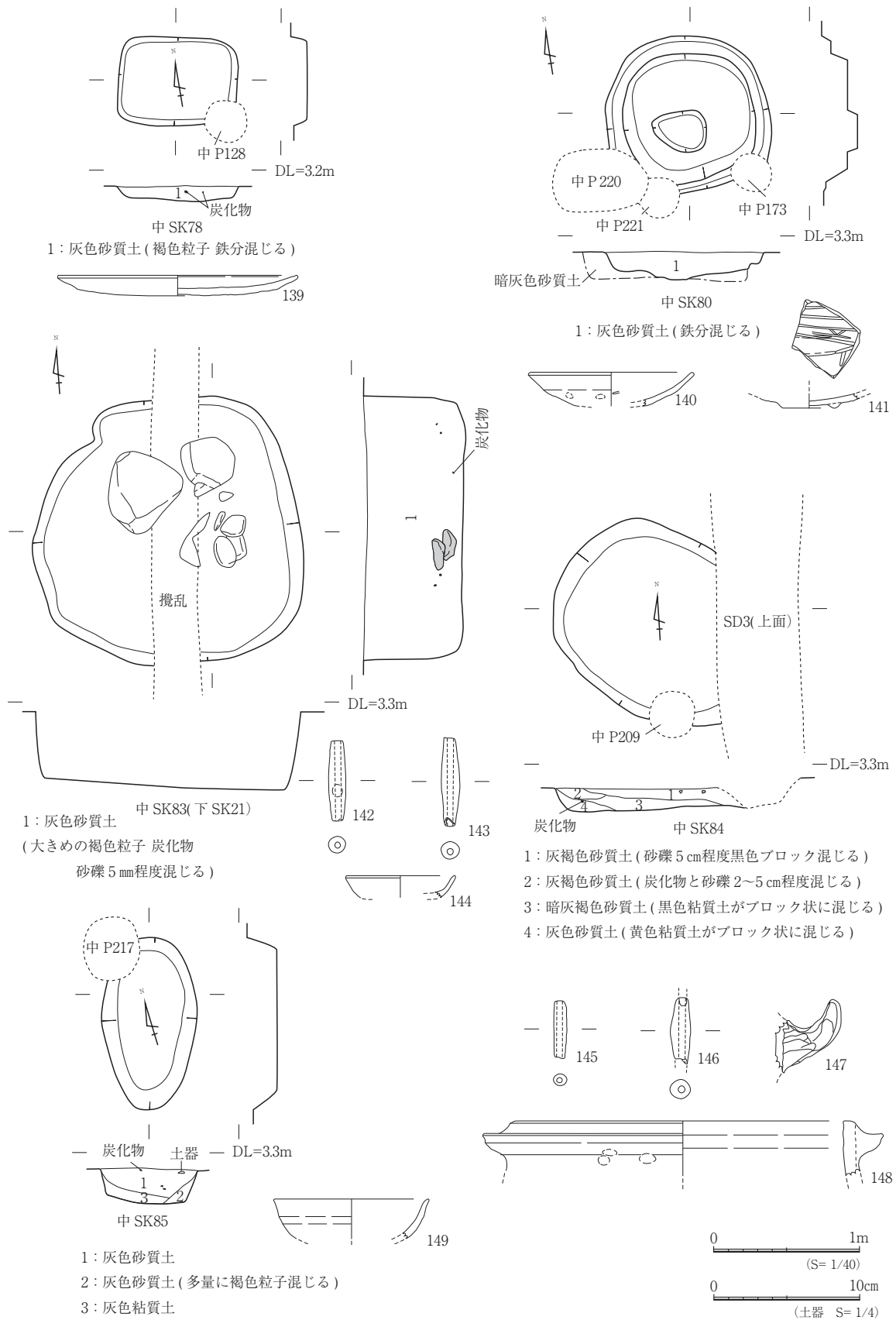
中 SK89 は調査区東側に位置する長方形の土坑で中 SD15 と重複し切っている。近辺には同じく長方形土坑の中 SK88・90 が有り中 SD15 を切っている。遺構の規模は長軸残存長約 1.3m、短軸約 1.0m、深さ約 20cm を測る。断面形は皿状で埋土は灰色砂質土であった。埋土中からは土師質土器、瓦器が出土するが図示できたものは 150 の土師質土器小皿、151 の土師質土器底部で何れも回転糸切り痕が残る。

中 SK91

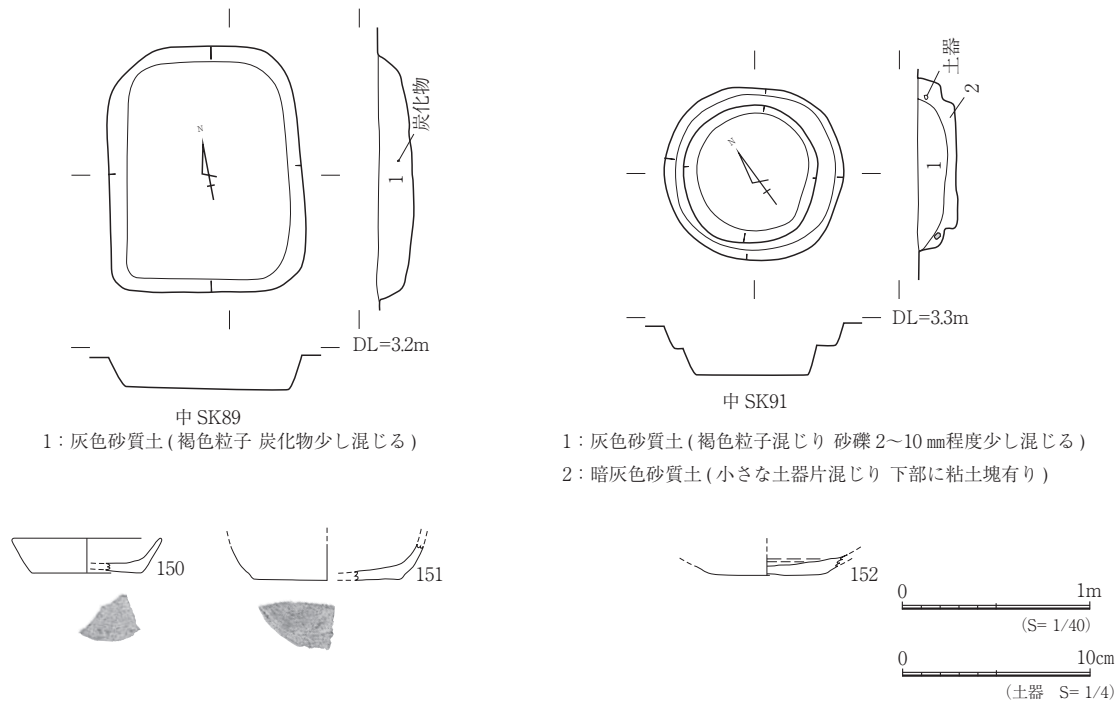
中 SK91 は調査区中央部北端で検出した円形土坑である。遺構の規模は直径約 0.92m、深さ約 26cm を測る。遺構断面形は浅いテラスを持ち二段に落ちるものである。埋土は灰色砂質土と暗灰色砂質土に橙色粘土塊が混じるものである。埋土中からは土師質土器、須恵器が少量出土し、図示した 152 は土師質土器底部である。中 SK91 はその形態から近世水溜状遺構の可能性が高いと考えられる。



7-15 図 中 SK65・69・72~74



7-16 図 中 SK78・80・83～85



7-17 図 中 SK89・91

溝跡 (SD)

中面で検出した溝跡は、上面から引き続いた番号の先頭に中面検出遺構であることを示す「中」を付け遺構番号とした。中面で検出した溝跡は中 SD11 ~ 19 までである。中 SD18 は上面で検出したが当初攪乱溝と判断した。中面掘削時に遺構と確認したため中 SD18 としたが明らかに上面の遺構であるため上面で報告し、中 SD18 は中面では欠番となっている。

中面の溝跡は中 SD13 を除き、上面で検出した溝跡と同様に東西方向もしくは直交する南北方向である。中 SD14 のみ L 字状である。何れの溝跡も上端幅約 0.3 ~ 0.8m で深さ約 14cm までの規模の小さなものである。

遺構名	長さ×幅×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	接続	出土遺物	時期	備考
中 SD11	17.0 × 0.32 × 0.05	直線状	皿状	N - 88° - E		土師器・須恵器・青磁		
中 SD12	8.30 × 0.40 × 0.09	直線状	皿状	N - 84° - W		土師質土器・黒色土器 A 類・瓦器・須恵器・粘土塊・炭化物		掃磨型羽釜
中 SD13	11.0 × 0.85 × 0.14	への字状	逆台形	N - 78° - E		土師質土器・須恵器・緑釉陶器・粘土塊・炭化物		
中 SD14 (南北)	15.0 × 0.60 × 0.14	L 字状	レンズ状	N - 3° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・東播系須恵器・青磁		
中 SD14 (東西)	2.70 × 0.40 × 0.06	L 字状	弱い逆台形	N - 89° - E		土師質土器・黒色土器 A 類・須恵器・土錘		出土量多い 白磁口売げ口縁皿
中 SD15	10.6 × 0.50 × 0.07	直線状	皿状	N - 89° - E	1 - 7 区	土師器・須恵器		
中 SD16	9.90 × 0.40 × 0.08	直線状	レンズ状	N - 89° - E		土師質土器・黒色土器 A 類・瓦質土器・須恵器		
中 SD17	2.10 × 0.30 × 0.07	直線状	低い台形状	N - 3° - E		土師器		
中 SD18	欠番 上面に移動				1 - 7 区			
中 SD19	10.8 × 0.70 × 0.09	直線状	皿状	N - 85° - W		土師器・須恵器・粗製土器		

表 7-5 中面溝跡一覧表

中 SD11

中 SD11 は調査区北側で検出した東西方向の溝跡で近現代の暗渠跡と並行する。溝跡の方向は N - 88° - E である。検出長は約 17.0m で西端部は調査区内で終熄し東端部は中 SK85 と重複し延長しない。中 SD11 の上端幅は約 0.32m で深さは浅く約 5cm を測る。断面形は浅い皿状で埋土は灰色砂質土である。埋土中からは土師器、須恵器、青磁が少量出土している。図示できた 153 は青磁合子の蓋で外面は花卉状に彫り込まれる。

中 SD12

中 SD12 は調査区北側で検出した東西方向の溝跡で中 SD11 の南約 4m で並行するように延びる。軸方向は N - 84° - W である。西端部、東端部とも浅くなり延長は追えなくなる。溝跡の規模は検出長約 8.3m、上端幅約 0.4m、深さ約 9cm を測り、断面形は浅い皿状である。埋土は灰色砂質土で、埋土中からは土師質土器、須恵器、黒色土器 A 類、瓦器、粘土塊、炭化物が出土しているが何れも細片である。図示できた遺物は無かった。

中 SD13

中 SD13 は調査区東端部で検出した平面形「へ」の字状の溝跡である。南西方向に下った後、南に方向を変え南下し中 SD19 とぶつかる。南西方向の軸方向は N - 78° - E で検出長は約 8.6m、上端幅約 0.85m、深さは約 14cm を測る。南北方向の検出長は約 2.4m であった。溝跡の断面形は逆台形状でしっかりした立ち上がりがある。埋土は上層、黄褐灰色粘質土で炭化物が多く入り、下層は褐色粘質土で黄色小ブロックが混じっている。埋土中から土師質土器、須恵器、緑釉陶器、粘土塊、炭化物が出土している。154 は緑釉陶器碗でほぼ完形である。胎土は白色で焼締まりは良い。高台内側まで淡緑色の釉を薄く施す。高台は削り出しである。京都産で 9 世紀代と考えられる。

東端部は調査区に切られるが 1 - 7 区では検出されていない。南端部は中 SD19 とぶつかるが合流はしていない。

中 SD14

中 SD14 は調査区南部で検出した L 字状の溝跡である。南北方向に 15.0m 延びた後東に向きを変え 2.7m 延び攪乱坑に切られる。溝跡の軸方向は南北部分は N - 3° - E、東西部分は N - 89° - E である。溝跡の上端幅及び深さは南北部分が約 0.6m、約 14cm、東西部分は約 0.4m、約 6cm である。埋土は上層が灰色砂質土、下層は暗灰褐色砂質土であった。断面形はレンズ状から弱い逆台形であった。埋土中からは土師質土器、黒色土器 A 類、須恵器、土錘が出土しており黒色土器 A 類、土師器羽釜、土錘 3 点を図示した。156 は胎土中に金雲母が多量に入っており器壁も薄く搬入品と考えられる。

中 SD14 の延長は 1 - 7 区では確認できなかったが区画を意識した溝跡と考えられる。

中 SD15

中 SD15 は調査区西側で検出した東西方向の溝跡で中 SK88 ~ 90 と重複し切られている。溝跡の軸方向は N - 89° - E で検出長は約 10.6m で西端部は調査区に切れ、東端部は終熄している。上端幅は約 0.5m、深さ約 7cm を測る。遺構断面形は浅い皿状で埋土は灰色砂質土である。埋土中からは土師器、須恵器が少量出土し何れも細片である。

中 SD16

中 SD16 は調査区西側で検出した東西方向の溝跡で中 SD15 の南側約 5m に沿うよう所在する。

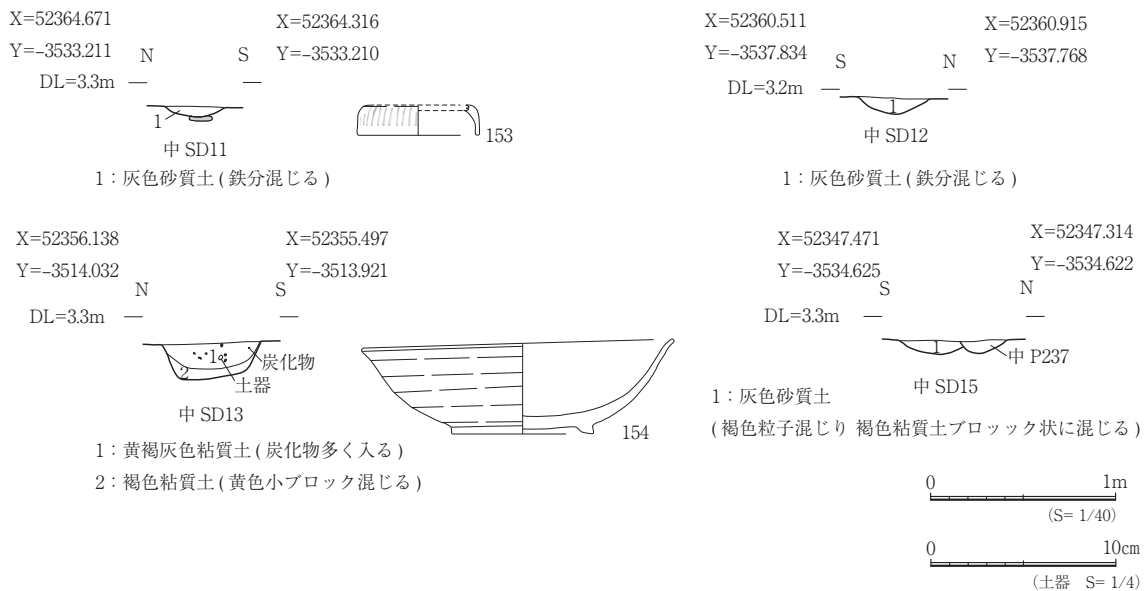
溝の軸方向 N - 89° - E で中 SD15 と同一である。検出長は約 9.9m で西端部は調査区に切れ、東端部は攪乱溝に切れ延長は確認できなかった。上端幅は約 0.4m で深さは約 8cm を測る。断面形は浅いレンズ状で埋土は灰色砂質土で鉄分、褐色粒子、黄色ブロックが混じる。埋土中からは土師質土器、黒色土器 A 類、瓦質土器、須恵器が出土している。図示した 160 は黒色土器 A 類で直線的に開く口縁を持つ。胎土には雲母が多く入り器壁が薄く搬入品と考えられる。

中 SD17

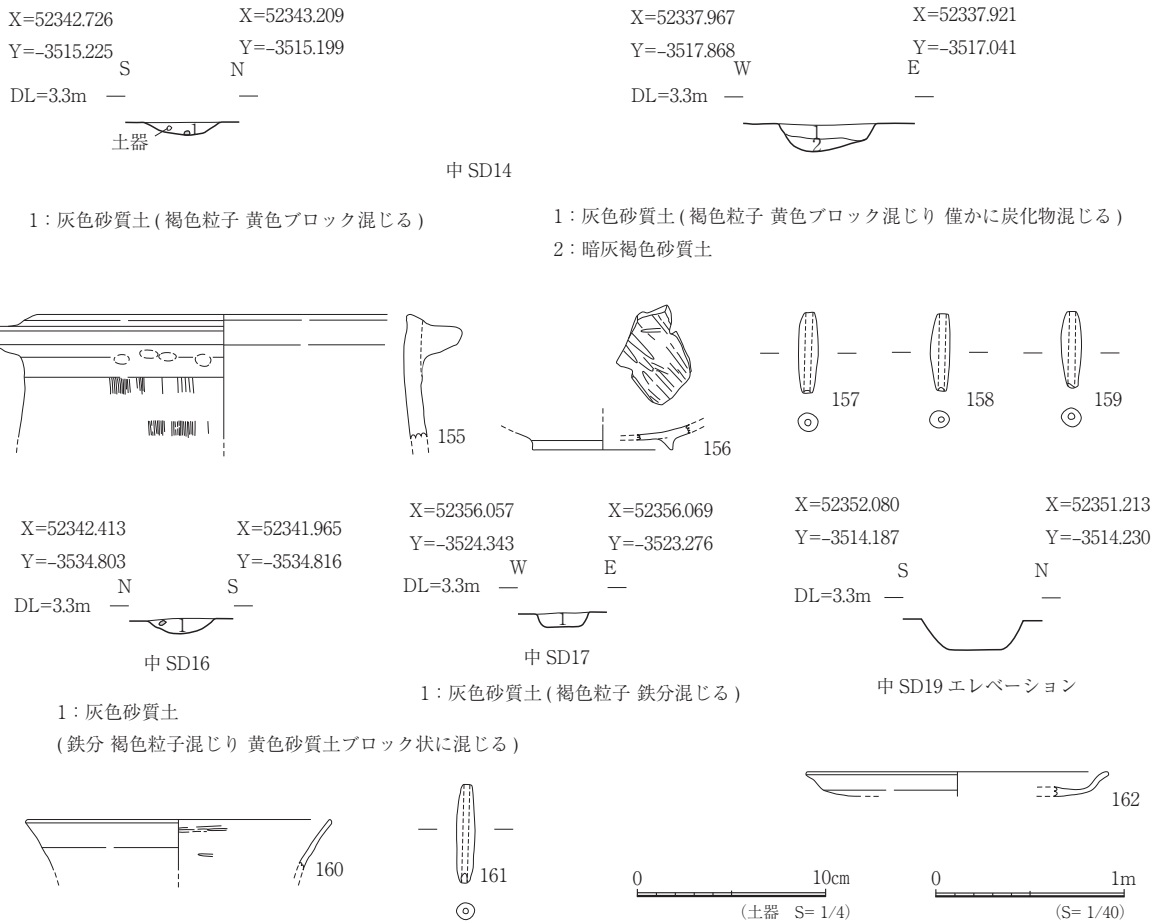
中 SD17 は調査区北側中央部の遺構が密集している範囲の南端部で検出した短い南北方向の溝跡である。溝跡の軸方向は N - 3° - E である。検出長は約 2.1m で南端部は終熄し北端部は中 SK66 に切れ延長は確認できない。溝跡の上端幅は約 0.3m、深さ約 7cm を測る。断面形は低い台形状で浅いが立ち上がりは比較的しっかりしている。埋土は灰色砂質土に褐色粒子が混じる土で鉄分が入る。埋土中からは土師器細片がわずかに出土したのみである。

中 SD19

中 SD19 は調査区中央東端部で検出した東西方向の溝跡で軸方向は N - 85° - W である。検出長は約 10.8m で西端部は終熄し東端部は調査区に切られている。溝跡の上端幅は約 0.7m、深さ約 9cm を測る。検出埋土は暗灰褐色土で埋土中からは土師器、須恵器、布目痕が残る粗製土器細片が出土している。162 は土師器皿で口縁は外反して大きく開く浅い器形の皿である。



7-18 図 中 SD11 ~ 13・15



7 - 19 図 中 SD14・16・17・19

ピット

ピットは中面では検出時中 P1～308 までの遺構番号を付けたが精査の結果欠番が 27 個有り、ピットと確認したものは 281 個である。ピットの検出埋土及び検出比率は黄灰色粘土質シルト 1%、灰褐色シルト質粘土 9%、明灰褐色シルト質粘土 10%、灰色土 2%、褐灰色土 8%、灰色土 (褐色粒子混じる) 36%、黄灰褐色土 26%、黄褐色土 8% である。ピットの分布は上面遺構が区画溝跡と考えられる溝跡に伴うような分布を示していたが、中面では溝跡とピットの完形は明瞭ではない。最も集中が見られるのは調査区北側中央部の遺構が集中する部分であり、上面では遺構密度が低い場所にあたる。調査区全体でピット分布の傾向を見るとおおむね北西方向に帯状に分布する 2 群に大別できそうである。しかし 2 群とも建物跡の復元はできず柱穴として確認できたピットはなかった。

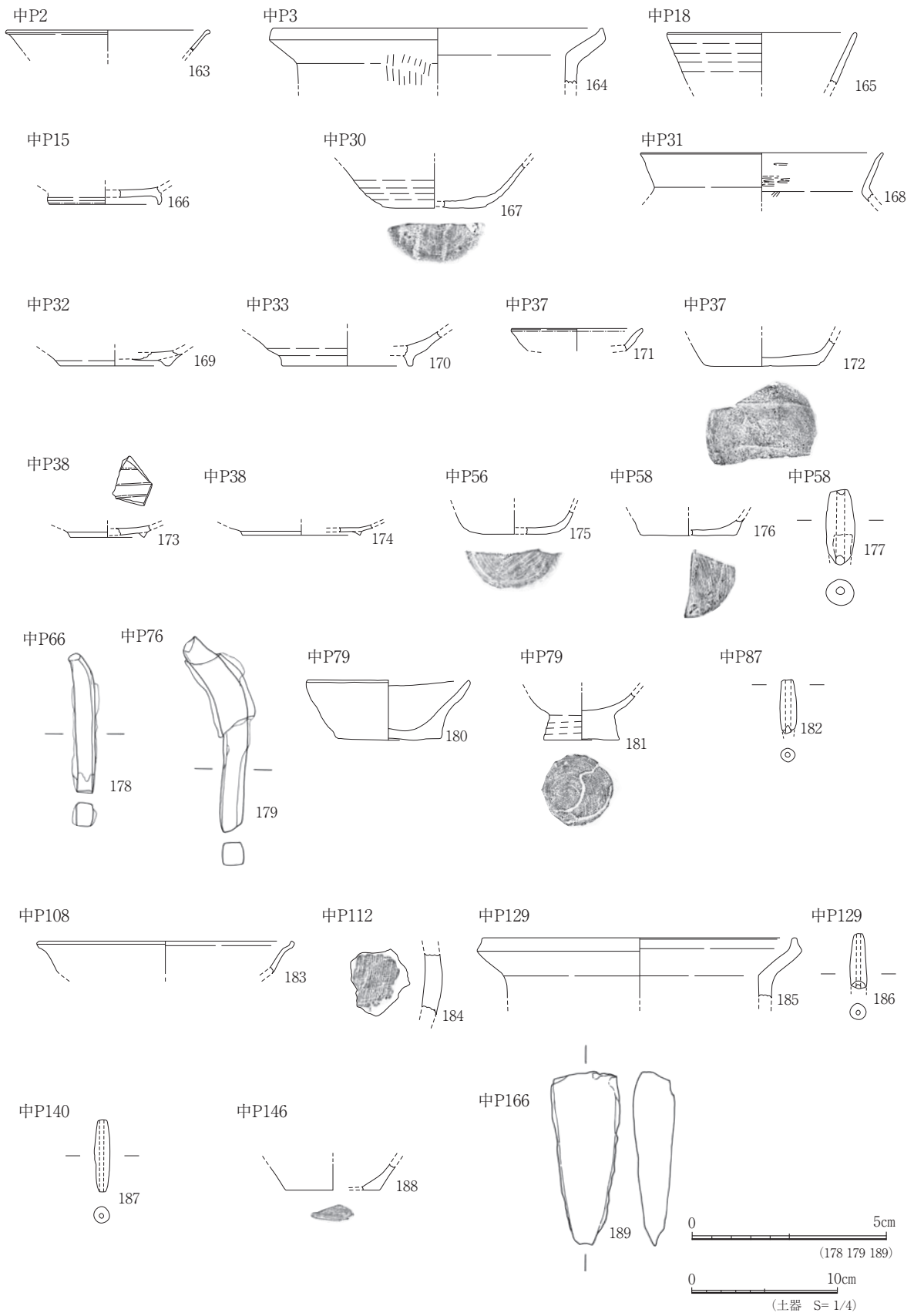
図示した遺物で土師質土器は底部回転糸切り痕が残るものが 172・175・176・181・188 の 5 点、底部回転ヘラ切りが 167 の 1 点である。黒色土器は 4 点を図示し 168 は甕で胎土中には雲母が多く入り器壁は薄く搬入品で 8～9 世紀代と考えられる。他の黒色土器は黒色土器 A 類碗で 174 は搬入品と考えられる。瓦器碗は 194～196・198・199・202 の 6 点図示したが何れも口縁のみで底部まで復元できるものはなかった。残存部位からは比較的器高が深くなる可能性が考えられる。163・166 は灰釉陶器で 166 の高台は三日月状を呈する。171 は口禿げ口縁の白磁皿である。調理具では 164・185・190 は古代の甕で何れも内面に強い屈曲を持ち口縁端部は摘み上げ状である。

204・213は羽釜でほぼ同一の器形である。204は土師質、213は瓦質の胎土でどちらも14世紀代と考えられる。214は中P302出土の提瓶であるが包含層3出土分と接合するもので古墳時代7世紀代の遺物と考えられ中面遺構の時期には伴わないものと考えられる。

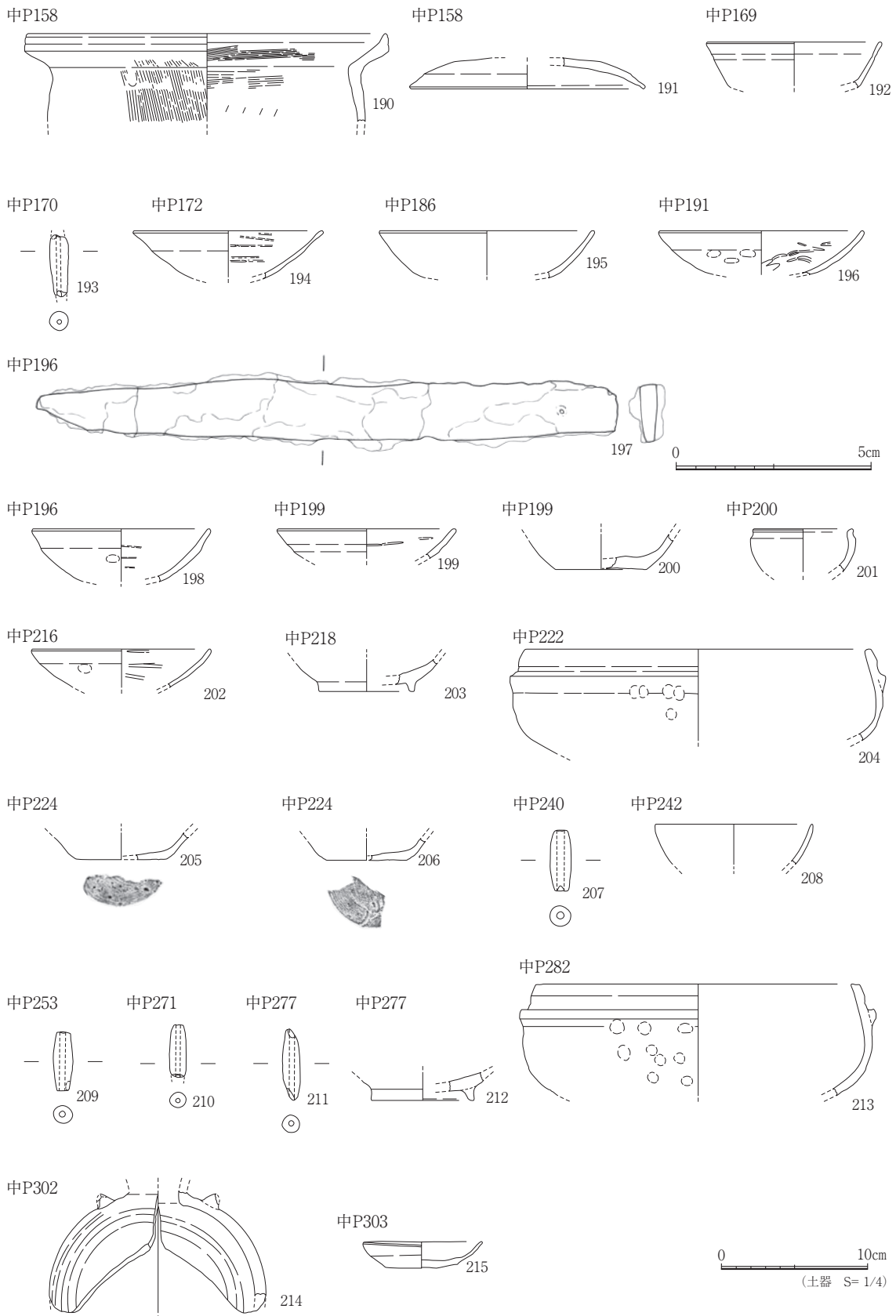
鉄製品では178・179・189・197の4点を図示した。178・179は鉄釘と考えられる。178はわずかに折り曲げられた頭部が残存している。断面形は方形である。197は刀子で中P196から出土し、全長19.8cm、身幅2.2cm、重量60.2gを測る。基部から約1.8cmの位置に径約1mmの目釘穴も確認できる。刀子外面には木質がわずかに確認できるため鞘に収まっていたと考えられる。198の瓦器椀が共伴しており同時期のものと考えられる。

遺構名	平面形	長径×短径 直径 (cm)	深さ (cm)	埋土	図版No.	出土遺物	備考
中P2	楕円形	90×65	20	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	163	土師器・灰釉陶器陶器	
中P3	-	50×(40)	31	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	164	土師器	
中P15	円形	40	10	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	166	瓦器・灰釉陶器	
中P18	楕円形	50×45	33	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	165	土師器・須恵器	
中P30	円形	25	23	黄褐色土	167	土師器・土師質土器	
中P31	楕円形	80×60	34	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	168	土師器・須恵器・黒色土器	
中P32	円形	50	16	黄褐色土	169	土師器・黒色土器	
中P33	円形	60×(50)	17	黄褐色土	170	土師器・黒色土器B類	
中P37	楕円形	40×30	57	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	171・172	土師質土器・瓦質土器・白磁	口禿げ口縁
中P38	楕円形	45×35	43	褐灰色土	173・174	土師器・土師質土器・黒色土器A類	
中P56	円形	40	52	黄褐色土	175	土師器・土師質土器	
中P58	楕円形	100×85	10	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	176・177	土師器・土師質土器・土錘	
中P66	円形	25	21	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	178	土師質土器・瓦器・鉄釘	
中P76	円形	30	42	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	179	土師器・須恵器・炭化物・鉄釘	
中P79	楕円形	80×65	60	黄褐色土	180・181	土師質土器・瓦器・鉄滓・炭化物・焼石	炭化物多量
中P87	楕円形	65×50	36	灰褐色シルト質粘土	182	土師器・土錘	
中P108	楕円形	30×25	13	黄灰褐色土	183	土師器・須恵器	
中P112	-	40×(30)	45	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	184	土師器・粗製土器	
中P129	円形	20	12	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	185・186	土師器・土師質土器・瓦器・土錘	
中P140	円形	40	11	黄灰褐色土	187	土師質土器・土錘	
中P146	楕円形	25×20	17	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	188	土師質土器	
中P158	楕円形	85×80	18	黄灰褐色土	190・191	土師器・土師質土器・瓦器・須恵器	
中P166	楕円形	60×50	3	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	189	楔状鉄器	
中P169	-	60×(35)	74	灰色土	192	土師器・須恵器・土師質土器	
中P170	楕円形	80×70	48	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	193	土師質土器・瓦器・須恵器・土錘	土師質土器多い
中P172	円形	35	43	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	194	土師質土器・瓦器・須恵器・軽石	
中P186	円形	40	28	褐灰色土	195	瓦器・灰釉陶器	
中P191	円形	45	50	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	196	土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・発泡土器	
中P196	楕円形	35×30	20	黄灰褐色土	197・198	土師質土器・瓦器・刀子・鉄滓	
中P199	円形	35	50	黄灰色粘土質シルト	199・200	土師器・土師質土器・瓦器・白磁	
中P200	円形	35	42	黄灰褐色土	201	土師質土器・瓦器・ミニチュア土器	
中P216	方形	60×50	59	黄灰褐色土	202	土師質土器・瓦器・須恵器	
中P218	-	(60)×50	29	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	203	土師器・黒色土器A類・B類	
中P222	楕円形	25×20	46	黄灰褐色土	204	土師質土器	
中P224	-	(25)×(25)	22	灰色土 (灰褐色粒子混じる)	205・206	土師質土器	
中P240	円形	25	16	灰褐色シルト質粘土	207	土師質土器・土錘	
中P242	-	20×(15)	31	灰褐色シルト質粘土	208	土師器	
中P253	円形	30	30	明灰褐色シルト質粘土	209	土師質土器・土錘	
中P271	-	25×(20)	16	黄褐色土	210	土錘	
中P277	楕円形	100×65	14	黄灰褐色土	211・212	土師器・須恵器・土錘	
中P282	-	(50)×45	31	明灰褐色シルト質粘土	213	土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器	
中302	円形	(40)×40	13	黄灰褐色土	214	須恵器	

表7-6 中面図版掲載遺物出土ピット計測表



7 - 20 図 中面ピット出土遺物 1



7-21 図 中面ビット出土遺物 2

(3) 下面の遺構と遺物

下面の遺構は掘立柱建物跡 2 棟、土坑 18 基、ピット 322 個、溝跡 40 条を検出した。下面の検出標高 2.8～3.0m である。溝跡を多く検出しており下 SD4 を除き軸方向は北西方向のものが多い。調査区西側では櫛の目状に溝跡が検出されており、南東部では 4.0m × 5.0m 程の長方形状に溝が巡っている。

方形掘方の柱穴を持つ掘立柱建物跡を 2 棟検出しており古代の建物跡と考えられる。

遺構、遺物の時期は中世～古代で建物跡に伴う遺構は古代と考えられ、調査区西側の溝跡及び南東部検出の溝跡は建物跡に後出するものと考えられる。

掘立柱建物跡 (SB)

掘立柱建物跡は 2 棟確認している。最下面では掘立柱建物跡 3 棟と柱穴列 1 列確認しており、柱穴は方形掘方の規模の大きなもので検出面は異なるが同様の性格の建物跡と考えられる。下面から検出した下 SB2 と最下面で検出した掘立柱建物跡は近接しており、同時併存はしないと考えられ、時期差はあるものと考えられる。

下 SB2 は平成 17 年度に調査を行った NW 区下層検出の SB5 の一部である。

遺構名	梁行×桁行 (間×間)	梁行×桁行 (m × m)	棟方向
下 SB1	2 × 3	4.0 × 5.0	N - 69° - E
下 SB2	2 × 3	3.6 × 5.9	N - 65° - E

表 7 - 7 下面掘立柱建物跡計測表



7-22 図 下面遺構全体図

下 SB1

下 SB1 は調査区南東部で検出した建物跡で梁行 2 間、桁行 3 間の建物跡である。建物の規模は 4.0m × 5.0m、面積は約 20㎡を復元することができ、棟方向は N - 69° - E である。柱穴は 10 個検出し建物跡の全ての柱穴を検出することができた。下 SK22 ~ 25 と P6147・6150 は溝跡に切られていた。P6147 ~ 6150 は最下面で検出した。

柱穴埋土は黒褐灰色粘質土を中心としたもので柱穴埋土中からは土師器、黒色土器 A 類、須恵器、布目の残る粗製土器などが出土している。

柱穴番号	遺構名	長径(直径) × 短径 × 深さ (cm)	平面形	断面形	柱痕	柱痕 長径(直径) × 短径 × 深さ (cm)	出土遺物	時期	備考
1	P6148	80 × 75 × 74	方形	逆凸形	有	15 × 15 × 4	土師器		
2	P6147	65 × 65 × 61	円形	逆凸形	有	15 × 15 × 5			
3	下 SK22	105 × 95 × 60	方形	逆台形	有	① 15 × 15 × 13 ② 20 × 20 × 8	土師器・須恵器・布目粗製土器		
4	下 P225	70 × 70 × 40	正方形	逆凸形	有	20 × 20 × 20	土師器		
5	下 SK25	90 × 85 × 60	楕円形	逆台形	無		土師器・須恵器・布目粗製土器		
6	下 SK20	105 × 85 × 75	楕円形	U字状	無		土師器・黒色土器 A 類・須恵器・東播系須恵器・備前焼		
7	下 SK24	105 × 75 × 45	楕円形	逆台形	無		土師器・須恵器		
8	下 SK23	90 × 90 × 65	円形	逆台形	無		須恵器		
9	P6150	70 × 70 × 71	円形	逆台形	無				
10	P6149	70 × 60 × 58	方形	逆台形	無				

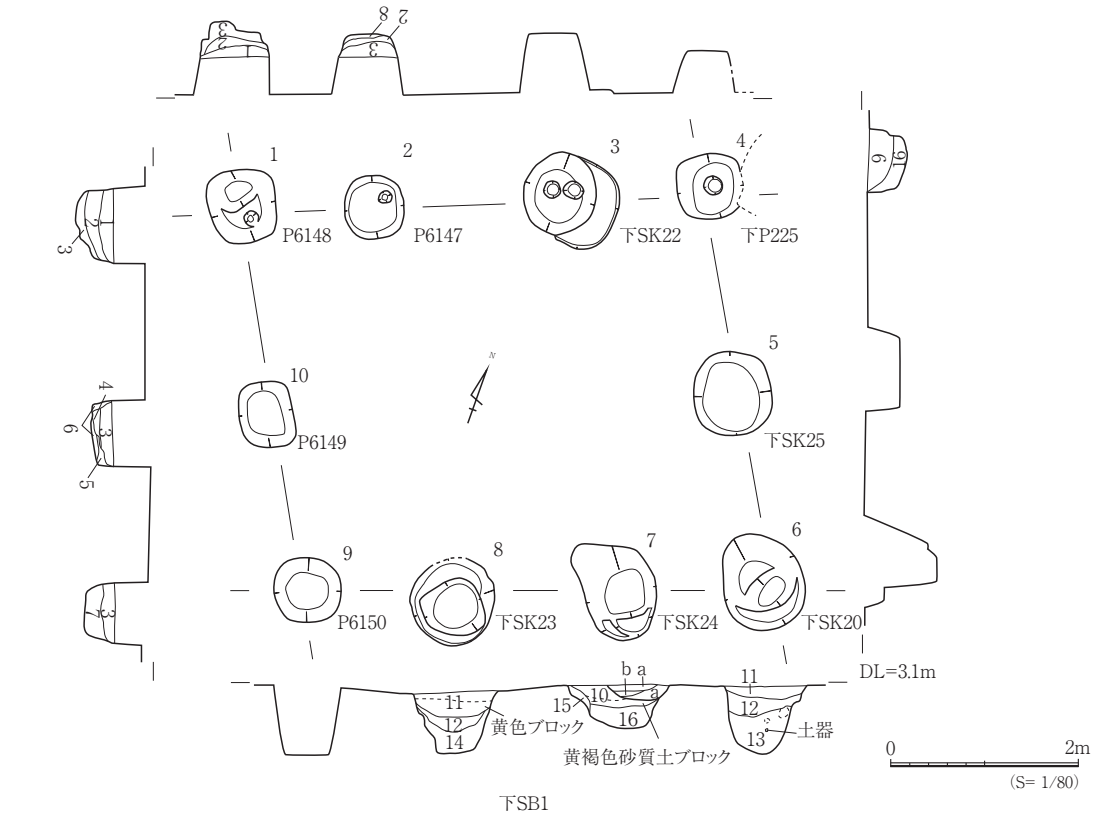
表 7 - 8 下面 SB1 柱穴計測表

下 SB2

下 SB2 は平成 17 年度に調査を行った NW 区の下層から検出した SB5 の東側の一部である。今次調査では 4 個の柱穴を確認しており全体で梁行 2 間、桁行 3 間の建物跡を復元できる。建物跡の規模は 3.6m × 5.9m で面積は約 21.2㎡を復元できる。棟方向は N - 65° - E である。柱穴は方形で長軸約 110cm、短軸約 70 ~ 100cm、深さ約 50 ~ 64cm を測る。柱痕は確認できなかった。埋土は暗褐灰色粘質土である。埋土中からの遺物出土では南東隅の柱穴である下 SK18 から土錘が 5 点ほぼ完形で出土しており注目される。上ノ村遺跡で土錘がまとまって出土した例として 1 - 3A 区 SB1 の P73 の 68 点と 1 - 3 拡張区 P171 の 61 点が挙げられる。P73 は下 SK18 と同様に古代の掘立柱建物跡の柱穴からの出土であり注目される。その他の柱穴からは土師器、須恵器、焼塩壺と考えられる布目が残る粗製土器片が出土している。何れも細片で図示できる遺物はなかった。

柱穴番号	遺構名	長径(直径) × 短径 × 深さ (cm)	平面形	断面形	柱痕	柱痕 長径(直径) × 短径 × 深さ (cm)	出土遺物	時期	備考
1	下 SK12	110 × (100) × 64	円形	逆台形	無				
2	下 SK16	95 × (85) × 57	方形	逆台形	無		土師器・発泡土器		
3	下 SK17	(100) × 80 × 50	方形	逆台形	無		土師器・布目粗製土器		
4	下 SK18	(80) × 70 × 53	-	逆台形	無		土師器・須恵器・土錘		

表 7 - 9 下面 SB2 柱穴計測表



- | | | |
|----------------------------|--------------------|-----------|
| 1: 黒褐色粘質土(黄褐色粘質土ブロック少し入る) | a: 灰色砂質土(褐色粒子多く入る) | } 下SD33埋土 |
| 2: 黒褐色粘質土(黄褐色粘質土ブロック多量に入る) | b: 黄褐色ブロック | |
| 3: 黒褐色粘質土 | | |
| 4: 黒褐色土 | | |
| 5: 黄褐色粘砂土(黒褐色粘質土ブロック混じる) | | |
| 6: 黄褐色粘砂土(黒褐色ブロック少し混じる) | | |
| 7: 黄褐色粘質土(黒褐色粘質土混じる) | | |
| 8: 黄褐色粘砂土(黒褐色ブロック混じる) | | |
| 9: 灰褐色粘質土(黄色ブロック混じる) | | |
| 10: 褐色粘砂土(黄褐色土混じる) | | |
| 11: 褐色粘質土 | | |
| 12: 褐色粘質土(黄色ブロック混じる) | | |
| 13: 褐色粘質土(黄色ブロック多く混じる) | | |
| 14: 黒褐色粘質土(黄色ブロック混じる) | | |
| 15: 褐色粘砂土(地山状) | | |
| 16: 褐色粘砂土(黄色ブロック多く混じる) | | |

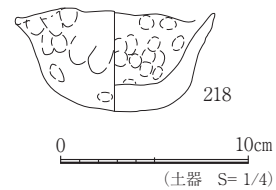
下 SK20



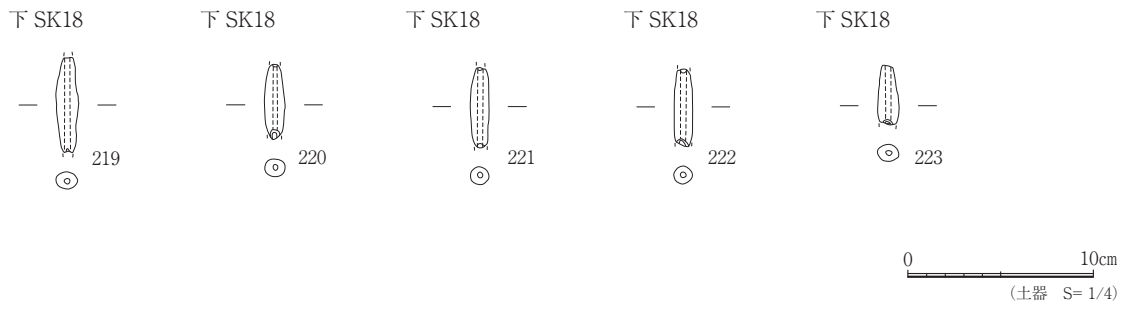
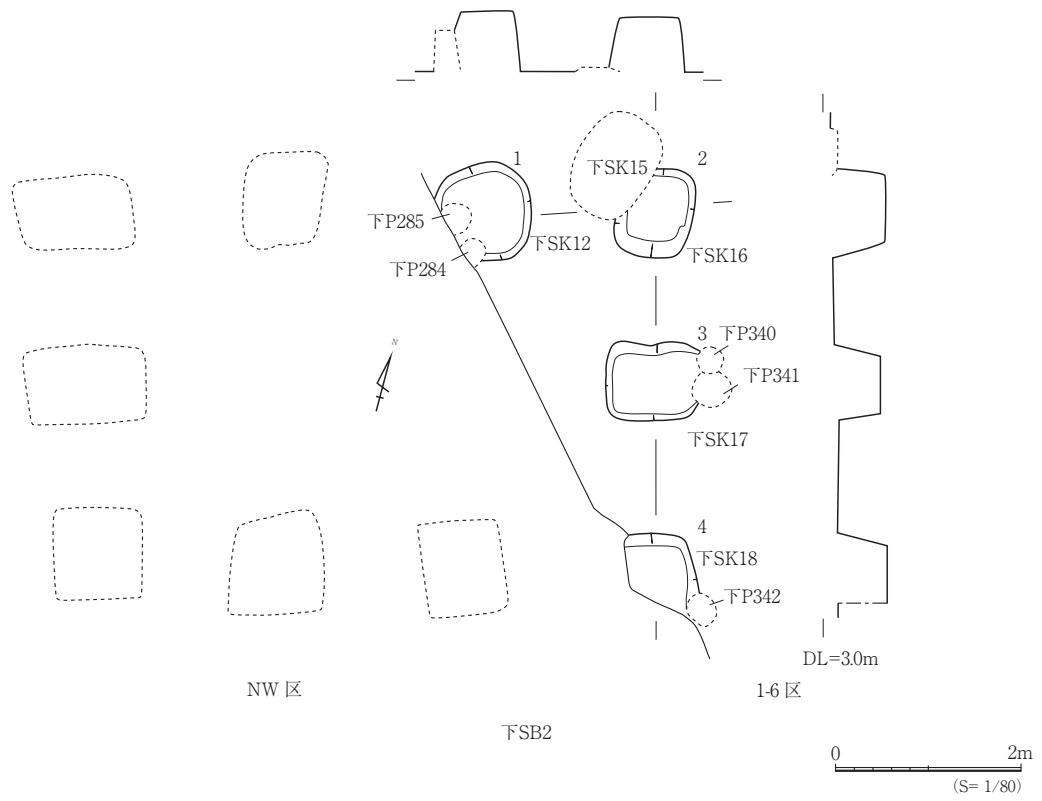
下 SK22



下 SK22



7-23 図 下 SBI



7 - 24 図 下SB2

土坑 (SK)

下面で検出した土坑は下 SK1 ~ 25 までである。調査の結果、遺構と確認できなかった6ヶ所と遺構番号が重複したものを欠番とした。検出当初土坑とした下 SK12・16 ~ 18 が SB1 の柱穴、下 SK20・22 ~ 25 が SB2 の柱穴と判明したため、土坑としたものは9基である。遺構の分布は柱穴と確認したものを除くと散漫な状態である。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
下 SK1	1.30 × 1.05 × 0.20	楕円形	レンズ状	N - 21° - E		土師質土器・瓦器・須恵器		
下 SK2	欠番							
下 SK3	欠番							
下 SK4	欠番							
下 SK5	1.00 × (0.50) × 0.34	-	逆台形	N - 38° - W		土師質土器・須恵器		
下 SK6	欠番							
下 SK7	1.32 × 1.21 × 0.18	不整形	逆台形	N - 27° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・弥生土器・土錘		
下 SK8	1.46 × 0.62 × 0.28	楕円形	舟底状	N - 85° - W		土師質土器・瓦器・瓦質土器		瓦質土器揃鉢
下 SK9	欠番							
下 SK10	1.30 × 0.87 × 0.26	長方形	逆台形	N - 80° - E		土師器・弥生土器		SK9 から変更
下 SK11	0.80 × 0.67 × 0.24	楕円形	逆台形	N - 73° - W		土師器・須恵器		
下 SK12	1.06 × (1.00) × 0.62	楕円形	逆台形	N - 38° - W				SB2 柱穴
下 SK13	欠番							
下 SK14	1.90 × (1.50) × 0.15	楕円形	浅い箱形	N - 1° - E		土師器・須恵器		
下 SK15	(0.90) × 0.82 × 0.05	-	皿状	N - 12° - E				
下 SK16	0.95 × 0.80 × 0.58	長方形	逆台形	N - 1° - E		土師器・須恵器・発泡粗製土器		SB2 柱穴
下 SK17	(1.00) × 0.80 × 0.50	長方形	逆台形	N - 66° - E		布目粗製土器		SB2 柱穴
下 SK18	0.90 × 0.85 × 0.53	楕円形	逆台形	N - 79° - E		土師器・須恵器		SB2 柱穴
下 SK19	1.13 × (0.70) × 0.42	楕円形	逆台形	N - 81° - W		土師器・発泡粗製土器		
下 SK20	1.07 × 0.88 × 0.72	楕円形	-	N - 48° - W		土師質土器・瓦器・黒色土器 A 類・須恵器・備前・粘土塊		SB1 柱穴
下 SK21	欠番							中 SK83
下 SK22	1.03 × 0.90 × 0.60	楕円形	-	N - 80° - W		土師器・須恵器		SB1 柱穴
下 SK23	0.93 × 0.90 × 0.66	円形	逆台形	N - 37° - W		須恵器		SB1 柱穴
下 SK24	1.03 × 0.78 × 0.46	楕円形	逆台形	N - 33° - W		土師器・須恵器		SB1 柱穴
下 SK25	0.90 × 0.83 × 0.32	楕円形	逆台形	N - 27° - W		土師器・布目粗製土器		SB1 柱穴

表 7 - 10 下面土坑一覧表

下 SK1

下 SK1 は調査区中央部北側で検出した楕円形の土坑である。規模は長軸約 1.3m、短軸約 1.05m、深さ約 20cmを測る。断面形はレンズ状であるが西側の立ち上がりはしっかりしている。埋土は黄灰色砂質土に褐色粒子が混じる土である。埋土中からは土師質土器、瓦器、須恵器が出土している。図示した 224 は瓦器椀で底部は残存していないが比較的深い体部を持つものである。

下 SK7

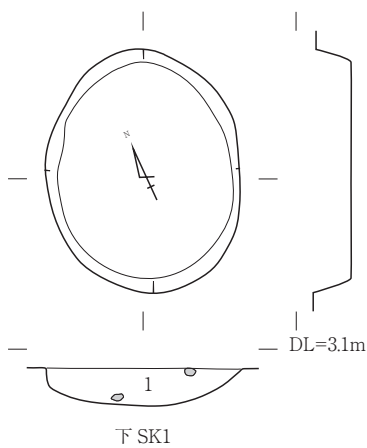
下 SK7 は調査区東側で下 SD14 と下 SD31 の間で検出した土坑で中面調査区東に位置する平面形の不整形な土坑である。一部攪乱溝に切られている。規模は長軸約 1.32m、短軸約 1.21m、深さ約 18cmを測る。遺構断面形は逆台形で埋土は黄灰褐色砂質土に黄色ブロックが混じる土である。埋土からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、土錘、弥生土器が出土している。図示できた遺物は 225 の弥生土器である。225 は口縁端部が大きく開き肥厚気味の面をなす端部を持つもので、刻目、櫛描き沈線文が施される。高知平野より西側に多い在地系の中期末の土器である。

下 SK8

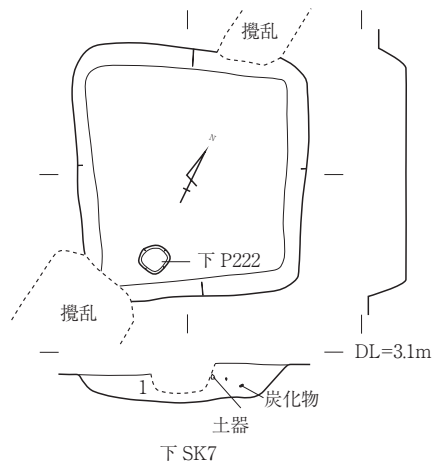
下 SK8 は調査区南東部に位置する楕円形状の土坑で下 SB1 と重複している。長軸約 1.46m、短軸約 0.62m、深さ約 28cmを測る。断面形は舟底状である。埋土は灰黄褐色粘質土と灰色粘質土で柱痕状を呈するが柱痕とは確認できなかった。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質揃鉢が出土している。

下 SK14

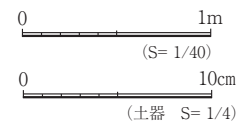
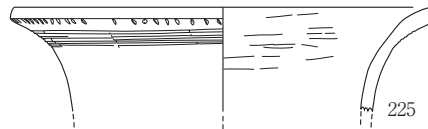
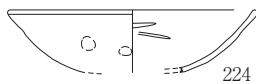
下 SK14 は調査区南側で検出した楕円形の土坑で西側部分を攪乱溝に切られる。P330・332～335 と重複し P330 に切られる。P332～335 は下 SK14 埋土除去後床面から検出した。土坑の規模は長軸約 1.9m、短軸残存長約 1.5m、深さ約 15cm を測る。遺構断面形は浅い箱形で立ち上がりはしっかりしている。埋土は暗灰褐色粘質土で埋土からは土師器、須恵器が出土している。図示できた遺物は 226 の須恵器のみである。226 は口縁部がわずかに外反し底部付近は丸みを帯びている。深めの体部を持ち腕の可能性が考えられるものである。



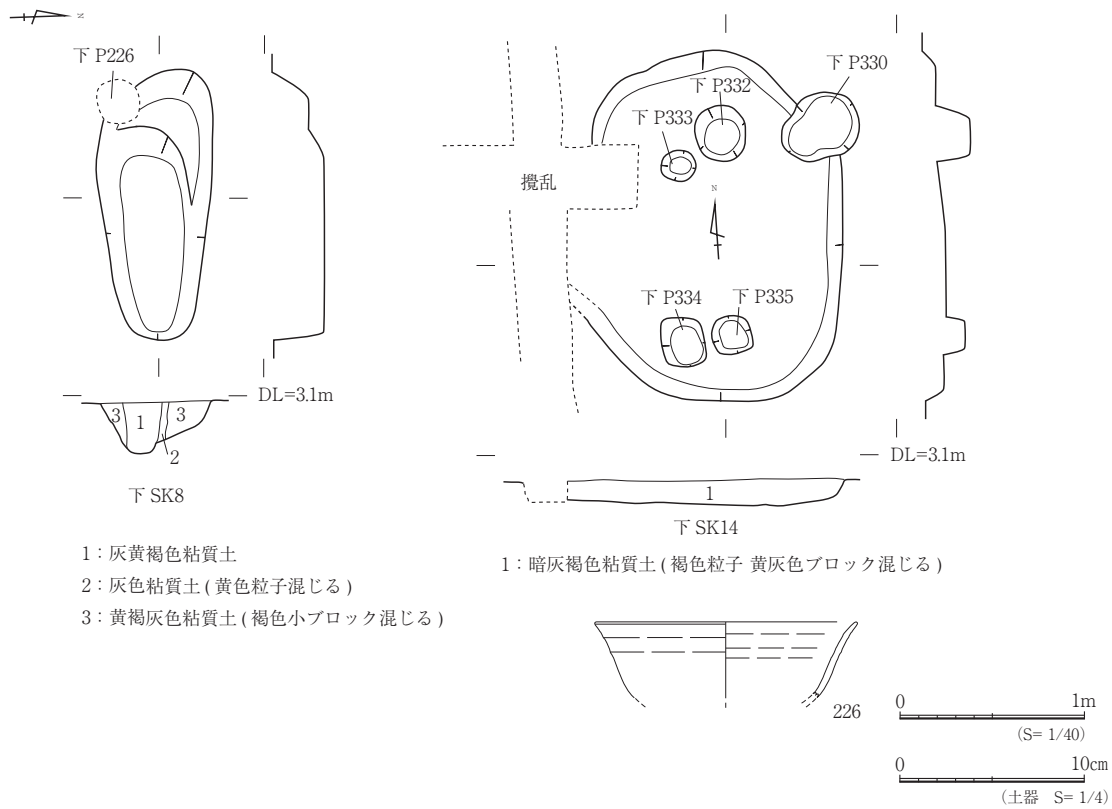
1：黄灰色砂質土（褐色砂質粒子混じる）



1：黄灰褐色砂質土（黄色ブロック 土器片 5mm 程度混じる）



7 - 25 図 下 SK1・7



7-26 図 下 SK8・14

溝跡 (SD)

下面で検出した溝跡は下 SD1 ~ 40 までの 40 条である。下 SD14・31 は東側調査区 1-7 区へ延長し 1-7 区でも検出されている。調査区西側では櫛の目状に規模の小さな溝跡が検出されており、調査区南東部では 4.0m × 5.0m 程の長方形に溝が巡っており各部分によって遺構名を付けた。下 SD8 は調査区西側で北西方向から南東方向に向かって調査区を縦断する溝跡で端部は小楕円形状になり終熄している。櫛目状に検出した溝跡群とはほぼ直交し全てに切られている。下 SD4 は断面形 V 字状の規模の大きな溝跡であるが調査区内で終熄し延長は検出できなかった。軸方向が下面で検出した他の溝跡が北西に傾くものに対してほぼ東西方向と異なっている。下 SD22 は調査区南部で検出した断面形 V 字状の溝跡であるが延長は 7.8m しか確認できなかった。軸方向は下 SD4 とは異なっている。

遺構名	長さ×幅×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	接続	出土遺物	時期	備考
下 SD1	5.00 × 0.40 × 0.10	直線状	皿状	N - 51° - E				
下 SD2	6.20 × 0.50 × 0.07	直線状	皿状	N - 27° - W				
下 SD3 - 1	3.00 × 0.40 × 0.11	くの字状	皿状	N - 12° - W				
下 SD3 - 2	4.10 × (0.6) × 0.17	くの字状	皿状	N - 52° - W				
下 SD4	16.70 × 1.95 × 0.75	直線状	V 字状	N - 90° - E		土師質土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・東播系須恵器・ 緑釉陶器・灰釉陶器・白磁・布目粗製土器・鉄滓		下 SD14 を切る 口禿げ口縁白 磁皿
下 SD5	7.60 × 0.60 × 0.20	直線状	逆台形	N - 78° - E		土師器・黒色土器 B 類・須恵器		下 SD8 を切る
下 SD6	8.50 × 0.70 × 0.18	直線状	逆台形	N - 75° - E		土師器・須恵器		下 SD8 を切る
下 SD7	7.20 × 0.70 × 0.18	直線状	逆台形	N - 77° - E		土師器・黒色土器 A 類・須恵器・土錘		下 SD8 を切る
下 SD8	40.20 × 1.20 × 0.40	直線状	逆凸状	N - 13° - W		土師器・須恵器・布目粗製土器・土錘・土玉		端部水溜状
下 SD9	4.00 × 0.50 × 0.11	直線状	レンズ状	N - 70° - E				
下 SD10	4.20 × 0.60 × 0.14	直線状	レンズ状	N - 77° - E		須恵器		
下 SD11	3.40 × 0.50 × 0.12	直線状	皿状	N - 74° - E		土師器・須恵器		
下 SD12	5.00 × 0.40 × 0.10	直線状	皿状	N - 10° - W		土師器		
下 SD13	2.70 × 0.45 × 0.14	直線状	不整形レンズ状	N - 73° - E		土師器・須恵器		
下 SD14	35.90 × 1.80 × 0.37	直線状	逆台形	N - 53° - W	1 - 7 区	土師器・黒色土器 A 類・須恵器・布目粗製土器・鉄釘		土器多い
下 SD15	14.50 × 1.00 × 0.29	直線状	箱形	N - 48° - E		土師器・須恵器		
下 SD16	1.20 × 0.50 × 0.18	直線状	レンズ状	N - 67° - E		土師器・須恵器		
下 SD17	1.70 × 0.40 × 0.12	直線状	レンズ状	N - 85° - E		土師器・須恵器		
下 SD18	4.40 × 0.70 × 0.20	直線状	逆台形	N - 67° - E		土師器		
下 SD19	4.50 × 0.55 × 0.17	直線状	皿状	N - 57° - E		土師器・須恵器		
下 SD20	2.20 × 0.70 × 0.21	直線状	逆台形	N - 44° - E		須恵器		
下 SD21	3.00 × 0.50 × 0.17	直線状	皿状	N - 61° - E		土師器・須恵器		
下 SD22	7.80 × 1.00 × 0.75	直線状	V 字状	N - 11° - W		土師質土器・瓦質土器・須恵器・東播系須恵器・ 発泡土器・鉄釘・粘土塊		瓦質土器細片 1 点のみ
下 SD23	5.60 × 0.90 × 0.25	直線状	舟底形	N - 74° - E		土師器・黒色土器 B 類・須恵器・発泡土器・緑釉陶器		土器多い
下 SD24	9.80 × 0.70 × 0.14	直線状	レンズ状	N - 80° - E		土師器・黒色土器 B 類・須恵器・発泡土器・緑釉陶器		下 SD8 を切る
下 SD25	3.20 × 0.50 × 0.10	直線状	レンズ状	N - 77° - E		土師器・須恵器・布目粗製土器		
下 SD26	6.30 × 0.60 × 0.13	直線状	レンズ状	N - 11° - W		土師器・須恵器・黒色土器 A 類・緑釉陶器・土錘		
下 SD27	16.09 × 0.90 × 0.12	直線状	皿状	N - 15° - W		土師器・須恵器・緑釉陶器・土錘		
下 SD28	4.20 × 0.90 × 0.14	直線状	皿状	N - 73° - E		土師器・須恵器		
下 SD29	3.50 × 0.60 × 0.18	直線状	逆カマボコ状	N - 21° - W		土師器・発泡土器		
下 SD30	14.00 × 0.60 × 0.14	直線状	逆カマボコ状	N - 1° - E		土師器・黒色土器 B 類・須恵器・土錘		
下 SD31	15.60 × 1.05 × 0.52	直線状	逆三角形	N - 49° - W	1 - 7 区	土師器・須恵器・弥生土器		
下 SD32	1.72 × 0.50 × 0.14	直線状	レンズ状	N - 50° - E				
下 SD33	8.70 × 0.90 × 0.15	直線状	逆台形	N - 28° - W		土師器・黒色土器 A 類・須恵器・布目粗製土器		
下 SD34	3.00 × 1.80 × 0.10	直線状	皿状	N - 77° - E		土師器・黒色土器 A 類・須恵器・鉄釘		
下 SD35(南北)	5.00 × 0.50 × 0.18	への字状	レンズ状	N - 28° - W		土師器・須恵器・土錘		
下 SD35(東西)	1.80 × 0.60 × 0.24	への字状	レンズ状	N - 63° - E				
下 SD36	5.00 × 0.60 × 0.25	直線状	舟底形	N - 47° - E		土師器・須恵器		
下 SD37	6.50 × 0.80 × 0.25	直線状	逆台形	N - 29° - W		土師器		
下 SD38	7.10 × 1.10 × 0.28	直線状	レンズ状	N - 36° - W		土師器・布目粗製土器・粘土塊		
下 SD39	2.70 × 0.35 × 0.10	直線状	皿状	N - 61° - E				
下 SD40	3.00 × 0.30 × 0.08	直線状	皿状	N - 71° - E				

表 7 - 11 下面溝跡一覧表

下 SD1

下 SD1 は調査区中央北端部で検出した溝跡で北端部は調査区に切られている。溝跡の軸方向は N - 51° - E である。溝跡の規模は検出長約 5.0m、上端幅約 0.4m、深さ約 10cm を測る。埋土中からの遺物出土は確認できなかった。

下 SD2

下 SD2 は調査区北端部で検出した溝跡で下 SD3 の約 1.5m 東に位置しほぼ並行する。溝跡の軸方向は N - 27° - W で規模は検出長約 6.2m、上端幅約 0.5m、深さ約 7cm を測る。浅い溝跡で遺物出土は確認できなかった。

下 SD3

下 SD3 は調査区北端部で検出した溝跡で南北方向に約 3.0m 延び下 SD14 とぶつかる。沿うように延びた後下 SD4 に切られ延長が確認できなくなっている。検出長は約 7.0m、上端幅約 0.4m、深

さ約 11cmを測る。南北方向部分の軸方向は N - 12° - W である。埋土中からの遺物は確認できなかった。

下 SD4

下 SD4 は調査区北側西端部から東方向に直線的に延びる規模の大きな溝跡である。下 SD2・3・8・14 と重複し全てを切っている。溝跡の軸方向は N - 90° - E で規模は検出長約 16.7m、上端幅約 1.95m、深さ約 75cmを測る。溝跡は東端部で約 45°の角度で立ち上がり終熄している。溝の断面形は V 字状で埋土は 5 層に分層できた。1～3 層は灰色土で黄色ブロックの混じる攪乱状の土である。下層は黄色粘質土で灰色土がブロック状に入っている。埋土中からは土師質土器、瓦器、瓦質土器、須恵器、東播系須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、白磁、布目粗製土器、鉄滓など多種で多くの遺物が出土している。図示できた遺物では 231 は瓦器椀、232 は緑釉陶器、233 は灰釉陶器である。234・236 は所謂口禿げの白磁、235 は東播系須恵器片口鉢である。237 は瓦質土器羽釜で 238 は鏝の退化した瓦質土器鍋の可能性が高い。

溝跡の時期は 237・238 の時期と考えられ中世 14 世紀後半～15 世紀代の可能性が高く下面で検出できたが上面から中面の時期に相当する遺構の可能性が高い。断面形 V 字状の溝跡は 1-3A 区と 1-3 拡張区で検出しており終熄の様相も同様である。時期は 15 世紀代と考えられ、時期もほぼ同様である。一連の遺構と考えられる。

下 SD5

下 SD5 は調査区西側で検出した櫛目状の溝跡群の一つである。下 SD8 と直交し切っている。下 SD5 の北側には下 SD24 が約 4.3m、南側には下 SD40 が約 2.1m 離れ並行するように所在する。溝跡の軸方向は N - 78° - E である。検出長は約 7.6m、上端幅約 0.6m、深さ約 20cmを測る。溝の断面形は不整形な逆台形で埋土は黄褐灰色粘砂土に灰色ブロックが混じる。埋土中からは土師器、黒色土器 B 類、須恵器が出土するが何れも細片である。

下 SD6

下 SD6 は調査区西側で検出した櫛目状の溝跡群の一つである。下 SD8 と直交し切っている。下 SD6 の北側には下 SD40 が約 1.85m、南側には下 SD7 が約 4m 離れ並行するように所在している。東端には下 SD9・10 が沿う様に位置している。下 SD6 の軸方向は N - 75° - E である。検出長は約 8.5m、上端幅約 0.7m、深さ約 18cmを測る。溝の断面形は逆台形で埋土は黄褐灰色砂質土で埋土中からは土師器、須恵器が出土するが何れも細片である。

下 SD7

下 SD7 は調査区西側で検出した櫛目状の溝跡群の一つである。下 SD8 と直交し切っている。下 SD7 の北側には下 SD6 が約 4m、南側には下 SD11 が約 3m 離れ並行するように所在する。溝跡の軸方向は N - 77° - E である。検出長は約 7.2m、上端幅約 0.7m、深さ約 18cmを測る。溝の断面形は逆台形である。埋土は黄褐灰色粘質土で黄褐色粒子が多く混じり炭化物も入る。埋土中からは土師器、黒色土器 A 類、須恵器、土錘が出土している。図示できた遺物で 239 は杯で内外面とも強い回転ナデ痕が残る器壁の薄いものである。240 は土師器の輪高台底部である。242・243 は土師器甕である。242 は胎土に砂粒の少ないもので在地産の可能性が考えられるものである。

下 SD8

下 SD8 は調査区西側で北西方向から南東方向に向かって調査区を縦断する溝跡で端部は小楕円

形状になり終熄している。多くの溝跡と重複しており、下 SD4 と下 SD14 に切られている。また櫛目状に検出した溝跡群とはほぼ直交し全てに切られている。溝跡の軸方向は N - 13° - W である。検出長は約 40.2m、上端幅約 1.2m、深さ約 40cm を測る。南側端部は長軸約 2.3m、短軸約 1.6m、深さ約 50cm の楕円形の土坑状となって終熄している。

下 SD8 の断面形は逆凸状で二段に落ちている。上層は幅約 0.8 ~ 1.2m で下層は約 0.35m 狭くなる。埋土は 4 層に分層できた。上層の幅の広い部分が 1 層に当たり褐灰色を基本とする土である。下層の断面形箱状部分は 2・3 層に相当する。埋土中からは土師器、須恵器、布目粗製土器、土錘、土玉が出土している。図示できた遺物では、5 点杯を図示している。244 ~ 246 は同一器形のものである。何れも底部切り離し痕は確認できなかった。251 は内面に布目痕の残る粗製土器で焼塩壺の可能性が考えられる。249 は天井部が丸くなる須恵器蓋で端部には小さなかえりが残存する。

下 SD9

下 SD9 は調査区西側で検出した短い溝跡で下 SD6 の東端部南側約 0.3m に位置し、下 SD10 に沿うように隣接している。溝跡の軸方向は N - 70° - E であるがわずかに弧状を帯びる。検出長は約 4.0m、上端幅約 0.5m、深さ約 11cm を測る。溝の断面形は浅いレンズ状である。埋土は黄褐灰色粘砂土で灰色ブロックが混じる。埋土中からは遺物が確認できなかった。

下 SD10

下 SD10 は調査区西側で検出した短い溝跡で下 SD9 に沿うように隣接している。溝跡の軸方向は N - 77° - E であるがわずかに弧状を帯びる。検出長は約 4.2m、上端幅約 0.6m、深さ約 14cm を測る。溝の断面形は浅いレンズ状である。埋土は黄褐灰色砂質土で黄色ブロックが混じる。埋土中からは須恵器の細片が 1 点出土したのみである。下 SD9 とほぼ同規模の遺構である。

下 SD11

下 SD11 は調査区西側で検出した櫛目状の溝跡群の一部の可能性が高い遺構で下 SD7 の南側約 3m に位置する。溝跡の軸方向は N - 74° - E である。検出長は約 3.4m、上端幅約 0.5m、深さ約 12cm を測る。検出埋土は黄褐灰色粘砂土で埋土中からは土師器、須恵器細片が少量出土している。

下 SD12

下 SD12 は調査区北側で検出した南北方向の溝跡でやや北西に傾く。溝跡の軸方向は N - 10° - W である。遺構の規模は検出長約 5.0m、上端幅約 0.4m、深さ約 10cm で規模の小さなものである。遺構検出埋土は暗褐灰色土で埋土中からは土師器細片が 3 点出土したのみである。

下 SD13

下 SD13 は調査区東側で検出した東西方向の短い溝跡で西端部で下 SD31 と重複し延長が確認できなくなる。溝跡の軸方向は N - 73° - E で、検出長約 2.7m、上端幅約 0.45m、深さ約 14cm を測る。断面形は不整形なレンズ状で埋土は黄灰褐色粘質土で炭化物が混じる。埋土中からは土師器細片 3 点、須恵器細片 1 点が出土している。

下 SD14

下 SD14 は調査区北西隅から南東方向に調査区を斜めに縦断する規模の大きな溝跡で延長は東側調査区 1 - 5 区、1 - 7 区でも検出している。検出長は約 36m で北西端部は攪乱で切れ、途中下 SD4 に切られている。南東部では下 SD15・34 と重複している。下 SD14 の軸方向は N - 53° - W である。

溝跡の上端幅は約 1.80m で深さは約 40～60cmを測る。溝跡の断面形は底面に平面が残る逆台形が基本である。埋土は灰褐色土が基本で最下層は灰色粘土に黄色ブロックが入る土で粘性は弱い。中層には黄白色の柔らかく粒子の細かな層が間層として入る。

埋土中からは土師器、黒色土器 A 類、須恵器、布目粗製土器、鉄釘が出土している。遺物は他の遺構に比べて多く出土しているが遺構規模に比べると少ない。図示できた遺物では 259 が瓦器碗の底部の可能性がある以外は古代の土器と考えられる。260 は黒色土器 A 類碗で胎土に雲母の少ないもので在地産の可能性が考えられる。261 は須恵器鉢で古い様相を持ち 7 世紀末以降の時期と考えられる。265 は薄手の甕で外面横ハケの下はタタキ痕が顕著に残る。胴部は長くならないと考えられ 10 世紀代と考えられる。下 SD14 は古代、10 世紀を中心とした時期の溝跡と考えられる。

下 SD15

下 SD15 は調査区南東部の溝跡が集中する部分で検出した軸方向 N - 48° - E の溝跡である。検出長は約 14.5m で南西端部は攪乱坑に切られ延長が確認できなくなり、北東端部は調査区で切られており隣接する 1 - 7 区では延長は確認できなかった。また途中、下 SD14 と下 SD34 と重複している。下 SD14 とは切り合いは不明である。下 SD34 に切られており、下 SD34 床面に痕跡が残る。下 SD15 の上端幅は約 1.0m、深さは約 30cm で断面形は箱形である。埋土は褐灰色が基本となる土である。層位の途中で別の溝跡の埋土の可能性が考えられる部分を検出したが、平面では確認できなかった。埋土中からは土師器、須恵器が出土しているが細片のみである。

下 SD15 は下 SD33 と接続し調査区南東部の格子状の溝跡群を形成している可能性が考えられる溝跡である。

下 SD16

下 SD16 は調査区南東部で検出した小規模な溝跡で北東端部は攪乱坑に切られて延長は確認できない。溝跡の軸方向は N - 67° - E である。規模は検出長約 1.2m、上端幅約 0.5m、深さ約 18cm を測る。断面形はレンズ状で埋土は黄褐灰色粘質土で黄色ブロックが混じる。埋土中からは土師器細片 2 点、須恵器 1 点が出土している。調査区南東部の格子状溝跡群とは別遺構と考えられる。

下 SD17

下 SD17 は調査区南西部で検出した東西方向の溝跡で南北方向の溝跡下 SD29 と接続し L 字状となる。軸方向は N - 85° - E で検出長約 1.7m、上端幅約 0.4m、深さ約 12cm を測る。断面形は浅いレンズ状で埋土は黄灰褐色粘質土で黄色ブロックが混じる。埋土中からは土師器細片 4 点、須恵器細片 1 点が出土している。

下 SD18

下 SD18 は調査区南東部の溝跡が密集する部分で検出した格子状の溝跡群の一部である。軸方向は N - 67° - E である。検出長は約 4.40m で北東端部は下 SD33 と南西端部は下 SD37 と接続しコの字状を形成する。下 SD18 の上端幅は約 0.7m、深さは約 20cm を測り、断面形は不整形な逆台形である。埋土は淡褐灰色粘質土、淡褐色土である。図示した土層断面図は下 SD37 と接続する北端部のもので小さな分岐で北方向と南方向に流路が分かれる。埋土中からの遺物出土は土師器細片が 7 点出土したのみである。

下 SD19

下 SD19 は調査区南東部の溝跡が密集する部分で検出した格子状の溝跡群の一部である。下

SD19の軸方向はN - 57° - Eである。検出長は約4.50mで北東端部は下SD33と南西端部は下SD37と接続する。南側の下SD18とは約2.4m離れて並行し格子状を形成する。上端幅は約0.55m、深さは約17cmを測り、断面形は不整形な皿状である。埋土は黄褐灰色粘質土、暗灰褐色粘質土である。埋土中からは土師器細片1点、須恵器細片1点が出土している。

下SD19は下SB1の柱穴の下SK23、P6150と重複し何れも下SD19が切っている。

下SD20

下SD20は調査区南東部の溝跡が密集する部分で検出した格子状の溝跡群の一部である。下SD19の軸方向はN - 44° - Eである。検出長は約2.20mで南西端部は下SD21・33と接続し北東端部は攪乱坑に切られる。下SD15とは約4.0m離れて並行し格子状を形成する。上端幅は約0.7m、深さは約21cmを測る。検出埋土は黄褐灰色粘砂土で埋土中からは須恵器細片1点が出土している。

下SD21

下SD21は調査区南東部の溝跡が密集する部分で検出した格子状の溝跡群の一部で東西方向の溝跡である。軸方向はN - 61° - Eである。検出長は約3.0mで東端部で南北方向の下SD33と接続している。上端幅は約0.45m、深さは約20cmを測る。検出埋土は黄褐灰色粘砂土である。埋土中からは土師器細片5点と266の須恵器蓋が出土している。

下SD22

下SD22は調査区南端部で検出した断面形V字状の溝跡である。検出長は約7.80mで南端部は終熄し、北端部は攪乱坑に切られており延長が確認できなかった。溝跡の軸方向はN - 11° - Wである。上端幅約1.0m、深さ約75cmを測り、底部幅約10～15cmである。埋土は黄褐色土ベースに多量に褐灰色土が混じる土である。下層はほぼ暗灰褐色土で黄色土がブロック状に入っている。埋土中からは土師質土器、瓦質土器、須恵器、東播系須恵器、発泡土器、鉄釘、粘土塊が出土している。図示できた遺物は269の東播系須恵器片口鉢口縁である。

他の断面形V字状の溝跡と方向規模が異なっている。性格は不明であるが中世の遺構と考えられる。

下SD23

下SD23は調査区南西部で検出した東西方向の溝跡で途中で2条に分かれY字状をなす。下SD8と直交し延長が確認できなくなる。検出長は約5.6mで、西端部から約2.7mで分岐している。西端部の上端幅は約0.9m、深さは約25cmを測る。埋土は黄褐灰色土を基本とし、下層は暗褐灰色粘砂土であった。埋土中からは土師器、黒色土器B類、須恵器、発砲土器、緑釉陶器などが出土している。272は小型の須恵器壺蓋、273～275は土師器甕で胎土には多量の砂粒が入り、金雲母も入る。

下SD24

下SD24は調査区西側で検出した櫛目状の溝跡群の一つである。下SD8と直交し切っている。下SD24の北側には下SD25が約2.8m、南側には下SD5が約4.4m離れ並行するように所在する。溝跡の軸方向はN - 80° - Eである。検出長約9.8m、上端幅約0.7m、深さ約14cmを測る。溝の断面形は浅いレンズ状で埋土は灰色砂質土である。埋土中からは土師器、黒色土器B類、須恵器、発泡土器、緑釉陶器が出土している。276は土師器皿、277は土師器甕で胎土に砂粒が少なく器壁の薄いものである。

下 SD25

下 SD25 は調査区西側で検出した櫛目状の溝跡群の一つで最も北側で検出した溝跡である。南側には下 SD24 が約 2.9m 離れ並行するように所在する。溝跡の軸方向は $N - 77^\circ - E$ である。延長は下 SD8 まで延びず、検出長は約 3.2m である。上端幅約 0.5m、深さ約 10cm を測る。溝の断面形は浅いレンズ状で埋土は褐灰色粘砂土である。埋土中からは土師器、須恵器、布目粗製土器の細片が出土している。278 は須恵器皿で口縁端部を摘み上げている。

下 SD26

下 SD26 は調査区南部で検出した南北方向の浅い溝跡である。溝跡の軸方向は $N - 11^\circ - W$ である。検出長約 6.3m、上端幅約 0.6m、深さ約 13cm を測る。断面形は浅いレンズ状で埋土は黄褐灰色粘質土に炭化物が入っている。埋土中からは土師器、須恵器、黒色土器 A 類、緑釉陶器、土錘が出土しており土錘 2 点を図示した。

下 SD27

下 SD27 は調査区南西部の溝跡が密集する部分で検出した溝跡で下 SD23 から南方向に下 SD8 に沿うように延びる。下 SD28 が接続し T 字状の溝跡を形成している。軸方向は $N - 15^\circ - W$ である。検出長約 16.1m、上端幅約 0.9m で深さ約 12cm を測る。埋土は灰褐色粘質土である。埋土中からは土師器、須恵器、緑釉陶器、土錘が出土している。282 の緑釉陶器は胎土が白色の軟陶で淡緑色の釉が薄く施釉されている。

下 SD28

下 SD28 は調査区南西部の溝跡が密集する部分で検出した溝跡で西端部から東に延び下 SD27 に接続する。軸方向は $N - 73^\circ - E$ である。検出長約 4.2m、上端幅約 0.9m で深さ約 14cm を測る。埋土は黄褐灰色粘砂土に黄白色の泥状のブロックが入る。埋土中からは土師器 1 点、須恵器 1 点が出土しており、天井部が丸い古墳時代の須恵器蓋 283 を図示した。

下 SD29

下 SD29 は調査区南西部で検出した南北方向の溝跡で西端部から東方向に延び、下 SD17 と北端部で接続し L 字状となる。下 SD29 の軸方向は $N - 21^\circ - W$ である。検出長約 3.5m、上端幅約 0.6m、深さ約 18cm を測る。断面形は逆カマボコ状で埋土は灰色粘質土で黄白色の泥状のブロックが混じる。埋土中からは土師器片 10 点、発泡土器細片 1 点が出土している。284 は直線的に開く体部の土師器杯で底部には切り離し痕が残っていない。

下 SD30

下 SD30 は調査区東部で下 SD31 に切られた状態で検出した南北方向の溝跡である。溝跡の軸方向は $N - 1^\circ - E$ である。検出長は約 14m で南端部は下 SD30 とぶつかり延長は確認できなくなる。北端部は徐々に浅くなり開いたようになって終熄している。上端幅約 0.6m、深さ約 14cm を測り、断面形は逆カマボコ状である。埋土は黄褐灰色粘質土に炭化物がわずかに混じった土である。埋土中からは土師器、黒色土器 B 類、須恵器、土錘が出土しており図示できたのは 285 の土錘のみである。

下 SD31

下 SD31 は調査区北東部で検出した規模の大きな溝跡で延長は東側の調査区 1-7 区でも検出している。下 SD31 の軸方向は $N - 49^\circ - W$ で下 SD14 と約 3.1m 離れ並行している。検出長は約 15.6m で北西端部は調査区内で終熄し、南東端部は調査区によって切られているが延長は 1-7 区

で確認されている。溝跡の上端幅は約 1.05m、深さは約 52cmを測る。溝跡の断面形は逆三角形に近く床面は平坦部が少ない。埋土は黄褐灰色砂質土、灰色粘土、黄白色粘土である。埋土中からは土師器、須恵器、弥生土器が出土している。図示できたのはかえりを持つ須恵器蓋 286 のみである。

下 SD32

下 SD32 は調査区東端部で検出した規模の小さな溝跡である。溝跡の軸方向は N - 50° - E である。検出長約 1.72m、上端幅約 0.5m、深さ約 14cmを測る。断面形は浅いレンズ状で埋土は黄褐灰色粘質土に褐色粒子、黄色ブロックが混じっている。埋土中からは遺物は確認していない。

下 SD33

下 SD33 は調査区南東部の溝跡が密集する部分で検出した溝跡群の一部で下 SD19・21 と接続し格子状を形成している。軸方向は N - 28° - W であるが一部歪む。検出長約 8.7m、上端幅約 0.9m、深さ約 15cmを測る。埋土は灰色砂質土に褐色粒子が多く入った土で埋土中からは土師器、黒色土器 A 類、須恵器、布目粗製土器が出土している。287 は土師器杯で口縁端部が摘み上げ状になっている。切り離し痕跡は確認できない。289 は黒色土器 A 類碗で口縁部はわずかに外反している。胎土に雲母が多量に入っており搬入品と考えられる。

下 SD33 は下 SB1 の柱穴である下 SK24 を切っている。

下 SD34

下 SD34 は調査区東端部で検出した北東方向の溝跡で下 SD14 に切られた状態で検出した。埋土掘削後床面に別遺構と見られる溝跡状部分を検出した。下 SD15 の延長部分と考えられるため、計測値については上層で確認した部分を掲載する。軸方向は N - 77° - E である。検出長約 3.0m、上端幅約 1.8m、深さ約 10cmを測る。断面形は浅い皿状で埋土は灰褐色砂質土に褐色粒子、黄色ブロック、炭化物が混じっている。埋土中からは土師器、黒色土器 A 類、須恵器、鉄釘が出土している。図示した 292 は杯部の丸い須恵器高杯で古墳時代のもので考えられ混入の可能性が高い。

下 SD35

下 SD35 は調査区南東部の溝跡が密集する部分で検出した南北方向と東西方向からなる L 字状の溝跡である。下 SD36 と接続し E 字状を形成している。南北部分の軸方向は N - 28° - W で検出長約 5.0m、上端幅約 0.5m、深さ約 18cmを測る。東西部分の軸方向は N - 63° - E で検出長約 1.8m、上端幅約 0.6m、深さ約 24cmを測る。溝跡の断面形はレンズ状で埋土は黄褐灰色砂質土と灰褐色粘砂土である。埋土中からは土師器、須恵器、土錘が出土している。294 は土師器皿で口縁端部が摘み上げ状である。

下 SD35 は下 SD33 等が構成する溝跡群とは異なると考えられる。

下 SD36

下 SD36 は調査区南東部の溝跡が密集する部分で検出した東西方向の溝跡で下 SD35 と接続し E 字状を形成している。溝跡の軸方向は N - 47° - E で検出長約 5.0m、上端幅約 0.6m、深さ約 25cmを測る。遺構断面形は舟底形で埋土は上層が褐灰色粘質土に黄褐色土が混じる土で、下層は暗褐灰色粘砂土である。埋土中からは土師器、須恵器が出土しており 298 の口縁端部のみわずかに下に引き出した須恵器蓋が図示できた。

下 SD37

下 SD37 は調査区南東部の溝跡が密集する部分で検出した格子状の溝跡群の一部である。軸方向

はN-29°-Wである。検出長は約6.5mで北端部から下SD15・18・29が接続し下SD21も接続していた可能性が考えられる。上端幅約0.8m、深さ約25cmを測り、断面形は逆台形である。埋土は黄褐灰色砂質土、褐灰色粘砂土である。埋土中からは土師器細片1点が出土している。

下SD38

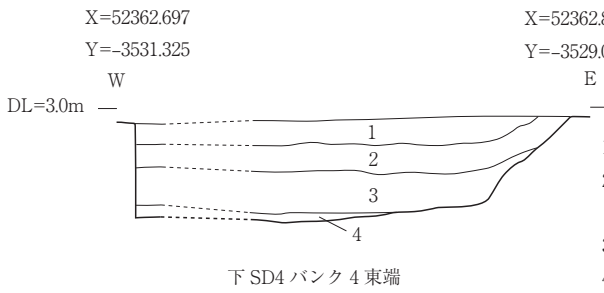
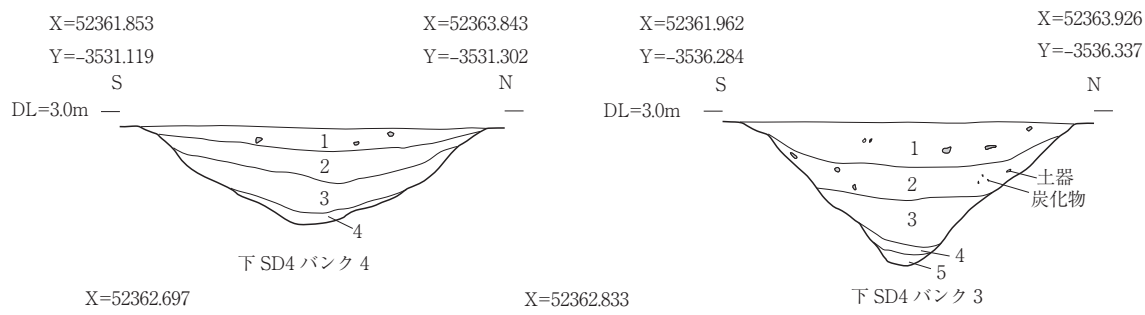
下SD38は調査区南東部で検出した不整形な溝跡で下SD22とP275に切られた状態で検出した。軸方向はN-36°-Wである。検出長は約7.1mで上端幅は北端部約1.1m、南端部約0.55mと徐々に細くなり終熄している。深さは約28cmを測り、断面形はレンズ状である。埋土は黄灰褐色粘質土、暗灰褐色粘質土である。西側肩部に炭化物、粘土塊が多く入っている。中層には黄白色の柔らかな泥状の間層が入っている。埋土中からは土師器、布目粗製土器、粘土塊26gが出土している。図示できる遺物は299の叩石だけであった。下SD38の南側延長上には1-5区下層SD13-1が位置するが関係は不明である。

下SD39

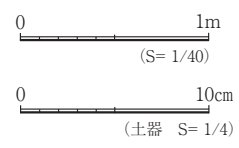
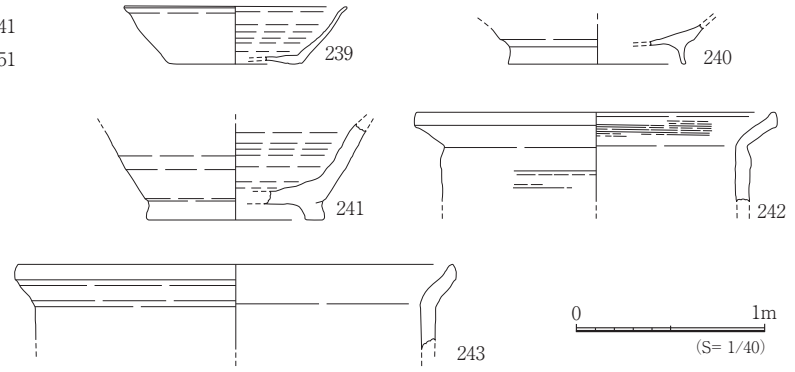
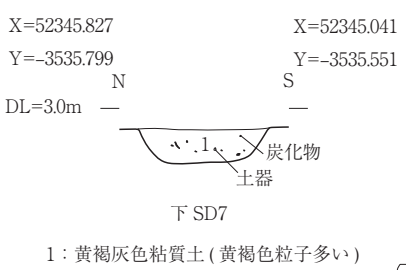
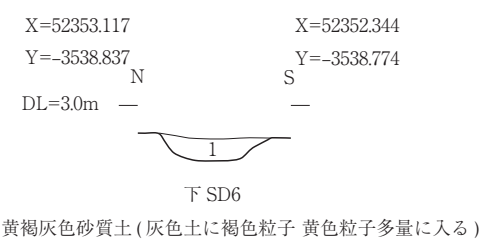
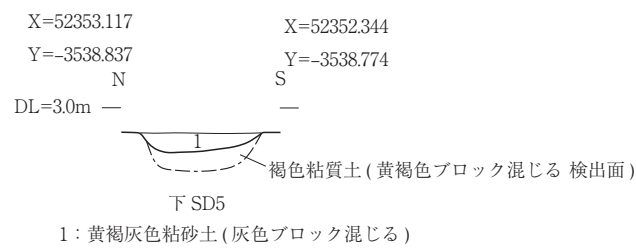
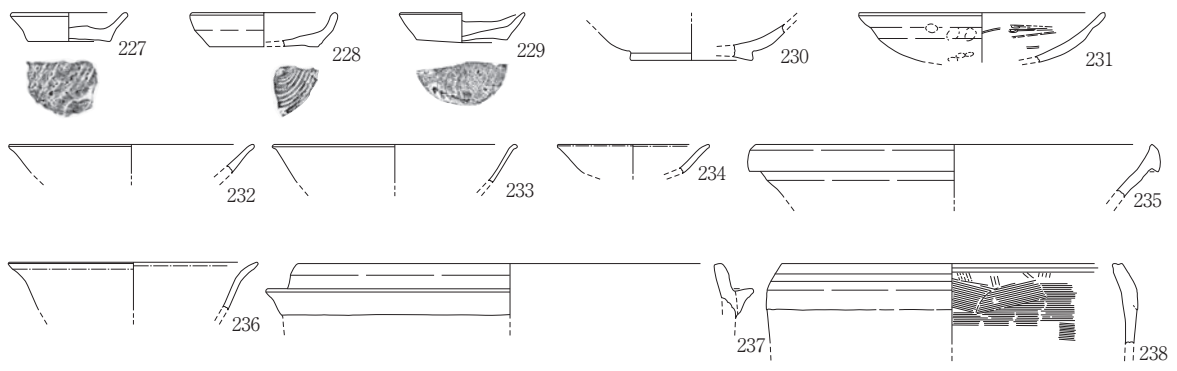
下SD39は調査区南端部で検出した小規模で不整形な溝跡である。溝跡の軸方向はN-61°-Eで検出長約2.7m、上端幅約0.35m、深さ約10cmを測る。断面形は浅い皿状で検出埋土は黄褐灰色粘砂土である。埋土中からは遺物は確認できなかった。

下SD40

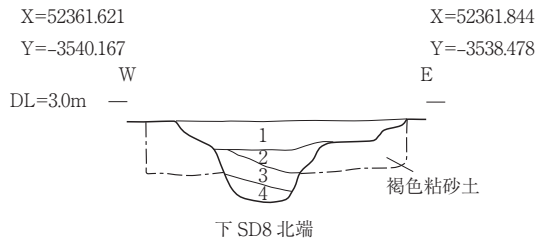
下SD40は調査区西側で検出した櫛目状の溝跡群の一つで東西方向の溝跡である。北側には下SD5が南側には下SD6が並行するように所在する。溝跡の軸方向はN-71°-Eである。延長は下SD8まで延びていなかった。検出長約3.0m、上端幅約0.3m、深さ約8cmを測る。埋土中からは遺物は出土していない。



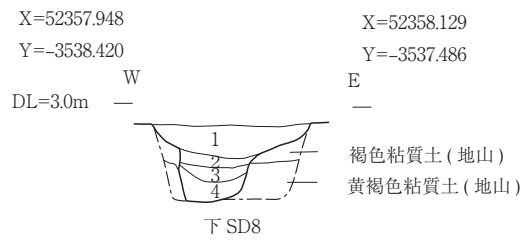
- 1: 灰色砂質土 (褐色粒子多量に混じり 黄色小ブロック混じる)
- 2: 灰色砂質土 (褐色粒子多量に混じる土に灰色粘土小ブロック 黄色ブロック混じる)
- 3: 灰色粘土
- 4: 黄色粘質土 (粘土状に灰色粘土ブロック混じる)
- 5: 黄褐色粘質土 (少し灰色粘土入る)



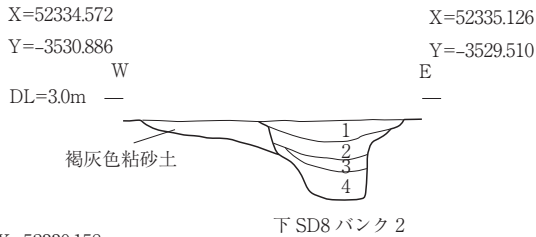
7 - 27 図 下 SD4 ~ 7



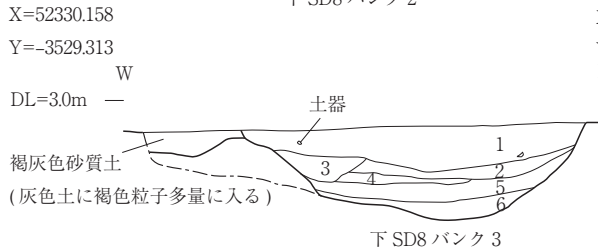
- 1: 黄褐灰色砂質土 (褐色粒子入る)
- 2: 暗褐灰色粘砂土
- 3: 黄褐灰色粘質土
- 4: 黄褐色粘土 (灰色粘土ブロック混じる)



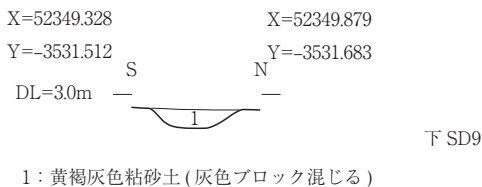
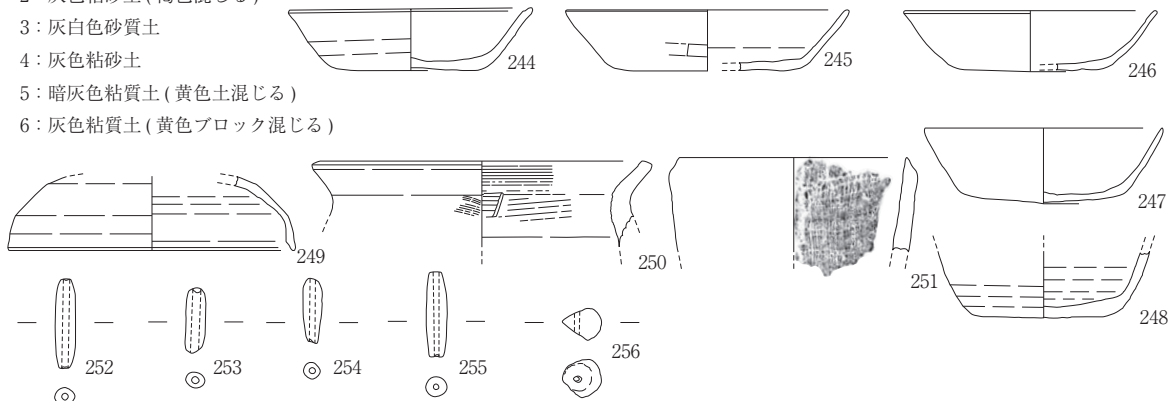
- 1: 褐灰色砂質土 (黄褐色 褐色粒子多い)
- 2: 灰褐色粘質土 (黄色小ブロック混じる)
- 3: 灰色粘質土 (褐色 灰色小ブロック混じる)
- 4: 暗灰色粘質土 (黄色ブロック混じる)



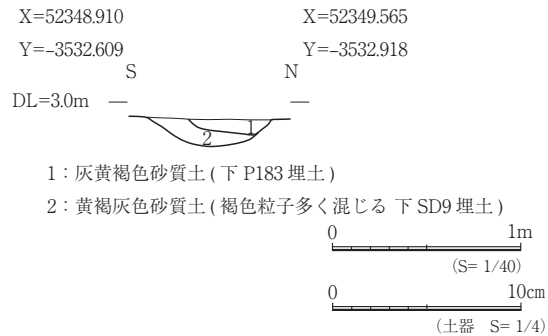
- 1: 明褐灰色砂質土
- 2: 暗灰色粘砂土
- 3: 暗灰色粘砂土 (少し明るい)
- 4: 黒灰色粘質土 (黄色ブロック入る)



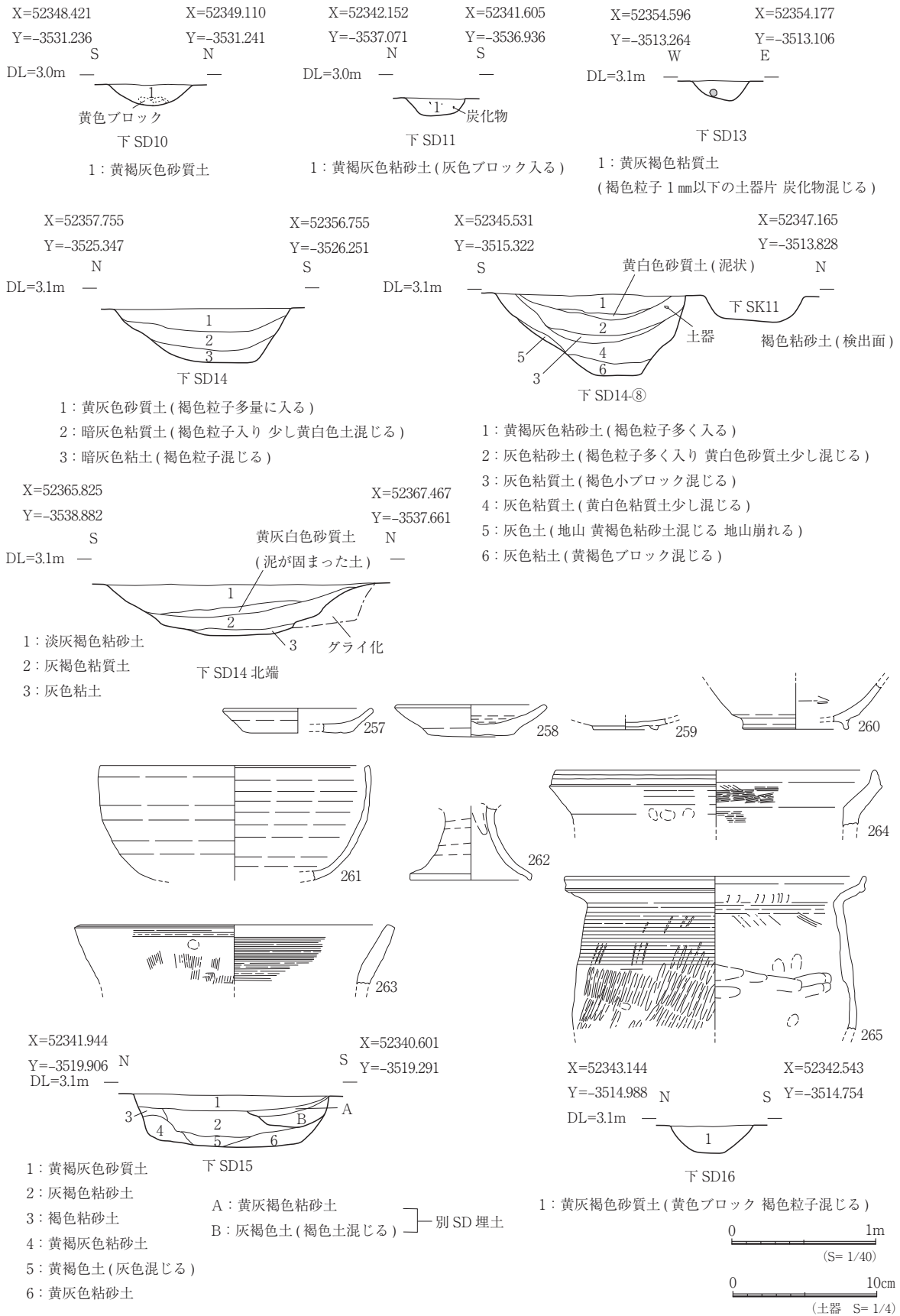
- 1: 明褐灰色砂質土 (灰色土に黄褐色粒子多く入り 黄色ブロック混じる)
- 2: 灰色粘砂土 (褐色混じる)
- 3: 灰白色砂質土
- 4: 灰色粘砂土
- 5: 暗灰色粘質土 (黄色土混じる)
- 6: 灰色粘質土 (黄色ブロック混じる)



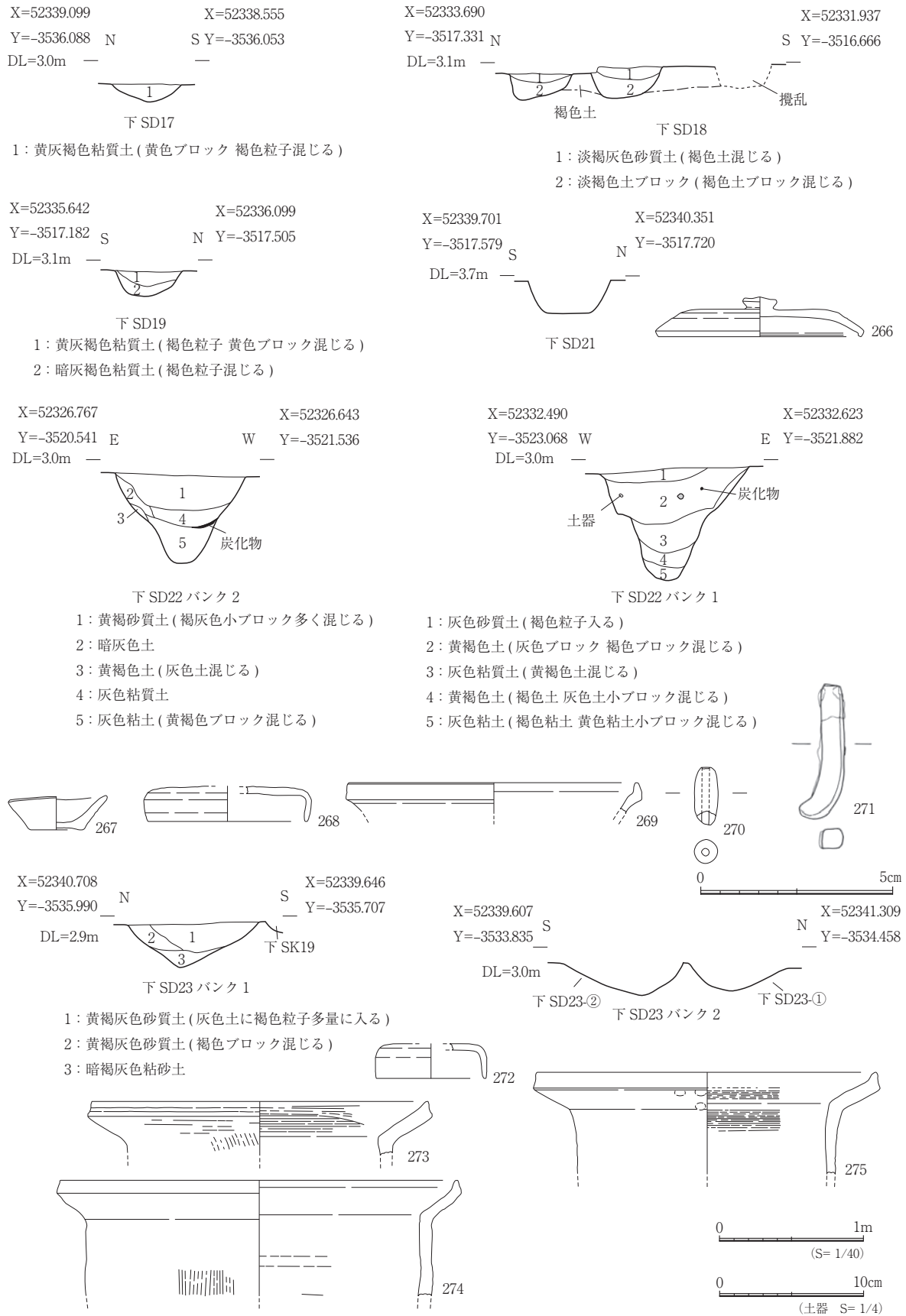
- 1: 黄褐灰色粘砂土 (灰色ブロック混じる)



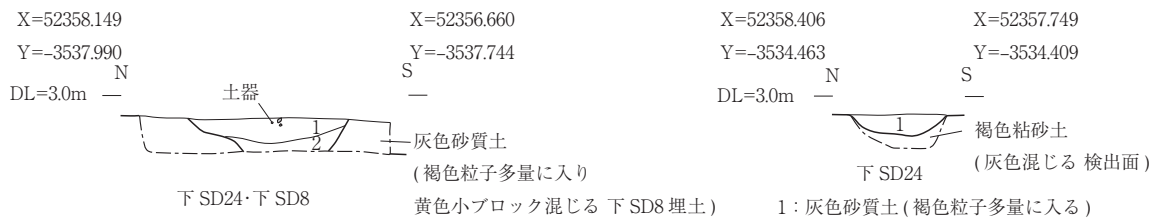
7-28 図 下SD8・9



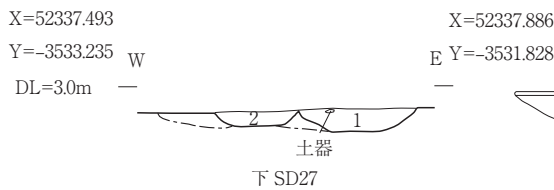
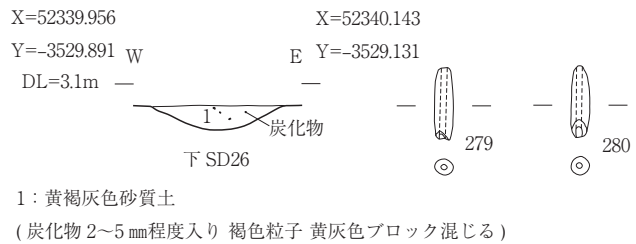
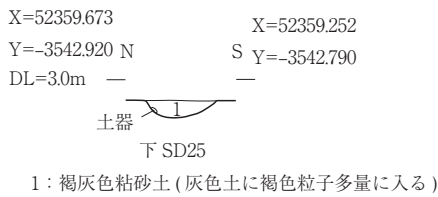
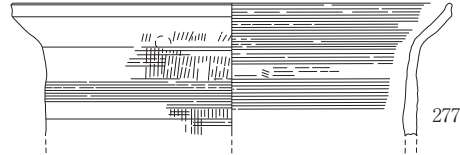
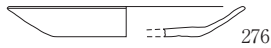
7-29 図 下 SD10・11・13～16



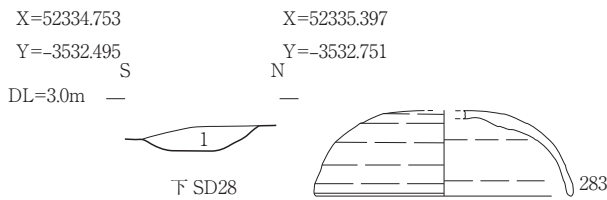
7-30 図 下SD17~19・21~23



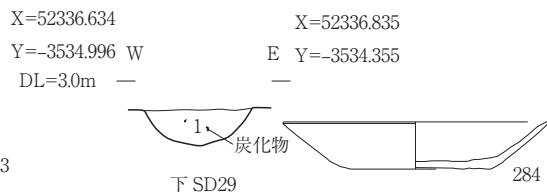
- 1: 黄褐色粘砂土 (淡黄灰色 褐色粒子多い)
2: 暗黄褐色粘砂土



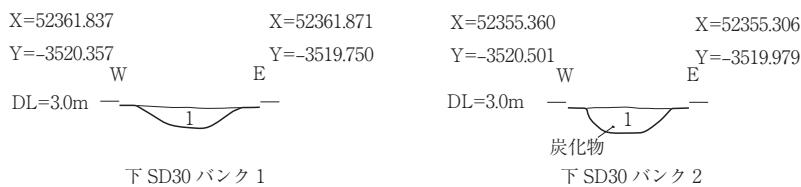
- 1: 灰褐色粘質土 (底部に黄色ブロック混じり 炭化物 褐色粒子混じる 下 SD27 埋土)
2: 黄灰褐色粘質土 (黄色ブロック 褐色粒子混じる 下 P348 埋土)



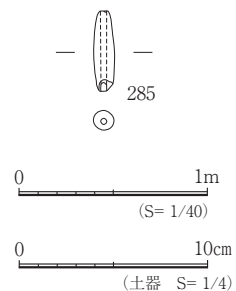
- 1: 黄褐色粘砂土 (黄白色砂質ブロック混じる)



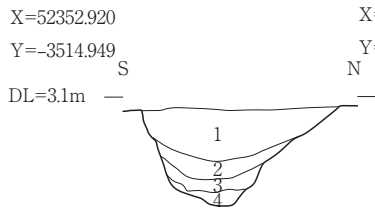
- 1: 灰色砂質土
(多量に褐色粒子入る砂質土 黄白色ブロック混じる)



- 1: 黄褐色灰色砂質土 (1~5mm程度の炭化物 褐色粒子 黄色ブロック混じる)

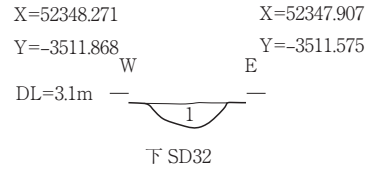
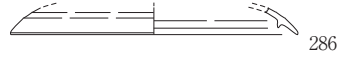


7 - 31 図 下 SD24 ~ 30



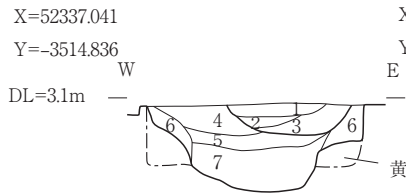
下 SD31

- 1: 黄灰褐色砂質土
- 2: 灰色粘砂土(褐色土混じる)
- 3: 灰色粘土(黄色粘土ブロック状に混じる)
- 4: 黄白色粘土(灰色粘土ブロック混じる)



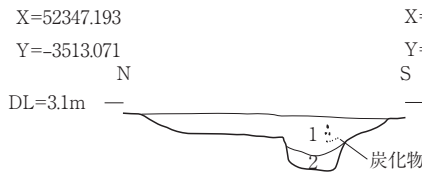
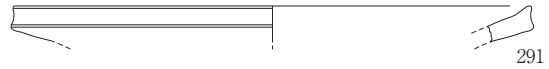
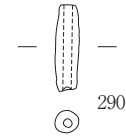
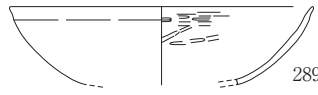
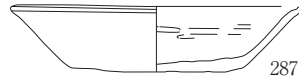
下 SD32

- 1: 黄灰褐色粘質土(褐色粒子 黄色ブロック混じる)



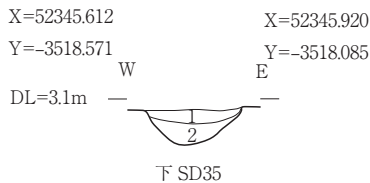
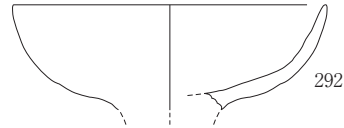
下 SD33・下 SK24

- 1: 灰色砂質土(褐色粒子多く混じる)
 - 2: 黄褐色ブロック
 - 3: 灰色砂質土(褐色粒子多く混じる)
 - 4: 褐色粘砂土(多く黄褐色土混じる)
 - 5: 黄褐色砂質土ブロック
 - 6: 褐色粘砂土
 - 7: 褐灰色粘砂土(黄色ブロック混じる)
- 下 SD33 埋土
- 下 SK24 埋土



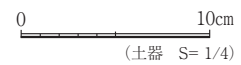
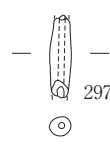
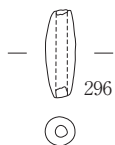
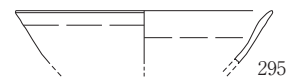
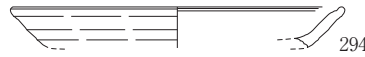
下 SD34

- 1: 灰褐色粘質土(5~10mm程度の炭化物含み 黄色ブロック 褐色粒子混じる)
- 2: 暗灰色粘質土(黄色ブロック混じる)



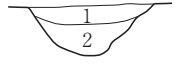
下 SD35

- 1: 黄褐灰色砂質土
- 2: 灰褐色粘砂土



7-32 図 下 SD31 ~ 35

X=52344.188 X=52343.588
 Y=-3519.546 Y=-3519.094
 W E
 DL=3.1m

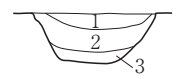


下 SD36

- 1: 褐灰色粘質土 (黄褐色土混じる)
- 2: 暗褐灰色粘砂土



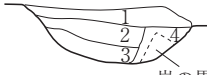
X=52336.074 X=52336.455
 Y=-3520.003 Y=-3519.423
 W E
 DL=3.1m



下 SD37

- 1: 黄褐灰色砂質土
- 2: 褐灰色粘砂土 (黄色ブロック混じる)
- 3: 褐灰色粘砂土

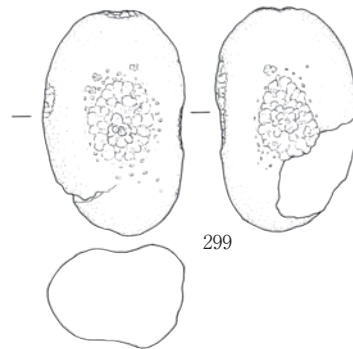
X=52329.695 X=52328.982
 Y=-3519.388 Y=-3520.298
 E W
 DL=3.1m



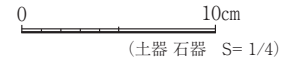
下 SD38

- 1: 黄灰褐色粘質土 (2mm程度の炭化物含み 褐色粒子混じる)
- 2: 暗灰褐色粘質土 (黄色ブロック 褐色粒子混じる)
- 3: 暗灰褐色粘質土 (褐色粒子混じる 2層より灰色が強い)
- 4: 黄灰褐色粘質土 (2~5mm程度の炭化物多く 土器片混じる)

炭の黒か 黒色強い



299



7 - 33 図 下 SD36 ~ 38

ピット(P)

下面のピットは検出時下 P1 ~ 395 までの遺構番号を付けた。欠番 78 個を除く 318 個と最下面で検出したが下面に属すると判断した P6147 ~ 6150 までを加えた 322 個を確認した。

ピットの検出埋土及び検出比率は黄灰色粘土質シルト 0%、灰褐色シルト質粘土 0.5%、明灰褐色シルト質粘土 7%、灰色土 2%、褐灰色土 16%、灰色土（褐色粒子混じる）2%、黄灰褐色土 69%、黄褐色土 0.5%、暗褐灰色土 3%である。

ピットの分布は中央部に少ない傾向が見られ調査区西側にやや多くなっている。建物跡を復元できたのは 2 棟で調査区南側に位置している。建物跡の柱穴は掘方が隅丸方形状であったためピット(P)でなく土坑(SK)としたものが多く、ピットで遺構番号を付けたもので建物跡の柱穴と確認できたピットは下 P225 と最下層で検出した P6147 ~ 6150 のみである。

注目されるピットとして下 P11 を挙げる事ができる。下 P11 からは 301 ~ 303 の 3 点の小杯が出土している。301 ~ 303 の底部には切り離し痕が残らずヘラ起こし後調整が行われる。下 P11 は調査区北側中央部に位置するピットで長軸約 35cm、短軸約 30cm、深さ約 30cmの楕円形のピットである。周辺は比較的遺構が散漫な状態であった。

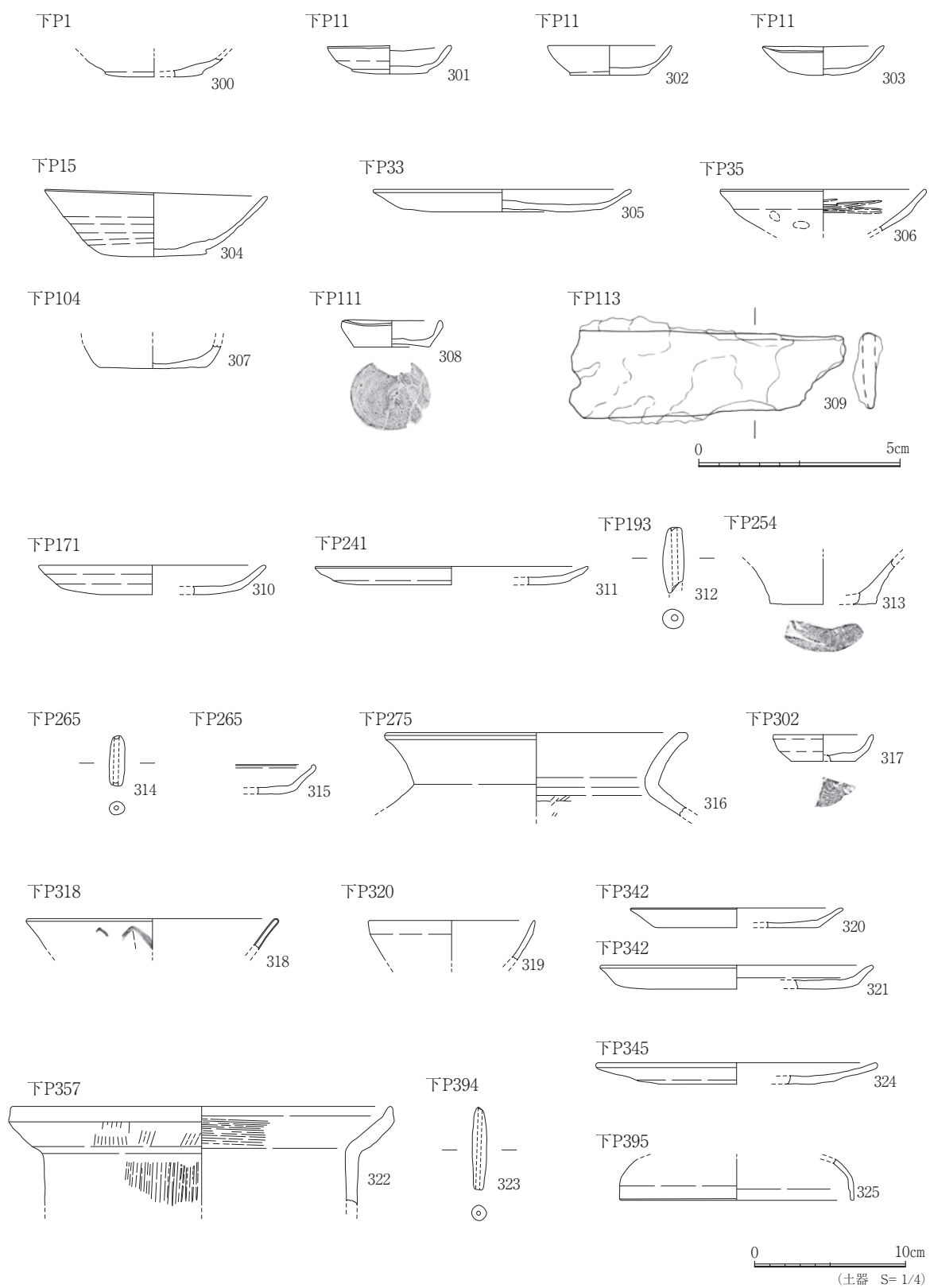
ピット出土の遺物で図示できたのは 26 点である。底部回転糸切り痕が残る土師質土器は 313 の 1 点を図示した。304 は完形復元できる土師器杯で底部は平底で外面に切り離し痕は残らない。瓦器碗では 306 を図示した。土師器皿では 308・311・317・320・321・324 の 6 点を図示し、須恵器皿では 305・310・315 の 3 点を図示した。

鉄製品では P113 出土の 309 のみ図示でき、刀子又は鉄鎌の可能性が考えられる。

上層、中層出土の遺物に比べて底部糸切り痕が残る遺物が少なく、より古代の様相が強くなっている。

遺構名	平面形	長径×短径 直径 (cm)	深さ (cm)	埋土	図版No	遺物出土	備考
下 P1	円形	35	26	灰褐色シルト質粘土	300	土師器・土師質土器・瓦器	
下 P11	楕円形	35 × 30	30	黄灰褐色土	301 ~ 303	土師器	
下 P15	楕円形	30 × 25	23	黄灰褐色土	304	土師器	
下 P33	円形	30	-	黄灰褐色土	305	土師器・須恵器	
下 P35	円形	30	18	黄灰褐色土	306	瓦器・瓦質土器	
下 P104	円形	30	50	黄灰褐色土	307	土師器	
下 P111	円形	25	24	黄灰褐色土	308	土師器・土師質土器	
下 P113	楕円形	30 × 25	12	黄灰褐色土	309	土師器・黒色土器 A 類 鉄器	
下 P171	円形	35	39	暗褐灰色土	310	土師器・須恵器	
下 P193	-	40 × (25)	19	黄灰褐色土	312	土師器・土鍾	
下 P241	円形	30	17	褐灰色土	311	土師器	
下 P254	円形	25	19	褐灰色土	313	土師質土器	
下 P265	方形	45 × 40	32	黄灰褐色土	314・315	土師器・須恵器・土鍾	
下 P275	-	45 × (30)	22	黄灰褐色土	316	土師器・須恵器	
下 P302	円形	35	34	明灰褐色シルト質粘土	317	土師器・土師質土器・鉄釘	
下 P318	円形	80	18	黄灰褐色土	318	土師質土器・瓦器・青磁	
下 P320	円形	30	14	灰色土	319	土師器	
下 P342	円形	35	19	褐灰色土	320・321	土師器	
下 P345	-	45 × (40)	29	黄灰褐色土	324	土師器 粘土塊	
下 P357	-	60 × (40)	27	黄灰褐色土	322	土師器	
下 P394	-	45 × (25)	28	黄灰褐色土	323	土師器・土鍾	
下 P395	円形	30	17	明灰褐色シルト質粘土	325	須恵器	

表 7 - 12 下面図版掲載遺物出土ピット計測表



7-34 図 下面ピット出土遺物

(4) 最下面の遺構と遺物

最下面の遺構は掘立柱建物跡3棟、柱穴列1条、性格不明遺構1基、土坑51基、ピット279個、溝跡11条を検出した。最下面で検出した遺構の遺構番号は全て6000番台からとした。遺構の検出標高は2.85～2.6mであった。遺構番号として溝跡(SD)としたものも含め土坑を多く検出しており、平面形が溝状を呈する溝状土坑が大半をしめる。土坑の分布は偏りが見られ調査区北東部に集中している。掘立柱建物跡は3棟検出しておりSB6003を除いて調査区南部で検出している。SX1は浅い溝跡に囲まれ、四隅に柱穴と考えられるピットを検出しており上屋構造を伴う遺構と考えられるが堅穴状にはならないため住居跡と確定できない遺構である。

遺物は上層と比べると出土量は少ない。弥生土器が出土量に比べて多く、器壁が薄く外面に微隆起、多条沈線が施される地域色の強い土器と凹線文土器が出土している。古墳時代では須恵器が出土している。古代の土器では土師器、須恵器が出土している。中世に属する土器は瓦器細片が少量出土している。

遺構、遺物の時期は古代～弥生と考えられ最下面は弥生時代～古墳時代の遺構面と考えられる。

掘立柱建物跡・柱穴列・SX1 (SB・柱穴列・SX)

最下面では掘立柱建物跡2棟と柱穴列2列を確認している。SB6002のみ調査区北側で検出している。他の掘立柱建物跡は下面検出分も含めて調査区南側で検出しており時期差はあると考えられるが同一性格の遺構と考えられる。柱穴列は2列検出している。掘方はいずれも方形で掘立柱建物跡の柱穴の可能性が高いが対応する柱穴を確認できなかったため柱穴列とした。SX1は掘立柱建物跡を伴う遺構であるが小さな溝跡が四方を囲み他と異なる構造のためSXとした。

遺構名	梁行×桁行 (間×間)	梁行×桁行 (m×m)	棟方向
SB6001	2×2	2.6×3.0	N-67°-E
SB6002	2×2	3.0×3.6	N-4°-W
柱穴列1	2	4.0	N-67°-E
柱穴列2	2	4.0	N-26°-W

表7-13 最下面掘立柱建物跡・柱穴列計測表



7 - 35 图 最下面遺構全体图

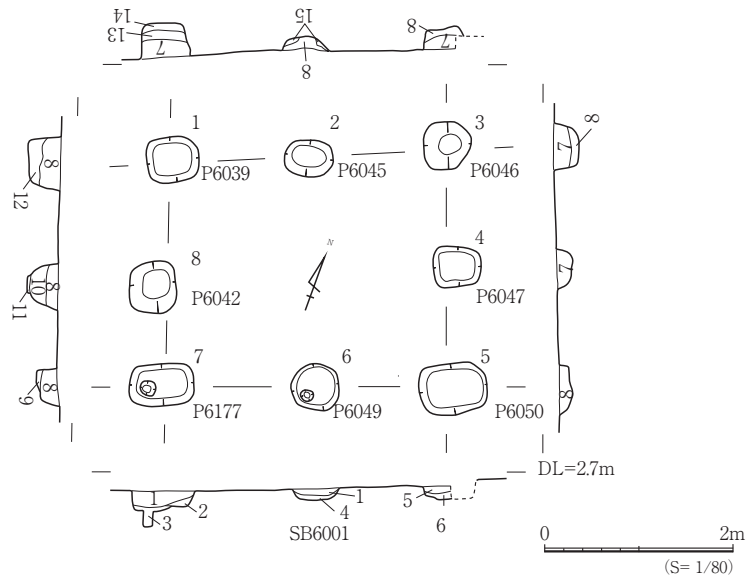
SB6001

SB6001は調査区南西部で検出した建物跡で梁行2間、桁行2間の建物跡である。建物の規模は2.6m×3.0m、面積は約7.8㎡を復元することができ、棟方向はN-67°-Eである。柱穴は8個検出し建物跡の全ての柱穴を検出することができた。柱穴は長方形で長軸約50~70cm、短軸約40~50cm、深さ約15~35cmを測る。柱穴の断面形は箱形で埋土は褐灰色土が中心である。柱穴埋土中からの遺物の出土は少なくP6177から土師器細片が出土したのみである。

SB6001は下面及び最下面検出で検出した掘立柱建物跡に比べて柱穴規模、建物規模ともやや小型である。

柱穴番号	遺構名	長径(直径)×短径×深さ(cm)	平面形	断面形	柱痕	柱痕 長径(直径)×短径×深さ(cm)	出土遺物	時期	備考
1	P6039	55×50×35	方形	箱形	無				
2	P6045	50×40×15	楕円形	皿状	無				
3	P6046	50×50×20	円形	皿状	無				
4	P6047	50×40×15	方形	皿状	無				
5	P6050	70×55×10	長方形	皿状	無				
6	P6049	50×50×10	円形	皿状	有	15×10×3			
7	P6177	70×45×20	長方形	箱形	有	20×15×15	土師器		
8	P6042	55×50×35	方形	U字状	無				

表7-14 SB6001 柱穴計測表



- 1：褐灰色粘質土
- 2：褐灰色粘質土(黄褐色土ブロック混じる)
- 3：暗灰色粘土
- 4：黄褐色粘砂土(灰色土混じる)
- 5：暗灰色粘質土
- 6：暗褐色粘質土(黄褐色土混じる)
- 7：暗褐色粘質土(黄褐色ブロック混じる)
- 8：暗褐色粘質土
- 9：暗褐色粘質土(黄褐色粘砂土ブロック混じる)
- 10：黒褐色粘質土
- 11：黄褐色粘質土(暗褐色灰色ブロック少し混じる)
- 12：黒褐色粘質土(黄褐色ブロック少し混じる)
- 13：暗褐色粘質土
- 14：黄褐色粘砂土(暗褐色粘質土小ブロック混じる)
- 15：黄褐色土(暗褐色灰色土混じる)

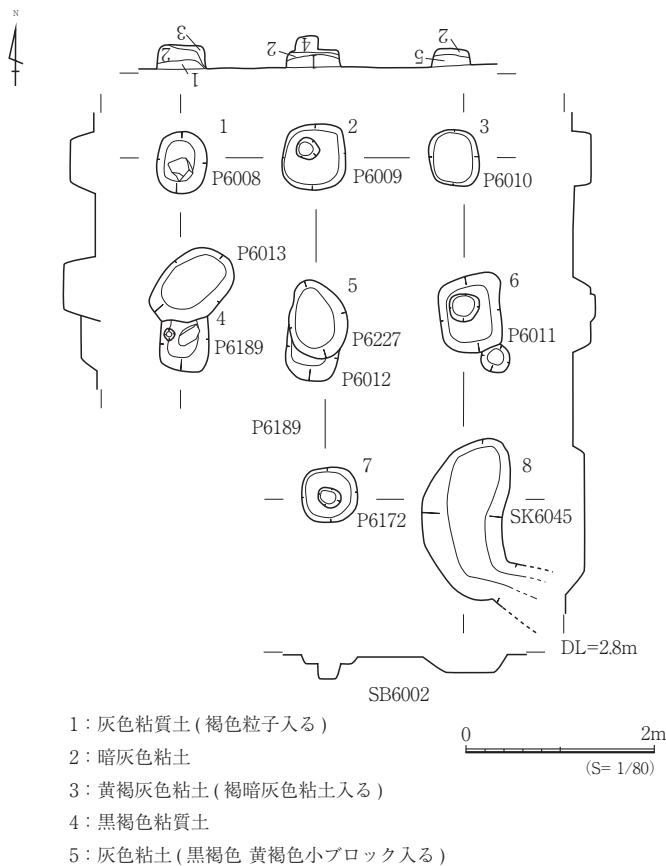
7-36 図 SB6001

SB6002

SB6002 は調査区北側で検出した建物跡で梁行 2 間、桁行 2 間の総柱建物跡である。建物の規模は 3.0m × 3.6m、面積は約 10.8㎡を復元することができる。棟方向は N - 4° - W でほぼ北を向く。柱穴は 7 個検出し南西隅と南東隅の柱穴が未検出であるが、不整形な SK45 の北端部南東隅の柱穴の可能性が考えられる。中央部の柱穴は P6012・6227 で判然としないが P6227 の可能性が高いと考える。柱穴は方形で一辺約 65 ~ 80cm、深さ約 7 ~ 26cmを測る。柱穴の断面形は箱形で P6009・P6011・P6172 は底面が二段状になり柱痕の可能性が考えられる。埋土は灰色土に褐色粒子が入る土、暗灰色土、黄褐灰色土である。柱穴埋土からの遺物の出土は少なく P6008 から弥生土器細片、P6011 から須恵器細片が出土したのみである。

柱穴番号	遺構名	長径 (直径) × 短径 × 深さ (cm)	平面形	断面形	柱痕	柱痕 長径 (直径) × 短径 × 深さ (cm)	出土遺物	時期	備考
1	P6008	65 × 55 × 26	楕円形	箱形	無		弥生土器		
2	P6009	70 × 70 × 20	方形	逆凸形	有	25 × 25 × 15			
3	P6010	60 × 50 × 18	楕円形	皿状	無				
4	P6013	90 × 70 × 34	楕円形	逆台形	無				
5	P6227	85 × 65 × 34	楕円形	逆台形	無				
6	P6011	80 × 65 × 19	方形	逆凸形	有	30 × 30 × 5	須恵器		
7	P6172	65 × 60 × 7	方形	逆凸形	有	25 × 20 × 16			

表 7 - 15 SB6002 柱穴計測表



7 - 37 図 SB6002

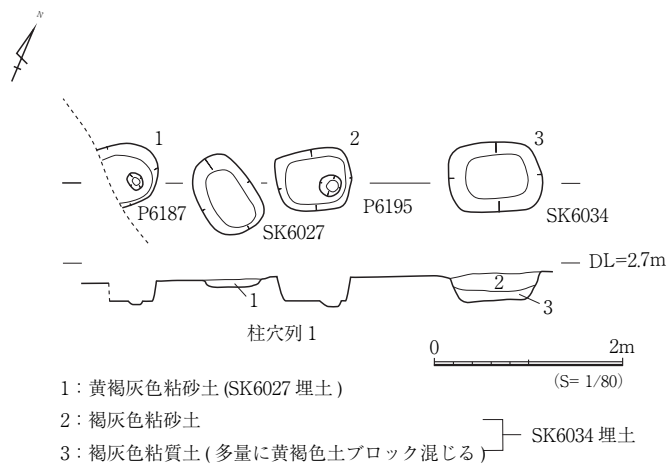
柱穴列 1

柱穴列 1 は調査区南西部で検出した約 2.0m の柱間で 3 個のピットが東西方向に並ぶ、2 間で検出長約 4.0m の柱穴列である。軸方向は N - 67° - E である。柱穴は長方形で長軸約 80 ~ 100cm、短軸約 65 ~ 75cm、深さ約 20 ~ 30cm を測る。断面形は箱形で P6187・6195 は底面に柱痕状の落ち込みがある。埋土は褐灰色土で柱穴埋土からは P6187 で土師器と弥生土器と考えられる細片が少量出土したのみで図示できる遺物はなかった。

柱穴列 1 の P6187 は下面で検出した下 SB2 の柱穴である下 SK18 と近接している。このため下 SB2 と柱穴列は同時併存はしていないと考えられる。

柱穴番号	遺構名	長径(直径)×短径×深さ(cm)	平面形	断面形	柱痕	柱痕	長径(直径)×短径×深さ(cm)	出土遺物	時期	備考
1	P6187	(70)×65×20	楕円形	逆凸形	有		20×15×4	土師器・弥生土器		
2	P6195	80×65×24	方形	逆凸形	有		25×25×6			
3	SK6034	100×75×30	方形	逆台形	無					

表 7 - 16 最下面柱穴列 1 計測表



7 - 38 図 柱穴列 1

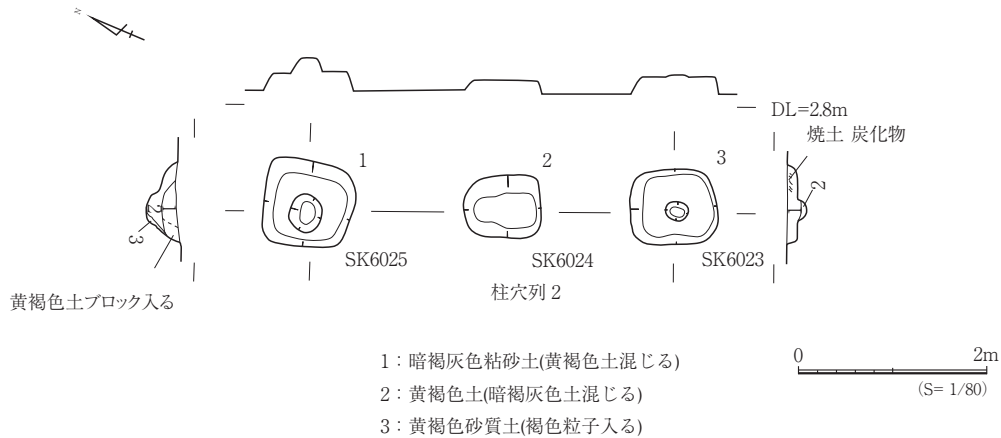
柱穴列 2

柱穴列 2 は調査区南西部で検出した約 2.0m の柱間で 3 個のピットが南北方向に並ぶ、2 間で延長 4.0m の柱穴列である。軸方向は N - 26° - W である。柱穴は方形で一辺約 70 ~ 90cm を測る。柱穴の深さは約 15 ~ 35cm を測り、断面形は箱形で埋土は暗褐灰色粘質土が中心である。柱穴埋土中からは土師器が出土しているが細片が少量出土したのみで図示できる遺物はなかった。

柱穴列北端の SK6025 の直交した位置に SK6033 を検出しており建物跡の可能性を検討したが、柱間距離が 3.8m であることから SK6030・6033 を柱穴列 2 と対になる柱穴列とした場合、軸方向柱穴列 2 とはわずかではあるが異なり、SK6024 と SK6030 の柱間距離が 4.0m 以上になることから建物跡は復元できなかった。

柱穴番号	遺構名	長径(直径)×短径×深さ(cm)	平面形	断面形	柱痕	柱痕	長径(直径)×短径×深さ(cm)	出土遺物	時期	備考
1	SK6025	95×90×18	方形	逆凸形	有		40×35×16	土師器		
2	SK6024	80×70×10	方形	皿状	無		—	土師器		
3	SK6023	95×80×10	方形	逆凸形	有		30×20×10			

表 7 - 17 最下面柱穴列 2 計測表



7 - 39 図 柱穴列 2

SX6001

SX6001 は調査区北西部に位置するコの字状の溝跡 SD6004 と SD6005 に囲まれた正方形の遺構で溝内側の四隅からは柱穴を確認しており上屋構造が伴ったと考えられる。方形区画一辺は約 4.0m で軸方向は N - 35° - W である。

SD6005 はコの字状に連続した状態で検出した溝跡で、一辺の長さ約 3.0 ~ 4.0m、上端幅約 0.7m、深さ約 5 ~ 20cm を測る。遺構断面形はレンズ状~台形状で埋土は黒褐色粘質土である。埋土中からの遺物は少なく、わずかに土師器、須恵器が出土している。図示できた 326 は土師器小杯で底部には回転糸切り痕が残る。327 は古墳時代の提瓶である。

SD6004 は SD6005 の開口部を塞ぐ状態で検出した短い溝跡である。SD6005 とは接続していなかった。長さは約 1.30m、上端幅約 0.42m、深さ約 8cm を測る。断面形は浅い皿状で埋土は灰色粘質土に黄褐色土が混じる土で遺物は出土していない。

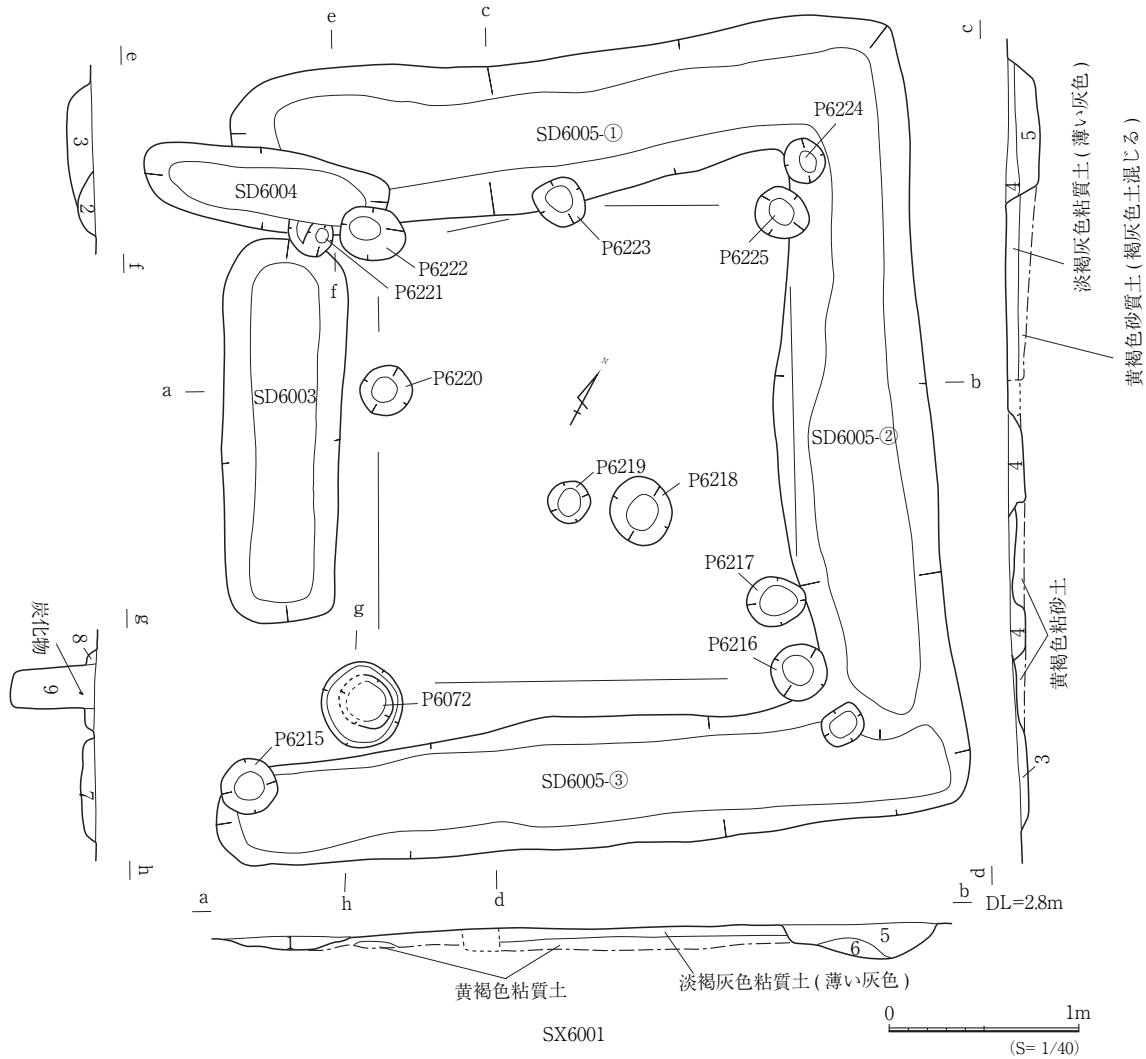
溝で区画された内側からはピットを 13 個検出している。このうち P6072・6216・6222・6225 は四隅から検出している。柱間距離は 2.4m とやや広いが建物跡を構成する柱穴と考えられる。P6220・6223 については浅いピットであり建物跡に伴う可能性は低いと考えられる。ピットの埋土は褐灰色土で遺物は出土していない。

SX6001 は一辺 4.0m の溝で区画された上屋構造を持つ遺構で、区画内側は掘り込みは確認できなかったため堅穴遺構では無く平地構造と考えられ性格は不明である。時期は検出面、埋土の状況から古墳時代の可能性が考えられるが SD6005 から底部回転糸切り痕が残る小杯が出土しているため確定できない。

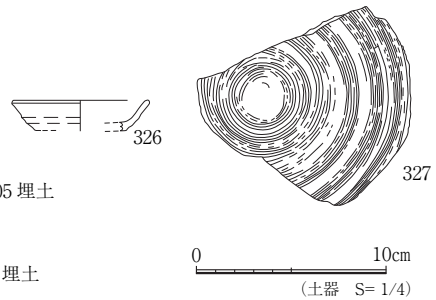
遺構名	長さ×幅×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	出土遺物
SD6005-①	3.50 × 0.70 × 0.13	コの字状	皿状	N - 51° - E	
SD6005-②	3.00 × 0.70 × 0.20	コの字状	W字状	N - 35° - W	土師器
SD6005-③	4.00 × 0.60 × 0.05	コの字状	皿状	N - 53° - E	
SD6004	1.30 × 0.42 × 0.08	直線状	皿状	N - 68° - E	

遺構名	長径 (直径) × 短径 × 深さ (cm)	平面形	断面形	柱痕	出土遺物
P6222	29 × 36 × 24	楕円形			
P6225	29 × 26 × 28	楕円形			
P6216	29 × 26	円形			
P6072	32 × 30	円形			

表 7 - 18 SX6001 遺構計測表



- 1: 暗褐色粘質土 (黄色ブロック混じる SD6003 埋土)
 - 2: 灰粘質土 (黄褐色ブロック少し混じる SD6004 埋土)
 - 3: 黒褐色粘砂土 (黄色ブロック混じる)
 - 4: 黒褐色粘質土
 - 5: 黒褐色粘質土 (黄色小ブロック混じる)
 - 6: 黄褐色粘質土 (黒褐色粘質土ブロック混じる)
 - 7: 黒褐色粘砂土 (黄褐色土混じる)
 - 8: 灰土 (黄褐色粒子混じる)
 - 9: 褐色灰砂質土 (褐色粒子混じる)
- SD6005 埋土
- P6072 埋土



7 - 40 図 SX6001

土坑 (SK)

最下面で検出した土坑はSK6001～6053までの51基である。調査の結果、遺構と確認できなかった2基を欠番とした。検出時溝跡としたSD6008～6011は弥生時代の溝状土坑と考えられる。土坑の分布は調査区東側に偏り、特に北東部に集中している。土坑の平面形は溝状又は長楕円形が多い特徴が見られる。土坑の長軸方向には明瞭な規格性を確認することはできなかった。

遺構名	長径×短径×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	付属遺構	出土遺物	時期	備考
SK6001	0.80 × (0.40) × 0.17	楕円形	-	N - 52° - W				
SK6002	0.90 × (0.40) × 0.30	楕円形	-	N - 8° - W				
SK6003	0.84 × (0.30) × 0.06	楕円形	皿状	N - 79° - W				
SK6004	1.31 × 0.55 × 0.22	楕円形	逆台形	N - 59° - W				SK6028を切る
SK6005	1.70 × (0.60) × 0.10	楕円形	皿状	N - 27° - E				SD6001に切られる
SK6006	1.25 × 0.88 × 0.06	楕円形	皿状	N - 41° - W				
SK6007	(1.10) × 0.56 × 0.16	楕円形	皿状	N - 87° - E				
SK6008	(0.90) × 0.70 × 0.17	不整形	皿状	N - 81° - W				
SK6009	1.90 × 0.71 × 0.30	楕円形	逆台形	N - 87° - W	細片	弥生の可能性		
SK6010	1.45 × 0.70 × 0.05	楕円形	皿状	N - 25° - W				
SK6011	2.15 × 0.90 × 0.23	楕円形	逆台形	N - 77° - E				
SK6012	1.56 × 0.78 × 0.14	楕円形	逆台形	N - 77° - E				SK6046を切る
SK6013	1.20 × 0.75 × 0.30	楕円形	逆台形	N - 83° - W				
SK6014	(1.10) × 0.40 × 0.09	楕円形	皿状	N - 5° - E				
SK6015	0.75 × 0.40 × 0.05	楕円形	皿状	N - 45° - E				
SK6016	0.85 × 0.50 × 0.21	楕円形	逆台形	N - 64° - E				
SK6017	1.70 × 1.00 × 0.21	楕円形	逆台形	N - 65° - W				
SK6018	1.80 × 0.90 × 0.34	長楕円形	U字状	N - 66° - W		弥生土器 凹線文土器	弥生時代中期末	
SK6019	1.80 × 0.70 × 0.34	楕円形	舟底形	N - 88° - E				SK6035を切る
SK6020	1.25 × 0.90 × 0.33	楕円形	箱形	N - 39° - W		弥生土器		
SK6021	1.45 × 0.67 × 0.30	楕円形	舟底形	N - 71° - W				
SK6022	(2.20) × 0.75 × 0.12	楕円形	皿状	N - 45° - W				
SK6023	0.90 × 0.80 × 0.16	長方形	皿状	N - 24° - W		土師器・須恵器		SB6002柱穴
SK6024	0.80 × 0.65 × 0.10	楕円形	皿状	N - 27° - W		細片不明		SB6002柱穴
SK6025	0.95 × 0.93 × 0.32	楕円形	舟底形	N - 12° - W		土師器		SB6002柱穴
SK6026	1.10 × 0.63 × 0.10	楕円形	皿状	N - 53° - W		細片	弥生の可能性	
SK6027	0.90 × 0.60 × 0.09	楕円形	皿状	N - 56° - W		細片	弥生の可能性	ピット列1柱穴
SK6028	(0.95) × 0.70 × 0.30	楕円形	逆台形	N - 33° - E		細片	弥生の可能性	SK6004に切られる
SK6029	1.45 × 1.10 × 0.24	楕円形	逆台形	N - 65° - W				
SK6030	0.73 × 0.60 × 0.25	楕円形	箱形	N - 27° - W		弥生土器		SB6002柱穴
SK6031	1.00 × 0.52 × 0.34	楕円形	-	N - 43° - W		土師器		SK6030に切られる
SK6032	0.66 × (0.20) × 0.26	-	逆台形	-		土師器		
SK6033	0.89 × 0.80 × 0.16	長方形	皿状	N - 19° - W		土師器・布目粗製土器・弥生土器		SB6002柱穴
SK6034	1.00 × 0.74 × 0.30	楕円形	逆台形	N - 63° - E				ピット列1柱穴
SK6035	2.30 × 1.00 × 0.24	楕円形	逆台形	N - 25° - W				SK6019に切られる
SK6036	欠番							
SK6037	1.70 × 0.85 × 0.31	楕円形	逆台形	N - 48° - W		粘土塊		
SK6038	2.65 × 0.91 × 0.30	楕円形	逆台形	N - 54° - E				
SK6039	0.71 × 0.65 × 0.30	楕円形	逆台形	N - 53° - E				
SK6040	1.30 × (0.80) × 0.30	楕円形	箱形	N - 42° - E				SD6011に切られる
SK6041	1.90 × 0.95 × 0.30	長楕円形	逆台形	N - 65° - W		弥生土器		
SK6042	1.35 × 1.00 × 0.45	長方形	逆台形	N - 33° - E		弥生土器		SD6001に切られる
SK6043	1.80 × 0.87 × 0.30	楕円形	逆台形	N - 27° - W				SD6001に切られる
SK6044	2.40 × 1.00 × 0.20	長方形	皿状	N - 67° - W				
SK6045	2.85 × 0.70 × 0.35	不整形	舟底形	N - 66° - W				SD6001に切られる
SK6046	(1.00) × 0.90 × 0.07	-	皿状	N - 24° - E				SK6012に切られる
SK6047	1.60 × (0.50) × 0.08	-	皿状	N - 11° - E				
SK6048	1.57 × 0.72 × 0.20	長方形	逆台形	N - 42° - W		弥生土器		
SK6049	1.27 × 0.58 × 0.18	楕円形	逆台形	N - 84° - E				
SK6050	(1.20) × 0.55 × 0.20	楕円形	逆台形	N - 76° - W				
SK6051	(1.55) × 0.81 × 0.24	楕円形	逆台形	N - 40° - W				SD6011に切られる
SK6052	1.50 × 0.72 × 0.18	楕円形	皿状	N - 84° - W				
SK6053	(1.10) × 0.64 × 0.15	-	逆台形	N - 57° - E				

表7-19 最下面土坑一覧表

SK6018

SK6018は調査区北東部の土坑が集中する範囲の南端で検出した長楕円形の土坑である。軸方向はN-66°-W、長軸約1.80m、短軸約0.90m、深さ約34cmを測る。断面形はU字状である。埋土は灰褐色粘砂土で茶褐色気味で埋土中には炭化物が入る。埋土中からは凹線文のある弥生土器が出土している。328・329ともに胎土に砂粒が多量に入り器壁が薄い特徴をもつ地域色の強い土器である。330・331は裾端部を拡張し凹線文が施された高杯である。

SK6020

SK6020は調査区東端部で検出した楕円形の土坑である。遺構の軸方向はN-39°-W、長軸約1.25m、短軸約0.90m、深さ約33cmを測る。断面形は小さなテラス状部分がある箱形である。埋土は褐灰色砂質土で茶褐色気味である。埋土中からは弥生土器が出土している。333は壺で胎土に砂粒が多量に入り器壁は薄い。口縁は粘土帯貼付けにより肥厚し上胴部は浮文、弱い櫛描き文が施される。在地色の強い土器である。

SK6041

SK6041は調査区北東部の土坑が集中する範囲の西側で検出した長楕円形の土坑である。土坑の軸方向はN-65°-W、長軸約1.90m、短軸約0.95m、深さ約30cmを測る。埋土は黄褐灰色粘砂土、褐灰粘質土、暗灰褐色粘質土であった。埋土中からは弥生土器が少量出土している。図示できた335は短く開く口縁部、口縁端部はわずかに下方方向に拡張気味で斜面をなしており甕と考えられる。

SK6042

SK6042は調査区北東部の土坑が集中する場所に位置し、SD6001に東側を切られた状態で検出した土坑である。土坑の平面形は長方形が復元できる。遺構の軸方向はN-33°-E、長軸約1.35m、短軸残存長約1.00m、深さ約45cmを測る。埋土は上層は暗灰褐色粘砂土、下層は黄褐灰色粘質土が基本で黄色ブロックの入り方で2層に分けることができる。埋土中からは弥生土器が少量出土している。図示できた336は完形復元可能な小型の壺で埋土1層目の最下部から出土したものである。胎土に砂粒が多量に入り器壁が薄い特徴をもつ地域色の強い土器である。口縁端部は粘土帯貼付、肥厚は見られず素口縁である。頸部から上胴部には細く弱い櫛描き沈線が直線文、波状文と重ねられ下部には微隆起帯、豆粒状浮文が施されている。

SK6048

SK6048は調査区北東部の土坑が集中する範囲からわずかに西に離れた場所で検出した長方形の土坑である。軸方向はN-42°-W、長軸約1.57m、短軸約0.72m、深さ約20cmを測る。埋土は上層は暗灰褐色粘砂土、下層は暗灰褐色粘質土である。埋土中からは弥生土器が少量出土している。図示できた337は壺底部である。P6301からの出土片と接合したものである。

SD6008

SD6008は調査区北東部の土坑が集中する場所で検出した遺構である。検出時、他の土坑と比べて規模が大きかったためSD6008としたが完掘状況、出土遺物などから弥生時代の溝状土坑と判断した。遺構の軸方向はN-12°-E、長軸約2.90m、短軸約0.90m、深さ約35cmを測る。断面形は逆台形で埋土は灰褐色粘砂土、暗褐灰色粘砂土、暗褐灰色粘砂土に黄褐色ブロックが混じる土である。埋土中からは弥生土器が出土しているが図示できる遺物はなかった。

SD6009

SD6009 は調査区北東部の土坑が集中する場所でSD6008 と隣接して検出したほぼ同規模の遺構である。検出時、SD6008 に溝跡としたが完掘状況から弥生時代の溝状土坑と判断し遺構番号は変更しないが土坑で記述した。軸方向はN - 1° - E、長軸約 2.90m、短軸約 0.80m、深さ約 30cmを測る。遺構断面形は逆台形で埋土は黄褐色粘質土に黒褐色ブロックが混じる土である。埋土中から遺物は出土していない。

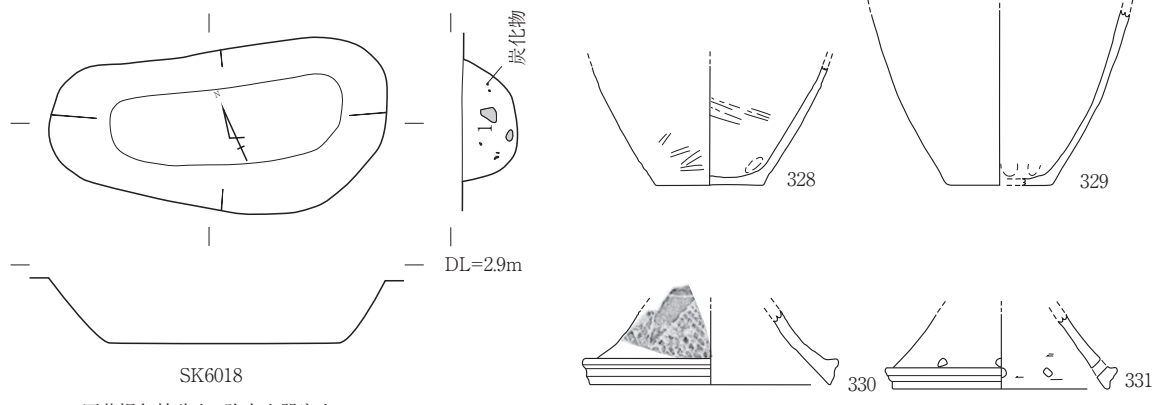
SD6010

SD6010 は調査区北東部の土坑が集中する場所で検出した遺構である。検出時、溝跡としたが周辺の遺構の状況から弥生時代の溝状土坑と判断した。軸方向はN - 84° - Wで長軸約 1.80m、短軸約 0.40m、深さ約 16cmを測る。遺構断面形は逆台形で埋土は灰褐色粘砂土である。埋土中から遺物は出土していない。

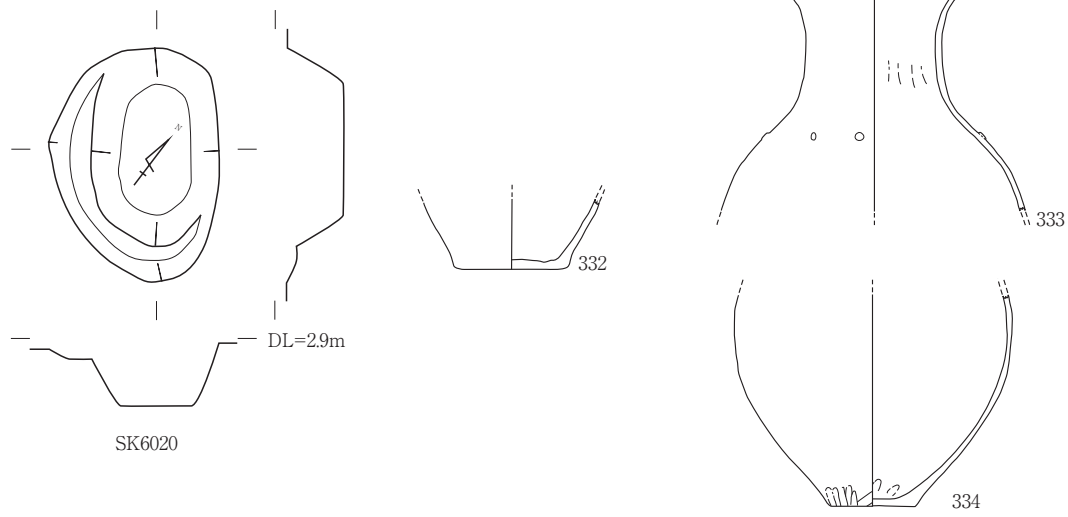
SD6011

SD6011 は調査区北東部の土坑が集中する範囲の南端部で検出した遺構である。西端部は下SD14 に切られており床面から検出している。SK6040・6051 と重複し何れも切っている。検出時、溝跡としたが出土遺物や周辺の遺構の状況から弥生時代の溝状土坑と判断した。軸方向はN - 78° - Eである。土坑の規模は長軸約 4.00m、短軸約 1.00m、深さ約 82cmを測る。遺構断面形はV字状で埋土は褐色砂質土、褐色粘砂土、灰褐色粘砂土、暗褐色粘質土、黄褐色粘質土に褐色小ブロック混じる土、褐色粘質土に分層できた。埋土中には炭化物が混じっている。

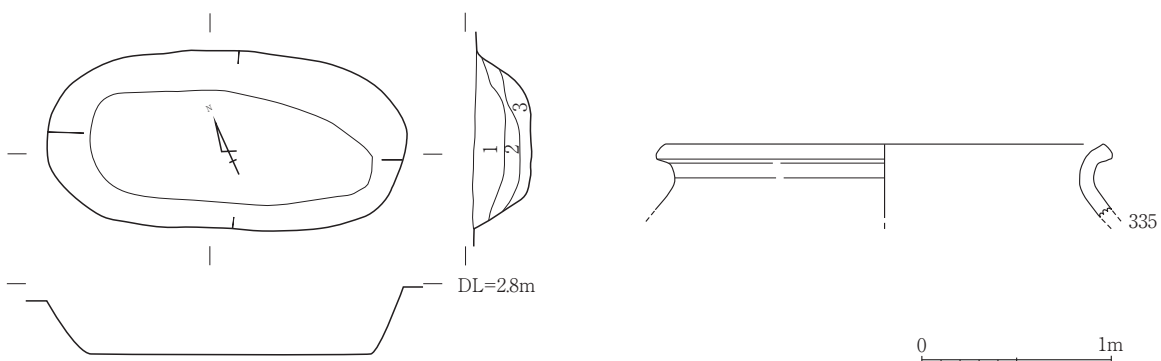
埋土中からは弥生土器が出土しており完形復元できる遺物は無かったが16点図示できた。338 は口縁外面に幅広の凹線文が施された長頸壺で頸部下には木口の押し引きによる簾状文の文様が見られる。338・339 は在地系の土器で壺と考えられる。340 は口縁部は肥厚し斜面をなすが凹線文は見られない。339 は口縁には肥厚、粘土貼付とも無いが口縁端部は面をなし斜線状の刻みが巡り口縁下部には回転力の弱い櫛描き沈線が巡る。341 は口縁肥厚、口縁端部下端刻みで櫛描き沈線が巡っている。344 は甕と考えられ大きく開く口縁を持ち口縁端部には刻目が施され、口縁下部には微隆起と櫛描き沈線が施される。高知県西部地域に多く見られる特徴を持つ甕である。346～351 は何れも高知県西部地域に多く見られる特徴を持つ甕上胴部である。345 は外面に凹線文が巡る高杯、杯部口縁である。353 は一体成形の高杯脚部で内面には絞り目、横方向の削り痕が残り凹線文系高杯の特徴が残るものである。



SK6018
1: 灰茶褐色粘砂土 (弥生土器出土)

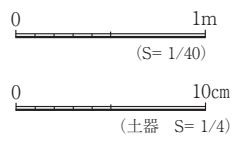


SK6020

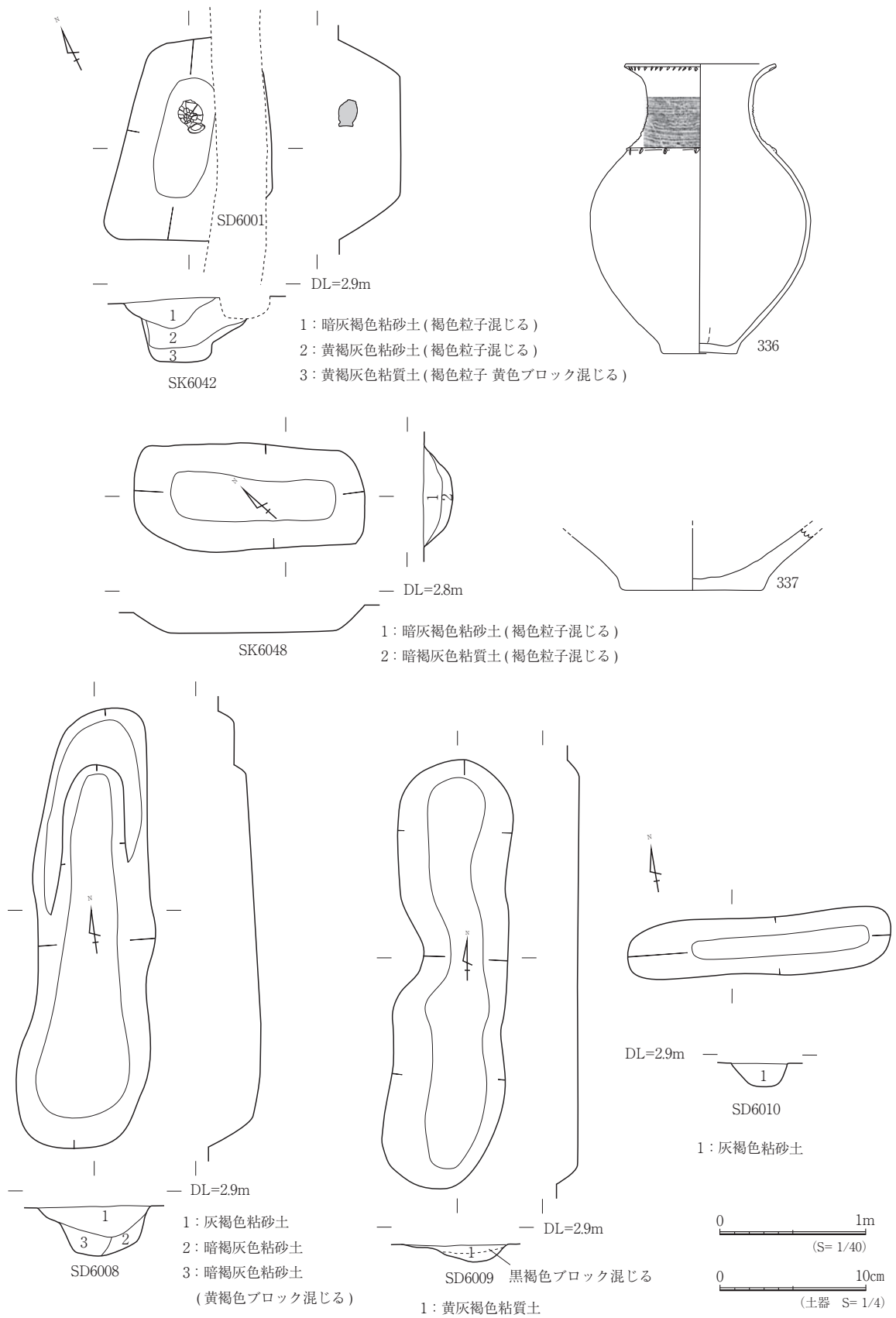


SK6041

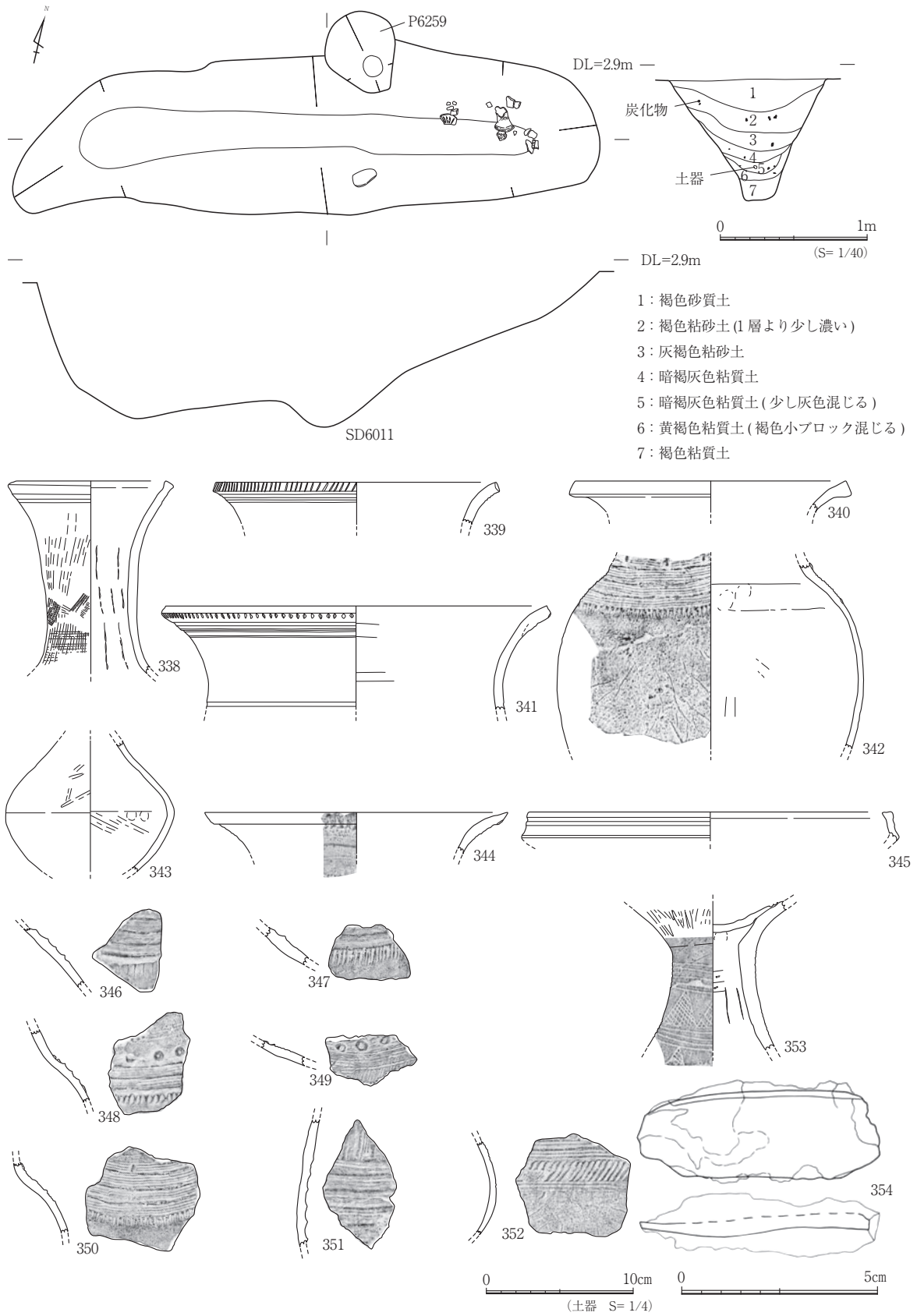
- 1: 黄褐色粘砂土 (炭化物少し混じる)
- 2: 褐色粘質土 (淡黄色ブロック混じる)
- 3: 暗灰褐色粘質土



7-41 図 SK6018・6020・6041



7 - 42 図 SK6042・6048・SD6008～6010



7-43 図 SD6011

溝跡 (SD)

最下面で検出した溝跡はSD6001～6011までの遺構番号を付け調査した。SD6007はSD6001の延長と確認したため欠番となった。SD6008～6011は弥生時代の溝状土坑の可能性が高いため土坑で報告した。SD6004・6005は上屋構造を持つ一連の遺構の可能性が考えられSX1とした。このためSD6001・6002・6006の3条を溝跡として報告する。

遺構名	長さ×幅×深さ (m)	平面形	断面形	長軸方向	接続	出土遺物	時期	備考
SD6001	14.80 × 0.48 × 0.30	直線状	逆台形	N - 27° - E		須恵器・土師器		
SD6002 (南北)	1.80 × 0.60 × 0.08	への字状	レンズ状	N - 33° - W		弥生土器		斜格子文
SD6002 (東西)	2.70 × 0.40 × 0.10	への字状	レンズ状	N - 78° - E				
SD6003	2.00 × 0.50 × 0.07	直線状	皿状	N - 28° - W				
SD6004	1.30 × 0.42 × 0.08	直線状	皿状	N - 68° - E				SX6001
SD6005 - ①	3.50 × 0.70 × 0.13	コの字状	レンズ状	N - 51° - E				SX6001
SD6005 - ②	3.00 × 0.70 × 0.20	コの字状	レンズ状	N - 35° - W				SX6001
SD6005 - ③	4.00 × 0.60 × 0.05	コの字状	皿状	N - 53° - E				SX6001
SD6006	7.10 × 0.50 × 0.15	直線状	逆台形	N - 53° - E				
SD6007	欠番							
SD6008	2.90 × 0.90 × 0.35	直線状	逆台形	N - 12° - E		弥生土器		土坑
SD6009	2.90 × 0.80 × 0.30	直線状	逆台形	N - 1° - E				土坑
SD6010	1.80 × 0.40 × 0.16	直線状	逆台形	N - 84° - W				土坑
SD6011	4.00 × 1.00 × 0.82	直線状	V字状	N - 78° - E		弥生土器		土坑 SK6040・SK6051を切る

表7-20 最下面溝跡一覧表

SD6001

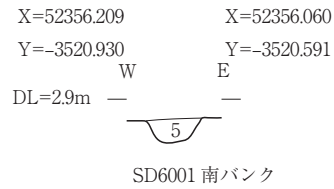
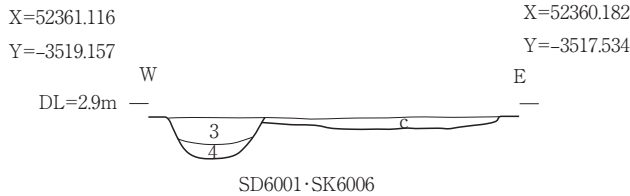
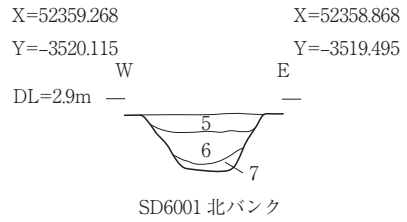
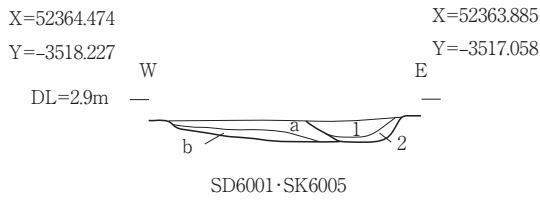
SD6001は調査区北端部から南西方向に延びる溝跡で軸方向はN - 27° - Eである。周辺には多くの土坑を検出しており、SK6005・6006・6042・6043・6045・6052と重複し、何れも切った状態で検出している。検出長は約14.8mで北端は調査区に、南端は下SD14に切られ延長は確認できない。上端幅約0.48m、深さ約10～30cmを測り、断面形は逆台形である。埋土は暗灰褐色土で、埋土中からの遺物は土師器細片1点と図示した355のみである。355は丸みを帯びた器形の須恵器蓋であるが端部は小さく引き出され面をなしており古代の蓋である。SD6001は時期確定は困難であるが古代の可能性が高いと考えられる。

SD6002

SD6002は調査区西側で検出した「へ」の字状の溝跡で東西部分は下面で検出していたが最下面で南北部分を検出し同一遺構と判断したため最下面のSD6002とした。東西部分は軸方向N - 78° - E、検出長約2.70m、上端幅約0.40m、深さ約10cmを測る。南北部分は軸方向N - 33° - W、検出長約1.8m、上端幅約0.5m、深さ約8cmを測る。断面形はレンズ状の浅いもので埋土は灰褐色粘砂土に黄褐色土が混じる土と黄褐色砂質土に灰褐色ブロックが混じるものであった。埋土中からの遺物出土は弥生土器の胴部片である356のみである。356外面には斜格子が施文される。

SD6006

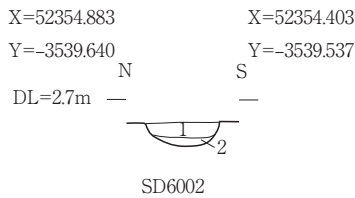
SD6006は調査区中央部で検出した北東方向の溝跡で軸方向はN - 53° - Eである。検出長約7.10m、上端幅約0.50m、深さ約15cmを測り、断面形は逆台形である。埋土は褐色粘砂土、灰色土で埋土中からの遺物の出土は無かった。



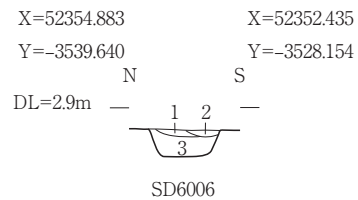
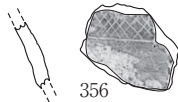
- 1: 暗灰褐色砂質土 (黄色ブロック 褐色粒子混じる)
- 2: 暗灰褐色砂質土 (黄色ブロック多く混じる)
- 3: 灰褐色粘砂土 (鉄分混じる)
- 4: 暗灰色粘質土 (黄色ブロック混じる)
- 5: 灰褐色粘砂土 (褐色粒子 2mm程度混じる)
- 6: 暗灰褐色粘質土 (褐色粒子 10mm程度砂礫混じる)
- 7: 暗灰褐色粘質土 (黄色ブロック混じる)



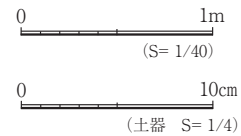
- a: 灰褐色砂質土 (砂礫 2~5mm程度 炭化物少量混じり 褐色粒子混じる)
- b: 黄灰色粘質土 (褐色粒子混じる)
- c: SK6006 埋土



- 1: 灰褐色粘砂土 (黄褐色土混じる)
- 2: 黄褐色砂質土 (灰褐色土小ブロック混じる)



- 1: 褐色粘砂土
- 2: 灰色砂質土 (黄褐色混じる)
- 3: 灰色粘砂土



7 - 44 図 SD6001・6002・6006

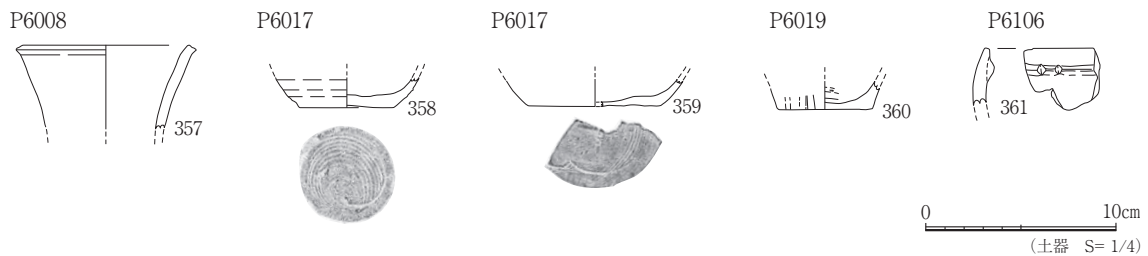
ピット (P)

最下面では検出時 P6001 ～ 6328 まで遺構番号を付けて調査を行った。上層遺構と重複したものや遺構と確認できなかったものが 49 個あるため、ピットと確認できたものは 279 個であった。

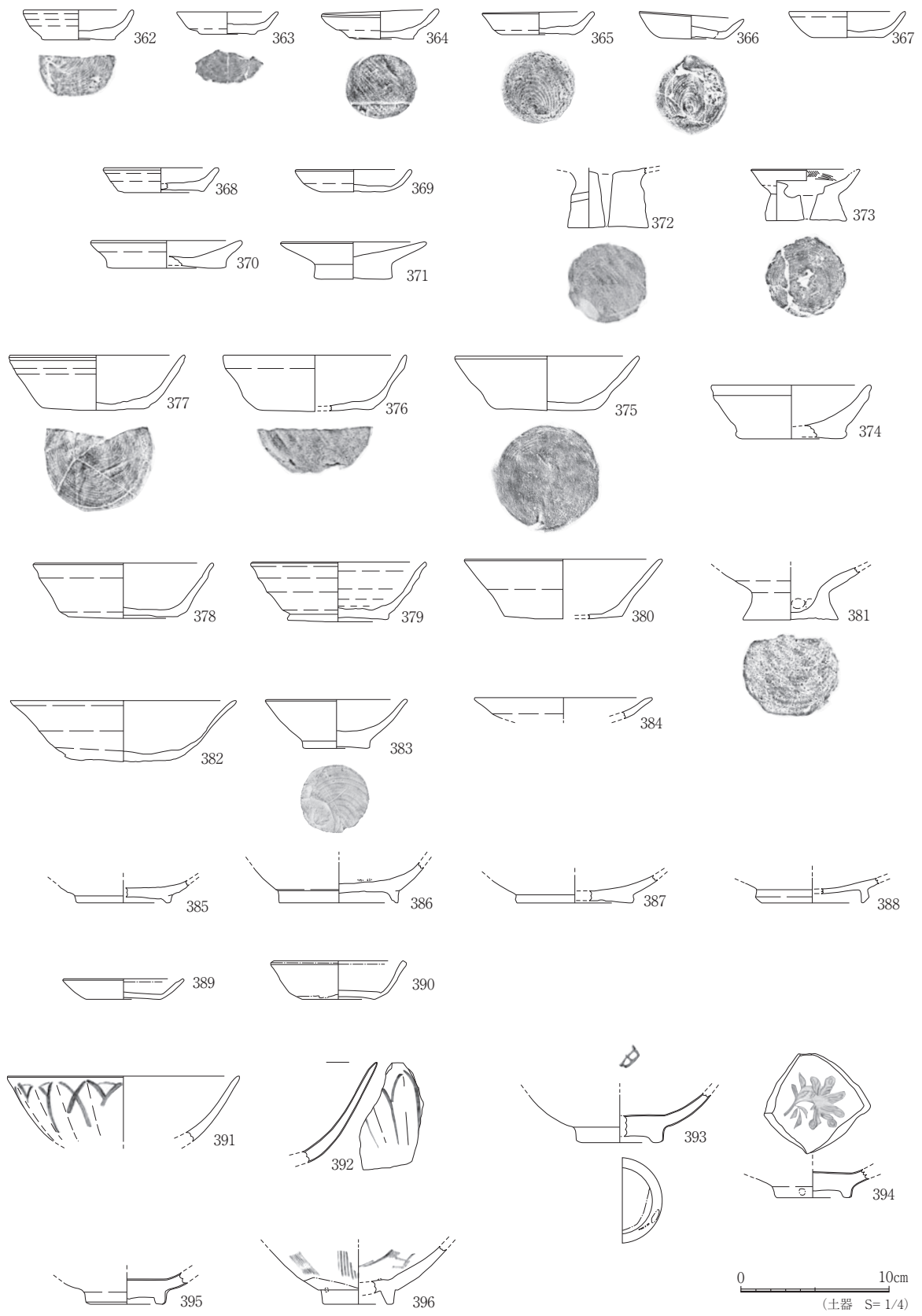
ピットの検出埋土及び検出比率は黄灰色粘土質シルト 22.4%、灰褐色シルト質粘土 39.4%、明灰褐色シルト質粘土 20.9%、灰色土 6.1%、褐灰色土 0.4%、灰色土（褐色粒子混じる）7.9%、黄灰褐色土 2.9%、黄褐色土 0%、暗褐灰色土 0%である。

ピットの分布は全体に散漫な状態で、規則性は確認できなかった。建物跡 2 棟、性格不明遺構 1 ケ所を確認している。

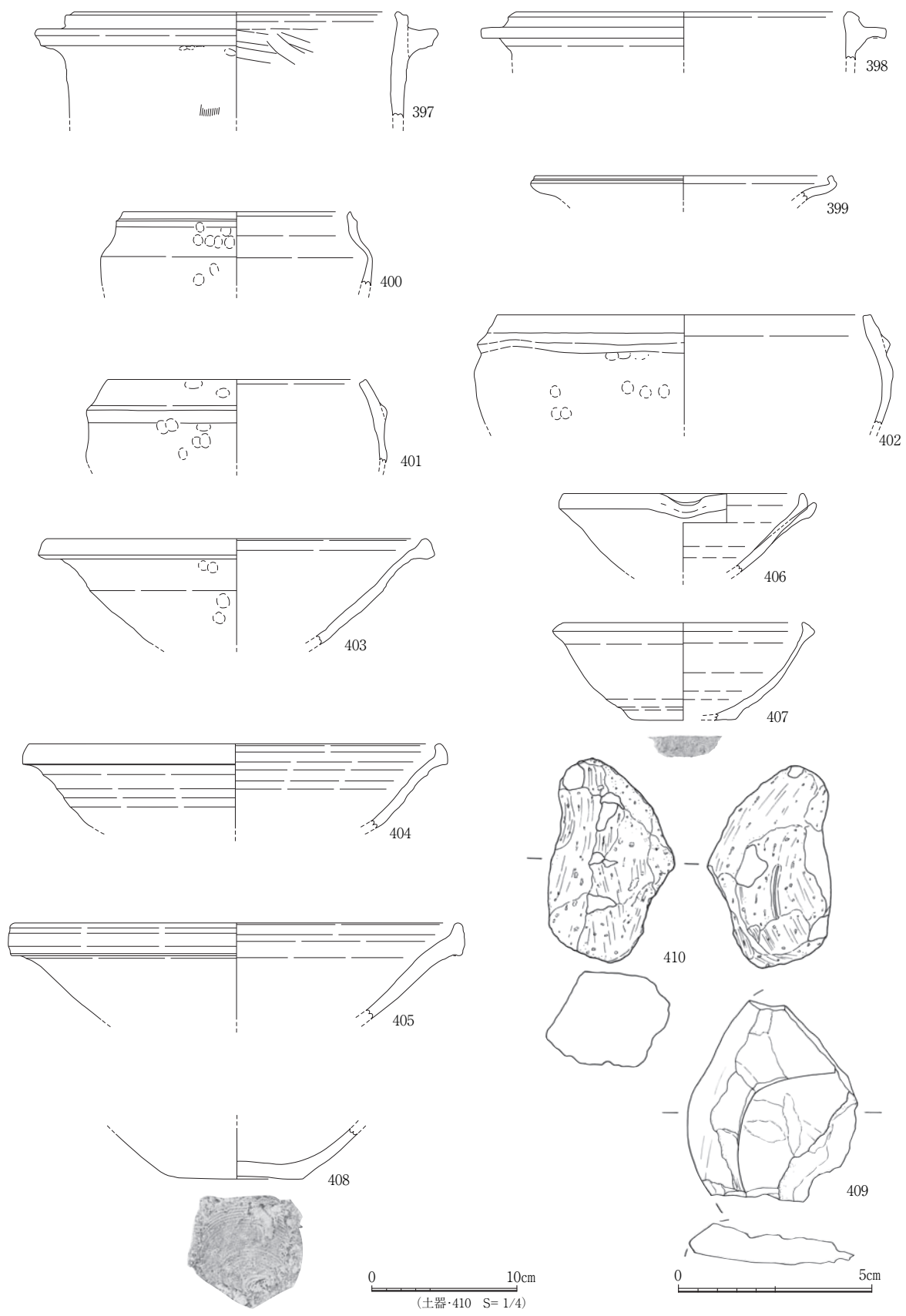
遺物が出土したピットは 43 ケ所と少ない。出土量は少なく細片がほとんどであった。図示できた遺物は 5 点であった。361 は縄文晩期の刻目突帯文土器であるが 1 - 6 区では縄文晩期の土器はこれ以外確認できていない。



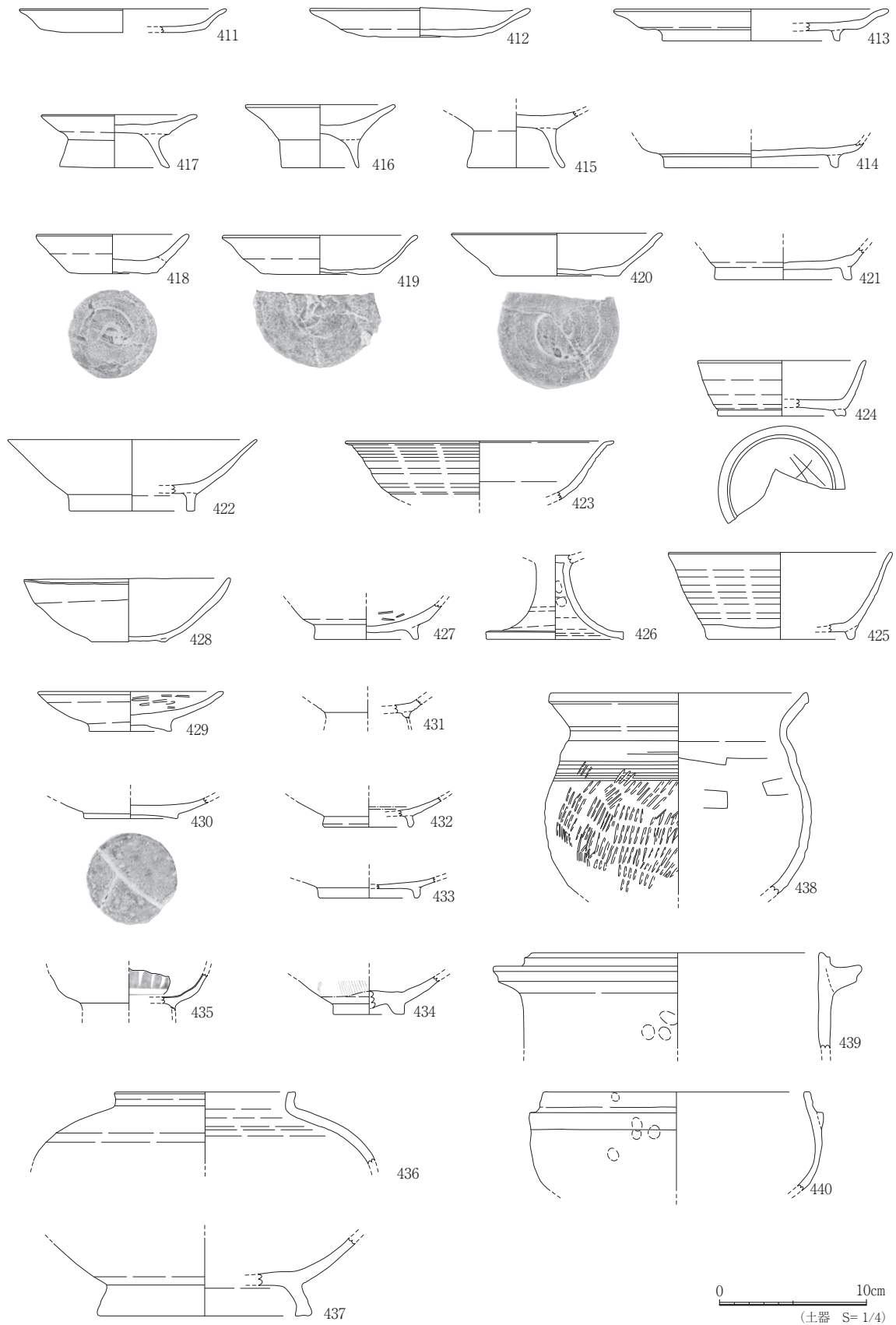
7 - 45 図 最下面ピット出土遺物



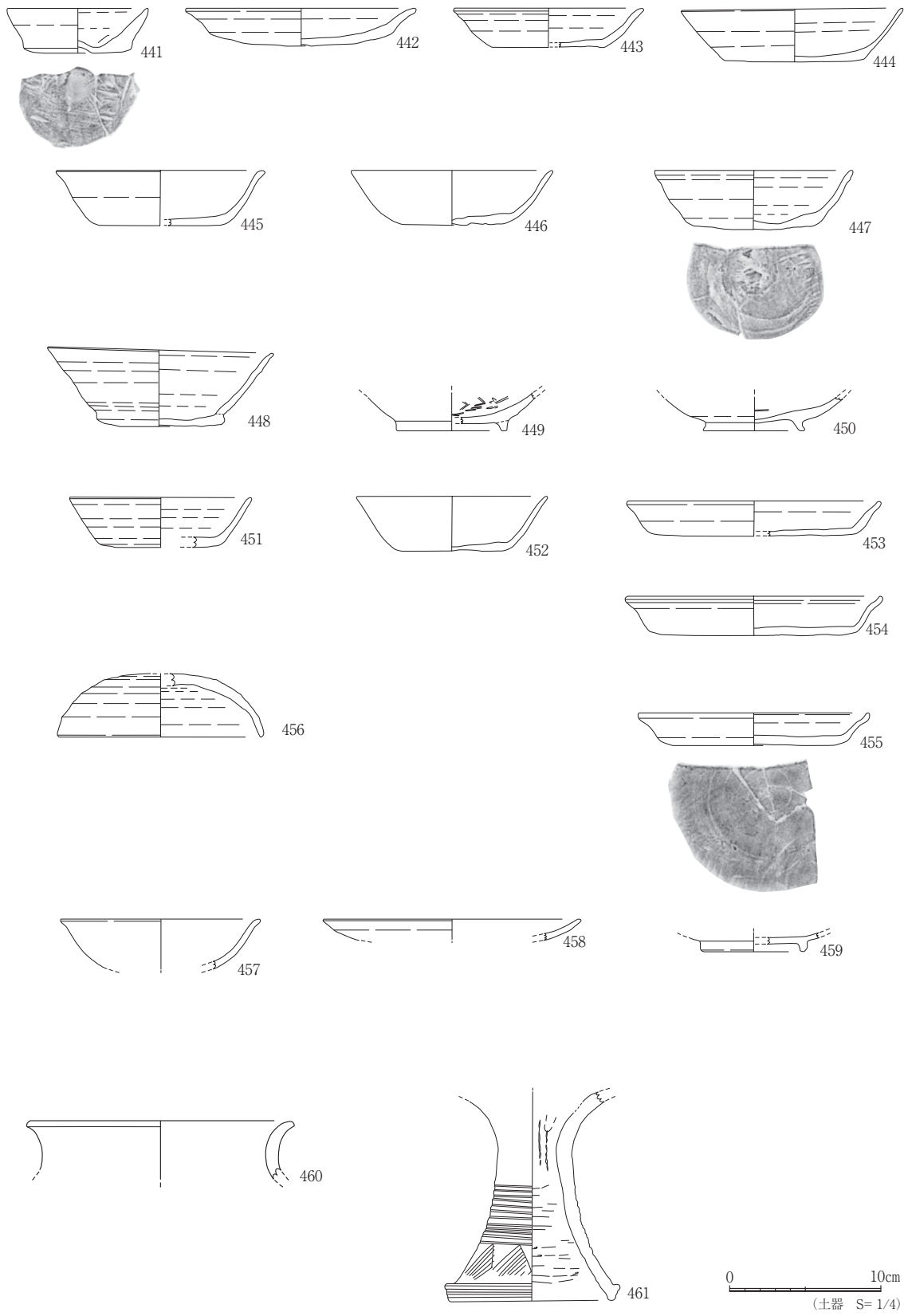
7-46 図 包含層2出土遺物1



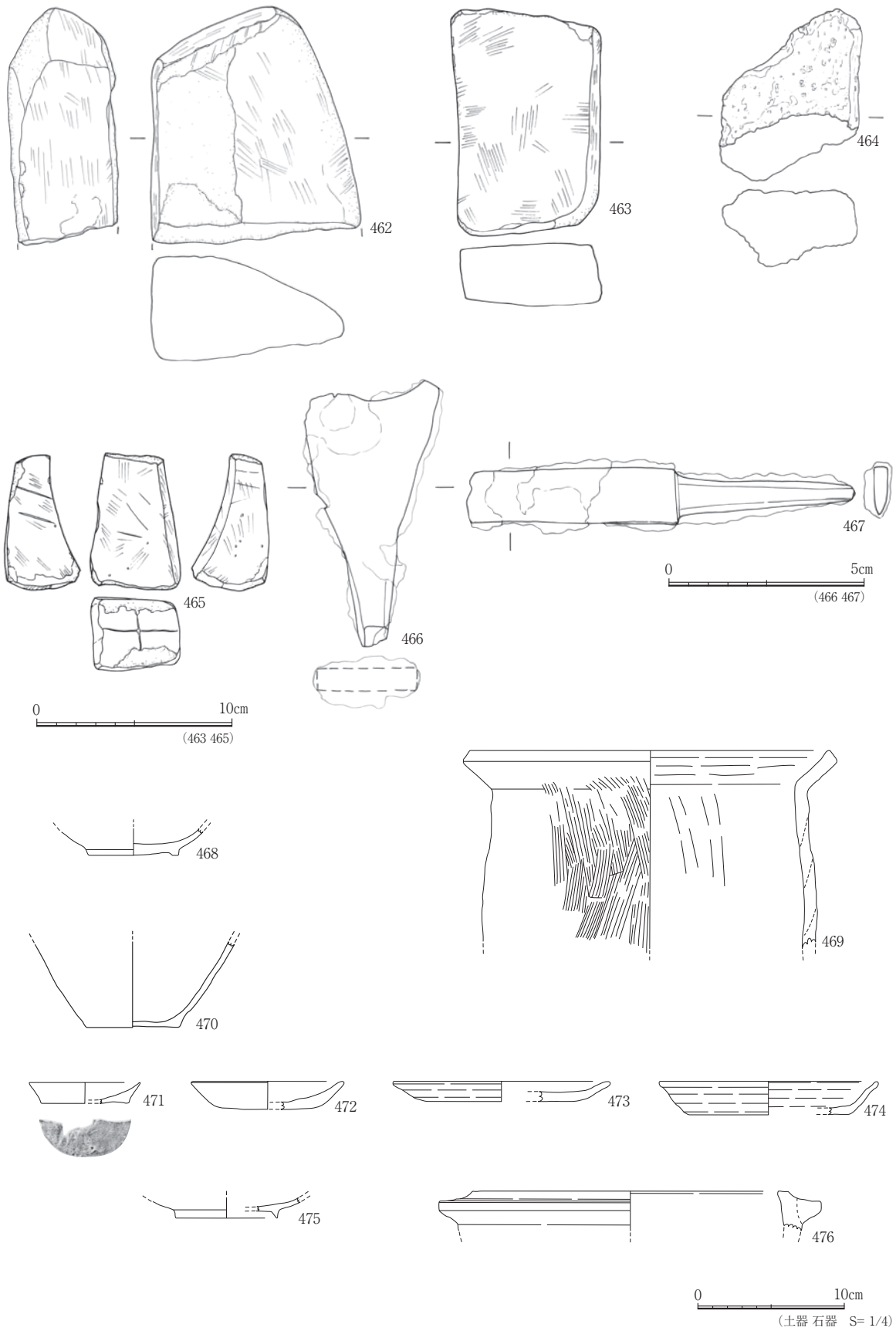
7 - 47 図 包含層 2 出土遺物 2



7-48図 包含層3出土遺物



7 - 49 図 包含層 3 下層出土遺物



7-50図 包含層3下層・4・5・トレンチ出土遺物

遺物觀察表

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-6	1	土師器	皿	SK2	マ	14.3	1.15		にぶい 橙	橙	良	口縁周わずかに残、表面磨耗	扁平な形、立ち上がり甘く、口縁水平に外反。	
1-6	2	土師器	碗	SK4	マ		(1.5)	5.4	灰白	灰白		高台周わずかに残		火押有
1-6	3	瓦質土器	鍋	SK4	マ	20.0	3.9		灰	灰	良	口縁周わずかに残	口縁直立きみ、端面をなす。	土佐型鍋
1-6	4	土製品	土錘	SK4	マ	全長3.7	全幅1.5	孔径0.5				片側端部欠損後磨耗		重量 8.1g
1-6	5	土製品	土錘	SK5	マ	全長4.9	全幅1.0	孔径0.4				両側端部欠損		重量 4.2g
1-6	6	染付	碗	SK10		10.3	(6.2)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残	直線的に立ち上がる体部、白濁釉に淡い呉須で文様貫入。	滝洲窯系
1-6	7	土師質土器	杯	SK13	マ		(2.1)	7.0	浅黄橙	浅黄橙	丸い砂粒入る	底部周わずかに残	外面強い回転痕。外、内面とも強い回転ナデ。回転糸切り。	
1-6	8	土師質土器	杯	SK17	マ	11.2	4.5	7.0	にぶい 黄橙	浅黄橙	赤色砂粒入る	底部完形、口縁周一部残	円盤高台状底部から立ち上がる。外内面とも回転痕残る。回転糸切り。	
1-6	9	瓦質土器		SK17	マ	7.0	4.2	5.0	灰	灰	良	底部、口縁とも一部残	平底の底部、口縁内側に引っぱり出される。外内面とも回転ナデ。回転糸切りの可能性。	ミニチュアか
1-6	10	瓦質土器	羽釜	SK17	マ	20.6	(3.6)		灰白	灰白	細かな砂粒多	口縁周わずかに残	口縁端部面をなす、口縁下断面三角形の小さいがしっかりした鑊が付く。外面口縁～口縁端部横方向ヘラナデ、内面口縁横方向ヘラナデ。	
1-6	11	瓦質土器	羽釜	SK18	マ	20.8	(4.5)		にぶい 橙	にぶい 橙		口縁周わずかに残	口縁端部面をなす、口縁下に小さく雑な鑊が付く。	二次被熱、元は瓦質、15世紀～
1-6	12	土師質土器	杯	SK21	マ		(1.2)	6.6	浅黄橙	にぶい 黄橙		底部周わずかに残	回転糸切り。	付着物多い
1-6	13	瓦質土器		SK21	マ		(2.3)	5.8	灰白	黄灰		底部周わずかに残	低い円盤高台状の底部。	外面炭素吸着、在地の瓦器か
1-6	14	土師質土器	小皿	SK23	マ	7.1	1.6	5.0	橙	橙	丸い砂粒入る	底部周、口縁周一部残、表面磨耗	平底から立ち上がる。	
1-6	15	土師質土器	杯	SK23	マ		(2.15)	6.9	浅黄橙	橙		底部周一部残	平底から直線的に立ち上がる。回転糸切り。	付着物多い
1-6	16	瓦器	皿	SK26	マ	5.7	0.9	4.0	黒灰	黒灰		底部周、口縁周ともわずかに残	扁平な器形、平坦な底部から短かく外反して開く口縁。外面口縁横ナデ、底部指オサエ。切り離しなし。	
1-6	17	土師質土器	杯	SK27	マ		(1.9)	7.6	にぶい 橙	にぶい 褐		底部周一部残	平底から上方に立ち上がる。回転糸切り。	付着物多い
1-6	18	須恵器	片口鉢	SK28	マ	29.9	(11.2)		灰	灰	白色砂粒入る	口縁1/4残	口縁端部拡張し凹面状。外面接合部強い回転ナデ。	内面、表面磨減なし、底部付近、敲打状剥離有、東播系須恵器片口鉢
1-6	19	土製品	土錘	SK39	マ	全長3.6	全幅1.45	孔径0.5				片側端部欠損、表面磨耗		重量 5.5g
1-6	20	白磁	皿	SK42	マ	10.1	(2.2)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残	口縁わずかに外反、口縁端部～内面口縁部露胎、ピンホール有。	白磁皿Ⅲ類 13～14世紀
1-6	21	土製品	土錘	SK42	マ	全長4.7	全幅1.2	孔径0.35				完形磨耗少ない		重量 5.2g
1-6	22	土師質土器	小杯	SK43	マ	11.7	3.35	6.4	浅黄橙	浅黄橙		底部周、口縁周ともわずかに残	大きく直線的に開く。外面回転ナデ。	
1-6	23	土師器	杯	SK55	マ	13.3	2.9		橙	橙	赤色砂粒入る	底部周、口縁周ともわずかに残、表面磨耗	平底から斜めに開く。	
1-6	24	土師質土器	小皿	SK53	マ	6.8	1.2	5.4	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、口縁周とも1/2残、表面磨耗	扁平な器形、平底から短かく開く。回転糸切り。	
1-6	25	土師質土器	杯	SK53	マ	11.4	3.6	6.6	黄橙	黄橙	赤色砂粒入る	底部周1/2残、口縁周わずかに残	底部外内面とも指オサエにより凸凹。回転糸切り。	付着物多い
1-6	26	土師質土器	小皿	SD1	マ	5.1	1.3	4.4	橙	橙		底部周、口縁周とも一部残、表面風化著しい	平底から上方に短かく立ち上がる、内面傾斜緩やか。	
1-6	27	土師質土器	小皿	SD2	マ	7.05	1.45	5.45	灰白	灰白	細かな赤色砂粒入る	ほぼ完形	底部から外反きみに開く。外面回転ナデ。回転糸切り。	
1-6	28	瓦器	碗	SD2-①	マ		0.75	5.2	灰白	灰		高台周わずかに残	断面三角形のしっかりした高台。切り離しなし貼付輪高台。	
1-6	29	須恵器	杯	SD3	マ		(2.3)	8.2	灰	灰		底部周わずかに残	外見高台状の底部、内底落ちこみ。外内面回転ナデ。回転糸切り。	
1-6	30	須恵器	杯	SD3	マ		(2.6)	7.4	灰	灰	細かな白色砂粒入る	高台周1/2残、表面磨耗著しい	底部端に輪高台。内面見込まで回転ナデ痕。貼付輪高台。	表面風化
1-6	31	須恵器	片口鉢	SD3	マ		(3.2)		灰	灰	細かな白色砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁上方に拡張。	東播系須恵器片口鉢
1-6	32	青磁	碗	SD4		14.7	(3.3)		黄褐	黄褐	良	口縁周わずかに残	蓮弁文、鍋弱いが有。	青磁碗Ⅰ-5類
1-6	33	青磁	碗	SD4		17.5	(3.8)		明オリープ 灰	明オリープ 灰	精良	口縁周わずかに残	片彫り蓮弁文、鍋弱い。	青磁碗Ⅰ-5類
1-6	34	白磁	皿	SD5	マ	12.0	(2.8)		灰白	灰白	精良	口縁周わずかに残	外内面口縁露胎。	白磁皿Ⅲ類

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
1-6	35	土師質土器	杯	SD5	マ		(2.8)	7.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな赤色砂粒多	底部周一部残	外面回転痕残る。内面見込中央凹む。外面回転ナデ。回転糸切り。		
1-6	36	土師器	甕	SD5		(25.7)	(5.45)		にぶい黄橙	橙	細かな雲母入る	口縁わずかに残	短かく外に開く口縁、口縁端部上方に拡張し凹面状、残存部に鏝なし。内面回転ナデ。	紀伊型中世Ⅲ (13世紀後～14世紀中)	
1-6	37	瓦質土器	羽釜	SD5	マ	23.6	(4.45)		灰白	灰	チャート入る	口縁わずかに残	薄い器壁、口縁端部面をなす、口縁下断面小さな三角形の鏝が付く。内面斜方向ヘラナデ。		
1-6	38	備前焼	播鉢	SD5		29.7	11.9	14.1	赤褐	赤褐	砂礫多く入る	底部わずかに残る、口縁一部残る	口縁斜面をなし拡張弱い。外面口縁～上半回転ナデ、内面回転ナデ。	摺目磨耗	
1-6	39	石器	砥石	SD5		全長15.0	全幅6.9	全厚7.1				白色砂岩、使用面一面のみ、仕上げ用			重量1100g
1-6	40	鉄器	鉄釘	SD5-A	マ	全長3.0	全幅0.8	全厚0.7				鉄釘、頭部、先端とも欠損			重量1.8g
1-6	41	須恵器	壺	SD5		11.6	21.9	11.0	灰	灰	砂粒多	完形復元可、底部、胴部欠損	短かく直立ぎみに開く口縁、口縁端部直立した面をなす、張った肩から直線的な体部、自然釉。外面口縁回転ナデ、体部縦横のハネ、内面横方向ナデ。	内面粘土接合痕残る。包含層3出土遺物と接合	
1-6	42	青磁		SD5-A	マ		(1.9)	5.4	明緑灰	明緑灰	良	高台周一部残	厚い底部、見込弱いスタンプ文、畳付まで施釉。		
1-6	43	土製品	土錘	SD5A	マ	全長5.55	全幅1.1	孔径0.35				片側端部欠損、表面磨耗	径に比して長い	重量4.7g	
1-6	44	石器	軽石	SD5-A	マ	全長5.5	全幅4.9	全厚4.1					軽石、一面人為的に平坦に整形砥石で研磨か、その他の面も成形の可能性	重量23.6g	
1-6	45	土師器	皿	SD7-A	マ	10.6	1.9	7.4	橙	橙	チャート粒入る	底部周、口縁周とも1/2残、表面磨耗	平底から大きく開く、内側浅い。		
1-6	46	黒色土器	碗	SD7	マ		(1.1)	7.6	黒	橙	細かな雲母入る	高台周一部残	平坦な底部の端に断面三角形の輪高台、内面見込横方向を基本とするミガキ。貼付輪高台。	黒色土器 A 類 9 世紀代	
1-6	47	備前焼	播鉢	SD7	マ				暗褐	暗褐	砂粒多	体部一部残	内面摺目。		
1-6	48	白磁	皿	中SD18	マ	9.4	(1.55)		灰白	灰白	精良	口縁周わずかに残	口縁わずかに外反、口縁端部外内面とも露胎。	白磁皿Ⅲ類	
1-6	49	青磁	皿	中SD18	マ	11.2	2.05		オリープ灰	オリープ灰	良	口縁周わずかに残	口縁内面、外面とも強い屈曲、下半露胎、透明感の強い釉。	青磁皿Ⅰ1b、類	
1-6	50	青磁	碗	中SD18	マ	16.1	(5.5)		オリープ灰	オリープ灰	良	口縁周一部残	蓮弁文、しっかりした鏝。	青磁碗Ⅰ-5類	
1-6	51	青磁	皿	中SD18	マ		(2.9)	6.6	オリープ灰	オリープ灰	良	高台周1/3残	高台内側まで施釉、体部大きく外反して開く、内面スタンプ文。	青磁椀花皿	
1-6	52	灰釉陶器	碗	中SD18、中P220	マ		(1.8)	6.9	灰白	灰白	良	高台周1/3残	断面長方形の細長い高台、灰軸体部下半露胎、内面見込圏線状に釉剥ける。ヘラ削り。	灰釉陶器碗、053～H172 窯式の可能性、10世紀～11世紀	
1-6	53	須恵器	杯	中SD18	マ	12.2	4.5	8.5	灰白	灰白	細かな白色砂粒入る	高台周、口縁周一部残	体部わずかに丸みを帯び口縁外反き高台段状になる。外内面とも体部回転ナデ、内面見込横方向にもナデ。		
1-6	54	近世陶磁器		中SD18	マ		(4.0)		淡黄	淡黄		体部わずかに残	淡黄色の釉、貫入。	肥前、混入か	
1-6	55	須恵器	片口鉢	中SD18北バ			(2.7)		灰	灰		口縁一部残	口縁端部上方に拡張。	東播系須恵器片口鉢	
1-6	56	瓦	丸瓦	中SD18		全長16.0							丸瓦、表面風化、凹面、布目、斜状コピキ		
1-6	57	土製品	土錘	P6	マ	全長5.0	全幅1.05	孔径0.35				両端部欠損、表面磨耗		重量4.3g	
1-6	58	土製品	土錘	P6	マ	全長3.6	全幅1.1	孔径0.4				両端部欠損、表面磨耗		重量4.2g	
1-6	59	土師器		P11	マ	13.4	(2.5)		灰白	灰白	赤色砂粒入る	口縁わずかに残	薄い器壁。外内面とも回転ナデ。		
1-6	60	青磁	碗	P30	マ	15.9	(4.5)		オリープ灰	オリープ灰	良	口縁周わずかに残	口縁わずかに外反、蓮弁文、鏝弱いが有。	I-5類	
1-6	61	瓦質土器	播鉢	P34	マ				灰	灰		口縁わずかに残	口縁端部わずかに上方に拡張。	瓦質播鉢	
1-6	62	土師器	小皿	P36	マ	9.4	1.0	7.2	橙	橙		底部周、口縁周ともわずかに残、磨耗	扁平な器形、丸み帯び立ち上がり大きく水平に外反する口縁。		
1-6	63	土師器	碗	P38	マ		(1.5)	6.4	灰白	灰	良	高台周一部残	ハの字に開くしっかりした高台。貼付輪高台。	全体に灰色、土師器碗の可能性	
1-6	64	白磁	皿	P38	マ	10.2	1.85	6.6	灰白	灰白		底部周、口縁周ともわずかに残	口縁端部、内面口縁露胎、底部施釉、ピンホール有。	白磁皿Ⅲ類	
1-6	65	土製品	土錘	P45	マ	全長4.35	全幅1.05	孔径0.4				両端部欠損、磨耗弱い		重量4.1g	
1-6	66	土師質土器		P72	マ		(1.4)	6.0	にぶい黄橙	褐灰		底部周わずかに残			
1-6	67	土製品	土錘	P91	マ	全長4.2	全幅0.8	孔径0.35				両端部欠損、表面磨耗、径細い		重量2.2g	
1-6	68	土製品	土錘	P94	マ	全長5.1	全幅1.45	孔径0.55				片側端部欠損、欠損部磨耗		重量9.9g	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-6	69	土師器	皿	P96	下マ	15.4	1.45	12.6	橙	橙	赤色砂粒入る	底部周、口縁周ともわずかに残	平底から立ち上がり甘く、外反して開く、扁平。外面口縁回転ナデ。底部調整。	
1-6	70	土師器	碗	P110	マ	14.4	(3.0)		浅黄橙	浅黄橙	赤色砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁周わずかに外反。外面回転ナデ。	
1-6	71	土師質土器	小皿	P142	マ		(1.4)	4.4	浅黄橙	浅黄橙		底部周わずかに残	回転糸切り。	
1-6	72	鉄器	鉄釘	P145		全長 3.2	全幅 1.1	全厚 0.7				部錆跡、未処理	鉄釘、頭部錆跡	重量 3.4g
1-6	73	土師質土器	杯	P156	マ	12.5	3.7	7.0	浅黄橙	浅黄橙		底部周、口縁周ともわずかに残	口縁回転ナデにより外反。外面回転ナデ。回転糸切り。	埋没時付着物多い
1-6	74	灰釉陶器	皿	P159	マ	11.8	(1.65)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残	口縁端部短かく外反、薄い灰釉。	
1-6	75	青磁	碗	P169	マ	16.9	(3.0)		明緑灰	明緑灰	精良	口縁周わずかに残	片彫り蓮弁文、弱い筋有。	青磁碗 I-5 類
1-6	76	白磁	皿	P170	マ	9.9	(2.5)		灰白	灰白	精良	口縁周わずかに残	口縁端部露胎、わずかに外反。	白磁皿Ⅹ類
1-6	77	土師質土器	皿	P171	マ	10.2	2.3		にぶい橙	にぶい橙		底部、口縁周とも一部残	丸底釜。外面口縁回転ナデ、内面底部指オサエ。切り離し痕なし。	
1-6	78	須恵器	片口鉢	P174	マ	30.0	(4.2)		灰	灰	白色砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁端部上下に拡張。内面横方向ナデ後斜方向にもナデ。	東播磨須恵器片口鉢
1-6	79	瓦器	皿	P178	マ	8.4	0.9		黒灰	灰白		底部、口縁周ともわずかに残	扁平な器形、平坦な底部から短かく屈曲させる口縁。	
1-6	80	土師質土器	小皿	P188	マ	6.4	1.6	4.6	浅黄橙	にぶい黄橙	赤色砂粒入る	底部周、口縁周ともわずかに残	平底から立ち上がる。外面回転ナデ。回転糸切り。	
1-6	81	土師器	羽釜	P189		22.9	(6.6)		灰黄	暗灰黄	砂粒多	口縁周わずかに残	口縁直下に断面台形状の厚い鈎が付く。外面鈎下部タテハケ。	
1-6	82	土師質土器	杯	P179	マ		(2.7)	6.6	浅黄橙	浅黄橙	赤色砂粒入る	底部周わずかに残	腰のある底部。回転糸切り。	
1-6	83	土師質土器		P212	マ	13.5	(3.05)		にぶい黄橙	にぶい黄橙		口縁周わずかに残	うすい器壁。外内面回転ナデ。	
1-6	84	黒色土器 A 類	碗	P219	マ	18.0	(3.4)		黒	黒	細かな雲母多く入る	口縁周わずかに残	器壁薄い、口縁端部尖りき。内面短い単位のミガキ。	搬入品
1-6	85	土製品	土鍾	P217	マ	全長 4.0	全幅 1.1	孔径 0.3				両端部欠損、表面磨耗		重量 4.3g
1-6	86	須恵器	壺	P217	マ	13.7	(4.7)		灰	灰		口縁周わずかに残	雑なつくり短かく直立きみの口縁、口縁端部丸い。外面回転力の弱い横ナデ、内面体部、指オサエ。	
1-6	87	灰釉陶器	皿	P217	マ		(2.1)	6.9	灰白	灰白	良	高台周 2/3 残	高台断面三日月形に近い形、釉残らず。外内面回転ナデ。	K90 窯式か (9 世紀後半)
1-6	88	土師質土器	小皿	P220	マ	6.25	1.5	4.4	褐灰	褐灰		完形、表面剥離	平底から短かく立ち上がる。回転糸切り。	
1-6	89	青磁	碗	P230	マ		(1.7)	5.1	明緑灰	明緑灰		高台周わずかに残	厚手の底部、見込彫りの弱い陰刻文様。	
1-6	90	土師質土器		P232	マ		(1.45)	6.2	浅黄橙	浅黄橙		底部周わずかに残		付着物多
1-6	91	土師質土器	小皿	P247	マ	6.7	1.8	4.2	にぶい橙	にぶい橙		底部周 2/3、口縁周わずかに残	平底から直線的に斜めに開く、内底中央部凹む。内底中央指オサエ。	埋没時付着物多い
1-6	92	土師質土器		P247	マ		(1.3)	6.0	浅黄橙	浅黄橙		底部周わずかに残	低い円盤高台状の底部。回転糸切り。	
1-6	93	瓦器	羽釜	P247	マ	22.8	(2.4)		灰黄	灰白	5mm 大の丸石入る	口縁周わずかに残	口縁端部、口縁下突出の弱い雑な鈎が付く。内面横方向回転力の弱いヘラナデ。	
1-6	94	土製品	土鍾	P274	マ	全長 5.25	全幅 1.05	孔径 0.3				片側端部欠損、中央部で折れる		重量 4.4g
1-6	95	土師質土器	杯	P281	マ		(1.9)	6.6	橙	橙		底部周わずかに残	回転糸切り。	
1-6	96	土師質土器	小皿	P282	マ	6.9	1.85	4.6	にぶい橙	にぶい橙		底部周、口縁周ともわずかに残	体部中央で屈曲、丸みを帯びる。回転糸切り。	
1-6	97	瀬戸陶器	皿	P299	マ	10.2	2.65	5.3	灰白	灰白	精良	底部周、口縁周とも 1/2 残	外内面口縁のみ灰釉。外面回転痕。回転糸切り。	瀬戸緑釉小皿 14 世紀後～
1-6	98	土師質土器	杯	P311	マ		(1.5)	6.8	にぶい橙	にぶい橙	細かな赤色砂粒入る	底部周 1/3 残、表面剥離	内底、回転方向ナデ。	
1-6	99	土製品	土鍾	P319	マ	全長 3.65	全幅 1.05	孔径 0.4				両側端部欠損		重量 3.6g
1-6	100	土製品	土鍾	P319	マ	全長 4.1	全幅 1.05	孔径 0.4				両側欠損後磨耗		重量 3.8g
1-6	101	土製品	土鍾	P319	マ	全長 4.9	全幅 0.95	孔径 0.4				両側端部欠損、表面磨耗		重量 3.8g
1-6	102	土製品	土鍾	P319	マ	全長 4.85	全幅 1.05	孔径 0.4				両側端部欠損、磨耗少ない		重量 4.7g
1-6	103	土製品	土鍾	P324	マ	全長 4.0	全幅 1.2	孔径 0.4				両側端部欠損、表面磨耗		重量 5.3g
1-6	104	土師質土器	杯	P361	マ		(2.1)	8.8	黒褐	黒褐		底部周わずかに残	回転糸切り。	外内面とも黒いが瓦質でない
1-6	105	土師質土器	小皿	P365	マ	8.1	(1.5)		灰黄褐	灰黄褐		口縁周わずかに残		
1-6	106	土師質土器	小皿	P370	下マ	7.0	1.55	4.8	にぶい黄橙	灰黄褐		底部周 1/2、口縁周 1/3 残	平底から立ち上がり中央で屈曲。回転糸切り。	底部切り離し時糸体部に巻きつく
1-6	107	土師質土器		P373	マ	11.5	(2.4)		黒	にぶい黄橙		口縁周わずかに残	内面口縁外傾し、端部尖りき。外内面回転痕。	碗か 内面黒いが黒色土器でない
1-6	108	土師質土器	杯	P374	マ	12.0	3.7	7.4	浅黄橙	浅黄橙	赤色砂粒入る	底部周、口縁周 1/3 残	体部中央部回転ナデにより緩やかに凹む。外内面回転ナデ。回転糸切り。	外面中部 2 条タール跡

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-6	109	灰釉陶器	皿	P378			(1.8)	7.5	灰白	灰白	良	高台周 2/3 残	高台断面三日月状に近い灰釉内底見込露胎。ヘラ削り、貼付高台。	搬入 K90 以降 (9 世紀後半~)
1-6	110	土師質土器	杯	P378	マ		(1.65)	7.5	灰黄	灰黄	3mm大のチャート入る	底部周 1/4 残	回転系切り。	外面タール付着黒くなる
1-6	111	土師器	碗	P390	マ		(1.8)	5.8	灰白	灰白		底部周わずかに残、表面磨耗	円盤高台。切り離し後調整。	円盤高台碗の可能性
1-6	112	青磁	碗	P394	マ	16.5	(2.8)		灰オリーブ	灰オリーブ	良	口縁周わずかに残	内面口縁 2 条沈線文、飛雲文、透明感の強い釉。	青磁陶 I-4 類
1-6	113	土製品	土錘	P394	マ	全長 4.15	全幅 0.95	孔径 0.4				両側端部欠損、表面磨耗		重量 2.5g
1-6	114	土師質土器	小皿	P395	マ	6.0	1.2	4.4	浅黄橙	灰黄		底部周 1/3、口縁周わずかに残、表面磨耗	浅い体部。回転系切り。	
1-6	115	土師質土器	杯	P395	マ	12.4	4.1	8.7	灰黄褐	灰黄褐	砂粒少	底部周、口縁周ともわずかに残	丸みを持ち立ち上がり外反して伸びる。外内面回転ナデ。	
1-6	116	黒色土器 A 類	碗	P400	マ		(2.1)	6.4	黒	橙	細かな砂粒多	高台周わずかに残	輪高台。	在地産か
1-6	117	土製品	土錘	P406	マ	全長 4.0	全幅 1.0	孔径 0.3				両側端部欠損		重量 3.0g
1-6	118	灰釉陶器	碗	P418	マ	14.8	(1.8)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残	口縁端部外反、口縁端部まで薄い灰釉。外内面回転ナデ。	搬入
1-6	119	土師器	杯	P426	マ		(2.2)	7.5	橙	灰褐	細かな赤色砂粒多	高台周わずかに残	底部端に輪高台。切り離し後、調整。	
1-6	120	黒色土器 A 類	碗	P441	マ	14.8	1.9		黒褐	灰黄褐		口縁周わずかに残	口縁端部短かく外反。内面ミガキ。	
1-6	121	青磁	碗	P443	マ		(1.85)	4.8	明緑灰	明緑灰	良	高台周 1/3 残	厚い底部、畳付まで施釉。	
1-6	122	土師質土器	小皿	P467	マ	6.4	1.7	4.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙		底部周、口縁周ともわずかに残、表面磨耗		
1-6	123	須恵器	片口鉢	P467	マ		(3.2)	10.2	灰	灰		底部わずかに残	回転系切り。	東播系須恵器片口鉢底部
1-6	124	土製品	土錘	P475	マ	全長 3.9	全幅 1.2	孔径 0.45				片側端部欠損		重量 4.3g
1-6	125	土製品	土錘	P492	マ	全長 3.8	全幅 1.2	孔径 0.35				片側欠損		重量 4.3g
1-6	126	緑釉陶器	皿	中 SK65	マ		(1.7)	6.6	灰	灰	良	高台周 1/4 残	蛇の目高台、高台見込まで施釉、淡緑色の薄い釉。削りだし。	胎土硬陶釉ハケぬり、京都産、9 世紀後半の可能性
1-6	127	土師質土器	小皿	中 SK69	マ	7.6	1.4	5.9	灰褐	にぶい橙	細かな砂粒多	底部周、口縁周ともわずかに残、表面磨耗	平底から短かく直線的に開く。回転系切り。	
1-6	128	備前焼	揃鉢	中 SK69	マ		(3.0)	12.4	灰黄褐	灰黄褐	砂粒多	底部わずかに残	内面摺目、外面底部近くに粘土盛り有。切り離し痕なし。	内面表面粒子磨滅、色調一般的備前と異なる
1-6	129	須恵器	壺	中 SK72	マ		(4.9)		灰	灰オリーブ		頸部周 1/3 残	直立する頸部、水平に開く肩部。内面回転ナデ。	外面自然釉
1-6	130	土師器	甕	中 SK72	マ	20.6	(3.5)		にぶい褐	暗褐	チャート多く入る	口縁わずかに残	水平近く開く口縁。外面口縁下タテハケ、内面口縁粗いヨコハケ。	
1-6	131	土師質土器	小皿	中 SK73	マ	6.2	(1.9)		橙	にぶい橙		底部周、口縁周ともわずかに残	立ち上がり甘い。	
1-6	132	土師質土器	杯	中 SK74	マ	10.4	2.4	6.1	橙	橙	赤色砂粒入る	底部周完形、口縁周一部残、表面磨耗著しい	口縁で屈曲し外反する。	
1-6	133	土師質土器	杯	中 SK74	マ	11.0	2.25	6.9	にぶい黄橙	にぶい黄橙		底部周、口縁周わずかに残	口縁で屈曲し外反。外面回転ナデ。	
1-6	134	土師質土器	杯	中 SK74	マ	11.2	(2.45)		浅黄橙	浅黄橙	赤色砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁部で屈曲。	
1-6	135	土師器	皿	中 SK74		11.0	2.4		橙	橙		底部周、口縁周とも 2/3 残、表面磨耗著しい	小さな底部立ち上がり甘く、大きく外反、内底同心円状痕。	
1-6	136	鉄器	鉄釘	中 SK74	マ	全長 4.6	全幅 1.4	全厚 0.7				先端欠損	鉄釘、頭部折り曲げ、	重量 4.4g
1-6	137	鉄器	鉄釘	中 SK74	マ	全長 2.3	全幅 1.4	全厚 0.6					鉄釘、頭部折り曲げ	重量 1.6g
1-6	138	銅製品	銅銭	中 SK74		外径 2.3	内郭 0.8							
1-6	139	土師器	皿	中 SK75、中 SK78	マ	16.3	1.4	13.7	浅黄橙	浅黄橙		口縁周わずかに残	扁平な器形、口縁外反し立ち上がりほとんどなし、内面弱い沈線。	
1-6	140	瓦器	碗	中 SK80	マ	11.0	(2.3)		黒灰	黒灰		口縁周わずかに残	口径小さい、口縁外反弱い。外反口縁横ナデ。	和泉型 IV 期 14 世紀
1-6	141	瓦器	碗	中 SK80	マ		(1.0)	3.6	灰	灰		高台周 1/3 残	断面三角形のしっかりした高台。内面見込平行ミガキ。	
1-6	142	土製品	土錘	中 SK83	マ	全長 5.5	全幅 1.15	孔径 0.4				完形、磨耗少ない		重量 5.8g
1-6	143	土製品	土錘	中 SK83	マ	全長 6.1	全幅 1.25	孔径 0.3				片側端部欠損、表面磨耗少		重量 6.9g

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-6	144	土師器	小杯	下 SK21	マ	7.4	(1.5)		にぶい 橙	浅黄橙	良	口縁周1/3 残	底部脱落、上方に立ち上がる体部。外内面とも体部回転ナデ。	
1-6	145	土製品	土錘	中 SK84	マ	全長 3.95	全幅 0.9	孔径 0.4				ほぼ完形		重量 2.7g
1-6	146	土製品	土錘	中 SK84	マ	全長 4.5	全幅 1.4	孔径 0.45				両側端部欠損、表面磨耗		重量 6.5g
1-6	147	須恵器	把手	中 SK84	マ									截把手の可能性
1-6	148	土師器	羽釜	中 SK84	マ	22.0	(3.75)		にぶい 黄橙	にぶい 黄褐	砂粒多、雲母	口縁わずかに残	口縁上方を向き面をなす、直下にしっかりとった鑊が付く。鑊端部凹面状。	
1-6	149	緑釉陶器	小椀	中 SK85	マ	10.5	(2.7)		灰オ リーブ	灰オ リーブ		口縁周わずかに残	口縁端わずかに外反、濃緑色の厚い釉。近江産か、口縁内面よく擦れる	
1-6	150	土師質土器	小皿	中 SK89	マ	7.9	1.85	5.8	橙	橙		底部周、口縁周ともわずかに残、表面磨耗	平底から斜めに立ち上がる。回転糸切り。	
1-6	151	土師質土器	杯	中 SK89	マ		(1.9)	7.8	橙	橙		底部周わずかに残	平底から丸みを帯び立ち上がる。回転糸切り。	
1-6	152	土師質土器		中 SK91	マ		(1.1)	6.6	灰白	浅黄橙		底部周わずかに残、磨耗	内面同心円状に段。回転ヘラ切り。	
1-6	153	青磁	合子蓋	中 SD11	マ	6.5	(1.6)		灰白	淡緑	良	口縁周わずかに残	外面花弁状に薄く彫り込まれる。内面回転痕。	
1-6	154	緑釉陶器	大椀	中 SD13	マ	16.8		7.6	灰白	灰白	精良	底部完形、口縁周1/2 残	大ぶりな椀、口縁外反、低い輪高台、全面に淡緑色のうすい施釉。回転ヘラケースリ。削り出し。	軟陶だが白色で焼成良好な胎土、京都産9世紀代
1-6	155	土師器	羽釜	中 SD14	マ	19.7	(6.5)		灰黄褐	灰黄褐	赤色砂粒多	口縁周わずかに残	斜面をなす口縁から続く断面形状の鑊。外面鑊下タテハケ、内面口縁下横、斜めヘラナデ状。	
1-6	156	黒色土器 A 類		中 SD14-③	マ		(1.3)	7.4	黒	黄褐	金雲母有	高台周一部残	断面三角形の高台、底部薄い。内面見込横方向ヘラミガキ。貼付輪高台。	搬入の可能性
1-6	157	土製品	土錘	中 SD14-③	マ	全長 4.75	全幅 1.05	孔径 0.35				片側欠損、表面磨耗		重量 3.5g
1-6	158	土製品	土錘	中 SD14-③	マ	全長 4.1	全幅 1.05	孔径 0.3				片側端部欠損		重量 3.1g
1-6	159	土製品	土錘	中 SD14-③	マ	全長 4.05	全幅 1.05	孔径 0.35				片側端部欠損		重量 3.4g
1-6	160	黒色土器 A 類		中 SD16	マ	16.0	(2.7)		黒	黒褐	雲母多く入る	口縁周わずかに残	直線的に開く口縁。横方向の幅の狭いミガキ。	搬入
1-6	161	土製品	土錘	中 SD16	マ	全長 5.2	全幅 0.95	孔径 0.3				片側端部欠損、長さ比べて径小さい		重量 3.5g
1-6	162	土師器	皿	中 SD19	マ	15.9	(1.3)		橙	橙	赤色砂粒入る	底部、口縁周わずかに残	底部から外反して立ち上がる、口縁端部大きく開く。口縁外面回転ナデ。	
1-6	163	灰釉陶器		中 P2	マ	13.8	(1.5)		灰白	灰白	良	口縁周わずかに残	口縁端部短かく水平に開くうすい灰釉、全面施釉。	搬入
1-6	164	土師器	甕	中 P3	マ	22.6	(3.8)		褐	褐	白色砂粒多	口縁わずかに残	口縁内面に稜を持ち屈曲、口縁端部小さく上方に拡張。外面口縁下タテハケ。	
1-6	165	須恵器	杯	中 P18	マ	12.8	(3.5)		灰	灰		口縁周わずかに残	直線的な口縁。外面回転ナデ。	
1-6	166	灰釉陶器		中 P15	マ		(1.2)	7.3	灰白	灰白	良	高台周わずかに残	三日月形の高台。	搬入、K90 黒式 (9世紀後)
1-6	167	土師質土器	杯	中 P30	マ		(3.1)	7.2	浅黄橙	浅黄橙		底部周1/3 残	底部からの立ち上がり甘い、外面回転ナデにより段状。外面回転ナデ痕。回転ヘラ切り。	
1-6	168	黒色土器	甕	中 P31	マ	16.4	(3.35)		黒	黒	雲母入る	口縁わずかに残	内面稜を持ち屈曲、斜め上方に開く、口縁端部尖り、器壁うすい。口縁外面回転ナデ。	搬入、8～9世紀
1-6	169	土師器	椀	中 P32	マ		(1.0)	7.4	明赤褐	黒褐		高台周わずかに残、表面磨耗	低く断面形、甘い高台。	黒色土器の可能性あるが磨耗のため不明
1-6	170	黒色土器	椀	中 P33	マ		(2.35)	8.8	橙	黒		高台周わずかに残	輪高台、内面黒色。	黒色土器 A 類椀か
1-6	171	白磁	皿	中 P37	マ	8.9	(1.5)		灰白	灰白	精良	口縁周わずかに残	外内面口縁端部露胎、露胎部白色。	白磁皿Ⅱ類
1-6	172	土師質土器	杯	中 P37	マ		(1.9)	7.8	浅黄橙	浅黄橙		底部周一部残	回転糸切り、ヘラ起し。	
1-6	173	土師器	椀	中 P38	マ		(0.8)	5.1	淡黄	淡黄		高台周わずかに残	断面小さな三角形の高台。	
1-6	174	黒色土器 A 類	椀	中 P38	マ		(0.7)	8.0	黒	褐	細かな雲母入る	高台周わずかに残	平坦な底部、断面小さな三角形の高台。貼付輪高台。	搬入
1-6	175	土師質土器	杯	中 P56	マ		(1.6)	6.2	浅黄橙	浅黄橙		底部周わずかに残	内底見込指オサエによる凸凹。内面指オサエ、ナデ。回転糸切り。	
1-6	176	土師質土器		中 P58	マ		(1.2)	6.6	にぶい 黄橙	にぶい 橙		底部周一部残	回転糸切り。	底部近くに糸巻き付痕
1-6	177	土製品	土錘	中 P58	マ	全長 5.1	全幅 1.9	孔径 0.55				両側端部欠損、表面付着物多		重量 14.1g
1-6	178	鉄器	鉄釘	中 P66	マ	全長 3.5	全幅 0.7	全厚 0.6				先端欠損、未処理	鉄釘、頭部わずかに曲る	重量 2.6g
1-6	179	鉄器	鉄釘	中 P76	マ	全長 5.0	全幅 1.1	全厚 0.6				断面方形、未処理	鉄釘、一部厚い錆に覆われる	重量 6.2g
1-6	180	土師質土器	杯	中 P79	マ	11.0	4.1	7.2	橙	橙		底部周完形、口縁周1/3 残	歪み有、内底指オサエによる凸凹。内底指オサエ、底部、体部境ヨコナデ。切り離し痕なし。	埋没時付着物多い

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-6	181	土師質土器	柱状高台皿	中 P79	マ		(3.2)	5.15	黄灰	灰黄		高台完形	断面台形の円柱状高台。高台回転ナデ。回転糸切り。	
1-6	182	土製品	土鍾	中 P87	マ	全長 3.1	全幅 0.95	孔径 0.35				片側欠損、径に比べて短い		重量 30g
1-6	183	須恵器	皿	中 P108	マ	17.4	(2.2)		灰白	灰白		口縁わずかに残	口縁外反し端部つまみ上げる。	生焼け
1-6	184	粗製土器		中 P112	マ				橙	橙	2mm~7mm大の砂粒多	胴部わずかに残	内面布目。被熱感なし。	
1-6	185	土師器	甕	中 P129	マ	21.2	(4.1)		灰黄褐	にぶい黄褐	砂粒多	口縁わずかに残	口縁端部上方に拡張凹面、口縁内面稜を持ち屈曲。内面口縁、ヨコナデ。	
1-6	186	土製品	土鍾	中 P129	マ	全長 3.75	全幅 1.1	孔径 0.3				片側欠損		重量 3.9g
1-6	187	土製品	土鍾	中 P140	マ	全長 4.9	全幅 1.05	孔径 0.3				両側端部欠損		重量 4.7g
1-6	188	土師質土器	杯	中 P146	マ		(1.8)	6.4	黄橙	橙	赤色砂粒入る	底部周わずかに残	回転糸切り。	
1-6	189	鉄器	楔状鉄器	中 P166		全長 4.5	全幅 1.6	全厚 1.0				ほぼ完形、楔状を呈する		重量 14.8g
1-6	190	土師器	甕	中 P158	マ	24.4	(6.0)		灰黄褐	灰黄褐	砂粒多	口縁一部残	口縁上方に拡張し、口縁端部凹線文状、内面口縁稜を持ち屈曲。外面口縁下タテハケ、内面口縁屈曲部まで粗いヨコハケ。ゆるやかに下る口縁、口縁端部わずかに面をなす。内面口縁端部ナデ。	搬入の可能性
1-6	191	須恵器	蓋	中 P158	マ	15.8	(2.1)		灰	灰		口縁わずかに残		
1-6	192	土師質土器	杯	中 P169	マ	11.7	(3.1)		にぶい橙	にぶい橙		口縁周わずかに残	外面回転ナデ痕。	器壁うすい
1-6	193	土製品	土鍾	中 P170	マ	全長 4.2	全幅 1.25	孔径 0.3				両側端部欠損、片側端部径太い		重量 6.9g
1-6	194	瓦器	碗	中 P172	マ	12.8	(3.3)		黒灰	黒灰		口縁周わずかに残	口縁外反長い。内面横方向ミガキ。	付着物多い
1-6	195	瓦器	碗	中 P186	マ	14.6	(3.2)		黒灰	黒灰		口縁周わずかに残	丸みを帯びた器形。	和泉型とは異なる様相
1-6	196	瓦器	碗	中 P191	マ	13.8	(3.0)		黒灰	黒灰	細かな白色砂粒入る	口縁周一部残	口縁外反弱い。外面口縁ヨコナデ、体部指オサエ。	炭素吸着良
1-6	197	鉄器	刀子	中 P196		全長 19.8	全幅 2.2	全厚 1.2				刀子、完形、目釘穴残存		重量 60.2g
1-6	198	瓦器	碗	中 P196	マ	12.0	3.6		にぶい橙	にぶい橙		口縁周一部残	口縁外反。	被熱赤変
1-6	199	瓦器	碗	中 P199	マ	12.1	(2.0)		黒灰	黒灰		口縁周わずかに残	口縁二段にナデ。外面口縁ナデ。	
1-6	200	土師器	杯	中 P199	マ		(2.4)	6.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙		底部周 1/3 残、表面磨耗	切り離し痕なし、調整。	
1-6	201	土師質土器	ミニチュア	中 P200	マ	6.7	(2.9)		にぶい橙	にぶい黄橙		口縁わずかに残	口縁短かく上方に外反。	土師質土器鍋のミニチュアか
1-6	202	瓦器	碗	中 P216	マ	12.1	(2.6)		黒灰	黒灰		口縁周わずかに残	口縁外反なく丸い。外面口縁ナデ。	
1-6	203	黒色土器 A 類	碗	中 P218	マ		(2.2)	6.5	黒	にぶい橙	細かな赤色砂粒入る	高台周わずかに残		黒色土器 A 類碗在地産か
1-6	204	土師質土器	羽釜	中 P222	マ	23.0	(6.2)		橙	橙		口縁周わずかに残	鑄直下強いナデにより凹線状、小さな受け口状の鑄。外面口縁ナデ、鑄下指オサエ。	
1-6	205	土師質土器	杯	中 P224	マ		(1.8)	6.2	浅黄橙	にぶい黄橙		底部周一部残	回転糸切り。	
1-6	206	土師質土器	杯	中 P224	マ		(1.5)	5.6	黄白	浅黄橙		底部周わずかに残	回転糸切り。	埋没時付着物多い
1-6	207	土製品	土鍾	中 P240	マ	全長 4.1	全幅 1.4	孔径 0.5				片側端部欠損		重量 7.9g
1-6	208	土師器	碗	中 P242	マ	10.6	(2.7)		浅黄橙	浅黄橙	赤色砂粒入る	口縁周わずかに残	丸みを帯びる口縁、端部尖りきみ。	
1-6	209	土製品	土鍾	中 P253	マ	全長 4.0	全幅 1.3	孔径 0.4						重量 6.3g
1-6	210	土製品	土鍾	中 P271	マ	全長 3.6	全幅 1.1	孔径 0.3				片側欠損後調整か		重量 3.8g
1-6	211	土製品	土鍾	中 P277	マ	全長 4.85	全幅 1.15	孔径 0.35				両側端部欠損		重量 5.2g
1-6	212	土師器		中 P277	マ		(1.9)	7.0	褐灰	にぶい褐		高台周わずかに残、内面磨耗著しい	貼付輪高台。	黒色土器 A 類可能性あるが磨耗のため不明
1-6	213	瓦質土器	羽釜	中 P282	マ	20.9	(7.6)		灰	黄灰	全体に砂っぽい	口縁わずかに残	受け口状の鑄が付く、口縁端部ナデにより凹面状内面平滑。外面口縁端部ナデ、体部粘土接合部横方向に指オサエ。	14 世紀代
1-6	214	須恵器	提瓶	中 P302	ホ 3		(8.2)		灰	灰		上胴部一部残	外面弱い回転ケズリ痕。	
1-6	215	土師質土器	小皿	中 P303	マ	8.0	1.8	4.9	浅黄橙	浅黄橙	赤色砂粒入る	底部周完形、口縁周 2/3 残	外反して立ち上がり、口縁でわずかに内湾する。回転ヘラ切り。	
1-6	216	須恵器		下 SK20	マ	15.9	(2.3)		灰	灰		口縁周わずかに残	口縁部玉線状に肥厚。	小型の束播系須恵器片口鉢と考えられる
1-6	217	須恵器	杯	下 SK22	マ	12.2	(3.2)		灰		細かな白色砂粒入る	口縁周わずかに残	全体に薄い、直立きみの口縁、内面強いナデによる段状。外内面とも回転ナデ。	
1-6	218	手づくね土器		下 SK22	下層	10.5	5.5		橙	橙	細かな赤色砂粒入る	完形	厚く、粗雑な作り、手づくね成形。調整なく全体に指オサエ痕、体部横方向、内底円状。	外面粘土割れ

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-6	219	土製品	土鍾	下 SK18	マ	全長 5.1	全幅 1.15	孔径 0.3				両側端部欠損、長さ比べて孔径小さい		重量 4.1g
1-6	220	土製品	土鍾	下 SK18	マ	全長 4.05	全幅 1.1	孔径 0.25				両側端部欠損		重量 3.7g
1-6	221	土製品	土鍾	下 SK18	上層	全長 4.1	全幅 1.0	孔径 0.3						重量 3.3g
1-6	222	土製品	土鍾	下 SK18	マ	全長 4.15	全幅 1.0	孔径 0.3				両側端部欠損後磨耗		重量 3.7g
1-6	223	土製品	土鍾	下 SK18	マ	全長 3.2	全幅 1.15	孔径 0.3				片側大きく欠損		重量 2.5g
1-6	224	瓦器	碗	下 SK1	マ	13.1	(3.3)		灰黄	灰		口縁周わずかに残	口縁ナデにより外反。外面口縁ナデ、体部指オサエ、内面ミガキ。	内面炭素吸着弱い
1-6	225	弥生土器	壺	下 SK7	マ	22.2	(5.5)		にぶい黄褐	にぶい黄褐	砂粒多量に入る	口縁 1/3 残	口縁貼付なし、口縁下端刻目、口縁回転力の弱い撫描き文。内面ヘラナデ。	弥生時代中期高知県西部地域土器
1-6	226	須恵器	碗	下 SK14	マ	14.1	(4.1)		灰	灰		口縁周わずかに残	歪み有、口縁外反、体部丸みを帯びる。外内面とも回転ナデ。	埋没時付着物多い
1-6	227	土師器	小皿	下 SD4、バ③	上	6.1	1.5	4.4	浅黄橙	浅黄橙		底部周、口縁周ともわずかに残	外反して立ち上がる、内底中央部凹む。外面二段にナデ。回転糸切り後ヘラ起し。	
1-6	228	土師器	小皿	下 SD4、③	中層	7.5	1.8	5.8	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る、8mm 大有	底部周、口縁周とも 1/4 残	体部二段にナデ、口縁直立きみ。外面回転ナデ。回転糸切り。	
1-6	229	土師器	小皿	下 SD4、バ2	下	6.5	1.55	4.8	橙	橙	細かな砂粒多	底部周、口縁周とも 1/2 残、表面磨耗	全体に歪み、内底中央部凹む。回転糸切り、切り離してしゃくれる。	
1-6	230	土師質土器		下 SD4、バ②	中		(1.9)	6.4	灰白	灰白		底部周わずかに残	円盤状高台から丸みを帯び開く。	
1-6	231	瓦器	碗	下 SD4、TR1	マ	12.9	(2.6)		灰白	灰白	細かな白色砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁二段に外反、下段指オサエ、上段ナデ。外面口縁ナデ指オサエ、内面幅の狭いミガキ。	外面炭素吸着弱い
1-6	232	緑釉陶器	皿	下 SD4、バ②	マ、上	13.0	(1.5)		灰オリーブ	灰黄	硬陶	口縁周わずかに残	口縁短かく、水平ぎみに開く、体部丸みを帯びる、淡緑色の薄い軸。外面回転ナデ痕。	焼き締りの弱い硬陶
1-6	233	灰釉陶器		下 SD4、①	上	12.6	(2.0)		灰白	灰白	4mm 穴の砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁端部短かく水平に開く、器壁薄い、薄い灰釉。外面回転ナデ痕。	ハケヌリで施釉か
1-6	234	白磁	皿	下 SD4、バ②	中	7.9	(1.5)		明オリーブ灰	明オリーブ灰	精良	口縁周わずかに残	口縁端部内外面とも軸なし、露胎部白色。	口兎皿、皿Ⅲ類
1-6	235	東播系須恵器	片口鉢	下 SD4	マ、下	21.0	(2.8)		灰白	灰白	砂粒多	口縁わずかに残	口縁端部拡張、下に垂れる。	生焼け、
1-6	236	白磁	皿	下 SD4、バ②	上	13.1	(2.5)		灰白	灰白	精良	口縁わずかに残	口縁大きく外反、口縁端部軸なく白色の露胎。	口兎皿、白磁皿Ⅲ類
1-6	237	瓦質土器	羽釜	下 SD4、④	マ、上	22.2	(2.9)		灰	灰	砂粒多	口縁わずかに残	受け状のしっかりした鏝、口縁短かく立ち内傾、凹線なし。	
1-6	238	瓦質土器	鍋	下 SD4、バ	上	17.0	(4.3)		灰	灰		口縁わずかに残	口縁内傾きみ、口縁貼付痕。内面指ナデ。	15 世紀半
1-6	239	土師器	杯	下 SD7、①	マ		(3.0)	7.0	橙	橙		底部周 1/3 残、口縁周わずかに残、表面磨耗	斜め上方に立ち上がる体部、口縁端部外傾する。内面ナデにより弱い階段状。外面回転ナデ。	
1-6	240	土師器		下 SD7 ①	マ		(2.1)	9.4	橙	橙	細かな赤色砂粒入る	底部周わずかに残、表面磨耗	底部端部に細く高めの高台。	
1-6	241	須恵器	壺	下 SD7-①	マ		(5.0)	9.4	灰	灰	白色砂粒入る	高台周 1/3 残	底部端部に低くしっかりした方形の高台。外面回転ケズリ痕、内面回転ナデ。貼付高台。	
1-6	242	土師器	甕	下 SD7 ①	マ	19.0	(4.7)		にぶい黄橙	にぶい黄橙		口縁一部残	屈曲して開く口縁、口縁端部面。内面口縁横方向板ナデ、外面口縁下横方向板ナデ。	在地産か、ガラガラ感なし
1-6	243	土師器	甕	下 SD7、①	マ	23.0	(4.5)		橙	橙	チャート粒入る	口縁わずかに残	短かく開く口縁、口縁端部面をなす。	表面ガラガラ
1-6	244	土師器	杯	下 SD8-⑦	上層	12.8	3.3	7.9	橙	橙	良	完形	口縁外反、口縁内面沈線巡り段状になる。切り離し痕なし。	
1-6	245	土師器	杯	下 SD8、⑦	マ	14.8	3.2		橙	橙	良	底部周、口縁周とも一部残	全体に器壁薄い、直線的な体部。切り離し痕なし。	
1-6	246	土師器	杯	下 SD8、⑦	マ	13.1	3.2	7.8	橙	橙	赤色砂粒入る	底部周、口縁周とも一部残、表面剥離有	口縁周わずかに外反。口縁回転ナデ。切り離し痕なし。	
1-6	247	土師器	杯	下 SD8、⑥、⑦	マ	12.6	4.0	8.6	灰白	灰白		底部周 1/2 残、口縁周わずかに残。	直線的な体部、口縁端部尖りきみ、底部粘土紐螺旋状。	
1-6	248	須恵器	杯	下 SD8-①	下層		(3.5)	7.5	灰	橙	細かな白色砂粒入る	底部完形	立ち上がり甘い、上方に立ち上がる。外内面とも回転ナデ。底部螺旋状痕。	
1-6	249	須恵器	蓋	下 SD8-⑦	下層	15.1	(3.9)		灰	灰	細かな白色砂粒入る	天井部わずかに残、口縁 1/3 残	丸みを帯びる器形、口縁部直線的に垂下、口縁内面ナデによりかえり状になる。外面天井部回転ケズリ、口縁回転ナデ、内面回転ナデ。	
1-6	250	土師器	甕	下 SD8、⑦	マ	16.9	(4.5)		にぶい褐	褐	砂粒多量に入る	口縁わずかに残	短かく開く口縁、内面に残なし。外面口縁下斜方向ハケ、内面口縁横方向ハケ、口縁下横方向の粗いハケ。	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-6	251	粗製土器		下 SD8、⑦、カクラン		12.0	(5.0)		橙	橙	砂粒多			内面布目、弱い被熱痕有り、焼き塩密か
1-6	252	土製品	土錘	下 SD8、⑥⑦	上	全長 4.7	全幅 1.05	孔径 0.35				ほぼ完形		重量 4.2g
1-6	253	土製品	土錘	下 SD8、⑥⑦	上	全長 3.45	全幅 1.0	孔径 0.4				両端部欠損、欠損後磨耗		重量 2.6g
1-6	254	土製品	土錘	下 SD8、⑦	マ	全長 3.4	全幅 0.85	孔径 0.3				両端部欠損、欠損後磨耗		重量 2.5g
1-6	255	土製品	土錘	下 SD8	マ	全長 4.5	全幅 1.1	孔径 0.25				片側端部欠損		重量 4.5g
1-6	256	土製品	土玉	下 SD8④	上								上面生き面、下面も表面磨耗のみで生き面か	重量 4.5g
1-6	257	土師器	皿	下 SD14⑦	中層	10.1	1.7		橙	橙		底部周、口縁周とも一部残	底部から外反して開く体部、体部二段にナデ。外内面とも回転ナデ。切り離し痕なし。	
1-6	258	土師器	皿	下 SD14⑦	マ	10.1	2.2	6.0	浅黄橙	浅黄橙		底部周 1/2、口縁周わずかに残	円盤高台状底部から開く体部。内面回転痕残る。切り離し痕なし。	
1-6	259	瓦器		下 SD14⑦	中		(0.7)	4.4	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな白色砂粒	高台周 1/3 残	断面うすい方形のしっかりした輪高台、高台外面ナデで凹面状。切り離し痕なし。	瓦器碗の可能性
1-6	260	黒色土器 A 類	碗	下 SD14⑦	下層		(3.2)	7.3	黒	にぶい黄橙	赤色砂粒入る	高台周わずかに残	ハの字状のしっかり輪高台は底部端部に付く。貼付輪高台。	在地産か
1-6	261	須恵器	鉢	下 SD14⑧	中層	18.6	7.9		灰白	灰白	チャート粒入る	口縁周一部残	丸みを帯びた体部、口縁部上方を向く、口縁端部上方を向いた面をなす。器壁うすい。内外面とも回転ナデ。	鉄鉢形か
1-6	262	須恵器	高杯	下 SD14①	マ		5.0	8.3	灰	灰		裾端部周 2/3 残	筒状の脚からゆるやかに開く裾部、裾端部内面わずかに下方に引き出され面をなす。内外面とも回転ナデ。	
1-6	263	土師器	甕	下 SD14⑧	中層	21.1	(4.1)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	チャート粒多	口縁わずかに残	直線的に斜めに開く、口縁、厚い器壁。内面粗い横方向ハケ。	
1-6	264	土師器	甕	下 SD14	下	22.2	(3.9)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	雲母多く入る	口縁わずかに残	口縁内面稜を持ち屈曲、口縁端部上方に拡張。内面口縁、口縁下横方向ハケ。	内面スス付着
1-6	265	土師器	甕	下 SD14	マ	20.6	(10.6)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm大の砂粒多	口縁一部残	直線的に開く口縁、端部は上方に拡張され凹面をなす。外面口縁ナデ、上胴部横方向ハケ、下胴部斜方向タタキ、内面口縁接合部横方向ハケ、胴部接合部、強い指ナデ。	長胴にはならない
1-6	266	須恵器	蓋	下 SD21	マ	14.0	2.75		灰	灰	白色砂粒入る	口縁 1/4 残	平坦な天井部から短く直線的に下る口縁、端部は短かく引き出され面をなす。外面口縁部回転ナデ。	
1-6	267	土師器	小杯	下 SD22-②	中	6.6	2.3	3.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな赤色粒子入る	完形、表面磨耗	小さな底部から斜めに立ち上がる。切り離し痕なし。	
1-6	268	須恵器	蓋	下 SD22①	下	11.0	(2.45)		灰白	灰白	細かな白色砂粒	口縁わずかに残	平坦な天井部から下垂する口縁。	壺蓋
1-6	269	東播系須恵器	片口鉢	下 SD22-②	中	20.0	(1.9)		黄灰	黄灰	細かな白色砂粒入る	口縁わずかに残	全体に器壁うすく小さい、口縁端部上方に拡張。	
1-6	270	土製品	土錘	下 SD22-②、バ	マ	全長 4.0	全幅 1.6	孔径 0.5				両端部欠損、片側大きく欠損		重量 9.0g
1-6	271	鉄器	鉄釘	下 SD22-①	下層	全長 3.5	全幅 0.7	全厚 0.6				鉄頭部欠損、未処理	釘、先端曲がる	重量 2.3g
1-6	272	須恵器	蓋	下 SD23、バンク 1	マ	7.6	(2.4)		灰	灰		口縁わずかに残	平坦な天井部から下垂する口縁。	壺蓋
1-6	273	土師器	甕	下 SD23-①	マ	23.2	(3.7)		にぶい褐	にぶい褐	金雲母入る	口縁わずかに残	口縁内面に稜を持ち屈曲、口縁端部凹面状をなすが、拡張弱い。内面口縁横方向ハケ、外面口縁下縦方向ハケ。	内面煤付着
1-6	274	土師器	甕	下 SD23-①	マ	27.7	(8.0)		にぶい褐	にぶい褐	砂粒多、雲母入る	口縁わずかに残	口縁屈曲して開く、内面稜弱い、口縁端部上方に拡張。口縁内面横方向ナデ。	
1-6	275	土師器	甕	下 SD23-①	マ	23.4	(7.0)		にぶい褐	にぶい褐	赤色砂粒多く入る	口縁わずかに残	口縁屈曲して開く、内面屈曲後なし、口縁端部上方に拡張。内面口縁～口縁下横方向ハケ。	274 とは別個体
1-6	276	土師器	皿	下 SD24	マ	12.4	1.6	8.3	橙	橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、口縁周わずかに残	平底から直線的に開く、浅い体部。	
1-6	277	土師器	甕	下 SD24	マ	23.1	(7.0)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	砂粒多	口縁わずかに残	口縁屈曲して斜めに開く、口縁端部上方に拡張、全体に器壁うすい。外面口縁下タテハケ後ヨコハケ、内面口縁～口縁下ヨコハケ。	
1-6	278	須恵器	皿	下 SD25	マ	15.6	2.1			灰白	灰白	底部周、口縁周ともわずかに残、表面磨耗	立ち上がり甘く、外反する体部、口縁端部つまみ上げ状、内面段になる。	
1-6	279	土製品	土錘	下 SD26	マ	全長 3.8	全幅 1.0	孔径 0.3				片側端部欠損		重量 2.8g
1-6	280	土製品	土錘	下 SD26	マ	全長 3.8	全幅 0.95	孔径 0.3				片側端部斜めに欠損		重量 3.0g
1-6	281	須恵器	皿	下 SD27	マ	14.2	1.55	10.8	灰	灰		底部周、口縁周ともわずかに残	立ち上がり甘く、直線的に開く。口縁内外面とも回転ナデ。	シャープさに欠ける
1-6	282	緑釉陶器		下 SD27	マ	14.9	(2.2)		灰白	灰白	良	口縁周一部残	丸みを帯びた体部、内面口縁強いナデによる沈線、白い地に淡緑色の薄い釉。外面回転ケズリ痕。	胎土軟陶白色、京都産

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-6	283	須恵器	蓋	下 SD28	マ	13.6	(4.5)		灰	灰	2mm穴の砂粒入る	口縁周1/2	丸みを帯びた器形。外面天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ、内面回転ナデ。	6世紀末～
1-6	284	土師器	杯	下 SD29	マ	13.9	2.5	8.0	橙	橙	赤色砂粒入る	底部周完形、口縁周わずかに残	平底から斜めに直線的に開く、底部螺旋状接合痕。内底、粘土指オサエ痕。切り離し痕なし。	
1-6	285	土製品	土鍾	下 SD30	マ	全長 4.3	全幅 1.1	孔径 0.3				側端部斜めに欠損		重量 3.9g
1-6	286	須恵器	蓋	下 SD31-③	下	14.2	1.4		灰白	灰白		口縁周わずかに残	丸みを帯びた口縁部、内面に断面小さな三角形の突起、かえり状。	
1-6	287	土師器	杯	下 SD33-④	マ	15.2	3.45	9.0	橙	橙	良	底部周ほぼ完形、口縁周1/2残	口縁で外反する、口縁内面沈線状に段をなす、底部外面螺旋状痕。	
1-6	288	土師器	杯	下 SD33 ④	マ		(2.1)	8.9	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒多	底部周わずかに残、表面磨耗	器壁薄い、丸みを帯び立ち上がる。	
1-6	289	黒色土器 A 類	碗	下 SD33、バ		15.9	(4.1)		黒	にぶい黄褐	細かな雲母多量に入る	口縁周わずかに残	口縁端部横ナデにより外反さみ。内面緻密な横方向ミガキ。	搬入品か
1-6	290	土製品	土鍾	下 SD33、③	マ	全長 4.55	全幅 1.25	孔径 0.45				片側端部欠損		重量 5.8g
1-6	291	土師器	甕	下 SD33、③	マ	27.4	(1.9)		橙	にぶい褐	細かな白色砂粒	口縁わずかに残	開く口縁、端部凹面状	胎土ザラザラ感なし
1-6	292	須恵器	高杯	下 SD34	上	16.6	(5.5)		灰白	灰	黒色砂粒多	口縁一部残、表面磨耗著しい	丸みを帯びた杯部。	
1-6	293	土師器	甕	下 SD34	マ	16.2	(2.5)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	砂粒多	口縁わずかに残	短かく開く口縁、端部は面をなす。	
1-6	294	土師器	皿	下 SD35	マ	17.5	(2.1)		橙	橙	細かな赤色砂粒多	口縁周わずかに残、底部接合部で脱落	外反さみに開く体部、内面弱い沈線状の段。外面回転ナデ。	
1-6	295	土師器	碗	下 SD35	マ	13.5	(2.8)		灰白	灰白		口縁周わずかに残	口縁外反、体部丸みを帯びる。	
1-6	296	土製品	土鍾	下 SD35	マ	全長 4.6	全幅 1.55	孔径 0.6				両側端部欠損、片側斜めに欠損		重量 8.2g
1-6	297	土製品	土鍾	下 SD35	マ	全長 4.35	全幅 1.15	孔径 0.3				両側端部欠損、片側斜めに大きく欠損		重量 3.7g
1-6	298	須恵器	蓋	下 SD36	マ	18.0	(1.1)		灰白	灰白		口縁周一部残	扁平な器形、平坦な天井部から直線的に斜下方に下る、端部内面にわずかに引き出し面をなす。外内面とも回転ナデ。	古代
1-6	299	石器	叩石	下 SD38	マ	全長 11.0	全幅 7.1	全厚 5.2		白			色砂岩、片側端部敲打により凹む、両側面敲打により凹む、両面敲打により凹む、片面敲打により欠損	重量 600g
1-6	300	土師器	底部	下 P1	マ		(1.2)	6.4	浅黄橙	浅黄橙		底部周一部残	円盤高台状の底部から開く体部。切り離し痕なし。	
1-6	301	土師器	小杯	下 P11	マ	8.1	1.85	5.0	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	完形	低い円盤高台状底部から丸みを帯びた体部。外面体部二段にナデ。切り離し後調整。	303 と二枚重ねて出土、同一器形
1-6	302	土師器	小杯	下 P11	マ	8.0	1.95	5.2	浅黄橙	浅黄橙		底部周完形、口縁周わずかに残	低い円盤高台状の底部から丸みを帯びた体部。切り離し痕なし。	
1-6	303	土師器	小杯	下 P11	マ	8.0	1.95	4.6	浅黄橙	浅黄橙		底部周完形、口縁周2/3残	大きく歪む、底部平底。ヘラ起し。	
1-6	304	土師器	杯	下 P15	マ	14.6	4.4	7.0	浅黄橙	浅黄橙		底部周ほぼ完形、口縁周1/2残	底部から斜め上方に開く体部。外面体部回転ナデ、内面見込回転状の指オサエ痕。切り離し痕なし。	
1-6	305	須恵器	皿	下 P33		17.0	1.45		にぶい黄橙	にぶい黄橙		底部周、口縁周ともわずかに残	底部歪み有、外反さみに開く口縁。切り離し痕なし。	
1-6	306	瓦器	碗	下 P35	マ	13.5	(2.7)		灰白	灰白	白い砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁外反。外面口縁横ナデ、内面横方向ミガキしっかり入る。	内外面とも口縁部のみ、弱く炭素吸着
1-6	307	土師器	杯	下 P104	マ		(1.5)	7.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙		底部周一部残	平底から立ち上がる体部。切り離し痕なく縦横ナデ。	
1-6	308	土師器	小皿	下 P111	マ	6.2	1.75	5.0	浅黄橙	浅黄橙		底部周2/3残、口縁周1/4残	平底から斜上方に立ち上がる、内底中央ヘソ状に突出。内底縁部回転方向ナデ。回転糸切り。	
1-6	309	鉄器	刀子状鉄器	下 P113	マ	全長 6.8	全幅 2.6	全厚 0.5					先端に向かって身幅狭くなる、刀子の可能性	重量 17.9g
1-6	310	須恵器	皿	下 P171	マ	14.7	1.95	12.0	灰	灰		底部周、口縁周ともわずかに残	立ち上がり甘く斜めに開く口縁。口縁外内面とも回転ナデ。	
1-6	311	土師器	皿	下 P241	マ	17.9	(1.2)		浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、口縁周わずかに残	立ち上がり甘い、底部、体部境ナデにより段状。外面横方向ナデ。	
1-6	312	土製品	土鍾	下 P193	マ	全長 4.3	全幅 1.4	孔径 0.4				片側端部大きく欠損		重量 6.5g
1-6	313	土師質土器	底部	下 P254	マ		(3.0)	7.0	橙	橙	細かな砂粒多	底部周わずかに残	斜め上方に立ち上がる体部。回転糸切りか。	
1-6	314	土製品	土鍾	下 P265	マ	全長 3.3	全幅 1.0	孔径 0.3				両側端部欠損		重量 2.4g
1-6	315	須恵器	皿	下 P265 柱痕			(1.95)		灰白	灰白	良	底部周、口縁周ともわずかに残	斜めに外反さみに立ち上がり、口縁端部つまみ上げ状。	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考	
1-6	316	須恵器	壺	下 P275	マ	18.8	(5.5)		灰	灰	良	口縁周一部残	くの字に屈曲しなめらかに開く口縁、口縁上部に面をなす。外内面とも回転ナデ。		
1-6	317	土師器	小皿	下 P302	マ	6.5	1.75	4.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙		底部周、口縁周ともわずかに残	体部中央で上方に屈曲し、外面三段に回転ナデ。回転糸切り。		
1-6	318	青磁	椀	下 P318	マ	16.4	(2.0)		オリーブ灰	オリーブ灰	良	口縁周わずかに残	口縁端部わずかに外反し、外面蓮弁文、筋弱い。	青磁 I-5 類	
1-6	319	土師器	杯	下 P320	マ	10.9	(2.6)		浅黄橙	浅黄橙	細かな砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁部ナデにより直立し、端部尖る。外面口縁ナデ。		
1-6	320	土師器	皿	下 P342	マ	13.8	1.3	11.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙		底部周、口縁周ともわずかに残	底部から外反して開く体部、内底縁部沈線状ナデ痕、扁平な器形。切り離し痕なし。		
1-6	321	土師器	皿	下 P342	マ	17.9	1.6		橙	橙	赤色砂粒入る	底部周、口縁周ともわずかに残	立ち上がり甘い、体部短かく外反、器高低い。外面口縁横方向ナデ。		
1-6	322	土師器	甕	下 P357	マ	25.0	(6.5)		にぶい褐	にぶい褐		口縁わずかに残	屈曲して開く口縁、口縁端部に拡張。外面口縁部接合部横ナデ、胴部タテハケ、内面口縁横ハケ。	全体砂っぽい	
1-6	323	土製品	土錘	下 P394	マ	全長 5.4	全幅 0.95	孔径 0.25				両端部欠損、細長い			重量 4.2g
1-6	324	土師器	皿	下 P345	マ	18.3	1.4	13.2	橙	橙	赤色	底部周、口縁周とも一部残	立ち上がり甘い、口縁長く開く。切り離し痕なし。		
1-6	325	須恵器	蓋	下 P395	マ	15.2	(2.7)		灰	灰	1mm大の砂粒入る	口縁わずかに残	口縁ナデにより直立し、口縁内面ナデにより段状。		
1-6	326	土師器	小杯	SD6005、②	マ	7.1	(1.6)		浅黄橙	浅黄橙		底部周わずかに残、口縁周 1/3 残	直線的に斜めに立ち上がる体部、体部外面強い回転ナデ痕。外内面とも回転ナデ。回転糸切り。		
1-6	327	須恵器	提瓶	SD6005、TR1	マ				灰	灰	白い砂粒多	体部片面残	中央部凹む外面 4 本一単位のカキメ。内面回転ナデ。	7 世紀～	
1-6	328	弥生土器		SK6018	下層		(6.3)	5.6	灰	灰黄褐	砂粒多	底部 2/3 残	器壁薄い。内面横方向ヘラナデ。	胎土から高知県西部地域土器か	
1-6	329	弥生土器		SK6018	マ		(9.2)	5.6	にぶい褐	灰黄褐	砂粒多	底部一部残		胎土から高知県西部地域土器か	
1-6	330	弥生土器	高杯	SK6018	マ		(3.9)	12.6	褐	にぶい黄褐		裾一部残	裾端部拡張凹線文、外面縦文の中に斜格子文。	353 と同一個体、接合ないか図上接合可	
1-6	331	弥生土器	高杯	SK6018	マ		(3.9)	11.2	橙	橙	チャート砂粒入る	裾端部わずかに残	裾端部凹線文。内面横方向ヘラケズリ。	凹線文土器	
1-6	332	弥生土器	底部	SK6020	マ		(3.7)	6.0	にぶい黄橙	褐灰	砂粒多	底部 1/4 残	器壁薄い。	胎土から高知県西部地域土器か	
1-6	333	弥生土器	壺	SK6020	マ、下	10.0	(11.8)		灰	黄褐	砂粒多	口縁 1/2 残	小さな貼付口縁、貼付部全面キザミ、直立する頸部、頸間豆粒状浮文、口縁～豆粒状浮文間薄く弱い櫛描き直線文。	334 の上でない	
1-6	334	弥生土器		SK6020	マ、下		(11.1)	4.5	灰	灰	砂粒多	底部完形	最大径中胴部、器壁薄い表面化粧土状。	高知県西部地域土器	
1-6	335	弥生土器	甕	SK6041		23.0	(3.9)		にぶい黄橙	褐灰		口縁わずかに残	口縁短かく開く、口縁わずかに下に拡張。		
1-6	336	弥生土器	甕	SK6042	上層、最下	10.2	19.8	5.1	明灰褐	明灰褐	砂粒多	完形復元可	口縁貼付なし、筒状の頸部、胴部最大径、中央よりやや上に位置する、器壁薄い、口縁外面キザミ、頸部上部の無文帯の下には弱く細い、櫛描き直線文、櫛描き波状文、微隆起帯、豆粒状浮文が施される。	高知県西部地域土器	
1-6	337	弥生土器	底部	SK6048	マ	4.2	9.7		明赤褐	褐	砂粒多	底部 2/3 残	底部から外反して開く体部。		
1-6	338	弥生土器	壺	SD6011	下層	10.1	(13.0)		橙	橙	赤色砂粒入る	口縁全周残	円筒形の頸部からゆるやかに開く口縁、口縁端部斜面状、口縁外面幅広の凹線、下部二段のハケ状原体押し引きによる疑簾状文。内面シボリ目残る。	凹線文系土器長頸壺	
1-6	339	弥生土器	壺	SD6011	下層	19.0	(2.8)		にぶい黄褐	にぶい黄褐	砂粒多	口縁わずかに残	口縁端部面をなす、貼付、肥厚となし、全面キザミ、端部下より櫛描き文。		
1-6	340	弥生土器		SD6011	下	18.4	(2.1)		明赤褐	明赤褐	チャート粒入る	口縁わずかに残	口縁端部肥厚し、斜面をなす。	口縁端部下煤附着甕か	
1-6	341	弥生土器	壺	SD6011	下層	25.9	(7.0)		灰黄褐	にぶい黄褐	砂粒多	口縁わずかに残	口縁貼付痕ないか肥厚し、端部斜面をなし下端キザミ、口縁櫛描き文、頸部櫛描き。		
1-6	342	弥生土器	甕	SD6011	下層		(12.6)		にぶい黄褐	灰黄褐	砂粒多	胴部一部残	最大径胴部中央に位置する、上胴部に豆粒状浮文、微隆起とその間の櫛描き文、キザミの文様がある。外面縦方向ヘラナデ状。	外面煤附着	
1-6	343	弥生土器		SD6011	下層		(8.9)		黄灰	にぶい黄橙	砂粒多		胴部残、胴部全周残。玉ねぎ形の胴部、頭は細くなる外面文様なし。		
1-6	344	弥生土器	甕	SD6011	下層	20.5	(3.8)		浅黄	にぶい黄橙		口縁わずかに残	口縁大きく開く口縁端部下微隆起にキザミ斜面状の口縁端部、外面微隆起と櫛描き文。	高知県西部地域土器	
1-6	345	弥生土器	高杯	SD6011	下	24.6	(2.0)		橙	赤褐		口縁わずかに残	短かく内傾し、口縁、外面には凹線文。		
1-6	346	弥生土器	甕	SD6011	上層		(4.0)		灰褐	灰褐	砂粒多	上胴部わずかに残	微隆起の間に弱い櫛描き文、下には縦方向微隆起。	高知県西部地域土器	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-6	347	弥生土器	甕	SD6011	下層		(2.6)		橙	にぶい橙	砂粒多	肩部のみわずかに残	微隆起、ヘラ状工具刺突によるキザミ。	
1-6	348	弥生土器	甕	SD6011	下層		(4.9)		灰	にぶい黄橙	砂粒多	上胴部わずかに残	ドーナツ状浮文、微隆起、描き文、うすい粘土帯貼付後キザミの文様。	高知県西部地域土器
1-6	349	弥生土器	甕	SD6011	上		(1.7)		にぶい黄褐	灰黄褐		肩部わずかに残	ドーナツ状浮文、沈線による文様。	
1-6	350	弥生土器	甕	SD6011	マ下層				橙	橙	砂粒多	上胴	豆粒状浮文、微隆起撫描き文、キザミの文様有。	342と同一個体の可能性
1-6	351	弥生土器	甕	SD6011	マ		(8.3)		橙	にぶい黄橙		上胴部わずかに残	微隆起の間に弱い撫描き文横方向微隆起の上に縦方向微隆起。	高知県西部地域土器
1-6	352	弥生土器	甕	SD6011	中層		(6.3)		灰	にぶい黄橙	砂粒多	上胴部わずかに残	沈線による文様。	
1-6	353	弥生土器	高杯	SD6011	下層		(9.8)		灰	にぶい黄橙		脚部全周残	筒状の脚部、杯部と一体成形、外面金属器状のするどい木具で施文多糸沈線一本毎施文、磨歯文。外面杯部粗いタテミガキ、内面シボリ目、ヘラケズリ。	
1-6	354	鉄器	板状鉄器	SD6011	マ	全長6.0	全幅2.5	全厚1.7				うすい鉄板状歪み有		重量 21.5g
1-6	355	須恵器	蓋	SD6001	マ	15.0	(2.5)		灰	灰		口縁周 1/3 残	丸みを帯びて下る口縁、端部わずかに下方に引き出され面をなす。外内面とも回転ナデ。	SD6001と重複
1-6	356	弥生土器		SD6002	マ		(3.5)		にぶい黄橙	にぶい黄橙		胴部わずかに残	斜格子の文様帯有り。	
1-6	357	不明	壺	P6008	マ	8.6	(4.4)		橙	橙	赤色砂粒入る	口縁わずかに残	逆ハの字状の口縁、口縁端部わずかに下方へ拡張。	
1-6	358	土師器	小杯	P6017	マ		(1.6)	5.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな赤色砂粒多	底部周完形	丸みをもち立ち上がる。外面回転ナデ幅狭い。回転系切り。	全体に砂っぽい
1-6	359	土師器	杯	P6017	マ		(1.4)	7.0	浅黄橙	にぶい黄橙		底部周 1/4 残	丸みをもち立ち上がる、内底中央部凹む。外面横、斜方向のナデ、内面見込中央指オサエ後ヨコナデ。回転系切り。	
1-6	360	弥生土器	甕	P6019、バ			(1.4)	5.0	にぶい橙	橙		底部周 1/2 残	わずかにしゃくれた様な底部。外面タテ方向ヘラナデか。	内面煤付着、弥生土器甕か
1-6	361	縄文土器	深鉢	P6106	マ		(3.0)		にぶい黄褐	にぶい黄橙		口縁わずかに残	口縁下断面ゆるやかな三角形の刻目突帯。	
1-6	362	土師質土器	小皿		ホ 2	7.2	2.0	5.0	にぶい橙	にぶい橙		底部周、口縁周 1/2 残	底部から丸みを帯び立ち上がる。外面回転ナデ。回転系切り。	
1-6	363	土師質土器	小皿		ホ 2	6.8	1.5	3.8	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、口縁周とも 1/4 残	平底から開く。外面二段に回転ナデ。回転系切り。	
1-6	364	土師質土器	小皿		ホ 2	7.8	2.0	4.4	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周完形、口縁周 2/3 残	底部立ち上がり外反、体部丸みを帯び開く。外面回転ナデ。ヘラ起し痕。	小さな底部から開く、軽い
1-6	365	土師質土器	小皿		ホ 2	7.35	1.55	4.9	浅黄橙	浅黄橙		底部周完形、口縁周 1/2 残	平底の底部から短かく開く。外内面とも回転ナデ。回転系切り。	埋没時付着物多い
1-6	366	土師質土器	小皿	集中 1	ホ 2	7.0	1.85	4.6	にぶい橙	にぶい橙		底部周完形、口縁周 2/3 残	内底円盤状に盛り上がる。回転系切り。	底部、体部接合痕
1-6	367	土師質土器	小皿		ホ 2	7.8	1.75	5.0	にぶい橙	にぶい橙		底部周、口縁周とも 1/2 残、表面磨耗	わずかに丸みを帯びた体部。外面回転ナデ。回転系切り。	
1-6	368	土師質土器	小皿		ホ 2	7.8	1.65	5.8	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、口縁周とも一部残	平底から短かく開く、扁平。外面回転ナデ。回転系切り後ヘラ起し。	
1-6	369	土師質土器	小皿		ホ 2	7.6	1.5	4.2	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周完形、口縁周 1/2 残	底部からの立ち上がり弱い。外面回転ナデ。わずかにヘラ起し痕残る。	軽い
1-6	370	土師質土器	皿		ホ 2	10.0	1.85	8.0	灰褐	黄灰		底部周、口縁周とも一部残	円盤高台状の底部から直線的に開く。回転ヘラ切り。	
1-6	371	土師器	柱状高台小皿		ホ 2	9.6	2.5	5.2	橙	橙		底部周 1/2 残、口縁周わずかに残、表面風化著しい。	円筒状の柱状高台、皿部浅い。	
1-6	372	土師質土器	柱状高台		ホ 2		(4.0)	5.4	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	柱状高台部完形、口縁なし	高台中央部穿孔、貫通。外面回転シボリ痕。回転系切り後ヘラ起し。	
1-6	373	土師質土器	柱状高台小皿		ホ 2	(7.35)	(3.45)	5.3	灰白	灰白	良	高台周完形、口縁周わずかに残	ハの字の柱状高台に二段底状の穿孔。皿部内面指オサエ時の爪状痕、柱状部外面シボリ状回転痕。回転系切り。	燗台状
1-6	374	土師質土器	杯		ホ 2	10.6	3.6	5.4	浅黄橙	浅黄橙		底部一部残、口縁わずかに残	雑なつくり、口縁ナデにより凹み、つまみ上げ状。外面回転力の弱いナデ。	厚く重い付着物多い
1-6	375	土師質土器	杯		ホ 2	12.2	3.65	6.8	浅黄橙	にぶい橙	細かな赤色砂粒入る	底部周完形、口縁周わずかに残	体部、中央部、外反して凹み、口縁立ちきみ。外面回転ナデ。回転系切り後ヘラ起し。	
1-6	376	土師質土器	杯		ホ 2	12.3	3.8	8.0	黄橙	黄橙	細かな赤色砂粒	底部周、口縁周とも 1/2 残、表面磨耗	口縁つまみ上げ状。回転系切り。	
1-6	377	土師質土器	杯		ホ 2	11.8	3.7	7.2	浅黄橙	浅黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、口縁周とも 1/2 残	口縁端部つまみ上げ状、内底累線状回転痕。外面回転ナデ。回転系切り。	重い
1-6	378	土師質土器	杯	集中 1	ホ 2	11.9	3.7	7.4	灰黄	にぶい黄橙	細かなチャート粒	底部周 1/2 残、口縁周一部残	平底から直線的に立ち上がり、口縁部ナデにより外反きみ。外面回転ナデ。回転系切り。	埋没時付着物多い

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考		
1-6	379	土師質土器	杯		ホ2	11.6	4.0	6.7	黄橙	黄橙	細かな赤色砂粒入る	底部周完形、口縁周わずかに残	突出する円盤高台状の底部、口縁強い回転ナデにより外反。外内面とも強い回転ナデ。静止糸切り。			
1-6	380	土師質土器	杯		ホ2	13.2	4.0	8.0	橙	橙	細かな砂粒多	底部周、口縁周とも一部残	体部下半で屈曲して直線的に開く。外面回転ナデ。回転糸切り。	埋没時付着物多い		
1-6	381	土師質土器	柱状高台杯		ホ2		(3.5)	6.4	浅黄橙	浅黄橙		高台周 2/3 残	ハの字に開く高台状底部、内底大きく凹む、杯部大きく開く。外面回転ナデ。静止糸切りの可能性。			
1-6	382	土師質土器	杯		ホ2	15.2	4.1	7.0	灰白	浅黄橙		底部周完形、口縁周わずかに残	口縁長く外反して開く。外面回転ナデ痕、顕著。ヘラ切りの可能性。	うすく軽い		
1-6	383	緑釉陶器	小椀		ホ2	9.3	3.3	4.5	灰	灰	良	高台完形、口縁周わずかに残	円盤状高台、高台糸切り後「X」のヘラ記号、淡緑色のうすい緑釉、底部露胎。回転ナデ。静止糸切り。	胎土硬陶、京都産、外面釉残存不良		
1-6	384	緑釉陶器	皿		ホ2	11.9	(1.4)		灰オリーブ	灰オリーブ	良	口縁周わずかに残	口縁で外反して開く、濃緑色厚手釉。外内面回転ナデ痕。	軟陶、近江産か		
1-6	385	緑釉陶器			ホ2		(1.5)	6.4	灰オリーブ	灰オリーブ	良	高台周 1/2 残、壘付磨耗	貼付輪高台、濃緑色厚手釉高台見込まで施釉。貼付輪高台。	軟陶、近江産の可能性		
1-6	386	緑釉陶器			ホ2		(2.7)	8.0	濃緑	濃緑	良	高台周 1/2 残	貼付輪高台、有段高台、濃緑色厚手釉、高台外面まで施釉。内面回転痕。貼付輪高台。	軟陶近江産 10 世紀後半か		
1-6	387	緑釉陶器			ホ2		(1.8)	7.8	灰	灰	良	底部周 1/2 残	削出し円盤状高台、円線状に削り、蛇の目状に釉うすく高台外面まで濃緑色施釉。削り出し高台。	粘土硬陶、京都産 10 世紀後半		
1-6	388	灰釉陶器	椀		ホ2		(1.65)	6.8	灰白	灰白	良	高台周わずかに残	高台、外面稜あり、三日月形に近い形、うすい灰釉わずかに残、ほとんど剥落。	灰釉陶器椀 K90 窯式か、搬入、9 世紀後半		
1-6	389	白磁	皿		ホ2	8.0	1.4	5.0	白	白	精良	底部周、口縁周とも一部残	器高低く扁平、内面口縁のみ釉なく、全面施釉。	口先白、白磁皿Ⅹ類 13～14 世紀		
1-6	390	白磁	皿		ホ2	8.7	2.55	5.0	灰白	灰白	精良	底部周、口縁周とも 1/2 残	口縁端部、内面口縁露胎、体部下～底部露胎ピンホール有。回転ケズリ痕。	白磁皿Ⅹ類 13～14 世紀		
1-6	391	青磁	椀		ホ2	15.6	(4.3)		オリーブ灰	オリーブ灰	良	口縁周 1/3 残	片彫り状の蓮弁、鈍弱くほとんどなし。	I-5 類、二次被熱発色悪い		
1-6	392	青磁	椀		ホ2				オリーブ灰	オリーブ灰	精良	口縁周わずかに残	歪み有、蓮弁文、鈍弱い。	青磁椀 I-5 類		
1-6	393	青磁	椀		ホ2		(3.3)	5.8	にぶい黄	にぶい黄	良	高台状 1/2 残	高台内側まで施釉、内面スタンプ文。			
1-6	394	青磁	椀		ホ2		(1.9)	5.1	オリーブ灰	オリーブ灰	良	高台周完形	壘付露体、見込スタンプ文。			
1-6	395	青磁			ホ2	(8.3)	(2.1)	4.8	オリーブ灰	オリーブ灰	良	高台完形	高台断面弱い五角形状、壘付一部まで施釉。			
1-6	396	青磁	椀		ホ2		(3.9)	4.8	オリーブ黄	オリーブ黄	良	高台周一部残	外内面クシ描き文、内面、体部、見込間に段、体部下露胎。	同安窯系		
1-6	397	土師器	羽釜		ホ2	22.1	(7.3)		褐灰	灰黄褐	赤色砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁短かく直立、しっかりした鋳が付く、口縁端部、鋳端部とも凹面状。内面横方向、斜方向指ナデ。	10 世紀代		
1-6	398	土師器	羽釜		ホ2	22.6	(3.3)		にぶい橙	にぶい橙	チャート、赤色砂粒入る	口縁周一部残、表面磨耗	短かく直立する口縁、口縁下、比較的うすい鋳が付く。	粘土、砂っぽくなく、在地産か		
1-6	399	土師器	羽釜		ホ2	20.4	(1.7)		橙	橙	橙	口縁周わずかに残	口縁端部上方に折り曲げ拡張凹面。	煤付着、紀伊型羽釜、13 世紀後～14 世紀初		
1-6	400	瓦質土器	羽釜		ホ2	15.6	(5.1)		灰白	灰白		口縁周わずかに残	口縁と一体化するような小さな鋳が付く。外面口縁下指オサエ、内面ヨコナデ。	器形的には土佐型鍋に近似、14 世紀代か		
1-6	401	瓦質土器	羽釜		ホ2	17.6	(5.7)		黒灰	黒灰		口縁周わずかに残	歪み有、口縁端部面をなす、口縁下小さく雑な鋳が付く。	15 世紀～		
1-6	402	瓦質土器	羽釜		ホ2	25.7	(7.5)		灰	灰	細かな砂粒多	口縁一部残	口縁端部面、口縁下断面、三角形の鋳が巡る鋳雑な貼付。外面横方向に指オサエ。	在地、14 世紀～		
1-6	403	須恵器	片口鉢		ホ2	26.0	(7.2)		浅黄	灰黄	砂粒多	口縁周わずかに残	口縁大きく拡張。外面接合部指オサエ。	二次被熱		
1-6	404	東播系須恵器	片口鉢		ホ2	28.3	5.8		灰	灰	白色砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁上方に拡張、器壁うすい。外内面段状に回転痕。			
1-6	405	東播系須恵器	片口鉢		ホ2	30.4	(6.6)		灰	にぶい黄橙	細かな白色砂粒多	口縁周わずかに残	口縁端部大きく拡張し、三段にナデ、口縁外反きみ。内面口縁回転ナデ、体部斜方向にナデ。			
1-6	406	東播系須恵器	片口鉢		ホ2	16.3	(5.4)		黄灰	黄灰	細かな白色砂粒多	口縁周一部残	小型、口縁端部上方に拡張。回転ナデ痕。			
1-6	407	東播系須恵器	片口鉢		ホ2	16.3	6.7	7.3	灰白	灰黄	9mm 大の角礫入る	底部周、口縁周とも一部残	丸みを帯びた体部、口縁端部上方に拡張。口縁回転ナデ。回転糸切り。	器形、東播系須恵器鉢、小型鉢か		
1-6	408	須恵器	片口鉢		ホ2		(3.5)	9.1	灰	灰	白色砂粒入る	底部周わずかに残	平底。回転糸切り。	東播系須恵器片口鉢底部		
1-6	409	石製品	硯		ホ2	全長 5.0	全幅 4.3	全厚 0.8						粘板岩 or 頁岩	重量 27.3g	
1-6	410	石器	軽石		ホ2	全長 13.6	全幅 8.2	全厚 6.1							軽石整形表面粒子つぶれる	重量 170.3g
1-6	411	土師器	皿		ホ3	13.6	1.6	11.3	浅黄橙	橙	赤色砂粒入る	底部周、口縁周ともわずかに残	立ち上がり甘く、外反して開く口縁。	池沢編年Ⅱ期、平安Ⅱ中～、9 半(後)～		

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-6	412	土師器	皿		ホ 3	14.6	2.0		橙	橙		底部、口縁周とも一部残、表面風化著しい	立ち上がり甘く、外反して開く。切り離し痕なし。	累線状に割れる
1-6	413	土師器	皿		ホ 3	18.4	21.5	12.0	橙	橙	細かな赤色砂粒	高台周、口縁周ともわずかに残	底部端部より内側に高台、口縁外反して水平近く開く。	土師器皿 B 類
1-6	414	土師器	皿		ホ 3		(1.7)	11.8	橙	橙	赤色砂粒多	高台周わずかに残、表面磨耗著しい	底部端近くに高台。貼付輪高台。	土師器皿 B 類
1-6	415	土師器	足高 高台 皿		ホ 3		(3.8)	6.4	橙	橙	赤色砂粒入る	高台周わずかに残、表面磨耗	細い高台、下部で外反。	
1-6	416	土師器	足高 高台 皿		ホ 3	9.8	4.3	5.2	浅黄橙	浅黄橙		高台周ほぼ完形、口縁周わずかに残	直立する輪高台、外反して開く口縁。貼付輪高台、	
1-6	417	土師器	足高 高台 皿		ホ 3	10.6	3.6	7.4	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙		高台周ほぼ完形、口縁周 2/3 残	ハの字に開く、高く、細い高台、皿部口縁大きく外反して開く、浅い体部。	
1-6	418	土師器	杯		ホ 3	10.1	2.65	6.1	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙		底部周完形、口縁周 1/4 残	直線的に開く口縁、器壁厚い。回転ヘラ切り。	
1-6	419	土師器	杯		ホ 3	13.0	2.65	8.1	橙	橙	赤色砂粒入る	底部周 1/2 残、口縁周一部残表面磨耗	体部中央丸みを帯び口縁外反、器壁薄い。回転ヘラ切り。	
1-6	420	土師器	杯		ホ 3	14.2	2.9	8.6	橙	橙	赤色砂粒入る	底部周 1/2 残、口縁周わずかに残	口縁わずかに外反さみ、回転ヘラ切り。	
1-6	421	土師器	杯	中ハ	ホ 3		(2.2)	9.2	黒	浅黄橙	赤色砂粒入る	高台周 1/2 残、表面磨耗	平坦な底部、端部に高台。貼付高台。	内面黒いが磨耗のため黒色土器 A 類か不明、胎土在地のものか
1-6	422	土師器	碗		ホ 3	16.8	4.85	8.5	灰白	浅黄橙	赤色砂粒入る	高台周、口縁周ともわずかに残、表面磨耗	直立する高めの高台、直線的な体部、口縁わずかに外反さみ、底部平坦。外面回転痕。貼付輪高台。	胎土は在地か
1-6	423	土師器	碗		ホ 3	18.2	(4.0)		橙	橙	赤色砂粒入る	口縁周わずかに残	口縁端部水平に開く、外面回転痕で段状の丸みを帯びた体部。外面強い回転ナデ。	
1-6	424	須恵器	杯		ホ 3	11.4	3.75	8.6	灰白	灰	良	底部周 1/2 残、口縁周わずかに残	低い高台、高台凹面状、底部外面「キ」のヘラ記号。外内面回転ナデ。貼付高台。	
1-6	425	須恵器	杯		ホ 3	15.1	5.9	10.1	灰白	灰白		高台周、口縁周ともわずかに残、表面風化著しい	直線的に立ち上がり、口縁外反さみ、深い。	
1-6	426	須恵器	高台		ホ 3		(5.7)	9.25	浅黄橙	浅黄橙	良	裾端部周 2/3 残	小さな脚部、裾部水平に開き部小さく下方につまみ出し面をなす。外内面とも回転痕。	須恵器生焼け、7 世紀代か
1-6	427	黒色土器 A 類	碗		ホ 3		(2.35)	7.0	黒	橙		高台周 1/2 残	径の大きな輪高台。貼付高台。	在地産か
1-6	428	瓦器	碗		ホ 3	14.0		5.0	灰	灰	細かな砂粒入る	高台周完形、口縁周 2/3 残	口縁屈曲し上方に、高台低く扁平な高台。切り離し痕なし、貼付高台。	器形和泉型と異なり在地の可能性
1-6	429	緑釉陶器	皿		ホ 3	12.3	2.7	5.6	灰白	灰白	良	高台周完形、口縁周一部残	蛇ノ目高台、丸みを帯び開く、口縁わずかに外反、外内面釉なし。外面口縁回転ナデ。削出し高台。	釉なし、だが緑釉、灰白色で焼きしめる軟陶の胎土、内面見込重ね焼き痕
1-6	430	緑釉陶器	皿		ホ 3		(1.4)	6.3	灰白	灰白	良	高台周完形	円盤状高台、内側削りこまれる細い圏線有、淡緑色釉のうすい釉全面施釉。削出し高台。	胎土軟陶、京都産
1-6	431	緑釉陶器			ホ 3		(1.3)		オリーブ 灰	オリーブ 灰		高台わずかに残	輪高台、内底見込まで施釉、濃緑色厚手釉。外面回転痕。貼付輪高台。	胎土灰色の軟陶焼きしまり弱い、近江産か
1-6	432	灰釉陶器			ホ 3 (中)		(2.0)	6.0	灰白	灰白	良	高台周わずかに残	高台下半斜面、厚手の灰釉、内面見込蛇の目状高台外面まで施釉。貼付高台。	灰釉陶器搬入、K90 ~ 053 窯式
1-6	433	灰釉陶器			ホ 3		(1.4)	6.8	灰白	灰白	良	高台周わずかに残	高台下半斜面となる、内面見込、釉うすくほとんど残存なし、外面高台まで施釉。貼付輪高台。	灰釉陶器、搬入、K90 ~ 053 窯式
1-6	434	青磁	碗		ホ 3		(2.6)	4.8	灰オリーブ	灰オリーブ	良	高台わずかに残	外面櫛歯文、下半露胎。露胎部ケズリ痕。	同安窯系
1-6	435	青磁	杯		ホ 3		(2.5)		オリーブ 灰	オリーブ 灰	良	高台わずかに残	内底平坦、口縁外反か、内面丸ノミで花弁状に彫られる厚手の釉。	ピンホール、露胎部赤色、龍泉窯杯 III 類か
1-6	436	須恵器	短頸 壺		ホ 3	12.2	4.9		灰白	灰		口縁周一部残	短かく直立さみの口縁、肩部自然釉。内面回転ナデ。	
1-6	437	須恵器			ホ 3		(5.3)	14.5	灰白	灰	5mm 大の角礫入る	高台周わずかに残	内湾さみの高い高台、丸みを帯び開く体部。外面回転ナデ、内面縦横のナデ。	
1-6	438	土師器	甕		ホ 3	17.4	(13.7)		にぶい 橙	にぶい 橙		口縁周わずかに残	口縁直線的に開く、口縁端部、球形の胴部。外面上胴部横方向ハケ、下胴部タタキ、内面口縁屈曲部下ヘラケズリ。	煤付着
1-6	439	土師器	羽釜		ホ 3	19.4	(6.5)		にぶい 黄橙	灰白	赤色砂粒多	口縁周わずかに残	短かく直立する口縁、口縁端部凹み段状、断面台形状、端部は凹面をなし受け口状。内面横方向を基本としたナデ。	搬入の可能性

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-6	440	瓦質土器	羽釜		ホ3	17.6	(6.7)		灰	灰		口縁わずかに残	内傾する口縁、端部は面をなす、小さく雑な鋳。鋳直上ヨコナデ、鋳下部指オサエ。	
1-6	441	土師器	杯	中央バンク	ホ3	9.2	3.0	7.2	灰白	浅黄橙	良	底部周、口縁周とも1/2残	内底中央部、外底からの押圧によりヘソ状に突出。外面回転ナデ、内面口縁回転ナデ、内底突出、周辺ツメ圧痕。ヘラ起し。	
1-6	442	土師器	皿		ホ3下	15.0	2.5	12.2	浅黄橙	にぶい黄橙	良	底部周1/3残、口縁周わずかに残	やや丸みを帯びた底部、口縁後をもち外反。外面口縁回転方向ナデ底部指オサエ。切り離し痕なし。	
1-6	443	土師器	杯		ホ3下	12.4	2.6	7.4	浅黄橙	浅黄橙	良	底部周、口縁周とも1/3残	丸みを帯びた体部、口縁外反。外面口縁回転ナデ。同心円状痕有。	
1-6	444	土師器	皿		ホ3下	14.4	3.5	9.3	橙	橙	赤色砂粒入る	底部周、口縁周とも3/4残、表面磨耗著し	器壁うすい、斜めに立ち上がる。切り離し痕なし。	
1-6	445	土師器	杯		ホ3下	13.5	3.6	8.0	橙	橙	赤色砂粒入る	底部、口縁ともわずかに残	口縁部外反して開く。切り離し痕なし。	
1-6	446	土師器	杯	集中1	ホ3下	13.2	3.6	7.8	浅黄	灰黄	白い砂粒入る	底部周、口縁周ともわずかに残、表面磨耗著しい	器壁うす手、立ち上がり甘い。回転ヘラ切りか。	
1-6	447	土師器	杯		ホ3下	13.0	3.9	7.8	浅黄橙	にぶい黄橙		底部周1/2残、口縁周一部残	内底凹む。外面口縁強い回転ナデ、内底回転方向ナデ。螺旋状痕、ヘラ起し。	
1-6	448	土師器	杯		ホ3下	14.7	5.0	8.3	橙	橙	赤色砂粒多量に入る	ほぼ完形	円盤高台状で突出さみの底部、内底体部直線的に斜め上方に立ち上がり口縁端部で短かく外に引き出す、外面強い回転痕。外面回転痕。ヘラ切りか、切り離し痕なし。	
1-6	449	黒色土器B類	碗		ホ3下		(2.5)	7.2	黒	橙	白色、赤色砂粒入る	高台周わずかに残	内面ミガキ痕残る。貼付輪高台。	在地産か
1-6	450	土師器	碗		ホ3下		(2.2)	6.6	にぶい黄橙	橙	金雲母入る	高台周1/2残	広い底部。	搬入品
1-6	451	須恵器	杯		ホ3下	12.0	3.3	8.0	灰	灰	良	底部周1/3、口縁周わずかに残	直線的に立ち上がる体部。外内面とも回転痕。	
1-6	452	須恵器	杯		ホ3下	12.5	3.6	7.9	灰白	灰白		底部周、口縁周とも1/3残、表面磨耗著しい	斜め上方に立ち上がる、口縁わずかに外反さみ。	
1-6	453	須恵器	皿	中央バンク		16.5	2.3	13.4	灰白	灰白	2mm大の砂粒入る	底部周、口縁周とも1/2残、表面磨耗	口縁、ナデにより屈曲。外内面とも口縁ナデ。切り離し痕なし。	
1-6	454	須恵器	皿		ホ3下	16.6	2.6	13.6	灰白	灰白	良	底部周、口縁周1/3残、表面磨耗	上方に立ち上がり、口縁屈曲、端部つまみ上げ状で、内面段状になる。	
1-6	455	須恵器	皿		ホ3下	15.0	2.2	10.6	灰黄	浅黄	良	底部周1/4、口縁周わずかに残。	口縁端部つまみ上げ状。外、内面とも回転ナデ痕。	底部螺旋状痕。
1-6	456	須恵器	蓋		ホ3下	13.2	(4.2)		灰	黄灰	砂粒入る	口縁周1/4残	丸みを帯びた天井部。外面天井部ケズリ、口縁部回転ナデ。	
1-6	457	緑釉陶器	碗		ホ3下	13.1	(3.3)		灰色	灰色	白色砂粒入る、陶質	口縁周わずかに残	丸みを帯びた体部、口縁外反、濃緑色のうすい釉。	胎土硬陶、京都産か
1-6	458	灰釉陶器	皿		ホ3下	17.0	(1.4)		灰オリーブ	灰オリーブ	良	口縁周わずかに残	うすい灰釉。口縁回転ナデ。	K90窯式か、9世紀後半か
1-6	459	灰釉陶器			ホ3下		(1.3)	6.6	灰オリーブ	灰白	良	高台周わずかに残	高台外面まで施釉、施釉斑状、高台三日月状に近い。輪高台。	9世紀後半、K90窯式か
1-6	460	弥生土器	甕		ホ3下	17.1	(3.9)		橙	橙		口縁1/2残	口縁めらかなに短かく開き、口縁端部で水平近く開く、端部丸く収める。	
1-6	461	弥生土器	高杯		ホ3下		(13.8)	10.8	にぶい橙	橙	チャート粒多	脚端部全部残	裾部凹線文、脚部外面鋸歯文、回転力のある多条沈線文。脚上部シボリ目、回転方向ケズリ。	一体成形、杯底部剥離
1-6	462	石製品	砥石		ホ3	全長16.0	全幅14.1	全厚7.1					砥石、白色泥岩、仕上げ用、表面半面、片側側面仕用、裏面剥離整形	重量2100g
1-6	463	石製品	砥石		ホ3	全長11.5	全幅7.5	全厚3.1					砂岩、表面、片側側面使用、裏面、側面、表面粒子磨減	重量520g
1-6	464	石製品	軽石		ホ3下	全長11.6	全幅9.2	全厚5.2					軽石、断面長方形に成形か、二面平坦	重量103.0g
1-6	465	石製品	砥石		ホ3	全長6.95	全幅4.65	全厚3.8					白色泥岩、仕上げ用、表面、両側面、三面使用、裏面表面粒子磨減、側面線刻状傷あと、端面に十の線刻	重量125.7g
1-6	466	鉄器	鉄鎌		ホ3下	全長6.8	全幅3.6	全厚1.3					雁股鎌の可能性、鋳影れ	重量27.7g
1-6	467	鉄器	鉄鎌		ホ3下	全長9.9	全幅1.9	全厚0.9					基部に無って身幅狭くなり関はみられない	重量17.6g
1-6	468	緑釉陶器	碗		ホ4		(1.8)	6.1	灰白	灰白		高台周1/2残	淡く、うすい釉。削出し輪高台。	白色の胎土、陶質、京都産か
1-6	469	土師器	甕		ホ4	24.3	13.5		にぶい黄橙	にぶい黄橙	細かな砂粒多、雲母入る	口縁一部残	口縁屈曲して開く、口縁端部凹面状、上方へわずかに拡張。外面口縁横方向ナデ体部、指オサエ後、タテハケ、内面口縁横方向ナデ、体部、横方向ナデ。	
1-6	470	弥生土器	底部		ホ5		(5.8)	6.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	砂粒多	底部全周残	器壁薄い。	

調査区	図版番号	種別	器形	出土遺構	層位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	内面色	外面色	胎土	残存状況	形態と特徴	備考
1-6	471	土師器	小皿	TR4		7.5	1.4	6.0	橙	橙	細かな赤色砂粒入る	底部周、口縁周とも1/2残	短かく斜めに立ち上がる、内面体部、底部境なし。回転ヘラ切り後ナデ。	
1-6	472	土師器	皿	TR2		10.3	1.9	7.2	橙	橙	白色砂粒多	底部周、口縁周ともわずかに残	斜めに直線的に開く体部器壁厚い、内面底部体部明瞭でない。切り離し痕なし。	
1-6	473	須恵器	皿	TR6		14.6	1.4	10.3	灰	灰		底部周、口縁周とも一部残	浅い器形、口縁外反。外面回転ナデ。	
1-6	474	須恵器	皿	TR7		14.8	2.3	11.0	灰	灰		底部周、口縁周わずかに残	口縁外反口縁端部つまみ上げ。回転ナデ。	重量 3.3g
1-6	475	黒色土器 B 類		TR6			(1.4)	6.9	黒	橙		高台周わずかに残	断面三角形の高台。	在地産か
1-6	476	土師器	羽釜	TR5		20.8	(2.7)		にぶい黄橙	にぶい黄橙	雲母入る	口縁わずかに残	断面台形状の鋸から短かく立ち上がる口縁、口縁端部面をなし上方を向く。	拱津 C 類

第Ⅷ章 1-7区の調査

上ノ村遺跡1-7区は、新居城城山の南側、仁淀川に沿う谷間平地の中央付近に位置している。現地調査が実施されたのは、平成20(2008)年9月～翌年3月までの約6ヶ月間である。同年度に調査が実施された1-5区、1-6区はそれぞれ南西側と北西側に隣接する。東側から南側にかけては平成18(2006)年度調査の1-1区、1-3区が隣接する。1-7区は台形状の区画のなかの1,530㎡を調査対象としたが、3つの遺構確認面を認めたために延べ調査面積は4,600㎡となった。検出した遺構は、竪穴式住居址1棟、掘立柱建物5棟、溝45条、土坑80基、ピット800基以上である。層序別(上層・中層・下層)の内訳は各節に示した通りである。出土遺物には、弥生時代、古墳時代～古代、中世のまとまりがあり、層序の区分と概ね対応している。

1. 基本層序

基本層序は1-6区に準じる。

最上層は表土で、耕作土と灰白色砂質土が約25cmの厚さで堆積する。灰白色砂質土層を「包含1層」として出土遺物を収拾した。

表土層直下に20cmの厚さで堆積する灰黄褐色粘質砂土層を「上層」とし、層中の出土遺物は「包含2層」出土品として収拾した。出土遺物は中世を中心とする。

上層直下に20cmの厚さで堆積する灰褐色粘質砂土層を「中層」とし、層中の出土遺物を「包含3層」出土品として収拾した。出土遺物は古代を中心とする。

中層直下に30cmの厚さで堆積する黒褐色粘質土を「下層」とし、層中の出土遺物を「包含4層」出土品として収拾した。出土遺物は弥生時代を中心とする。

地表下約100cm以下には基盤層である黄褐色土層が堆積する。

2. 検出遺構と遺物

(1) 上層の遺構と遺物

地表下約25cmに厚さ20cmで堆積する灰黄褐色粘質砂土の上面および層中で確認した遺構である。出土遺物によれば概ね中世の時期にあたる。溝(SD)22条、土坑(SK)30基、井戸(SE)1基、不詳遺構(SX)6基、ピット305基を検出した。以下、主要な遺構について報告する。

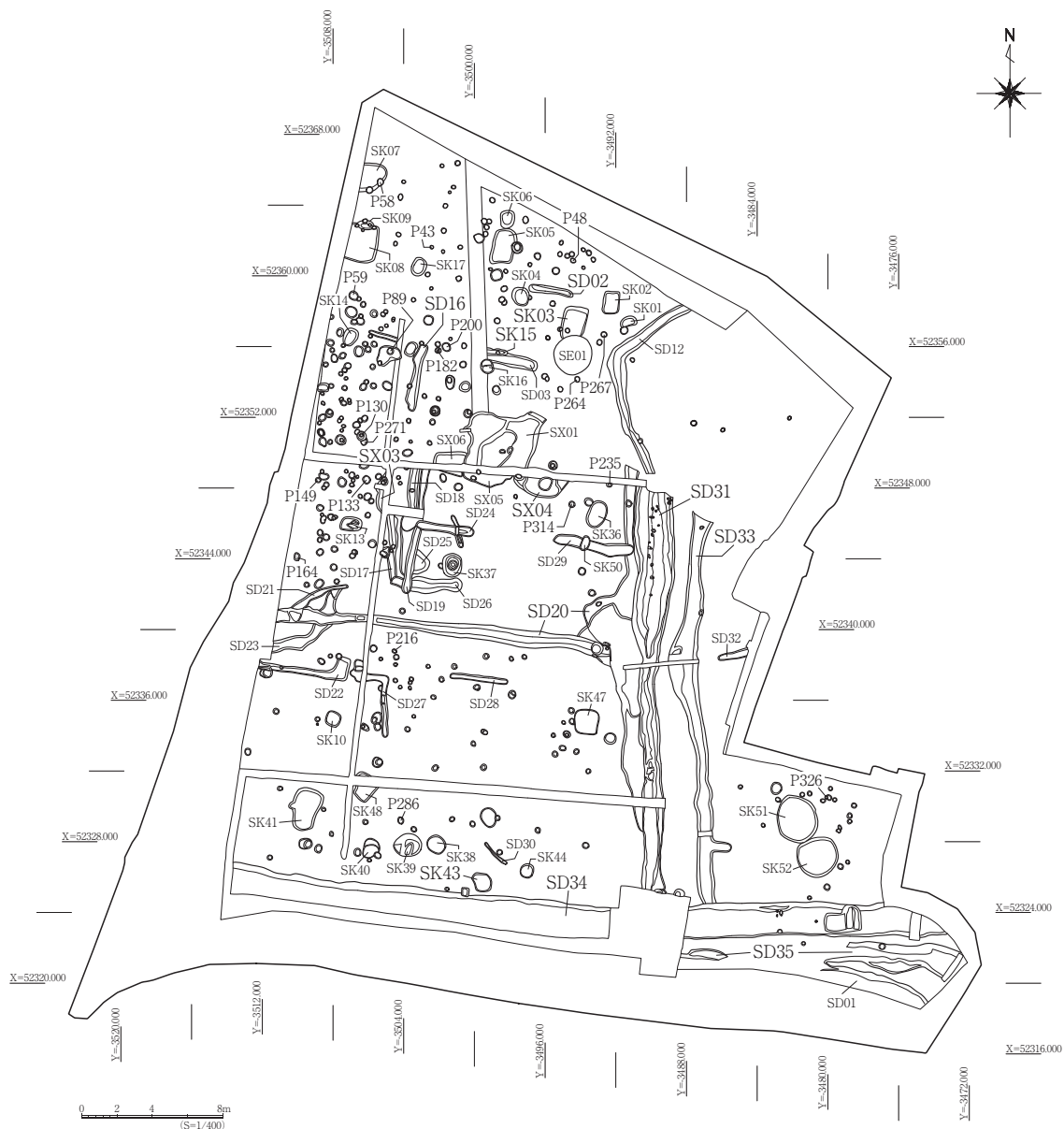
溝(SD)

溝は22条を検出した。長さには1.7m～40.0m、幅には20cm～220cmの違いがある。上層の溝は、中層・下層とは異なり、およそ南北軸に沿う。SD31・33・34等の規模が大きな溝は隣接する調査区から続くもので、辺り一帯の空間を大きく区画する。調査区の間で東西に延びるSD20が大区画を南北に分割する境界溝となり、それぞれ区域が小規模な溝でさらに区画される。

SD02(8-2図)

調査区北縁の中央付近に位置する。長軸方向は東西(N-80°-W)で横断面形はボウル形、規模は長さ253cm、幅43cm、深さ13cmである。埋土は単層で砂礫を含む暗灰褐色粘質土が堆積する。

出土遺物には土錘(1)がある(8-2図)。管状で長さ5.6cm、重さ18.6g、胎土は緻密で、器面調整は縦方向のヘラナデである。



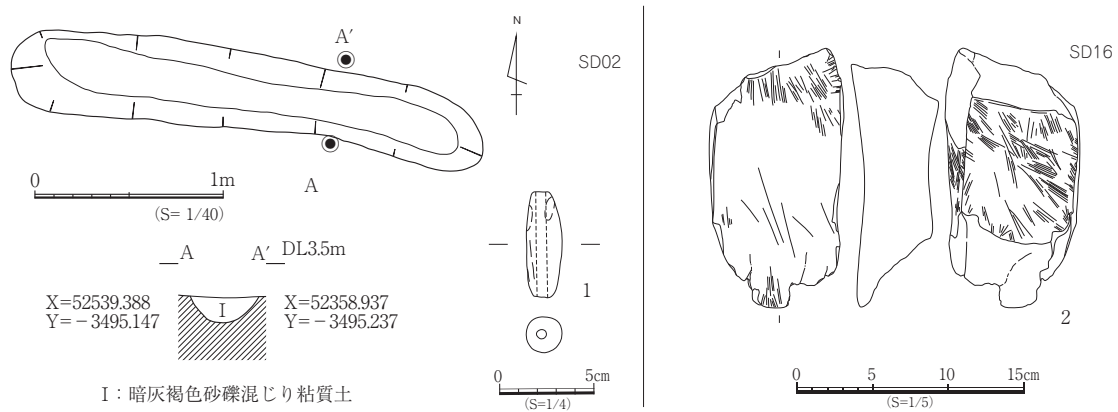
8-1図 1-7区上層遺構配置図

SD16 (8-1図)

調査区の北側西寄りに位置する。長軸方向は南北(N-11°-E)である。長さ379cm、幅58cmである。出土遺物には砥石(2)がある(8-2図)。両端部を欠失し表裏の砥面は弧状をなす。泥岩製で残長17.1cm、幅8.8cm、重さ1.05kgである。

SD20 (8-1・3図)

調査区の間やや南寄りの位置で東西方向(N-2°-W)に延びる溝、およびこの東端に接する直交方向の溝を併せた、全体としてT字形のプランをもつ溝をSD20とした。東西方向の溝は西側でSD21・23を掘削し、南北方向の溝は東側でSD31に削平される。東西方向は20.7mまでを確認し、南北方向は20.8mを確認した。幅は東西方向が約100cm、南北方向は一定せず60~280cmの振幅がある。横断面形は箇所によって異なりボウル形や逆台形を呈する。深さはおよそ40cmである。



8-2図 SD02遺構図・出土遺物、SD16出土遺物

出土遺物には土師質の坏・甕、瓦質の羽釜・播鉢、青磁・白磁などがある(8-3図)。坏には回転糸切り(3)や底部板目痕(4)がみられる。甕の1点は紀伊型(5)で、瓦質の羽釜には河内型(7)がある。青磁は外面に蓮弁文があり(11・12)、白磁は口禿(10)である。

SD31 (8-1・3図)

調査区やや東寄りの位置で南北方向(N-1°-W)に延びる。同方向に延びるSD20を西側縁で掘削し構築された。南側で直交するSD34との重複関係、および北側への延長部分は不明である。横断面形は箇所によってボウル形や逆台形を呈する。幅は最大223cm、深さは36cmで、長さは23mまでを確認した。埋土は単層で細砂混じりの灰褐色土層が堆積する。埋土上部の礫は広範囲に堆積したとみられる礫層の一部で、現地調査時には石列とみなしていた。

出土遺物には瓦質の播鉢(15)、陶器の播鉢(16)、瓦質三足釜の脚部(17)などがあり、また弥生土器(13・14)が混入している(8-3図)。

SD33 (8-1・4図)

調査区やや東寄りの位置でSD31の東側を並走し南北に延びる。北方向への延長は不明、南側は直交するSD34に破壊される。横断面形はやや凹凸のある舟底形である。最大幅は98cm、深さは23cm、長さは21.9mまでを確認した。埋土は単層で、細砂混じりの灰褐色土層に5cm大の礫を少量含む。

出土遺物には河内型の瓦質羽釜(19)があり、また弥生土器・高坏(18)が混入している(8-4図)。

SD34 (8-1図)

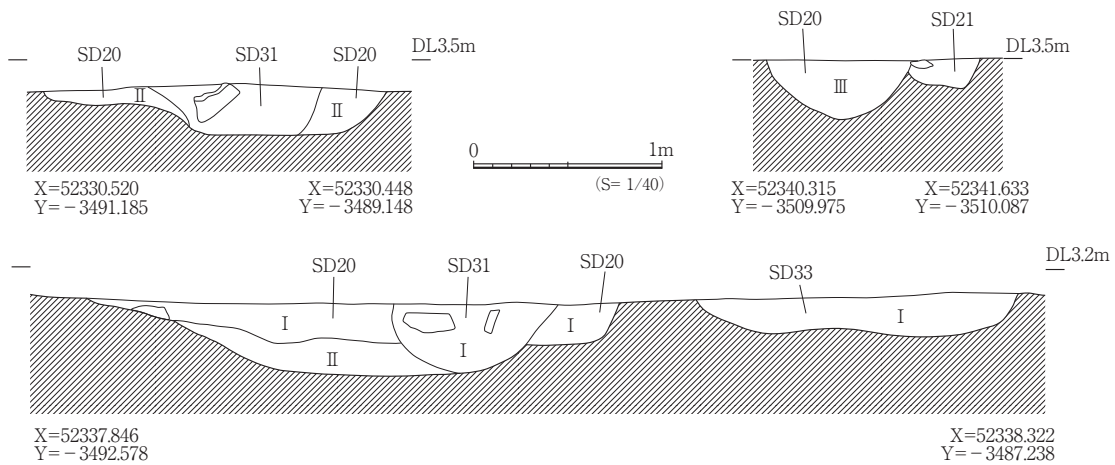
調査区の南縁に位置し、東西方向(N-87°-W)に延びる。中ほどで直交するSD31・SD33を掘削する。最大幅は194cm、長さは39.8mまでを確認し両端は調査区外に延長する。

出土遺物には瓦質鍋、陶器播鉢、青磁碗などがある(8-4図)。瓦質鍋は土佐型(21)で、青磁碗(20)には断面方形の削出し高台が付き、壘付け・高台内にも釉薬が及ぶ。

SD35 (8-1図)

調査区の南縁に位置し、SD34の南側を並走し東西に延びる。南北で同方向に延びるSD34、SD01との重複関係は不明である。東西両端は攪乱に破壊される。最大幅は166cmで、長さは15.26mまでを確認した。

出土遺物には河内型の瓦質羽釜(24)がある(8-4図)。



SD20

I: 灰褐色、細粒砂混シルト、しまり良、粘性強い、5mm 大の微細な風化礫を疎らに含む。

II: 灰褐色、微粒砂混シルト、しまり良、粘性強い。

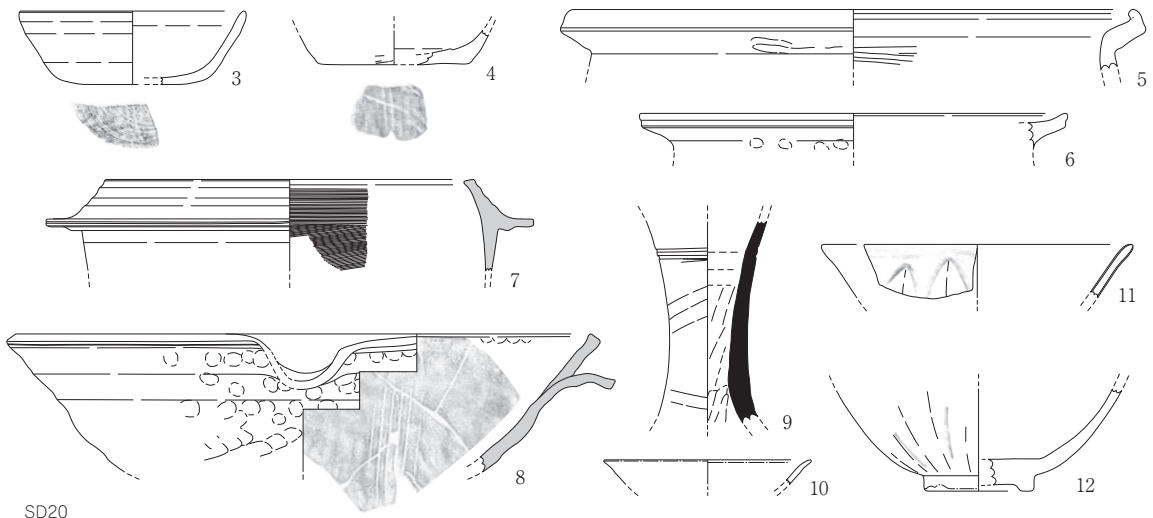
III: 黄褐色細粒砂混シルト、しまり良、粘性低い。

SD31

I: 黄灰褐色細粒砂混シルト、しまり良、粘性なし。黄褐色土ブロック (5~20mm 大の風化礫)・拳~幼児頭大の角礫を多く含む。

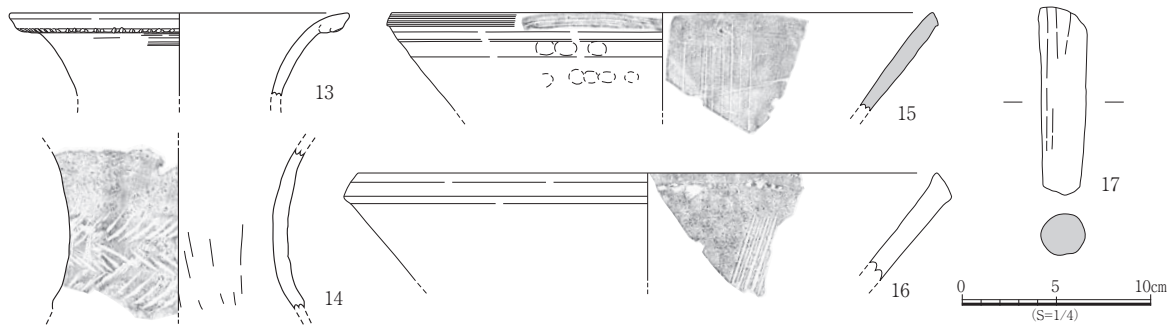
SD33

I: 灰褐色、細粒砂混シルト、しまり良、粘性強い、50mm 大の礫を疎らに含む。

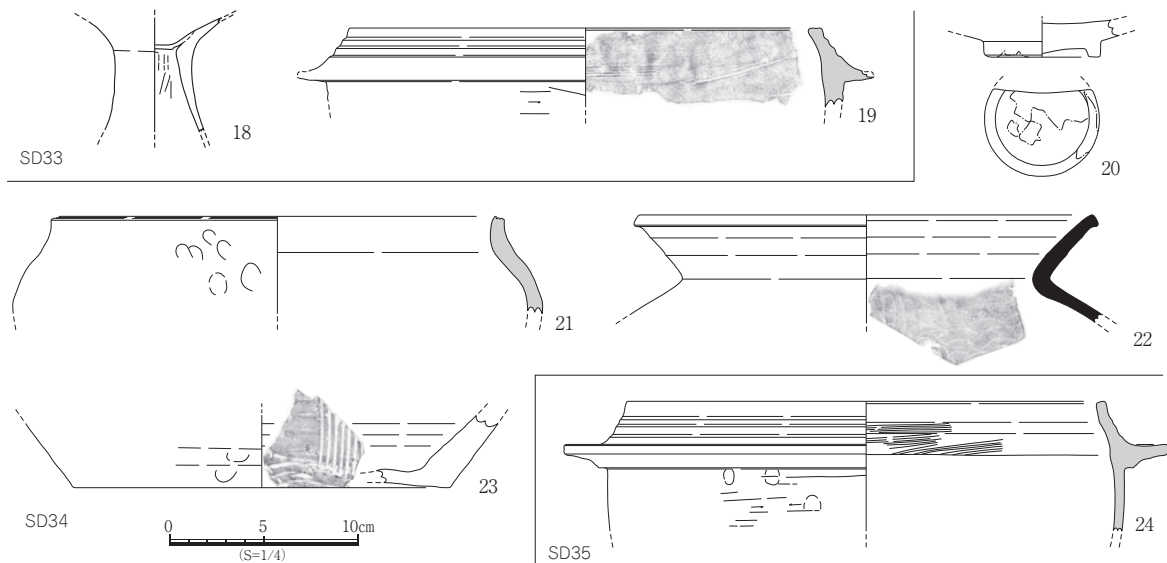


SD20

SD31



8-3図 SD20・31土層断面図・出土遺物



8-4図 SD33・34・35出土遺物

土坑(SK)

上層では30基の土坑を検出した。大部分が歪な不整形である。うち方形系は6基、円形系は15基で、規模には最大長で82～281cmの違いがある。掘り方は浅いものは弓形、深いものには逆台形が多い。

SK03(8-5図)

調査区北側の中央付近に位置する。軸方向はおよそ南北で、平面形は隅丸方形、断面形は弓形である。南縁をSE01に削平され、またP169・P198・P269に掘削される。規模は、残長189cm、幅136cm、深さ15cmである。埋土は単層で、砂礫混じりの暗灰褐色粘質土が堆積する。また埋土中のやや浮いた位置から石や炭化物がまばらに出土した。

出土遺物には須恵器の坏蓋(25)がある(8-5図)。裾径17.7cmで端部は下方に突出する。頂部にはヘラ削りが施される。

SK15(8-5図)

調査区北側の中央付近に位置する。軸方向は東西で、平面形は楕円形、断面形は弓形である。軸方向を同じくするSD03の上部を掘削する。西側は攪乱に削平される。規模は残長117cm、幅38cm、深さ19cmである。

出土遺物には土師質坏(26)がある(8-5図)。底径6.4cm、底部側縁に擦過状のナデ調整がみられる。

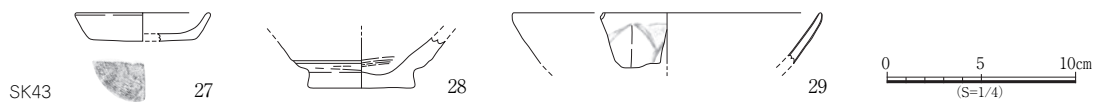
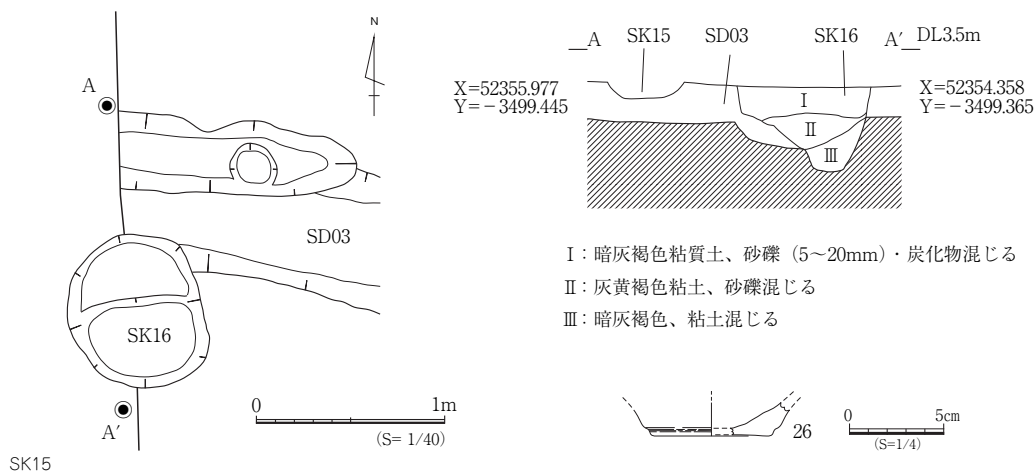
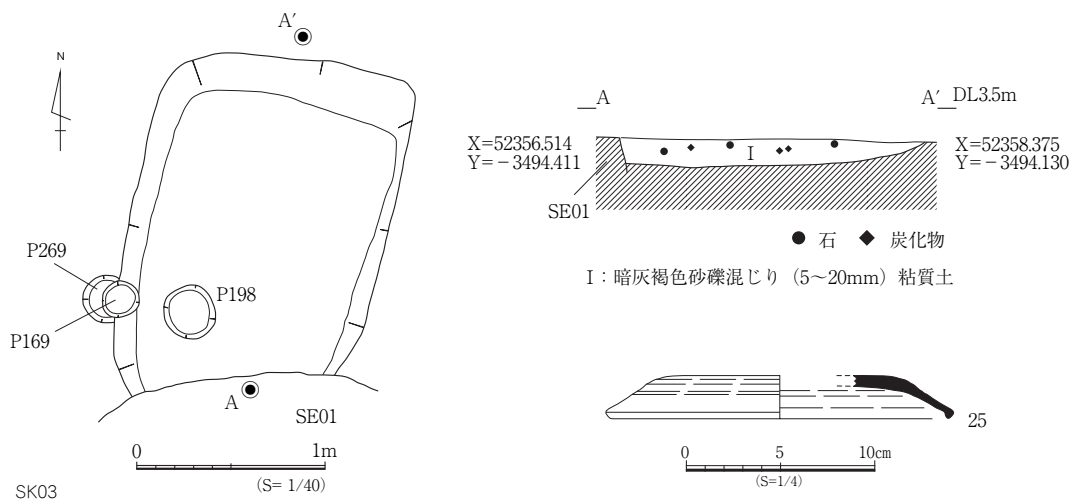
SK43(8-1図)

調査区南側の中央付近に位置する。不整形でやや南北に長い。規模は126×104cmである。

出土遺物には土師質小皿・埴、青磁碗がある(8-5図)。小皿(27)は口径7.0cmで底部は回転糸切りである。土師質埴(28)は底部が円盤状で坏部下端に圈線がめぐる。青磁碗(29)は口径16.3cmで外面に蓮弁文をもつ。

その他の遺構

不詳遺構(SX)6基、井戸(SE)1基を検出した。不詳遺構は調査区中央やや北寄りに群在し、一定範囲を占有する。



8-5図 SK03・15遺構図・出土遺物、SK43出土遺物

SX03 (8-1図)

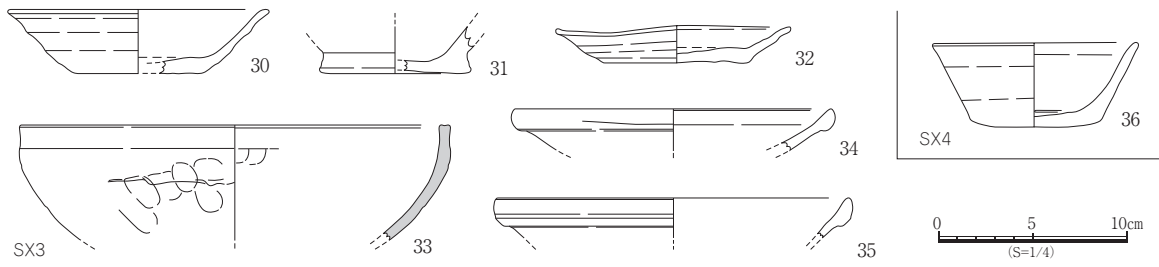
調査区中央やや西寄りに位置する。群在する他の不詳遺構とは若干の距離を置く。攪乱に削平されて遺構の縁辺がわずかに残るのみであり、本来の形状は窺い知れない。

出土遺物には土師器坏、瓦質鍋、白磁碗などが混在する(8-6図)。坏には回転ヘラ切り(32)があり、白磁碗の2点(34・35)はいずれも玉縁状口縁である。

SX04 (8-1図)

調査区中央付近、不詳遺構集中箇所東縁に位置する。北半部を攪乱に削平される。不整形で残存部分の最大長は280cmである。

出土遺物には土師器坏(36)がある(8-6図)。口径10.9cm、やや軟質である。



8-6図 SX03・04出土遺物

ピット

上層では305基のピットを検出した。任意に抽出し出土遺物について述べる(8-7図)。

P43

調査区の北西側に位置する。須恵器・長頸壺(37)が出土した。口径7.8cmの口縁部片である。

P48

調査区の北縁に位置する。土錘(38)が出土した。管状で長さ5.8cm、幅2.2cm、重さ23.4gである。

P58

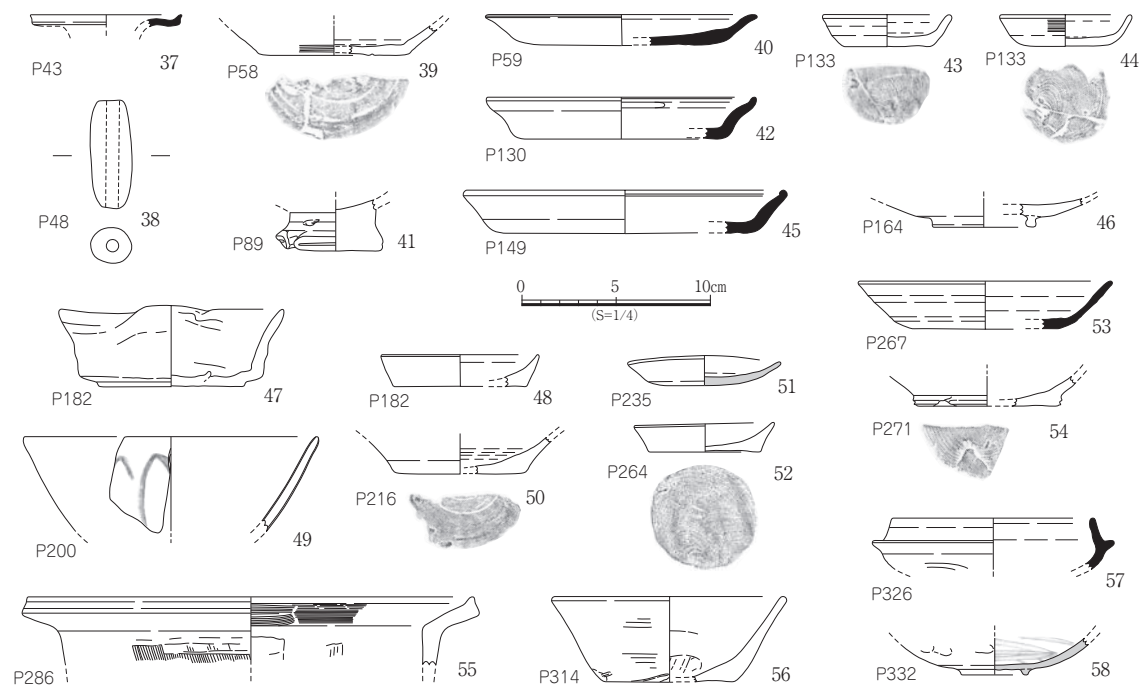
調査区の北西隅に位置する。土師器坏(39)が出土した。底径7.8cm、底部は回転ヘラ切りである。

P59

調査区北西部の西壁沿いに位置する。須恵器・皿(40)が出土した。軟質で内面にナデによる凹凸がみられる。

P89

調査区の北西部に位置する。土師器坏の脚台部(41)が出土した。脚部中位にナデ・ユビオサエによる凹面がめぐる。下端には断続的に圈線がめぐる。



8-7図 上層ピット出土遺物

P130

調査区西壁沿いの中央やや北寄りに位置する。須恵器・皿(42)が出土した。軟質で口縁はS字状に屈曲する。

P133

調査区西壁寄りの中央付近に位置する。土師質小皿が2点(43・44)出土した。いずれも口径は約7cmで、底部は糸切りである。44の方がやや丸みを帯びる。

P149

調査区西壁寄りの中央付近に位置する。須恵器・皿(45)が出土した。口縁は外反し端部が内側に丸く突出する。

P164

調査区西壁よりの中央付近に位置する。土師質埴(46)が出土した。貼付高台を持つ底部片である。

P182

調査区北西部に位置する。土師器坏(47)、土師質小皿(48)が出土した。坏は口径11.8cm、口縁が大きく歪む。小皿は口径8.4cm、底部回転糸切りである。

P200

調査区北西部に位置する。青磁の口縁部(49)が出土した。外面に蓮弁文を持つ。

P216

調査区中央やや西南寄りに位置する。土師器坏(50)が出土した。軟質で口径8.0cm、底部は回転ヘラ切りである。

P235

調査区中央やや北東寄りに位置する。瓦器・小皿(51)が出土した。口径8.0cm、手捏ねで成形される。

P264

調査区北部に位置する。土師質・小皿(52)が出土した。口径7.4cm、底部は回転糸切りである。

P267

調査区北部に位置する。須恵器・坏(53)が出土した。口径13.4cmの口縁部片である。

P271

調査区西壁沿いの中央やや北寄りに位置する。P130に削平される。土師質坏(54)が出土した。底部片で底径7.8cm、回転糸切りである。

P286

調査区南部やや西寄りに位置する。土師質甕の口縁部(55)が出土した。口縁はくの字に外折し口唇部は上方に突出する。

P314

調査区中央部に位置する。土師質坏(56)が出土した。口径12.4cm、全面ナデ調整である。

P326

調査区東南部に位置する。須恵器・蓋坏(57)が出土した。口径10.6cm、口縁はやや内傾する。

P332

瓦器埴(58)が出土した。底部片で底径は3.6cm。外面はナデ調整、ユビオサエで、内面には暗文が施文される。微弱な高台が付く。

(2) 中層の遺構と遺物

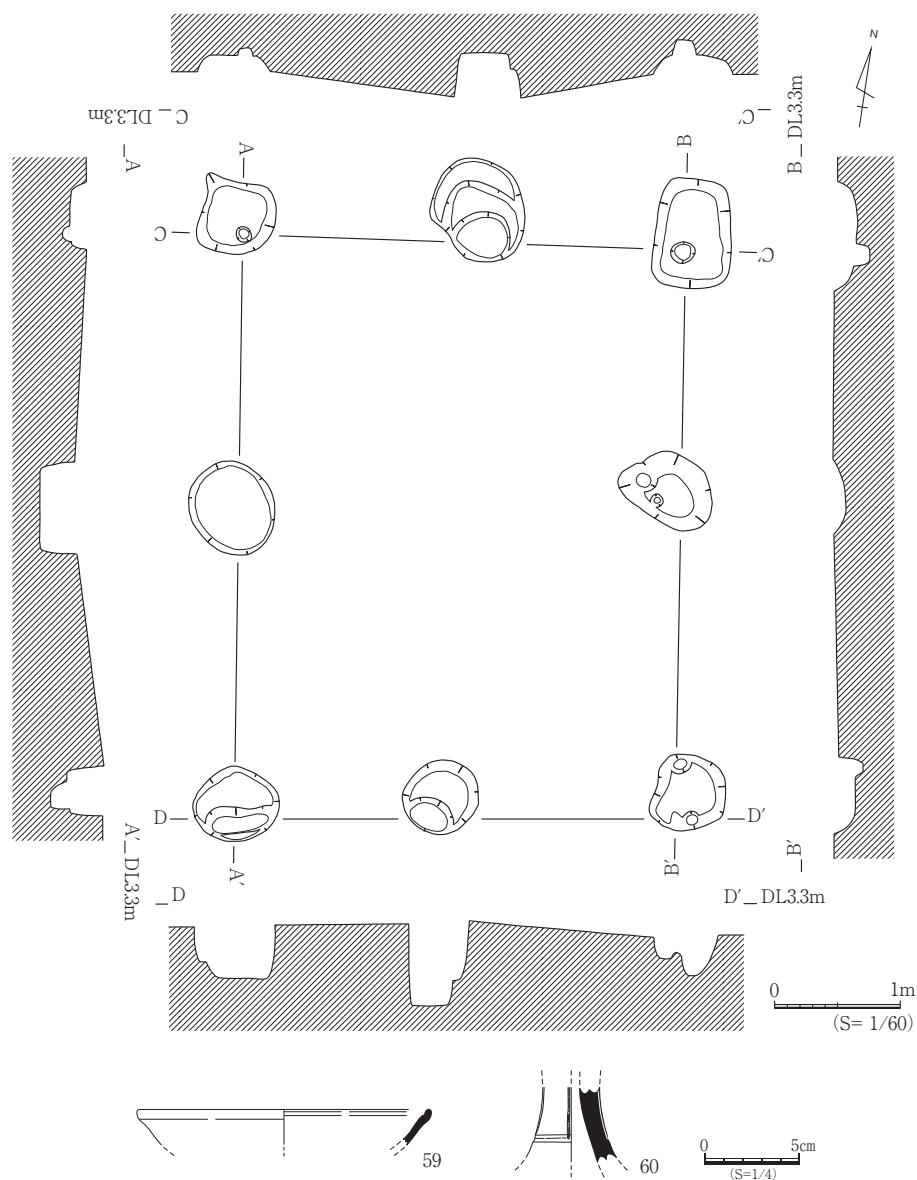
中層は地表下約45cmに厚さ20cmで堆積する灰褐色粘質砂土層上面および層中で確認した遺構である。出土遺物によれば概ね古代の時期にあたる。中層では、掘立柱建物2棟、溝15条、土坑25基、ピット408基を検出した。ピットは調査区内に万遍なく分布するが、掘立柱建物が位置する北半部には、掘立柱建物以外の遺構が乏しく、溝や土坑は北縁と南半部にやや偏る傾向がある。以下、任意で主要な遺構を取り上げ詳細を報告する。

掘立柱建物(SB)

中層では2棟の掘立柱建物を検出した。2棟は中心間の距離が約12m離れている。一方は二間×二間(SB02)、もう一方は二間×四間(SB03)と規模が異なり、また軸方向も約18度ずれる。出土遺物は極めて少ないが、遺物の製作時期には大きな隔たりがない。



8-8図 中層遺構配置図



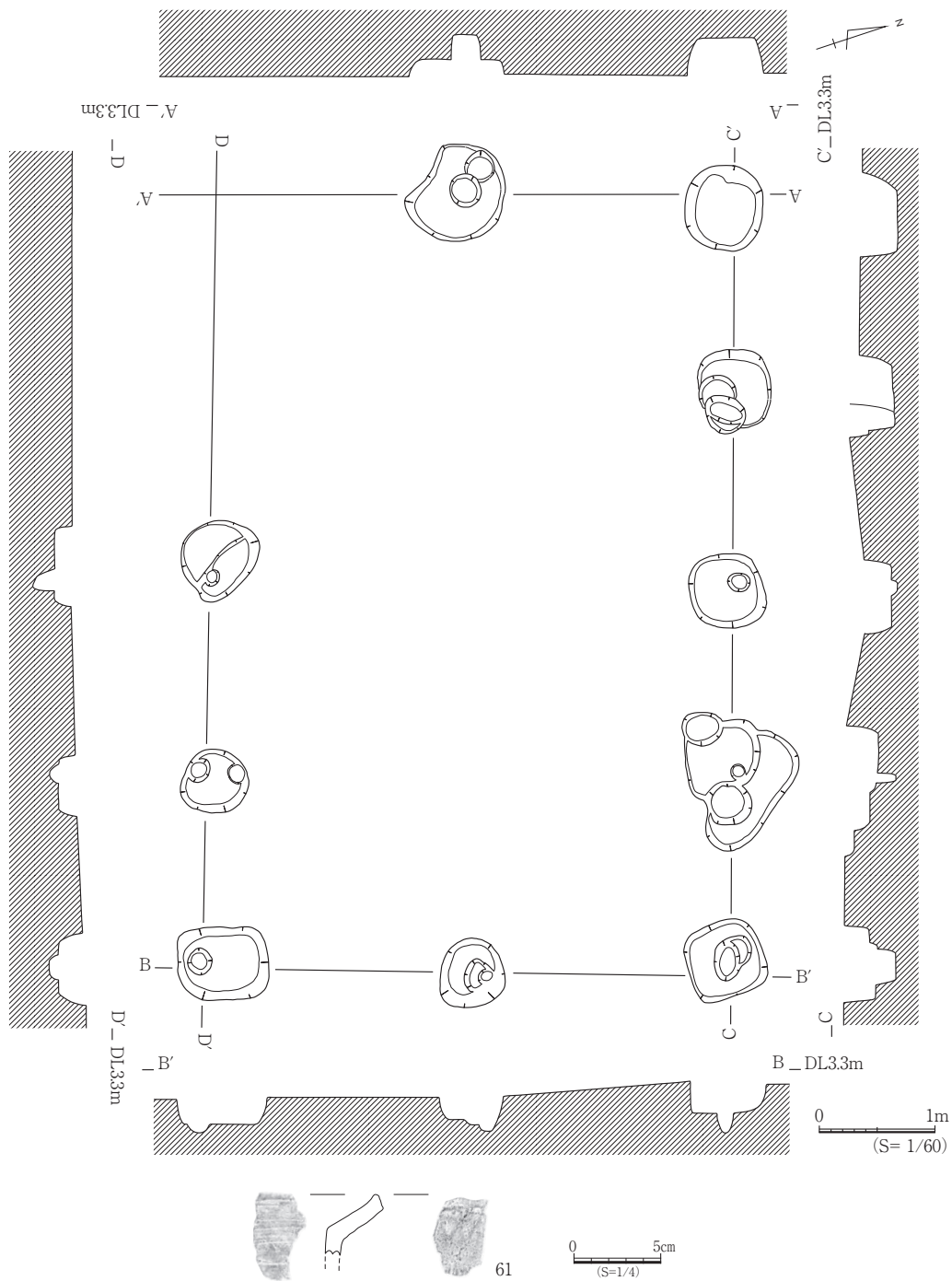
8-9図 SB02遺構図・出土遺物

SB02 (8-9図)

調査区の北西部に位置する。およそ南北方向(N-8.5°-W)に軸を持つ二間×二間(460×350cm)の掘立柱建物である。中層の3基(北梁中(中P18)、南梁中(中P154)、南梁西(中P157))に、下層の5基(東桁北(SK34)・中(下P19)・南(下P21)・西桁北(下P27)・中(下P04))を加え、図上で復元した。柱痕跡間の距離は、桁行に199~255cmの振幅があり平均230cm、梁間は151~202cmの振幅があり平均175cmである。

8基の柱穴は各様で、平面形には円形、不整形、隅丸長方形や無花果形などがある。柱穴の規模は最大長に57~87cmの差があり平均は71cmである。掘り方には2種類があり、1つは平坦な底面に径10~20cmの小孔(深さ10cm)を穿ち、また1つは中位に段をもち底面が一段深い。深さは、削平により一定しないが確認面から最深部までが11~66cmである。

出土遺物には須恵器の皿や高坏がある。皿(59)は口径15.3cm、口縁内縁に沈線が廻る。高坏(60)は脚部片で四等分位置に垂下沈線が、下部に圈線が施文される。



8-10図 SB03遺構図・出土遺物

SB03 (8-10図)

調査区の中央付近に位置する。やや南に触れた東西方向(N-63.9°-E)に軸を持つ二間×四間(670×450cm)の掘立柱建物である。中層で検出した5基(西梁中(中P509)・北桁中を除く4基(西から中P164・中P163・SK64・中P205))に、下層で確認した5基(北梁中、東梁中(下P01)・南桁の3基(西から下P11・下P08・下P09))を加え、図上で復元した。ただし南桁西の2基分は確認できていない。各柱穴の柱痕跡間の距離をみると、桁行には150～171cmの振幅があり平均が164cm、梁間には212～243cmの振幅があり平均が228cmとなる。

10基の柱穴はやや歪なものもあるが概ね隅丸方形を呈する。最大長には56～87cmの違いがあり平均68cmである。壁は垂直に近く、平坦な底面のやや偏った位置に径15～30cmの小孔(深さ10～20cm)が穿たれる。深さは削平により一定しないが、確認面から最深部までが22～50cmである。

出土遺物には土師質甕(61)がある。くの字に外折した口縁部片で端部が上方に突出する。

溝(SD)

中層では15条の溝を検出した。上層の溝がおよそ南北軸に沿っていたのに対して、中層の溝は軸を北西-東南方向に取る。長さには2.3～35.0m、幅には34～118cmの違いがある。調査区の西南部では、東南方向に軸を取るSD36やSD37による区画のなかをSD38やSD40が方形に小区画している。調査区北側には小区画が顕著でない。

SD39(8-8図)

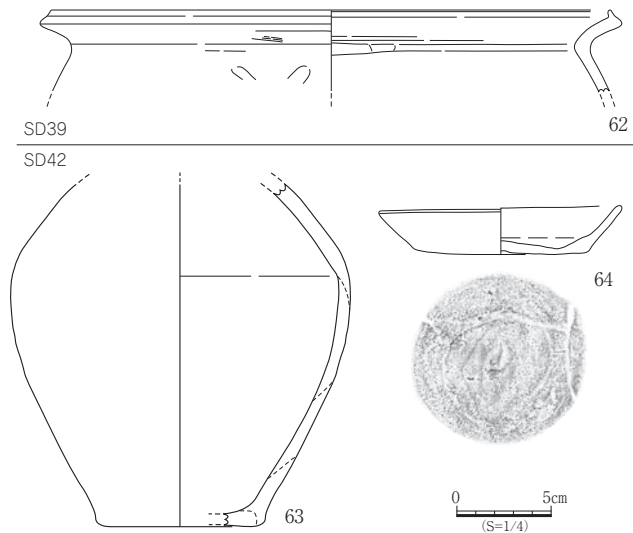
調査区の中央やや南寄りに位置する。平面プランは鉤形で、東西(N-82°-W)の長さ960cmで、西端が南に90度折れ340cm延びる。幅は約70cmである。SD36やSD37と接するが、先後関係ははっきりしない。

出土遺物には紀伊型の土師質甕(62)がある。口縁はくの字に外折し端部を内方に折り返す。折返し部分は外反気味に突出する。

SD42(8-8図)

調査区の中央やや北寄りに位置する。軸方向は東西(N-79°-E)で、長さ320cm、幅34cmである。重複関係はない。

出土遺物には弥生土器(63)と土師器皿(64)がある。弥生土器は頸部以上を欠いた壺形土器で文様はない。土師器皿は口径12.8cmで、底部は回転ヘラ切りである。



8-11図 SD39・42出土遺物

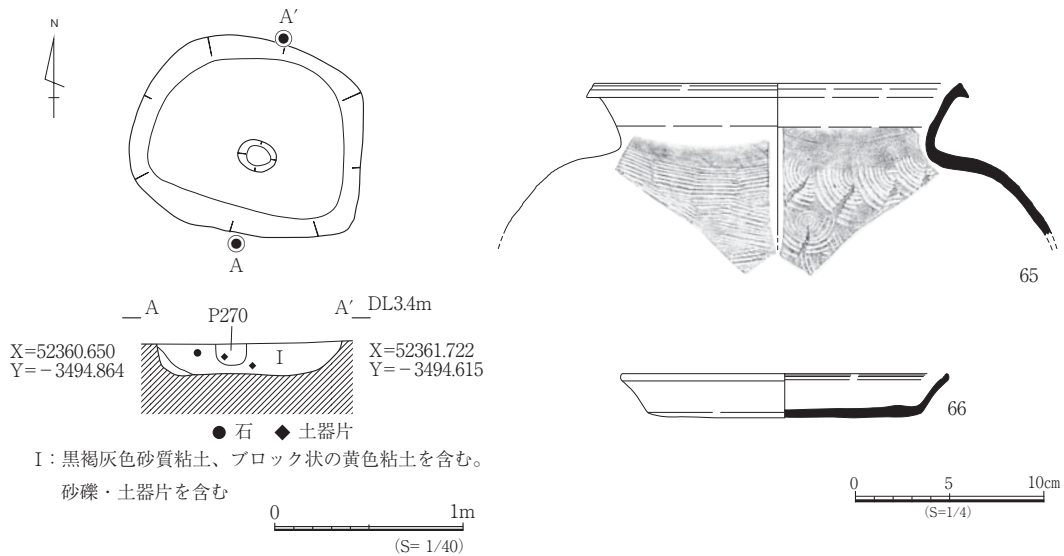
土坑(SK)

中層では25基の土坑を検出した。平面は多くが不整形であるが、元は隅丸方形が主であったかと思える。規模は最大長に51～291cmの違いがある。掘り方断面は弓形、ボウル形、逆台形と様々で深さには12～72cmの違いがある。調査区の中央付近に少なく南北両側でまばらに分布する。

SK23(8-12図)

調査区北縁中央付近に位置する。平面形はやや歪な隅丸方形、軸方向は北西(N-74°-W)で、長さ121cm、幅103cmである。断面形は皿形で深さ16cmである。P270に埋土上部を掘削される。埋土は黒褐灰色の砂質粘土でブロック状の黄色粘土を含む。埋土中のやや浮いた位置から石や土器片が出土した。

出土遺物には須恵器壺(65)・皿(66)がある。壺は口縁が断面三角形の二重口縁、胴部外面に平行タタキ目、内面に同心円当て具痕がみられる。皿は外反する口縁端部が小さな段を持って上方に立ち上がる。



8-12図 SK23遺構図・出土遺物

SK31 (8-13図)

調査区北端西寄りに位置する。軸を東北方向(N-30°-E)に取る浅い楕円形坑の底面南寄りに70cm大の不整形坑を掘削する。断面は朝顔状に開くU字形を呈する。上段の楕円形坑は北縁が攪乱に削平され、東側で中P86を掘削する。規模は残長122cm、幅102cm、深さ52cmである。埋土は二層からなる。I層は灰褐色粘質土で黄土塊や黒褐色粘質土塊を含む。II層は上段楕円形土坑隅の三角堆積である黒褐色粘質土である。

出土遺物には須恵器坏(67)がある。器面は酸化し赤褐色を帯びる。

SK60 (8-8図)

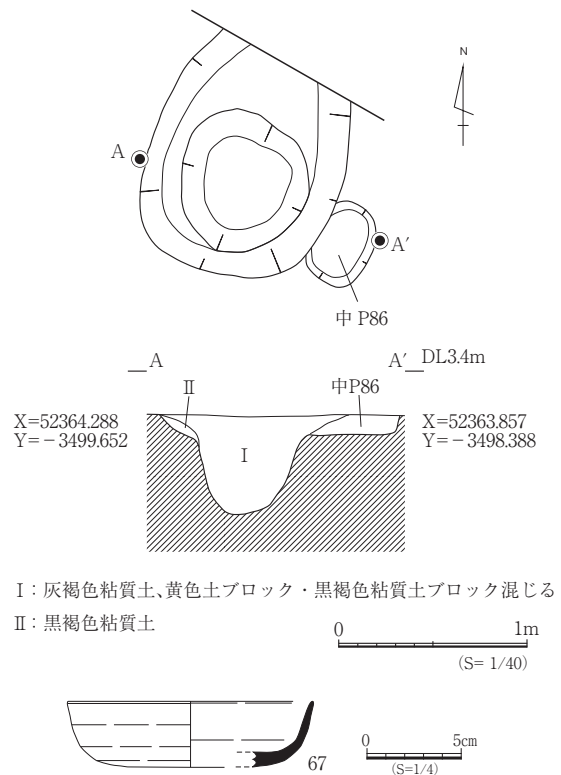
調査区の南中央付近に位置する。軸方向を東西にとる隅丸方形の土坑である。東側はSD36に削平される。規模は残長146cm、幅137cmである。

出土遺物には弥生時代の石包丁(68)がある(8-14図)。頁岩製で、刃部が直線的な櫛形、二孔は両側からの穿孔、刃部は片刃ないし偏両刃である。長さ9.8cm、幅3.9cm、重さ42.3gである。二孔の軸方向に対して刃部は傾いている。

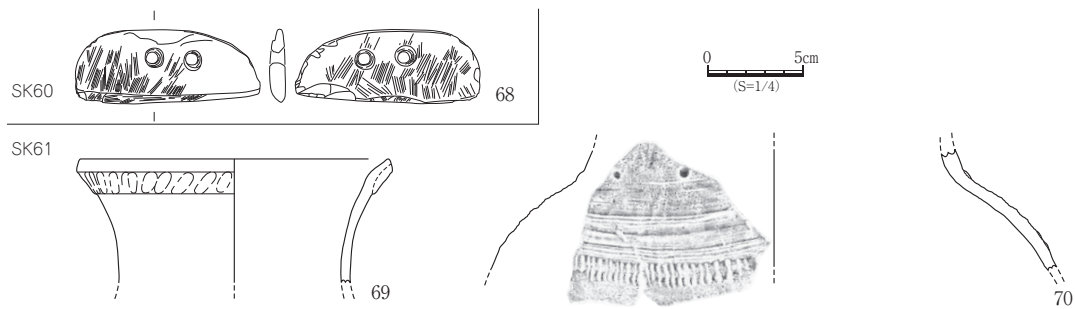
SK61 (8-8図)

調査区の南中央付近に位置する。不整形で規模は178×166cmである。重複関係はない。

出土遺物には弥生土器がある(8-14図)。いずれも甕で口頸部(69)は幅広の二重口縁に規則的なユビナデがめぐり、胴部片(70)には円形浮文を含む微隆起文・櫛描文の反復文、縦刺突文がめぐる。



8-13図 SK31遺構図・出土遺物



8-14図 SK60・61出土遺物

ピット

中層では408基のピットを検出した。任意に抽出し出土遺物について述べる(8-15図)。

中P34

調査区の北中央付近に位置する。青磁碗(71)が出土した。口径15.5cm、外面に蓮弁文をもつ。貫入が多く色調が暗い。

中P40

調査区の北中央付近に位置する。土師器坏(72)が出土した。口径9.9cm、焼成後穿孔、底部は静止糸切りか。

中P52

調査区の北中央付近に位置する。土師器小皿(73)が出土した。口径9.1cm、底部は回転ヘラ切りである。

中P53

調査区の北中央付近に位置する。須恵器坏(74)が出土した。底部片で底径10.0cm、貼付高台はハの字に開く。

中P68

調査区北壁沿い東寄りに位置する。土錘(75)が出土した。やや軟質で長さ6.6cm、重さ45.6gである。

中P70

調査区北壁沿い東寄りに位置する。須恵器碗(76)・緑釉陶器碗(77)が出土した。76は口径15.7cm、底部は静止糸切りである。77は口径13.9cm。

中P97

調査区中央北寄りに位置する。土師質坏(78)が出土した。口径11.8cm、口縁端に段、底部は回転糸切りである。

中P102

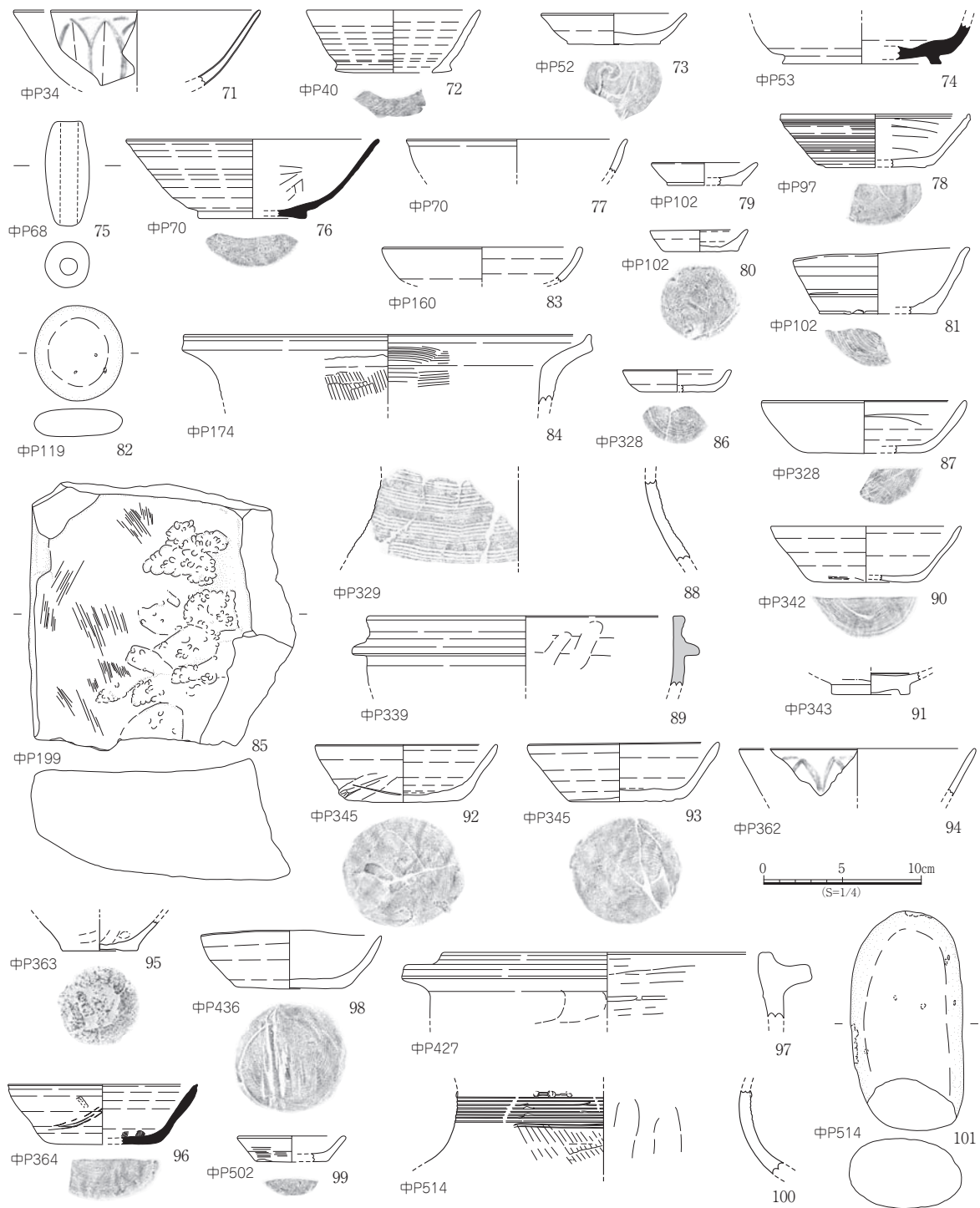
調査区北中央付近に位置する。土師質小皿(79・80)・坏(81)が出土した。79は口径6.8cmで軟質、80は口径6.2cmで底部は回転糸切り、81は口径11.2cmで口縁は歪み底部は回転糸切りである。

中P119

調査区北西寄りに位置する。扁平礫(82)が出土した。花崗岩製で表裏面とも平坦である。長さ6.0、重さ89.8g。

中P160

調査区中央西寄りに位置する。土師質坏(83)が出土した。口径12.7cm。



8-15図 中層ピット出土遺物

中P174

調査区中央西寄りに位置する。土師質甕(84)が出土した。口径26.0cm、口縁はくの字に外折し口唇が上方に突出する。

中P199

調査区中央付近に位置する。砂岩製の台石(85)が出土した。長さ17.0cm、重さ3.25kg。凹面には敲打痕がみられる。

中P328

調査区中央付近に位置する。土師質小皿・坏が出土した。小皿(86)は口径6.9cm、底部回転糸切りである。坏(87)は口径13.0cm、底部回転糸切りである。

中P329

調査区中央付近に位置する。弥生土器甕(88)が出土した。胴部片で、一定の間隔を置いて櫛描文4条がめぐる。

中P339

調査区の中央やや北寄りに位置する。瓦質羽釜(89)が出土した。口径20.0cm、口縁は若干肥厚し、鏝の張り出しが小さい。

中P342

調査区の中央やや北寄りに位置する。土師質坏(90)が出土した。口径11.9cm、底部は回転糸切りである。

中P343

調査区の中央やや北寄りに位置する。白磁碗(91)が出土した。底部片で底径5.0cm、見込みに圏線が施文され、削出し高台を持つ。高台周辺は無釉である。

中P345

調査区の中央やや北寄りに位置する。土師質坏(92・93)が出土した。92は口径11.6cm、93は口径12.2cmでいずれも底部回転糸切りである。

中P362

調査区中央付近に位置する。青磁碗(94)が出土した。口径14.9cm、外面に蓮弁文を持つ。色調が明るく質は滑らかである。

中P363

調査区中央付近に位置する。弥生土器底部片(95)が出土した。底径4.8cm、底部外面に高台状の小さな段差がある。

中P364

調査区中央付近に位置する。須恵器坏(96)が出土した。口径12.0cm、底部は回転糸切りである。

中P427

調査区中央南寄りに位置する。土師質羽釜(97)が出土した。口径20.1cm、口縁からやや下がり、厚い鏝が付く。

中P436

調査区中央南寄りに位置する。土師質坏(98)が出土した。口径11.4cm、底部は回転糸切り後ヘラ切りされる。

中P502～504

調査区中央北寄りに位置する。3基のピットが連なる。土師質小皿(99)が出土した。口径6.9cm、軟質で底部は回転糸切りである。

中P514

弥生土器甕(100)と敲石(101)が出土した。甕は頸部に粗い櫛描文と円形浮文がめぐる。敲石は花崗岩製で長さ14.0cm、重さ670gである。

(3) 下層の遺構と遺物

下層は地表下 65cm に厚さ 30cm で堆積する黒褐色粘質土層上面ないし層中で確認した遺構である。出土遺物によれば、概ね弥生時代にあたる。下層では、竪穴式住居(ST) 1 棟、掘立柱建物(SB) 3 棟、溝(SD) 8 条、土坑(SK) 25 基、不詳遺構(SX) 1 基、ピット 113 基を検出した。

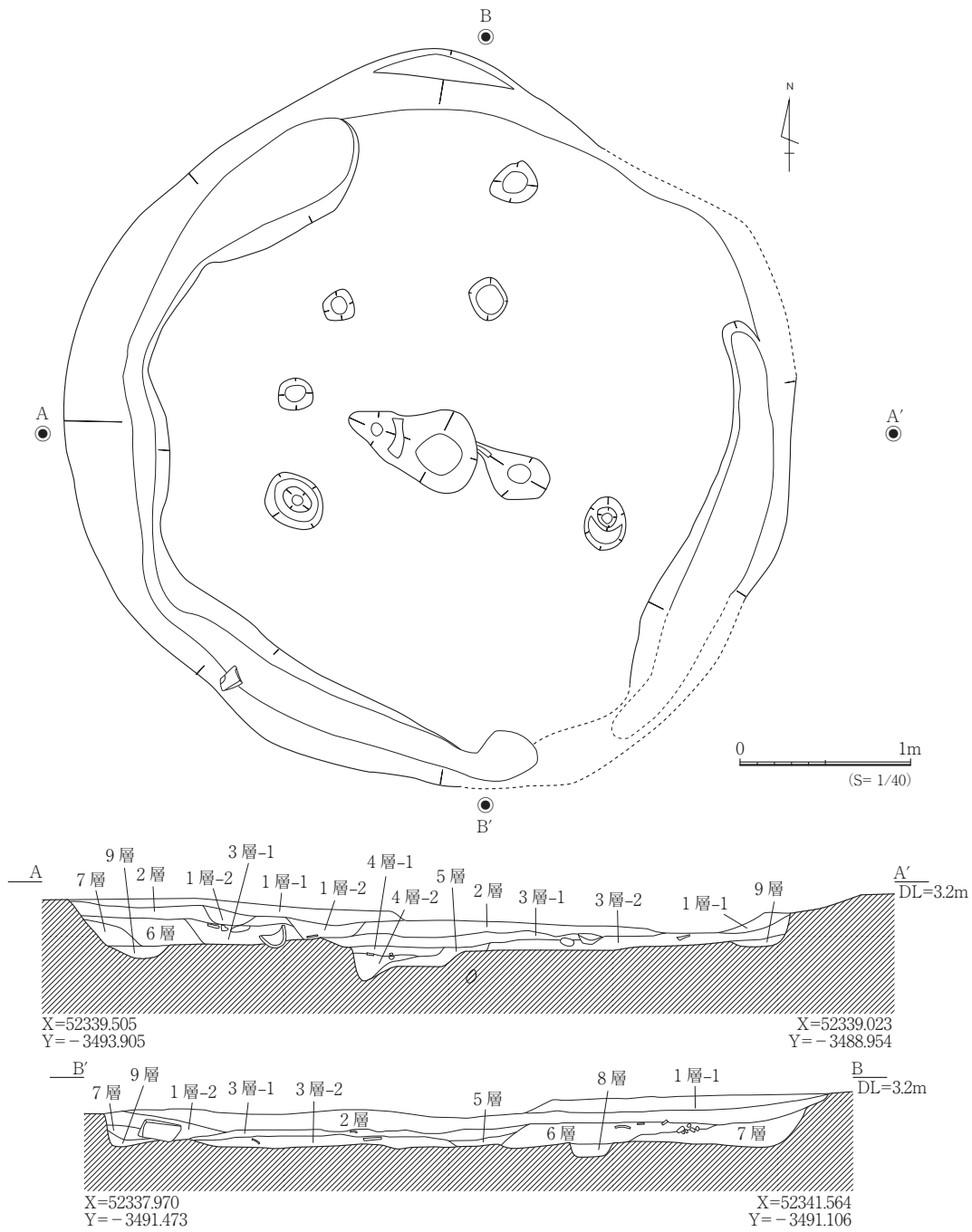
このうち、出土遺物により弥生時代の遺構と判断出来るのは ST01、SD47、SK68・69・70・71・72・74・75・84・85・93 である。これら遺構は、調査区の中央から東寄りにかけて集中的に分布している。さらに詳細に見ると、竪穴式住居址を中心に、その周囲に楕円形の土坑が散在し、さらにそれを取り囲むように溝や舟形の土坑がめぐっている。

一方、上記以外の掘立柱建物や溝および土坑については、時期比定の根拠に乏しいがおよそ古墳時代の終わりから古代にかけての時期とみられる。

弥生時代を中心に主要な遺構を取り上げ詳細を報告する。



8-16図 下層遺構配置図



- 1層-1: 褐灰色、細粒砂混シルト。しまり良、粘性弱い
- 1層-2: 褐灰色、細粒砂混シルト。しまり良、粘性弱い。1層-1の崩落か。
- 2層: 黄褐色、微粒砂混シルト。しまり良、粘性弱い。10mm大の炭化物を極わずか含む。
- 3層-1: 灰褐色、微粒砂混シルト。しまり良、粘性やや強い。微細~5mm大の炭化物をやや多く含む。
- 3層-2: 灰褐色、微粒砂混シルト。しまり良、粘性やや強い。3層-1より炭化物を多く含む。
- 4層-1: 灰褐色、シルト混粘土。しまり不良、粘性やや強い。微細~5mm大の炭化物をまばらに含む。中央ピット埋土。
- 4層-2: 灰褐色(黒味強)、シルト混粘土。しまりやや不良、粘性やや強い。微細炭化物を多く含む。中央ピット埋土。
- 5層: 灰褐色(黒み強)、シルト混粘土。しまりやや不良、粘性弱い。微細炭化物をまばらに含む。中央ピット埋土。
- 6層: 黄褐色、微粒砂混シルト。しまり良、粘性弱い。
- 7層: 黄褐色、微粒砂混シルト。しまり良、粘性弱い。
- 8層: 灰黄色、シルト混粘土。しまり不良、粘性強い。ピット埋土。
- 9層: 褐灰色、粘土混シルト。しまり良、粘性強い。周溝埋土。

8-17図 ST01遺構図

住居址

下層では竪穴式住居址を1棟検出した。弥生時代の竪穴式住居址としては、本調査区のみならず上ノ村遺跡全体でも唯一の事例である。

ST01 (8-17・18図)

調査区中央やや東寄りに位置する。SD15に東側上部を削平されるがほぼ完存する。平面形は円形である。北西-東南方向(N-66°-W)に長い床面中央の土坑を住居址の軸とみると、長軸が423cm、短軸が400cmとなり、やや軸方向に長い。北方向に小さな張り出しが認められるが上層遺構の影響であり本来の形状ではない。床面には若干の凹凸があり、確認面からの深さは20~30cmである。壁は箇所によって異なるが50~80度の傾斜がある。

床面には、中央に平面無花果形の土坑が大小2基あり、長軸方向に連なる。大は長さ80cm、最大幅47cmで、先端側を一段深く掘り込んでいる。底面が平坦な円形部分は深さ10cm、円錐形に掘り込んだ先端側は深さ20cmである。中央土坑の埋土は、黒みを帯びたシルト混じりの灰褐色粘質土(4層・5層)であり、上部に広く堆積する細砂混じりの灰褐色シルト層(3層)と極端な違いはない。いずれも微小な炭化物を一定度含んでいる。小は大の縮小型で、長さ47cm、最大幅29cmである。大は底部平坦面のやや浮いた位置から拳大の川原石2点が、小は上面から割石が出土した。

床面では他に5基のピットを確認した。5基のピットは、平面楕円形で二段の掘り方を持つ30~40cm大の2基と、平面隅丸方形で20cm大の3基に区分出来る。前者2基を含む4基は中央土坑を取り囲むように分布するが間隔は一定でない。

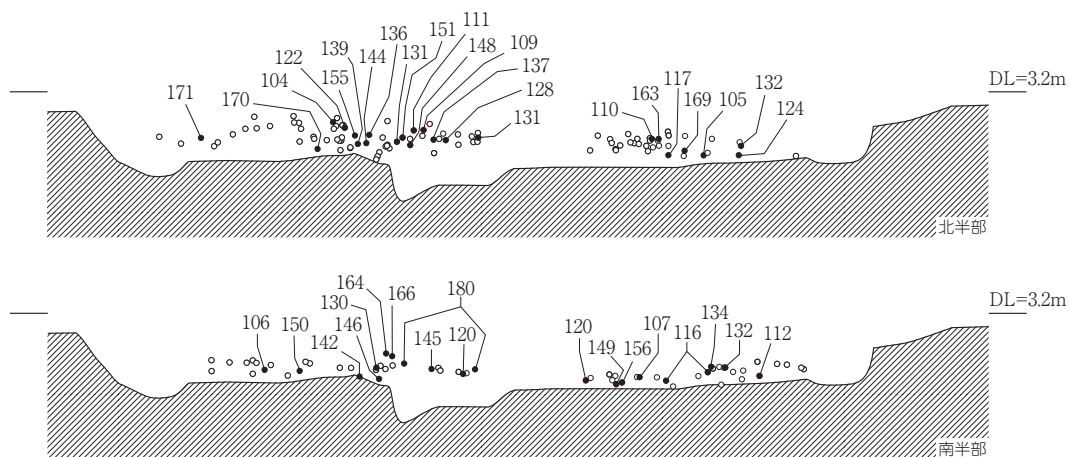
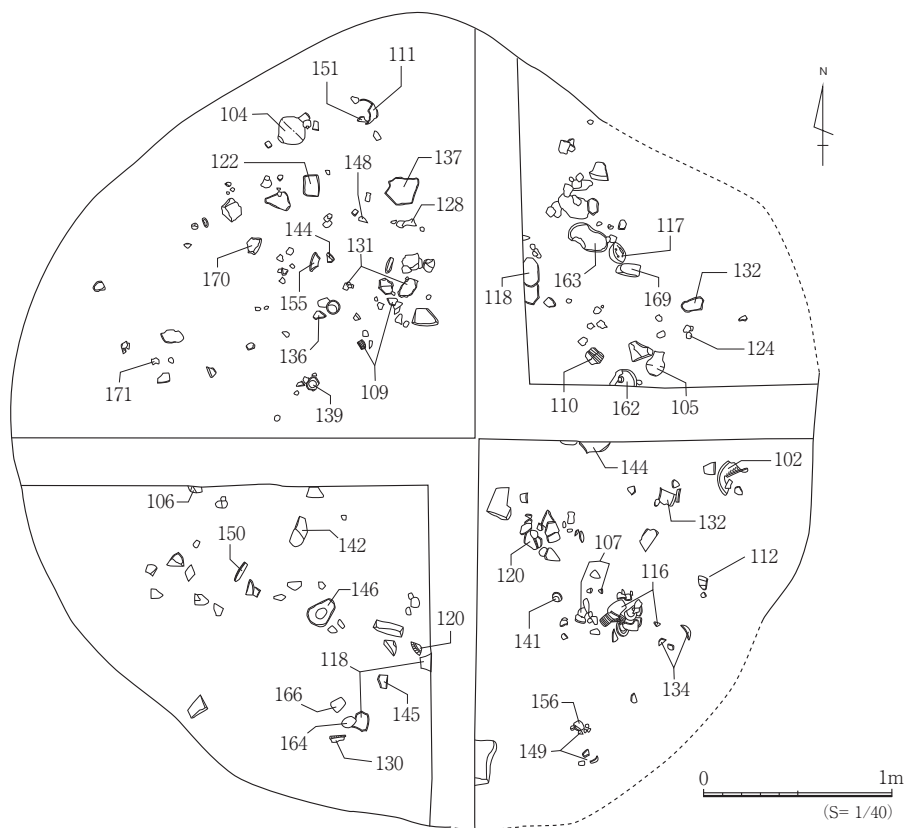
壁際には壁溝がめぐる。幅は一定でないがおよそ30cmで、深さは10cmに満たない。東北側1/4程度は壁溝が途絶えており、出入口であった可能性がある。周溝の埋土は粘土混じりの褐灰色シルト(9層)で粘りがあり締まる。他の埋土とは質が異なる。

出土遺物は、弥生土器では壺・甕・高坏など、石器では石庖丁や敲石など、鉄器では鉄斧・鉄鏃や裁断片など多数が出土した。出土遺物の収拾にあたっては、以下の様に平面位置を区分するとともに、層位と関連づけて三次元位置情報を得た(8-18図)。

十字形の土層観察用畦から出土した遺物については、北側部分をA、東側をB、南側をC、西側をDと区分した。畦で区切られた4つの区域については、西北区域を①、東北を②、東南を③、西南を④とした。観察表・遺構欄中の記号はこれに対応しており、また土層番号を加えたものもある。層位は、上部の黄褐色シルト層(2層)と下部の灰褐色シルト層(3層)を境とし、大きくは1・2層を上層、3・6・7層を下層と区分出来る。

平面分布と層位から出土遺物の位置をみると、土器・石器については目立った偏りが認められない。鉄器については、点数をカウントした1,020点に対しやや詳しく出土位置を見ると、平面位置では①が394点、Aが40点、②が77点、Bが67点、③が26点、Cが0点、④が178点、Dが28点となる。相対的に西側からより多くが出土している。また層位別にみると、1層が71点、2層が76点、3層が226点、4層が24点、5層が4点、6層が238点、7層が1点となる。上下層で区分すると、上層が147点、下層が265点、中央土坑が28点となり、床面直上層にあたる下層からより多くが出土している。

出土遺物は、鉄器に若干の傾向が見て取れたものの、全体としては区域やレベルを問わず万遍なく埋没していた。しかしながら出土遺物は密度が高く、ある程度は凝集した様相も見て取れる。短期間のうちに継続して廃棄された状況が想定できるであろう。



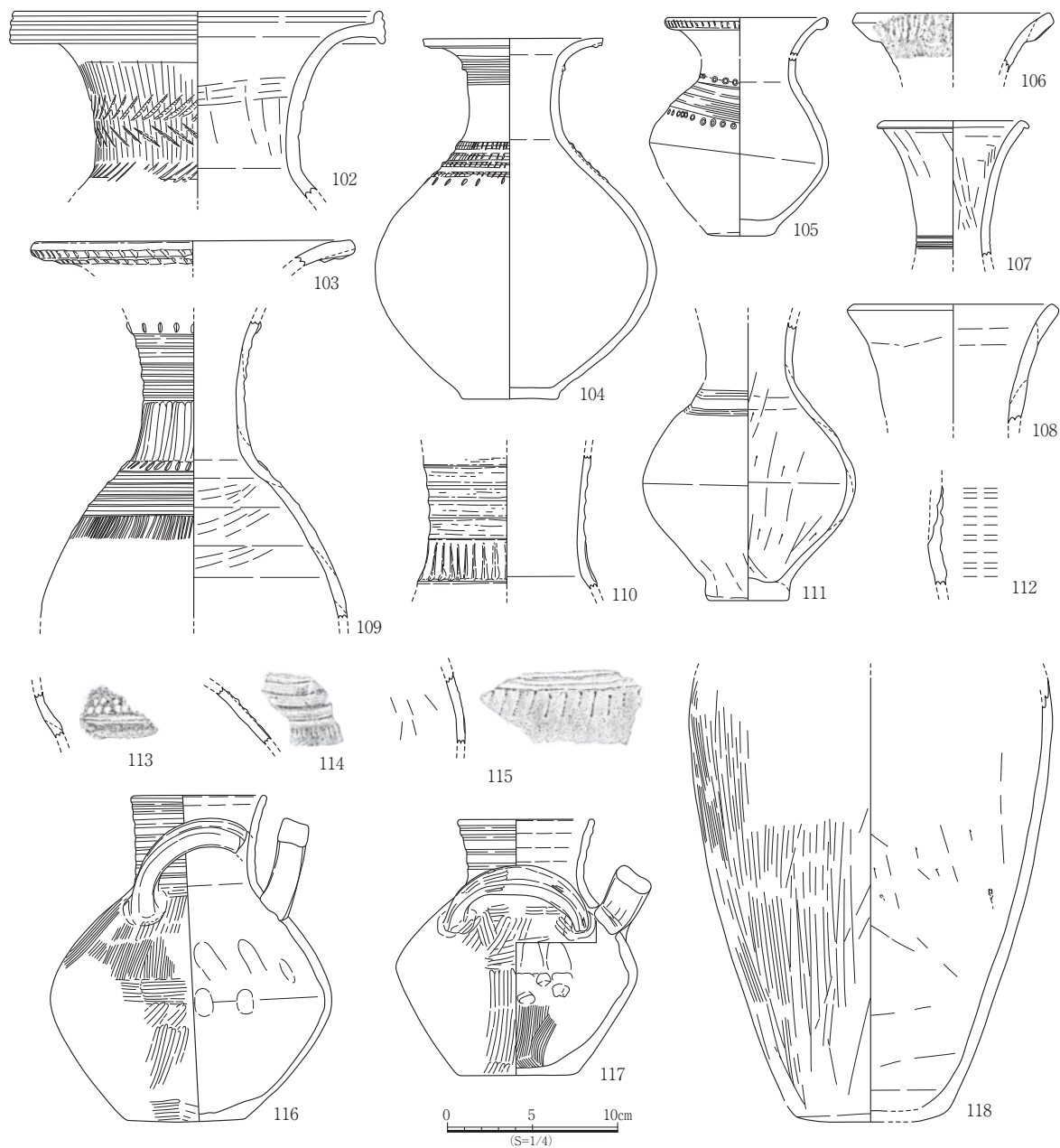
8-18図 ST01遺物出土位置図

出土した弥生土器は、器種構成においては壺・甕・高坏からなり、様式においては在地系統と凹線文系統の2種類に区分できる。

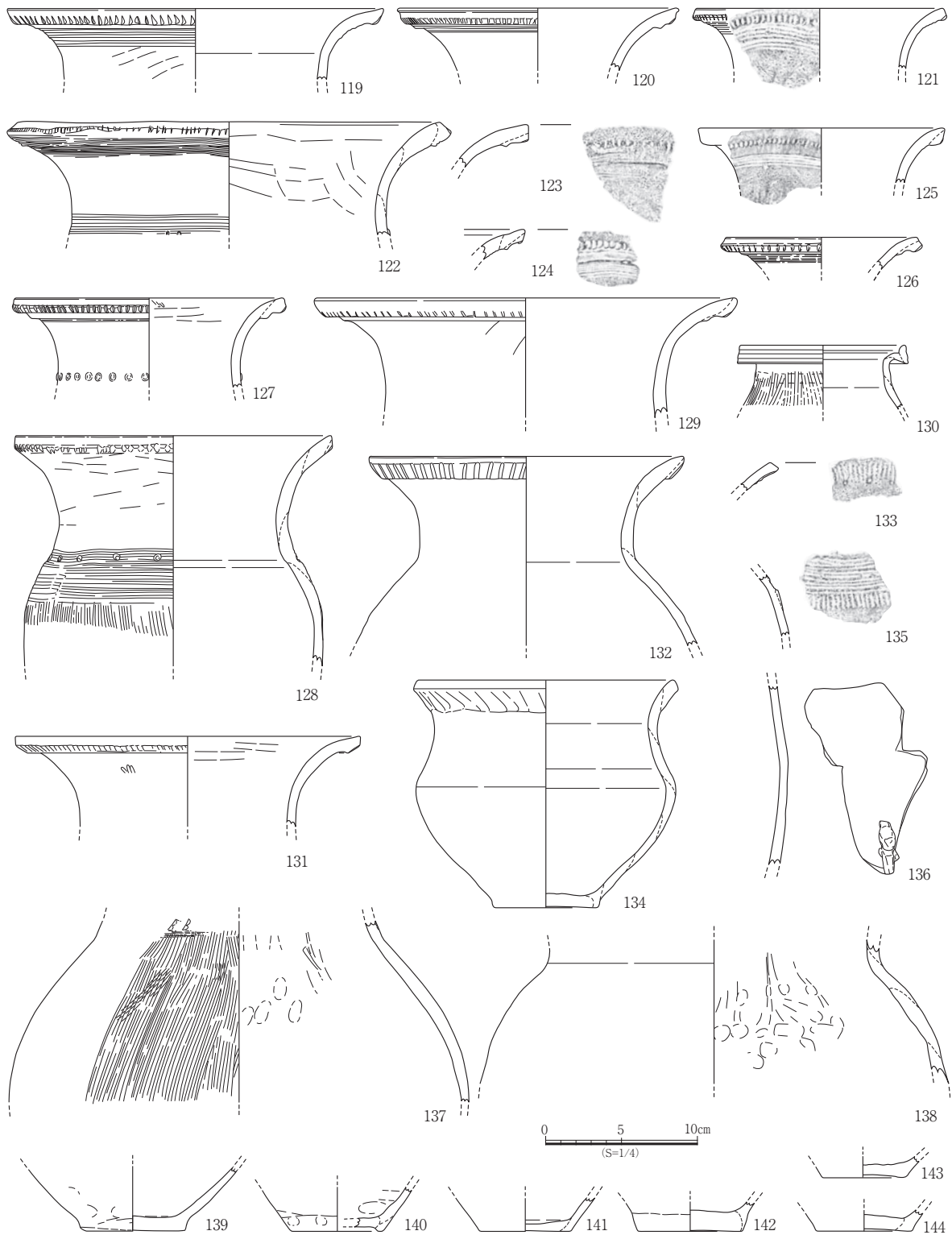
壺形土器のうち、在地系統のものには、外反する二重口縁・直立した頸部・下膨れの胴部・平底の器形に、微隆起文・櫛描文の反復文を基調とし部位の境界に各種浮文をめぐる文様が定型化している。やや異質な点を列挙すれば、103は口縁に二重の刻目突帯文がめぐる。104は肩部に刻目突帯文がめぐる。106は二重口縁外面に櫛歯刺突文をめぐる。107・108は単口縁で文様に乏しい。111は肩部に粗略な櫛描文がめぐり円盤状の底部はやや高い。113は棒状刺突列点文が施文される。また、118は長胴で底部端に丸みがある器形が特徴的で、外面にミガキ調整、内面にケズリ調整を施している。

壺形土器のうち、凹線文系統には102・112・116・117がある。102は口径21.5cm、受口状口縁の外面に凹線文がめぐり頸部には櫛歯刺突による綾杉文が施文される。112は細頸壺の頸部とみられ、全面に凹線文がめぐる。116・117は把手付壺(水差し)で、胴部上半に断面隅丸方形のU字形把手が1つ付き、頸部全面に凹線文がめぐる。

甕形土器のうち、在地系統のものは、頸部が締まらない器形以外は壺形土器と同じ特徴をもつ。口縁のバリエーションには、二重口縁直下に反復文をもつもの(119~127)、微隆起文のみのもの(129)、単口縁(128)、二重口縁外面に刻みや刺突文(131~133)、幅広の二重口縁に規則的なナデ(134)などがある。凹線文系統には130があり、受口状口縁の外面に凹線文がめぐる。

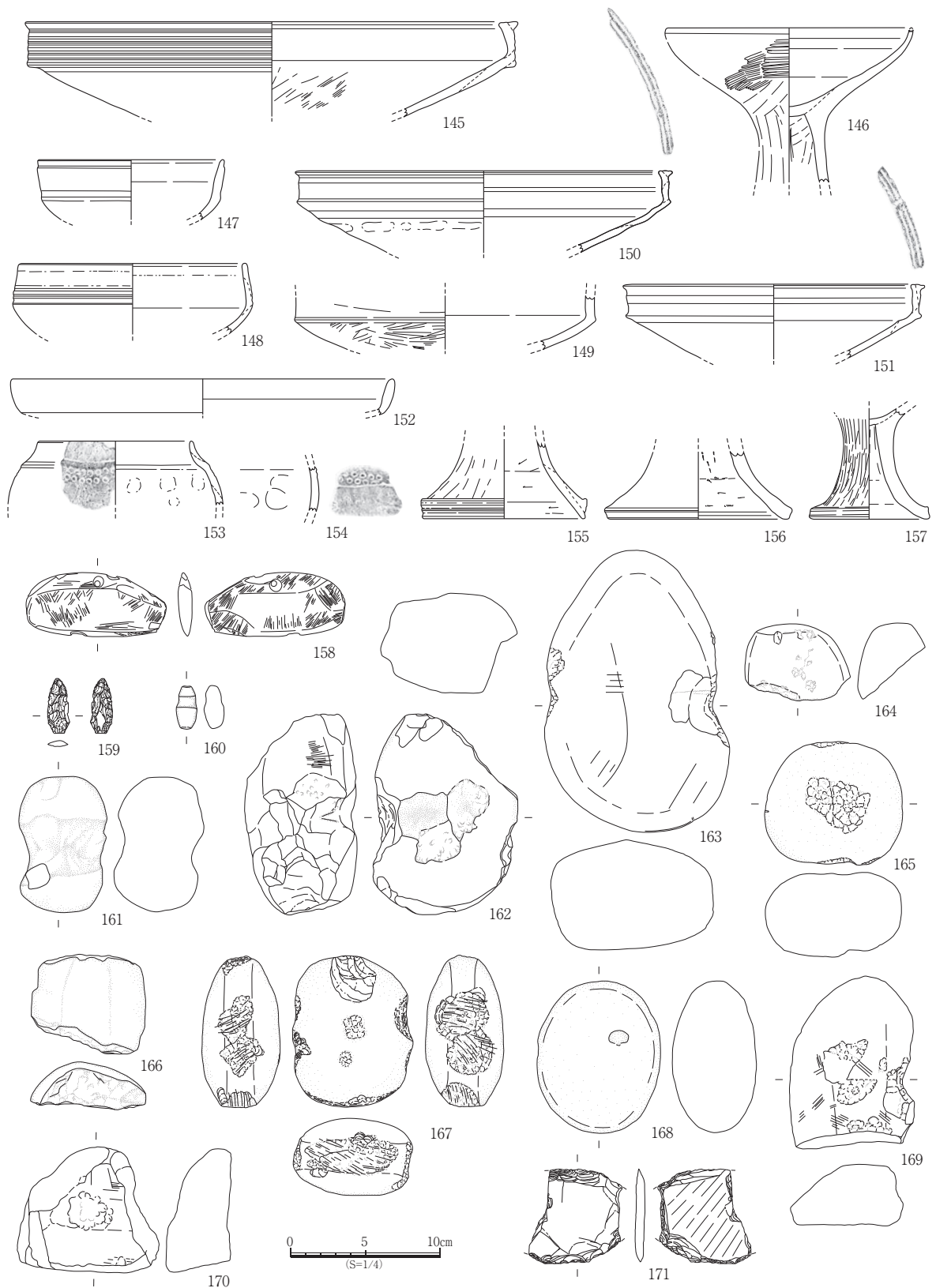


8-19図 ST01出土遺物(壺形土器)



8-20図 ST01出土遺物(甕形土器)

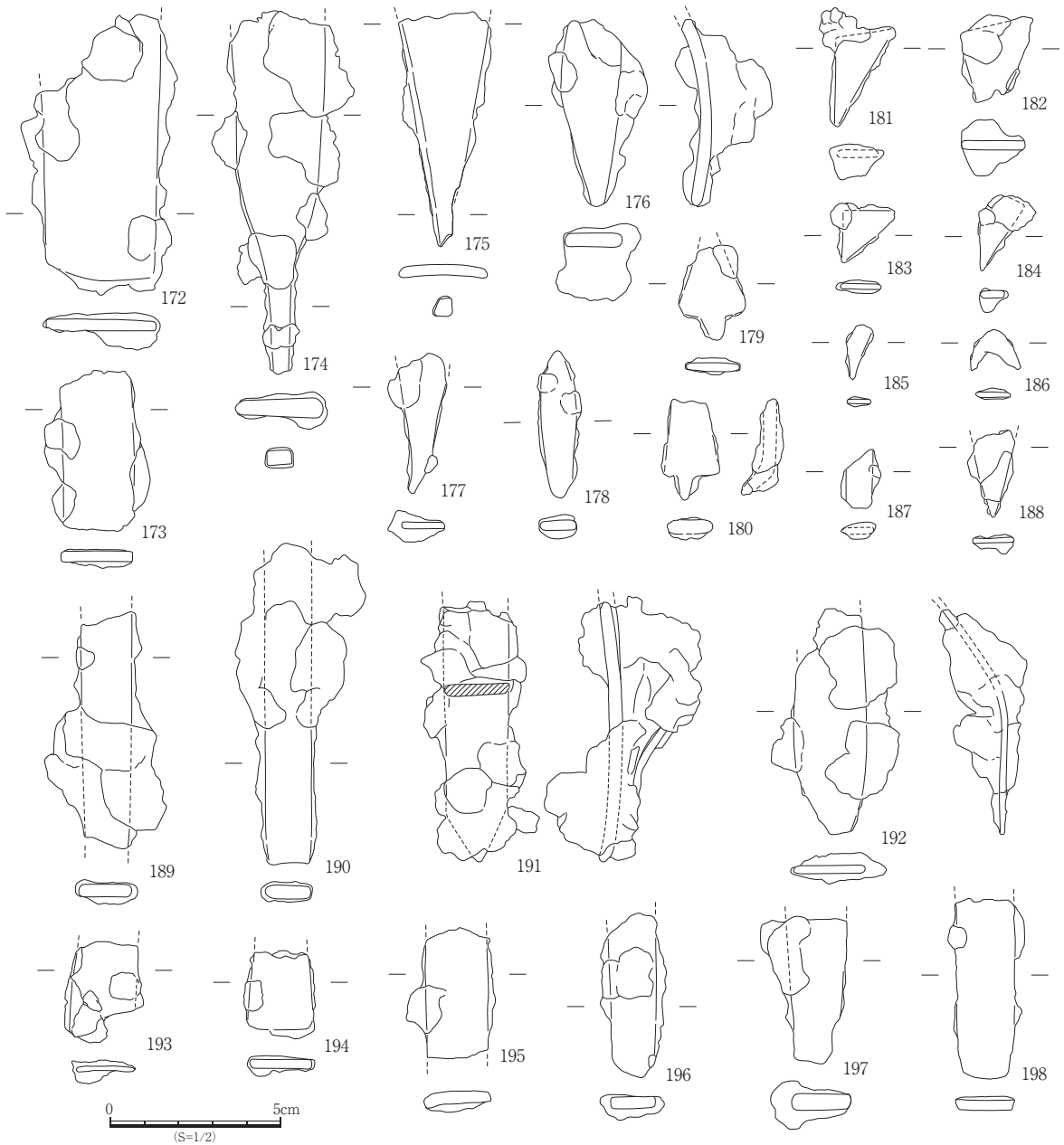
高坏形土器はいずれも凹線文系統である。坏部には稜をもって立ち上がり口唇部が外方に張り出す大振りなもの(145・150・151)とやや小振りな埴形(146～148)がある。脚部は、端部が上方に拡張され凹線がめぐるもの(155・157)と端部が面取りされ張り出さないもの(156)がある。



8-21図 ST01出土遺物(高坏形土器・石器)

他に環状刺突列点文が施文された破片(153・154)が出土した。鉢形土器ないしは壺形土器の破片とみられる。小さな段に沿って施文されるのが特徴で、棒状刺突列点文が施文された113も同類と考えられる。

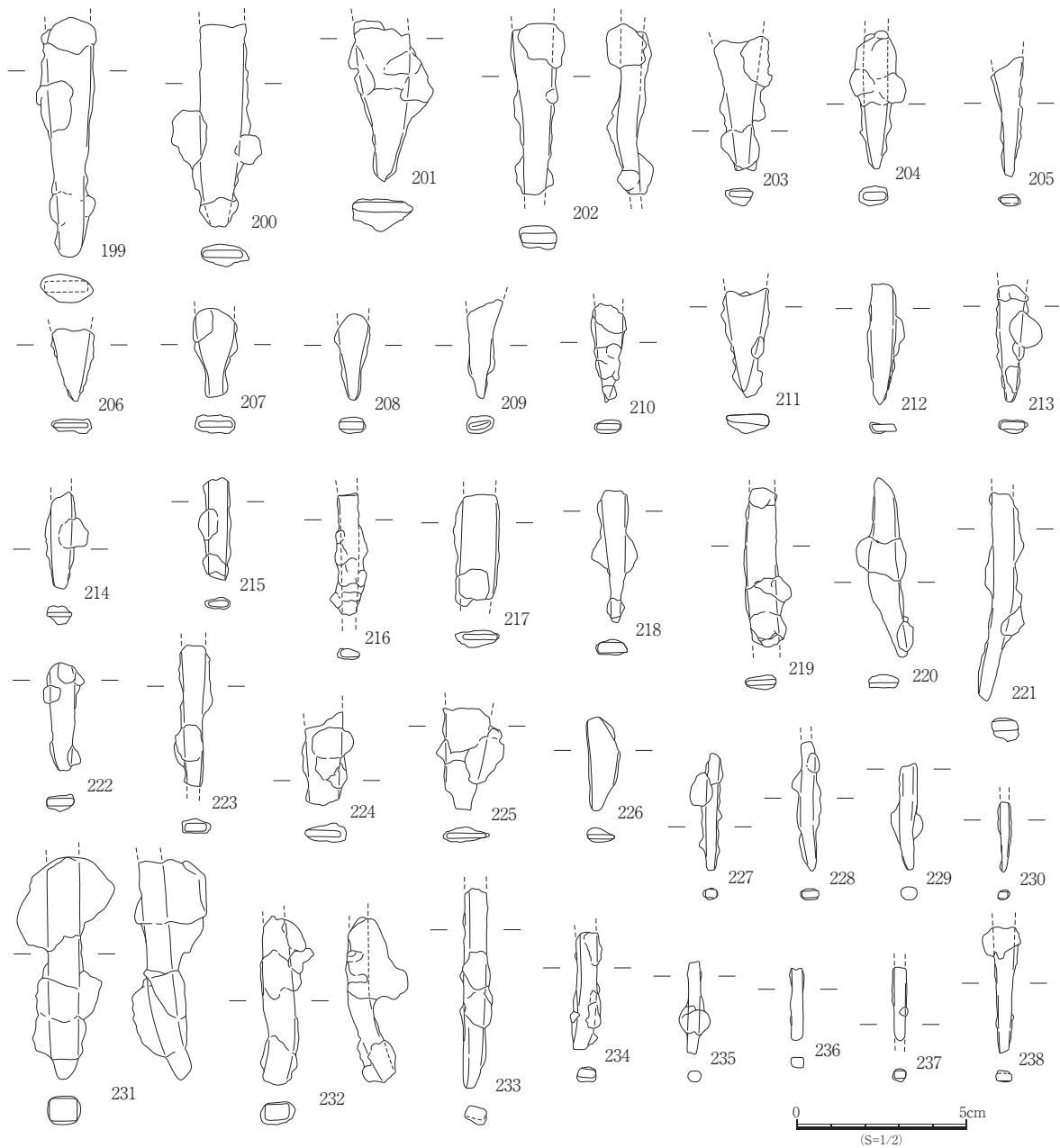
石器は石庖丁、石鏃、石錘、敲石、台石、砥石などが出土した。石庖丁(158)は頁岩製で平面不整形、長さ9.4cm、幅4.3cmである。刃部は鑄の立たない両刃で緩やかな弧を描く。両側穿孔の1孔は背側に偏って穿たれる。石鏃(159)はサヌカイト製の打製石鏃である。石錘は大小や形状が様々で、相対的に小型で中央が括れ帯状の溝がめぐるもの(160・161)と、両長側縁中央を打ち欠いた大振りなもの(162・163)がある。敲石(164～167)は硬質な火成岩製で主に端面に敲打痕が残る。砥石(169)や台石(170)は砂岩製である。



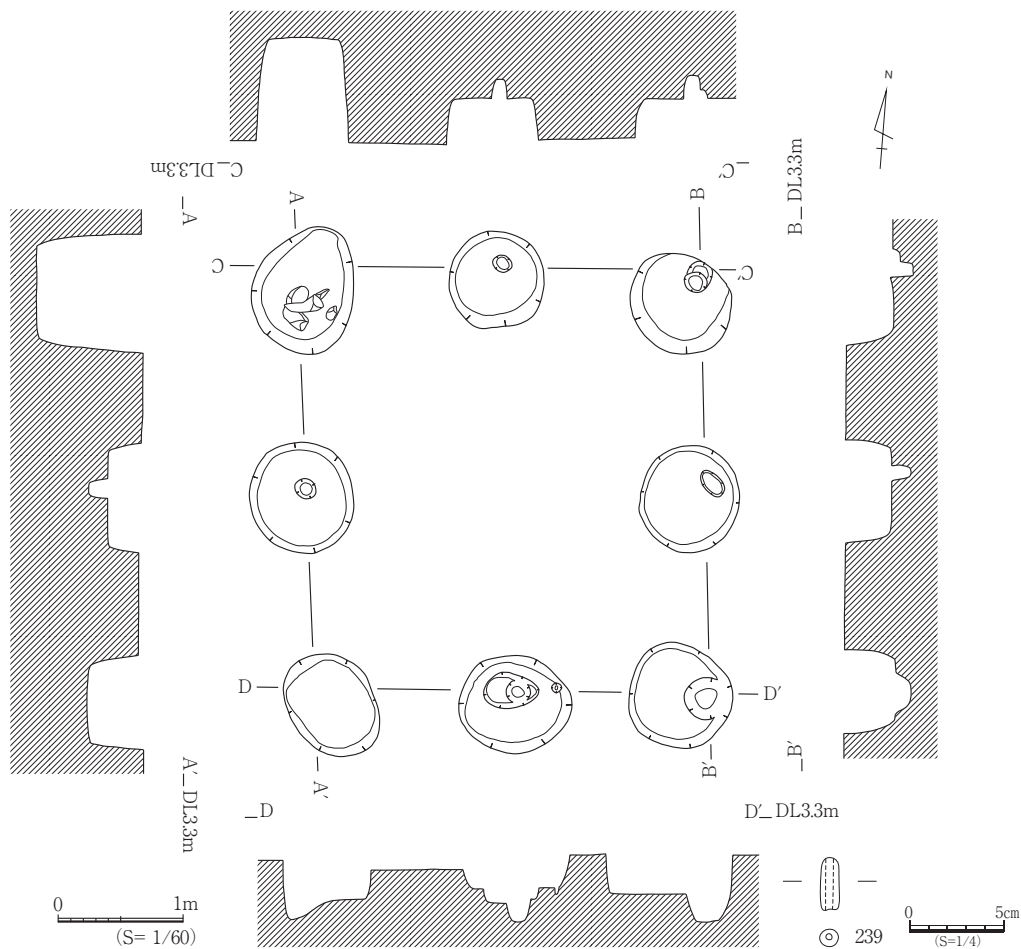
8-22図 ST01出土遺物(鉄器)

鉄器は1,020点をカウントした。いずれも破片である。本来の形状が窺えるのは20点程度で鉄斧(172・173)、鉄鏃(174・175・177・179・180)、裁断片(181~188)などがある。他は、塊が151点、やや厚い短冊状が116点(189~198)、細く薄い板状が230点(199~226)、棒状が399点(227~238)となる。

鉄斧(172・173)はいずれも鍛造で幅はそれぞれ3.9cm、2.0cmである。鉄鏃には形状に2種類があり、関のない大振りなもの(174・175)と関のある小振りなもの(179・180)に分かれる。鍛造過程でタガネにより断ち切られた断片には偏三角形(181~185・187)、V字形(186)、圭頭形(187)がある。短冊状の鉄片のなかには鉈や刀子の茎部分等が含まれていると考えられるが、具体的に例示するのは困難である。細く薄い板状のものは本来の用途が窺えず大部分を不明とした。棒状のうち、先端がすぼまるもの(228~230)は錐のような穿孔具と考えられる。



8-23図 ST01出土遺物(鉄器)



8-24図 SB01 遺構図・出土遺物

掘立柱建物

下層では3棟の掘立柱建物を検出した。3棟は三角形の位置関係にあり、それぞれ20m～30mの距離を置く。部分的な検出にとどまった1棟(SB05)は長軸が90度ずれ、桁行が少なくとも三間以上あるなど異なるが、他の2棟はともに二間×二間であり長軸方向や規模も類似する。いずれも出土遺物が乏しいため、正確な帰属時期は不明である。位置関係のみでいえば、弥生時代の遺構の外縁でもあり、溝で区画された各所でもある。

SB01 (8-24図)

調査区の中央北西寄りに位置する。南北方向(N-4°-W)に軸をとる二間×二間(340×320cm)の掘立柱建物である。8基の柱穴は形状や平面規模が類似する。平面形はいずれも(楕)円形で壁はほぼ垂直に立ち上がる。最大長には77～101cmの差があり平均は88cmである。底面は平坦で、径10～30cmの小孔が中心からずれた位置あるいは壁際に穿たれる。底面に二段の掘り込みをもつものもある。確認面から最深部までの深さは42～84cmの差があるが、1基を除けばいずれも深さは50cm前後となる。柱痕跡間の距離を見ると、桁行は158～178cmで平均が170cm、梁間は149～167cmで平均が160cmとなる。

出土遺物には土錘(239)がある。やや軟質で、長さ2.8cm、幅1.0cm、重さ2.4gである。

SB04 (8-16図)

調査区東南部に位置する。整理作業時に図上で復元した。南北方向(N-9°-W)に軸をとる二間×二間(320×290cm)の掘立柱建物である。西北隅の1基は確認できていない。7基のピットはいずれも平面形が円形、最大長は52～65cmで平均60cmである。柱穴間の距離は、桁行が142～166cmで平均154cm、梁間は129～164cmで平均146cmである。柱配列はやや不均等で、北梁列中央のピットは北側にずれている。

遺物は出土していない。

SB05 (8-16図)

調査区西壁沿いに位置し一部が調査区外に延長する。整理作業時に図上で復元した。北東-西南方向(N-64°-E)に軸をとる掘立柱建物で一間×三間(187×480cm)までを確認した。6基のピットは平面形が円形ないし隅丸方形、最大長は63～90cmで平均76cmである。柱穴間の距離は、桁行は133～194cmで平均164cm、梁間は187cmである。

遺物は出土していない。

溝

下層では8条の溝を検出した。うちSD47は弥生時代の溝である。他は出土遺物が少なく帰属時期がはっきりしないが一部は古代にくだる。主軸を北西-東南方向にとるL字形の溝2条(SD36・SD41)が6mの距離を置いて並走し、調査区南側を区画する。他の小規模な溝は調査区東部中央付近に集中するが、小区画は顕著でない。

SD36 (8-16図)

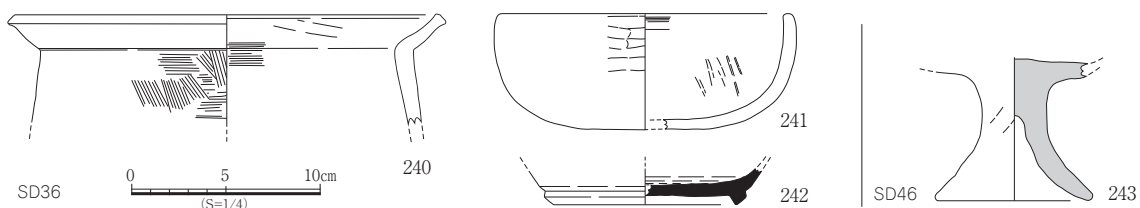
調査区中央南寄りをL字形に区画する溝である。調査区西壁中央付近から東南方向(N-138°-E)に24m延び、そこから90度方向を変え北東方向(N-52°-E)に12m延び、さらに調査区外に延長する。溝の幅は約60cmである。南側に6mの距離を置いてSD41が並走する。区画の内側(調査区北側)は相対的に遺構が多い。

出土遺物には土師器甕・坏、須恵器瓶がある。甕(240)は口径22.3cm、くの字に外折する口縁はやや内湾気味に立ち上がり、胴部外面には縦方向のハケ調整が施される。坏(241)は口径15.5cm、底部はやや丸みを帯び内面に煤が付着する。須恵器瓶(242)は底部片で底径10.7cm、回転ヘラ切りで端面が内傾する高台が付く。

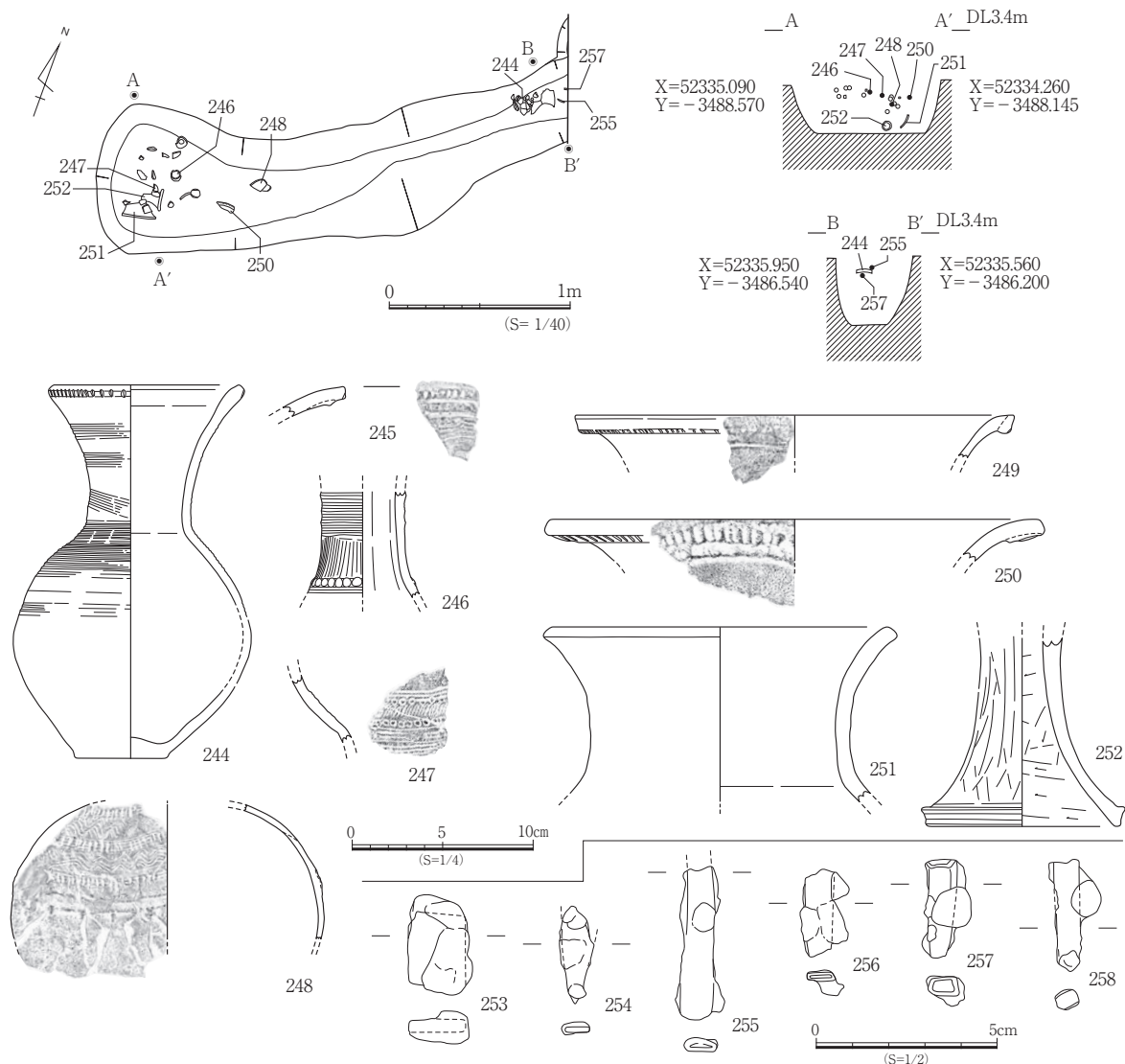
SD46 (8-16図)

調査区中央東南寄りに位置する。SK85を削平し構築された。SD36の東側から南方向(N-2°-W)に730cm延び、そこから西南方向(N-43°-E)に向きを変え120cm延びる。溝の幅は約40cmである。

出土遺物には瓦質高坏(243)がある。脚部片でやや軟質である。



8-25図 SD36・46出土遺物

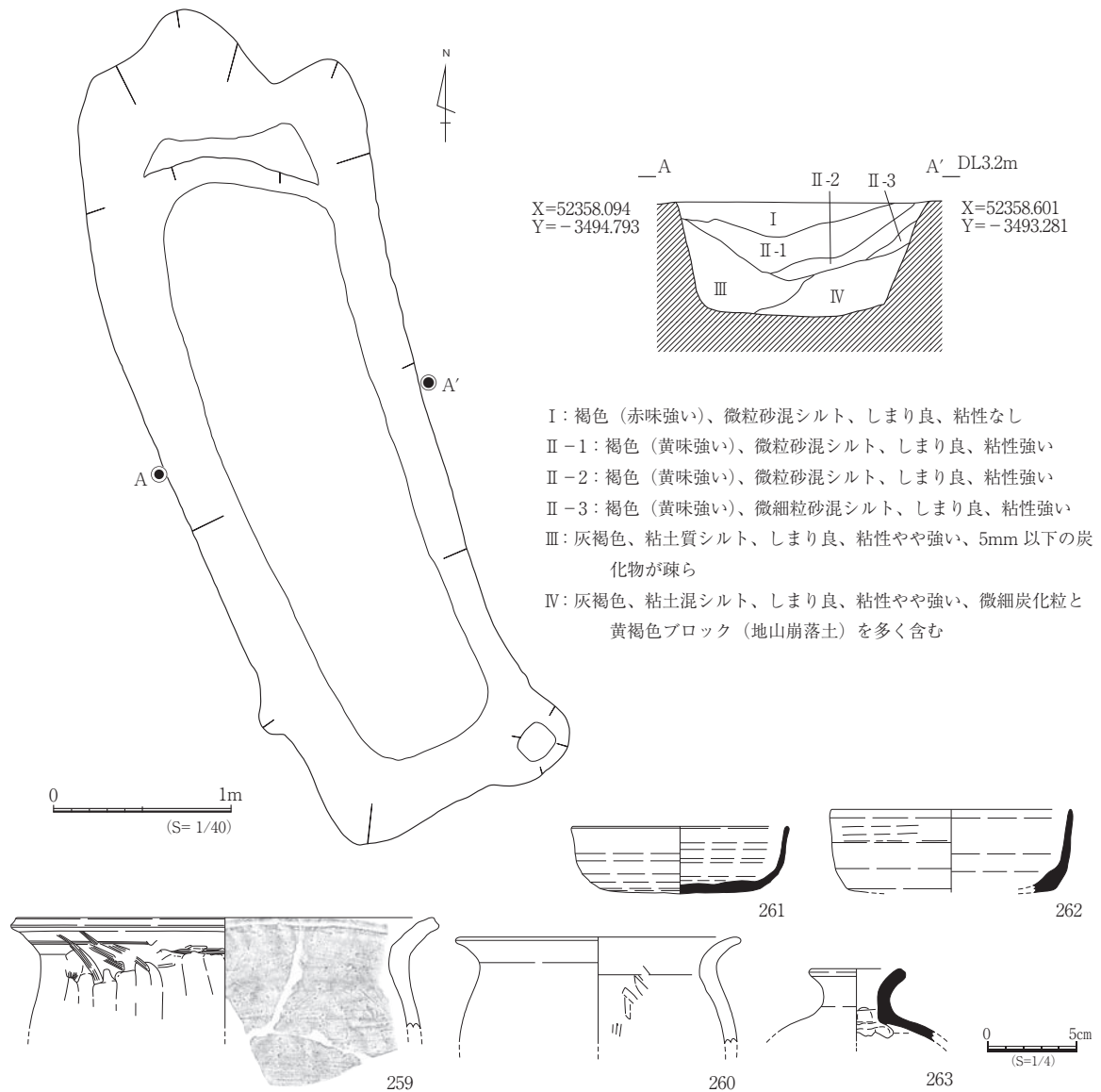


8-26図 SD47 遺構図・出土遺物

SD47 (8-26図)

調査区東壁中央付近から西南方向(N-38°-E)に670cm延びる溝である。東端をSD48に削平される。幅には振幅があり42~52cmである。壁は急傾斜で内湾気味に立ち上がり、底面は平坦である。深さは約60cmである。

出土遺物には弥生土器と鉄器がある。出土位置は西端と東壁付近に集中し、西側により多い。数点を除き大部分は埋土上部から出土した。特に西側部分では凝集度が高く、廃棄における一括性が高いといえる。弥生土器には壺(244・246~248)、甕(245・249~251)、高坏(252)がある。壺形土器には、粗い櫛描文をもつもの(244)や環状刺突文で縁取られた櫛齒刺突文が加わるもの(247)、微隆起文・櫛描文の反復文に境界部浮文の典型例(246)などがある。また、櫛描波状文・簾状文の反復文を基調に境界部棒状浮文のもの(248)もある。甕形土器は口縁部片で、刻目二重口縁(249)に微隆起文が加わるもの(250)、反復文が加わるもの(245)があり、また無文単口縁(251)もある。高坏(252)は拡張された裾端面に凹線が施文され、内面はケズリ調整である。鉄器はいずれも鍛造品の破片で、大きくは板状(253~256)と棒状(257・258)に分かれる。板状にはやや幅広いもの(253)や先細りのもの(254)がある。



8-27図 SK32遺構図・出土遺物

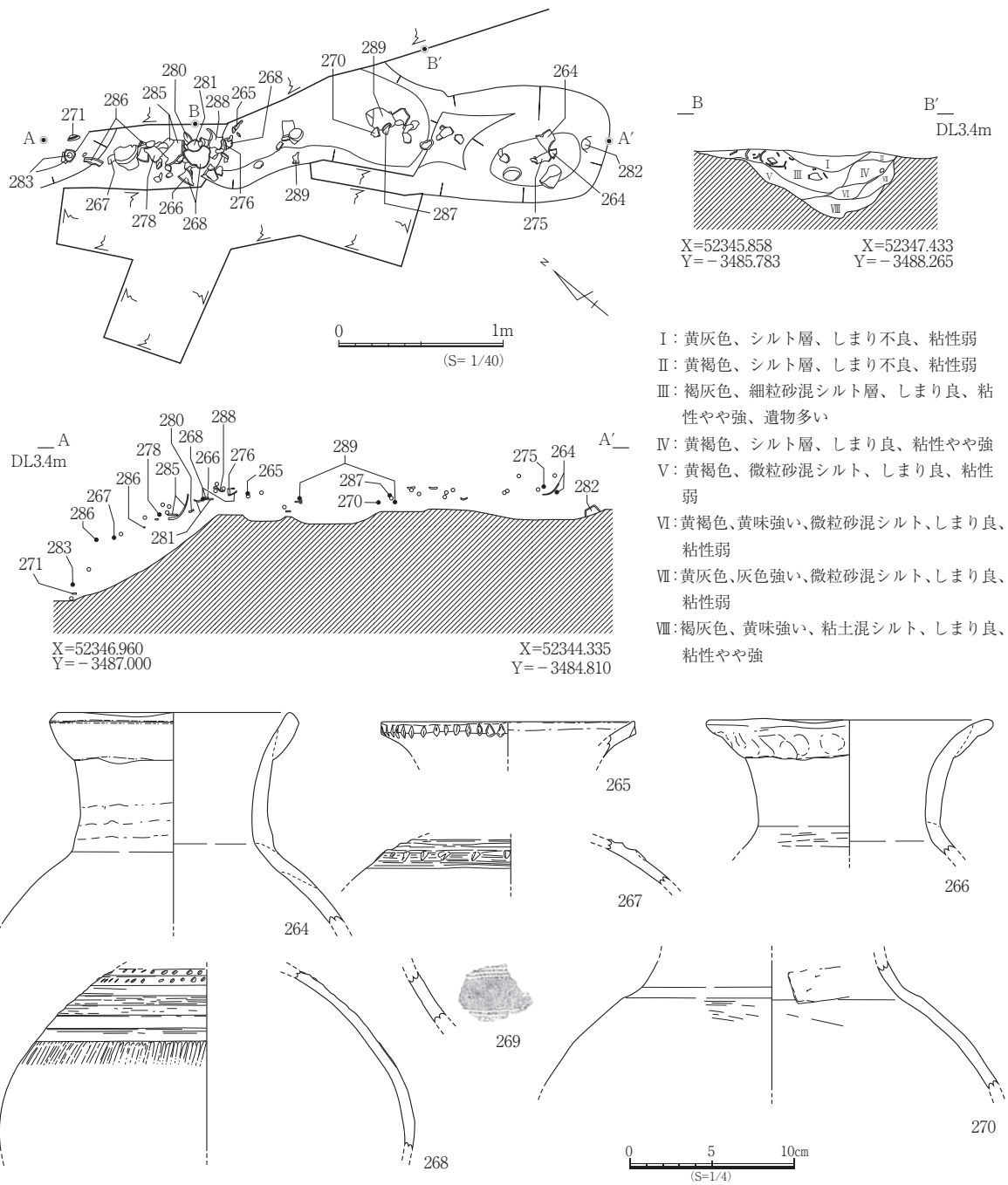
土坑

下層では25基の土坑を検出した。うち10基は弥生時代の土坑である。他は出土遺物に乏しく帰属時期が明確でないが古墳時代～古代とみられる。弥生時代の土坑は調査区中央東寄りに集中する。

SK32 (8-27図)

調査区北側中央付近に位置する。やや歪であるが平面形はおよそ短冊状、軸方向は北西(N-20°-W)で、長さ472cm、幅157cmである。横断面形は逆台形で深さ66cmである。北短壁は傾斜がなだらかで中位に僅かな平坦面をもつ。埋土は4層からなる。下位は炭化物を含む灰褐色粘土質シルト層で、黄褐色土塊を含む層(IV層)と含まない層(III層)に分かれる。中位は細砂粒を含む褐色シルト層(II層)、上位は褐色シルト層(I層)である。

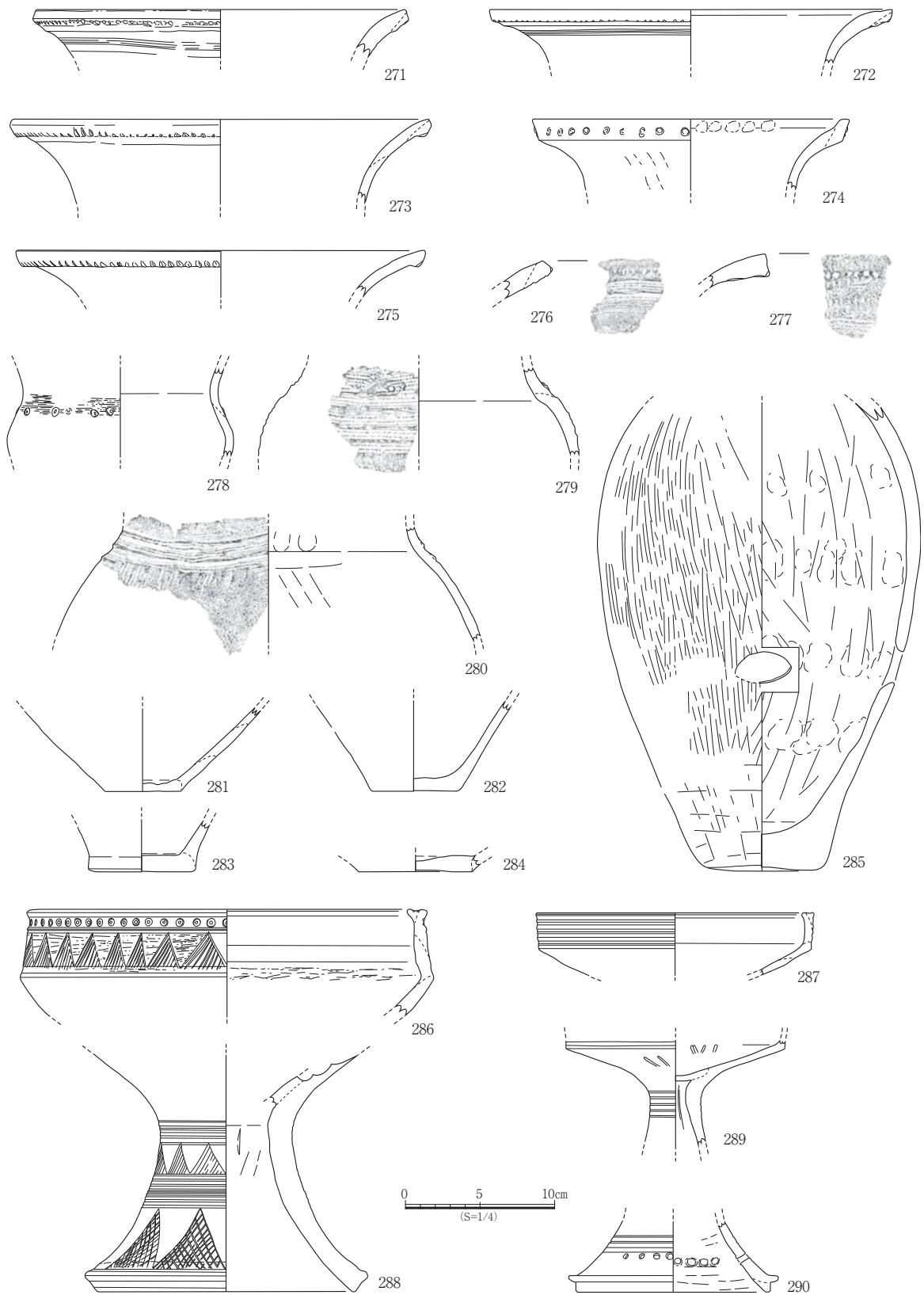
出土遺物には土師器甕、須恵器坏・横瓶がある。土師器甕(259・260)は口縁がくの字に外反し胴外面はナデ調整である。須恵器坏(261・262)は口径12.0cm・13.4cmで、底部回転ヘラ切り(261)である。横瓶(263)は口頸部片で部分的に自然釉がみられる。



8-28図 SK68遺構図・出土遺物(壺形土器)

SK68 (8-28図)

調査区東部中央付近に位置する。相当部分が攪乱に削平され、本来の形状は失われている。北西-東南方向(N-33°-W)に軸をもつ舟形土坑として報告するが、北西部分がスロープ状に深く下がっており、同類の舟形土坑であるSK71・72とは著しく形状が異なる。東側でSK69と重複するが、本来はSK69のような土坑が複数連なっている可能性がある。軸方向を重視するならば、あるいはSK69までを含む、掘り方が不規則な舟形土坑であるかも知れない。残長は385cm、幅は70cm、確認面から最深部までは74cmである。



8-29図 SK68出土遺物(甕形土器・高坏形土器)

出土遺物には弥生土器がある。大部分が底面から10～20cm浮いたⅢ・Ⅳ層から出土しており、遺構の認定とも関連して一括性には注意を要する。弥生土器には壺・甕・高坏がある。壺形土器には、幅広い二重口縁に規則的なナデ調整を施すもの(264・266)がある。胴部文様では微隆起文・櫛描文に浮文や櫛歯刺突文が加えられる(267・268)。壺形土器の異種に長胴で底部に丸みを帯びるものがある(285)。色調は赤味を帯び、外面調整は縦方向のヘラミガキ、胴部中位には焼成後穿孔がある。甕形土器には、刻目を持つ典型例の他、受口状の外面に環状浮文がめぐるもの(274)がある。胴部文様は微隆起文・櫛描文の反復文に環状浮文(278・279)や棒状浮文(280)が加わる。高坏形土器は、凹線文(287)の他に、鋸歯文・環状刺突文(286・288)や複数の穿孔をもつもの(290)がある。

SK69 (8-16図)

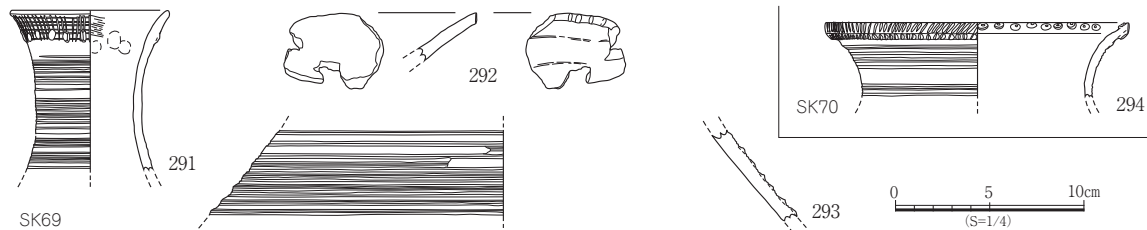
調査区東壁沿い、SK68の東南端に接する位置にある。84cm大の不整円形土坑で、底面に複数の小孔がみられる。SK68の一部であった可能性もある。

出土遺物には弥生土器がある(8-30図)。壺形土器は、単口縁外面に縦横の櫛描文による格子目文をもつもの(291)がある。胴部文様には微隆起文・櫛描文の反復文(293)がある。

SK70 (8-16図)

調査区中央東寄りに位置する。軸方向を北東-西南(N-22°-E)にとる偏楕円形の土坑で、平面規模は170×110cmである。

出土遺物には弥生土器がある(8-30図)。甕形土器は二重口縁の端面・外面に刻目を持ち、内縁に環状浮文がめぐる。頸部には微隆起文と櫛描文がめぐる(294)。

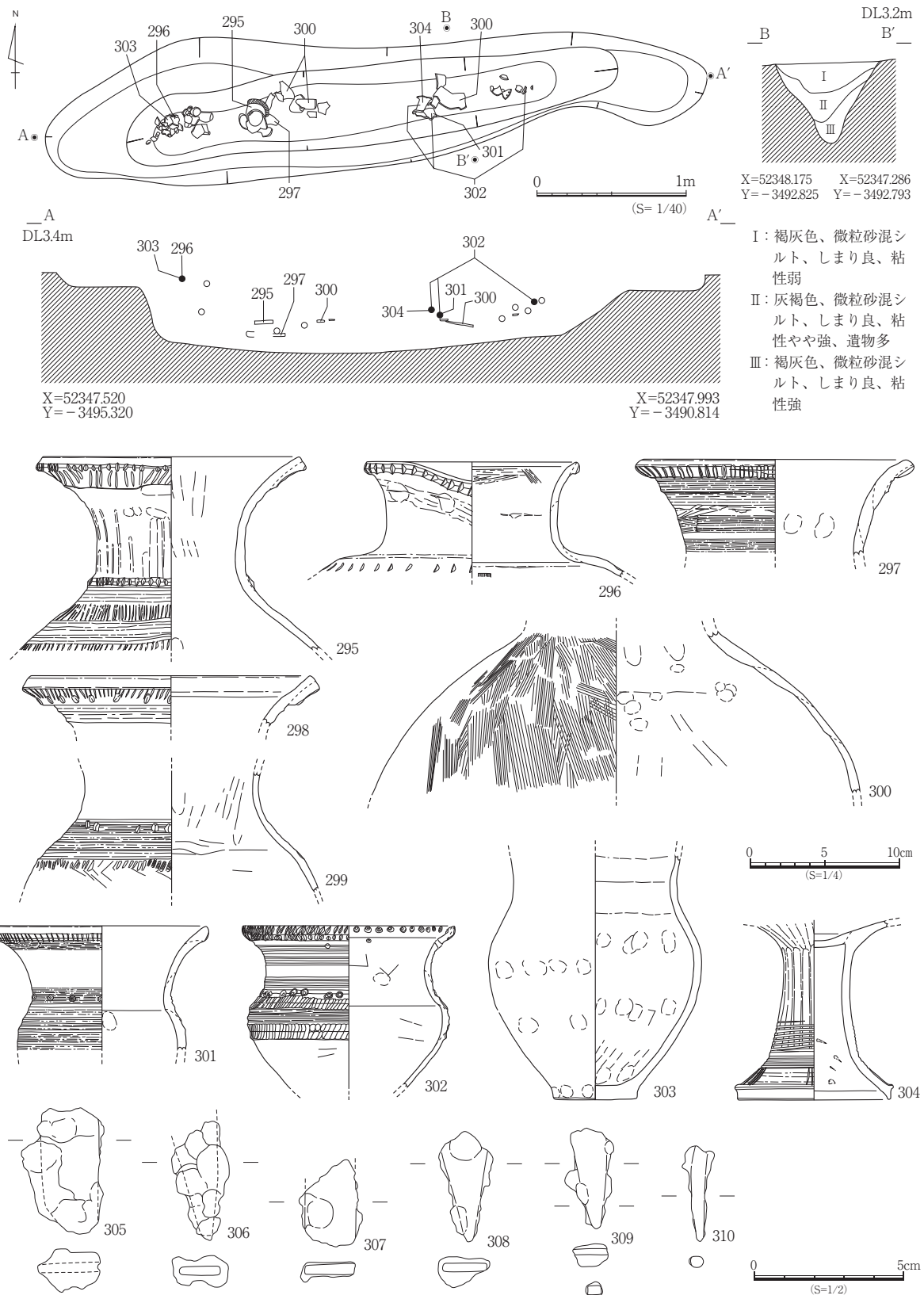


8-30図 SK69・70出土遺物

SK71 (8-31図)

調査区中央北寄りに位置する。東西方向(N-83°-E)に軸をとる舟形土坑で、西側のSK72とは30cmの間を置いて直列する。平面規模は長さ443cm、幅99cmである。掘り方は、深さ10cmの浅い土坑の中央に一回り小さな同形の土坑を深さ40cmで掘り込んだ格好である。上段は底面が平坦で壁は急傾斜で立ち上がる。下段は底面に一定の幅があり側壁は急傾斜で立ち上がるが、底面は中央に向かってゆるく傾斜し、東短壁はスロープ状に立ち上がる。

出土遺物には弥生土器、鉄器がある。底面から15～20cmほど浮いたⅡ層から出土しており、その凝集性から一括性は高いといえる。弥生土器には壺・甕・高坏がある。壺形土器には、口縁に刻目突帯がめぐるもの(296)や、口縁直下に垂下沈線がめぐるもの(295)がある。甕形土器には、二重口縁外面に垂下沈線をめぐらすもの(298)や、口縁端面・外面に異方向斜刻みを施し内面に環状浮文をめぐらす小型のもの(302)などがある。高坏形土器には、脚部に凹線文、裾部に縦方向の櫛描文を等間隔で施文している(304)。鉄器はいずれも鍛造で板状(305～309)と棒状(310)がある。板状のものには莖状に先端がすぼまるものがある(306・307・309)。

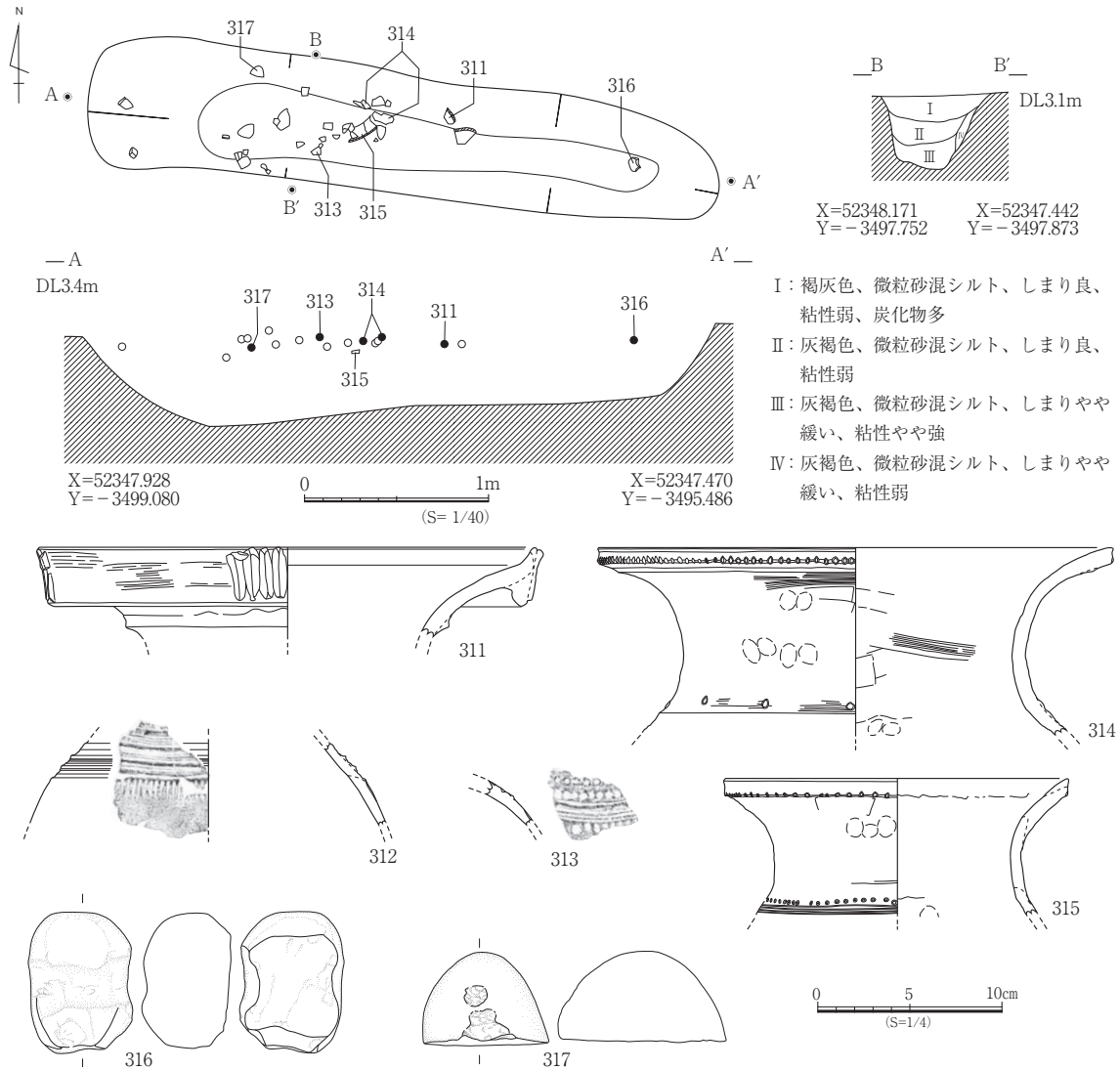


8-31図 SK71遺構図・出土遺物

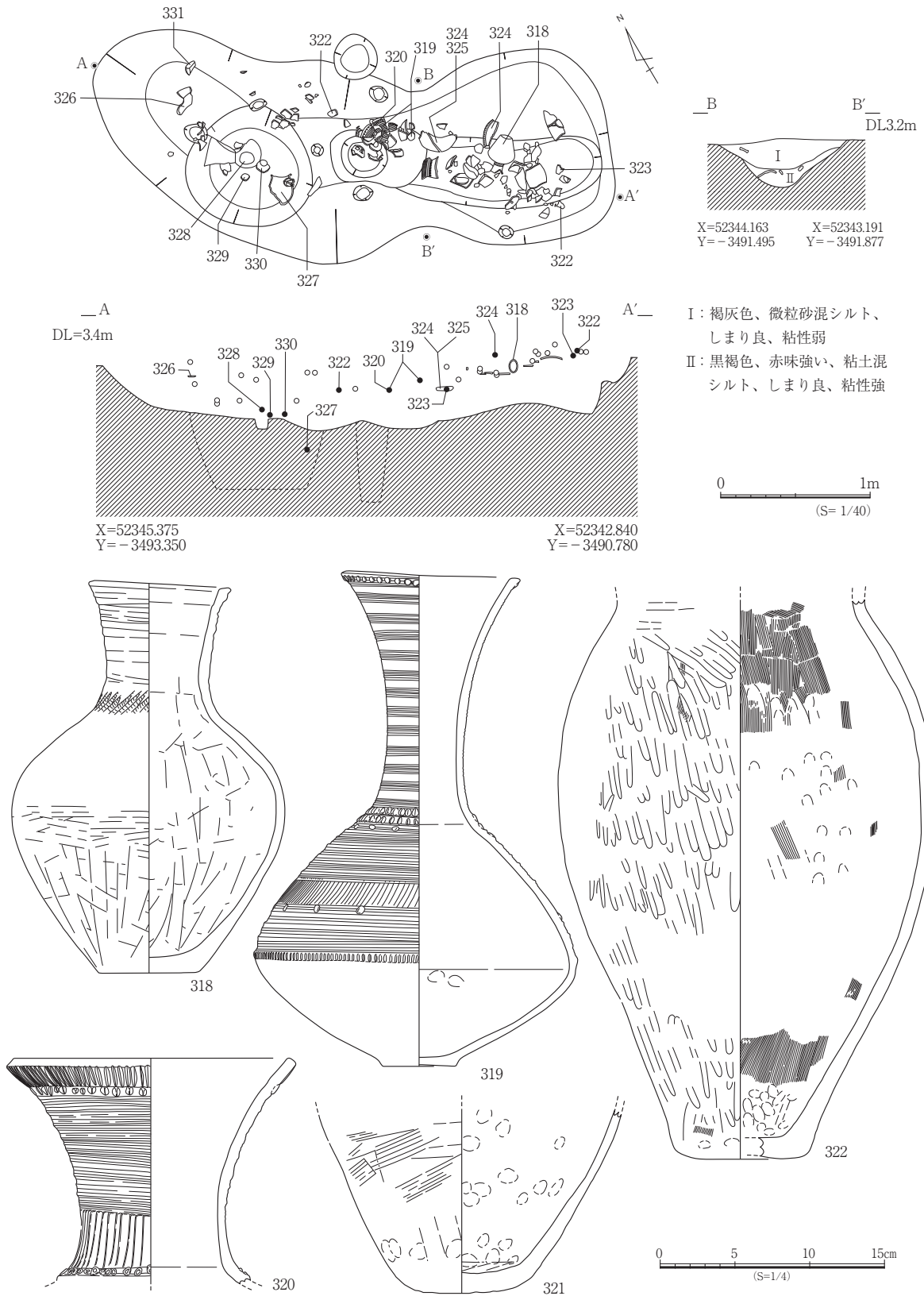
SK72 (8-32図)

調査区中央北寄りに位置する。東西方向(N-97°-E)に軸をとる舟形土坑で東側のSK71とは60cmの距離を置いて東西に直列する。平面規模は長さ346cm、幅66cmである。深さ40cmであるが、底面は西側が低く、東西で15cmの比高差がある。全体に傾斜しているが、中央付近に転換点があり西半部の傾斜がよりきつい。底面には一定の幅があり、側壁は急傾斜で立ち上がる。

出土遺物には弥生土器・石器がある。底面から40cmほど浮いた最上部のI層から出土しており、平面分布はやや中央付近に集中する傾向があるものの、全体としては疎らで点数もさほど多くない。廃棄時の一括性については注意を要する。弥生土器には壺・甕がある。壺形土器には、垂下する二重口縁に棒状浮文がつくもの(311)がある。胴部文様には典型的な微隆起文・櫛描文+縦刺突文(312)に円形刺突文をめぐらすもの(313)がある。甕形土器は、端部に刻目をめぐらす単口縁で、胴部は櫛描文に豆粒状浮文(314)や円形刺突文(315)が添加される。石器には石錘・敲石がある。石錘(316)は砂岩製で長さ7.7cm、重さ341g、中央に結縛用の粗い溝がめぐる。敲石(317)は砂岩製の破片で一面に敲打痕が残る。



8-32図 SK72 遺構図・出土遺物

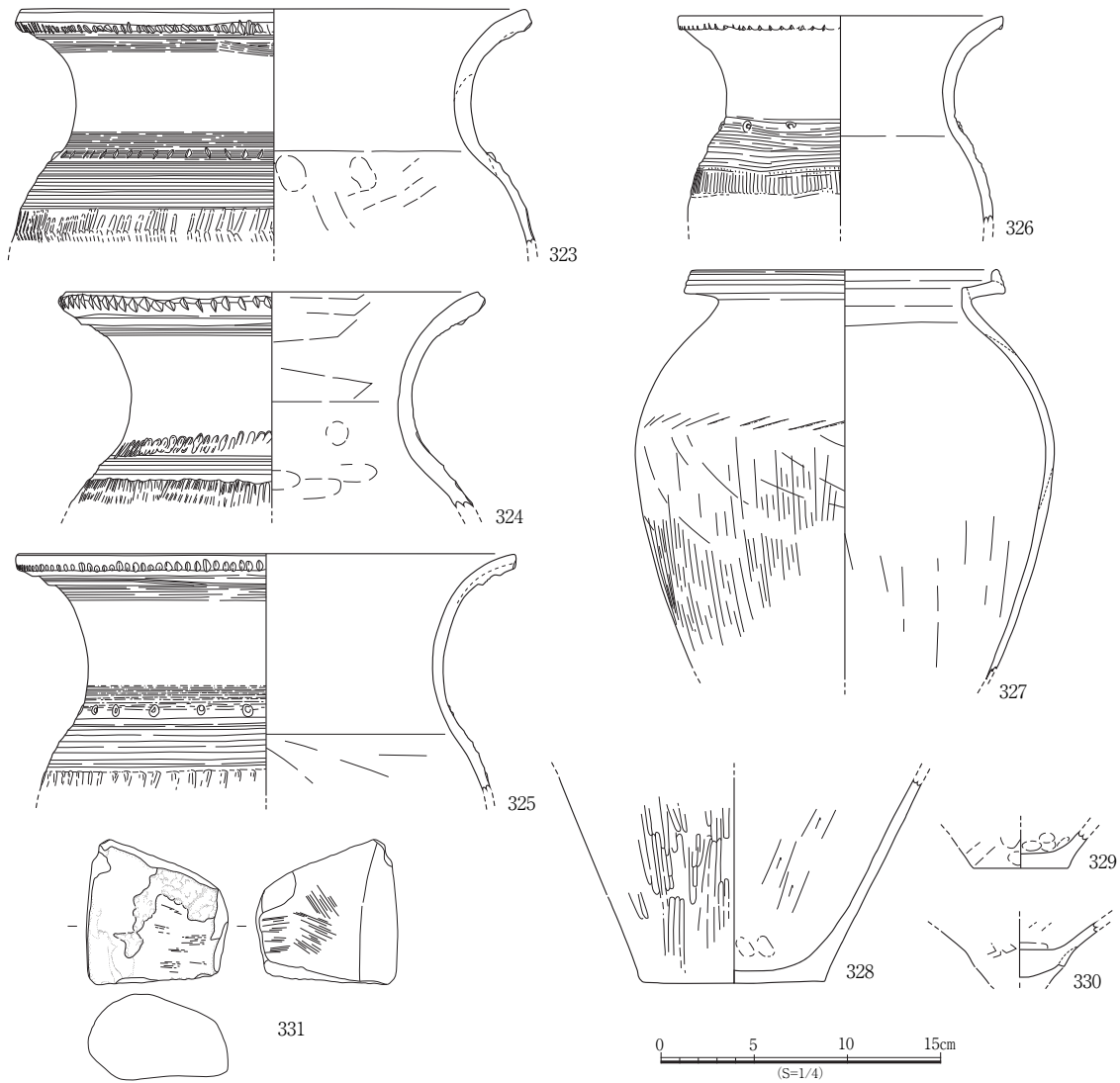


8-33図 SK74遺構図・出土遺物(壺形土器)

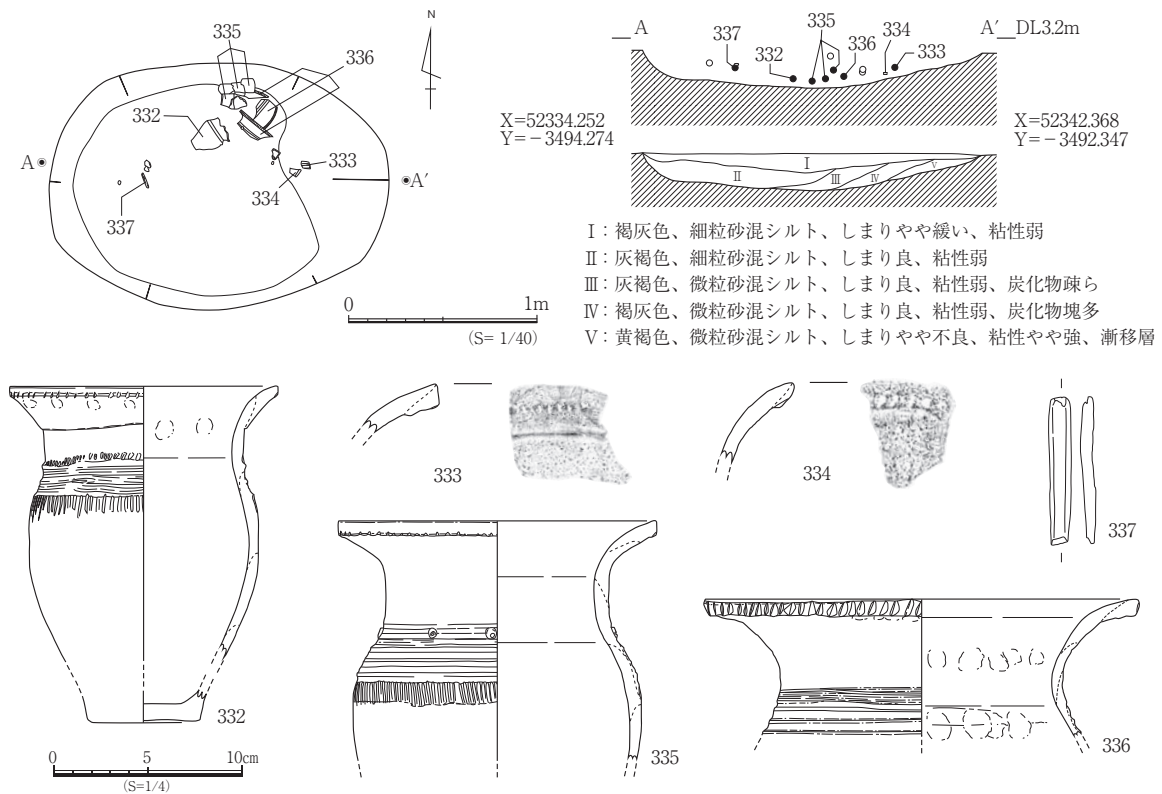
SK74 (8-33図)

調査区中央付近に位置する。およそ北西-東南方向に軸をとる歪な舟形土坑である。最大長350cm、最大幅140cm、最深部まで30cmである。床面にはかなりの凹凸がある。壁の立ち上がりは全体に緩やかであるが、東短壁は急傾斜で中位に段を持つ。また、底面の中央と西寄り部分で径の異なる2つの土坑を確認した。SK74に先行すると考えられるが、詳細は把握できていない。

出土遺物には弥生土器・石器がある(8-33・34図)。底面付近や40cmほど浮いた位置から出土しており、平面分布も疎らであるが、依存率の高い資料が多く廃棄時の一括性は高いといえる。弥生土器には壺・甕がある。壺形土器には凹線文系、櫛描文で飾る在地系と異種がある。318は口頸部に凹線文、頸付根に櫛歯刺突文をもち全面をミガキ調整している。319・320は在地系の細頸壺で胴部は玉葱形(319)で、微隆起文・櫛描文、各種浮文、刻目突帯文で飾られる。321・322は長胴・外面ミガキ・底部に丸みという特徴をもつ。甕形土器は口縁刻目、微隆起文・櫛描文+浮文という典型例(323~326)の他に、受口状口縁に凹線文がめぐる瀬戸内系のもの(327)がある。石器には砂岩製の砥石(331)がある。



8-34図 SK74出土遺物(甕形土器・高坏形土器・石器)



8-35図 SK75遺構図・出土遺物

SK75 (8-35図)

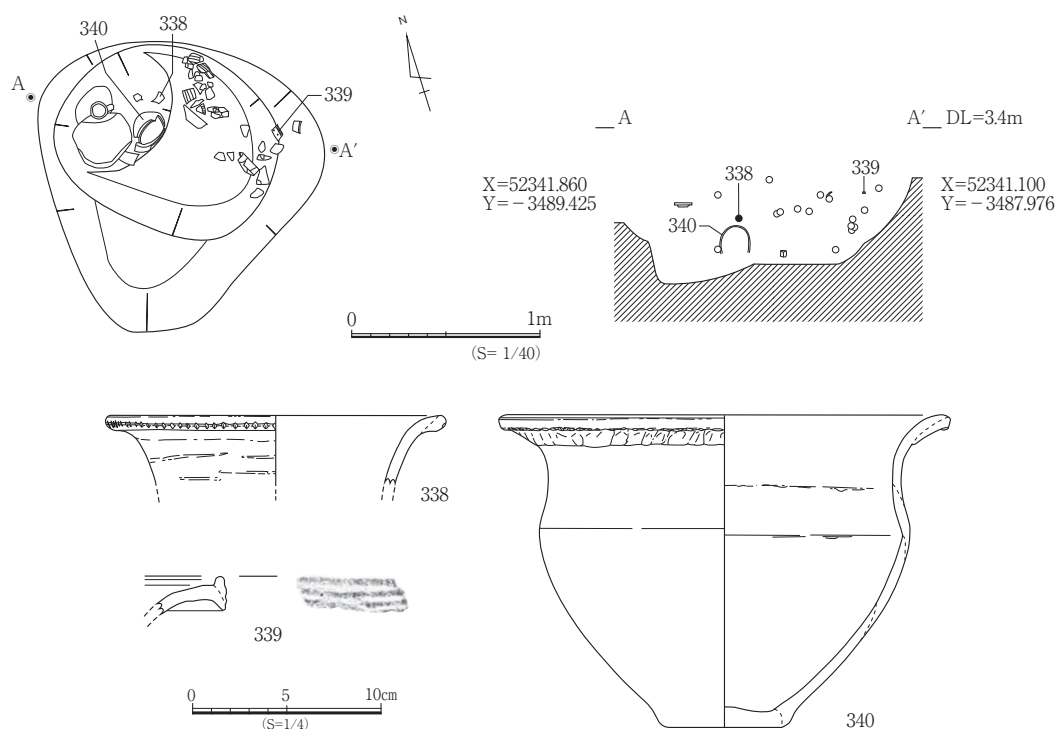
調査区中央付近に位置する。SK78と共にST01に最も近接する弥生時代の土坑である。東西方向(N-92°-E)に軸を持つ楕円形の土坑で、長さ180cm、幅130cm、深さ20cmである。全体が浅くボウル状に窪み、東側のみがスロープ状に立ち上がる。

出土遺物には弥生土器・石器がある。依存状況のよい甕形土器3点(332・335・336)については北壁沿いの床面からやや浮いた位置に凝集しており一括性が高い。弥生土器はいずれも甕形土器であるが、332・335は頸部が短く直立気味で口縁と胴部の張りが小さいなど、他の典型例とは異なる特徴がある。胴部文様には大きな違いがない。332は口縁下端に輪積み痕が残り、幅の広い二重口縁のようになっている。336は頸部と口縁部に明確な境界がなく、また口縁が大きく外反する点で典型例とは異なる。石器は頁岩製の楔状石器(337)である。

SK78 (8-36図)

調査区の中央東寄りに位置する。SK75と共にST01に最も近接する弥生時代の土坑である。平面形は不整形で規模は150cm大、確認面からの深さ55cmである。土坑内の北側に偏って110cm大の楕円形の掘り方が認められる。その内部は西北側が一段深く掘り込まれている。上段部の深さ35cm、下段部は10cm+10cmである。上段部の壁は内湾気味に傾斜して立ち上がる

出土遺物には弥生土器がある。細片が多いが依存状態のよいものは底面近くから出土した。弥生土器はいずれも甕形土器で、口縁端部が丸く収まり刻目を持つもの(338)、受口状で凹線文がめぐもの(339)があり、他にやや寸詰まりの器形で幅広の二重口縁に規則的なナデ調整が施されるもの(340)がある。



8-36図 SK78 遺構図・出土遺物

SK79 (8-16図)

調査区中央西寄りに位置する。SK89を掘削する。平面不整形で規模は155cm大である。

出土遺物には弥生土器甕と須恵器壺がある(8-37図)。弥生土器(341)は無文の口縁片で端部が丸く収まる。須恵器壺(342)は口縁片で大きく外反し端部が上方に突出する。

SK84 (8-16図)

調査区中央東南寄りに位置する。平面不整形で規模は100cm大である。

出土遺物には弥生土器甕(343)がある(8-37図)。厚く幅広い二重口縁で、直下には櫛描文がめぐる。

SK85 (8-16図)

調査区南東側に位置する。南北に長い舟形土坑で規模は360×120cmである。

出土遺物には弥生土器(344)がある。壺で、小さく外反する単口縁に刻み・浮文が付き頸部に櫛描文がめぐる。

SK89 (8-16図)

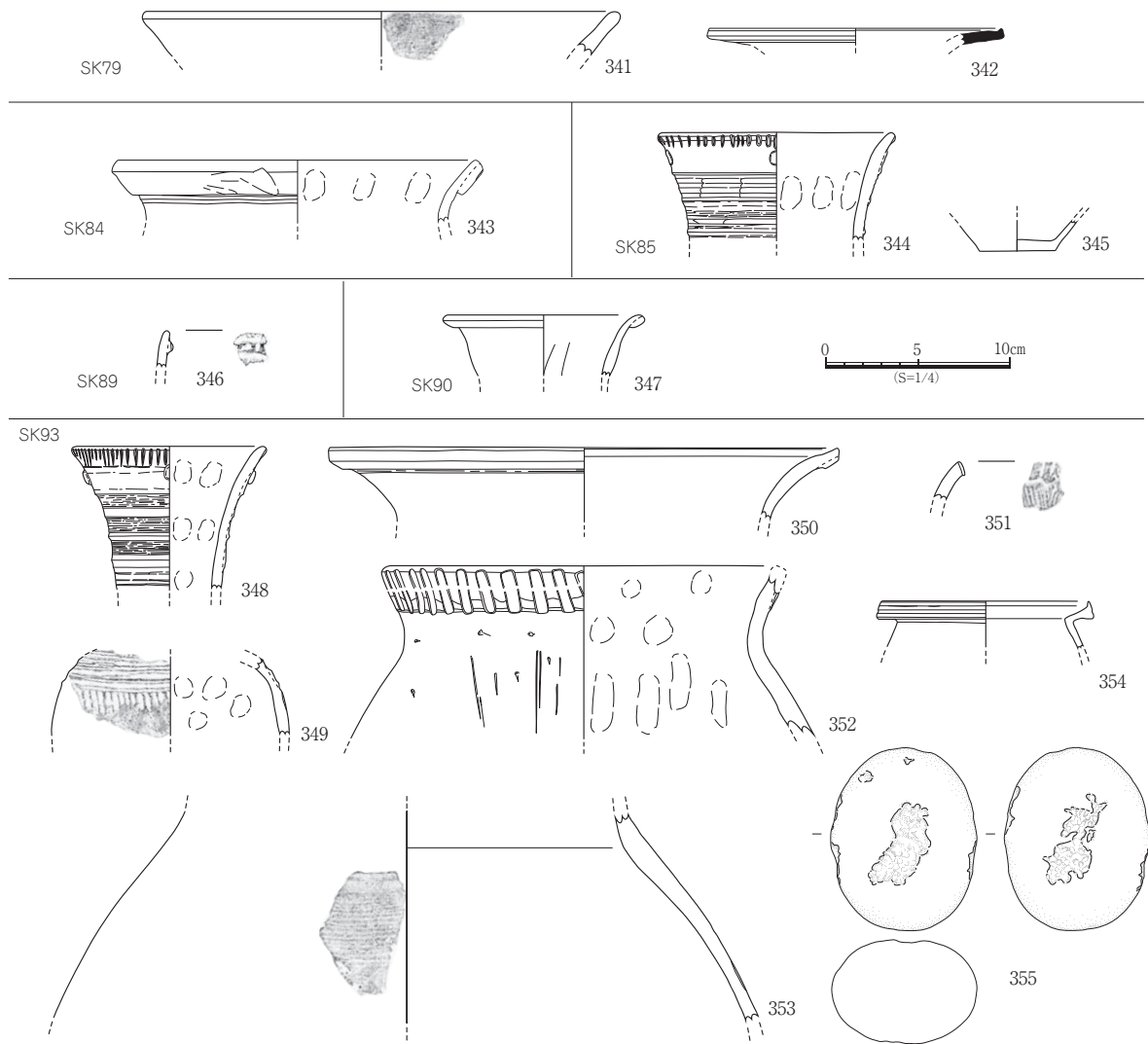
調査区中央西寄りに位置する。SK79に削平される。平面不整形で規模は180cm大である。

出土遺物には刻目突帯文土器(346)がある。口唇部に刻目をもち、口縁のやや下がった位置に刻目突帯がめぐる。

SK93 (8-16図)

調査区中央南寄りに位置する。平面形は不正方形で規模は270cm大、ST01に近接する。

弥生土器・石器が出土した。壺形土器は喇叭状に開く単口縁に刻みと浮文が付き(348)、胴部は球形で微隆起文・櫛描文に櫛歯刺突文が施文される(349)。甕形土器には、幅広い二重口縁外面に粗いたテミガキがめぐるもの(352)、受口状口縁に凹線文がめぐるもの(354)がある。石器は砂岩製の敲石(355)で長さ10.0cm、重さ660g、表裏に敲打痕が残る。



8-37図 SK79・84・85・89・90・93出土遺物

ピット

下層では113基のピットを検出した。任意に抽出し出土遺物について述べる(8-38図)。

下P11

調査区中央付近に位置する。須恵器坏(356)が出土した。底径9.0cm、底部回転ヘラ切りである。

下P15

調査区北側中央付近に位置する。土師質小皿(357)が出土した。口径7.9cm、底部回転糸切りである。

下P31

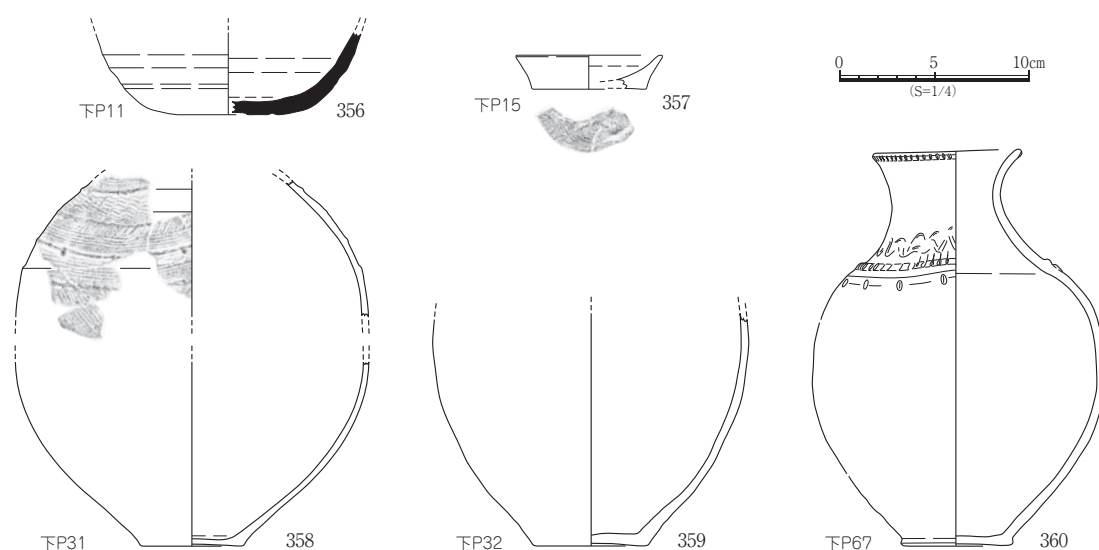
調査区中央西寄りに位置する。弥生土器壺(358)が出土した。薄手の胴部片で櫛描波状文・短斜線文がめぐり豆粒状浮文が添加される。

下P32

調査区中央付近に位置する。弥生土器甕(359)が出土した。胴下半であり、被熱し脆くなっている。

下P67

調査区中央南寄りに位置する。弥生土器壺(360)が出土した。略完形で器高20.9cm、最大径は胴上位、刻目単口縁で口頸部は発達せず、頸部以下に櫛描波状文・刻目突帯・微隆起文・棒状浮文が付く。



8-38図 下層ピット出土遺物

3. 包含層出土遺物および出土遺物の概要

基本層序で示したように、包含層出土遺物は「包含1～4層」に区分し収拾した。各層に含まれる遺物には弥生時代、古代、中世という時期差がみられるが、後世の掘削により巻き上げられ混入した資料も少なくない。ここでは包含層出土遺物を一括し、既知の分類に従って内容を整理する。

以下、縄文時代、弥生時代、土師器・埴輪・鍋・釜類、須恵器、緑釉陶器、白磁、青磁、陶器、土製品・石器・鉄器の順に包含層出土遺物および1～7区出土遺物の内容を報告する。

縄文土器(8-39図)

包含層から縄文土器の深鉢胴部片(361)が出土した。胎土にはチャートや砂礫を多く含み、焼成不良で色調が暗い。胴中位が僅かに括れる器形で、括れ部分に1条の沈線がめぐり、外面には横方向の擦過状調整痕があり、炭化物の付着も認められる。内面はナデ調整である。また、下層SK89からは刻目突帯文土器(346)が出土している。胎土や色調は361と同様である。口縁からやや下がった位置に刻目突帯1条がめぐり、口唇部にも刻みがある。二者はおおよそ同時期で縄文時代晩期後半に属する。

弥生土器(8-39図)

1～7区から出土した弥生土器は、凹線文が盛行した弥生時代中期後葉(Ⅳ期)の時期にほぼ限定される。器種は、主に壺・甕・高坏からなり、土器作りの伝統(系譜)からいえば在地系統と瀬戸内系統に分かれる。在地系は壺・甕のみで高坏を欠き、胎土が粗く、文様は櫛描文と微隆起文を基調に各種浮文が加わる。瀬戸内系は壺・甕に高坏が加わり、胎土はより精良で、口縁を受口状に造形し、凹線文を主要な文様とする。

在地系

在地系は壺と甕から構成される。割合としては甕が多い。壺と甕は頸部の締まり具合によって区別されるが、器種に関わりなく文様・装飾には部位ごとの定型がある。文様の基本構成要素は、微隆起文と櫛描文(櫛状工具による平行線文)である。両者は交互に施文され反復文様となる場合が多い。文様帯の境界部分にはしばしば各種浮文(円形、豆粒状、環状、棒状)が加えられる。肩部文様帯はとくに定型化しており、反復文の上段に豆粒状浮文や環状浮文を添加し、文様帯下縁を縦位の棒状浮文帯

(もしくは縦方向の櫛歯刺突文帯)で縁取る構成を典型とする。口縁部は、器種を問わず、大きく外反し口唇部を面取りし口縁端に刻目をめぐらす特徴がある。粘土紐を加え肥厚させた二重口縁は甕により顕著である。壺形土器では頸部から喇叭状に開く単口縁がひとつの定型としてある。また甕を中心に、幅広い二重口縁に規則的なナデを施すものもある。

包含層出土の在在系土器には、全体的な割合に従って壺形土器が少ない。包含層出土の363は口縁が喇叭状に開く単口縁の壺で、円形浮文が一定間隔で添加される。頸部には不鮮明であるが櫛描文数条がめぐる。この種の壺の全体像はSK74出土の319により把握できる。319は口唇部の面取りがより丁寧でやや外方に突出する特徴があるが、口頸部の構成は363と同様である。頸部は細長く、下端の頸胴部境界に2列の豆粒状浮文をめぐらす。玉葱形の胴部には上半部の全面に、斜線文を挟んだ微隆起文・櫛描文の反復文を充填する。反復文の上段には円形浮文を添加し、文様帯下端を刻目突帯で縁取る。また、SK74の320の様な、喇叭状単口縁に下端を浮文で縁取った縦方向の刻目をめぐらし、頸部には微隆起文・櫛描文の反復文を充填し、最下段を縦位の棒状浮文で縁取る構成もまたひとつの定型としてある(ST01:109・110、SD47:246、SK69:291、SK85:344、SK93:348)。

包含層出土の364は壺の胴部片で、櫛描波状文が施文される。櫛描波状文が施文された壺には遺構出土の3点(SD47:248、下P31:358、下P67:360)があるが、いずれも胴部最大径が中位にあり、前述の玉葱形とは異なる。360は微隆起文に刻目が加わるが、同様の表現はST01出土の104にもあり、104もまた胴部最大径が中位付近にある。刻目突帯でいえば、SK71出土の296は口縁に1条がめぐる。また、SD47出土の248は櫛描波状文・簾状文の反復文である。櫛描波状文や簾状文は前段階に流行した文様と考えられ、胴部最大径の位置や刻目微隆起文とともに時期差を考える材料となる。また、やや異質な壺形土器に、赤味がかかった色調で器壁が厚く砂礫を多く含み、長胴形で底部が丸みを帯び、外面をヘラミガキしたものがある(ST01:118、SK68:285、SK74:321・322)。285は焼成後に穿孔している。

包含層出土の甕形土器は、大部分が外反する口縁端に刻目をめぐらす典型の範疇に入る。甕の典型としてSK74出土の325をみると、大きく外反する二重口縁は端部に刻目を施し、下端に微隆起文・櫛描文の反復文をめぐらす。肩部文様帯は反復文の上段に環状浮文が添加され下端は縦位の棒状浮文に縁取られる。底部は平底と考えられる。甕形土器のなかには受口状の口縁外面に環状浮文がめぐるもの(SK68:274)などもあるが、二重口縁や反復文の有無などが異なる程度で、全体に極端な違いは見られない。ただし、SK75出土の甕形土器(332・335)は頸部が短く直立気味で、口縁の開きや胴部の張りが小さく他の典型例とは若干異なる。北西5kmの土佐市北高田遺跡から出土した土器とよく似ており、同遺跡出土の類品は弥生時代後期に編年されている。また甕形土器には、寸詰まりの器形で、幅広い二重口縁に規則的なナデ調整を施すものがある(ST01:134、SK78:340)。

その他、器種不明のものにST01出土の153がある。口頸に向かってすぼまる胴部から微隆起文を境に口縁が内傾して立ち上がる。胴部には環状刺突文2列が施文される。類品にST01出土の154がある。

瀬戸内系

瀬戸内系の土器は壺・甕・高坏から構成される。いずれの器種も口縁の拡張が顕著で、主に凹線文が施文される。胎土に細砂粒を含み、色調が明るく、内面にケズリ調整を用いる点も在在系との顕著な違いである。

包含層出土の壺形土器には、大きく外反した口縁の端面を下方に拡張して凹線文をめぐらし、頸部にも凹線文を施文したもの(362)がある。ST01出土の102は362と同様の器形であり、上下に拡張された複合口縁には凹線文が、頸部には方向を異にする三段の櫛歯刺突文が施文される。SK72出土の311は下方への拡張が顕著な受口状口縁の四等分位置に四個一組の棒状浮文が添加される。SK74出土の318は直線上に小さく外傾する口頸部の全面に凹線文をめぐらし、下端には斜方向の櫛歯刺突文を施文する。ST01出土の116・117は、318と同型の壺にU字形の把手が付いた水差形土器である。

甕形土器は、包含層出土の376・377の様に、複合口縁ないしは受口状口縁の拡張された口縁外面に凹線文をめぐらす。遺構出土品にはST01の130、SK74の327、SK93の354があり、総じて器壁が薄い。327は胴部最大径位置に斜方向の櫛歯刺突文がめぐり、内面下部には縦のケズリ調整を施す。

高坏形土器は坏部の形態に2種類がある。一方は丸みをもって立ち上がり、また一方は鋭く屈折或いは鏢状の突出をもって立ち上がる。前者の口唇部は丸く収まるが、後者の口唇部は内外に拡張され文様が加えられる。文様は口縁外面への凹線文を基調とする。SK68出土の286では環状刺突文と沈線表現による鋸歯文が施文され、包含層出土の380には櫛描波状文と円形浮文が施文された。脚部は内面に横方向のケズリ調整を施し、外開きの裾端部は上方に拡張され凹線文が施文される。他に、沈線による鋸歯文(SK68:288)や穿孔列(SK68:290)、縦横の櫛描文(SK71:304)、刺突列点文(包含層:379)などの文様がある。

土師質坏・埴ほか(8-40図)

包含層出土の土師質土器には、小皿(384~397)、坏(398~411・415~418・423・424・434・439)、埴(412・413・425~433・435)、蓋(437)、皿(438)、壺(436)、高坏(440)がある。

小皿は、口径に6.7~9.2cmの違いがあり、7cm台前半のものが多い。底部には回転ヘラ切り(384)、静止糸切り(385)、回転糸切り(386~397)が確認でき、回転糸切りが多数を占める。回転ヘラ切りの384は口径がやや大きい。回転糸切りの小皿には口縁形状に内湾(386~390)と外反(391~397)の違いがあり、後者がやや小さい。やや器高が高く口縁が喇叭形に開くもの(397)もある。

坏は、口径に10.4~13.9cm、器高に2.5~4.1cmの違いがある。底部にはヘラ切り(399・400)、回転ヘラ切り(398・401・402)、回転糸切り(403~411)を確認した。回転糸切りの408は底部が一部貫通しており、409には底部に粘土を補填した痕跡がある。その他、坏の底部には平底が円筒状に突出したものの(423・424)や高台が付いたもの(434・439)がある。439は内面に同心円がめぐり破面には擬口縁が認められる。

埴のうち、平底の412は口径10.7cm、器高4.4cmで底部は回転糸切りである。また、玉縁状の口縁をもつ413は、色調が白色を帯びて明るく、胎土は精良、丁寧なミガキ調整で仕上げられている。

壺とした436は合子に似た形状で口縁が一段狭まって立ち上がる。

黒色土器・瓦器(8-40図)

包含層から黒色土器埴(419)、瓦器埴(421・422)、小皿(420)が出土した。

黒色土器は埴の口縁部片(419)で、本調査区唯一の出土事例となる。緻密な胎土に角閃石等の微粒子を含み、内外面が黒く発色している。内湾して立ち上がる口縁は端部が僅かに外折し、内縁には1条の沈線がめぐる。内外面ともミガキ調整である。

瓦器埴は同型の2点(421・422)が包含層から出土した。形状は扁平で421は口径12.6cm、器高約3cmである。422には断面三角形の微弱な貼付高台が付く。瓦器埴は、上層のP332からも出土してい

る(58)。58は内面の暗文や断面方形の貼付高台など、包含層出土品に先行する特徴を持つ。瓦器小皿(420)は口径8.8cm、器高1.5cmの手捏ね製である。

鍋釜類(8-41図)

包含層から古代以降の煮炊具として、土師質甕ないし鍋(375・441～451・457～461)、瓦質鍋(452～456)、石鍋(464・465)が出土した。

375は薄手の土師質甕で、やや張りのある胴部から明確な頸部を持たずに口縁が外反する。口唇部は面取りされ内外に小さく突出する。胴部外面は縦ハケ、内面は横ハケ調整である。441は厚手でチャート等粗砂礫を多く含み、口縁はくの字に外折し、端部は丸く処理される。

442・443はやや異質な土師質甕である。442は細砂粒を含む緻密な胎土で、小さく折り返された微弱な口縁は端部が丸く処理される。外面にはユビオサエによる凹凸が目立つ。443も細砂粒を含む緻密な胎土で、口縁は緩やかに外反する。面取りされた口唇部はやや外側が肥厚する。頸部には2条の沈線がめぐる。

444～448は口縁が鋭く外折し口唇部が上方に突出するタイプの土師質甕で、粗砂礫を含む胎土や胴部外面の縦ハケ調整にも特徴がある。いずれも下半部を欠くが本来は胴張り丸底の器形である。口縁部の形状には3種類があり、①端面が外傾し端部が内方に突出するもの(444)、②口縁の開きがより水平に近く端面はほぼ垂直で端部が上方に突出するもの(445～447)、③端面が垂直で端部が上方に長くのびるもの(448)、に区分できる。遺構出土品では形状①に61(中層SB03)、形状②に55(上層P286)・84(中層P174)がある。

449～451は口縁直下に断面方形の鑊がめぐる土師質甕で所謂摂津C型である。鑊の接合部分に稜がでるもの(449)となだらかに接合するもの(450・451)があり、450は口縁端がやや内傾し、451は鑊の端部が丸く処理される。中層P427出土の97は449と450の中間的な形態で口唇部が水平に面取りされる。

452～454は瓦質の土佐型鍋である。いずれも軟質でユビオサエないしナデ調整が顕著に残る。包含層出土資料には3種類があり、口縁がやや外反するもの(452)、口縁が直立するもの(453)、断面三角形の突帯がめぐるもの(454)、に区分できる。上層SD34出土の21は、453の様に内窄まりの胴部から口縁がゆるやかに上方に立ち上がる。口唇部はハケにより面取りされる。

456・461は河内型の羽釜である。瓦質(456)と土師質(461)があり、内傾する口縁からやや下がった位置に裾開きの鑊が付く。遺構出土資料には、7(上層SD20)、19(上層SD33)、24(上層SD35)がある。中層P329出土の89は、鑊の張り出しが小さく、口縁の立ち上がりが垂直で、端部が外方に肥厚するなど特徴が異なる。

457は土師質甕で、肥厚気味の口縁はやや外折し、面取りされた口唇部は上方に小さく突出する。

458～460は土師質の紀伊型鍋である。くの字に外折する口縁の端部を折り返して突出させるのが特徴である。形態には大きく2種類がある。一方は458・459で、口縁はやや内湾気味、折り返し部分は丸みを帯び、折り返し突帯は両側縁が沈線ないし凹線により括れ、端部が丸く処理される。上層SD20出土の5も同類である。もう一方は460で、口縁は直線的に延び、折り返し部分の外面に粘土紐を加えて三角形に突出させる。折り返し突帯は側面の処理が微弱で断面が三角形に近い。同類である中層SD39出土の62は、口縁がやや外反気味で折り返し突帯には外反りの傾向が窺える。前者はやや軟質で赤味を帯びるなど、質にも若干の違いがある。

464・465は石鍋である。いずれも滑石製で464は外面が煤けている。形態は各様であり、464は外傾する胴部から口縁が上方に屈曲しながら立ち上がり、屈曲部分にはやや幅広の台形突帯がめぐる。465は屈曲のない器体が斜めに立ち上がり、やや幅の狭い突帯がめぐる。

須恵器(8-42図)

包含層出土の須恵器には蓋類(466～476)、坏(477～486)、皿(487～490)、高坏(491～492)、壺・瓶類(493～507)、鉢(508・509)、甕(510～513)がある。

蓋には、坏を伏せた形態のもの(466～469)、低平でかえりのつくもの(471・472)、低平で端部が下方に突出するもの(473)、低平で裾に段をもち端部が下方に突出するもの(475)、低平で径が大きく裾端が折れて外方に延びるもの(476)などがある。466には頂部内面に明瞭な指頭圧痕が残る。

坏には、受け部がつくもの(477・478)、平底(479～481)、高台がつくもの(482～486)がある。

皿には、底部から屈曲して立ち上がり口縁が受口状のもの(487)、底部から屈曲して斜めに立ち上がるもの(488)、底部から稜をもって屈折し外反気味に立ち上がるもの(489)がある。いずれも底部は回転ヘラ切りである。

壺・瓶類は、口頸部(493～498)、胴部(499・500)、底部(501～507)がある。493は提瓶ないし甕の口縁部とみられる。494・495は断面三角形の二重口縁、496は頸部に櫛描波状文が施文され、497は盤口状の長頸瓶とみられる。499・500は上半に断面三角形の突帯がめぐる胴部片である。底部はいずれも貼付高台をもつ。503は木葉痕が残る希少例である。

甕は外面に平行タタキ痕、内面に同心円当て具痕が残る。512では外面タタキ後にハケ調整を施し、内面の当て具痕はナデ消している。

緑釉陶器(8-43図)

包含層出土の緑釉陶器には色調・焼成の異なる2種類がある。一方は、淡黄緑色の軟質(514～517)、もう一方は淡緑色の硬質(518～524)である。前者のうち、514は小皿で口縁が外反気味である。515～517は貼付の輪高台がついた底部片で、いずれも高台端面を斜めにケズり取る。中層P70出土の77も同類の碗で口縁端が小さく外反する。後者のうち、小皿には口縁が内湾するもの(518・519)と端部が外反するもの(520)がある。521は端部が外反する碗で、522は壺の口縁部とみられる。底部には削出し高台(523)と貼付高台(524)がある。その他、細片につき図示できなかったが上層のSD20・22・24・27・SK10からも緑釉陶器が出土している。大部分が淡黄緑色軟質で前者に類する。

白磁(8-43図)

包含層出土の白磁は多くが碗(525～532)で、他に少量の小皿(533～535)、壺(536)がみられる。

碗は外傾する口縁に端反り傾向が認められる。526・527は口唇部面取りと外縁ヨコナデにより口唇部が外方に突出する。526はヨコナデ凹面の下端に沿って微隆起帯がめぐる。528・529は口禿である。529は外面下半も無釉である。上層SD20出土の10も端反り口縁の口禿小皿である。また上層SX03出土の34・35はいずれも玉縁状口縁の碗である。包含層出土の530～532は底部片でいずれも削出し高台である。530は外面に草文があり内面は見込みに段をもつ。輪高台はやや外開きで高台の内外は無釉である。531は高台内外と外面下部が無釉である。532は見込みに段があり高台内外が無釉である。中層P343出土の91も削出し高台で、高台周辺は無釉、見込みに圏線が施文される。

小皿は、534では削出し高台の周囲に溝をめぐらし高台部が無釉となる。535は削出し高台の外端を斜めに削り取る。壺(536)は僅かな上げ底で内外面に施釉する。

青磁(8-43図)

包含層出土の青磁は大部分が碗であり、色調・質の異なる2種類がある。一方は色調が明るく釉に若干の厚みがあり(537~546)、もう一方は鉛色掛かった色調で釉には貫入が目立つ(547~554)。前者はいずれも外面を蓮弁文で飾った碗で、底部には若干の違いがある。541・544・545は削出し高台で畳付け・高台にも釉が及んでいる。546は断面長三角形の貼付高台で畳付けを除く全面が施釉されている。遺構出土の12(上層SD20)・20(上層SD34)・29(上層SK43)・49(上層P200)・94(中層P362)も同類である。後者の類は口縁がやや端反り気味で、器面には蓮弁文だけでなく櫛描の草花文(552)も施文される。高台は断面長三角形の貼付高台(553)が確認されている。後者にはまた皿(554)がある。底部は上げ底の無釉で内面に櫛描草花文が施文される。上層SD20出土の11・中層P34出土の71も後者の同類である。

陶器(8-43・44図)

包含層出土の陶器には碗(555~557)、壺(558・562)、鉢(559~560)、播鉢(563~566)、甕(568~575・577~579)がある。

碗類のうち、555は天目茶碗である。口縁は屈折して直立、褐釉がかかり外面下部は無釉である。556は灰釉陶器である。口縁端がやや外反気味である。557は筒形碗である。

壺の胴部片である558は、外面に灰釉がかかり2条の櫛描集線文がめぐり、内面は横ナデを等間隔の斜めハケ調整が切る。562は灰釉がかかり沈線による草花文が施文される。

鉢(559・560)は外傾する器体の上端が受口状の二重口縁となっている。器形の似る播鉢(563~566)は口唇部が肥厚する単口縁で端面は斜面となる。鉢・播鉢には瓦質の製品もあり、561は瓦質の片口鉢、567は瓦質の播鉢である。いずれもやや薄手でユビオサエが顕著である。

甕では常滑産(569~573)が相当の割合を占める。胴部片には格子目タタキ(574・575)がみられる。

土製品・石器・鉄器(8-45図)

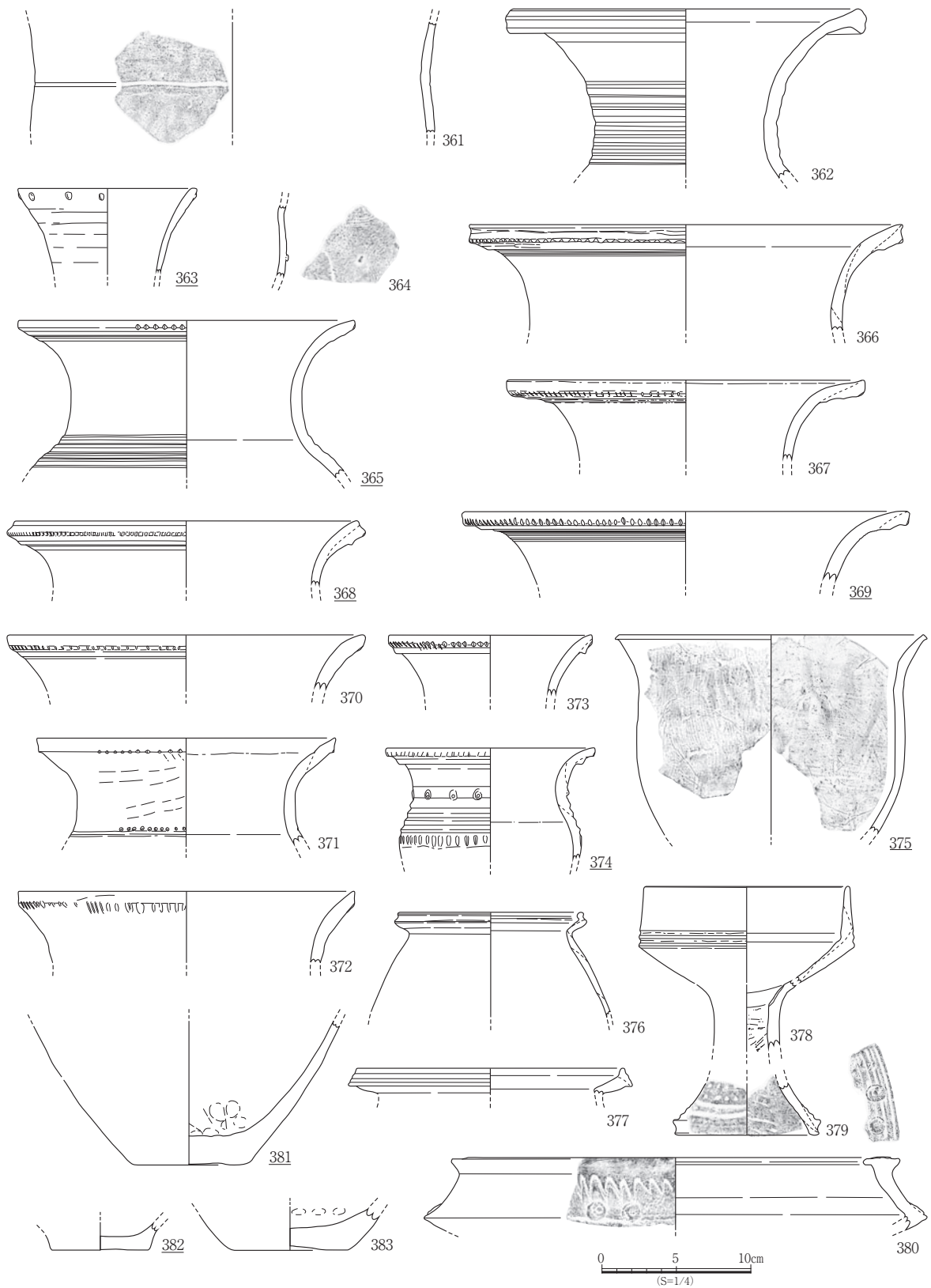
包含層出土の土製品には土錘(580~604)と土製円盤(605)がある。

土錘は大きく土師質と須恵質(593~597)に分かれる。土師質の土錘は長さ4cm前後・幅1~2cmの小型(580~588)、長さ7cm・幅2cm前後の中型(589~592)、長さ6~7cm、幅3cm前後の大型(598~604)に区分できる。須恵質の土錘は長さ4cm弱、幅1~2cmであり、小型の部類に含まれる。土製円盤(605)は回転糸切りの痕跡が残る土師質土器の底部を、3cm大の不整円形に加工したものである。

包含層出土の石器には石庖丁(606)、石鏃(607)、浮子(608)、石錘(609)、凹石(610)、台石(611)、敲石(612・613)、砥石(614~618)がある。大部分が弥生時代の石器である。

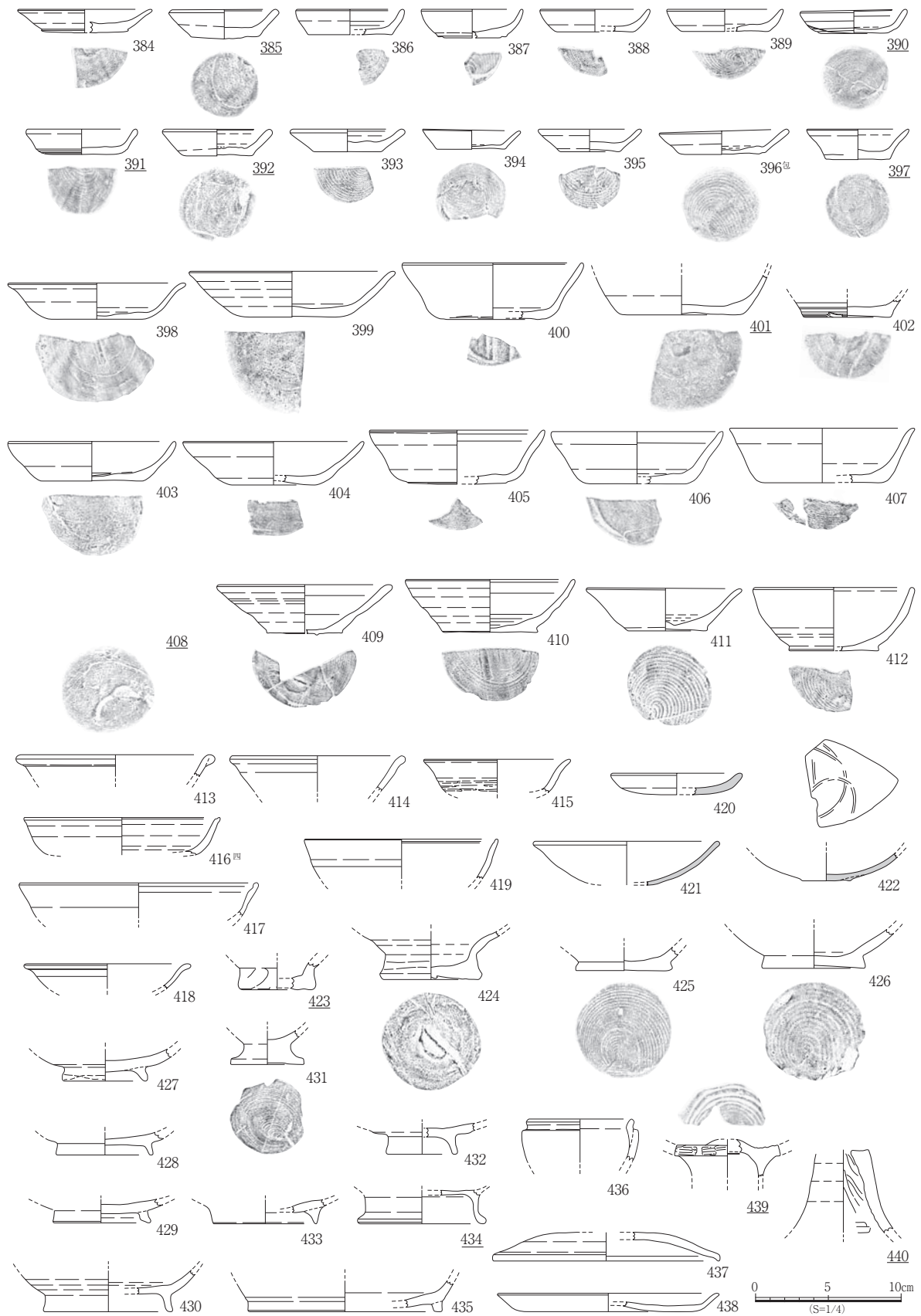
石庖丁(606)は不整長方形で、片刃・一孔の頁岩製である。中層SK60出土の68は同じく頁岩製であるが、櫛形・二孔・偏両刃と差異点が多い。下層ST01出土の158は一孔の頁岩製であるが、不整櫛形で孔は背側に偏在、両刃である点も異なる。石鏃(607)は打製の無茎凹基鏃で珪質頁岩製である。ST01出土の159はサヌカイト製の打製石鏃で逆刺のない有茎式である。浮子(608)は軽石製で二孔がある。石錘(609)は花崗岩製で円礫の中央に溝をめぐらす。凹石(610)は花崗岩製で円礫の一箇所に凹みがある。台石(611)は花崗岩製の扁平礫、敲石(612・613)は花崗岩製の棒状で、それぞれ敲打痕がある。砥石(614~618)には砂岩製、粘板岩製などがある。

包含層出土の鉄器には鉄刀(619)がある。長さ30.5cmで折り返し鍛えた鍛造製品である。

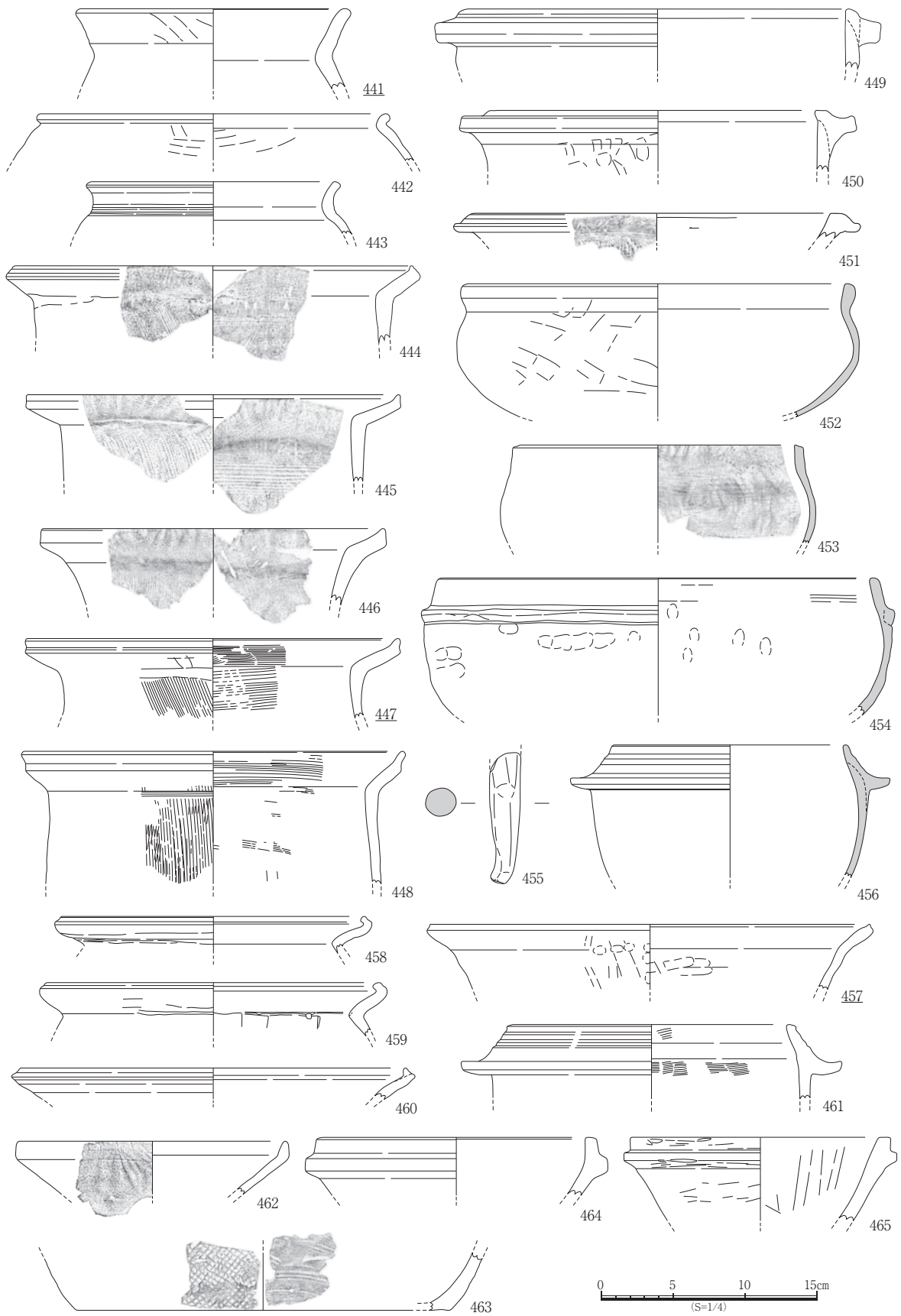


* 図中下線は包含3層出土、右肩'四'は包含4層出土、右肩'包'は包含層一括、それ以外は包含2層出土

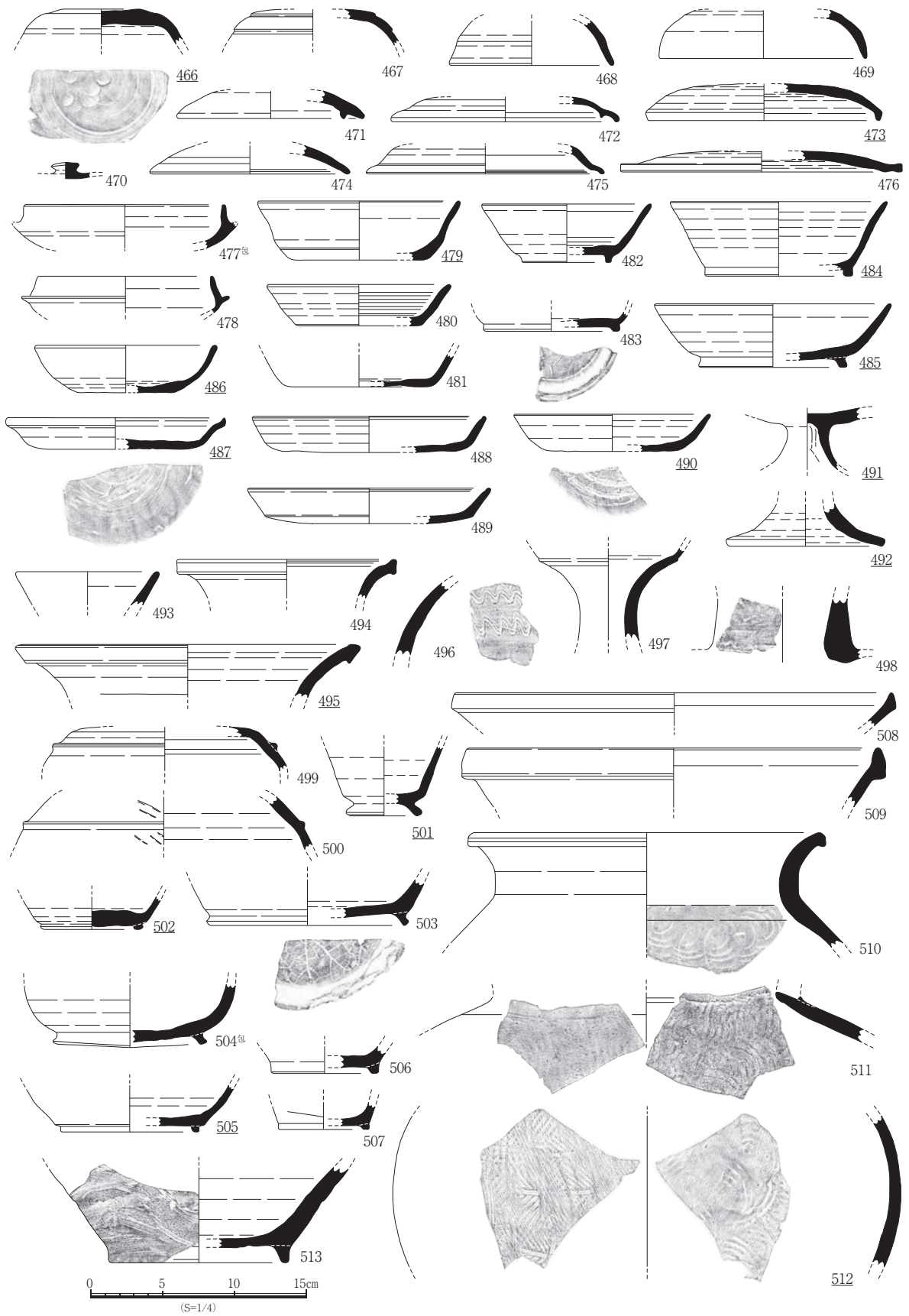
8-39 包含層出土遺物(弥生土器他)



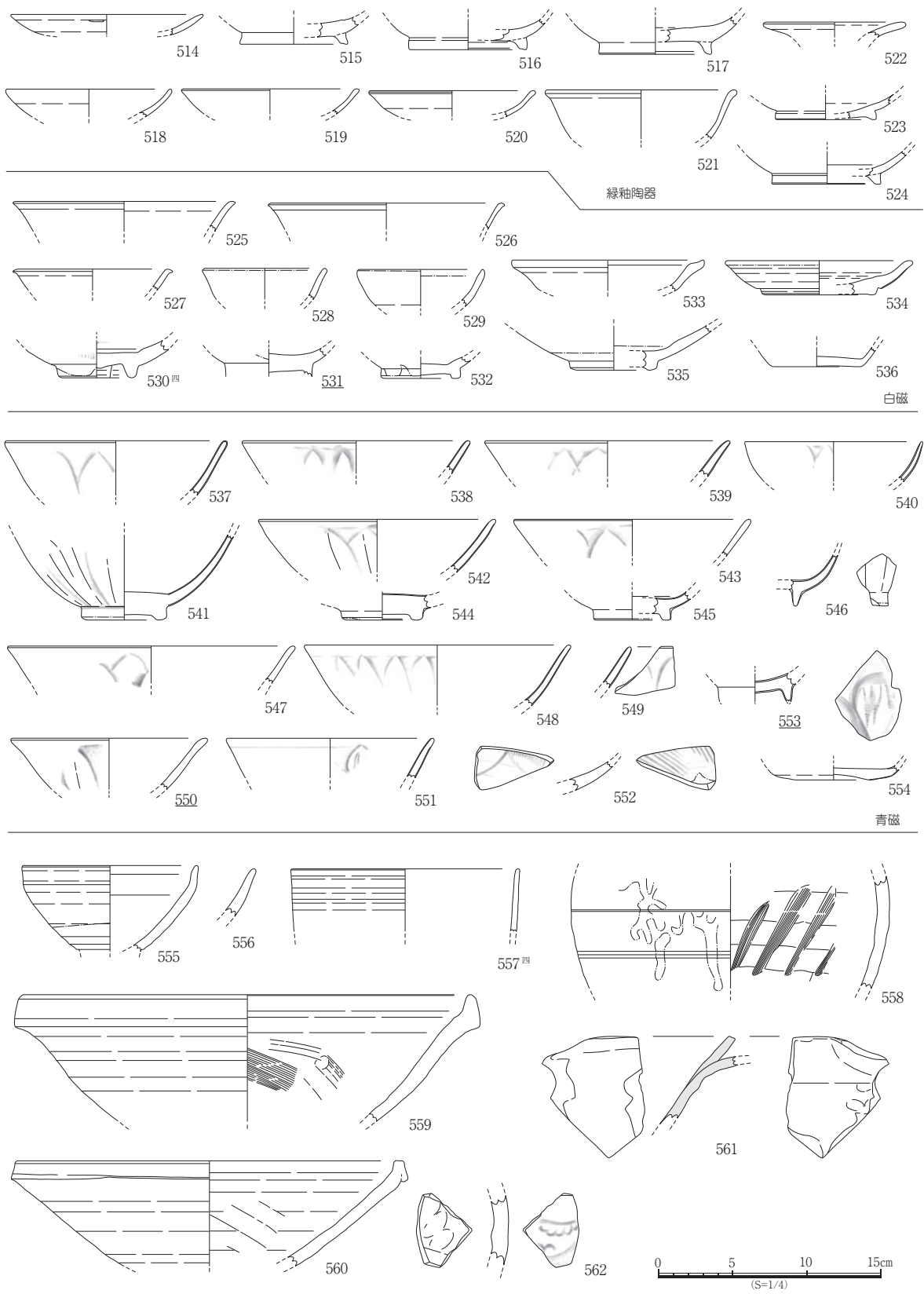
8-40図 包含層出土遺物(土師質土器、黒色土器、瓦器)



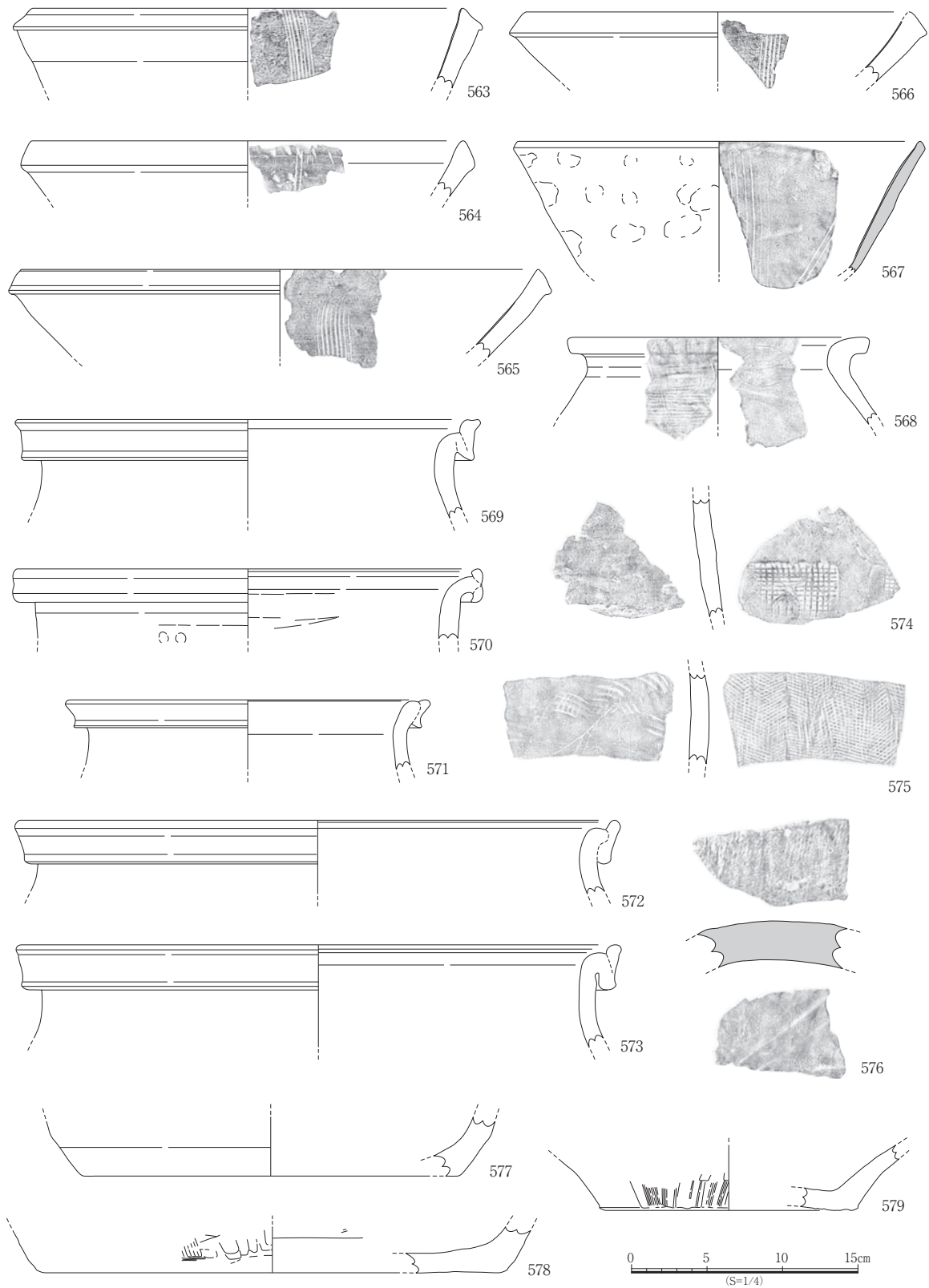
8-41 包含層出土遺物(土師質甕・羽釜・鍋、瓦質鍋、石鍋他)



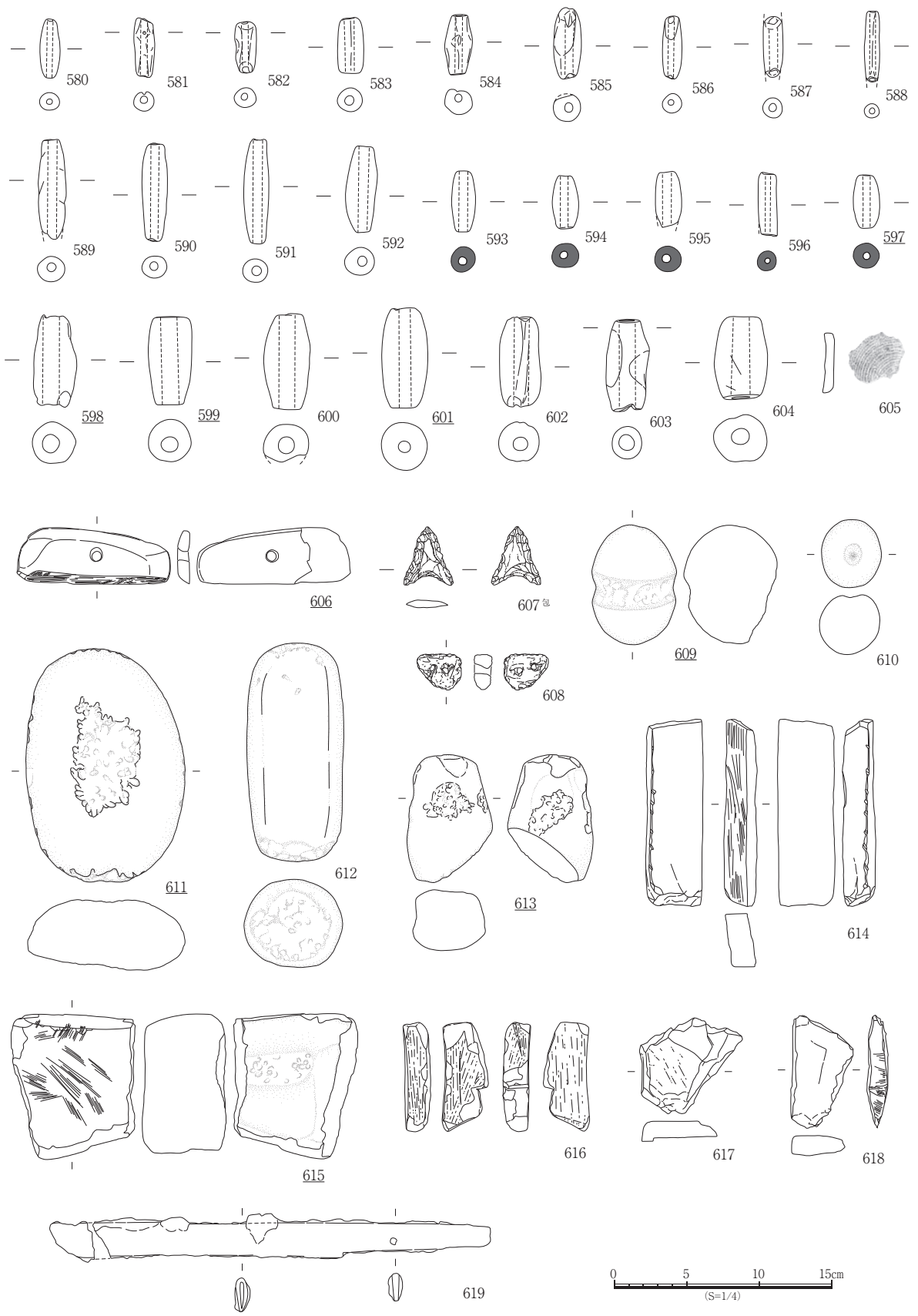
8-42図 包含層出土遺物(須恵器)



8-43図 包含層出土遺物(緑釉陶器、白磁、青磁、陶器)



8-44図 包含層出土遺物(陶器)



8-45图 包含層出土遺物(土製品、石器、鉄器)

遺構計測表

1-7区 遺構計測表 上層溝

溝番号	断面形	長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)	長軸方向	備考
SD02	ボウル形	2.53	0.43	13	N - 80° - W	
SD03	弓形	(2.89)	0.69	8	N - 79° - W	
SD16	-	3.79	0.58	-	N - 11° - E	
SD17	砲弾形	(3.54)	0.51	35	N - 3° - W	
SD18	V字形	(3.58)	0.55	26	N - 4° - E	
SD19	弓形	(7.10)	0.43	15	N - 9° - E	
SD20	弓形	(20.70)	(1.28)	37	N - 2° - W	
SD21	逆台形	3.32	0.41	16	N - 66° - E	
SD22	-	(5.65)	0.48	-	N - 83° - W	
SD23	弓形	(3.09)	0.82	15	N - 66° - E	
SD24	-	3.30	0.56	-	N - 83° - W	
SD25	-	2.43	1.71	-	N - 2° - W	
SD26	-	4.01	0.88	-	N - 87° - W	
SD27	-	5.75	0.44	-	N - 2° - W	
SD28	-	3.29	0.33	-	N - 84° - W	
SD29	-	4.57	0.64	-	N - 82° - W	
SD30	-	1.72	0.20	-	N - 45° - W	
SD31	弓形	(23.00)	2.23	36	N - 1° - W	
SD32	-	(1.76)	0.45	-	N - 76° - E	
SD33	弓形	(21.90)	0.98	23	N - 1° - W	
SD34	-	(39.81)	1.94	-	N - 87° - W	
SD35	-	(15.26)	1.66	-	N - 87° - W	

1-7区 遺構計測表 上層土坑

土坑番号	平面形態	断面形態	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	備考
SK01	不整楕円形	皿形	0.95	0.54	8	P36に切られる。
SK02	隅丸方形	弓形	1.27	0.91	10	
SK03	隅丸方形	皿形	1.89	1.36	15	SE01・P169・P198・P269に切られる。
SK04	不整円形	弓形	1.09	0.97	20	P26を切る。
SK05	隅丸方形	弓形	1.94	1.34	12	P1に切られる。
SK06	不整形	弓形	1.02	0.79	17	
SK07	不整形	弓形	(1.42)	1.61	10	P35・P58に切られる。
SK08	方形	逆台形	(2.10)	1.70	13	SK09を切る。P46・P192～195に切られる。
SK09	楕円形	弓形	0.98	0.52	9	SK08・P46・P192～195に切られる。
SK10	隅丸方形	箱形	0.84	0.84	28	
SK13	隅丸方形	-	1.20	0.80	-	
SK14	不整楕円形	-	1.02	0.81	-	
SK15	楕円形	弓形	(1.17)	0.38	19	
SK16	不整円形	弓形	0.82	0.70	45	
SK17	楕円形	弓形	1.05	0.81	8	
SK18	不整形	弓形	1.32	1.16	9	
SK36	楕円形	-	1.57	1.05	-	
SK37	不整楕円形	-	1.34	1.09	-	
SK38	不整円形	-	1.11	0.96	-	
SK39	不整円形	-	1.58	1.30	-	
SK40	不整形	-	1.14	0.91	-	

土坑番号	平面形態	断面形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	備考
SK41	不整形	-	2.44	1.64	-	
SK42	不整楕円形	-	1.12	0.89	-	
SK43	不整形	-	1.26	1.04	-	
SK44	円形	-	0.81	0.75	-	
SK47	隅丸方形	-	1.40	1.40	-	
SK48	不整形	-	(1.10)	1.04	-	
SK50	楕円形	-	0.86	0.47	-	
SK51	不整円形	逆台形	2.81	2.25	44	
SK52	不整形	箱形	2.32	2.20	24	

1-7区 遺構計測表 中層溝

溝番号	断面形	長さ(m)	幅(m)	深さ(cm)	長軸方向	備考
SD06	弓形	2.28	0.37	7	N - 17° - W	
SD07	V字形	(6.91)	0.49	7	N - 9° - E	
SD08	V字形	(2.28)	0.36	6	N - 83° - E	
SD09	弓形	(9.20)	0.43	14	N - 86° - E・N - 7° - W	
SD10	逆台形	2.26	0.36	15	N - 82° - E	
SD11	ポウル形	2.86	0.38	17	N - 78° - E	
SD12	弓形	(11.91)	0.78	17	N - 54° - E・N - 17° - W	
SD13	弓形	2.40	0.80	10	N - 6° - E	
SD36	弓形	(35.00)	0.92	46	N - 2° - W・N - 46° - W	
SD37	V字形	(23.51)	1.18	17	N - 40° - W	
SD38	-	(4.41)	0.61	-	N - 70° - E・N - 26° - W	
SD39	-	13.01	0.69	-	N - 12° - E・N - 82° - W	
SD40	-	(7.88)	0.40	-	N - 61° - E・N - 32° - W	
SD42	-	3.28	0.34	-	N - 79° - E	
SD44	-	(0.95)	(0.18)	-	N - 8° - E	

1-7区 遺構計測表 中層土坑

土坑番号	平面形態	断面形態	長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)	備考
SK19	隅丸方形	弓形	1.02	0.67	12	
SK20	隅丸方形	ポウル形	0.88	0.65	35	
SK21	不整楕円形	逆台形	0.88	0.65	36	
SK22	不整形	弓形	1.23	1.11	15	
SK23	不整形	弓形	1.21	1.03	16	
SK24	不整円形	ポウル形	0.64	0.61	21	
SK25	隅丸方形	逆台形	1.09	1.03	18	
SK26	隅丸方形	-	2.91	1.73	-	
SK27	不整形	逆台形	1.01	0.96	38	
SK28	不整形	-	1.05	1.01	-	
SK29	隅丸方形	箱形	0.83	(0.82)	72	
SK30	不整形	弓形	(1.04)	0.81	61	
SK31	不整形	ポウル形	(1.22)	1.02	52	
SK52	隅丸方形	-	1.04	1.03	-	
SK53	隅丸方形	-	1.08	1.06	-	
SK54	不整形	-	1.46	1.17	-	
SK55	不整形	砲弾形	0.76	0.38	49	

土坑番号	平面形態	断面形態	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	備考
SK57	不整形	-	1.14	(0.74)	-	
SK58	楕円形	-	0.51	0.36	-	
SK59	不整形	-	1.23	1.04	-	
SK60	隅丸方形	-	(1.46)	1.37	-	
SK61	不整形	-	1.78	1.66	-	
SK63	不整形	-	(0.70)	0.47	-	
SK64	不整形	逆台形	1.13	0.97	24	
SK65	不整形楕円形	-	2.15	0.62	-	

1-7区 遺構計測表 下層溝

溝番号	断面形	長さ (m)	幅 (m)	深さ (cm)	長軸方向	備考
SD14	弓形	3.40	0.56	8	N - 1° - W	
SD15	弓形	(21.14)	1.46	16	N - 38° - E · N - 9° - W	
SD36	-	(37.13)	0.62	-	N - 52° - E · N - 42° - W	
SD41	-	(28.51)	1.55	-	N - 41° - W	
SD45	-	(1.88)	1.10	-	N - 62° - E	
SD46	-	9.23	0.42	-	N - 43° - E · N - 2° - W	
SD47	逆台形	6.71	0.52	56	N - 38° - E	
SD48	-	2.85	0.42	-	N - 65° - E	

1-7区 遺構計測表 下層土坑

土坑番号	平面形態	断面形態	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	備考
SK32	不整形	逆台形	4.72	1.57	66	
SK33	不整形	ボウル形	1.08	(0.72)	34	
SK34	隅丸方形	-	0.87	0.61	-	
SK35	不整形	弓形	1.24	0.84	19	
SK68	溝状	V字形	(3.85)	0.70	74	
SK69	不整形	-	0.85	(0.72)	-	
SK70	不整形	-	1.71	1.08	-	
SK71	溝状	V字形	4.43	0.99	54	
SK72	溝状	逆台形	3.46	0.66	40	
SK73	不整形	-	(1.22)	0.27	-	
SK74	不整形	V字形	3.47	1.36	33	
SK75	楕円形	弓形	1.80	1.31	20	
SK76	溝状	-	2.67	0.38	-	
SK77	不整形楕円形	-	1.54	0.57	-	
SK78	不整形	弓形	1.55	1.54	40	
SK79	不整形	-	1.55	1.24	-	
SK81	不整形	-	2.05	(0.89)	-	
SK82	不整形	-	2.07	(0.66)	-	
SK83	不整形	-	12.42	1.47	-	
SK84	不整形	-	0.96	0.73	-	
SK85	不整形	-	3.61	1.16	-	
SK86	不整形	-	0.63	0.64	-	
SK87	不整形	-	1.08	(0.77)	-	
SK89	不整形	-	(1.77)	1.33	-	
SK92	不整形	-	1.58	0.80	-	

遺物觀察表

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
1	SD02	土製品 土錘	長さ 5.6	幅 1.9	重さ 18.6g	緻密。	外面ヘラナデ。
2	SD16	石器 砥石	長さ 17.1	幅 8.8	重さ 1,050g	泥岩製。	両砥面が弧をなす。
3	SD20	土師質 坏	11.8	3.9	7.6	緻密。砂礫を含む。	底部回転糸切り。
4	SD20	土師質 坏_底部	—	1.8	8.0	緻密。細砂粒を含む。	軟質。底部に板目痕。
5	SD20	土師質 甕_口縁部	29.6	3.2	—	やや泥質。角閃石等砂礫を多く含む。	紀伊型。口縁くの字に外折、端部を内方に折り曲げ。口縁内外ナデ。胴内面横ハケ。
6	SD20	土師質 甕_口縁部	22.3	1.9	—	砂質。長石・角閃石等砂礫を多く含む。	口唇端上方に突出、凹線めぐる。内外面ナデ調整。
7	SD20	瓦質 羽釜_口縁部	19.6	4.8	—	やや砂質。細砂粒を含む。	河内型。口唇部面取り。胴部外面ケズリ。内面板ナデ。
8	SD20	瓦質 播鉢_口縁部	30.4	7.3	—	緻密。細砂粒を含む。	片口。外面連続ユビオサエ。刷毛目6条。
9	SD20	須恵器 長頸瓶_頸部	—	10.7	—	緻密。	上部に凹線2〜3条めぐる。
10	SD20	白磁 皿_口縁部	10.8	1.3	—	緻密。	口禿。端反り。
11	SD20	青磁 碗_口縁部	16.4	2.8	—	緻密。	外面蓮弁文。
12	SD20	青磁 碗_底部	—	5.4	5.6	緻密。	外面蓮弁文。削出し高台、断面方形。畳付け・高台内無釉。
13	SD31 (1層)	弥生中期 甕_口縁部	17.8	4.4	—	砂質。砂礫を多く含む。	二重口縁は外反し端面は内傾、下端に刻目突帯。内外面ナデ調整。
14	SD31	弥生土器 壺_頸部	—	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	外面に矢羽根状の櫛歯刺突文。外面ナデ調整。内面ナデ調整、一部横ハケ、下位に絞り痕。
15	SD31 (1層)	瓦質 播鉢_口縁部	28.6	5.2	—	緻密。砂礫を含む。	口縁端面外傾、ハケで面取り。外面ユビオサエ。刷毛目6条。
16	SD31 (1層)	陶器 播鉢_口縁部	30.6	5.7	—	砂質。砂礫を多く含む。	口唇部上方に突出。刷毛目5条。
17	SD31 (1層)	瓦質 釜_脚部	—	9.9	—	砂質。砂礫を含む。	やや軟質。
18	SD33	弥生土器 高坏_脚部	—	(6.0)	—	砂質。砂礫を多く含む。	やや軟質。坏底部充填。外面ミガキか。内面絞り後ケズリ。
19	SD33	瓦質 羽釜_口縁部	26.0	4.2	—	砂質。砂粒を含む。	口唇部面取り。胴部外面ケズリ。内面横ハケ。
20	SD34	青磁 碗_底部	—	1.95	6.1	緻密。	削出し高台。高台断面方形、外端を斜めにケズリ。畳付け・高台内に釉薬及ぶ。
21	SD34	瓦質 鍋_口縁部	24.0	5.2	—	砂質。細砂粒を含む。	口唇部ハケで面取り。外面強いユビオサエ。内面ナデ。
22	SD34	須恵器 壺_口縁部	24.0	5.7	—	緻密。砂礫を含む。	外面に自然釉。胴内面に同心円当て具痕。
23	SD34	陶器 播鉢_底部	—	3.8	20.0	泥質。砂礫を含む。	刷毛目7条。
24	SD35	瓦質 羽釜_口縁部	25.3	6.9	—	砂質。石英他砂粒を含む。	口唇部面取り。外面は口縁ナデ、胴部ケズリ。内面は口縁横ハケ、胴部ナデ。
25	SK03	須恵器 蓋	17.7	2.3	—	緻密。砂粒を含む。	裾端下方に突出。頂部ヘラケズリ。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
26	SK15	土師質 坏_底部	—	1.8	6.4	緻密。細砂粒を含む。	底部端、擦過状のナデ。内面ナデ調整。
27	SK43	土師質 小皿	7.0	1.5	5.6	緻密。砂粒を含む。	底部回転糸切り。
28	SK43	土師質 碗_底部	—	2.7	5.7	緻密。砂粒を含む。	軟質。円盤高台。坏部外面下段に沈線めぐる。内外面ナデ調整。
29	SK43	青磁 碗_口縁部	16.3	2.7	—	緻密。	外面蓮弁文。
30	SX3	土師質 坏	13.8	3.4	6.6	緻密。砂粒を少量含む。	外面ナデによる凹面。内面ナデ調整。
31	SX3	土師質 坏_脚部	—	—	8.0	緻密。細砂粒を含む。	高台付。内外面ナデ調整。
32	SX3	土師質 皿	12.5	2.0	7.6	やや砂質。砂礫を含む。	軟質。内外面ナデによる凹面。回転ヘラ切り後ナデか。
33	SX3	瓦質 鍋_上半部	22.7	—	—	やや砂質。細砂粒を僅かに含む。	軟質。口唇部凹線の面取り。外面に粘土紐接合痕。外面ナデ・ユビオサエ。内面ナデ調整。
34	SX3	白磁 碗_口縁部	16.8	—	—	緻密。	口縁玉縁状。
35	SX3	白磁 碗_口縁部	18.6	—	—	緻密。	口縁玉縁状。
36	SX4	土師質 坏	10.9	4.5	7.0	緻密。砂粒を少量含む。	完形。軟質。全面ナデ調整。
37	P43	須恵器 長頸壺_口縁部	7.8	0.6	—	緻密。砂粒を含む。	口縁受口状。
38	P48	土製品 土錘	長さ 5.8	幅 2.2	重さ 23.4g	緻密。砂粒を含む。	
39	P58	土師質 坏	—	—	7.8	緻密。細砂粒を少量含む。	軟質。外面下端横ハケ。内面ナデ調整。底部回転ヘラ切り。
40	P59	須恵器 皿	14.0	1.6	11.8	緻密。微砂粒を僅かに含む。	軟質。底部内面ナデによる凹凸。
41	P89	土師質 坏_脚部	—	—	5.0	やや砂質。細砂粒を含む。	軟質。脚台中位ナデによる深い凹面。裾部外面はナデ、部位により角度異なる。断続的に圏線、一部ユビオサエ。
42	P130	須恵器 皿	14.3	2.2	11.4	緻密。微砂粒を少量含む。	軟質。口縁緩やかなS字状。
43	P133	土師質 小皿	6.8	1.7	4.6	緻密。砂粒を含む。	やや軟質。底部回転糸切り。
44	P133	土師質 小皿	7.0	1.7	4.8	緻密。	外面上部横ハケ。底部回転糸切り。
45	P149	須恵器 皿	17.2	2.3	13.6	緻密。微砂粒を含む。	軟質。口縁内面に圏線。
46	P164	土師質 碗_底部	—	—	—	緻密。	貼付高台。
47	P182	土師質 坏	11.8	4.3	7.7	緻密。砂粒を含む。	軟質。歪み大きい。全面ナデ調整。
48	P182	土師質 小皿	8.4	1.7	7.0	緻密。砂粒を含む。	やや軟質。外面ナデ、内面丁寧なナデ調整。底部回転糸切り。
49	P200	青磁 碗_口縁部	15.5	—	—	緻密。	外面蓮弁文。
50	P216	土師質 坏_底部	—	—	7.0	緻密。	軟質。内外ナデ調整。底部回転ヘラ切り。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
51	P235	瓦器 小皿	8.0	1.6	6.1	緻密。砂粒を含む。	手握ね。内外面ナデ。
52	P264	土師質 小皿	7.4	1.6	5.9	緻密。砂粒を含む。	底部回転糸切り。内面強いナデ。
53	P267	須恵器 坏_口縁部	13.4	2.5	7.9	緻密。微砂粒を僅かに含む。	
54	P271	土師質 坏_底部	—	—	7.8	緻密。微砂粒を少量含む。	底部回転糸切り。
55	P286	土師質 甕_口縁部	23.1	—	—	やや砂質。砂礫を多く含む。	口縁くの字に外折。口唇内傾し凹面状の面取り、内方に突出。外面は口縁ナデ、胴部縦ハケ。内面は口縁部横ハケ、胴部縦ハケ。
56	P314	土師質 坏	12.4	4.5	7.0	緻密。砂粒を僅かに含む。	軟質。全面ナデ調整。
57	P326	須恵器 坏_上半部	10.6	—	—	緻密。	
58	P332	瓦器 埴_底部	—	—	3.6	緻密。微砂粒を少量含む。	やや軟質。外面ナデ・ユビオサエ。内面暗文。貼付高台。
59	SB2	須恵器 皿_口縁部	15.3	—	—	緻密。	口縁に微弱な段。対応する内面に圈線。
60	SB2	須恵器 高坏_脚部	—	—	—	緻密。砂粒を少量含む。	自然釉。四等分位置に垂下沈線。下方に圈線。
61	SB3	土師質 甕_口縁部	—	—	—	やや砂質。角閃石他砂粒を含む。	口縁くの字に外折、端面やや外傾。口唇部上方に延びる。口縁内外板ナデ。
62	SD39	土師質 甕_口縁部	29.6	4.3	—	砂質。石英・角閃石他砂礫を多く含む。	紀伊型。口縁くの字に外折。口唇内方に突出、凹面状の面取り。外面ナデ調整。内面ナデ、一部ハケ調整。
63	SD42	弥生土器 壺_下半部	—	(18.1)	7.4	砂質。砂粒を多く含む。	内外面ナデ調整。
64	SD42	土師質 皿	12.8	2.6	9.3	砂質。砂礫を含む。	完形。底部回転ヘラ切り。
65	SK23	須恵器 壺_口頸部	18.7	8.1	—	緻密。	口縁端に三角突帯、上面に凹線めぐる。外面平行タタキ、内面同心円当て具。
66	SK23	須恵器 皿	17.2	2.4	14.4	緻密。砂粒を含む。	底部内外黒斑。口縁端微弱な段、対応する内面に凹線めぐる。内外面ナデ調整。
67	SK31	須恵器 坏	12.9	3.5	—	緻密。砂粒を含む。	褐色。内外回転ナデ調整。
68	SK60	石器 石包丁	長さ 9.8	幅 3.9	重さ 42.3g	頁岩製。	櫛形、偏両刃、二孔。
69	SK61	弥生中期 甕_口縁部	16.4	6.6	—	砂質。砂礫を多く含む。	口唇部面取り。二重口縁外面に規則的なユビオサエ。内外面ナデ調整。
70	SK61	弥生中期 甕_胴上部	—	6.4	—	砂質。砂礫を多く含む。	肩部に3歯櫛描文と貼付微隆起文の反復文。上段に円形浮文。下方に縦位刺突文がめぐる突帯、中央をナデ消し。内面ナデ。
71	中P34	青磁 碗	15.5	4.8	—	緻密。	外面蓮弁文。
72	中P40	土師質 坏	9.9	4.0	7.4	緻密。細砂粒を含む。	軟質。底部静止糸切り。焼成後底部穿孔か。
73	中P52	土師質 小皿	9.1	2.0	5.9	緻密。細砂粒を含む。	やや軟質。底部回転ヘラ切り。
74	中P53	須恵器 坏_底部	—	2.6	10.0	緻密。細砂粒を含む。	貼付高台。
75	中P68	土製品 土錘	長さ 6.6	幅 2.8	重さ 45.6g	やや砂質。砂粒を多く含む。	やや軟質。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
76	中P70	須恵器 碗	15.7	5.0	6.9	やや砂質。砂粒を多く含む。	底部内外面濃灰色。口縁ナデによる端反り。内外面丁寧なナデ。底部静止糸切り。
77	中P70	緑釉陶器 碗_口縁部	13.9	—	—	緻密。	
78	中P97	土師質 坏	11.8	3.4	6.4	緻密。砂礫を含む。	口縁外端、内側に段。口縁内縁に圏線。内面斜めナデ調整。底部回転糸切り。
79	中P102	土師質 小皿	6.8	1.5	4.6	緻密。細砂粒を僅かに含む。	軟質。
80	中P102	土師質 小皿	6.2	1.4	4.8	やや砂質。細砂粒を含む。	底部回転糸切り。
81	中P102	土師質 坏	11.2	4.2	7.5	やや砂質。細砂粒を含む。	口縁歪む。外面ナデによる凹面。内面ナデ調整。底部回転糸切り。
82	中P119	石器 扁平礫	長さ 6.0	幅 5.6	厚さ 1.8	花崗岩製。	
83	中P160	土師質 坏_口縁部	12.7	—	—	やや砂質。砂粒を含む。	
84	中P174	土師質 甕_口縁部	26.0	—	—	砂質。砂粒を多く含む。	口縁くの字に外折。口唇部上方に突出。口唇部ナデ凹面。口縁外面に接合痕と粗い沈線。胴外面縦ハケ。内面横ハケ。
85	中P199	石器 台石	長さ (17.0)	幅 (16.8)	重さ 3250g	砂岩製。	
86	中P328	土師質 小皿	6.9	1.4	4.8	緻密。砂粒を含む。	底部回転糸切り。
87	中P328	土師質 坏	13.0	3.4	7.9	緻密。微砂粒を僅かに含む。	底部回転糸切り。
88	中P329	弥生中期 甕_胴部	—	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	一定間隔をおいて6歯櫛描文4条。
89	中P339	瓦質 羽釜_口縁部	20.0	—	—	やや砂質。砂礫を含む。	口唇部面取り。口縁部強いナデ。内面横ナデ後斜めナデ。
90	中P342	土師質 坏	11.9	3.6	6.6	緻密。微砂粒を含む。	底部回転糸切り。
91	中P343	白磁 碗_底部	—	—	5.0	緻密。	見込みに圏線。削り出し高台。高台周辺・畳付・高台内無軸。
92	中P345	土師質 坏	11.6	3.65	7.0	やや砂質。細砂粒を含む。	やや軟質。底部回転糸切り。
93	中P345	土師質 坏	12.2	3.8	6.7	緻密。細砂粒を含む。	やや軟質。底部回転糸切り。
94	中P362	青磁 碗_口縁部	14.9	—	—	緻密。	外面蓮弁文。
95	中P363	弥生土器 壺か_底部	—	—	4.8	砂質。砂礫を多く含む。	高台状の小さな段差。内外面ナデ調整。
96	中P364	須恵器 坏	12.0	3.8	7.4	緻密。砂粒を含む。	口唇部は内外の沈線により上方に突出。底部回転糸切り。
97	中P427	土師質 羽釜_口縁部	20.1	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	口唇部面取り。鋳端面取り。内外面ナデ調整。
98	中P436	土師質 坏	11.4	3.7	7.0	緻密。細砂粒を含む。	底部回転糸切り後ヘラ切り。
99	中P502～ 504	土師質 小皿	6.9	1.6	4.5	緻密。	軟質。底部回転糸切り。
100	中P514	弥生中期 甕_胴部	—	—	—	緻密。砂粒を含む。	粗い櫛描文の上端に円形浮文。内面ナデ調整。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
101	中P514	石器 敲石	長さ (14.0)	幅 7.1	重さ 670.0g	花崗岩製。	一端を欠損。3側面に敲打痕。
102	ST01	弥生中期 壺_口頸部	21.5	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	受口状口縁外面に凹線文。頸部に斜位異方向の歯刺突文3段。外面上部横ナデ、下位縦ハケ。内面ナデ調整。
103	ST01 (B)	弥生中期 壺_口縁部	19.0	—	—	砂質。砂粒を多く含む。	やや軟質。口縁外面に2条の刻目突帯。内外面ナデ調整。
104	ST01	弥生中期 壺	10.6	21.3	5.6	緻密。砂礫を多く含む。	口縁外面に微隆起文。頸部上端に微隆起文を挟み6歯刺突文2条。肩部に刻目突帯4条、下端に棒状浮文。内外面ナデ調整。
105	ST01	弥生中期 小壺	9.7	—	3.7	緻密。砂粒を少量含む。	二重口縁上端に刻み。肩部に3歯刺突文4条。歯刺突文帯上下に環状刺突文。内外面ナデ調整。
106	ST01	弥生中期 壺_口縁部	11.3	—	—	砂質。砂粒を多く含む。	口唇部面取り。二重口縁外面に歯刺突文。頸部に微隆起文。内面ナデ調整。
107	ST01	弥生中期 壺_口頸部	8.0	—	—	緻密。砂粒を含む。	口唇部面取り、やや外方に突出。頸部付根に凹線文。内外面ナデミガキ。
108	ST01	弥生中期 壺_口頸部	11.6	—	—	砂質。橙色礫・砂礫を多く含む。	ナデによる擬二重口縁。内外面ナデ調整。
109	ST01	弥生中期 壺_頸胴部	—	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	頸部は貼付微隆起文・3歯刺突文の反復文/縦微隆起文、胴頸境界に棒状浮文。肩部は同反復文下端に歯刺突文。内面ナデ。
110	ST01	弥生中期 壺_頸部	—	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	外面に貼付微隆起文・4歯刺突文の反復文。反復文下端に縦位の棒状浮文。内面ナデ調整。
111	ST01	弥生中期 小壺	—	(16.2)	4.6	砂質。砂粒を多く含む。	頸部下端に4歯刺突文。内外面ナデ調整。
112	ST01	弥生中期 壺_頸部	—	—	—	砂質。	やや軟質。外面に凹線文。内面ナデ調整。
113	ST01 (②-2層)	弥生中期 壺_胴部	—	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	頸部下端に2列の円形刺突文帯/2歯刺突文/微隆起文。内面ナデ調整。
114	ST01 (中央土坑)	弥生中期 壺_胴部	—	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	3歯刺突文・微隆起文の反復文。反復文下端に歯刺突文。内面ナデ調整。
115	ST01 (中央土坑)	弥生中期 壺_胴部	—	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	2歯刺突文・微隆起文の反復文/斜位の棒状浮文。外面横方向ミガキ。内面ナデ調整。
116	ST01	弥生中期 把手付壺	7.7	19.3	6.9	緻密。粗砂礫を少量含む。	頸部全面に凹線文。胴上部に断面方形のU字形把手。外面ミガキ調整。頸部内面横ミガキ、胴部内面丁寧なナデ調整。
117	ST01	弥生中期 把手付壺	7.9	—	6.7	緻密。砂礫を多く含む。	やや軟質。頸部全面に凹線文。胴上部にU字形把手。外面ヘラミガキ。内面ナデ調整、底部付近はハケ調整。
118	ST01	弥生土器 壺か_下半部	—	(26.1)	8.8	緻密。砂礫を多く含む。	D ₁ ・2層と接合。外面縦方向のヘラミガキ。広範囲に黒斑。内面縦・斜方向のケズリ後ナデ調整。
119	ST01	弥生中期 甕_口縁部	24.6	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	中央土坑と接合。二重口縁下端に刻み。頸部に4歯刺突文・微隆起文の反復文。
120	ST01	弥生中期 甕_口縁部	18.3	—	—	砂質。砂粒を多く含む。	口唇部凹状面取り。二重口縁外面に刻み。口縁直下に2歯刺突文/貼付微隆起文/3歯刺突文2条。内外面ナデ調整。
121	ST01 (④_6層)	弥生中期 甕_口縁部	16.2	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	口唇部面取り、やや肥厚。口縁端に刻み。口縁外面に3歯刺突文2条。内外面ナデ調整。
122	ST01	弥生中期 甕_口頸部	27.7	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	口縁端に刻み。口縁外面に微隆起文を挟み8歯刺突文2条。頸部下端に歯刺突文、浮文の痕跡か。内外面ナデ調整。
123	ST01 (②_3層)	弥生中期 甕_口縁部	—	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	口縁端に刻み。口縁外面に微隆起文を挟んで4歯刺突文。内面ナデ調整。
124	ST01	弥生中期 甕_口縁部	—	—	—	緻密。粗砂礫を多く含む。	口唇部面取り、下端に刻み。口縁外端に3歯刺突文/微隆起文の反復文。
125	ST01 (中央土坑)	弥生中期 甕_口縁部	16.1	—	—	砂質。砂粒を多く含む。	口唇部面取り、下端に刻み。二重口縁外面に4歯刺突文1条。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
126	ST01 (③_7層)	弥生中期 甕_口縁部	12.6	—	—	緻密。砂粒を少量含む。	口唇部面取り。二重口縁外面に刻み。口縁下端に微隆起文を挟む4歯櫛描文。内外面ナデ調整。
127	ST01 (一括)	弥生中期 甕_口縁部	17.5	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	二重口縁外面に刻み。口縁直下に貼付微隆起文を挟む3歯櫛描文2条。頸部下端に環状浮文。内外面ナデ調整。
128	ST01 (A_3層)	弥生土器 甕_上半部	20.7	(15.1)	—	緻密。粗砂礫を含む。	口唇部面取り。口縁端に刻み。頸部外面横ナデ。肩部に7歯櫛描文3条。上段に環状浮文。下方に縦方向櫛描文帯。内面ナデ。
129	ST01 (ピット)	弥生中期 甕_口縁部	27.7	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	やや軟質。二重口縁下端に刻み。やや下に貼付微隆起文。内外面ナデ調整。
130	ST01	弥生中期 甕_口縁部	10.8	—	—	緻密。砂粒を含む。	③_2層他と接合。受口状口縁外面に凹線文。口縁内面の屈曲部に圏線。頸部外面縦ハケ。内面丁寧なナデ調整。
131	ST01	弥生中期 甕_口縁部	22.7	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	二重口縁外面に刻み。外面ナデ調整。内面丁寧なナデ調整。
132	ST01	弥生土器 甕_上半部	20.5	(12.5)	—	砂質。砂礫を多く含む。	やや軟質。二重口縁外面に歯刺突文。内外面ナデ調整。
133	ST01 (②_6層)	弥生中期 甕_口縁部	—	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	口唇部面取り。口縁外面に縦沈線文、下端に環状浮文。
134	ST01	弥生土器 甕	16.7	15.1	6.8	緻密。砂礫を少量含む。	口唇部面取り。幅広い二重口縁外面に斜方向の規則的なナデ。内外面丁寧なナデ調整。
135	ST01 (一括)	弥生中期 甕_胴上部	—	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	3~5歯櫛描文・微隆起文の反復文/縦位の歯刺突文。外面ミガキ調整。内面ナデ調整。
136	ST01	弥生土器 甕_胴部	—	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	やや軟質。内外面ナデ調整。外面に断面長方形の鉄棒付着。
137	ST01	弥生中期 甕_胴上部	—	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	頸部下端に歯刺突文。外面縦方向のハケ調整。内面ナデ調整。
138	ST01 (一括)	弥生土器 甕_胴部	—	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	やや軟質。外面丁寧なナデ。内面強いユビオサエ・ナデ調整。
139	ST01	弥生土器 甕_底部	—	—	6.5	砂質。粗砂礫を多く含む。	内外面ナデ調整。
140	ST01 (④_1層)	弥生土器 甕_底部	—	—	6.0	砂質。砂粒を含む。	やや軟質。底部は高台状。内外面ナデ調整。
141	ST01	弥生土器 甕_底部	—	—	6.0	緻密。砂礫を多く含む。	内外面ナデ調整。
142	ST01	弥生土器 甕_底部	—	—	6.8	砂質。砂粒を多く含む。	やや軟質。底部は高台状。内外面ナデ調整。
143	ST01(一括)	弥生土器 甕_底部	—	—	5.4	砂質。砂礫を多く含む。	やや上げ底。内外面ナデ調整。
144	ST01	弥生土器 甕_底部	—	—	6.3	緻密。砂粒を多く含む。	内外面ナデ調整。
145	ST01	弥生中期 高坏_口縁部	32.9	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	Bと接合。口唇部・口縁部に凹線文。口縁内面ナデ調整。坏部内外面ミガキ。
146	ST01	弥生中期 高坏	16.4	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	口縁・裾部を欠失。外面ミガキ調整。内面丁寧なナデ調整。
147	ST01 (④_1層)	弥生中期 高坏_口縁部	12.3	—	—	緻密。細砂粒を含む。	口縁端は内側に段をなす。口縁下部に凹文。内面ミガキ調整。
148	ST01	弥生中期 高坏_口縁部	15.2	—	—	緻密。砂粒を含む。	口縁外面に凹線文。内外面ナデ調整。
149	ST01	弥生中期 高坏_坏部	—	—	—	緻密。細砂粒を少量含む。	156と同一個体か。内外面ヘラミガキ。
150	ST01	弥生中期 高坏_口縁部	24.7	—	—	緻密。砂礫を少量含む。	④_2・4層と接合。口唇部に凹線文、外方に突出。口縁部無文。口縁内面丁寧な横ナデ。坏部内外面ミガキ。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
151	ST01	弥生中期 高坏_口縁部	18.4	—	—	緻密。砂粒を含む。	D_1・2層と接合。口唇部に凹線文。口縁は幅広い凹面3条。坏部内外面はヘラミガキ。坏部外面に鉄分付着。
152	ST01 (③_7層)	弥生土器 高坏_口縁部	25.6	—	—	緻密。チャート等砂 礫を少量含む。	内外面ナデ調整。
153	ST01 (④_1層)	弥生中期 不明	10.1	—	—	緻密。砂粒を含む。	口縁やや下に微隆起文。微隆起文上縁に口縁の接合痕残る。微隆起文直下に環状刺突文2列。内外面ナデ調整。
154	ST01 (中央土坑)	弥生中期 壺_胴部	—	—	—	緻密。砂粒を多く含 む。	やや軟質。環状刺突文2列。内外面ナデ調整。
155	ST01	弥生中期 高坏_脚部	—	—	10.7	緻密。チャート等砂 礫を多く含む。	裾端部に凹線文。頸部外面ナデミガキ。内面横方向のケズリ。
156	ST01	弥生中期 高坏_脚部	—	—	12.6	緻密。砂粒を多く含 む。	149と同一個体。外面丁寧なナデ。裾端面・内面下端に凹文。内面に 絞り痕、ナデ調整。
157	ST01 (一括)	弥生中期 高坏_脚部	—	—	7.8	緻密。砂粒を多く含 む。	やや軟質。外面縦方向のヘラミガキ。裾端面に凹文。内面絞り痕、 ナデ調整。
158	ST01 (一括)	石器 石包丁	長さ 9.4	幅 4.3	重さ 55.2g	頁岩製。	不整楕形。偏両刃。一孔で背側に偏る。
159	ST01 (C)	石器 石鏃	長さ (3.7)	幅 1.4	重さ 2.3g	サヌカイト製。	打製。茎欠失。
160	ST01 (中央土坑)	石器 石錘	長さ 2.9	幅 0.9	重さ 6.1g	凝灰岩製。	両端の丸い紡錘形。中央に幅広の溝がめぐる。
161	ST01 (中央土坑)	石器 石錘	長さ 9.1	幅 5.9	重さ 432.0g	砂岩製。	垂鈴形。
162	ST01	石器 石錘か	長さ (13.5)	幅 9.4	厚さ 6.7	安山岩。	半分欠失。重さ1,240g。長側面に敲打痕および抉り。
163	ST01	石器 石錘	長さ 13.9	幅 12.3	厚さ 7.3	安山岩。	重さ2,650g。両長側縁に敲打による抉り。正面は稜の左右に2面の 砥面。背面は楕円範囲に平坦砥面。
164	ST01	石器 敲石	長さ (5.2)	幅 (7.1)	厚さ 4.8	閃緑岩製。	基部のみ残存。重さ166.4g。
165	ST01 (ビット)	石器 敲石	長さ 8.2	幅 9.2	厚さ 5.6	閃緑岩製。	重さ710g。上下と正面に敲打痕。側面に刻み。
166	ST01	石器 敲石	長さ (6.3)	幅 (7.7)	厚さ (2.8)	砂岩製。	半部欠失。重さ195.6g。
167	ST01 (ビット)	石器 敲石	長さ 10.1	幅 8.0	厚さ 5.2	閃緑岩製。	重さ625g。4側面に敲打痕。正面僅かに剥離。
168	ST01 (一括)	石器 円礫	長さ 10.2	幅 8.3	厚さ 5.6	花崗岩。	重さ550g。
169	ST01	石器 砥石	長さ (11.1)	幅 8.3	厚さ 4.0	砂岩。	欠失部分あり。短刃側反る。
170	ST01	石器 台石	長さ (8.4)	幅 (9.5)	厚さ (4.3)	砂岩。	重さ450g。
171	ST01	石片	長さ 6.4	幅 6.0	厚さ 0.6	粘板岩。	重さ44.0g。
172	ST01 (B)	鉄器 鉄斧_刃部	長さ (8.2)	幅 3.9	厚さ 0.3	—	鍛造。板状。やや先細り。
173	ST01 (①)	鉄器 鉄斧か_刃部	長さ (4.7)	幅 2.0	厚さ 0.4	—	鍛造。側縁面取り。
174	ST01 (ビット)	鉄器 鉄刀か	長さ (10.7)	幅 2.9	厚さ 0.4	—	鍛造。板状。刃部両刃か。
175	ST01 (B)	鉄器 鉄鏃か	長さ (6.8)	幅 2.5	厚さ 0.3	—	鍛造。板状。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
176	ST01 (B)	鉄器 不明	長さ (5.4)	幅 1.9	高さ 0.4	—	鍛造。板状。先端尖り気味。
177	ST01 (①)	鉄器 刀子か_茎	長さ (4.1)	幅 1.3	高さ 0.2	—	鍛造。板状。
178	ST01 (④_2層)	鉄器 不明	長さ 4.3	幅 1.0	高さ 0.3	—	鍛造。板状。木葉形。
179	ST01 (②)	鉄器 鉄鏃か	長さ (2.7)	幅 1.9	高さ 0.2	—	鍛造。板状。有茎。鏃身三角形。
180	ST01 (一括)	鉄器 鉄鏃か	長さ (3.0)	幅 1.6	高さ 0.5	—	鍛造。有茎。
181	ST01 (ピット)	鉄器 裁断片	長さ 3.5	幅 2.2	高さ 0.2	—	鍛造。板状。偏三角形。
182	ST01 (④_床直)	鉄器 裁断片	長さ 2.6	幅 1.9	高さ 0.3	—	鍛造。偏三角形。
183	ST01 (①_6層)	鉄器 裁断片	長さ 1.9	幅 1.5	高さ 0.2	—	鍛造。板状。三角形。
184	ST01 (一括)	鉄器 裁断片	長さ 2.1	幅 1.2	高さ 0.2	—	鍛造。板状。偏三角形。
185	ST01 (中央土坑)	鉄器 裁断片	長さ 1.6	幅 0.7	高さ 0.2	—	鍛造。
186	ST01 (ピット)	鉄器 裁断片	長さ 1.2	幅 1.0	高さ 0.1	—	鍛造。V字状。
187	ST01 (①)	鉄器 不明	長さ (1.8)	幅 1.1	高さ 0.1	—	鍛造。板状。端部三角形。
188	ST01 (①_3層)	鉄器 不明	長さ (2.6)	幅 1.2	高さ 0.1	—	鍛造。板状。先端尖る。
189	ST01 (④_1層)	鉄器 不明	長さ (6.9)	幅 1.7	高さ 0.3	—	鍛造。板状。
190	ST01 (④_1層)	鉄器 鉄鉈か_柄部	長さ (4.4)	幅 1.3	高さ 0.4	—	鍛造。板状。
191	ST01 (③)	鉄器 不明	長さ (7.7)	幅 1.9	高さ 0.3	—	鍛造。板状。一方の端は圭頭形。
192	ST01 (一括)	鉄器 不明	長さ (6.6)	幅 2.3	高さ 0.2	—	鍛造。板状。先端窄まる。
193	ST01 (①_3層)	鉄器 不明	長さ (3.0)	幅 2.2	高さ 0.1	—	鍛造。板状。
194	ST01 (一括)	鉄器 不明	長さ (2.6)	幅 1.9	高さ 0.2	—	鍛造。端部裾広がりがり。
195	ST01 (②)	鉄器 不明	長さ (3.8)	幅 1.8	高さ 0.4	—	鍛造。板状。
196	ST01 (①)	鉄器 鉄刀子か_茎	長さ (4.8)	幅 1.4	高さ 0.3	—	鍛造。板状。
197	ST01 (②)	鉄器 鉄刀子か_茎	長さ (4.3)	幅 1.7	高さ 0.6	—	鍛造。板状。
198	ST01 (①)	鉄器 不明	長さ (5.3)	幅 1.7	高さ 0.3	—	鍛造。板状。断面偏台形。
199	ST01 (①)	鉄器 不明	長さ (7.0)	幅 1.4	高さ 0.2	—	鍛造。板状。先細り。
200	ST01 (①_3層)	鉄器 不明	長さ (5.9)	幅 1.3	高さ 0.2	—	鍛造。板状。先細り。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
201	ST01 (①_3層)	鉄器 鉄鏃か_茎	長さ (4.7)	幅 1.7	高さ 0.3	—	鍛造。
202	ST01 (①)	鉄器 不明	長さ (5.1)	幅 1.2	高さ 0.3	—	鍛造。板状。先細り。
203	ST01 (一括)	鉄器 鉄鏃か_茎	長さ (4.0)	幅 (1.2)	高さ 0.2	—	鍛造。先細り。
204	ST01 (中央土坑)	鉄器 不明	長さ (4.1)	幅 0.8	高さ 0.2	—	鍛造。板状。先細り。
205	ST01 (①_1層)	鉄器 鉄鏃か_茎	長さ (3.6)	幅 0.6	高さ 0.2	—	鍛造。板状。先細り。
206	ST01 (①)	鉄器 不明	長さ (2.1)	幅 1.1	高さ 0.2	—	鍛造。板状。先端尖る。
207	ST01 (一括)	鉄器 不明	長さ (2.6)	幅 1.2	高さ 0.2	—	鍛造。板状。一端が茎状。
208	ST01 (中央土坑)	鉄器 鉄鏃か_茎	長さ (2.5)	幅 0.7	高さ 0.2	—	鍛造。板状。先細り。
209	ST01 (②)	鉄器 鉄鏃か_茎	長さ (2.9)	幅 0.6	高さ 0.6	—	鍛造。板状。
210	ST01 (①_3層)	鉄器 不明	長さ (2.9)	幅 0.9	高さ 0.2	—	鍛造。板状。先端尖る。
211	ST01 (②_4層)	鉄器 鉄鏃か_茎	長さ (3.3)	幅 1.0	高さ 0.3	—	鍛造。板状。端部尖る。
212	ST01 (①)	鉄器 不明	長さ (3.5)	幅 0.7	高さ 0.2	—	鍛造。板状。先細り。
213	ST01 (②_2層)	鉄器 不明	長さ (3.4)	幅 0.7	高さ 0.3	—	鍛造。板状。先細り。
214	ST01 (中央土坑)	鉄器 不明	長さ (2.9)	幅 0.7	高さ 0.1	—	鍛造。板状。
215	ST01 (①_3層)	鉄器 不明	長さ (3.0)	幅 0.6	高さ 0.1	—	鍛造。板状。
216	ST01 (①_3層)	鉄器 不明	長さ (3.6)	幅 0.6	高さ 0.1	—	鍛造。板状。やや先細り。
217	ST01 (①_3層)	鉄器 不明	長さ (3.3)	幅 1.2	高さ 0.2	—	鍛造。板状。
218	ST01 (②)	鉄器 不明	長さ (3.9)	幅 0.8	高さ 0.3	—	鍛造。板状。先細り。
219	ST01 (①_3層)	鉄器 不明	長さ (4.7)	幅 0.9	高さ 0.2	—	鍛造。板状。
220	ST01 (一括)	鉄器 不明	長さ (5.2)	幅 0.8	高さ 0.1	—	鍛造。板状。
221	ST01 (④_2層)	鉄器 不明	長さ (6.1)	幅 0.6	高さ 0.3	—	鍛造。棒状。断面偏六角形。
222	ST01 (②)	鉄器 不明	長さ (3.2)	幅 0.8	高さ 0.2	—	鍛造。板状。やや先細り。
223	ST01 (④_6層)	鉄器 不明	長さ (4.1)	幅 0.6	高さ 0.3	—	鍛造。棒状。断面偏長方形。
224	ST01 (④_1層)	鉄器 不明	長さ (2.7)	幅 1.0	高さ 0.2	—	鍛造。板状。
225	ST01 (④_1層)	鉄器 不明	長さ (3.0)	幅 1.3	高さ 0.1	—	鍛造。板状。先細り。一端に閃あり。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
226	ST01 (①)	鉄器 不明	長さ 2.8	幅 0.8	厚さ 0.2	—	鍛造。偏三角形。
227	ST01 (①_2層)	鉄器 不明	長さ (3.5)	幅 0.3	厚さ 0.2	—	鍛造。棒状、断面抹角方形。
228	ST01 (①_3層)	鉄器 不明	長さ (3.8)	幅 0.4	厚さ 0.2	—	鍛造。細長い板状。先端尖る。
229	ST01 (①)	鉄器 不明	長さ (3.1)	幅 0.6	厚さ 0.4	—	鍛造。棒状、断面抹角方形。先細り。
230	ST01 (④_6層)	鉄器 不明	長さ (2.0)	幅 0.2	厚さ 0.2	—	鍛造。細い棒状。断面方形。
231	ST01 (①)	鉄器 不明	長さ (6.5)	幅 0.9	厚さ 0.8	—	鍛造。棒状、断面方形。
232	ST01 (中央土坑)	鉄器 不明	長さ (5.0)	幅 0.8	厚さ 0.5	—	鍛造。棒状、断面長方形。
233	ST01 (B)	鉄器 不明	長さ (5.9)	幅 0.5	厚さ 0.3	—	鍛造。棒状。断面偏長方形。
234	ST01 (①_3層)	鉄器 不明	長さ (3.4)	幅 0.6	厚さ 0.3	—	鍛造。板状。
235	ST01 (②_3層)	鉄器 不明	長さ (2.7)	幅 0.4	厚さ 0.3	—	鍛造。棒状、断面偏六角形。
236	ST01 (③)	鉄器 不明	長さ (2.1)	幅 0.4	厚さ 0.3	—	鍛造。棒状、断面抹角方形。
237	ST01 (②)	鉄器 不明	長さ (2.2)	幅 0.4	厚さ 0.3	—	鍛造。棒状、断面方形。
238	ST01 (一括)	鉄器 不明	長さ (3.7)	幅 0.6	厚さ 0.2	—	鍛造。棒状、断面長方形。先細り。
239	SB1	土製品 土錘	長さ 2.8	幅 1.0	重さ 2.4g	やや砂質。砂礫を含む。	やや軟質。
240	SD36	土師質 甕_口頸部	22.3	—	—	緻密。チャート等砂礫を含む。	口縁内湾気味で口唇は内外に小さく突出。胴外面横・縦ハケ調整。内外面ナデ調整、一部ハケ。
241	SD36	土師器 坏	15.5	6.2	—	緻密。砂礫を含む。	輪積み成形、丸底。外面横ヘラナデ、内面口縁回転ナデ・胴部ナデ一部擦痕。底部内面に煤。
242	SD36	須恵器 瓶_底部	—	1.9	—	やや砂質。細砂粒を含む。	高台内傾。底部回転ヘラ切り。
243	SD46	瓦質 高坏_脚部	—	7.5	8.4	砂質。砂礫を含む。	軟質。
244	SD47	弥生中期 壺	10.2	26.5	4.8	砂質。砂礫を多く含む。	やや軟質。口唇部面取り。口縁端に刻み。頸部に櫛描文3条。胴部上半に5歯櫛描文3条。内外面ナデ調整。
245	SD47 (一括)	弥生中期 甕_口縁部	—	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	口唇部面取り。口縁端に刻み。口縁外面に貼付微隆起文/櫛描文。内面ナデ調整。
246	SD47	弥生中期 壺_頸部	—	—	—	緻密。砂粒を含む。	頸部上半に4歯櫛描文帯、下半に縦方向の櫛描文帯。頸部下端に円形浮文。頸部内面縦ナデ。
247	SD47	弥生中期 壺_胴部	—	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	上下を環状刺突文で縁取った斜位の櫛歯刺突文帯を櫛描文が挟む。内面ナデ調整。
248	SD47	弥生中期 壺_胴上部	—	—	—	緻密。砂粒を含む。	薄手。胴上半に簾状文・櫛描波状文の反復文。反復文下方に微隆起文2条/棒状浮文。内外面ナデ調整。
249	SD47 (一括)	弥生中期 甕_口縁部	24.2	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	口縁が強く外反。二重口縁下端に刻み。内外面ナデ調整。
250	SD47	弥生中期 甕_口縁部	27.0	—	—	やや砂質。砂礫を多く含む。	やや軟質。口縁部に縦長の刺突文をめぐらした幅広い突帯/微隆起文。内外面ナデ調整。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
251	SD47	弥生中期 甕_口頸部	18.4	—	—	緻密。砂礫を含む。	軟質。口唇部面取り。無文。外面ナデ、内面横ナデ後縦ナデ調整。
252	SD47	弥生中期 高坏_脚部	—	—	10.5	やや砂質。砂礫を含む。	裾に段、端面に凹線文。外面ナデ調整。内面横方向ケズリ。
253	SD47 (一括)	鉄器 不明	長さ 2.7	幅 1.5	厚さ 0.4	—	鍛造。板状。
254	SD47 (一括)	鉄器 不明	長さ (2.7)	幅 0.8	厚さ 0.2	—	鍛造。板状。先端尖る。
255	SD47	鉄器 不明	長さ 4.3	幅 0.9	厚さ 0.3	—	鍛造。板状。
256	SD47 (一括)	鉄器 不明	長さ (2.4)	幅 0.8	厚さ 0.3	—	鍛造。板状。
257	SD47	鉄器 不明	長さ 2.8	幅 1.0	厚さ 0.6	—	鍛造。断面台形の棒状。
258	SD47 (一括)	鉄器 不明	長さ (3.1)	幅 0.8	厚さ 0.4	—	棒状、断面方形。
259	SK32	土師質 甕_口縁部	23.1	6.3	—	やや砂質。砂礫を多く含む。	口唇部面取り。口縁くの字外反。口縁部横ナデ、胴部縦ナデ。内面横ハケ。
260	SK32	土師質 甕_口縁部	15.4	6.1	—	砂質。砂礫を多く含む。	口縁くの字外反。外面・口縁内面ナデ、胴部内面一部ヘラナデ。
261	SK32	須恵器 坏	12.0	3.8	—	緻密。細砂粒を含む。	底部回転ヘラ切り。
262	SK32	須恵器 坏	13.4	4.7	—	やや砂質。細砂粒を含む。	軟質。
263	SK32	須恵器 横瓶_口縁部	5.0	4.1	—	緻密。細砂粒を含む。	一部自然釉。
264	SK68	弥生土器 壺_口頸部	14.1	—	—	砂質。チャート等粗砂礫を含む。	やや軟質。二重口縁。無文。口縁内面横ハケ後ナデ。内外面ナデ調整。
265	SK68	弥生中期 甕_口縁部	15.2	—	—	緻密。砂粒を少量含む。	口縁端に刻み。内外面ナデ調整。
266	SK68	弥生中期 壺_口頸部	16.9	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	やや軟質。二重口縁。無文。口縁外面ユビオサエ。内外面ナデ調整。
267	SK68	弥生中期 甕_胴上部	—	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	3歯櫛描文・貼付微隆起文の反復文。最下段の櫛描文に棒状浮文。内面ナデ調整。
268	SK68	弥生中期 壺_胴部	—	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	貼付微隆起文・4歯櫛描文の反復文。上部の2段に棒状浮文を密。反復文下方に縦位の櫛歯刺突文。内面ナデ調整。
269	SK68 (一括)	弥生中期 壺_胴部	—	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	3歯櫛描文が無文帯を挟み2条。内外面ナデ調整。
270	SK68	弥生中期 壺_胴上部	—	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	無文。外面横ナデ調整。内面横方向の板ナデ調整。
271	SK68	弥生中期 甕_口縁部	24.6	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	二重口縁下端に刻み。口縁直下に3歯櫛描文/微隆起文、やや空いて4歯櫛描文。内外面ナデ調整。
272	SK68 (一括)	弥生中期 甕_口縁部	26.9	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	二重口縁下端に刻み。口縁直下に3歯櫛描文/微隆起文、やや空いて4歯櫛描文。内外面ナデ調整。
273	SK68 (一括)	弥生中期 甕_口縁部	27.8	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	二重口縁下端に刻み。内外面ナデ調整。
274	SK68 (一括)	弥生中期 甕_口縁部	20.5	—	—	砂質。粗砂礫を多く含む。	やや軟質。口縁は受口状。口唇部に面取り。口縁部に環状浮文。口縁内面に規則的なユビオサエ。内外面ナデ調整。
275	SK68	弥生中期 甕_口縁部	27.3	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	二重口縁下端に刻み。内外面ナデ調整。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
276	SK68	弥生中期 甕_口縁部	—	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	口縁端に刻み。口縁外面に4歯櫛描文/微隆起文、やや空いて7歯櫛描文。
277	SK68 (一括)	弥生中期 甕_口縁部	—	—	—	砂質。砂粒を多く含む。	口縁端に刻み。口縁外面に縦位の櫛歯刺突文/4歯櫛描文
278	SK68	弥生中期 甕_頸胴部	—	—	—	緻密。細砂粒を多く含む。	著しく摩滅。複数条の櫛描文、最上段に環状浮文。
279	SK68 (一括)	弥生中期 甕_胴上部	—	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	肩部に3~5歯櫛描文・微隆起文の反復文。上段に環状浮文。内面ナデ調整。
280	SK68	弥生中期 甕_胴上部	—	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	3歯櫛描文・微隆起文の反復文。反復文下端に縦位の櫛歯刺突文。内外面ナデ調整。
281	SK68	弥生土器 甕_底部	—	—	5.0	緻密。細砂粒を多く含む。	内外面ナデ調整。
282	SK68	弥生土器 甕_底部	—	—	5.7	砂質。砂粒を多く含む。	底面3cm上におこげ。内外面ナデ調整。
283	SK68	弥生土器 甕_底部	—	—	7.2	緻密。砂礫を多く含む。	内外面ナデ調整。
284	SK68 (一括)	弥生土器 甕_底部	—	—	7.6	緻密。砂粒を多く含む。	内外面ナデ調整。
285	SK68	弥生中期 壺か	—	(31.3)	7.5	緻密。チャート等粗砂礫を多く含む。	赤味強い。厚手。底部に丸み、やや上げ底。胴下半に内面からの焼成後穿孔。外面ヘラミガキ。内面縦方向の強いナデ。
286	SK68	弥生中期 高坏_口縁部	24.0	—	—	緻密。チャート等細砂粒を多く含む。	288と同一か。SK69と接合。口唇・口縁端の凹文に環状刺突文。口縁に鋸歯文、上下を沈線と凹文で区画。内面横方向ナデ調整。
287	SK68	弥生土器 高坏_口縁部	16.8	—	—	緻密。砂礫を含む。	口唇部に凹文。口縁外面に凹線文。外面ナデ調整。内面ヘラナデ。
288	SK68	弥生中期 高坏_脚部	—	—	17.0	緻密。粗砂礫を含む。	286と同一か。凹線文・鋸歯文の反復文。上段三角に平行線、下段は斜格子文を充填。裾端面に凹線文。内面ナデ、裾横ケズリ。
289	SK68	弥生中期 高坏	—	—	—	緻密。砂礫を少量含む。	坏底部は充填技法。脚部に凹線文。脚部内面に絞り痕。
290	SK68 (一括)	弥生中期 高坏_脚部	—	—	12.8	やや砂質。砂粒を多く含む。	脚部に凹線文、下部に外面からの焼成前穿孔。裾に鑄物の張り出し。外面ナデ調整。内面横方向のケズリ後ナデ調整。
291	SK69	弥生中期 壺_口頸部	10.3	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	口縁外面に横→縦櫛描文、下端に円形浮文。頸部に8~9歯の櫛描文3条以上。内面ナデ調整。
292	SK69	弥生中期 壺_口縁部	—	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	やや軟質。口唇部に刻み。外面に不鮮明な櫛描文。内面ナデ調整。
293	SK69	弥生中期 壺_胴上部	—	—	—	緻密。細砂粒を多く含む。	微隆起文7条以上、微隆起文間に4~5歯の櫛描文。内面ナデ調整。
294	SK70	弥生中期 壺_口縁部	16.0	—	—	緻密。砂礫を少量含む。	口縁内面に円形浮文。二重口縁の口唇・外面に刻み。口縁直下に微隆起文。頸部に5~7歯の櫛描文2条。内面ナデ調整。
295	SK71	弥生中期 壺_口縁部	17.0	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	二重口縁端に刻み、外面に垂下沈線文。頸部縦ミガキ。肩部に刻目微隆起文/7歯櫛描文・縦沈線文帯の反復文。内面ナデ調整。
296	SK71	弥生中期 壺_口縁部	13.8	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	口縁に歪み。二重口縁外面に刻み。頸部外面ミガキ調整。頸部下端の隆起部に刻み。内面ハケ調整。
297	SK71	弥生中期 甕_口縁部	17.6	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	二重口縁外面に縦位の櫛歯刺突文。頸部は微隆起文1条を挟んで5歯櫛描文4条。内面ナデ調整。
298	SK71 (一括)	弥生中期 甕_口縁部	18.6	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	二重口縁外面に垂下沈線文/豆粒状浮文。口縁直下に微隆起文2条。口縁内面は強いナデ調整。
299	SK71 (一括)	弥生中期 甕_胴部	—	—	—	砂質。砂粒を多く含む。	肩部に3~4歯の櫛描文・微隆起文の反復文、下端に斜位の櫛歯刺突文。上段の櫛描文部分に棒状浮文。内面ナデ調整。
300	SK71	弥生中期 壺_胴部	—	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	外面は縦方向のハケ調整。内面ナデ調整。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
301	SK71	弥生中期 甕_口縁部	13.8	—	—	砂質。砂粒を多く含む。	やや軟質。口縁端に刻み、外面に4歯櫛描文。肩部に5歯櫛描文・貼付微隆起文の反復文、上段に環状浮文。頸内面におこげ。
302	SK71	弥生中期 甕	14.2	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	口唇～二重口縁に矢羽根状刻み、微隆起/櫛描文、穿孔、内面環状浮文。肩部櫛描・櫛歯櫛刺突の反復文、上段環状浮文。
303	SK71	弥生中期 甕	—	(16.4)	5.5	緻密。砂粒を少量含む。	口縁部を欠失。内外面丁寧なナデ調整。外面の一部にハケメ。
304	SK71	弥生中期 高坏_脚部	—	—	10.0	緻密。粗砂礫を含む。	脚上部に縦ミガキ、脚下部に8歯櫛描文3条、裾部に一定間隔で縦位4歯櫛描文。裾端面に3歯櫛描文。内面横ケズリ調整。
305	SK71 (一括)	鉄器 鉄刀か_茎	長さ (4.2)	幅 2.0	厚さ 0.3	—	鍛造。板状。
306	SK71 (一括)	鉄器 鉄刀か_茎	長さ (4.0)	幅 1.4	厚さ 0.3	—	鍛造。板状。先細り。
307	SK71 (一括)	鉄器 鉄刀か_茎	長さ (2.9)	幅 2.0	厚さ 0.5	—	鍛造。板状。
308	SK71 (一括)	鉄器 鉄刀子か_茎	長さ 3.7	幅 1.5	厚さ 0.3	—	鍛造。板状。先細り。
309	SK71 (一括)	鉄器 鉄刀子か_茎	長さ (3.4)	幅 1.2	厚さ 0.3	—	鍛造。板状。先細り。
310	SK71 (一括)	鉄器 鉄錐か	長さ (3.2)	幅 0.5	厚さ 0.4	—	鍛造。棒状。
311	SK72	弥生中期 甕_口縁部	26.9	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	二重口縁外面の4箇所には四本一組の棒状浮文。口縁外面に櫛描文か、やや下がった位置に微隆起文。内面ナデ調整。
312	SK72 (一括)	弥生中期 壺_胴上部	—	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	貼付微隆起文・4歯櫛描文の反復文、下端に縦位櫛歯刺突文。内面ナデ調整。
313	SK72	弥生中期 壺_胴上部	—	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	やや軟質。円形刺突文2列/貼付微隆起文/3歯櫛描文/縦位刻目文。内面ナデ調整。
314	SK72	弥生中期 甕_口縁部	27.8	—	—	緻密。細砂粒を多く含む。	口縁端に刻み。口縁外面に微隆起文/5歯櫛描文。頸部下端に豆粒状浮文/隆帯部に櫛描文。内面ナデ調整。
315	SK72	弥生中期 甕_口頸部	18.5	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	二重口縁端に刻み。頸上部に指頭圧痕。頸部下端に円形刺突文/櫛描文。
316	SK72	石器 石錘	長さ 7.7	幅 5.1	重さ 341.4g	砂岩製。	
317	SK72	石器 敲石	長さ 9.2	幅 5.0	重さ 387.2g	砂岩製。	
318	SK74	弥生中期 壺	9.0	26.2	6.7	緻密。砂粒を含む。	頸部全面に凹線文。頸部下端に斜位の櫛歯刺突文。外面は部位別にミガキ。頸部内面は回転ナデ、胴内面はナデ調整。
319	SK74	弥生中期 壺	11.4	33.0	4.9	緻密。チャート・長石等砂粒を含む。	口頸に円浮文/4歯櫛描文13条/豆粒浮文。胴は櫛描・微隆起反復、間に斜線文・円浮文、下端刻目突帯。下半ヘラナデ。内ナデ。
320	SK74	弥生中期 壺_口頸部	18.1	—	—	緻密。粗砂礫を含む。	二重口縁外面に縦刺突文。頸に4歯櫛描文・微隆起文の反復文、下端に縦位微隆起文/環状浮文。内面ナデ調整。
321	SK74 (一括)	弥生土器 壺か_底部	—	(12.3)	7.4	緻密。砂礫を多く含む。	底部は丸みを帯びる。外面ハケ調整。内面ナデ調整。
322	SK74	弥生中期 壺か_下半部	—	(37.3)	8.6	緻密。細砂粒を多く含む。	頸部以上を欠失。外面縦ミガキ。内面ハケ後ナデ調整。
323	SK74	弥生中期 甕_口縁部	26.8	—	—	緻密。粗砂礫を多く含む。	口縁端に刻み、外面に微隆起文を挟み7歯櫛描文2条。肩部に5歯櫛描文・微隆起文の反復文。上段に棒状浮文、下端に櫛歯刺突文。
324	SK74	弥生中期 甕_口縁部	22.0	—	—	砂質。チャート等粗砂礫を多く含む。	やや軟質。口縁端に刻み、外面に微隆起文を挟み5歯櫛描文2条。肩部に4歯櫛描文2条を挟み縦位櫛歯刺突文2条。内面ナデ調整。
325	SK74	弥生中期 甕_口縁部	26.3	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	口縁端に刻み、微隆起文・4歯櫛描文の反復文。肩部に4歯櫛描文・微隆起文の反復文。上段に環状浮文、下端に縦位櫛歯刺突文。内ナデ。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
326	SK74	弥生中期 甕_上半部	17.3	—	—	砂質。粗砂礫を含む。	口縁端に刻み。頸部に擦過状ナデ。肩部に4歯櫛描文・微隆起文の反復文。上段に環状浮文、下端に縦位の櫛歯刺突文。内面ナデ調整。
327	SK74	弥生中期 甕_上半部	16.3	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	受口状口縁外面に凹線文。胴上に煤。最大径に斜線文。外面下半は縦ヘラナデ・ミガキ。内面上半はナデ、下半は縦方向のケズリ。
328	SK74	弥生土器 壺_下半部	—	—	9.8	砂質。細砂粒を含む。	外面縦方向のミガキ。内面縦方向のケズリ。
329	SK74	弥生土器 甕_底部	—	—	5.0	砂質。砂礫を多く含む。	内外面ナデ調整。
330	SK74	弥生土器 高坏_坏部	—	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	杯底部充填技法。内外面ナデ調整。
331	SK74	石器 砥石	長さ (7.9)	幅 (7.6)	重さ 384.8g	砂岩製。	
332	SK75	弥生中期 甕	14.2	(16.0)	5.9	緻密。砂礫を多く含む。	二重口縁上端に刻み。口縁幅不均一。肩部に連続刺突文/微隆起文・3歯櫛描文の反復文/縦位の連続沈線文。内外面ナデ調整。
333	SK75	弥生中期 甕_口縁部	—	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	二重口縁外面に刻み、やや下がって微隆起文。内外面ナデ調整。
334	SK75	弥生中期 甕_口縁部	—	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	二重口縁外面に刻み。
335	SK75	弥生中期 甕_上半部	16.8	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	口縁端に刻み。肩部に3歯櫛描文・微隆起文の反復文。上段に環状浮文、下端に縦位櫛歯刺突文。内外面ナデ調整。
336	SK75	弥生中期 甕_口頸部	22.8	—	—	砂質。粗砂礫を多く含む。	口唇部に刻み。頸部外面ナデ調整。肩部に4歯櫛描文/一定間隔で貼付微隆起文。微隆起文の間はヘラナデ。内面ナデ調整。
337	SK75	楔状石器	長さ 7.9	幅 1.2	重さ 10.1g	頁岩製か。	
338	SK78	弥生土器 甕_口縁部	17.6	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	口縁端に刻み。頸部に凹線文か。内面ナデ調整。
339	SK78	弥生中期 甕_口縁部	—	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	受口状垂下口縁の外面に凹線文。
340	SK78	弥生中期 甕	23.0	16.7	6.1	砂質。粗砂礫を多く含む。	二重口縁上端に刻み。口縁外面に斜方向の規則的なナデ。内外面ナデ調整。
341	SK79	弥生中期 甕_口縁部	25.6	—	—	緻密。細砂粒を少々含む。	単口縁。無文。
342	SK79	須恵器 壺_口縁	15.9	—	—	緻密。	焼成不良。
343	SK84	弥生中期 甕_口縁部	19.3	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	二重口縁直下に櫛描文。内面ナデ調整。
344	SK85	弥生中期 壺_口頸部	12.4	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	口縁端に刻み、外面に円形浮文、貼付微隆起文・4歯櫛描文の反復文。内面ナデ調整。
345	SK85	弥生土器 壺_底部	—	—	4.1	緻密。石英・長石等砂礫を多く含む。	内外面ナデ調整。
346	SK89	縄文晩期 深鉢_口縁部	—	—	—	緻密。細砂粒を多く含む。	突帯文土器。口唇部に刻みか。口縁やや下がった位置に断面台形の刻目突帯。内外面ナデ調整。
347	SK90	弥生土器 壺_口縁部	10.4	—	—	やや砂質。砂礫を少量含む。	軟質。丸みを帯びた二重口縁。無文。内外面ナデ調整。
348	SK93	弥生中期 壺_口頸部	10.6	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	やや軟質。口縁外面刻み/円形浮文/貼付微隆起文・4歯櫛描文の反復文。
349	SK93	弥生中期 壺_胴部	—	—	—	緻密。細砂粒を多く含む。	やや軟質。微隆起文・櫛描文の反復文、下端に縦位櫛歯刺突文。内面ナデ調整。
350	SK93	弥生中期 壺_口縁部	27.6	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	広口壺。二重口縁下に横方向の強いナデ。内外面ナデ調整。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
351	SK93	弥生中期 甕_口縁部	—	—	—	緻密。細砂粒を多く含む。	口唇部に刻み。口縁外面はハケ調整。
352	SK93	弥生中期 壺_口縁部	20.8	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	やや軟質。口縁外面に縦位の刻み。外面ナデ調整、一部にミガキ調整。内面ナデ調整。
353	SK93	弥生土器 甕_胴部	—	—	—	緻密。砂粒を含む。	外面タタキ痕。一部に斜方向刻み。内面ナデ調整。
354	SK93	弥生中期 壺_口縁部	11.2	—	—	緻密。砂礫を含む。	やや軟質。受口状口縁外面に凹線文。内外面ナデ。
355	SK93	石器 敲石	長さ 10.0	幅 7.9	重さ 660.0g	砂岩製。	
356	下P11	須恵器 坏	—	(4.3)	9.0	緻密。砂粒を含む。	底部回転ヘラケズリ。
357	下P15	土師質 小皿	7.9	1.8	6.0	砂質。細砂粒を多く含む。	底部回転糸切り。
358	下P31	弥生中期 壺	—	—	5.3	緻密。砂粒を多く含む。	薄手。胴上部は微隆起文を挟み櫛描文/櫛描波状文/斜位櫛歯刺突文/櫛描文/斜方向櫛描文帯。中段に豆粒状浮文。
359	下P32	弥生中期 甕_下半部	—	—	6.0	やや砂質。砂礫を多く含む。	被熱し脆い。やや上げ底。
360	下P67	弥生中期 壺	7.7	20.9	5.5	砂質。砂粒を多く含む。	口唇部面取り。口縁端に刻み。肩部に櫛描波状文/刻目突帯文/微隆起文/一定間隔を置いた棒状浮文。内外面ナデ調整。
361	包含層	縄文晩期 甕_胴部	—	—	—	やや砂質。チャート等砂礫を多く含む。	軟質。外面に沈線1条めぐり。横方向擦痕。外面全体に炭化物付着。内面ナデ調整。
362	包含層	弥生中期 壺_口頸部	23.1	—	—	緻密。砂礫を含む。	垂下する二重口縁外面に凹線文。口縁内面はナデによる幅広の凹面。頸部下半に凹線文。内外面ナデ調整。
363	包含3層	弥生中期 壺_口頸部	11.9	—	—	やや砂質。砂礫を含む。	やや軟質。口唇部に凹線。口縁部に円形浮文。頸部に櫛描文不鮮明。内面ナデ調整。
364	包含層	弥生中期 壺_胴部	—	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	6歯櫛描波状文を挟んで6歯櫛描文2条、下端に一定間隔で棒状浮文。内面ナデ調整。
365	包含3層	弥生中期 甕_口縁部	22.4	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	口唇部斜めに面取り。口縁端に刻み、外面に貼付微隆起文2条。肩部に微隆起文5条。内外面ナデ調整。
366	包含層	弥生中期 甕_口頸部	29.0	—	—	やや砂質。砂礫を多く含む。	口唇部肥厚、斜めに面取り。口縁端に刻み、外面に微隆起文/4歯櫛描文。外面丁寧なナデ。内面に不規則な斜沈線、ナデ調整。
367	包含層	弥生中期 甕_口縁部	23.8	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	口唇斜め面取り。口縁大きく外反、端刻み、外面に貼付微隆起文・2歯櫛描文の反復文。口縁内面に幅広い凹面。内外面ナデ調整。
368	包含3層	弥生中期 甕_口縁部	22.9	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	やや軟質。口唇部側肥厚、凹線文めぐり。口縁端に刻み、外面に貼付微隆起文/4歯櫛描文。内外面ナデ調整。
369	包含3層	弥生中期 甕_口縁部	29.6	—	—	緻密。細砂粒を含む。	口唇部斜め面取り。口縁端に刻み、外面に微隆起文/5歯櫛描文2条。内外面ナデ調整。
370	包含層	弥生中期 甕_口縁部	23.8	—	—	砂質。砂粒多い。微隆起文は緻密。	口唇部斜めに面取り。口縁端に刻み、外面に貼付微隆起文。微隆起文は胎土が異なる。内外面ナデ調整。
371	包含層	弥生中期 甕_口頸部	19.9	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	口唇部斜め面取り。口縁端に刻み。頸部下端に環状刺突文/櫛描文。口縁内面に小さな段。内外面ナデ調整。
372	包含層	弥生中期 甕_口縁部	22.4	—	—	やや砂質。砂礫を多く含む。	口唇部肥厚、斜めに面取り。口縁端に刻み。内外面ナデ調整。
373	包含層	弥生中期 甕_口縁部	13.5	—	—	やや砂質。砂礫を含む。	口唇部斜め面取り。口縁端に刻み、外面に三角隆起帯。内外面丁寧なナデ調整。
374	包含3層	弥生中期 甕_上半部	13.9	—	—	緻密。砂礫を含む。	二重口縁外面に刻み、貼付微隆起文。肩部に3歯櫛描文・微隆起文の反復文、上段に環状浮文、下端に縦刺突文帯。内面ナデ調整。
375	包含3層	土師質 甕	20.4	—	—	緻密。石英・角閃石等砂礫を多く含む。	口唇部面取り、内外に小さく突出。口縁内外面横ナデ調整。口縁内面に煤。胴部外面縦ハケ、内面横ハケ調整。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
376	包含層	弥生中期 甕_口縁部	12.0	—	—	緻密。砂礫を少量含む。	やや軟質。薄手、顕著に摩滅。受口状口縁、受け部は粘土紐巻き込み。口縁外面に凹線文。
377	包含2層	弥生中期 甕_口縁部	17.8	—	—	緻密。砂粒を含む。	受口状口縁外面に凹線文。内外面ナデ調整。
378	包含層	弥生中期 高坏	13.6	—	—	砂質。砂粒を多く含む。	脚端部欠失。口縁下端に凹線文。脚内面横方向のケズリ。内外面ミガキ調整。
379	包含層	弥生中期 高坏_脚部	—	—	9.1	緻密。砂粒を少量含む。	外面に刺突列点文。裾端に段、段直上に凹線文、端面はナデによる凹面。内面横方向のケズリ調整。
380	包含層	弥生中期 高坏_口縁部	29.9	—	—	やや砂質。砂粒を含む。	裝飾高坏。口唇部は内外に突出、凹線文・同心円文をもつ円形浮文。口縁部に2歯櫛描波状文/同心円円形浮文。内面横方向のナデ調整。
381	包含3層	弥生土器 甕_底部	—	—	7.8	緻密。砂粒を多く含む。	内外面ナデ調整。
382	包含3層	弥生土器 甕_底部	—	—	6.5	砂質。砂粒を多く含む。	内外面丁寧なナデ。
383	包含層	弥生土器 甕_底部	—	—	7.7	砂質。砂粒を多く含む。	厚手。底部は丸みを帯びる。やや上げ底状。内外面ナデ調整。
384	包含2層	土師質 小皿	9.2	1.6	6.0	砂質。細砂粒を含む。	やや軟質。端反り形。底部回転ヘラ切り。
385	包含3層	土師質 小皿	7.6	2.1	4.7	砂質。砂礫を多く含む。	軟質。底部静止糸切り。
386	包含2層	土師質 小皿	7.3	1.7	5.8	緻密。微砂粒を少々含む。	底部回転糸切り。
387	包含2層	土師質 小皿	6.8	2.0	4.8	緻密。細砂粒を含む。	底部回転糸切り。
388	包含2層	土師質 小皿	7.4	1.6	5.3	砂質。細砂粒を多く含む。	やや軟質。底部回転糸切り。
389	包含2層	土師質 小皿	7.8	1.5	6.0	緻密。微砂粒を含む。	底部内面強いナデ。底部回転糸切り。
390	包含3層	土師質 小皿	7.4	1.7	4.8	緻密。	底部回転糸切り。
391	包含3層	土師質 小皿	7.5	1.7	5.0	緻密。	裾にハケ調整。底部回転糸切り。
392	包含3層	土師質 小皿	7.6	1.9	4.9	緻密。砂粒を含む。	底部回転糸切り。
393	包含2層	土師質 小皿	7.2	1.6	4.6	緻密。微砂粒を含む。	底部回転糸切り。
394	包含2層	土師質 小皿	6.7	1.3	4.7	緻密。細砂粒を含む。	底部回転糸切り。
395	包含2層	土師質 小皿	6.8	1.6	4.2	緻密。	底部回転糸切り。
396	包含層	土師質 小皿	8.7	1.7	6.0	砂質。砂粒を含む。	底部回転糸切り。
397	包含3層	土師質 小皿	7.0	2.1	4.4	緻密。砂粒を少量含む。	底部回転糸切り。
398	包含2層	土師質 坏	11.8	2.5	6.4	やや砂質。砂粒を含む。	やや軟質。内面黒斑。口縁端反り。回転ヘラ切り。
399	包含2層	土師質 坏	13.9	3.2	6.5	やや砂質。砂粒を含む。	口縁やや端反り。底部ヘラ切り。
400	包含2層	土師質 坏	12.3	3.9	6.4	やや砂質。砂粒を多く含む。	外面ナデによる凹面。底部ヘラ切り。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
401	包含3層	土師質 坏_下半部	—	(2.7)	8.4	緻密。	やや軟質。底部回転ヘラ切り。
402	包含2層	土師質 坏_底部	—	—	6.0	緻密。細砂粒を含む。	やや軟質。外面下端に凹線3条めぐる。内面底部外縁に段。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ。
403	包含2層	土師質 坏	11.3	2.7	7.1	砂質。砂粒を多く含む。	内外ナデ調整。底部内面ナデによる凹凸。底部外面糸切り。
404	包含2層	土師質 坏	12.2	3.0	6.1	緻密。砂粒を含む。	外面ナデによる凹面。底部回転糸切り。
405	包含2層	土師質 坏	11.8	3.5	6.6	やや砂質。細砂粒を含む。	外面ナデによる凹面。内面ナデ調整。底部回転糸切り。
406	包含2層	土師質 坏	11.6	3.6	6.6	緻密。細砂粒を含む。	口クロ成形。回転糸切り。
407	包含2層	土師質 坏	12.5	3.8	8.2	緻密。砂粒を含む。	口縁外縁に強いナデ。底部回転糸切り。
408	包含3層	土師質 坏	13.7	4.1	6.0	砂質。砂礫を多く含む。	やや軟質。底部回転糸切り。底一部貫通。
409	包含2層	土師質 坏	12.0	3.7	5.2	緻密。細砂粒を含む。	外面ナデによる凹面。底部回転糸切り後、粘土を貼付け補修。
410	包含2層	土師質 坏	11.5	3.5	6.6	緻密。細砂粒を多く含む。	やや軟質。外面ナデによる凹面。底部回転糸切り。
411	包含2層	土師質 坏	10.4	3.0	5.3	緻密。砂粒を少量含む。	底部回転糸切り。
412	包含2層	土師質 塊	10.7	4.4	6.1	緻密。細砂粒を多く含む。	身部下位に圈線2条。底部糸切り。
413	包含2層	土師質 塊_口縁部	13.1	—	—	きわめて緻密。	玉縁状口縁。口縁部横ミガキ。胴部内外面ナデ調整。
414	包含2層	土師質 坏_口縁部	11.6	—	—	緻密。細砂粒を含む。	やや軟質。
415	包含2層	土師質 坏	9.8	—	—	やや砂質。細砂粒を多く含む。	口縁端反り。内面黒斑。
416	包含4層	土師質 坏_口縁部	13.3	—	—	緻密。	口縁小さく端反り。口縁内端に沈線めぐる。
417	包含2層	土師質 坏_口縁部	16.2	—	—	やや砂質。微砂粒を含む。	軟質。口縁内面に凹線1条。
418	包含2層	土師質 坏	11.4	—	—	砂質。砂粒を含む。	軟質。口縁端反り。内外面ナデミガキ。
419	包含2層	黒色土器 塊_口縁部	13.1	—	—	緻密。角閃石等微砂粒を含む。	口縁内縁に沈線。内外面ミガキ調整。
420	包含2層	瓦器 小皿	8.8	1.5	3.8	緻密。砂粒を含む。	内外面ナデ調整。
421	包含2層	瓦器 塊	12.6	—	—	緻密。微砂粒を僅かに含む。	口縁僅かに端反り。内外面ナデ調整。
422	包含2層	瓦器 塊_底部	—	—	3.4	緻密。砂粒を含む。	内面ナデミガキ、螺旋状の暗文。貼付高台。
423	包含3層	土師質 坏_底部	—	—	5.2	緻密。微砂粒を含む。	やや軟質。円盤状底部。内外ナデ調整。
424	包含2層	土師質 坏_底部	—	—	6.5	緻密。細砂粒を含む。	やや軟質。坏部下端横ハケ調整。内面ナデ調整。底部回転ヘラ切り。
425	包含2層	土師質 塊_底部	—	—	6.6	やや砂質。微砂粒を含む。	やや軟質、還元調。底部回転糸切り。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
426	包含2層	土師質 埴_底部	—	—	6.9	緻密。細砂粒を含む。	軟質。内外面ナデ調整。貼付の円盤状高台。底部回転糸切り。
427	包含2層	土師質 埴_底部	—	—	5.7	やや砂質。砂粒を含む。	内面丁寧なナデ。貼付高台。
428	包含2層	土師質 埴_底部	—	—	6.6	緻密。	軟質。高台付き。
429	包含2層	土師質 坏_底部	—	—	6.55	緻密。	貼付高台に内傾の面取り。
430	包含2層	土師質 埴_底部	—	—	8.8	緻密。砂礫を少量含む。	
431	包含2層	土師質 坏_底部	—	—	5.0	緻密。微砂粒を含む。	中実の脚台。底部回転糸切り。
432	包含2層	土師質 埴_底部	—	—	4.8	緻密。細砂粒を僅かに含む。	軟質。高台付き。
433	包含2層	土師質 埴_底部	—	—	7.0	緻密。微砂粒を僅かに含む。	軟質。貼付高台。
434	包含3層	土師質 坏_脚部	—	—	8.5	緻密。	やや軟質。裾は末広がり、端部玉縁状。
435	包含2層	土師質 坏	—	—	13.1	やや砂質。砂粒を少量含む。	やや軟質。貼付高台。
436	包含2層	土師質 壺	7.0	—	—	緻密。微砂粒を含む。	口縁は一段狭まって立ち上がる。内外面ナデ調整。
437	包含2層	土師質 坏蓋_裾部	15.4	1.8	—	砂質。細砂粒を含む。	軟質。端部下方に突出。
438	包含2層	土師質 皿	14.9	1.3	11.7	緻密。砂粒を少量含む。	やや軟質。内外面ナデ調整。
439	包含3層	土師質 坏か	—	(2.6)	—	緻密。	やや軟質。上面は球形に突出し環状にハケ調整。端面は擬口縁、断続的に横ハケ。内外面ナデ調整。
440	包含3層	土師質 高杯_脚部	—	(5.7)	—	緻密。	軟質。内面螺旋状のロクロ痕。
441	包含3層	土師質 甕_口縁部	19.0	—	—	やや砂質。粗砂礫を多く含む。	口縁くの字外反。内外面ナデ調整。
442	包含2層	土師質 甕_口縁	23.9	—	—	緻密。細砂粒を含む。	口縁小さく折り返し、端部は丸く処理。外面ユビオサエ、内面ナデ調整。
443	包含2層	土師質 壺_口縁	16.8	—	—	砂質。砂粒を含む。	やや軟質。口唇部面取り。口縁胴境界に凹線2条。内外面ナデ調整。
444	包含2層	土師質 甕_口縁部	27.4	—	—	緻密。角閃石他砂粒を含む。	口唇部内外に小さく突出、ハケで面取り。口縁外面ナデ、胴部縦ハケ。内面横ハケ調整。
445	包含2層	土師質 甕_口縁部	25.8	—	—	やや砂質。砂礫を多く含む。	口縁くの字に外反。口唇部上方に突出、凹面の面取り。外面は口縁ヨコナデ、胴部縦ハケ。内面は横ハケ調整。
446	包含2層	土師質 甕_口縁部	23.6	—	—	やや砂質。砂礫を多く含む。	口縁くの字に外反。口唇部上方に突出、凹面の面取り。外面は口縁横ナデ、胴部縦ハケ調整。内面はハケ後ナデ調整。
447	包含3層	土師質 甕_口縁部	26.0	—	—	やや砂質。砂礫を含む。	やや軟質。口唇部上方に突出、ハケで面取り。外面は口縁部横ナデ、胴部縦ハケ。内面は横ハケ調整。
448	包含3層	土師質 甕_上半部	26.2	—	—	やや泥質。砂粒を多く含む。	口縁くの字外反。口縁外端ナデの凹面めぐる。外面は口縁横ハケ後ナデ、胴部縦ハケ。内面は口縁ヨコハケ、胴部ハケ後ナデ。
449	包含2層	土師質 甕_口縁部	26.4	—	—	やや砂質。砂粒を多く含む。	内外面丁寧なナデ調整。
450	包含2層	土師質 羽釜_口縁部	23.3	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	口唇面取り。鋳部下面規則的なユビオサエ。胴部外面縦ハケ。内面ナデ調整。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
451	包含2層	土師質 甕_口縁部	25.6	—	—	緻密。石英・角閃石等砂礫を含む。	口縁上端に罅。罅上面に段。胴部外面は縦方向のハケ調整。口縁受け部内面はナデ調整、他は横方向のケズリ。
452	包含2層	瓦質 釜_上半部	26.4	—	—	緻密。砂粒を僅かに含む。	外面スス付着。口唇ハケによる面取り。外面強いナデ。内面ナデ調整。
453	包含2層	瓦質 釜_上半部	19.0	—	—	緻密。砂粒を僅かに含む。	口唇部面取り。外面強いユビオサエ。内面ハケメ調整。
454	包含2層	瓦質 鍋_上半部	30.5	—	—	砂質。砂粒を少量含む。	口縁やや下に貼付け隆帯。内外面ユビオサエ。
455	包含2層	瓦質 三足釜_脚部	長さ 9.1	幅 2.1	—	やや砂質。微砂粒を多く含む。	
456	包含2層	瓦質 羽釜_胴上部	16.2	—	—	砂質。チャート・角閃石等砂粒を含む。	口縁外面凹線3条。罅部ナデ。胴部外面ケズリ後ナデ調整。内面ナデ調整。
457	包含3層	土師質 甕_口縁部	30.4	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	やや軟質。口唇部やや内方に突出、凹面状面取り。口縁緩やかに外反。内外面ナデ調整。
458	包含2層	土師質 甕_口縁部	21.0	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	受口状口縁。口縁直立部分は内外両面に凹線。内外面ナデ調整。
459	包含2層	土師質 甕_口縁部	24.0	—	—	緻密。砂粒を含む。	口縁外面に煤付着。口縁受け口状、端部に凹線めぐる。口縁内外ナデ。胴部内面板ナデ。
460	包含2層	土師質 甕_口縁部	26.8	—	—	砂質。砂礫を多く含む。	口唇部に凹面取り、内側に突出。口縁外面横ナデによる凹面。内面ナデ調整。
461	包含2層	土師質 羽釜_上半部	18.8	—	—	砂質。細砂粒を含む。	やや軟質。罅下の胴部外面に炭化物・煤付着。口唇部面取り、口縁外面に凹線文3条。内面横ハケ・ナデ調整。
462	包含2層	土師質 鉢か_口縁部	18.4	—	—	砂質。砂粒を多く含む。	やや軟質。口縁外面に煤。内外面ナデ調整。
463	包含2層	土師質 甕_胴部	—	—	25.9	砂質。砂粒を含む。	軟質。外面格子目タタキ。内面横ハケ。内面煤付着。
464	包含2層	石器 石鍋	19.0	—	—	滑石製。	断面台形突帯。外面煤付着。
465	包含2層	石器 石鍋	17.8	—	—	滑石製。	断面台形突帯。
466	包含3層	須恵器 坏蓋_頂部	5.6	—	—	緻密。	頂部ヘラ切り。内面ユビオサエ。
467	包含2層	須恵器 坏蓋か	—	—	—	緻密。砂粒を多く含む。	
468	包含2層	須恵器 坏蓋_裾部	11.2	—	—	やや砂質。微砂粒を含む。	
469	包含2層	須恵器 坏蓋_裾部	14.2	—	—	砂質。砂粒を多く含む。	
470	包含2層	須恵器 蓋_摘み	—	—	—	緻密。微砂粒を僅かに含む。	摘みは平頂形、径1.9cm、高さ1.1cm。
471	包含2層	須恵器 坏蓋_裾部	12.8	—	—	やや砂質。砂粒を含む。	かえりが付く。
472	包含2層	須恵器 坏蓋_裾部	15.4	—	—	緻密。微砂粒を含む。	かえりが付く。
473	包含3層	須恵器 坏蓋	16.0	2.6	—	やや砂質。砂礫を含む。	頂部回転ヘラケズリ。
474	包含2層	須恵器 坏蓋_裾部	13.9	—	—	緻密。砂粒を含む。	自然釉。内縁に凹線めぐる。
475	包含2層	須恵器 坏蓋_裾部	16.6	—	—	緻密。微砂粒を僅かに含む。	やや軟質。裾端は外反後ゆるく内湾。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
476	包含2層	須恵器 坏蓋	19.5	—	—	緻密。微砂粒を含む。	
477	包含層	須恵器 坏身	14.0	—	—	やや砂質。砂粒を含む。	
478	包含2層	須恵器 坏身_上半部	11.9	—	—	やや砂質。細砂粒を多く含む。	やや軟質。
479	包含3層	須恵器 坏	13.9	4.1	9.8	緻密。砂礫を含む。	
480	包含2層	須恵器 皿	12.6	2.9	8.8	緻密。	
481	包含2層	須恵器 坏_底部	—	—	9.8	緻密。	軟質。底部回転ヘラ切り。
482	包含2層	須恵器 坏	11.6	4.1	6.2	緻密。	貼付高台。
483	包含2層	須恵器 坏_底部	—	—	9.3	緻密。	畳付けに凹線。底部回転ヘラ切りか。底部外面にヘラ記号有り。
484	包含3層	須恵器 坏	14.9	5.2	10.2	緻密。	貼付け高台。
485	包含3層	須恵器 坏	16.0	4.4	10.2	緻密。微砂粒を含む。	内面に自然釉。貼付け高台。
486	包含3層	須恵器 坏	12.4	3.2	6.8	緻密。微砂粒を含む。	
487	包含3層	須恵器 皿	15.0	2.2	12.4	緻密	口縁は大きく外反し口唇が上方に突出。底部回転ヘラ切り。
488	包含2層	須恵器 皿	16.0	2.6	11.4	緻密。	口縁内面に圈線。底部回転ヘラ切り。
489	包含2層	須恵器 皿	16.8	2.5	14.3	緻密。微砂粒を僅かに含む。	口縁内面に圈線。底部回転ヘラ切り。
490	包含3層	須恵器 坏	13.5	2.6	9.9	緻密。砂礫を少量含む。	
491	包含3層	須恵器高杯_ 脚部	—	(4.3)	—	緻密。微砂粒を含む。	
492	包含3層	須恵器高杯_ 脚部	—	—	11.0	緻密。微砂粒を含む。	
493	包含2層	須恵器 提瓶_口縁部	9.8	—	—	緻密。	臑か。
494	包含2層	須恵器 壺_口縁部	14.9	—	—	緻密。微砂粒を少々含む。	口縁は僅かに受口状。
495	包含3層	須恵器 壺_口縁部	23.9	—	—	緻密。微砂粒を含む。	二重口縁。口唇部面取り。
496	包含2層	須恵器 壺_頸部	—	—	—	緻密。微砂粒を含む。	やや軟質。櫛描波状文2条。
497	包含2層	須恵器 長頸瓶_頸部	—	—	—	やや砂質。細砂粒を多く含む。	口縁立ち上がりに段。
498	包含2層	須恵器 壺_口頸部	—	—	—	やや砂質。砂礫を多く含む。	
499	包含2層	須恵器 壺_胴上部	—	—	—	緻密。砂粒を含む。	三角突帯がめぐる。
500	包含2層	須恵器 壺_胴部	—	—	—	緻密。	三角突帯がめぐる。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
501	包含3層	須恵器 小型瓶_底部	—	—	5.2	緻密。微砂粒を含む。	
502	包含3層	須恵器 瓶_底部	—	—	6.8	緻密。	貼付け高台。
503	包含2層	須恵器 壺_底部	—	—	13.5	緻密。細砂粒を少量含む。	内面粗いナデ。貼付高台。底部に木葉痕。
504	包含層	須恵器 瓶_底部	—	—	10.6	やや砂質。砂粒を含む。	底部回転ヘラ切り後ナデ。貼付け高台。
505	包含3層	須恵器 瓶_底部	—	—	9.6	緻密。	外面に線状の黒斑。貼付け高台。
506	包含2層	須恵器 壺か_底部	—	—	7.2	やや砂質。砂礫を含む。	貼付高台。底部回転ヘラ切り。
507	包含2層	須恵器 壺_底部	—	—	6.1	緻密。	部分的に自然釉。高台付け根に圏線。畳付けに凹線。
508	包含2層	須恵器 鉢_口縁部	30.2	—	—	緻密。微砂粒を少量含む。	口縁外面に段。内面は斜め方向のナデ調整。
509	包含2層	須恵器 鉢_口縁部	28.6	—	—	緻密。砂粒を含む。	二重口縁小さく内折。
510	包含2層	須恵器 甕_口縁部	24.0	—	—	やや砂質。砂礫を多く含む。	外方にやや突出する口唇部に圏線。胴部外面平行タタキ目、内面同心円当て具痕。
511	包含2層	須恵器 甕_胴部	—	—	—	緻密。砂礫を少量含む。	外面平行タタキ目、内面同心円当て具痕。
512	包含3層	須恵器 甕_胴部	—	—	—	緻密。砂粒を含む。	外面平行タタキ後ハケ調整。内面同心円当て具痕をナデ消す。
513	包含2層	須恵器 甕_底部	—	—	12.2	緻密。砂粒を多く含む。	外面ナデ後ハケ調整。
514	包含2層	緑釉陶器 小皿_口縁部	12.9	—	—	緻密。	やや軟質。
515	包含2層	緑釉陶器 碗_底部	—	—	7.2	緻密。	やや軟質。見込みに圏線。貼付け高台。畳付けに段。高台内面も施釉。
516	包含2層	緑釉陶器 碗_底部	—	—	7.9	緻密。	貼付高台。畳付け凹面状。畳付け・高台内にも施釉。
517	包含2層	緑釉陶器 碗_底部	—	—	7.5	緻密。	貼付高台。畳付け・高台内にも施釉。
518	包含2層	緑釉陶器 小皿_口縁部	11.1	—	—	緻密。	軟質。
519	包含2層	緑釉陶器 小皿_口縁部	11.8	—	—	緻密。微砂粒を僅かに含む。	
520	包含2層	緑釉陶器 皿_口縁部	11.0	—	—	緻密。	口縁僅かに端反り。
521	包含2層	緑釉陶器 碗_口縁部	12.6	—	—	緻密。	
522	包含2層	緑釉陶器 壺_口縁部	9.2	—	—	緻密。微砂粒を含む。	
523	包含2層	緑釉陶器 碗_底部	—	—	6.7	緻密。	削出し高台。畳付け・高台内無釉。
524	包含2層	緑釉陶器 碗_底部	—	—	7.1	緻密。微砂粒を含む。	貼付高台。畳付け施釉。高台内無釉。
525	包含2層	白磁 碗_口縁部	14.8	—	—	緻密。	

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
526	包含2層	白磁 碗_口縁部	16.0	—	—	緻密。	口唇部斜めに面取りされ外方に延びる。口縁部に微隆起文めぐる。
527	包含2層	白磁 碗_口縁部	10.0	—	—	緻密。	口唇部斜めに面取りされ外方に延びる。口縁端に僅かな凹面めぐる。
528	包含2層	白磁 碗_口縁部	8.0	—	—	緻密。	口禿。
529	包含2層	白磁 碗_口縁部	8.3	—	—	緻密。	口禿。外部下半無釉。
530	包含4層	白磁 碗_底部	—	—	5.2	緻密。	外面に草文。見込みに段。削り出し高台やや外開き。高台内外無釉。
531	包含3層	白磁 碗_底部	—	—	5.8	緻密。	高台内外と身部下半は無釉。削り出し高台。
532	包含2層	白磁 碗_底部	—	—	5.1	緻密。	見込みに段。高台以下無釉。畳付け・高台内面無釉。削出し高台。
533	包含2層	白磁 皿_口縁部	12.8	—	—	粗い。	白磁か。
534	包含2層	白磁 小皿_口縁部	12.4	2.3	7.6	緻密。	削出し高台。高台部無釉。
535	包含2層	白磁 皿_底部	—	—	5.8	緻密。	見込みに段。外面下部無釉。削出し高台。高台内端は斜めにケズリ。
536	包含2層	白磁 壺か_底部	—	—	6.0	緻密。	内外面施釉。やや上げ底。
537	包含2層	青磁 碗_口縁部	14.8	—	—	緻密。	外面蓮弁文。
538	包含2層	青磁 碗_口縁部	15.2	—	—	緻密。	外面蓮弁文。
539	包含2層	青磁 碗_口縁部	16.4	—	—	緻密。	外面蓮弁文。
540	包含2層	青磁 碗_口縁部	11.9	—	—	緻密。	外面蓮弁文。
541	包含2層	青磁 碗_底部	—	—	5.1	緻密。	外面に蓮弁文。高台は断面方形、外端を斜めに面取り。畳付け・高台内に釉葉垂れる。
542	包含2層	青磁 碗_口縁部	15.9	—	—	緻密。	外面蓮弁文。
543	包含2層	青磁 碗_口縁部	15.8	—	—	緻密。	外面蓮弁文。
544	包含2層	青磁 碗_底部	—	—	4.8	緻密。	高台は断面方形、外端を斜めに面取り。畳付け・高台内に釉葉垂れる。
545	包含2層	青磁 碗_底部	—	—	5	緻密。	高台は断面方形。畳付け・高台内に釉葉垂れる。
546	包含2層	青磁 碗_底部	—	—	—	緻密。	外面に蓮弁文。高台は断面長三角形。畳付けを除く全面に施釉。
547	包含2層	青磁 碗_口縁部	19.2	—	—	緻密。	口縁は僅かに端反り。外面蓮弁文。
548	包含2層	青磁 碗_口縁部	17.8	—	—	緻密。	外面蓮弁文。
549	包含2層	青磁 碗_口縁部	—	—	—	緻密。	外面蓮弁文。
550	包含3層	青磁 碗_口縁部	13.2	—	—	緻密。	外面蓮弁文。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
551	包含2層	青磁 碗_口縁部	13.8	—	—	緻密。	内面に蓮弁文。
552	包含2層	青磁 碗_胴部	—	—	—	緻密。	外面下部無釉、櫛描文。内面へラ描きの花文と櫛描の之字文。
553	包含3層	青磁 碗_底部	—	—	4.8	やや砂質。	貼付け高台、断面三角形。
554	包含2層	青磁 皿_底部	—	—	4.8	緻密。	内面へラ描きの花文と櫛描の之字文。底部は回転ケズリ・上げ底で無釉。
555	包含2層	陶器 天目茶碗	11.8	—	—	緻密。微砂粒を含む。	鉄釉。下位から底部にかけ無釉。
556	包含2層	灰釉陶器 碗_口縁部	—	—	—	やや砂質。	
557	包含4層	陶器 碗か_口縁部	15.1	—	—	緻密。	器面ロクロ暗文風。
558	包含2層	陶器 壺_胴部	—	—	—	緻密。	外面灰釉。外面に間隔を置いて櫛描文2条がめぐる。内面横ナデ後斜ハケ。
559	包含2層	陶器 鉢_上半部	30.2	—	—	砂質。砂礫を少量含む。	二重口縁。口縁内面に凹面めぐる。
560	包含2層	陶器 鉢_上半部	26.0	—	—	砂質。砂粒を含む。	還元調。二重口縁。口唇部面取り。
561	包含2層	瓦質 片口鉢_口縁部	—	—	—	緻密。微砂粒を僅かに含む。	軟質。外面強いユビオサエ。内面ナデ調整。
562	包含2層	陶器 壺_胴部	—	—	—	やや砂質。細砂粒を含む。	外面花文か。内面強いユビオサエ。
563	包含2層	陶器 播鉢_口縁部	28.3	—	—	やや砂質。砂礫を大服務。	口唇部内外に肥厚、凹面状の面取り。刷毛目8条。
564	包含2層	陶器 播鉢_口縁部	28.6	—	—	砂質。砂粒を多く含む。	やや軟質。口唇部内外に肥厚、凹面状に斜めの面取り。刷毛目5条。
565	包含2層	陶器 播鉢_口縁部	34.1	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	口唇部内外に肥厚、凹面状に斜めの面取り。刷毛目8条。
566	包含2層	陶器 播鉢_口縁部	25.2	—	—	緻密。砂礫を多く含む。	口唇部内外に肥厚、凹面状に斜めの面取り。刷毛目5条。
567	包含2層	瓦質 播鉢_口縁部	26.6	—	—	緻密。砂粒を少量含む。	外面強いナデ・ユビオサエ。
568	包含2層	陶器 甕_口縁部	19.5	—	—	やや砂質。砂粒を含む。	口唇部面取り。胴部外面横方向の平行タタキ。胴部内面横ハケ。
569	包含2層	陶器 甕_口縁部	30.4	—	—	やや砂質。砂礫を含む。	常滑産。複合口縁。口唇部は外方に張り出し凹面状の面取り。口縁部は垂下。
570	包含2層	陶器 大甕_口縁部	30.5	—	—	砂質。砂粒を多く含む。	常滑産。
571	包含2層	陶器 甕_口縁部	23.8	—	—	緻密。砂礫を含む。	常滑産。口縁内面に自然釉。複合的ニ重口縁外面に深い凹面めぐる。
572	包含2層	陶器 甕_口縁部	39.2	—	—	緻密。砂粒を含む。	常滑産。口縁内面に自然釉。複合的に重口縁外面に幅広の凹面めぐる。
573	包含2層	陶器 甕_口縁部	39.6	—	—	緻密。砂粒を含む。	やや軟質。複合口縁外面に幅広の凹面めぐる。
574	包含2層	陶器 甕か_胴部	—	—	—	やや砂質。砂礫を含む。	外面格子目タタキ。内面横ナデ。
575	包含2層	陶器 甕_胴部	—	—	—	砂質。砂粒を含む。	軟質。外面格子目タタキ、内面同心円当て具。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
576	包含2層	平瓦	—	—	—	緻密。砂粒を含む。	軟質。外面平行タタキ、内面布目痕。
577	包含2層	陶器 甕か_底部	—	—	24.9	緻密。砂礫を含む。	底部内面に自然釉。全面強いナデ調整。
578	包含2層	陶器 甕か_底部	—	—	31.0	砂質。砂礫を多く含む。	外面縦ナデ、下端部横ナデ。内面・底部外面ナデ。
579	包含2層	陶器 甕か_底部	—	—	17.0	やや砂質。砂粒を多く含む。	外面強い縦ハケ。内面に自然釉。
580	包含2層	土製品 土錘	長さ 4.1	幅 1.4	重さ 6.0g	砂質。砂礫を多く含む。	やや軟質。ナデ調整。
581	包含2層	土製品 土錘	長さ 4.1	幅 1.5	重さ 5.9g	砂質。砂粒を多く含む。	赤味がかかる。棒状工具による焼成前の刺突。
582	包含2層	土製品 土錘	長さ 3.6	幅 1.5	重さ 6.4g	緻密。砂粒を含む。	半分煤ける。
583	包含2層	土製品 土錘	長さ 3.9	幅 1.8	重さ 10.7g	砂質。砂礫を多く含む。	やや軟質。ナデ調整。
584	包含2層	土製品 土錘	長さ 4.2	幅 2.0	重さ 12.5g	緻密。砂粒を含む。	
585	包含2層	土製品 土錘	長さ 5.0	幅 1.9	重さ 14.1g	緻密。砂粒を含む。	側面を一部欠損。
586	包含2層	土製品 土錘	長さ 4.3	幅 1.4	重さ 6.2g	砂質。砂粒を多く含む。	やや軟質。
587	包含2層	土製品 土錘	長さ 4.2	幅 1.4	重さ 6.2g	緻密。砂粒を少量含む。	両端を欠失。軟質。
588	包含2層	土製品 土錘	長さ (4.9)	幅 1.1	重さ 4.7g	緻密。砂粒を含む。	一方の端を欠失。全体煤ける。
589	包含2層	土製品 土錘	長さ 6.9	幅 1.9	重さ 18.4g	やや砂質。砂粒を含む。	やや軟質。線状の凹みが不規則に残る。
590	包含2層	土製品 土錘	長さ 6.8	幅 1.8	重さ 16.6g	砂質。砂粒を含む。	軟質。
591	包含2層	土製品 土錘	長さ 7.3	幅 1.8	重さ 15.2g	緻密。	やや赤味を帯びる。
592	包含2層	土製品 土錘	長さ 6.0	幅 2.1	重さ 20.0g	砂質。砂粒を多く含む。	軟質。
593	包含2層	土製品 土錘	長さ 4.2	幅 1.7	重さ 11.7g	緻密。	須恵質。
594	包含2層	土製品 土錘	長さ 3.7	幅 1.9	重さ 12.9g	緻密。	須恵質。
595	包含2層	土製品 土錘	全長 3.3	全幅 1.8	重量 12.0g	緻密。	須恵質。
596	包含2層	土製品 土錘	長さ 4.3	幅 1.3	重さ 10.0g	緻密。	須恵質。自然釉付着。円筒形。
597	包含3層	土製品 土錘	長さ 3.7	幅 1.8	重さ 11.1g	緻密。	須恵質。
598	包含3層	土製品 土錘	長さ 6.4	幅 3.0	重さ 40.7g	緻密。砂粒を含む。	やや軟質。
599	包含3層	土製品 土錘	長さ 6.1	幅 3.0	重さ 52.2g	砂質。砂粒を多く含む。	やや軟質。両端を面取り。
600	包含2層	土製品 土錘	長さ 6.6	幅 3.2	重さ 44.0g	緻密。砂粒を含む。	両端面取り。

No.	遺構	材質 器種_器形	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	特徴
601	包含3層	土製品 土錘	長さ 6.9	幅 3.1	重さ 68.4g	やや砂質。砂礫を多く含む。	やや軟質。
602	包含2層	土製品 土錘	長さ 6.2	幅 2.8	重さ 42.5g	やや砂質。砂礫を含む。	やや軟質。
603	包含2層	土製品 土錘	長さ 6.3	幅 2.9	重さ 38.3g	やや砂質。砂粒を含む。	やや軟質。表面大きく剥離。
604	包含2層	土製品 土錘	長さ 5.7	幅 3.7	重さ 62.2g	砂質。砂粒を多く含む。	軟質。両端面取り。身部の所々に面形成。
605	包含2層	土製品 土製円盤	—	—	—	やや砂質。角閃石等砂粒を含む。	回転糸切りの残る土師質土器の底部を円盤状に打ち欠く。
606	包含3層	石器 石包丁	長さ 10.6	幅 3.9	重さ 52.5g	頁岩製。	長方形。片刃。一孔。
607	包含層	石器 石鏃	長さ 2.1	幅 1.7	重さ 0.6g	珪質頁岩製。	打製。無茎凹基鏃。
608	包含2層	石器 浮子か	長さ 5.0	幅 6.1	重さ 16.2g	軽石製。	不整形。中心付近に穿孔2箇所。
609	包含3層	石器 石錘	長さ 8.2	幅 5.8	重さ 369.5g	花崗岩製。	円礫の中央に幅広い溝がめぐる。
610	包含2層	石器 凹石	長さ 4.7	幅 4.2	重さ 104.7g	花崗岩製。	球形。一端に凹み。
611	包含3層	石器 台石	長さ 16.0	幅 10.9	重さ 1,150g	花崗岩製。	両面中央に凹み。
612	包含2層	石器 敲石	長さ 15.0	幅 6.2	重さ 1,000g	花崗岩製。	
613	包含3層	石器 敲石	長さ (8.8)	幅 5.9	重さ 309.3g	安山岩製。	下半部欠失。全面に2cm大の敲打痕。
614	包含2層	石器 砥石	長さ 12.9	幅 3.9	重さ 172.6g	凝灰岩質砂岩。	
615	包含3層	石器 砥石	長さ (10.0)	幅 8.5	重さ 800g	砂岩製。	一平面と一側面が砥面。
616	包含2層	石器 砥石	長さ 7.5	幅 3.2	重さ 54.0g	流紋岩製。	一角に方形の切り込み。
617	包含2層	石器 砥石	長さ 6.6	幅 7.1	重さ 61.5g	砂岩製。	
618	包含2層	石器 砥石	長さ 7.8	幅 4.2	重さ 52.5g	粘板岩製。	
619	包含2層	鉄器 刀	長さ 30.5	幅 2.3	厚さ 0.8	—	鍛造、断面に折り返し痕。

第Ⅸ章 上ノ村遺跡出土鉄器・土錘計測表

1. 鉄器

上ノ村遺跡では鉄器（鉄滓含む）が多く出土したが残存状態が不良なものが多く図示できたものは出土鉄器の一部であったため、計測表を作成し以下に掲載した。攪乱出土のものも掲載したが近現代のものと考えられる。また図示した遺物も含んでいる。

調査	遺構・層位	取り上げNo	器形	法量 (cm)	重量 (g)	備考
1-2	包含層 土器集中		刀子状(板付着)	8×2	21	
1-2	包含層	kin	刀子状(板付着)	5.5×1.5	6	
			鉄片		5	
1-3A	包含層	kin4	金具	2×4	8	
1-3A	包含層	kin2	釘	6	5	
1-3A	包含層		釘	4	4	
1-3A	包含層	kin7	釘	3	2	
1-3A	下SD1		釘	2	1	
			釘	2	3	
				1	1	
1-3A	下SD1-1バンク		釘	4.5	1	
1-3 抔	包含層		釘	1	38	
1-3 抔	包含層		釘	4.5×3	6	
1-3 抔	包含層		釘	4.5×3	3	
1-3 抔	包含層		釘	4.5×3.5	4	
1-3 抔	下SD1上層		釘	5	4	
1-3 抔	下SD1上層			3.5	4	
1-3 抔	ホ2中央		小刀状(別組み)	10	17	
1-3 抔	下SD1-1中		釘	4.5	3	
1-3 抔	包含層	kin2	釘	3	4	
1-3 抔	下SD1、12層			3	1	
1-3 抔	ホ2		釘	2	1	
1-3 抔	ホ2				1	
1-3 抔	下SD1-1、下		鉄片		1	
1-3 抔	ホ1、2		釘	3	3	
1-3 抔	下SD1-2中		釘	3.5	1	
1-3 抔	ホ2、検出面		釘	3	1	
1-5	P934		釘	2.5	6	
1-5	P860		釘	3	6	
1-5	P458		釘他	4.3	11	
1-5	P328		釘	7.5	9	
1-5	P796		小刀状他	3.5×5	15	
1-5	P430		板状	3.5	7	
1-5	P1205		釘	6	12	
1-5	P230		板 or 鉄鏃状	5	13	
1-5	P342		釘	4	2	
1-5	P346		釘	2.5	3	
1-5	P435		釘	2	2	
1-5	P105	kin7	雁股鏃	14	103.6	
1-5	SK64		釘のみ	5.5	11	
1-5	P921	kin12	釘他	5.5×2.5	9	2個 重量合計
1-5	SD2	kin10	釘他	6	27	
1-5	SK15		釘	2	1	
			釘	4	6	
1-5	SK48		釘	5		
1-5	カクラン		釘	5.5	11	
1-5	SD8		釘	3	7	
1-5	SD17		釘	1	7	
1-5	SD15		釘	1.5	2	
1-5	下P317		釘	1	1	
1-5	下P536		釘	4.5	8	
1-5	下P430		鉄片	1	1	
1-5	下P53		釘	2.5	3	
1-5	下P647		釘	5	12	
1-5	包含層	kin14	釘	5	18	
1-5	包含層	kin13	釘	4	10	
1-5	包含層	kin12	釘	5.5	7	
			釘	2	2	
1-5	包含層	kin9	板状	5×5	4	
1-6	中SK72	kin72	釘	4	4	
1-6	包含層	kin63	釘	5	6	

調査	遺構・層位	取り上げNo	器形	法量 (cm)	重量 (g)	備考
1-6	包含層	kin63		2	2	
				3	6	
				2	3	
		鉄滓			28	
1-6	中 P56	kin64	釘	3.5	4	
1-6	中 P66	kin62	釘	3	3	
1-6	中 P82	kin60	釘	4.5	10	
1-6	ホ 2、カクラン	kin4	釘	5.5	23	
1-6	ホ 2	kin5	釘	6.5	12	
1-6	ホ 2	kin13	釘	5	8	
1-6	ホ 2	kin16	釘	3	7	
1-6	下 SD34	下 kin16	釘	2.5	1	
1-6	SD5	kin41	釘	2.5	2	
1-6	P145	kin31	釘	3	4	
1-6	P100		刀子(接合なし)	3	13	
1-6	包含層		刀子(接合なし)	5.5	8	
1-6	下 P133	下 kin15	釘(同一)	5	6	
			釘(同一)	5	6	
			釘(同一)	5	6	
1-6	P324	kin35	板状	8 × 3	41	
1-6	P169	kin32	金具	7 × 5	25	
1-6	SK42	kin40	丸釘	8	9	
1-6	P247	kin36	釘(同一)	5	5	
1-6	P247		釘(同一)	5	5	
1-6	SD5	kin39	釘	4	13	
1-6	P430	kin44	釘	4	4	
1-6	SK20	kin45	釘	4	7	
1-6	下 P158	下 kin14	釘	3	2	
1-6	P324	kin34	釘	2.5	4	
1-6	ホ 2		釘	3	4	
1-6	下 P113	下 kin11	刀子状	6 × 2	18	
1-6	下 P303		釘	3	3	
1-6	下 SD4	下 kin18	鉄滓	4	13	
1-6	ホ 3 下	下 kin8	鉄滓	2	2	
1-6	ホ 2	kin20	釘	5	12	
1-6	下 SD22 下	下 kin17	釘	3.5	2	
1-6	ホ 2	kin19	釘	3	6	
1-6	P201		釘	3	5	
1-6	下 P622	下 kin28				鉄分付着鉄でない
1-6	SD6011	下 kin26	鉄片状	4 × 0.8	6	
1-6	SK6018	下 kin20	釘	3.5	2	
1-6	SK13		釘	6	7	
1-6	ホ 3	kin56	釘	3.5	2	
1-6	ホ 2		釘	3	2	
			釘	3	2	
1-6	ホ 3	kin54		3.5	3	
1-6	カクラン		釘	3	6	
1-6	中 P166	kin57		4 × 0.5	15	
1-6	中 P53	kin67				中メタルなし外のサビのみ残る
1-6	中 SK74	kin71	釘 1	2	2	
1-6	ホ 3	kin73		5.5	6	
1-6	中 P196	kin58	刀子	20 × 2	67	残存不良
1-6	ホ 3 下	下 kin2	刀子状	5.5	8	残存不良
1-6	ホ 4		刀子状		15	腐食 残存不良
1-6	下 SD14	下 kin9	大釘	5	22	近現代か残存不良
			釘(接合なし)	4	8	残存不良
		下 kin4	鉄滓	3	10	残存不良
1-6	P373	kin29	鉄滓	3	11	残存不良
1-6	SD6011	下 kin24	小刀先状	4	5	残存不良
1-6	ホ 3 下	下 kin3	雁股か	6	27	残存不良
1-6	ホ 3	kin47	板状	2.5 × 1.5	9	残存不良
1-6	下 SD7	下 kin13	鉄滓	5 × 7	54	残存不良
1-6	ホ 2、カクラン		大釘	10	51	近現代か残存不良
1-6	ホ 2	kin3				メタルなし
1-6	ホ 5	下 kin19	刀子状	5.5	19	残存不良
1-6	ホ 3 下	下 kin5	刀子状 or 鉄鏃	10	19	残存不良
1-6	SD7	kin42	鉄滓	3 × 3	25	残存不良
1-6	包含層		鉄滓		28	残存不良
1-6	包含層	下 kin21	鉄片		3	残存不良
1-6	SD6011	下 kin22	鉄先	6 × 1.5	30	残存不良
1-6	ホ 3	kin51	鉄滓	3 × 5	39	残存不良
1-6	ホ 2、カクラン	kin21	鉄滓	4 × 3.5	51	残存不良

調査	遺構・層位	取り上げNo	器形	法量 (cm)	重量 (g)	備考
1-6	カクラン	kin7	大釘	5	13	残存不良
1-6	ホ 2		鉄滓	4 × 5	40	残存不良
1-6	ホ 3	kin59	鉄片状 2	1 × 2	4	残存不良
1-6	ホ 2	kin9	鉄滓	3 × 3	26	残存不良
1-6	包含層	kin53	大釘	8	42	サビ多残存不良
			大釘	8	42	サビ多残存不良
			大釘	2.5	22	サビ多残存不良
			鉄片	1	6	大釘の一部
1-6	SD7	kin43	鉄片状	2 × 3	18	残存不良
1-6	ホ 2	kin26	鉄滓	2 × 2	6	残存不良
1-6	ホ 3 下	下 kin7	鉄滓	2 × 1	7	残存不良
1-6	中 P56	kin65	棒状鉄滓	4.5	6	残存不良
1-6	下 P4	下 kin12			7	残存不良
1-6	包含層	kin15	鉄鎌先	0.7 × 1	1	残存不良
1-6	SD6011	下 kin25	鉄片状		2	残存不良
1-6	SK42		釘		5	残存不良
3-2	包含層		釘 1 他	3	16	
3-2	包含層		釘他		5	
3-2	包含層		釘他		12	
3-2	包含層		釘他		50	
3-2	包含層	kin2	刀子状	6.5 × 1.5	20	
3-2	IV層		釘	3	3	
3-2	IV層		釘	3.5	3	
3-2	IV層		釘	4.5	3	
3-2	IV層端		釘	4.5	6	
3-2	IV層 (E)		釘	3.5	5	
3-2	IV層 (E)			4	5	
3-2	IV層 (E)					
3-2	ホ		刀子状	4	12	
3-2	ホ		刀子状	2	5	接合なし
3-2	P1		釘	2.5	2	同一 接合ナシ
3-2	下 SD1 マ		釘	2.5	2	メタルなしか
3-3	包含層		釘	3.5	8	
3-3	4層		板状	3	8	
3-3	4層		釘他		24	
3-3	4層		釘	3	5	
3-3	4層		釘	2	1	
3-3	下 P165		鉄滓		38	重さのみ
3-3	包含層	kin7	釘	4	6	
3-3	包含層	下 kin1	釘	6.5	4	
3-3	下 P64		釘			細い
			釘	2	1	
3-3	P204		釘	2	1	
3-3	P204		釘 (接合なし)	2	1	別個体有り
3-3	IKO1		釘	2	2	
3-3	下 P194		釘	3	4	
3-3	下 P123		板 or 楔状	2 × 0.7	1	
3-3	包含層	kin1	板状	3.5 × 1	3	
3-3	下 SK27		釘	2.8	1	
			釘	3	3	別個体
			釘	1.8	1	別個体
3-3	下 P17		鉄片	2.5 × 1.8	4	接合可
			鉄片		1	
3-3	下 IKO1		釘		12	
3-3	下 P107		釘	2	1	
			鉄片	1	1	別個体
			鉄片	1	1	別個体
3-3	IKO1	kin	不明	6 × 1	35	
3-3	4層	kin2	刃子状	8	33	
3-3	下 IKO1		鉄滓		26	
3-3	下 IKO2		鉄滓		32	

2. 土錘

上ノ村遺跡ではその立地から土錘が多量に出土している。遺構出土のものではできるだけ図示するようにしたが、包含層出土のものはほとんど図示できなかつたため、2/3以上残存するものの重量を計測し掲載した。1-1・1-3拡張区については図示できたもの以外では計測できるものはなかつた。掲載した土錘は568個である。

調査	遺構名・地点名	層位	取り上げNo.	重さ (g)	備考
1-3A		ホ 1-2 層		10.59	完形
1-3A		ホ 1-2 層		7.48	完形
1-3A		ホ 1-2 層		4.08	完形
1-3A		ホ 1-2 層		2.29	完形
1-3A		ホ 1-2 層		2.53	完形
1-3A		ホ 1-2 層		6.50	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		6.27	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		1.63	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		2.97	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		2.46	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		1.46	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		1.50	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		2.87	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		2.01	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		1.72	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		0.61	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		0.50	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		5.43	完形
1-3A		ホ 1-2 層		5.93	完形
1-3A		ホ 1-2 層		10.19	完形
1-3A		ホ 1-2 層		3.90	完形
1-3A		ホ 1-2 層		5.93	完形
1-3A		ホ 1-2 層		4.19	完形
1-3A		ホ 1-2 層		3.04	完形
1-3A		ホ 1-2 層		4.36	完形
1-3A		ホ 1-2 層		33.47	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		13.83	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		7.09	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		7.20	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		3.05	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		3.95	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		5.15	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		6.63	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		3.34	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		4.25	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		3.98	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		2.52	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		1.57	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		6.38	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		2.18	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		1.51	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		4.42	完形
1-3A		ホ 1-2 層		5.70	完形
1-3A		ホ 1-2 層		6.38	完形
1-3A		ホ 1-2 層		3.16	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		4.13	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		2.08	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		1.03	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		9.89	完形
1-3A		ホ 1-2 層		6.82	完形
1-3A		ホ 1-2 層		9.46	完形
1-3A		ホ 1-2 層		6.42	完形
1-3A		ホ 1-2 層		6.32	完形
1-3A		ホ 1-2 層		4.26	完形
1-3A		ホ 1-2 層		5.83	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		1.58	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		9.07	完形
1-3A		ホ 1-2 層		4.09	完形
1-3A		ホ 1-2 層		3.61	完形
1-3A		ホ 1-2 層		4.11	完形

調査	遺構名・地点名	層位	取り上げNo.	重さ (g)	備考
1-3A		ホ 1-2 層		5.04	完形
1-3A		ホ 1-2 層		3.30	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		2.54	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		4.77	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		5.21	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		3.51	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		1.89	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		5.44	欠損有り
1-3A		ホ 1-2 層		1.71	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		10.62	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		14.30	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		7.89	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		6.09	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		6.24	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		4.29	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		4.93	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		4.46	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		5.42	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		4.97	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		6.33	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		3.81	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		5.20	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		2.89	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		2.61	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		1.79	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		2.76	完形
1-3AW		ホ 1-2 層		36.41	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		34.68	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		14.61	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		10.57	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		12.17	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		10.51	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		16.83	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		10.19	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		8.15	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		7.45	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		8.98	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		5.53	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		4.20	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		3.21	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		5.77	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		5.45	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		4.42	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		3.90	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		3.51	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		3.00	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		2.12	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		5.11	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		3.72	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		4.09	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		2.66	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		2.14	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		1.78	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		2.14	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		2.71	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		2.34	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		3.17	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		1.57	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		1.30	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2 層		1.28	欠損有り

上ノ村遺跡出土土錘計測表

調査	遺構名・地点名	層位	取り上げNo	重さ (g)	備考
1-3AW		ホ 1-2層		2.02	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2層		2.60	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2層		1.30	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2層		0.81	欠損有り
1-3AW		ホ 1-2層		0.79	欠損有り
1-5	1-5	ホ 1		5.2	
1-5		ホ 1		3.1	
1-5		ホ 1		5.1	
1-5		ホ 1		3.1	
1-5		ホ 1		4.4	
1-5		ホ 1		7.3	
1-5		ホ 1		5.9	
1-5	1-5W	ホ 1		5.9	
1-5		ホ 1		5.5	
1-5		ホ 1		6.4	
1-5		ホ 1		4.3	
1-5		ホ 1		3.0	
1-5		ホ 1		7.2	
1-5		ホ 1		2.7	
1-5		ホ 1		6.2	
1-5		ホ 1		4.5	
1-5	1-5E	ホ 1		4.2	
1-5		ホ 1		4.7	
1-5	1-5SW	ホ 1上		3.6	
1-5		ホ 1上		1.3	
1-5		ホ 1上		3.9	
1-5		ホ 1		5.9	
1-5		ホ 1		4.2	
1-5		ホ 1		5.4	
1-5	1-5 S	ホ 1上		4.7	
1-5	1-5NW	ホ 1上		10.0	
1-5		ホ 1上		4.5	
1-5		ホ 1上		4.6	
1-5		ホ 1上		6.7	
1-5		ホ 1上		4.5	
1-5		ホ 1上		7.7	
1-5		ホ 1上		7.0	
1-5		ホ 1上		4.5	
1-5		ホ 1上		6.0	
1-5		ホ 1上		3.8	
1-5		ホ 1上		5.5	
1-5		ホ 1上		4.6	
1-5		ホ 1上		5.2	
1-5		ホ 1上		10.1	
1-5		ホ 1上		3.6	
1-5		ホ 1上		5.4	
1-5		ホ 1上		2.3	
1-5		ホ 1上		5.5	
1-5		ホ 1上		3.9	
1-5		ホ 1上		4.3	
1-5		ホ 1上		7.0	
1-5		ホ 1上		5.0	
1-5		ホ 1上		4.7	
1-5		ホ 1上		6.7	
1-5		ホ 1上		3.7	
1-5	1-5NE	ホ 1上		6.0	
1-5		ホ 1上		4.0	
1-5		ホ 1上		4.3	
1-5		ホ 1上		7.9	
1-5		ホ 1上		7.2	
1-5	1-5	TR2		3.1	
1-5	1-5E	TR2		4.5	
1-5	1-5W	TR3		4.3	
1-5	1-5W	TR6		5.0	
1-5		TR6		3.8	
1-5	1-5NW	ホ 1		3.6	
1-5		ホ 1		4.8	
1-5		ホ 1		7.7	
1-5	1-5	ホ 2		6.5	
1-5	1-5W	ホ 2		8.1	
1-5		ホ 2		5.5	
1-5		ホ 2		4.4	

調査	遺構名・地点名	層位	取り上げNo	重さ (g)	備考
1-5		ホ 2		2.7	
1-5		ホ 2		5.1	
1-5		ホ 2		3.8	
1-5		ホ 2		4.5	
1-5		ホ 2		6.5	
1-5		ホ 2		11.3	
1-5		ホ 2		5.1	
1-5		ホ 2		4.0	
1-5		ホ 2		2.3	
1-5	1-5SW	ホ 2		4.7	
1-5		ホ 2		8.0	
1-5		ホ 2		4.9	
1-5		ホ 2		6.2	
1-5		ホ 2		3.5	
1-5		ホ 2		5.3	
1-5		ホ 2		2.5	
1-5		ホ 2		5.0	
1-5		ホ 2		3.9	
1-5		ホ 2		3.5	
1-5	1-5NW	ホ 2		5.8	
1-5		ホ 2		4.1	
1-5		ホ 2		6.0	
1-5		ホ 2		4.9	
1-5		ホ 2		3.6	
1-5		ホ 2		5.0	
1-5		ホ 2		3.5	
1-5		ホ 2		4.8	
1-5		ホ 2		5.0	
1-5		ホ 2		4.4	
1-5		ホ 2		5.6	
1-5		ホ 2		4.7	
1-5	1-5NE	ホ 2		4.4	
1-5		ホ 2		5.4	
1-5		ホ 2		1.2	
1-5		ホ 2		2.2	
1-5		ホ 2		1.0	
1-5		ホ 2		1.0	
1-5	1-5	ホ 3		3.1	
1-5		ホ 3		5.3	
1-5		ホ 3		1.3	
1-5		ホ 3		1.5	
1-5		ホ 3		5.2	
1-5		ホ 3		2.6	
1-5		ホ 3		1.5	
1-5	1-5W	ホ 3		7.7	
1-5		ホ 3		4.3	
1-5		ホ 3		2.1	
1-5		ホ 3		1.7	
1-5		ホ 3		3.9	
1-5		ホ 3		3.1	
1-5	1-5SE	ホ 5		4.6	
1-5		ホ 5		8.8	
1-5		ホ 5		7.3	
1-6	SK23	マ		6.9	
1-6	P451	マ	ibut28	4.3	
1-6	中 P199	マ		5.2	
1-6	SD4		ibut24	7.5	
1-6	SD5	マ		5.8	
1-6	SD5	マ		5.9	
1-6	中 SD14-②	マ		9.1	
1-6	下 SD8南端	上層		5.9	バンク③
1-6	下 SD14-⑧	中層	下 ibut5	27.5	
1-6	1-6	ホ 1 表土 中バ		6.7	
1-6		ホ 1 中バ		3.9	
1-6	1-6SE	ホ 2		8.0	
1-6		ホ 2		5.3	
1-6		ホ 2		4.5	

調査	遺構名・ 地点名	層位	取り上げNo.	重さ (g)	備考
1-6		ホ2		3.5	
1-6		ホ2		4.9	
1-6		ホ2		12.5	
1-6		ホ2		3.0	
1-6		ホ2		4.0	
1-6		ホ2		4.5	
1-6		ホ2		6.7	
1-6		ホ2		4.9	
1-6		ホ2		3.5	
1-6		ホ2		6.0	
1-6		ホ2		4.2	
1-6		ホ2		4.5	
1-6		ホ2		4.7	
1-6		ホ2		5.0	
1-6		ホ2		7.9	
1-6		ホ2		3.7	
1-6		ホ2		5.3	
1-6		ホ2		4.5	
1-6		ホ2		4.8	
1-6		ホ2		5.4	
1-6		ホ2		7.1	
1-6	1-6NW	ホ2		6.6	
1-6	集中1	ホ2		4.9	
1-6	1-6NE	ホ2		5.5	
1-6		ホ2		3.6	
1-6		ホ2		5.0	
1-6		ホ2		3.5	
1-6		ホ2		6.8	
1-6	1-6①	ホ2		5.0	
1-6		ホ2		5.7	
1-6	1-6②	ホ2		7.0	
1-6		ホ2		8.8	
1-6	1-6③	ホ2		3.8	
1-6		ホ2		5.6	
1-6		ホ2		2.9	
1-6	1-6④	ホ2		3.4	
1-6		ホ2		6.5	攪乱を含む
1-6		ホ2		6.9	攪乱を含む
1-6		ホ2		2.4	攪乱を含む
1-6	1-6⑤	ホ2		5.8	
1-6		ホ2		7.8	
1-6		ホ2		8.2	
1-6		ホ2		3.8	
1-6		ホ2		7.1	
1-6	1-6⑥	ホ2		4.8	
1-6	1-6NS	ホ2		8.8	
1-6		ホ2		7.3	
1-6	1-6	ホ3 中ノバ		32.8	
1-6	1-6	ホ3		2.7	
1-6		ホ3		3.2	
1-6	1-6①	ホ3		5.3	
1-6	1-6②	ホ3		4.5	
1-6	1-6③	ホ3		5.2	
1-6		ホ3		3.4	
1-6	1-6④	ホ3		3.1	
1-6		ホ3		10.0	
1-6		ホ3		2.5	
1-6		ホ3		3.1	
1-6		ホ3		6.4	
1-6		ホ3		5.0	
1-6		ホ3		2.8	
1-6		ホ3		2.1	
1-6		ホ3		2.8	
1-6	1-6⑤	ホ3	中 ibut36	49.3	
1-6		ホ3	中 ibut37	18.5	
1-6		ホ3	中 ibut39	45.1	
1-6	1-6⑤	ホ3		6.1	
1-6		ホ3		7.4	
1-6		ホ3		12.7	
1-6		ホ3		2.5	
1-6		ホ3		8.5	
1-6		ホ3		3.7	

調査	遺構名・ 地点名	層位	取り上げNo.	重さ (g)	備考
1-6		ホ3		4.2	
1-6		ホ3		6.8	
1-6		ホ3		4.7	
1-6		ホ3		6.5	
1-6		ホ3		5.6	
1-6		ホ3		4.9	
1-6		ホ3		6.5	
1-6		ホ3		2.7	
1-6		ホ3		3.3	
1-6		ホ3		17.5	
1-6	1-6⑥	ホ3		9.7	
1-6		ホ3		3.1	
1-6		ホ3		3.8	
1-6		ホ3		4.4	
1-6		ホ3		5.8	
1-6		ホ3		2.6	
1-6		ホ3		8.8	
1-6		ホ3		4.2	
1-6		ホ3		7.4	
1-6		ホ3		5.9	
1-6		ホ3		4.1	
1-6		ホ3		3.5	
1-6		ホ3		3.3	
1-6		ホ3		4.5	
1-6		ホ3		5.2	
1-6		ホ3		11.1	
1-6		ホ3		6.2	
1-6		ホ3		10.1	
1-6		ホ3		2.2	
1-6		ホ3		2.2	
1-6		ホ3		3.8	
1-6		ホ3		5.0	
1-6		ホ3		7.6	
1-6		ホ3		22.4	
1-6	1-6③	ホ3下		5.4	
1-6		ホ3下		5.2	
1-6		ホ3下		3.7	
1-6		ホ3下		4.9	
1-6		ホ3下		3.2	
1-6		ホ3下		3.3	
1-6	1-6⑤	ホ3下		5.4	
1-6		ホ3下		4.5	
1-6		ホ3下		3.4	
1-6		ホ3下		2.8	
1-6		ホ3下		2.6	
1-6		ホ3下		3.0	
1-6		ホ3下		4.0	
1-6	1-6⑥	ホ3下		2.9	
1-6		ホ3下		4.1	
1-6		ホ3下		3.8	
1-6		ホ3下		2.4	
1-6		ホ3下		5.0	
1-6		ホ3下		3.2	
1-6		ホ3下		2.1	
1-6		ホ3下		7.2	
1-6	1-6	ホ4 中ノバ		4.3	
1-6	1-6	カクラン		22.3	中央攪乱
3-2	W	4層		6.0	完形
3-2	W	4層		5.5	完形
3-2	W	4層		4.9	完形
3-2	W	4層		4.5	完形
3-2	W	4層		4.9	一部欠損
3-2	W	4層		4.4	一部欠損
3-2	W	4層		4.5	一部欠損
3-2	W	4層		3.8	完形
3-2	W	4層		3.1	一部欠損
3-2	W	4層		3.8	一部欠損
3-2	W	4層		4.7	一部欠損
3-2	W	4層		4.1	一部欠損
3-2	W	4層		3.6	一部欠損
3-2	W	4層		4.2	一部欠損

調査	遺構名・地点名	層位	取り上げNo	重さ (g)	備考
3-2	W	4層		26	一部欠損
3-2	W	4層		29	一部欠損
3-2	W	4層		5.1	一部欠損
3-2	W	4層		2.7	一部欠損
3-2	W	4層		6.0	一部欠損
3-2	W	4層		3.7	一部欠損
3-2	W	4層		5.2	一部欠損
3-2	W	4層		3.4	一部欠損
3-2	W	4層		4.4	一部欠損
3-2	W	4層		4.7	一部欠損
3-2	W	ホ		4.5	一部欠損
3-2	W	ホ		6.5	完形
3-2	W	ホ		11.2	一部欠損
3-2	W	ホ		4.4	一部欠損
3-2	W	ホ		3.1	一部欠損
3-2	W	ホ		1.5	一部欠損
3-3	下SK8	マ		3.6	
3-3	下SK8	マ		3.4	
3-3	3-3	4層		3.1	
3-3		4層		2.6	
3-3		4層		3.5	
3-3		4層		3.7	
3-3		4層		3.0	石列内側
3-3	3-3	4層		3.4	
3-3		5層		4.4	
3-3	3-3	5層		2.1	
3-3	3-3(西)	5層-2	ibut12	5.5	
3-3		5層-2	ibut12	4.9	
3-3		5層-2	ibut12	5.9	
3-3		5層-2	ibut12	5.0	
3-3		5層-2	ibut12	5.3	
3-3		5層-2	ibut12	3.6	
3-3		5層-2	ibut12	4.6	
3-3		5層-2	ibut12	5.1	
3-3		5層-2	ibut12	3.3	
3-3		5層-2	ibut12	4.3	
3-3		5層-2	ibut12	3.3	
3-3		5層-2	ibut12	3.4	
3-3		5層-2	ibut12	3.0	
3-3		5層-2	ibut12	4.8	
3-3		5層-2	ibut12	2.7	
3-3		5層-2	ibut12	3.4	
3-3		5層-2	ibut12	3.1	
3-3		5層-2	ibut12	2.7	
3-3		5層-2	ibut12	3.0	
3-3		5層-2	ibut12	4.3	
3-3		5層-2	ibut12	1.8	
3-3		5層-2	ibut12	3.1	
3-3		5層-2	ibut12	2.8	
3-3		5層-2	ibut12	4.1	
3-3	3-3(西)	ホ		4.6	
3-3		ホ		4.3	
3-3		ホ		4.0	
3-3		ホ		3.7	
3-3		ホ		3.9	
3-3	集中1	4層		6.0	
3-3	集中1	4層		4.4	
3-3	集中1	4層		7.8	
3-3	集中1	4層		4.4	
3-3	集中1	4層		6.9	
3-3	集中1	4層		3.2	
3-3	集中1	4層		2.7	
3-3	3-3(西)	4層		3.8	
3-3		4層		4.7	
3-3		4層		3.5	
3-3		4層		4.7	
3-3		4層		3.1	
3-3		4層		4.4	
3-3		4層		4.9	
3-3		4層		3.1	
3-3		4層		3.0	
3-3		4層		3.5	

調査	遺構名・地点名	層位	取り上げNo	重さ (g)	備考
3-3		4層		3.5	
3-3		4層		3.8	
3-3		4層		4.1	
3-3		4層		4.9	
3-3		4層		3.6	
3-3		4層		8.8	
3-3		4層		4.6	
3-3	集中3	5層		4.2	
3-3	集中3	5層		4.9	
3-3	集中3	5層		5.2	
3-3	集中3	5層		4.7	
3-3	集中3	5層		4.4	
3-3	集中3	5層		6.3	
3-3	集中3	5層		3.9	
3-3	集中3	5層		4.7	
3-3	集中3	5層		3.9	
3-3	3-3(西)	5層		6.1	
3-3		5層		4.0	
3-3		5層		5.0	
3-3		5層		2.9	
3-3		5層		4.0	
3-3		5層		6.2	
3-3		5層		7.4	
3-3		5層		2.6	
3-3		5層		5.9	
3-3		5層		6.5	
3-3		5層		10.2	
3-3		5層		7.9	
3-3		5層		3.4	
3-3		5層		3.7	
3-3		5層		4.0	
3-3		5層		3.3	
3-3		5層		3.6	
3-3		5層		4.1	
3-3		5層		2.4	
3-3		5層		4.3	
3-3		5層		3.4	
3-3		5層		4.1	
3-3		5層		4.1	
3-3		5層		2.7	
3-3		5層		4.5	
3-3		5層		4.5	
3-3		5層		4.7	
3-3		5層		7.4	
3-3		5層		4.0	
3-3		5層		3.7	
3-3	3-3(西)	5層-2		5.4	
3-3		5層-2		5.9	
3-3		5層-2		5.4	
3-3		5層-2		5.2	
3-3		5層-2		6	
3-3		5層-2		5.3	
3-3		5層-2		5.2	
3-3		5層-2		3.1	
3-3		5層-2		4.2	
3-3		5層-2		4.3	
3-3		5層-2		9.4	
3-3		5層-2		4.2	
3-3		5層-2		3.2	
3-3		5層-2		3.7	
3-3		5層-2		5.5	
3-3		5層-2		2.9	
3-3		5層-2		3.1	
3-3		5層-2		4.1	
3-3		5層-2		4.0	
3-3		5層-2		4.0	
3-3		5層-2		6.4	
3-3	3-3(西)	5層-2		6.6	石列の南 土器集中4 のまわり
3-3		5層-2		6.7	
3-3	3-3(西)	6層		3.8	

調査	遺構名・ 地点名	層位	取り上げNo.	重さ (g)	備考
3-3		6層		48	
3-3		6層		34	
3-3		6層		24	
3-3		6層		32	
3-3		6層		35	
3-3	石列 1-W	マ		32	
3-3	石列 1-W	マ		40	
3-3	石列 1-W	マ		35	
3-3	石列 1-W	マ		39	
3-3	石列 1-W	マ		31	
3-3	石列 1-W	マ		28	
3-3	石列 1-W	マ		38	
3-3	石列 1-W	マ		28	
3-3	石列 1-W	マ		5.1	
3-3	石列 1-W	マ		2.3	
3-3	石列 1-W	マ		28	
3-3	石列 1-W	マ		3.3	
3-3	石列 1-W	マ		3.3	
3-3	石列 1-W	マ		3.2	
3-3	石列 1-W	マ		4.2	
5地点	5地点	ホ1	ibut5	5.3	調査区 東
5地点		ホ1	ibut6	4.3	
5地点	5地点	ホ1	ibut11	8.1	

写真図版



1 - 1 区調査区遠景 南西から



1 - 1 区調査区遠景 北西から

図版2



1-1区完掘状況 上から



石列近景 南から



1-1区東側道路下部分下層完掘状況 南から



1-1区完掘状況近景 北から

図版4



石列検出状況 南から



石列、集石出土状況 北から



1-1区東側上面遺構完掘状況 北から



1-1区中央部完掘状況 北から



SB1 完掘状況



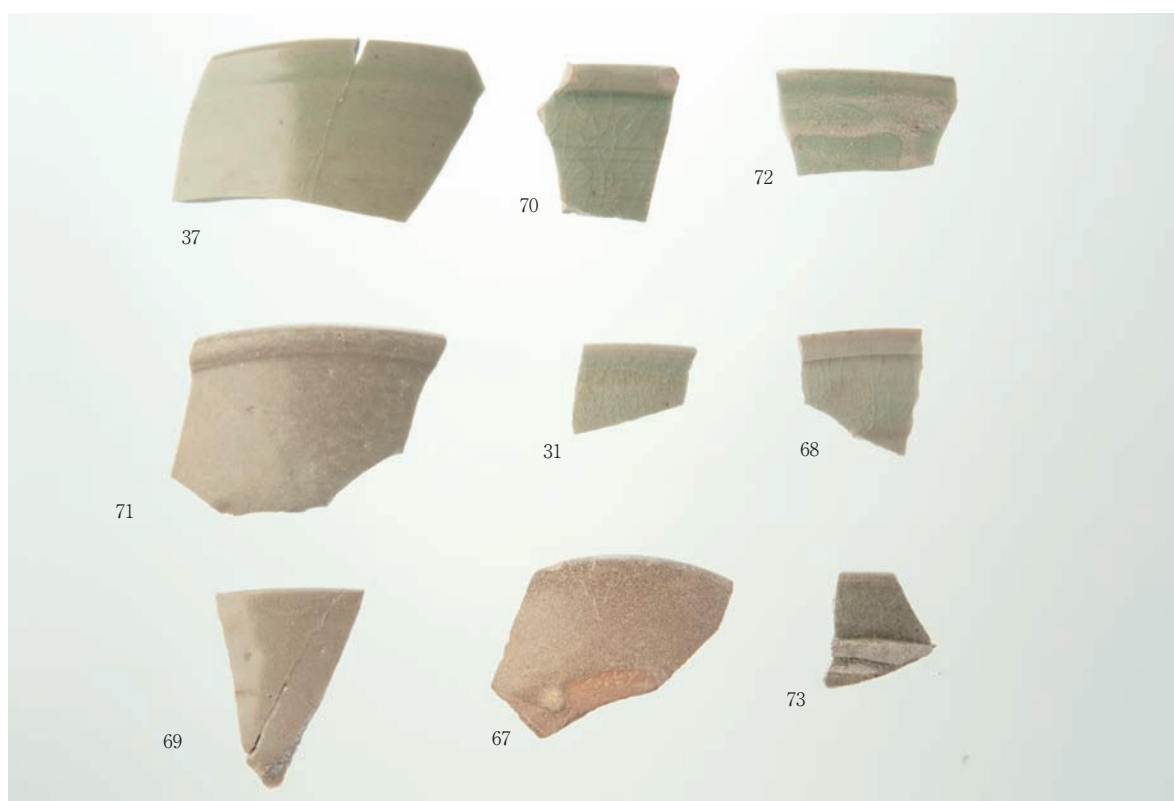
SD1 北端部セクション



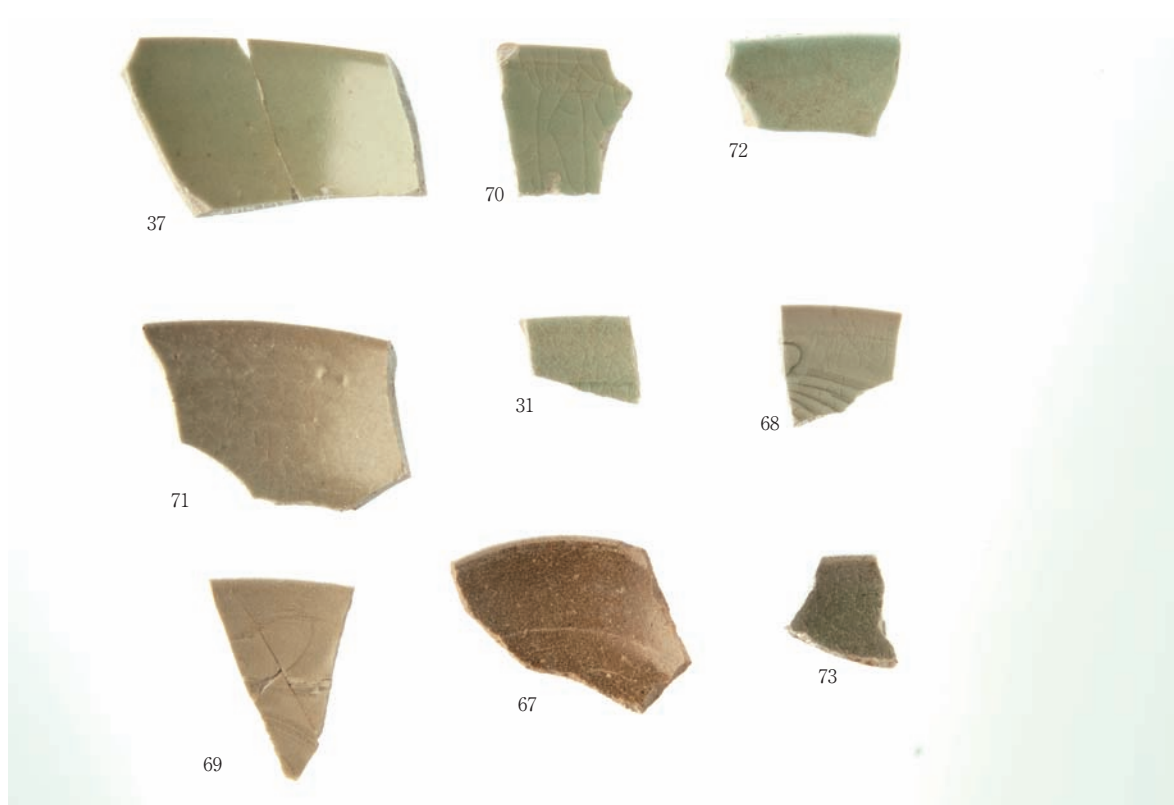
SD1 完掘状況



P9 青磁碗出土状況

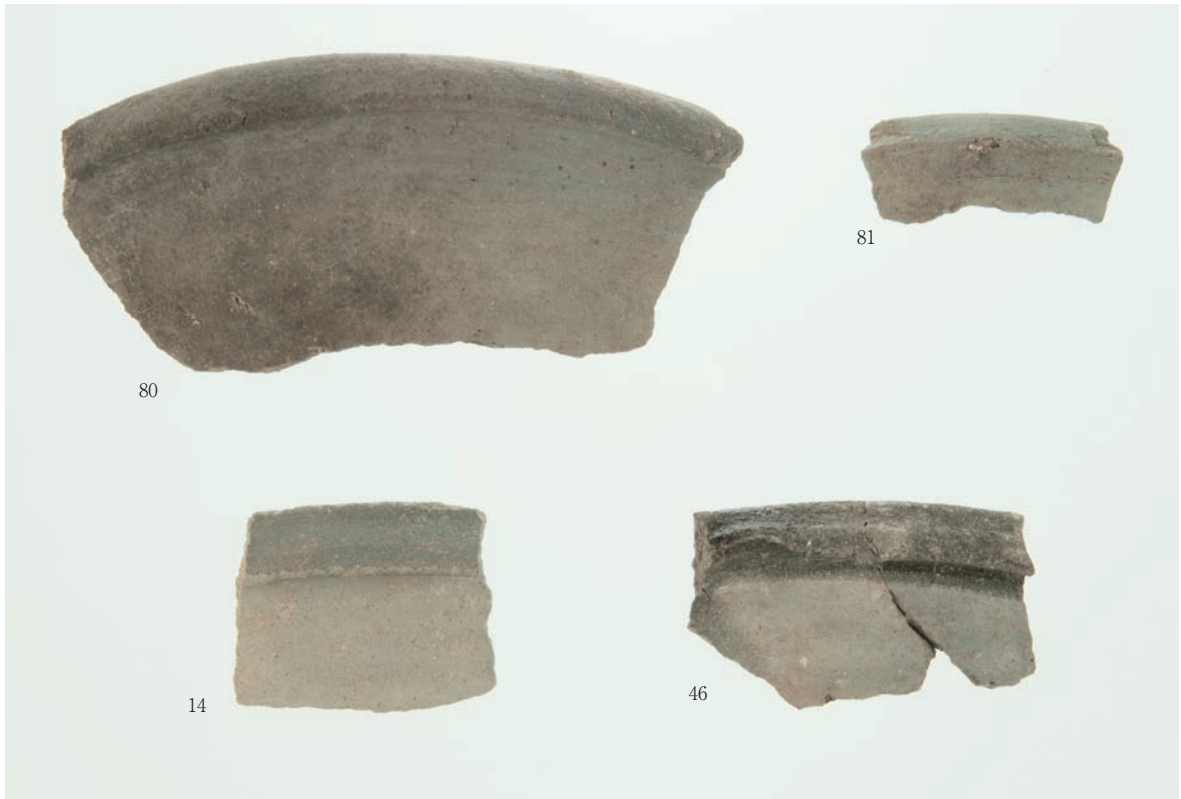


青磁 外面



青磁 内面

図版6



東播系須恵器



瓦質羽釜



7



8



8



12



17



21



39



47



47



49



50



52



55



62



64



74



102



103

図版8



1 - 3A 区調査前風景 南から 手前 1 - 1 区



1 - 3A 区上面完掘状況 北西から



1 - 3A 区上面完掘状況 上から



1 - 3A 区下面完掘遠景 南から

図版10



1 - 3A 区下面完掘状況 上から



1 - 3A 区下面完掘状況 北西から 手前 1 - 3B 区



上面SB1 完掘時状況 東から



上面SD4・5 完掘状況 南から



SE1 完掘状況



IKO56 柱痕出土状況



IKO58 柱痕出土状況



IKO59 柱痕出土状況



IKO59 柱痕近景



1 - 3A 区下面完掘状況

図版12



下 SB1 完掘状況 西から



下 SB2 完掘状況 東から



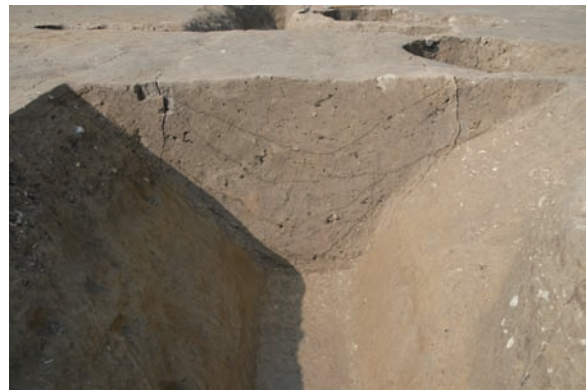
下 SB1 と柱穴列 1 完掘状況 西から



下 SK2 遺物出土状況、セクション



下 SK4 土器出土状況



下 SD1 セクション



下 SD1 バンク 2 セクション 巨石埋没状況



下 SD2 弥生土器出土状況



下 SD12 弥生土器出土状況 北から



下 SD12 弥生土器出土状況近景



下 P91・92 セクション



下 P8 (P73) 土錘集中出土状況



下 P125 弥生土器出土状況



下 P148 土師器碗出土状況



包含層土師器碗出土状況



包含層緑釉陶器出土状況

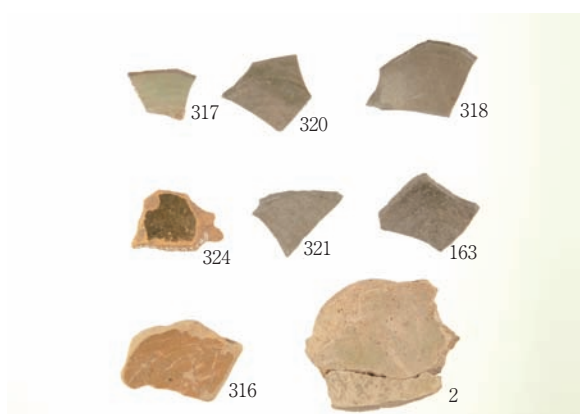
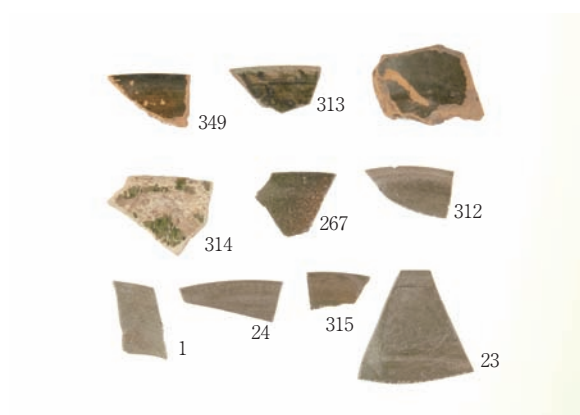
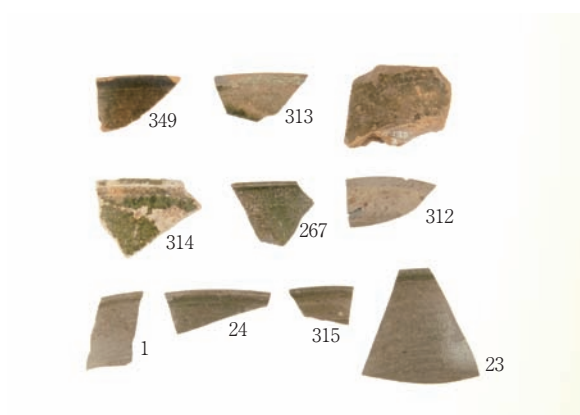
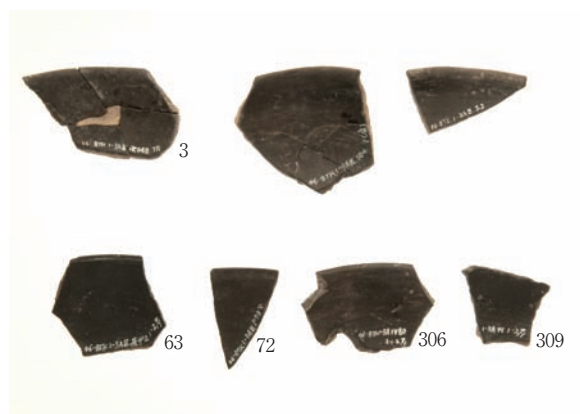
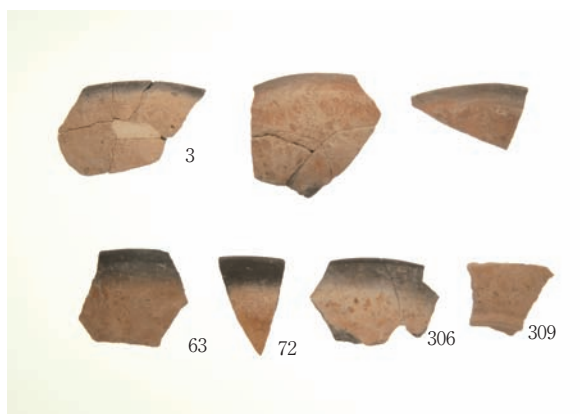
図版14



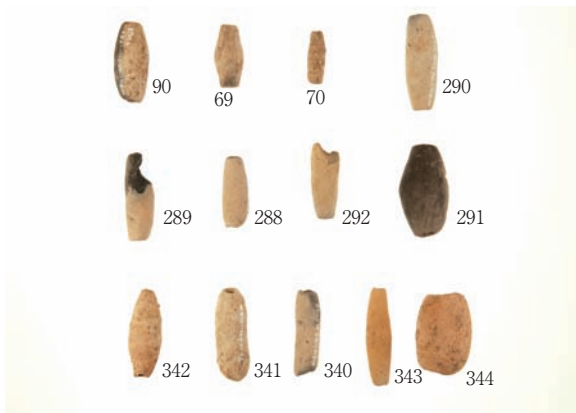
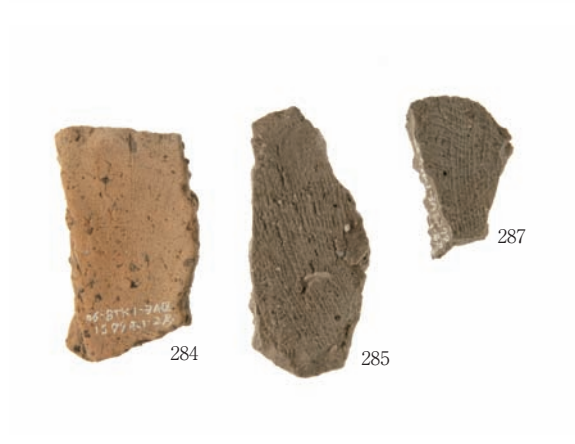
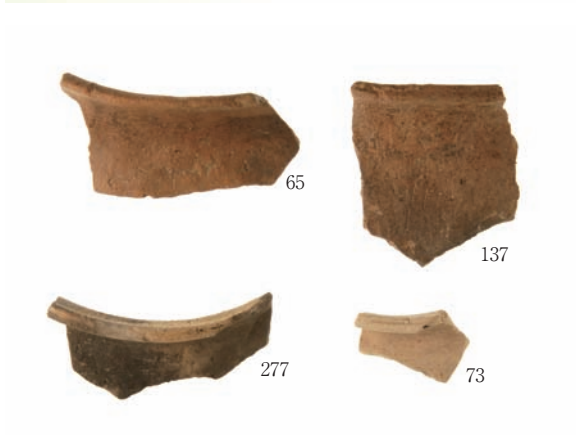
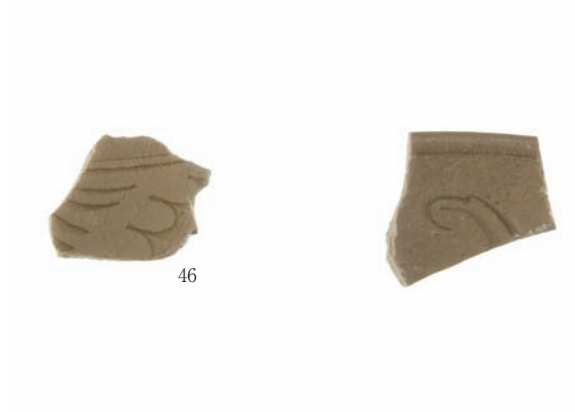
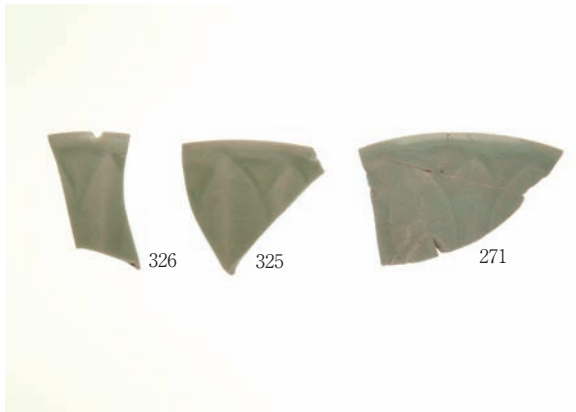
土師器羽釜



土錘



图版16





6



9



15



16



17



19



40



44



56



58



59



61



61



126



133



138



141



142

图版 18



144



146



151



152



153



154



167



169



169



181



182



183



186



195



196



197



198



199



201



205



206



208



215



217



220



222



223



228



229



232



233



236



238



239



240



241

图版 20



241



242



242



243



244



248



250



251



252



253



256



261



262



264



265



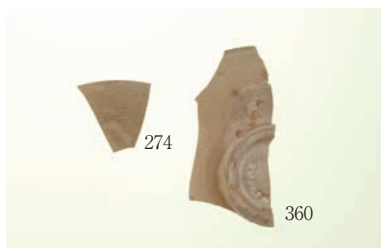
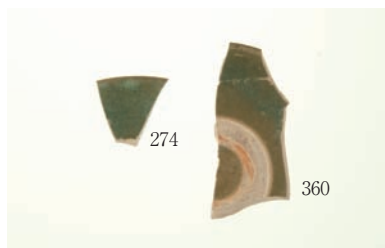
268



272



273



283



294



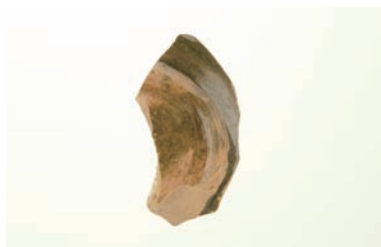
307



307



319



319



328



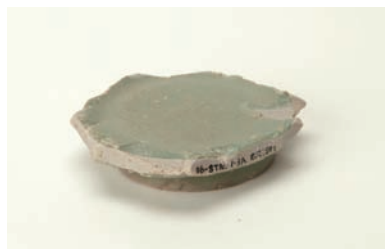
334



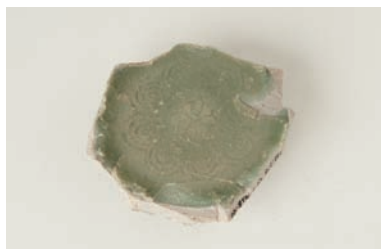
345



346



350



350



352



355



361



363

図版22



1 - 3B 区上面遺構検出状況 南西から



1 - 3B 区上面遺構検出状況 西から



1 - 3B 区上面西側完掘状況 東から



1 - 3A・B 区下面完掘状況 上から

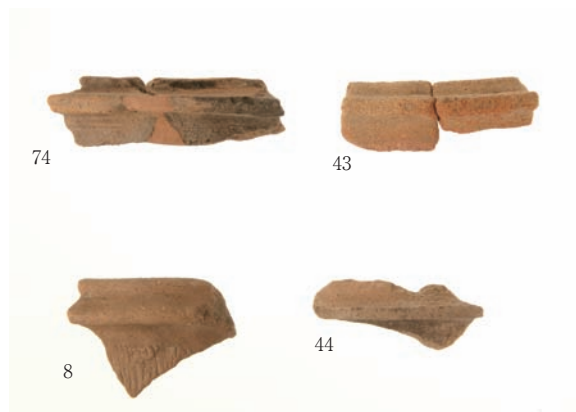
図版24



1 - 3B 区下面完掘状況 北西から



1 - 3B 区調査区東壁セクション



图版 26



4



18



22



24



27



35



36



37



41



45



45



46



52



59



61



66



70



72



1 - 3 拡張区調査前風景 北西から 手前1 - 3A・B区



1 - 3 拡張区下面完掘状況 上から



1 - 3 拡張区下面完掘状況遠景 北西から



1 - 3 拡張区下面完掘状況 西から



下 SD1 完掘状況 西から



1 - 3 拡張区下面調査区東側完掘状況 南西から

図版30



1 - 3 拡張区最下面完掘状況 西から



最下面柱穴列2完掘状況 東から



1 - 3 拡張区上面拡張前完掘状況 西から



1 - 3 拡張区上面拡張部分完掘状況 南から



石列状遺構検出状況



上面柱穴列1完掘状況



P54 出土状況



1 - 3 拡張区下面遺構検出状況 西から



1 - 3 拡張区下面検出状況 南から



1 - 3 拡張区下面検出状況 東から



下 SD1 中層出土常滑甕出土状況



下 SD1 東端部セクション



下面 P171 土錘集中出土状況



下面 P225 白磁碗出土状況



下面 P414 土師質土器出土状況



下 SD1 東端部作業風景



下面 P171 土錘検出作業



1 - 3 拡張区調査区南壁セクション

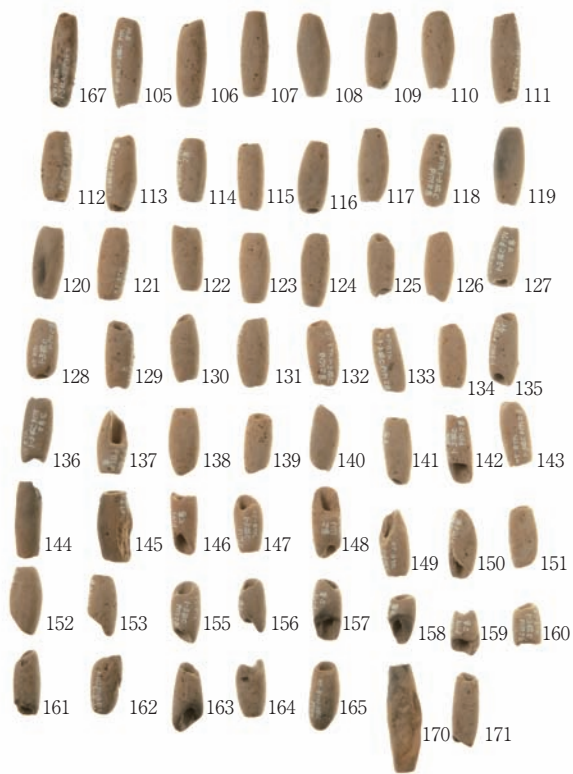


土師質土器鍋・瓦質土器鍋

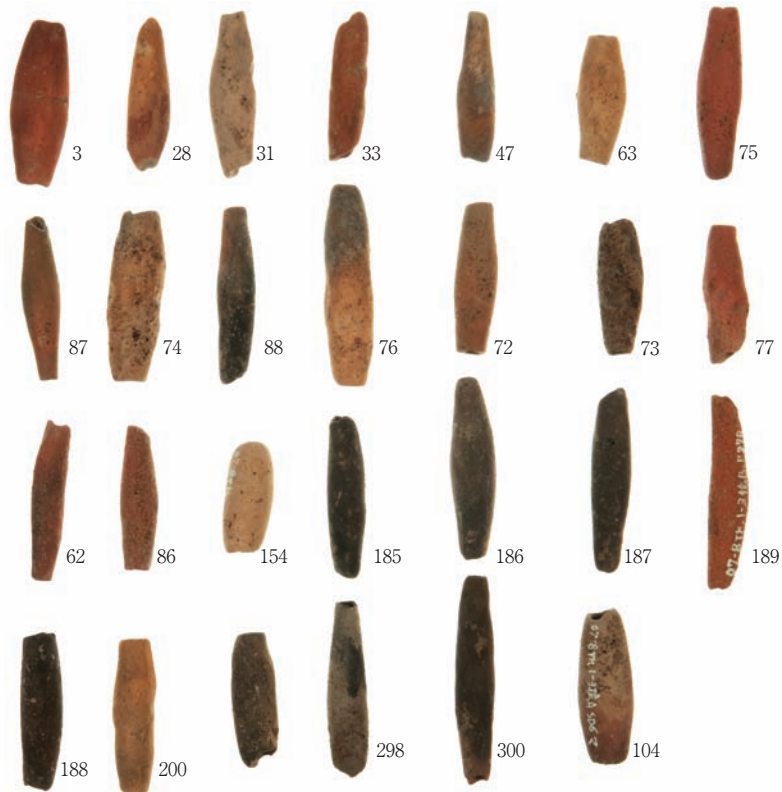


備前焼播鉢

图版34



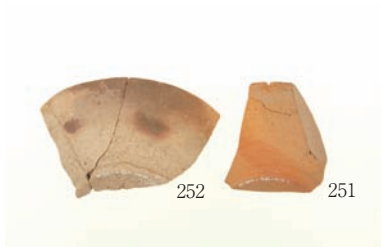
土錘



土錘



图版 36





19



20



25



26



27



34



44



52



54



55



94



97



100



169



172



176



180



182

图版 38



196



197



198



199



204



206



207



211



213



215



216



218



219



222



224



228



232



235



236



237



241



242



243



246



249



249



253



256



259



263



264



265



270



294



304



305

図版40



1 - 5区調査前風景 南から



1 - 5区上面完掘状況 上から



1 - 5区中面完掘状況 南から



1 - 5区下面完掘状況 上から

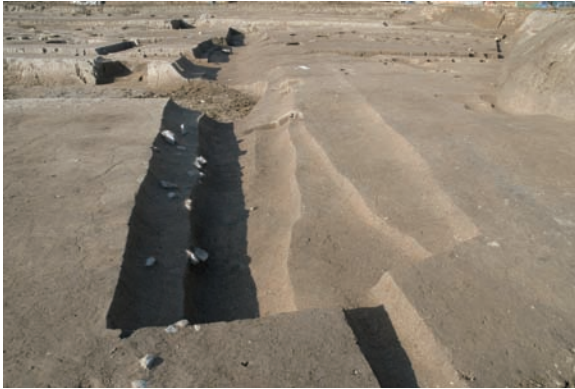
図版42



1 - 5区下面完掘状況 西から



1 - 5区最下面完掘状況 西から



上面 SD1 南端部完掘状況 南から



上面 SD9 完掘状況 東から



上面 P105 鉄鏝出土状況



上面須恵器横瓶出土状況



中面 SD19 遺物出土状況



中面 SE1



下面下 SD13 セクション



下面下 SD22 側面検出状況

図版44



下面下 SD22 中層須恵器出土状況



下面遺物出土状況



最下面 SB5001 完掘状況 東から



最下面 SK5004 縄文土器出土状況



最下面 SK5004 完掘状況



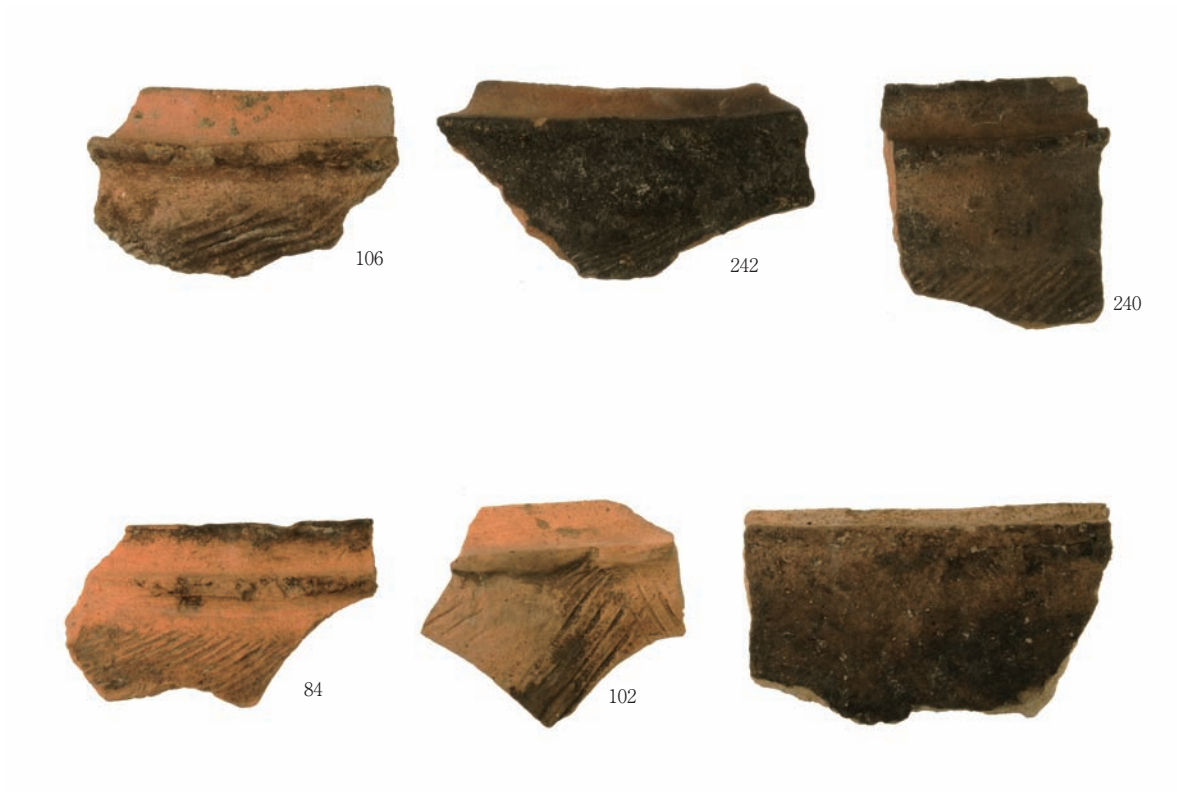
最下面 SD5001 セクション弥生土器出土状況



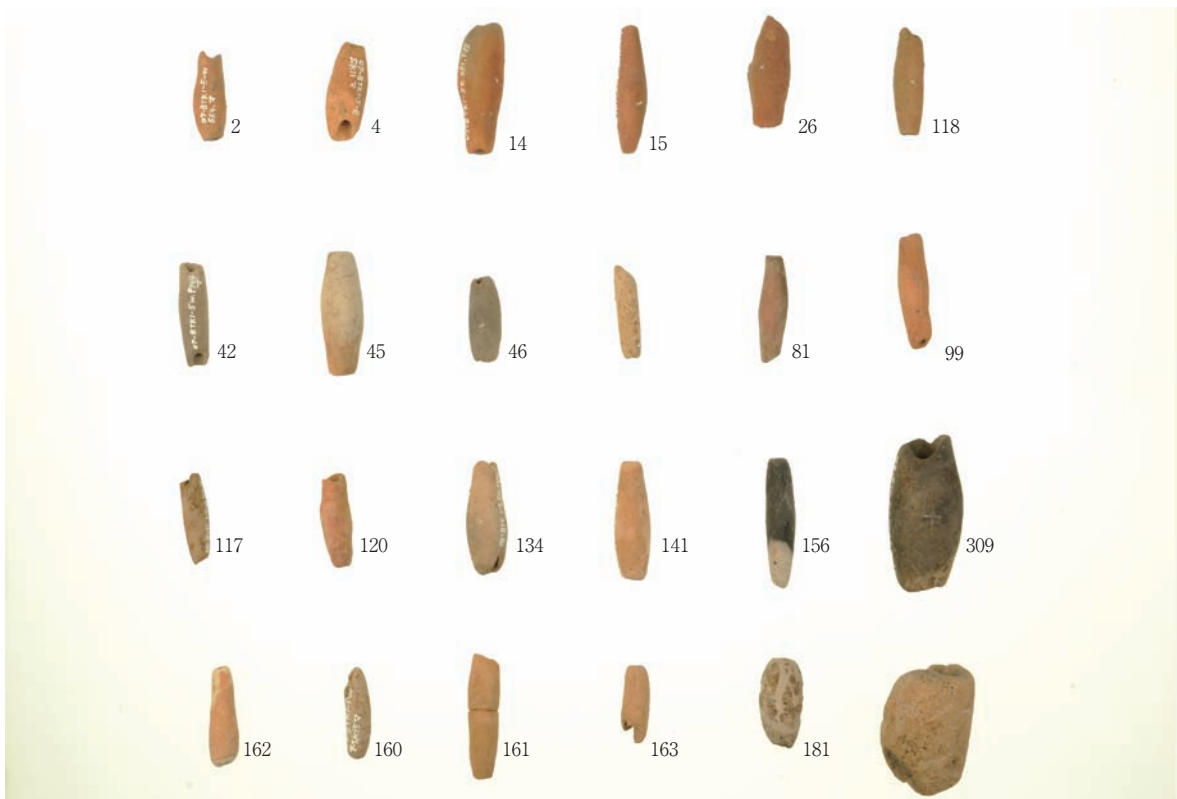
最下面 P5417 縄文土器出土状況



調査区北東隅落ち込み部分 SR5001

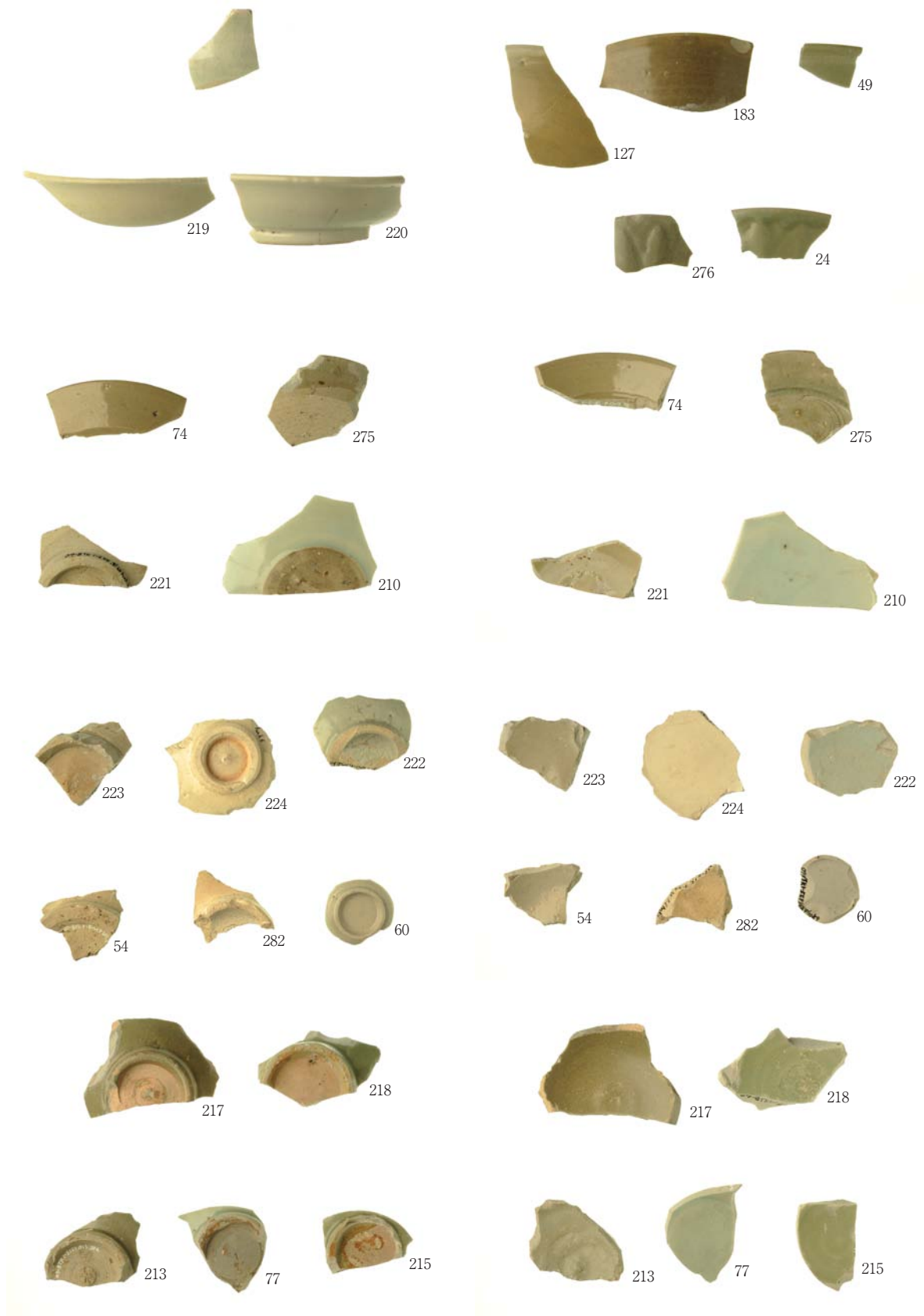


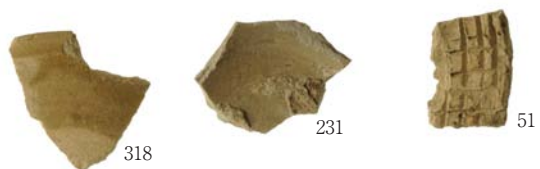
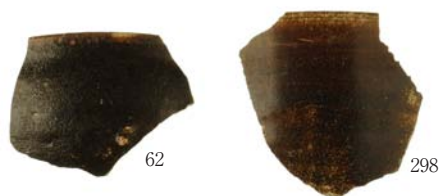
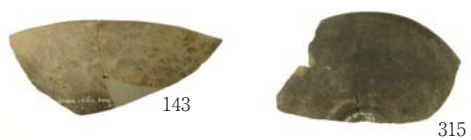
土師質土器羽釜



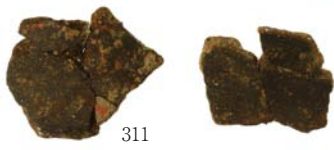
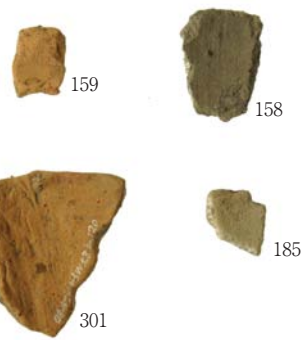
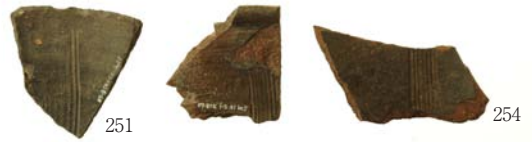
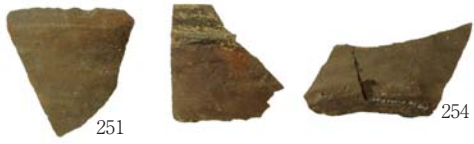
土錘

图版 46





图版 48





1



5



9



13



28



29



31



31



32



38



43



44



57



57



67



69



71



83

图版 50



89



101



105



107



108



110



113



114



128



132



133



137



137



140



142



146



149



165



166



168



174



177



178



179



189



193



194



196



197



199



200



202



202



203



204



206

图版 52



209



211



225



228



229



230



232



233



234



238



239



239



241



241



243



243



250



255



257



259



265



269



270



271



272



274



274



278



283



284



287



288



289



291



292



293

图版 54



294



296



296



297



308



312



313



314



317



319



320



320





1 - 6区上面完掘状況 東から



1 - 6区上面完掘状況 北から



1 - 6 区中面完掘状況 上から



1 - 6 区中面完掘状況 北から



1-6区下面完掘状況 上から



1-6区下面完掘状況 北から



1 - 6区最下面完掘状況 上から



1 - 6区最下面完掘状況 北から



上面 SD5 検出状況



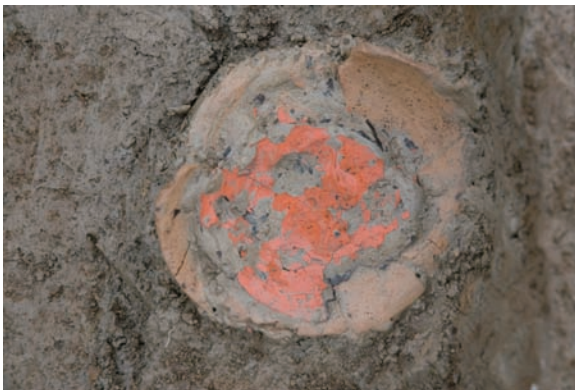
上面中 SD18 完掘状況 北から



上面 SD5 遺物出土状況



中面中 SK74 出土状況



中面中 SK74 出土状況土器近景



中面中 SD13 緑釉陶器出土状況



下面 SB1 完掘状況 東から



下面 SB2 完掘状況 北から

図版60



下面下 SD4 セクション



下面下 SD8 完掘状況 南から



1 - 6 区下面調査区南東部溝跡群完掘状況 北から



最下面 SB6001 完掘状況 南から



最下面 SB6002 完掘状況 北から



最下面西側完掘状況 西から



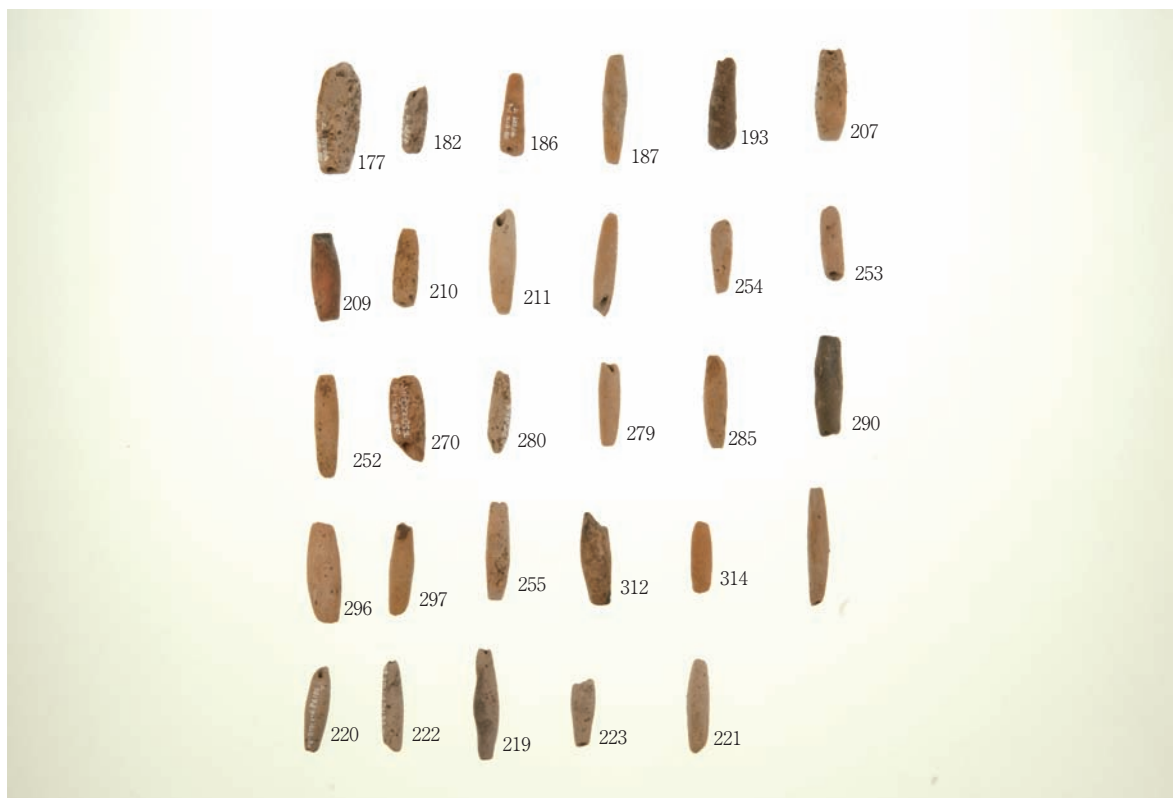
最下面 SX6001 完掘状況



最下面 SD6011 弥生土器出土状況

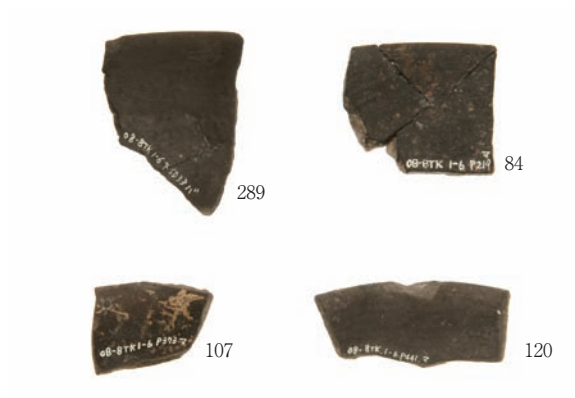
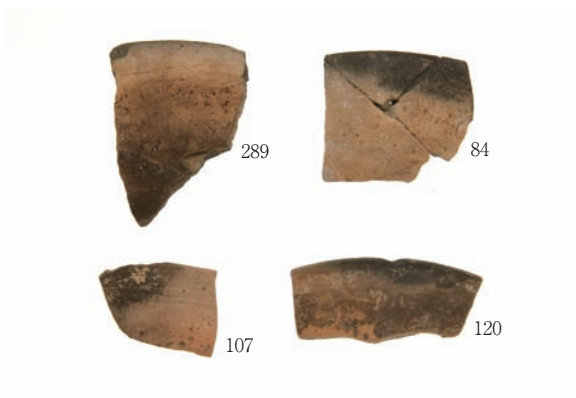
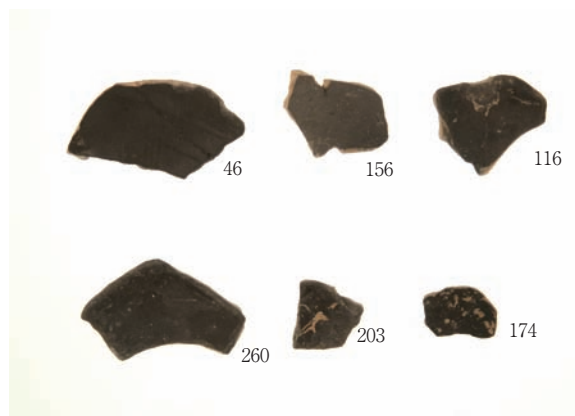
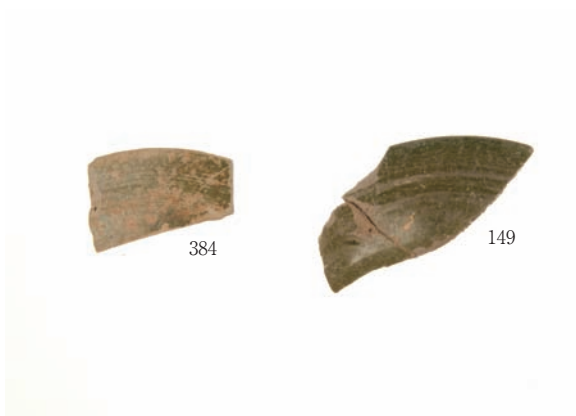
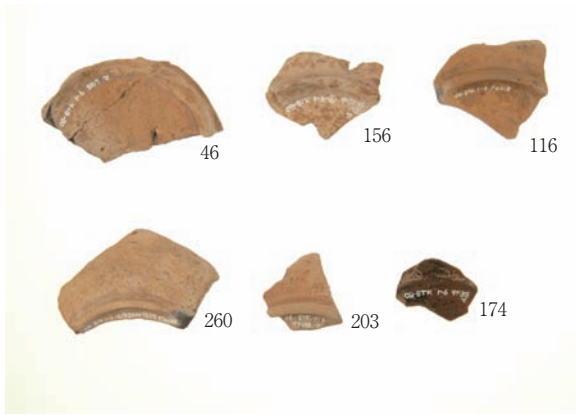


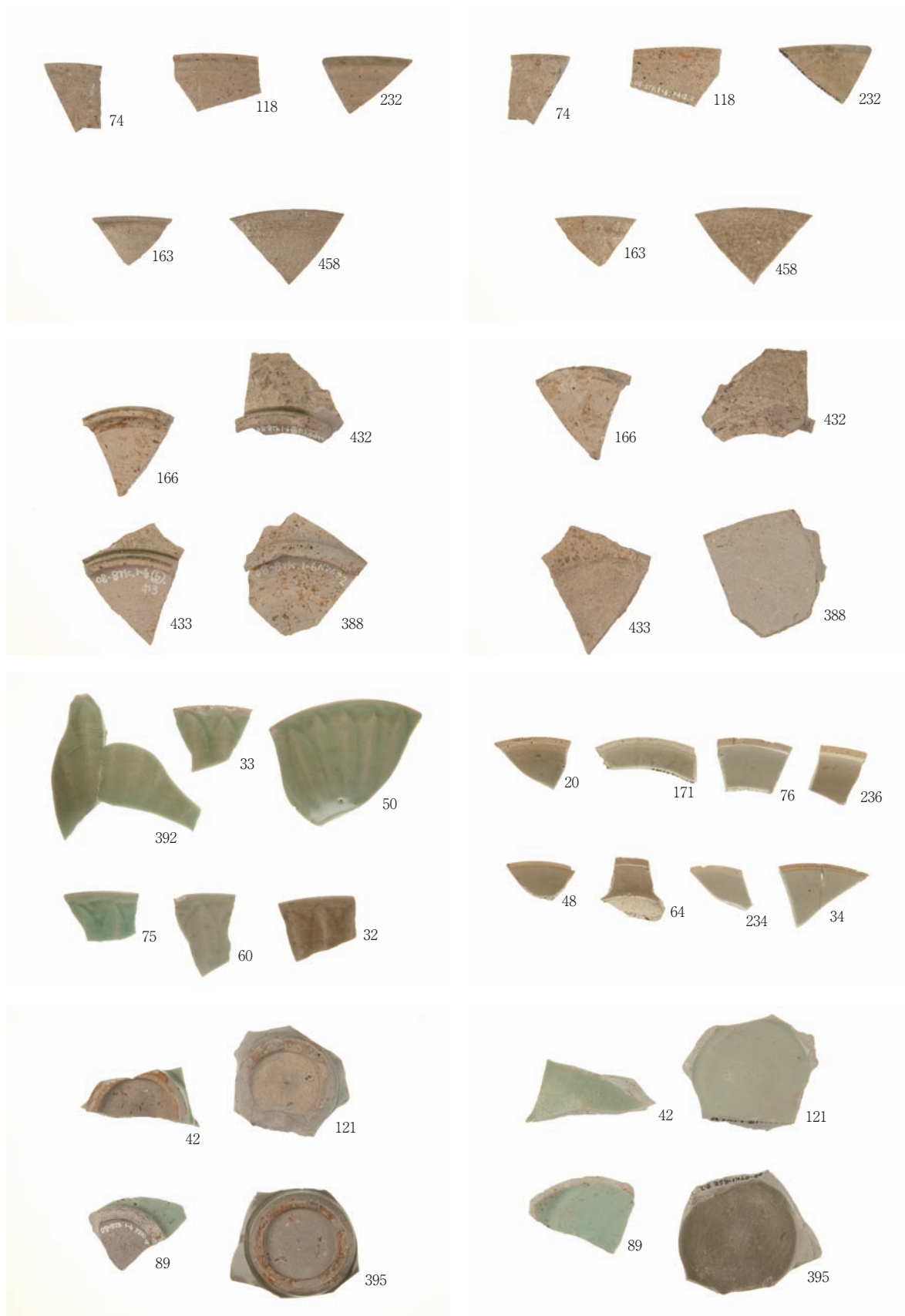
土錘



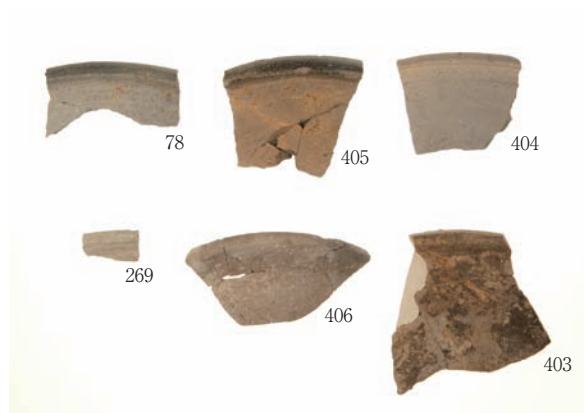
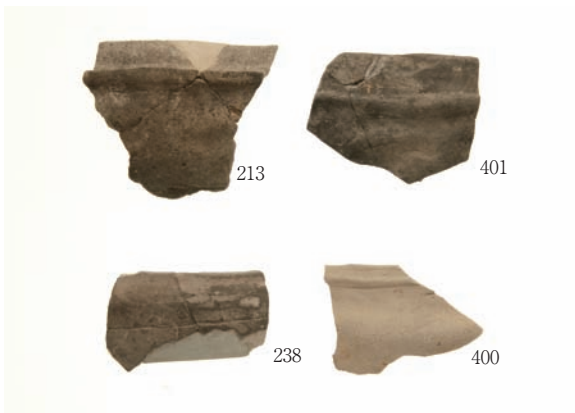
土錘

图版 62





图版64





466



467



309



189



136



137



179



72



178



40



271

图版 66



8



16



18



18



24



27



36



41



45



49



51



52



52



53



87



88



97



109



112



126



135



147



153



154



160



160



180



181



215



218



225



244



247



249



256



256

图版 68



262



266



267



282



283



287



301



303



304



308



327



336



338



342



343



353



355



362



364



365



366



367



369



372



373



373



375



377



379



381



382



383



386



387



389



390

图版 70



391



393



394



396



402



409



410



412



414



415



416



417



418



420



424



426



428



429



430



434



435



436



441



442



444



445



447



448



453



456



457



460



461



470



図版72



1-7区調査区遠景(北から太平洋を望む)



1-7区調査区遠景(北西から仁淀川を望む)



1-7区上層完掘状況(上側が北)



1-7区上層北側部分完掘状況(北から)

図版74



SD17・18 土層堆積状況 (北西から)



SD20・31・33 土層堆積状況 (北東から)



SD20・31 完堀・土層堆積状況 (南から)



SD34・35 土層堆積状況 (西から)



SK03 土層堆積状況 (東から)



SK15・SD03 土層堆積状況 (西から)



SK51 土層堆積状況 (西から)



SE01 断ち割り状況 (南から)



1-7区中層完掘状況(上側が北)



1-7区中層北側完掘状況(北から)

図版76



SD36 土層堆積状況 (東から)



SD36 土層堆積状況 (南から)



SD42 完掘状況 (西から)



SD36 遺物出土状況



SD42 遺物出土状況



SK23 土層堆積状況 (北西から)



SK60 土層堆積状況 (西から)



1-7区下層遺構完掘状況(上側が北)



1-7区下層遺構完掘状況(北から)

図版78



ST01 完掘状況 (上か西)



ST01 遺物出土状況 (南東から)



ST01 土層断面 (南東から)



ST01 遺物出土状況 (南東から)



ST01 遺物出土状況



ST01 中央土坑土層堆積状況 (北東から)



SB01 完掘状況 (南から)

図版80



SD47 遺物出土状況 (西から)



SK32 完掘状況 (南から)



SK32 土層断面 (南から)



SK68 遺物出土状況 (北から)



SK70 完掘状況 (東から)



SK71 遺物出土状況



SK72 土層断面・遺物出土状況 (西から)



SK74 遺物出土状況 (北西から)



SK74 遺物出土状況 (南から)



SK74 土層堆積状況 (北西から)



SK75 遺物出土状況 (西から)



SK75 遺物出土状況 (西から)



上層：SD02・SD16・SD20・SD31 出土遺物



上層：SD33·SD34·SD35·SK03·SK15·SK43·SX03·SX04出土遺物



上層ピット出土遺物



中層：SB02・SB03・SD39・SD42・SK23・SK31・SK60・SK61・中層ピット(1)出土遺物



中層ピット(2)出土遺物



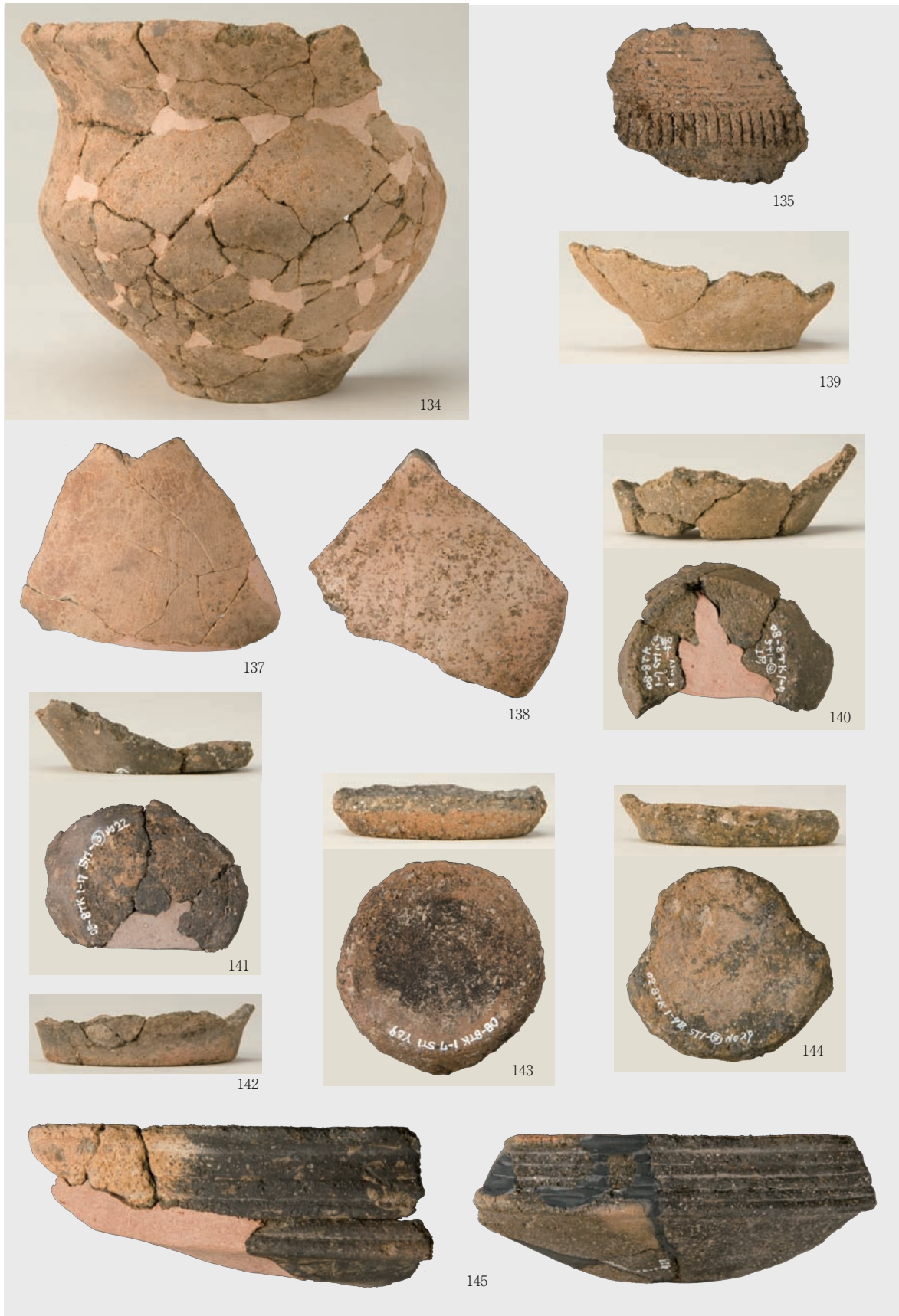
下層：ST01 (1) 出土遺物



下層：ST01 (2) 出土遺物



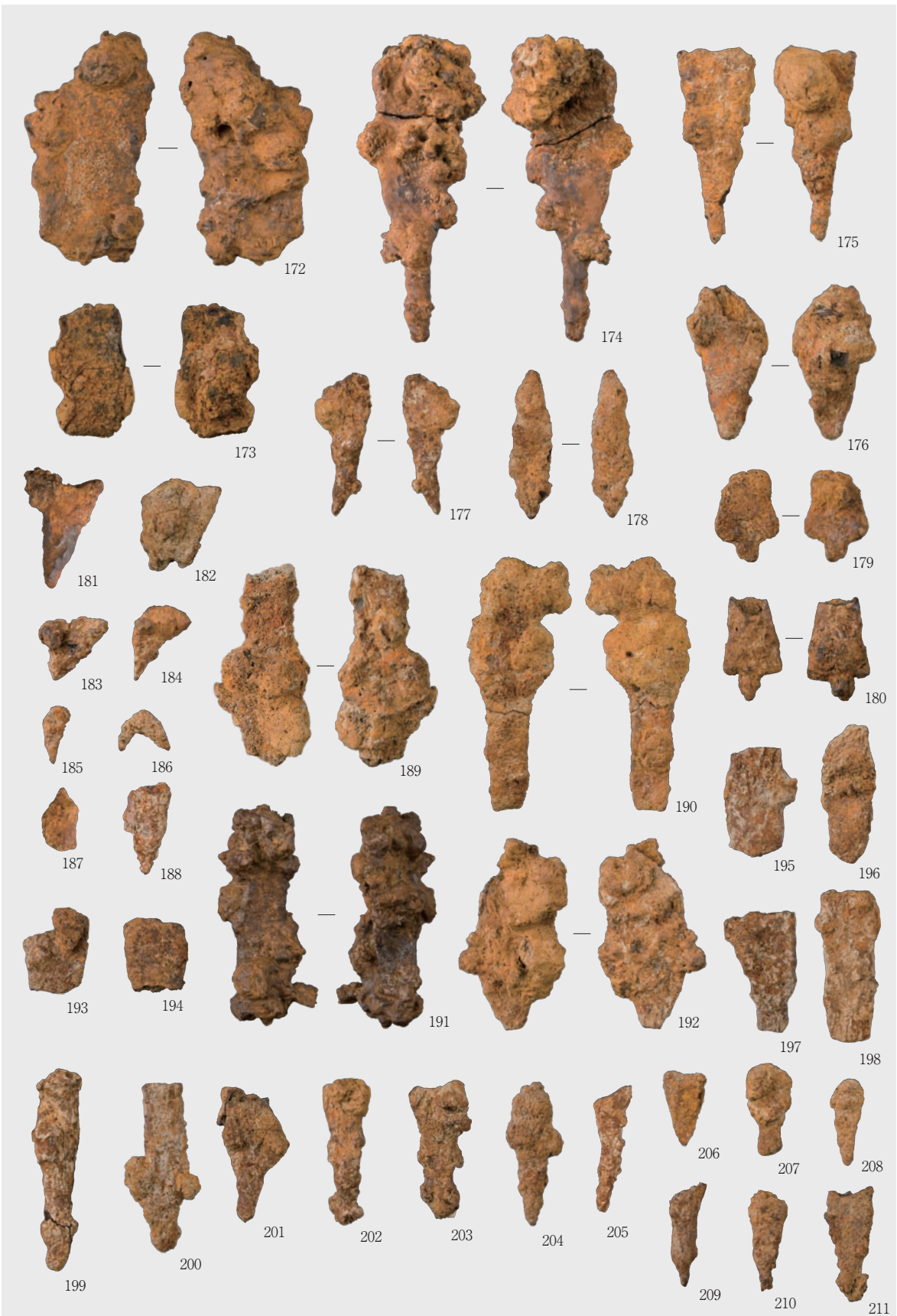
下層：ST01 (3) 出土遺物



下層：ST01 (4) 出土遺物



下層：ST01 (5) 出土遺物



下層：ST01 (6) 出土遺物



下層：ST01(7)・SB01・SD36・SD46・SD47 出土遺物



下層：SK32・SK68(1) 出土遺物



下層：SK68(2)・SK69・SK70出土遺物



下層：SK71・SK72 出土遺物



下層：SK74(1) 出土遺物



下層：SK74 (2) 出土遺物



下層：SK75・SK78・SK79・SK84・SK89・SK90 出土遺物



下層：SK93・下層ビット出土遺物



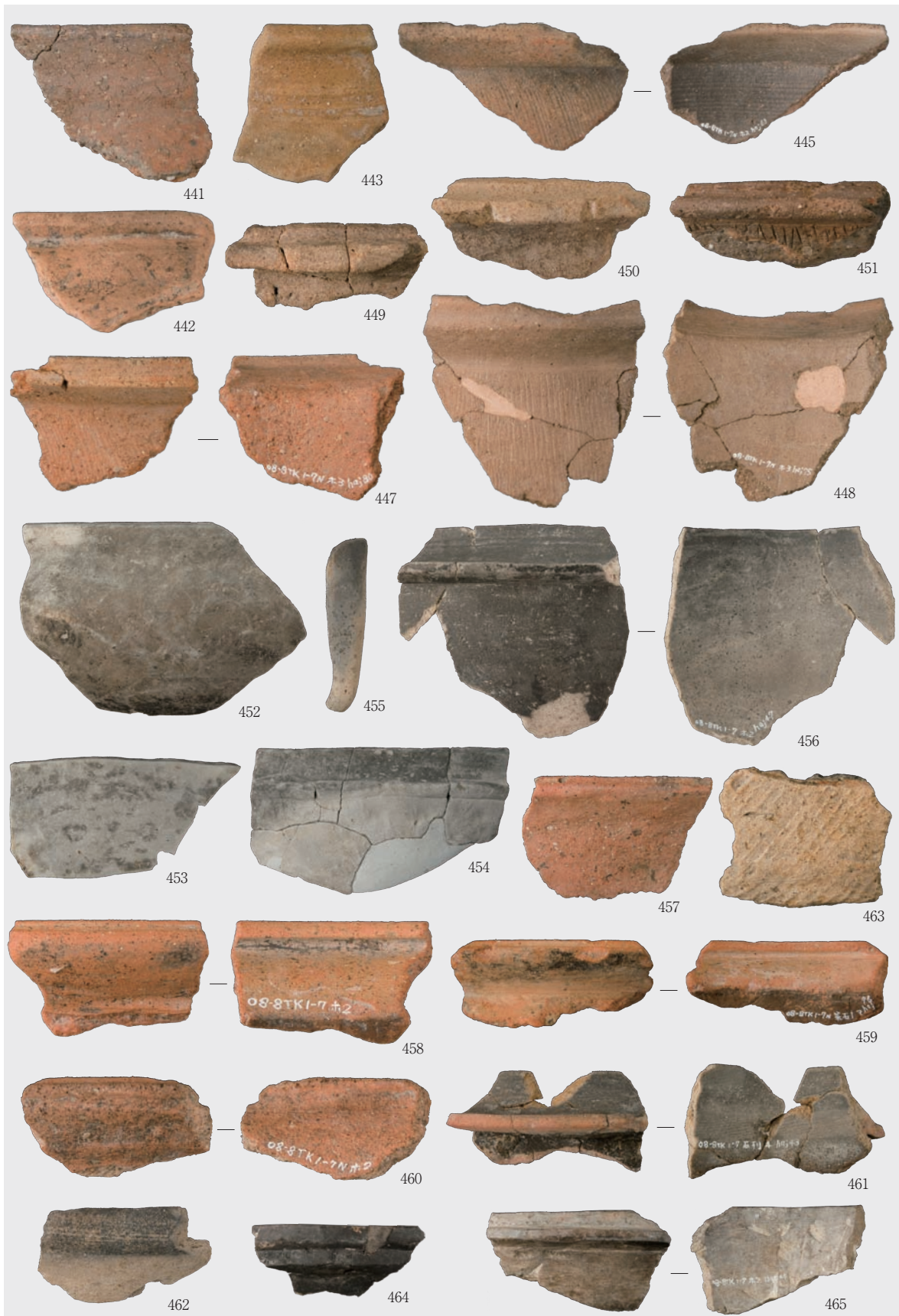
包含層出土遺物(弥生土器他)



包含層出土遺物 (土師質土器)



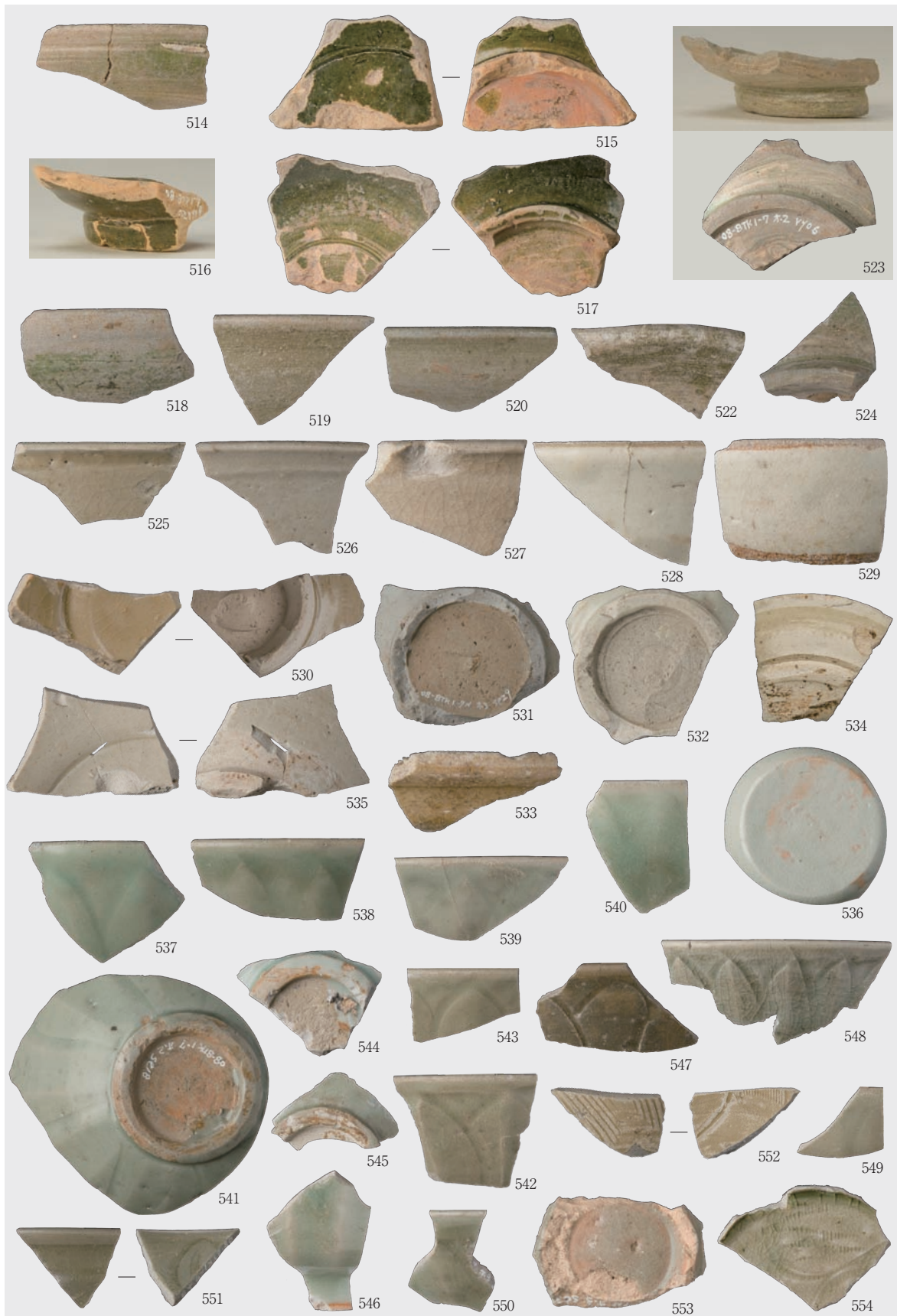
包含層出土遺物(土師質土器、黑色土器、瓦器)



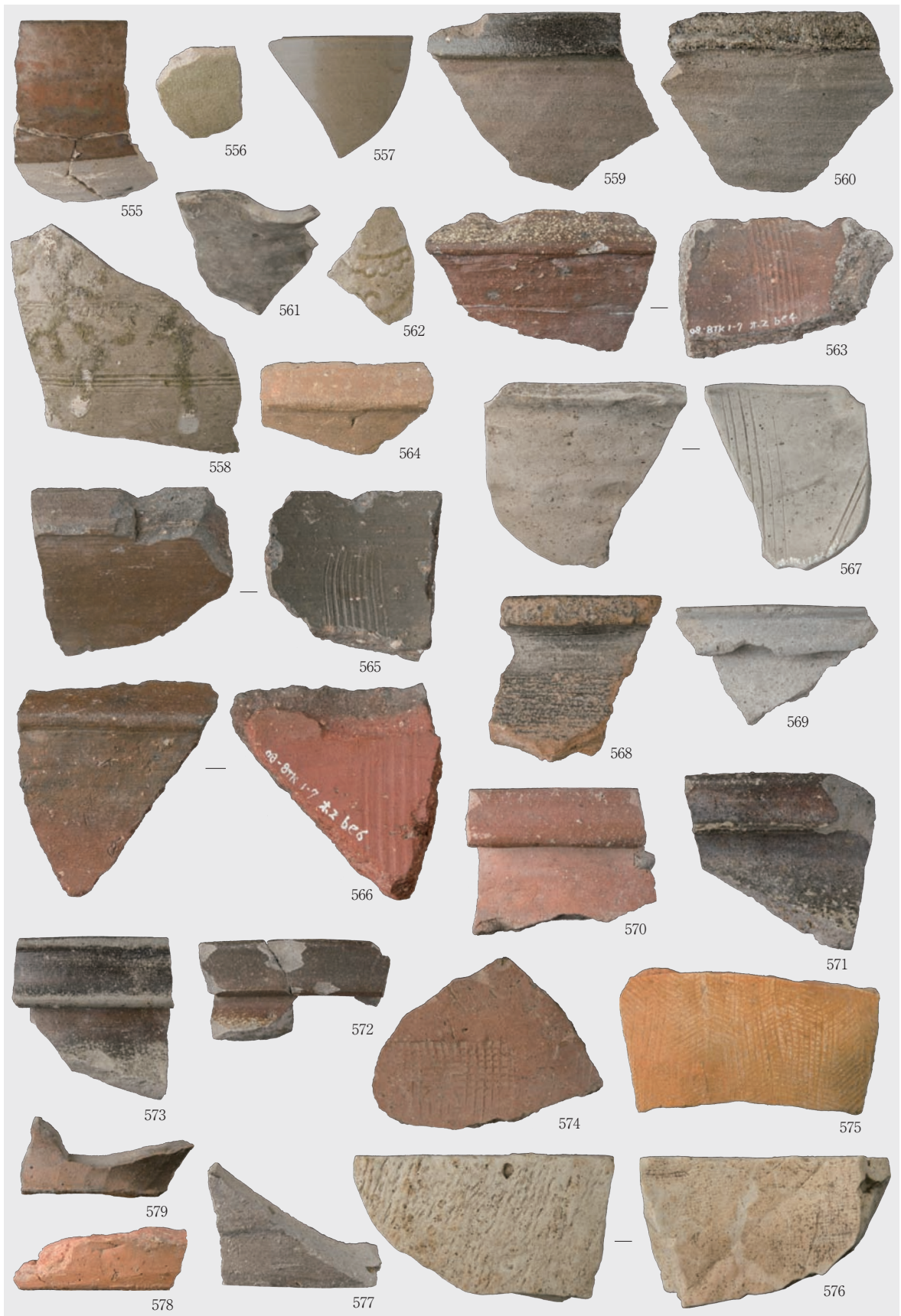
包含層出土遺物(土師質甕・羽釜・鍋、瓦質鍋、石鍋等)



包含層出土遺物(須惠器)



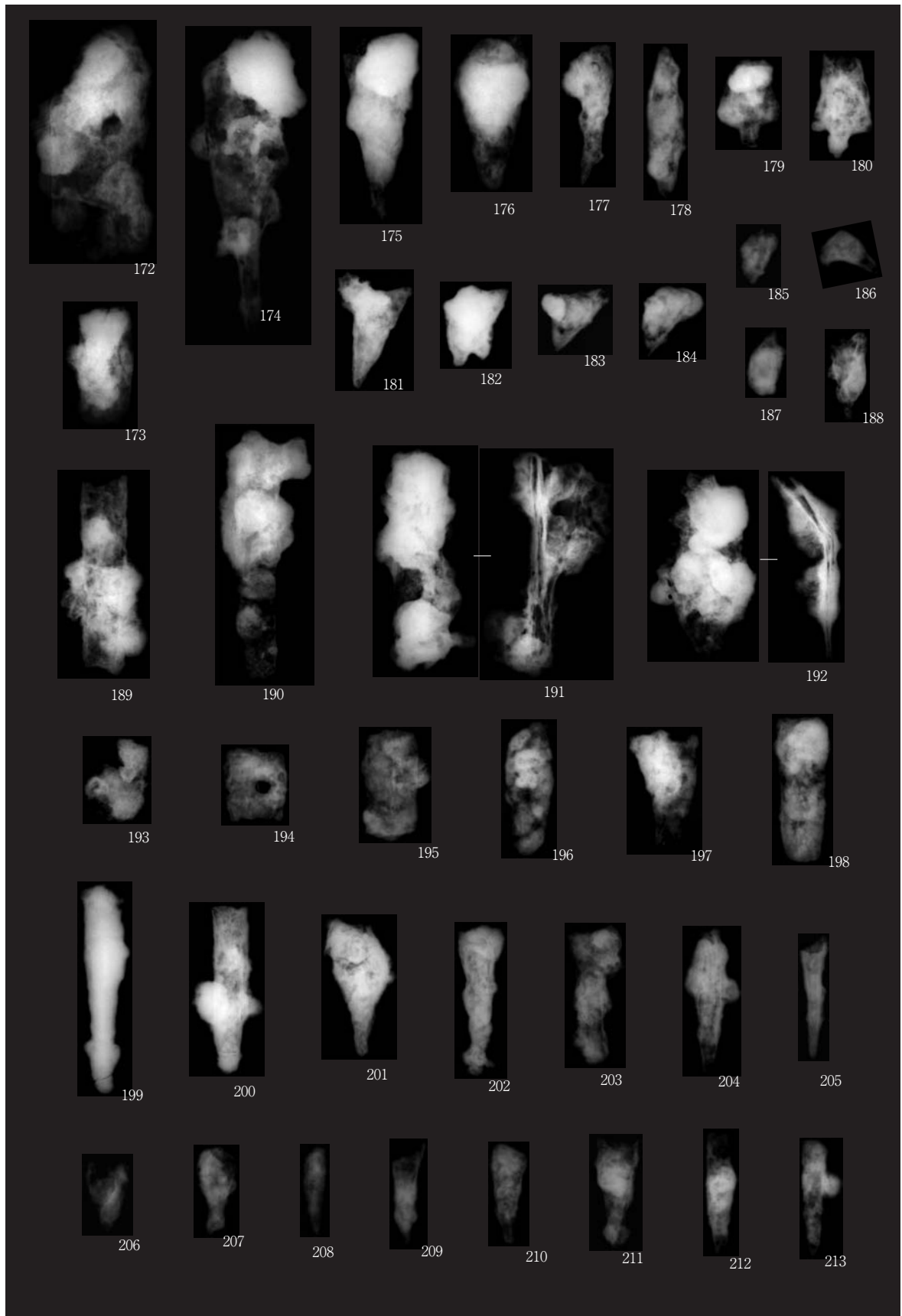
包含層出土遺物 (綠釉陶器、白磁、青磁)



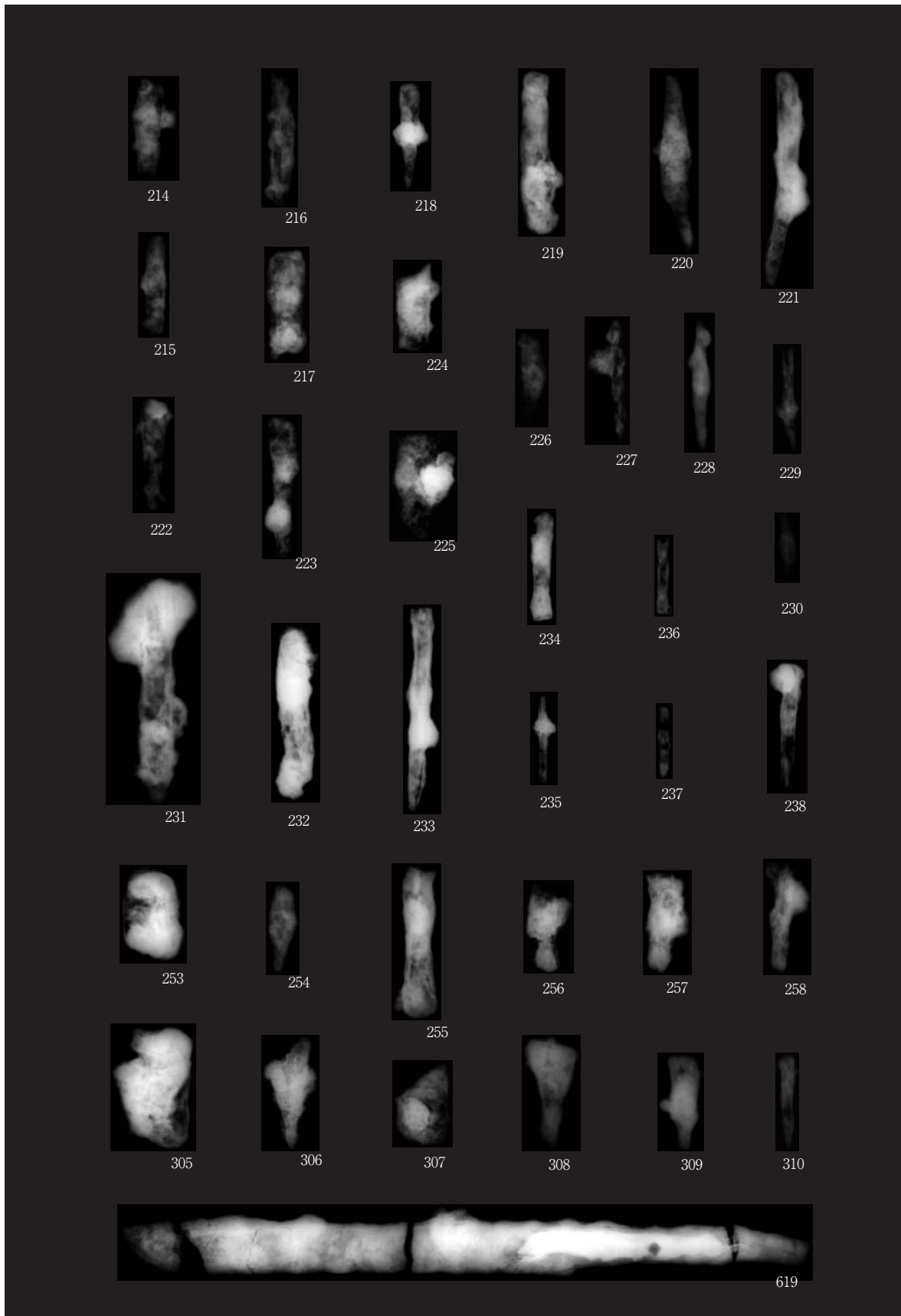
包含層出土遺物(陶器他)



包含層出土遺物 (土製品、石器、鐵器)



X線写真(ST01出土鉄器)



X線写真 (ST01・SD47・SK71 出土鉄器)

報告書抄録

ふりがな	かみのむらいせき							
書名	上ノ村遺跡Ⅳ							
副書名	波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ							
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第128集							
編著者名	坂本憲昭 宮里修							
編集機関	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	〒783-0003 高知県南国市篠原1437-1 TEL 088-864-0671 FAX 088-864-1423							
発行年月日	2012年3月23日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
かみのむら 上ノ村遺跡	こうちけんとししにいかみのむら 高知県土佐市新居上ノ村	39205	190119	33° 27' 44"	133° 27' 44"	2006.5 ~ 2009.3	10,835	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
上ノ村遺跡	集落	縄文時代～中世 近世以降		住居跡・掘立柱建物 跡・土坑・溝跡 石列状遺構 井戸跡		縄文土器 弥生土器 中世土器 石製品 鉄器		
要約	<p>波介川の河川改修工事に伴う発掘調査で広範囲に調査を実施しており、当報告書は波介川の河川改修工事に伴う発掘調査の第1地点の調査報告書である。本書で報告した調査区以外にも順次報告書が刊行されており『北ノ丸遺跡』として2冊が刊行され、上ノ村遺跡として本書を合わせて6冊が刊行される事となっている。</p> <p>当調査区は中世山城の新居城跡南側山下部分にあたる。調査では中世の環濠の可能性のある断面V字状の溝跡のほか、縄文時代晩期の土坑を始め、弥生時代中期末の集落、古代の集落も確認することができた。</p> <p>遺物では縄文時代晩期では孔列文土器、弥生時代では在地色の強い土器と瀬戸内系の凹線文土器がまとまって出土し、さらに鉄器、鉄片が多量に出土していることが注目される。古代では10世紀を中心に緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器などの搬入品が多く見られることが注目される。当調査区では、他調査区に比べ、やや中世、特に瓦器碗の最終の時期が少なくなる傾向が見られる。</p>							

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第128集

上ノ村遺跡Ⅳ

波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ

編 集 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

発 行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

電話 088-864-0671

発行日 2012年3月23日

印 刷 共和印刷株式会社

